

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	1単位(15)	必修
担当教員			
古田常人・浅野貞美			
保健医療とリハビリテーションの理念	理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕</p> <p>ねらい： 「包括的視点で対象者を捉え、多職種による円滑なケアが展開できるための基礎的知識・技術・態度について学び多職種連携のあり方を修得する」</p> <p>目的： 事例検討を通してチームケアの実践につながる演習を行うことができる。</p> <p>〔到達目標〕</p> <p>1) 事例検討を通して、職種毎に課題を明確化し、自らできること、やるべきことを列挙できる。 2) 事例検討を通して、多職種の特徴・連携の必要性・連携上の留意点を理解することができる。 3) 多職種連携・チームケアのあり方・今後の課題に気付くこと</p>
授業の概要	保健医療福祉の動向に伴い、多様なニーズを必要とする対象者が増加しており保健医療福祉教育専門職に求められることも多様化している。対象者のケアの目標を達成するためには、多職種間の連携が不可欠となる。保健医療福祉教育職種が連携を取り合うことの意義・必要性と多様なチームケアの在り方について学習する。群馬医療福祉大学の福祉・医療総合大学の特色を生かし、3学部合同チームによる「チームケア教育」を行う。
各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	○
(理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	◎
(理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	△
(作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	○
(作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	◎
(作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	△
授業計画	<p>第1回 授業オリエンテーション</p> <p>【key words】 チームケア、多職種連携</p> <p>【授業概要】 ・科目オリエンテーション。授業目標や授業の進め方について説明する。 ・多職種連携・チームケアの考え方・取り巻く背景 リハビリ・福祉職・看護職の役割などを他学部との学生とグループ学習していく。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料(事前に配布) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布資料の事例情報をよく読みこんで参加すること。特に自分の専門領域で支援できることを検討し、自分の地域における社会資源を調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分程度</p> <p>第2回 事例展開に関する調べ学習</p> <p>【key words】 チームケア、多職種連携、事例、社会資源</p> <p>【授業概要】</p>

<p>第3回</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回に引き続き、事例検討をグループで進めていく。 ・多職種連携・チームケアの考え方・取り巻く背景 リハビリ・福祉職・看護職の役割などを他学部の学生とグループ学習していく。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料(事前に配布) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布資料の事例情報をよく読みこんで参加すること。特に自分の専門領域で支援できることを検討し、自分の地域における社会資源を調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分程度 <p>事例展開に関する調べ学習</p> <ul style="list-style-type: none"> 【key words】 チームケア、多職種連携、事例、リハビリテーション 【授業概要】 ・自職種の特徴を踏まえ、事例の問題点・課題点を挙げ、自職種ができることやるべきことをまとめる(学部毎) 【教科書ページ・参考文献】 配布資料(事前に配布) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布資料の事例情報をよく読みこんで参加すること。特に自分の専門領域で支援できることを検討し、自分の地域における社会資源を調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分程度
<p>第4回</p>	<p>事例について各学部毎に課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 【key words】 チームケア、多職種連携、事例、社会資源 【授業概要】 ・第1, 2回に引き続き、事例検討をグループで進めていく。 ・多職種連携・チームケアの考え方・取り巻く背景 リハビリ・福祉職・看護職の役割などを他学部の学生とグループ学習していく。 ・問題点を明確化し、自分の職種ができることやるべきことを職種毎に明らかにするための合同討議(3学部小グループ) ・報告準備。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料(事前に配布) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布資料の事例情報をよく読みこんで参加すること。特に自分の専門領域で支援できることを検討し、自分の地域における社会資源を調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分程度
<p>第5回</p>	<p>事例について各学部毎に課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 【key words】 チームケア、多職種連携、事例、リハビリテーション 【授業概要】 ・問題点を明確化し、自分の職種ができることやるべきことを職種毎に明らかにするための合同討議(3学部小グループ) ・報告準備。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料(事前に配布) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布資料の事例情報をよく読みこんで参加すること。特に自分の専門領域で支援できることを検討し、自分の地域における社会資源を調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分程度
<p>第6回</p>	<p>明確化した課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 【key words】 チームケア、多職種連携、事例、問題点 【授業概要】 ・事例検討をグループで進めていく。 ・多職種連携・チームケアの考え方・取り巻く背景 リハビリ・福祉職・看護職の役割などを他学部の学生とグループ学習していく。 ・問題点について自分の職種ができることやるべきことについて全学部(3学部大グループ)で報告、共有する。 ・体験者によるIPWの講義 【教科書ページ・参考文献】 配布資料(事前に配布) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布資料の事例情報をよく読みこんで参加すること。特に自分の専門領域で支援できることを検討し、自分の地域における社会資源を調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分程度
<p>第7回</p>	<p>明確化した課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 【key words】 チームケア、多職種連携、事例、問題点、目標設定 【授業概要】 ・事例検討をグループで進めていく。 ・多職種連携・チームケアの考え方・取り巻く背景 リハビリ・福祉職・看護職の役割などを他学部の学生とグループ学習していく。 ・問題点について自分の職種ができることやるべきことについて全学部(3学部大グループ)で報告、共有する。 ・体験者によるIPWの講義 【教科書ページ・参考文献】 配布資料(事前に配布)

	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布資料の事例情報をよく読みこんで参加すること。特に自分の専門領域で支援できることを検討し、自分の地域における社会資源を調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分程度 学習過程の振り返り 【key words】 チームケア、多職種連携、事例、問題点、目標設定 【授業概要】 ・事例検討をグループで進めていく。 ・多職種連携・チームケアの考え方・取り巻く背景 リハビリ・福祉職・看護職の役割などを他学部との学生とグループ学習していく。 ・問題点について自分の職種ができることやるべきことについて全学部（3学部大グループ）で報告、共有する。 ・体験者によるIPWの講義 ・事例発表。総括。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料(事前に配布) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布資料の事例情報をよく読みこんで参加すること。特に自分の専門領域で支援できることを検討し、自分の地域における社会資源を調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分程度</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<p>①予習：事前学習課題を整理し、授業時活用する。 ②復習：授業で配布したプリント・資料を読み返す。 〔受講のルール〕 ①積極的に取り組む事。 ②レポート等の課題について、提出期限を厳守する。 ③授業の学びを必ず記載すること。記載することで表現力を養うものである。</p>
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	その他
授業外時間にかかわる情報	関連文献、新聞などに関心を持ち情報収集することを期待する。
オフィスアワー	金曜日の15:30～17:30
評価方法	1. グループワークでの取り組み50%, 2. ポートフォリオ評価50%
教科書	資料配布
参考書	1. 鷹野和美著：チームケア論 ぱる出版, 2008. 2. 小松秀樹：地域包括ケアの課題と未来、ロハス・メディカル、2015
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員 <input type="checkbox"/>実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素 <input checked="" type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習) <input checked="" type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/>グループワーク <input checked="" type="checkbox"/>プレゼンテーション <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</p> <p>情報リテラシー教育 <input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育 <input checked="" type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） <input checked="" type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） <input checked="" type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） <input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない</p> <p>ICTの活用 <input checked="" type="checkbox"/>ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 <input type="checkbox"/>その他</p> <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位(30)	必修
担当教員			
小島俊文			
基礎理学療法学	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] 理学療法に関して、歴史・法律・理学療法対象・理学療法手技・倫理・活動分野等、様々な観点より理学療法を捉えることにより、理学療法の概要について知る。</p> <p>[到達目標] ①リハビリテーション医療における位置付けおよび理学療法発展の歴史について説明できる。 ②理学療法士及び作業療法士法について説明できる。 ③理学療法士の活動分野と概略について説明できる。 ④理学療法の対象者と疾患について説明できる。 ⑤理学療法の治療までの流れと理学療法の手段について説明できる。 ⑥リハビリテーション</p>
授業の概要	15回に及ぶ講義中心の授業である。各回ごとに主たるテーマを決め、そのテーマにそって授業を展開する。なお、授業終了時に振り返り小テストを行う。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	○
(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	○
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	○
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	△

授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション・理学療法の歴史と法律 【key words】 key words:理学療法士法、欠格事項、守秘義務 【授業概要】 理学療法士および作業療法士法、欠格事項、守秘義務理学療法士法より、理学療法の定義、理学療法士を取り巻く環境、決められた法を学びます。理学療法の定義について考えてください。授業中に発表していただきます。なお、授業終了時に振り返り小テストを行います。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 なぜ自分が理学療法士になろうと思ったのか、考えを整理しておいてください。今日学んだ内容はできる限り早いうちに復習をしてください。 【予習復習に必要な想定時間】 key wordに関する調べ学習を行うこと。1～2時間程度の時間を要すると想定される。</p> <p>第2回 理学療法の対象 【key words】 key words:ADL、QOL、理学療法領域 【授業概要】 理学療法の目的は何か。具体的な対象疾患の紹介と、基本的動作能力とADLとQOLについて解説を行う。理学療法士が活躍している場所について発表していただきます。なお、授業終了時に振り返り小テストを行います。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業開始時に前回授業内容の振り返り小テストを行います。必ず復習をしておいてください。また本日のKey wordsについて、調べ学習をしておいてください。 【予習復習に必要な想定時間】 key wordに関する調べ学習を行うこと。1～2時間程度の時間を要すると想定される。</p> <p>第3回 理学療法の治療手段 【key words】 key words:運動療法、物理療法、義肢装具 【授業概要】 治療手段としての運動療法、物理療法、義肢装具、ADLについて解説します。また病期と理学療法の目的の違いについて解説を行います。義肢装具、ADLについてその意味を説明できるようにしておいてください。なお、授業終了時に振り返り小テストを行います。</p>
------	---

	<p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業開始時に前回授業内容の振り返り小テストを行います。必ず復習をしておいてください。また本日のKey wordsについて、調べ学習をしておいてください。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 key wordに関する調べ学習を行うこと。1～2時間程度の時間を要すると想定される。</p> <p>第4回 リハビリテーションチームと理学療法部門</p> <p>【key words】 key words: チームケア、パラメディカル</p> <p>【授業概要】 リハビリテーションチームの構成員とそれぞれの専門性について解説を行います。リハビリテーションチームの構成員について、列挙できるように準備をしてください。なお、授業終了時に振り返り小テストを行います。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p>
	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業開始時に前回授業内容の振り返り小テストを行います。必ず復習をしておいてください。また本日のKey wordsについて、調べ学習をしておいてください。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 key wordに関する調べ学習を行うこと。1～2時間程度の時間を要すると想定される。</p> <p>第5回 理学療法士の活動分野</p> <p>【key words】 key words: 病期、領域</p> <p>【授業概要】 疾患ごとの領域や病期、さらに保険制度による違いによって職場や仕事内容が変わってきます。それらの現状を具体的に紹介し、学生に将来の自分の理学療法士像を考えてもらいます。また自分の将来の理学療法士像を発表していただきます。なお、授業終了時に振り返り小テストを行います。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p>
	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業開始時に前回授業内容の振り返り小テストを行います。必ず復習をしておいてください。また本日のKey wordsについて、調べ学習をしておいてください。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 key wordに関する調べ学習を行うこと。1～2時間程度の時間を要すると想定される。</p> <p>第6回 医療事故と理学療法</p> <p>【key words】 key words: 医療事故、医療過誤、ヒヤリハット</p> <p>【授業概要】 医療事故に関する各用語の説明を行います。ハインリッヒの法則を解説し、医療事故を防ぐためのヒヤリハット対策の大切さを説明します。医療事故の例を調べてください。授業で発表していただきます。なお、授業終了時に振り返り小テストを行います。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p>
	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業開始時に前回授業内容の振り返り小テストを行います。必ず復習をしておいてください。また本日のKey wordsについて、調べ学習をしておいてください。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 key wordに関する調べ学習を行うこと。1～2時間程度の時間を要すると想定される。</p> <p>第7回 感染予防</p> <p>【key words】 key words: スタンダードプリコーション、感染経路</p> <p>【授業概要】 標準予防策と感染経路別予防策について解説を行います。また実際の手洗いに大切さについて、実習を通して体験してもらいます。感染症について調べてください。授業で発表していただきます。なお、授業終了時に振り返り小テストを行います。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p>
	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業開始時に前回授業内容の振り返り小テストを行います。必ず復習をしておいてください。また本日のKey wordsについて、調べ学習をしておいてください。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 key wordに関する調べ学習を行うこと。1～2時間程度の時間を要すると想定される。</p> <p>第8回 理学療法に関連する各法律</p> <p>【key words】 key words: 医療保険、介護保険</p> <p>【授業概要】 理学療法に関する各種保険制度の概略と関連法について解説を行います。自分（親）が加入している医療保険の種類を調べて発表していただきます。なお、授業終了時に振り返り小テストを行います。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p>
	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業開始時に前回授業内容の振り返り小テストを行います。必ず復習をしておいてください。また本日のKey wordsについて、調べ学習をしておいてください。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 key wordに関する調べ学習を行うこと。1～2時間程度の時間を要すると想定される。</p> <p>第9回 理学療法における障害のとらえ方</p> <p>【key words】 key words: ICIDH、ICF</p> <p>【授業概要】</p>

	<p>ICFを中心とした障害の捉え方について学びます。障害とは何か、考えをまとめてください。授業で発表していただきます。なお、授業終了時に振り返り小テストを行います。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業開始時に前回授業内容の振り返り小テストを行います。必ず復習をしておいてください。また本日のKey wordsについて、調べ学習をしておいてください。 【予習復習に必要な想定時間】 key wordに関する調べ学習を行うこと。1～2時間程度の時間を要すると想定される。</p>
第10回	<p>理学療法と評価 【key words】 key words:理学療法評価、統合と解釈、問題点 【授業概要】 理学療法過程の説明と、理学療法評価について解説を行います。またPDCAサイクルと理学療法過程について説明を行います。理学療法士が行う検査測定項目を調べてみましょう。授業で発表していただきます。なお、授業終了時に振り返り小テストを行います。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業開始時に前回授業内容の振り返り小テストを行います。必ず復習をしておいてください。また本日のKey wordsについて、調べ学習をしておいてください。 【予習復習に必要な想定時間】 key wordに関する調べ学習を行うこと。1～2時間程度の時間を要すると想定される。</p>
第11回	<p>運動療法と関連機器 【key words】 key words:運動様式、運動療法機器 【授業概要】 運動療法とは何かを説明します。運動療法の具体的な方法と、運動療法に用いる機器の説明を行います。運動療法の具体的な方法について調べてください。授業で発表していただきます。なお、授業終了時に振り返り小テストを行います。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業開始時に前回授業内容の振り返り小テストを行います。必ず復習をしておいてください。また本日のKey wordsについて、調べ学習をしておいてください。 【予習復習に必要な想定時間】 key wordに関する調べ学習を行うこと。1～2時間程度の時間を要すると想定される。</p>
第12回	<p>物理療法と関連機器 【key words】 key words:温熱療法、光線療法、牽引療法 【授業概要】 物理療法とは何かを説明します。物理療法の具体的な方法と、物理療法に用いる機器を体験しながら学びます。物理療法の機器について調べてみましょう。授業で発表していただきます。なお、授業終了時に振り返り小テストを行います。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業開始時に前回授業内容の振り返り小テストを行います。必ず復習をしておいてください。また本日のKey wordsについて、調べ学習をしておいてください。 【予習復習に必要な想定時間】 key wordに関する調べ学習を行うこと。1～2時間程度の時間を要すると想定される。</p>
第13回	<p>理学療法と義肢装具 【key words】 key words:義肢、装具 【授業概要】 義肢および装具の説明を行います。また歩行補助具とは何か、その使い方や調節の仕方、実際に補助具を扱いながら解説を行います。杖の種類について調べてみましょう。授業で発表していただきます。なお、授業終了時に振り返り小テストを行います。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業開始時に前回授業内容の振り返り小テストを行います。必ず復習をしておいてください。また本日のKey wordsについて、調べ学習をしておいてください。 【予習復習に必要な想定時間】 key wordに関する調べ学習を行うこと。1～2時間程度の時間を要すると想定される。</p>
第14回	<p>理学療法と日常生活活動 【key words】 key words:ADL、APDL、IADL 【授業概要】 日常生活活動（ADL）について、IADLとの違いも含め解説を行います。さらに最終目標としてのQOLの向上とADLとの関連について解説を行います。日々行う身の回りの活動をあげましょう。授業で発表していただきます。なお、授業終了時に振り返り小テストを行います。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業開始時に前回授業内容の振り返り小テストを行います。必ず復習をしておいてください。また本日のKey wordsについて、調べ学習をしておいてください。 【予習復習に必要な想定時間】 key wordに関する調べ学習を行うこと。1～2時間程度の時間を要すると想定される。</p>
第15回	<p>理学療法と倫理 【key words】 key words:各倫理規定の紹介</p>

	<p>【授業概要】 日本理学療法士協会から出されている倫理規定の内容を紹介し、それぞれの項目ごとにその意義を解説します。医療従事者として必要な倫理観を知り、理解し、身に付けていただきます。なお、授業終了時に振り返り小テストを行います。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業開始時に前回授業内容の振り返り小テストを行います。必ず復習をしておいてください。また本日のKey wordsについて、調べ学習をしておいてください。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 key wordに関する調べ学習を行うこと。1～2時間程度の時間を要すると想定される。</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<p>[受講生に関わる情報]および[受講のルール]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業中の居眠りや、他の学生に迷惑となるような行為は厳に慎むこと。たび重なる注意を与えても改善が見られない場合は、退室してもらう場合がある。 ・その回の課題については必ず行ってくること。授業中に発表していただくが、課題を忘れることで他の受講生に迷惑をかけることを認識しておくこと。 ・Zoomを用いた遠隔授業の際には、ビデオは必ずONの状態を受講すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	毎回授業の予習・復習を行うこと。予習状況については授業中に確認し、復習の結果は授業終了時に確認テストを行う予定。
オフィスアワー	火曜日16:30～ (この時間に限らず、いつでも相談可能)
評価方法	筆記試験(客観・論述) 50%、確認テスト・その他 50% ※授業への参加姿勢、確認テスト結果等を勘案し、総合的に評価することとする。
教科書	特に定めなし。必要に応じ資料を配布する。
参考書	理学療法概論 奈良勲編 医歯薬出版
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> ■実務経験のある教員が担当している <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>理学療法士として、中枢神経疾患を専門に6年間、運動器疾患を中心に11年間、介護保険事業関連で2年間の実務経験を生かして講義を行います。現在通所介護施設において理学療法士および施設管理として高齢者の全般的な仕事をしています。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習) <input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育 <input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの(図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) <input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの(情報処理、情報整理法等) <input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの(レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) <input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 <input type="checkbox"/>その他 <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位 (30)	必修
担当教員			
小島俊文			
理学療法治療学	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>物理療法とは、熱、光、水、電気、超音波、徒手、機械力などの物理的なエネルギーを生体に加えることによって、生体の持っている反応を引き出し、生体の変調を整えることにより疾病治療に寄与する治療手技である。本講義では、物理療法で用いられる物理的エネルギーが生体におよぼす影響や、また物理的エネルギーによって起こる生体反応がどのようなものか、機序も含め学ぶことにある。</p> <p>授業の到達目標・期待される学習効果</p> <p>①理学療法における物理療法の位置づけが説明できる。 ②物理療法に用いられる各種エネルギーの特性を説明することができる。 ③各種物理療法の適応と禁忌が説明できる。 ④各種物理療法機器の安全な取り扱いができる。</p>
授業の概要	<p>物理療法とは生態に物理的エネルギーを与え、生体反応を引き起こすことにより、疾病治療を行う治療手技である。当科目は理学療法における物理療法の位置付けを理解することから始まり、物理療法に用いられる各種エネルギーの特性と生体反応の物理的機序を学ぶ。また実際に物理療法を経験することにより、各種機器の正しく安全な操作方法を習得する。</p>

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	○
(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	◎
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	<p>第1回 ガイダンス・物理療法とは・物理療法の分類と歴史</p> <p>【key words】 理学療法、物理療法、リスク管理</p> <p>【授業概要】 物理療法、理学療法理学療法における物理療法の位置づけを解説する。また物理療法の分類と歴史的背景を解説する。p1～物理療法とは何か、考えをまとめること。授業終了時に振り返りの小テストを実施する。正答率が60%未満の者は、放課後等を利用し補習を行うので、必ず参加すること。 【教科書ページ・参考文献】 物理療法学p1～p23 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本日のKey wordsについて、事前に調べ学習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習も含め1時間程度の学習を欠かさないこと。</p> <p>第2回 各種物理療法の生理的作用と治療目的・適応と禁忌</p> <p>【key words】 温熱療法、生理作用、熱の移動</p> <p>【授業概要】 各種物理療法の生理的作用と治療目的、適応と禁忌について解説を行う。p24～温熱療法について各療法を調べておくこと。授業終了時に振り返りの小テストを実施する。正答率が60%未満の者は、放課後等を利用し補習を行うので、必ず参加すること。 【教科書ページ・参考文献】 物理療法学p24～p46 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本日のKey wordsについて、事前に調べ学習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習も含め1時間程度の学習を欠かさないこと。</p> <p>第3回 物理療法の適応と病態①炎症と組織の修復</p> <p>【key words】 炎症、4徴候、治癒過程</p>
------	---

第4回	<p>【授業概要】 物理療法が対象となる症状および疾患について説明をする。また、禁忌およびリスク管理を理解した上で、治療ガイドラインを使用することができるようになる。別途資料を配布予定。炎症について調べておくこと。授業終了時に振り返りの小テストを実施する。正答率が60%未満の者は、放課後等を利用し補習を行うので、必ず参加すること。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 病理学等の本から情報を得ること</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 本日のKey wordsについて、事前に調べ学習をしておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習も含め1時間程度の学習を欠かさないこと。</p> <p>物理療法の適応と病態②痛み</p> <p>【key words】 痛み、伝導路、</p>
第5回	<p>【授業概要】 痛みのメカニズムの生理学を解説し、さまざまな物理療法を使用するための生理学的基礎を理解する。また、立証された治療効果を含む、生理学的効果のある物理療法の選択方法について学ぶ。痛みの生理的機序について調べておくこと。授業終了時に振り返りの小テストを実施する。正答率が60%未満の者は、放課後等を利用し補習を行うので、必ず参加すること。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 生理学等の本から情報を得ること</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 本日のKey wordsについて、事前に調べ学習をしておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習も含め1時間程度の学習を欠かさないこと。</p> <p>温熱療法①温熱療法概論・ホットパック・パラフィン浴</p> <p>【key words】 ホットパック、パラフィン浴</p>
第6回	<p>【授業概要】 温熱療法の効果と適応禁忌を解説する。温熱療法におけるホットパック、パラフィン浴について解説を行う。p34～ホットパックについてその特徴を調べておくこと。授業終了時に振り返りの小テストを実施する。正答率が60%未満の者は、放課後等を利用し補習を行うので、必ず参加すること。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 物理療法学p34～p46</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 本日のKey wordsについて、事前に調べ学習をしておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習も含め1時間程度の学習を欠かさないこと。</p> <p>温熱療法②ホットパック・パラフィン浴の生理的機序</p> <p>【key words】 ホットパック、パラフィン浴</p>
第7回	<p>【授業概要】 温熱療法の効果と適応禁忌を解説する。温熱療法におけるホットパック、パラフィン浴について解説を行う。p40～パラフィン浴についてその特徴を調べておくこと。授業終了時に振り返りの小テストを実施する。正答率が60%未満の者は、放課後等を利用し補習を行うので、必ず参加すること。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 物理療法学p34～p46</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 本日のKey wordsについて、事前に調べ学習をしておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習も含め1時間程度の学習を欠かさないこと。</p> <p>温熱療法③極超短波・超音波</p> <p>【key words】 極超短波、超音波、ランバードの余弦則</p>
第8回	<p>【授業概要】 エネルギー変換療法の種類と物理的エネルギーの違いおよび特徴について学ぶ。また臨床で使用する頻度が比較的多い超音波療法の物理的特性と理論的背景を理解する。p84～極超短波と身近な家電機器の関連を調べておくこと。授業終了時に振り返りの小テストを実施する。正答率が60%未満の者は、放課後等を利用し補習を行うので、必ず参加すること。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 物理療法学p84～p90、p130～p148</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 本日のKey wordsについて、事前に調べ学習をしておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習も含め1時間程度の学習を欠かさないこと。</p> <p>電気刺激療法①電気刺激療法概論・経皮的末梢神経電気刺激療法</p> <p>【key words】 電気療法、低周波、運動点</p> <p>【授業概要】 電気エネルギーの理論を理解し、さまざまな治療機器を用い、電気エネルギーを治療に使用する方法を学ぶ。p149～モーターポイントについて調べておくこと。授業終了時に振り返りの小テストを実施する。正答率が60%未満の者は、放課後等を利用し補習を行うので、必ず参加すること。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 物理療法学p149～p188</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>

第9回	<p>本日のKey wordsについて、事前に調べ学習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習も含め1時間程度の学習を欠かさないこと。 電気刺激療法②経皮的末梢神経電気刺激療法の実際 【key words】 TENS、SSP、干渉波</p> <p>【授業概要】 電気エネルギーの理論を理解し、さまざまな治療機器を用い、電気エネルギーを治療に使用する方法を学ぶ。p149～機能的電気刺激とは何か調べておくこと。授業終了時に振り返りの小テストを実施する。正答率が60%未満の者は、放課後等を利用し補習を行うので、必ず参加すること。 【教科書ページ・参考文献】 物理療法学p149～p188 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第10回	<p>本日のKey wordsについて、事前に調べ学習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習も含め1時間程度の学習を欠かさないこと。 光線療法 光線療法概論・赤外線・紫外線・レーザー光線 【key words】 赤外線、紫外線、レーザー光線</p> <p>【授業概要】 光線の性質と分類を理解し、光線療法の種類と生理学的効果について学ぶ。p91～赤外線と紫外線の違いを調べておくこと。授業終了時に振り返りの小テストを実施する。正答率が60%未満の者は、放課後等を利用し補習を行うので、必ず参加すること。 【教科書ページ・参考文献】 物理療法学p91～p130 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第11回	<p>本日のKey wordsについて、事前に調べ学習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習も含め1時間程度の学習を欠かさないこと。 牽引療法 頸椎牽引と骨盤牽引 【key words】 頸椎牽引、骨盤牽引</p> <p>【授業概要】 牽引療法の理論的背景を理解し、患者の症状や障害に合わせた牽引療法を学ぶ。p223～直達牽引と間欠牽引の違いを調べておくこと。授業終了時に振り返りの小テストを実施する。正答率が60%未満の者は、放課後等を利用し補習を行うので、必ず参加すること。 【教科書ページ・参考文献】 物理療法学p223～p248 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第12回	<p>本日のKey wordsについて、事前に調べ学習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習も含め1時間程度の学習を欠かさないこと。 水治療法①水治療法概論・渦流浴・気泡浴 【key words】 特異的作用、非特異的作用、生理的作用</p> <p>【授業概要】 水の物理的特性と水治療法の理論的背景を理解し、患者の状態に応じた安全な水治療法について学ぶ。p189～水の物理的特性を考えておくこと。授業終了時に振り返りの小テストを実施する。正答率が60%未満の者は、放課後等を利用し補習を行うので、必ず参加すること。 【教科書ページ・参考文献】 物理療法学p189～p222 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第13回	<p>本日のKey wordsについて、事前に調べ学習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習も含め1時間程度の学習を欠かさないこと。 水治療法②上肢・下肢・半座浴・全身浴 【key words】 パパート浴、水中運動療法、交代浴</p> <p>【授業概要】 水治療法の物理的特性と理論的背景を理解し、患者さんの状況に即した安全な水治療法について学ぶ。p189～水中運動の効果について調べておくこと。授業終了時に振り返りの小テストを実施する。正答率が60%未満の者は、放課後等を利用し補習を行うので、必ず参加すること。 【教科書ページ・参考文献】 物理療法学p189～p222 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第14回	<p>本日のKey wordsについて、事前に調べ学習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習も含め1時間程度の学習を欠かさないこと。 寒冷療法①寒冷療法概論・アイスマッサージ・クリッカー・コールドバック 【key words】 寒冷誘発血管拡張、アイシング、レイノー現象</p> <p>【授業概要】 寒冷療法の生理学的作用について理解を深め、寒冷療法の効果について臨床での目的と適応について学ぶ。p47～冷却の生理学的効果を調べておくこと。授業終了時に振り返りの小テストを実施する。正答率が60%未満の者は、放課後等を利用し補習を行うので、必ず参加すること。 【教科書ページ・参考文献】</p>

	<p>物理療法学p47～p69 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本日のKey wordsについて、事前に調べ学習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習も含め1時間程度の学習を欠かさないこと。 物理療法のとめ 【key words】 理学療法、物理療法、運動療法</p> <p>【授業概要】 物理療法のとめを行う。各小テストを忘れずに持参すること。なし各小テストを振り返るので忘れずに持参すること。授業終了時に振り返りの小テストを実施する。正答率が60%未満の者は、放課後等を利用し補習を行うので、必ず参加すること。 【教科書ページ・参考文献】 物理療法学すべて 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本日のKey wordsについて、事前に調べ学習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習も含め1時間程度の学習を欠かさないこと。</p>
受講生に関わる情報 および受講のルール	<p>[受講生に関わる情報] ・予習復習は必ず行うこと。 [受講ルール] ・授業概要を必ず確認し積極的に授業に臨むこと。 ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。 ・寝ている者については、気づいた者が起こすなどして見て見ぬふりは絶対にしないこと。また、寝ている者がいる場合は授業の進行を一時止めたりすることもある。 ・Zoomを用いた遠隔授業の場合、ビデオは必ずONの状態に参加のこと。</p>
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状況の 確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる 情報	毎回授業の予習・復習を行うこと。予習状況については授業中に確認し、復習の結果は授業終了時に小テストで確認する。
オフィスアワー	火曜日16：30～
評価方法	筆記試験(客観・論述) 50%、小テスト等 50% ※ただし、上記を基本として授業への参加姿勢、課題の遂行状況等を勘案し、総合的に評価することとする。
教科書	松澤 正：物理療法学 第3版 金原出版株式会社
参考書	シンプル理学療法学シリーズ 物理療法学テキスト 第2版 南江堂
実務者経験/アクティブラーニング/ リテラシー教育	<p>授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容 理学療法士として、中枢神経疾患を専門に6年間、運動器疾患を中心に11年間、介護保険事業関連で2年間の実務経験を生かして講義を行います。現在通所介護施設において理学療法士および施設管理として高齢者の全般的な仕事をしています。</p> <p>アクティブラーニング要素 <input type="checkbox"/> PBL(課題解決型学習) <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート ■グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> アクティブラーニングは実施していない</p> <p>情報リテラシー教育 <input type="checkbox"/> 情報モラルに関する教育 <input type="checkbox"/> 課題解決のために必要な情報を探索するもの(図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) <input type="checkbox"/> 情報を分析評価し整理するもの(情報処理、情報整理法等) <input type="checkbox"/> 情報のアウトプットに関するもの(レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) <input type="checkbox"/> 情報リテラシー教育は実施していない</p> <p>ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input type="checkbox"/> e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 <input type="checkbox"/> その他</p> <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	1単位(30)	必修
担当教員			
小島俊文			
理学療法治療学	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	物理療法とは、熱、光、水、電気、超音波、徒手、機械力などの物理的なエネルギーを生体に加えることによって、生体の持っている反応を引き出し、生体の変調を整えることにより疾病治療に寄与する治療手技である。本講義では、物理療法で用いられる物理的エネルギーが生体におよぼす影響や、また物理的エネルギーによって起こる生体反応がどのようなものか機序も含め学ぶことにある。そして各種機器を操作し安全に実践できることを目的・目標とする。 ①物理療法機器を安全に取り扱うことができる。 ②症状に合わせた機器の選択ができる。 ③物理療法機器の適応と禁忌ならびに使い方のオリエンテーションができる。 ④物理療法機のメンテナンスができる。
授業の概要	物理療法とは生体に物理的エネルギーを与え、生体反応を引き起こすことにより、疾病治療を行う治療手段である。当科目は各種疾患に対する物理療法の適応を理解し、物理療法に用いられる各種エネルギー特性と疾患特有の症状への生理的機序を学び、同時に適切に機器の運用ができるようになることである。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	◎
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	第1回	物理療法の適応と禁忌 【key words】 リスク管理、適応、禁忌 【授業概要】 物理療法、適応と禁忌各物理療法機器の適応と禁忌について、まとめと振り返りを行う。p1～物理療法学の授業で用いた資料で振り返りを行っておくこと。 【教科書ページ・参考文献】 物理療法学p10～p23 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本日のKey wordsについて、事前に調べ学習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 各回の授業内容に関する復習および、キーワードの調べ学習を1時間程度かけ実施すること。
	第2回	ホットパックの実際①(準備から実施、メンテナンスと注意事項) 【key words】 ホットパック、温熱療法、表在性温熱 【授業概要】 ホットパック療法で用いる材質の物理的特性を理解し、表在性温熱療法の作用と効果の理論的背景を学ぶ。また安全にホットパックを作り、リスクを守りながら施行できるための技術を学ぶ。 p34～ホットパックの適応と禁忌について復習しておくこと。 【教科書ページ・参考文献】 物理療法学p34～p40 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本日のKey wordsについて、事前に調べ学習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 各回の授業内容に関する復習および、キーワードの調べ学習を1時間程度かけ実施すること。
	第3回	ホットパックの実際②(準備から実施、メンテナンスと注意事項) 【key words】 乾式、湿式、熱傷 【授業概要】 ホットパック療法で用いる材質の物理的特性を理解し、表在性温熱療法の作用と効果の理論的背景を学ぶ。また安全にホットパックを作り、リスクを守りながら施行できるための技術を学ぶ。

<p>第10回</p>	<p>NMESを用いた運動神経刺激の理論的背景を理解し、さまざまな治療対象に対して適切に直流、交流、パルス電流刺激装置を選択し、治療するための方法を学ぶ。p149～低周波療法の適応と禁忌について復習しておくこと。 【教科書ページ・参考文献】 物理療法学p165～p173 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本日のKey wordsについて、事前に調べ学習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 各回の授業内容に関する復習および、キーワードの調べ学習を1時間程度かけ実施すること。 低周波療法の実際②（準備から実施、メンテナンスと注意事項） 【key words】 関導子、不関導子、運動点</p> <p>【授業概要】 TENSを用いた痛みのコントロールの理論的背景を理解し、痛みを制御するために直流、交流、パルス電流刺激装置を適切に選択し、治療するための方法を学ぶ。p149～低周波療法の適応と禁忌について復習しておくこと。2回の実習を通して、安全に扱えるようになること。 【教科書ページ・参考文献】 物理療法学p165～p173 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本日のKey wordsについて、事前に調べ学習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 各回の授業内容に関する復習および、キーワードの調べ学習を1時間程度かけ実施すること。 牽引療法の実際①（準備から実施、メンテナンスと注意事項） 【key words】 リスク管理、適応、禁忌</p>
<p>第11回</p>	<p>【授業概要】 一般的に行われている電動式牽引装置を用いた牽引療法について理解し、電動式牽引以外の牽引方法についても学ぶ。p223～牽引療法の適応と禁忌について復習しておくこと。 【教科書ページ・参考文献】 物理療法学p223～p248 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本日のKey wordsについて、事前に調べ学習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 各回の授業内容に関する復習および、キーワードの調べ学習を1時間程度かけ実施すること。 牽引療法の実際②（準備から実施、メンテナンスと注意事項） 【key words】 持続牽引、間欠牽引、直達と介達</p>
<p>第12回</p>	<p>【授業概要】 一般的に行われている電動式牽引装置を用いた牽引療法について理解し、電動式牽引以外の牽引方法についても学ぶ。p223～牽引療法の適応と禁忌について復習しておくこと。2回の実習を通して、安全に扱えるようになること。 【教科書ページ・参考文献】 物理療法学p223～p248 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本日のKey wordsについて、事前に調べ学習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 各回の授業内容に関する復習および、キーワードの調べ学習を1時間程度かけ実施すること。 グループ学習① 物理療法の操作と説明 【key words】 各種物理療法機器、グループワーク、操作</p>
<p>第13回</p>	<p>【授業概要】 各物理療法機器の説明と操作について、実際に学生同士で行ってみる。全てが対象受け持ちの物理療法機器の説明書を作成すること 【教科書ページ・参考文献】 物理療法学すべて 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本日のKey wordsについて、事前に調べ学習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 各回の授業内容に関する復習および、キーワードの調べ学習を1時間程度かけ実施すること。 グループ学習② 物理療法の操作と説明 【key words】 各種物理療法機器、グループワーク、操作</p>
<p>第14回</p>	<p>【授業概要】 各物理療法機器の説明と操作について、実際に学生同士で行ってみる。全てが対象受け持ちの物理療法機器の説明書を作成すること 【教科書ページ・参考文献】 物理療法学すべて 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本日のKey wordsについて、事前に調べ学習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 各回の授業内容に関する復習および、キーワードの調べ学習を1時間程度かけ実施すること。 物理療法実習のまとめ 【key words】 国家試験問題 【授業概要】 受け持ちの物理療法機器に関する適応と禁忌、生理的効果等の国家試験類似問題を作成し、問題を出し合う。 【教科書ページ・参考文献】</p>
<p>第15回</p>	<p>【key words】 国家試験問題 【授業概要】 受け持ちの物理療法機器に関する適応と禁忌、生理的効果等の国家試験類似問題を作成し、問題を出し合う。 【教科書ページ・参考文献】</p>

	<p>物理療法学すべて 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本日のKey wordsについて、事前に調べ学習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 各回の授業内容に関する復習および、キーワードの調べ学習を1時間程度かけ実施すること。</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<ul style="list-style-type: none"> ・ふざけた態度や礼を欠く態度を取る者は受講を拒否することがある。 ・予習復習は必ず行うこと。 ・授業概要を必ず確認し積極的に授業に臨むこと。 ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。 ・寝ている者については、気づいた者が起こすなどして見て見ぬふりは絶対にしないこと。また、寝ている者がいる場合は授業の進行を一時止めたりすることもある。 ・Zoomを用いた遠隔授業の際には、ビデオをONの状態に参加すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	毎回授業の予習・復習を行うこと。実習の結果が不十分な場合（安全な取扱いに欠ける等）、放課後を利用した補習を行うので、参加すること。
オフィスアワー	火曜日16：30～
評価方法	筆記試験(客観・論述) 50%、実技等 50% ※上記を基本とし、授業への参加姿勢、課題の遂行状況等を勘案し、総合的に評価することとする。
教科書	松澤 正・他：物理療法学 第3版 金原出版株式会社
参考書	シンプル理学療法学シリーズ 物理療法学テキスト 第2版 南江堂
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> ■実務経験のある教員が担当している <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>理学療法士として、中枢神経疾患を専門に6年間、運動器疾患を中心に11年間、介護保険事業関連で2年間の実務経験を生かして講義を行います。現在通所介護施設において理学療法士および施設管理として高齢者の全般的な仕事をしています。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習) <input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート ■グループワーク <input type="checkbox"/>プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育 <input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） <input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） <input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） <input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 <input type="checkbox"/>その他 <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	必修
担当教員			
小島俊文			
理学療法治療学	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	車椅子や歩行補助具、義肢、装具の特徴を理解し、疾患や障害に合わせた車椅子や歩行補助具、義肢、装具を選択できるようになることを目的とする。 到達目標 ①義肢・装具の種類と効果（作用）の説明ができる。 ②疾患や障害にあった義肢・装具の選択ができる。 ③歩行補助具の選択と調節ができる。
授業の概要	臨床で使用されている車椅子、歩行補助具、義肢・装具を、理学療法との結び付きの中で学習し、これまで習った疾患や障害に照らし合わせながら車椅子、歩行補助具、義肢・装具の種類、適応、用法、禁忌、起こりやすいトラブルなどの基礎知識を身に付ける。義肢については、切断肢位、ソケットの構造、継手の種類・適応などを学ぶ。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	○
(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	◎
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	第1回	科目オリエンテーション/歩行補助具について 【key words】 key words:歩行補助具、杖 【授業概要】 T字杖、多脚杖、杖の処方歩行補助具の目的や必要条件を説明しT字杖や多脚杖について実物を見ながらその特徴を解説する。また、杖の処方や主な疾患に対する杖の処方を考える。授業終了時に小テストを行い正答率が60%未満の者に対しては、放課後等を利用して補修を行うので必ず出席すること。 【教科書ページ・参考文献】 p358～予習：各種杖について調べること。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本日のKey wordsについて、事前に調べ学習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習も含め1時間程度の学習を欠かさないこと。
	第2回	歩行補助具、車椅子について 【key words】 key words:杖の調節、杖の歩き方 【授業概要】 松葉杖や歩行器の特徴を実物を見ながら解説する。また、松葉杖の合わせ方、歩行の形式について体を動かしながら理解する。車椅子の各名称を説明する。授業終了時に小テストを行い正答率が60%未満の者に対しては、放課後等を利用して補修を行うので必ず出席すること。 【教科書ページ・参考文献】 p314～予習：車椅子について調べておくこと。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本日のKey wordsについて、事前に調べ学習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習も含め1時間程度の学習を欠かさないこと。
	第3回	車椅子の採寸、チェックポイント 【key words】 key words:車椅子の構造、車椅子処方、車椅子操作 【授業概要】 車椅子のアームサポートやバックサポート、レッグサポートの各種機能について実物を見ながら解説する。また、どのような目的を持ってその機能を用いるかを考える。車椅子作成に必要な身体測定を実施し、チェックポイントを解説する。授業終了時に小テストを行い正答率が60%未満

第4回	<p>の者に対しては、放課後等を利用して補修を行うので必ず出席すること。 【教科書ページ・参考文献】 p314～予習：車椅子の各種機能について調べておくこと。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本日のKey wordsについて、事前に調べ学習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習も含め1時間程度の学習を欠かさないこと。 義肢装具の概念、切断部位と切断術について 【key words】 key words:切断の疫学、切断術</p> <p>【授業概要】 各種義肢や装具を確認し、PTとして知識を得ることの意味を考える。切断部位や原因について解説する。授業終了時に小テストを行い正答率が60%未満の者に対しては、放課後等を利用して補修を行うので必ず出席すること。 【教科書ページ・参考文献】 p1～、予習：義肢の概念について読んでおくこと。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本日のKey wordsについて、事前に調べ学習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習も含め1時間程度の学習を欠かさないこと。</p>
第5回	<p>切断の分類・原因、切断手段の概略、切断部位と切断術について 【key words】 key words:末梢循環障害</p> <p>【授業概要】 切断部位の選択の一般的原則について紹介し、上肢切断、下肢切断の部位について説明する。切断術の際の血管、神経、骨、筋の処理について解説する。授業終了時に小テストを行い正答率が60%未満の者に対しては、放課後等を利用して補修を行うので必ず出席すること。 【教科書ページ・参考文献】 p47～予習：どのような切断があるか調べておくこと。復習：末梢循環障害についてまとめておくこと。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本日のKey wordsについて、事前に調べ学習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習も含め1時間程度の学習を欠かさないこと。</p>
第6回	<p>大腿義足ソケット（四辺形ソケットとIRCソケットの機能的役割）について 【key words】 key words:大腿義足、ソケット、膝継手</p> <p>【授業概要】 大腿義足の構成について説明する。差し込み式ソケット、四辺形ソケット、IRCソケットについて実際のソケットを見ながら特徴について理解する。各種膝継手に触れ、理解する。授業終了時に小テストを行い正答率が60%未満の者に対しては、放課後等を利用して補修を行うので必ず出席すること。 【教科書ページ・参考文献】 p120～予習：大腿義足ソケットについて調べておくこと。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本日のKey wordsについて、事前に調べ学習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習も含め1時間程度の学習を欠かさないこと。</p>
第7回	<p>下腿義足ソケット（PTB、PTS、KBM、TSB式下腿義足）について 【key words】 key words:下腿義足、SACH足</p> <p>【授業概要】 下腿義足ソケットであるPTB、PTS、KBM、TSBソケットについて実際に見ながらその特徴を理解する。また下腿義足の足部について解説を行う。授業終了時に小テストを行い正答率が60%未満の者に対しては、放課後等を利用して補修を行うので必ず出席すること。 【教科書ページ・参考文献】 p150～予習：下腿義足について調べておくこと。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本日のKey wordsについて、事前に調べ学習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習も含め1時間程度の学習を欠かさないこと。</p>
第8回	<p>その他の義足について 【key words】 key words:サイム切断、股義足</p> <p>【授業概要】 各義足の特徴について説明しを行う。実際の義足を手に取り、構造を把握しながらその特徴を理解する。授業終了時に小テストを行い正答率が60%未満の者に対しては、放課後等を利用して補修を行うので必ず出席すること。 【教科書ページ・参考文献】 p170～予習：その他の義足について調べておくこと。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本日のKey wordsについて、事前に調べ学習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習も含め1時間程度の学習を欠かさないこと。</p>
第9回	<p>義手について 【key words】 key words:コスメティック、機能性</p>

第10回	<p>【授業概要】 義手の構成と特徴について学ぶ。授業終了時に小テストを行い正答率が60%未満の者に対しては、放課後等を利用して補修を行うので必ず出席すること。 【教科書ページ・参考文献】 p91～予習：義手の分類と構成要素を調べておくこと。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本日のKey wordsについて、事前に調べ学習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習も含め1時間程度の学習を欠かさないこと。 装具学総論、短下肢装具① 【key words】 key words:短下肢装具、AF0、両側金属支柱</p>
第11回	<p>【授業概要】 装具の概論として目的などをまとめる。各種短下肢装具の構成、特徴、利点、欠点について班ごとにまとめる。足継手の種類を学び、その適応を整理する。授業終了時に小テストを行い正答率が60%未満の者に対しては、放課後等を利用して補修を行うので必ず出席すること。 【教科書ページ・参考文献】 p181～予習：装具総論を読んでおくこと。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本日のKey wordsについて、事前に調べ学習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習も含め1時間程度の学習を欠かさないこと。 短下肢装具② 【key words】 key words:ベンチアライメント、スタティックアライメント、ダイナミックアライメント</p>
第12回	<p>【授業概要】 下肢装具のチェックアウトの流れと項目について学ぶ。さらに短下肢装具のチェックアウト（支柱付・プラスチック製）を知る。授業終了時に小テストを行い正答率が60%未満の者に対しては、放課後等を利用して補修を行うので必ず出席すること。 【教科書ページ・参考文献】 p214～復習：プラスチック製短下肢装具、金属支柱付き短下肢装具、PTB短下肢装具の特徴、適応をまとめておくこと。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本日のKey wordsについて、事前に調べ学習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習も含め1時間程度の学習を欠かさないこと。 長下肢装具① 【key words】 key words:膝継手、免荷装具</p>
第13回	<p>【授業概要】 長下肢装具の構成要素を解説し、短下肢装具と長下肢装具の違いを考える。長下肢装具から短下肢装具へと移行する時期の条件を考える。膝継手やストラップの特徴を捉え、坐骨支持型長下肢装具の適応をまとめる。授業終了時に小テストを行い正答率が60%未満の者に対しては、放課後等を利用して補修を行うので必ず出席すること。 【教科書ページ・参考文献】 p228～復習：長下肢装具の特徴、適応、短下肢装具へと移行する時の条件をまとめておくこと。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本日のKey wordsについて、事前に調べ学習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習も含め1時間程度の学習を欠かさないこと。 長下肢装具②と靴型装具について 【key words】 key words:ベンチアライメント、スタティックアライメント、ダイナミックアライメント</p>
第14回	<p>【授業概要】 長下肢装具のチェックアウトについて説明する。また各種靴型装具の紹介をし、その適応について説明する。また、足底挿板の目的を考える。授業終了時に小テストを行い正答率が60%未満の者に対しては、放課後等を利用して補修を行うので必ず出席すること。 【教科書ページ・参考文献】 p232～復習：講義で学んだ靴型装具について復習しておくこと。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本日のKey wordsについて、事前に調べ学習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習も含め1時間程度の学習を欠かさないこと。 頸部体幹装具について 【key words】 key words:殻構造、ダーメン</p> <p>【授業概要】 頸部や体幹装具の各種装具について紹介し、その特徴と適応について説明する。類似した装具がある中でその違いを明確にし、適応疾患を考える。授業終了時に小テストを行い正答率が60%未満の者に対しては、放課後等を利用して補修を行うので必ず出席すること。 【教科書ページ・参考文献】 p240～復習：講義で学んだ各種装具について復習しておくこと。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本日のKey wordsについて、事前に調べ学習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習も含め1時間程度の学習を欠かさないこと。</p>

	<p>第15回 上肢装具について</p> <p>【key words】 key words:疾患別</p> <p>【授業概要】 上肢の各種装具について紹介し、その特徴と適応について説明する。類似した装具がある中でその違いを明確にし、適応疾患を考える。授業終了時に小テストを行い正答率が60%未満の者に対しては、放課後等を利用して補修を行うので必ず出席すること。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 p192～復習：講義で学んだ各種装具について復習しておくこと。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 本日のKey wordsについて、事前に調べ学習をしておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習も含め1時間程度の学習を欠かさないこと。</p>
受講生に関する情報および受講のルール	<p>[受講生に関する情報]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・整形外科学が基礎となるため履修内容に関連した範囲は必ず学習すること。積極的に車椅子や歩行補助具、義肢、装具などに触れること。 <p>[受講のルール]</p> <ol style="list-style-type: none"> ①シラバスを確認し予習復習を必ず行い積極的に臨むこと ②受講態度や身だしなみが整っていない場合受講を認めない ③授業の流れや雰囲気を乱したり他の受講生の迷惑となる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。 <ul style="list-style-type: none"> ・Zoomにおける遠隔授業では、ビデオを必ずONにして参加すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	毎回授業の予習・復習を行うこと。予習状況については授業中に確認し、復習の結果は授業終了時に小テストで確認します。
オフィスアワー	火曜日16:30～
評価方法	筆記試験(客観・論述) 50%、小テスト等 50% ※ただし上記を基本として、授業への参加姿勢、課題の遂行状況等を勘案し、総合的に評価することとする。
教科書	日本整形外科学会・他監修：義肢装具のチェックポイント 医学書院
参考書	理学療法テキスト 義肢学 石川朗・他 中山書店
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> ■実務経験のある教員が担当している <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>理学療法士として、中枢神経疾患を専門に6年間、運動器疾患を中心に11年間、介護保険事業関連で2年間の実務経験を生かして講義を行います。現在通所介護施設において理学療法士および施設管理として高齢者の全般的な仕事をしています。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習) <input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート ■グループワーク <input type="checkbox"/>プレゼンテーション <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育 <input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの(図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) <input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの(情報処理、情報整理法等) <input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの(レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) <input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 <input type="checkbox"/>その他 <p>その他の具体的内容</p>

英文科目名称： *

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	1単位(15)	自由選択
担当教員			
榊原清			
理学療法治療学			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] 診療参加型臨床実習では、診療チームの一員となって患者様に接するための医学知識、臨床技能を身につけているとともに、患者様と接し、他の医療専門職と協働するにふさわしい態度も求められる。その基礎となる検査測定実習に向けて、診療参加型臨床実習に参加する学生に必要とされる技術と態度を評価する「客観的臨床能力試験；OSCE(Objective Structured Clinical Examination)」について学び、真に患者様に役立つための統合された臨床能力の獲得につなげる。</p> <p>[到達目標] 知識・技術・態度のいずれもが、対象となる人との関係づくりには欠かせないものであることを理解し、自らの行動変容を促すことができる。</p>		
授業の概要	客観的臨床能力試験；OSCE(Objective Structured Clinical Examination)の意義、方法について学び、臨床技能、臨床態度の向上を図る。 臨床実習に参加する前に心構えを形成するための方法について学ぶ。		
各学科、専攻、コースにおけるDP			
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			科目における重要度
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			○
(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる			◎
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			○
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
授業計画	第1回	客観的臨床能力試験 (Objective Structured Clinical Examination: OSCE) について 【key words】 検査測定実習、臨床技能、臨床態度、客観的臨床能力試験、OSCE 【授業概要】 検査測定実習に参加する前に実施する客観的臨床能力試験；OSCEの概要について理解する。 検査測定実習に参加する学生に必要とされる技能と態度についての到達目標を知り、学修する。 【教科書ページ・参考文献】 資料を配布する 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ポートフォリオを作成する 【予習復習に必要な想定時間】 120分	
	第2回	臨床技能・臨床態度の標準化①車椅子の駆動介助について 【key words】 OSCE、臨床技能、臨床態度、標準化、車椅子駆動 【授業概要】 車椅子の駆動介助を通して、臨床実習に参加する前に求められる技能と態度について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 資料を配布する 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ポートフォリオを作成する 【予習復習に必要な想定時間】 120分	
	第3回	臨床技能・臨床態度の標準化②コミュニケーション技法について 【key words】 OSCE、臨床技能、臨床態度、標準化、コミュニケーション技法 【授業概要】 コミュニケーション技法を通して、臨床実習に参加する前に求められる技能と態度について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 資料を配布する 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ポートフォリオを作成する 【予習復習に必要な想定時間】 120分	

第4回	<p>臨床技能・臨床態度の標準化③形態測定について</p> <p>【key words】 OSCE、臨床技能、臨床態度、標準化、形態測定</p> <p>【授業概要】 形態測定を通して、臨床実習に参加する前に求められる技能と態度について学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 資料を配布する</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 ポートフォリオを作成する</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 120分</p>
第5回	<p>臨床技能・臨床態度の標準化④関節可動域検査について</p> <p>【key words】 OSCE、臨床技能、臨床態度、標準化、関節可動域検査</p> <p>【授業概要】 関節可動域検査を通して、臨床実習に参加する前に求められる技能と態度について学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 資料を配布する</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 ポートフォリオを作成する</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 120分</p>
第6回	<p>OSCE（客観的臨床能力試験）の実施</p> <p>【key words】 理学療法士、対人技能、報告</p> <p>【授業概要】 臨床場面を想定し、指示された内容に対応できる力を推し量る。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：レポート [実施内容をまとめ、良い点、改善すべき点について考察すること] レポート書式・提出期限については、追って説明する。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 120分</p>
第7回	<p>臨床実習に参加する心構え①</p> <p>【key words】 臨床実習、対人関係、好感度</p> <p>【授業概要】 臨床実習に参加する前に求められる技能と態度について学ぶ。 相手に好感を抱かせるためのテクニックについて学ぶ</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 資料を配布する</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 ポートフォリオを作成する</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 120分</p>
第8回	<p>臨床実習に参加する心構え②</p> <p>【key words】 臨床実習、自己肯定感、信頼</p> <p>【授業概要】 臨床実習に参加する前に求められる技能と態度について学ぶ。 自己肯定感を高める法則について学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 資料を配布する</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 ポートフォリオを作成する</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 120分</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>【key words】</p>

	<p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 120分</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 120～180分</p>
受講生に関わる情報 および受講のルール	<p>[受講生に関わる情報]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理学療法評価学で学んだ内容を含むため、履修内容に関連した範囲は必ず復習しておくこと。 <p>[受講のルール]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前にシラバスを確認し、講義範囲を確認したうえで予習するなど積極的に取り組むこと。 ・OSCEのためだけの学修ではなく、将来の対象者を見据えた態度で臨むこと。将来の対象者に不安や不快感を与えないような態度や身だしなみ（髪色・髪型・化粧・髭・アクセサリー・服装）の励行。
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわ る情報	<ul style="list-style-type: none"> ・各講義に対して予習・復習を積極的に取り組むこと。 ・各講義でわからないことは下記オフィスアワー等を使用し解決するように努力すること。
オフィスアワー	放課後、その他の曜日時間については要予約
評価方法	口頭試問30%、レポート50%、ポートフォリオ20%
教科書	授業内で適宜紹介する。
参考書	才藤栄一監修：PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編. 金原出版. 2019
実務者経験/アク ティブラーニング/ リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> ■実務経験のある教員が担当している <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>実務経験のある教員が担当している</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 <p>その他の具体的内容</p>

英文科目名称： *

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	1単位(15)	自由選択
担当教員			
小林雄斗			
理学療法治療学			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的]</p> <p>中枢神経障害についての特徴を学び、実際の現場を通してより具体的な理学療法テクニックについて経験する。</p> <p>[達成目標]</p> <p>①授業で提示した主要なキーワードを自分言葉で説明ができる。</p> <p>②中枢神経障害の理学療法の役割について説明することができる。</p> <p>③疾患の特徴や現象から、具体的な介入方法について説明することができる。</p>
授業の概要	主に脳卒中、パーキンソン病患者に対する理学療法の実際を学ぶ

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	◎
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	
第1回	<p>科目オリエンテーション</p> <p>脳卒中、パーキンソン病、理学療法、運動療法疾患情報、ビデオから理学療法実施に必要な検査測定を考え、ディスカッションを行う。</p> <p>動作観察・分析より特異的な現象を捉え、問題点を予測する</p> <p>問題点を改善するための理学療法・運動療法のプログラムを考える</p> <p>プログラム課題を課題指向型アプローチに沿って考えるキーワードに関連する教科書</p> <p>資料配布授業内容をポートフォリオにまとめ、自己学習に役立てること</p>
第2回	<p>脳卒中、パーキンソン病を中心とした中枢神経障害に対する理学療法の実践テクニック・ディスカッション①</p> <p>疾患情報、ビデオから理学療法実施に必要な検査測定を考える</p> <p>動作観察・分析より特異的な現象を捉え、問題点を予測し、プレゼンテーションを行う。</p> <p>問題点を改善するための理学療法・運動療法のプログラムを考える</p> <p>プログラム課題を課題指向型アプローチに沿って考えるキーワードに関連する教科書</p> <p>資料配布授業内容をポートフォリオにまとめ、自己学習に役立てること</p>
第3回	<p>脳卒中、パーキンソン病を中心とした中枢神経障害に対する理学療法の実践テクニック・ディスカッション②</p> <p>疾患情報、ビデオから理学療法実施に必要な検査測定を考える</p> <p>動作観察・分析より特異的な現象を捉え、問題点を予測する</p> <p>問題点を改善するための理学療法・運動療法のプログラムを考える</p> <p>プログラム課題を課題指向型アプローチに沿って考える。キーワードに関連する教科書</p> <p>資料配布授業内容をポートフォリオにまとめ、自己学習に役立てること</p>
第4回	<p>脳卒中、パーキンソン病を中心とした中枢神経障害に対する理学療法の実践テクニック・ディスカッション③</p> <p>疾患情報、ビデオから理学療法実施に必要な検査測定を考える</p> <p>動作観察・分析より特異的な現象を捉え、問題点を予測する。予後予測の文献を集め、各自でプレゼンテーションを行う。</p> <p>問題点を改善するための理学療法・運動療法のプログラムを考える</p> <p>プログラム課題を課題指向型アプローチに沿って考えるキーワードに関連する教科書</p> <p>資料配布授業内容をポートフォリオにまとめ、自己学習に役立てること</p>
第5回	<p>OSCE/病院・施設の見学</p> <p>脳卒中・神経疾患に対する治療の実際を施設見学から学ぶ。キーワードに関連する教科書</p> <p>配布資料授業内容をポートフォリオにまとめ、自己学習に役立てること</p>
第6回	<p>OSCE/病院・施設の見学</p> <p>脳卒中・神経疾患に対する治療の実際を施設見学から学ぶ。キーワードに関連する教科書</p> <p>配布資料授業内容をポートフォリオにまとめ、自己学習に役立てること</p>
第7回	<p>OSCE/病院・施設の見学</p> <p>脳卒中・神経疾患に対する治療の実際を施設見学から学ぶ。キーワードに関連する教科書</p> <p>配布資料授業内容をポートフォリオにまとめ、自己学習に役立てること</p>

	<p>第8回 OSCE/病院・施設の見学 脳卒中・神経疾患に対する治療の実際を施設見学から学ぶ。キーワードに関連する教科書配布資料授業内容をポートフォリオにまとめ、自己学習に役立てること</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<p>[服装指定] 指定のジャージ着用とします。(防寒対策は認めます) [学習方法] 解剖・生理・運動学の知識、医学的知識、理学療法評価学、理学療法治療学の知識が獲得済みであることを前提とします。不十分な者は事前学習を個人で進めてください</p>
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	<p>シャトルカード方式</p>
授業外時間にかかわる情報	<p>[復習支援] 技術を身につけるために復習とトレーニングを支援します。</p>
オフィスアワー	<p>火曜日16時30分</p>
評価方法	<p>OSCE・実技課題(40%)、レポート・ポートフォリオ(60%)</p>
教科書	<p>指定なし</p>
参考書	<p>脳卒中理学療法の理論と技術 第2版, メジカルビュー, 2013 石川 齊ら・編: 図解 理学療法技術ガイド, 文光堂, 2014 福井 罔彦ら・編: 脳卒中最前線第4版, 医歯薬出版, 2009 中島雅美ら: PT・OT 基礎から学ぶ 画像の読み方 第2版, 医歯薬出版, 2016 千田 富義ら・編: 脳卒中(リハ実践テクニック), メジカルビュー2017 潮見 泰藏: 編脳卒中に対する標準的理学療法介入 第2版, 文光堂, 2017 椿原彰夫・編: PT・OT臨床実習で役立つリハビリテーション, 2016 嶋田智</p>
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員 <input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 理学療法士として、中枢神経疾患を専門に6年間、運動器疾患を中心に11年間、介護保険事業関連で2年間の実務経験を生かして講義を行います。 アクティブラーニング要素 <input type="checkbox"/> PBL(課題解決型学習) <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input checked="" type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 <input type="checkbox"/> 情報モラルに関する教育 <input type="checkbox"/> 課題解決のために必要な情報を探索するもの(図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) <input type="checkbox"/> 情報を分析評価し整理するもの(情報処理、情報整理法等) <input type="checkbox"/> 情報のアウトプットに関するもの(レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) <input type="checkbox"/> 情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 <input checked="" type="checkbox"/> ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input type="checkbox"/> e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 <input type="checkbox"/> その他 その他の具体的内容</p>

英文科目名称： *

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	1単位(15)	自由選択
担当教員			
浅野貞美			
理学療法治療学			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] 内部障害に対する基本的理学療法の意義と内容を説明できる。</p> <p>[到達目標] ①内部障害に対する理学療法評価について説明できる。 ②内部障害に対する具体的な理学療法プログラムを説明できる。</p>
------------	---

授業の概要	<p>現在わが国では、複数の障害を有する重複障害者が増加しており、内部障害リハビリテーションに対するニーズが高まっている。 内部障害リハビリテーションは包括的なリハビリテーションであるが、運動療法はその中核の1つとして非常に重要な役割を担っている。運動療法を担当する理学療法士において、内部障害リハビリテーションに対する理解は必要不可欠である。 内部障害理学療法学特論では、各内部障害における特異的な問題点、評価方法、治療プログラム、リスク管理について、paper patientを用いた症例検討を通して学ぶとともに、実際のリハビリテーションの見学を通して理解を深めていく。</p>
-------	---

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	◎
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション、ディスカッション 【key words】 オリエンテーション、内部障害リハビリテーション、ディスカッション 【授業概要】 ①オリエンテーション ②内部障害者に対するリハビリテーションにおいて、理学療法士として理解すべき点をディスカッションを通して学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書、授業時に配付した資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 理学療法技術論Ⅰで学習した範囲を復習すること 【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p> <p>第2回 症例検討① 【key words】 paper patient、重複障害 【授業概要】 paper patientを用いた症例検討を実施する。 問題点の抽出、リスク管理、目標設定、治療プログラムを立案する。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料、評価学・運動器・内部障害の教科書 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布資料をもとに予習すること 【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p> <p>第3回 症例検討② 【key words】 paper patient、重複障害 【授業概要】 paper patientを用いた症例検討を実施する。 問題点の抽出、リスク管理、目標設定、治療プログラムを立案する。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料、評価学・運動器・内部障害の教科書 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
------	--

	<p>配布資料をもとに予習すること 【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p> <p>第4回 症例検討③ 【key words】 paper patient、重複障害 【授業概要】 paper patientを用いた症例検討を実施する。 問題点の抽出、リスク管理、目標設定、治療プログラムを立案する。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料、評価学・運動器・内部障害の教科書 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布資料をもとに予習すること 【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p> <p>第5回 心臓リハビリテーションの実際① 【key words】 心疾患、心臓リハビリテーション、見学 【授業概要】 心臓リハビリテーションの実際を施設見学から学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料、内部障害の教科書 【課題・予習・復習・授業準備指示】 理学療法技術論Ⅰで学習した範囲を復習すること 【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p> <p>第6回 心臓リハビリテーションの実際② 【key words】 心疾患、心臓リハビリテーション、見学 【授業概要】 心臓リハビリテーションの実際を施設見学から学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料、内部障害の教科書 【課題・予習・復習・授業準備指示】 理学療法技術論Ⅰで学習した範囲を復習すること 【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p> <p>第7回 腎臓リハビリテーションの実際① 【key words】 慢性腎臓病、腎臓リハビリテーション 【授業概要】 腎臓リハビリテーションの実際を施設見学から学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料、内部障害の教科書 【課題・予習・復習・授業準備指示】 理学療法技術論Ⅰで学習した範囲を復習すること 【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p> <p>第8回 腎臓リハビリテーションの実際② 【key words】 慢性腎臓病、腎臓リハビリテーション 【授業概要】 腎臓リハビリテーションの実際を施設見学から学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料、内部障害の教科書 【課題・予習・復習・授業準備指示】 理学療法技術論Ⅰで学習した範囲を復習すること 【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
受講生に関わる情報 および受講のルール	<p>【受講生に関わる情報】 講義への出席は必須であり、無断欠席・遅刻はしない。</p> <p>【受講のルール】 ①受講態度や身だしなみ（前述の通り）等が整っていない場合は受講を認めない。 ②他の受講生の迷惑になる行為（私語、スマートフォン等の使用）は厳禁。指導により態度を改めない場合は受講を認めない。</p>
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	チャトルカード方式
授業外時間にかかわ る情報	①シラバスで次回内容の確認をし、受講の準備計画を立てる（10分程度）。 ②前回講義内容の復習をし、要点をまとめておくこと（20分程度）。
オフィスアワー	水曜日16時から17時は随時。それ以外は要予約。
評価方法	ポートフォリオ100%
教科書	①PTOT入門イラストでわかる内部障害、医歯薬出版株式会社 ②古川順光・編：内部障害に対する運動療法、メジカルビュー社
参考書	随時講義内に紹介する。
実務者経験/アク ティブラーニング/	授業担当教員

リテラシー教育	<p>■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容 運動器の理学療法に加え、呼吸・心臓・腎臓などの内部障害に対する理学療法を実践していた。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/>グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育 <input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの(図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) <input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの(情報処理、情報整理法等) <input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの(レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) ■情報リテラシー教育は実施していない <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 <input type="checkbox"/>その他 <p>その他の具体的内容</p>
---------	--

英文科目名称：*

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	1単位(15)	自由選択
担当教員			
村山明彦			
理学療法治療学			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] ヘルスプロモーションは「人々が自らの健康をコントロールし、改善することができるようにするプロセスである」と定義されている。この定義に準拠した理学療法を実践・実証していくための方法論を学ぶ。</p> <p>[到達目標] ①ヘルスプロモーションの定義について述べることができる。 ②予防理学療法の概要について述べるができる。 ③科学的根拠に基づく理学療法（Evidence-based Physical Therapy：EBPT）の実践と実証について述べるができる。</p>
授業の概要	ヘルスプロモーション理学療法（特に介護予防分野）におけるエビデンスの概要を理解し、さらにその実践活動について学ぶ。わが国のヘルスプロモーション領域の研究成果は、世界最高水準と言える。このことを理解できるように、基本的な統計解析と結果の解釈についても学ぶ（メタアナリシスを含む）。さらに、ヘルスリテラシーを高めるためのデータ検索などについても紹介する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	◎
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	◎

授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション、ヘルスプロモーションの定義、予防理学療法の概要 【key words】ヘルスプロモーション、予防理学療法 【授業概要】この授業の位置づけについて理解する。ヘルスプロモーションの定義や、社会的ニーズの高さを知る。 厚生労働省 我が国における健康をめぐる施策の変遷 http://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/kousei/14/dl/1-01.pdf 【教科書ページ・参考文献】授業概要で紹介している参考URLを参照 【課題・予習・復習・授業準備指示】上記のkeywordsやURLを参考に予習することが望ましい。 【予習復習に必要な想定時間】60分（予習とは別にシラバスの内容を把握したうえで授業に臨むこと）</p> <p>第2回 ヘルスプロモーション理学療法における現状と課題ーご当地体操を調査する① 【key words】ご当地体操、介護予防、通いの場 【授業概要】わが国におけるヘルスプロモーション理学療法の現状と課題について学ぶ。また、理解を深めるために必要な文献レビューの方法についても紹介する。 厚生労働省ホームページ https://kayoinoba.mhlw.go.jp/ 【教科書ページ・参考文献】授業概要で紹介している参考URLを参照 【課題・予習・復習・授業準備指示】上記のkeywordsやURLを参考に予習・復習することが望ましい。 【予習復習に必要な想定時間】予習60分・復習60分</p> <p>第3回 ヘルスプロモーション理学療法における現状と課題ーご当地体操を調査する② 【key words】ご当地体操、介護予防、通いの場 【授業概要】わが国におけるヘルスプロモーション理学療法の現状と課題について学ぶ。また、各自が調査したご当地体操についてディスカッションを行う。 厚生労働省ホームページ https://kayoinoba.mhlw.go.jp/ 【教科書ページ・参考文献】</p>
------	---

第4回	<p>授業概要で紹介している参考URLを参照 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsやURLを参考に予習・復習することが望ましい。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分</p> <p>地域におけるヘルスプロモーションの実際①～フレイル予防～ 【key words】 フレイル, ヘルスリテラシー 【授業概要】 地域におけるヘルプロモーションのニーズの高さを理解する。 また、フレイル予防について学ぶ。 日本理学療法士協会 EBPTチュートリアル http://jspt.japanpt.or.jp/ebpt/ 日本転倒予防学会ホームページ http://www.tentouyobou.jp/ 日本骨粗鬆症学会ホームページ http://www.josteo.com/ja/index.html 日本サルコペニア・フレイル学会ホームページ http://jssf.umin.jp/ 公益社団法人日本整形外科学会ホームページ https://www.joa.or.jp/jp/index.html 日本リハビリテーション栄養学会ホームページ https://sites.google.com/site/jsrht/home 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>授業概要で紹介している参考URLを参照 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsやURLを参考に予習・復習することが望ましい。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分</p>
第5回	<p>地域におけるヘルスプロモーションの実際②～転倒予防～ 【key words】 転倒予防, ヘルスリテラシー 【授業概要】 地域におけるヘルプロモーションのニーズの高さを理解する。 また、転倒予防について学ぶ。 日本転倒予防学会ホームページ http://www.tentouyobou.jp/ 一般社団法人日本骨粗鬆症学会ホームページ http://www.josteo.com/ja/index.html 日本サルコペニア・フレイル学会ホームページ http://jssf.umin.jp/ 公益社団法人日本整形外科学会ホームページ https://www.joa.or.jp/jp/index.html 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>授業概要で紹介している参考URLを参照 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsやURLを参考に予習・復習することが望ましい。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分</p>
第6回	<p>地域におけるヘルスプロモーションの実際③～認知症予防～ 【key words】 認知症予防, ヘルスリテラシー 【授業概要】 地域におけるヘルプロモーションのニーズの高さを理解する。 また、認知症予防について学ぶ。 公益社団法人日本老年精神医学会ホームページ http://www.rounen.org/ 日本認知症学会ホームページ http://dementia.umin.jp/ 一般社団法人日本老年医学会ホームページ https://www.jpn-geriat-soc.or.jp/ 国立研究開発法人国立長寿医療研究センターホームページ http://www.ncgg.go.jp/ 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>授業概要で紹介している参考URLを参照 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsやURLを参考に予習・復習することが望ましい。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分</p>
第7回	<p>科学的根拠に基づく理学療法 (Evidence-based Physical Therapy : EBPT)① 【key words】 統計解析, 科学的根拠に基づく理学療法 【授業概要】 科学的根拠に基づく理学療法 (Evidence-based Physical Therapy : EBPT)を理解する上で、必要となる知識を整理する。 また、統計解析の結果を解釈するための方法を学ぶ。 統計WEB https://bellcurve.jp/statistics/ 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>授業概要で紹介している参考URLを参照 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsやURLを参考に予習・復習することが望ましい。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分</p>
第8回	<p>科学的根拠に基づく理学療法 (Evidence-based Physical Therapy : EBPT)② 【key words】 ヘルスプロモーション, ヘルスリテラシー, 予防理学療法, 科学的根拠に基づく理学療法 【授業概要】 オリジナルの介護予防プログラムをプレゼンテーションする。 厚生労働省ホームページ https://kayoinoba.mhlw.go.jp/ 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>授業概要で紹介している参考URLを参照 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsやURLを参考に予習・復習することが望ましい。 また、各自で発表の予行練習を行い、効率よく効果的なプレゼンテーションができるようにしておくこと。</p>

	【予習復習に必要な想定時間】 予習120分・復習120分
受講生に関わる情報 および受講のルール	①対面・遠隔どちらでも対応できる授業構成としている。 ②授業で使用するスライド等の資料は、全て電子媒体にて事前に配布する。授業当日までにプリントアウトもしくは、電子媒体を閲覧できる環境（PC・タブレット・スマートフォンなど）を整えておくこと。 ③遠隔授業となった場合は、グループワークやディスカッションを通じて、双方向型の授業を展開する予定である。受講中はビデオをオンにしても安定する通信環境を整えておくこと。
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	スレッド（Webポータル）
授業外時間にかかわ る情報	授業内容を確認し、事前学習および復習を計画的に進めること。
オフィスアワー	火曜日16時30分～17時30分（その他の曜日については要予約）
評価方法	授業内でのプレゼンテーション40%、レポート60%
教科書	特になし。適宜紹介する。
参考書	大淵修一，浦辺幸夫 監修，吉田剛，井上和久 編：予防理学療法学要論．医歯薬出版 対馬栄輝 編著：最新理学療法学講座 理学療法研究法．医歯薬出版 牧迫飛雄馬，吉松竜貴 編著：最新理学療法学講座 地域理学療法学．医歯薬出版
実務者経験/アク ティブラーニング/ リテラシー教育	授業担当教員 <ul style="list-style-type: none"> ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 2016年より群馬県内の市町村において、ヘルスプロモーションに寄与するための活動を行っている。 また、医療専門職向けの講習において、ヘルプロモーションに関する講演を定期的に行っている。 転倒予防指導士基礎講習会の講師も務める（2018年～）。 専門理学療法士（基礎理学療法・生活環境支援理学療法）、サルコペニア・フレイル指導士などの資格を有する。 アクティブラーニング要素 <input type="checkbox"/> PBL(課題解決型学習) <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 <input checked="" type="checkbox"/> 情報モラルに関する教育 <input checked="" type="checkbox"/> 課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） <input checked="" type="checkbox"/> 情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） <input checked="" type="checkbox"/> 情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） <input type="checkbox"/> 情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 <input checked="" type="checkbox"/> ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input type="checkbox"/> e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 <input type="checkbox"/> その他 その他の具体的内容

英文科目名称： *

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	1単位(30)	自由選択
担当教員			
柴ひとみ・榊原清			
地域理学療法学			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>【授業の目的】 地域リハビリテーションの中の小規模多機能や訪問リハビリなどの地域サービスの実際を学び、地域における理学療法士の役割や他職種との連携を学ぶ。そして、地域包括ケアシステムの仕組みについて理解することを目的とする。</p> <p>【到達目標】 ①地域包括ケアシステムのしくみを理解し、その目的について説明ができる。 ②地域サービス（訪問リハビリ等）の目的について説明できる。 ③地域サービス（訪問リハビリ等）の場面を見学し、実際の場面を理解できる。</p>		
授業の概要	地域で生活する高齢者、障害者の視点に立ち、安全・安心に暮らせるような住環境の整備や活動性の維持・向上を図るために必要な戦略を学ぶ。介護保険分野等におけるPTの役割を明確にする。		
各学科、専攻、コースにおけるDP			科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			○
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			△
(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる			◎
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			○
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			○
授業計画	第1回	<p>科目オリエンテーション、地域包括ケアシステムにおける理学療法とは</p> <p>【key words】 地域包括ケアシステム、介護予防、医療保険、介護保険、理学療法</p> <p>【授業概要】 地域包括ケアシステムの重要性を再確認したうえで、介護予防分野、医療保険分野、介護保険分野における理学療法の位置づけを考える。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：地域包括ケアシステムについて調べておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>	
	第2回	<p>地域サービス（訪問リハビリ等における理学療法）－準備－</p> <p>【key words】 地域包括ケアシステム、介護予防、医療保険、介護保険、理学療法</p> <p>【授業概要】 訪問リハビリの対象者のニーズを把握し、在宅生活を継続するために必要なアプローチについて考える。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：アプローチ内容をまとめること 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>	
	第3回	<p>地域サービス（訪問リハビリ等における理学療法）－準備－</p> <p>【key words】 地域包括ケアシステム、介護予防、医療保険、介護保険、理学療法</p> <p>【授業概要】 訪問リハビリの対象者のニーズを把握し、在宅生活を継続するために必要なアプローチについて考える。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 課題：アプローチ内容をまとめること 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>	

	<p>【予習復習に必要な想定時間】 60分</p> <p>第4回 地域サービス（訪問リハビリ等の実際）－見学－ 【key words】 在宅、見学実習、地域包括ケアシステム、介護予防、医療保険、介護保険、理学療法</p> <p>【授業概要】 地域サービスの中の訪問リハビリの役割を学ぶ。 在宅で生活している方々の生活をみる視点を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：生活をみる視点をまとめておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p> <p>第5回 地域サービス（訪問リハビリ等の実際）－見学－ 【key words】 在宅、見学実習、地域包括ケアシステム、介護予防、医療保険、介護保険、理学療法</p> <p>【授業概要】 地域サービスの中の訪問リハビリの役割を学ぶ。 在宅で生活している方々の生活をみる視点を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：生活をみる視点をまとめておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p> <p>第6回 地域サービス（訪問リハビリ等の実際）－見学－ 【key words】 在宅、見学実習、地域包括ケアシステム、介護予防、医療保険、介護保険、理学療法</p> <p>【授業概要】 地域サービスの中の訪問リハビリの役割を学ぶ。 在宅で生活している方々の生活をみる視点を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：生活をみる視点をまとめておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p> <p>第7回 地域サービス（訪問リハビリ等の実際）－見学－ 【key words】 在宅、見学実習、地域包括ケアシステム、介護予防、医療保険、介護保険、理学療法</p> <p>【授業概要】 地域サービスの中の訪問リハビリの役割を学ぶ。 在宅で生活している方々の生活をみる視点を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：実習内容をポートフォリオにまとめ、翌日の9時に提出すること 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分</p> <p>第8回 地域サービス（訪問リハビリ等の実際）－発表、まとめ－ 【key words】 在宅、地域包括ケアシステム、介護予防、医療保険、介護保険、理学療法、発表</p> <p>【授業概要】 訪問リハビリのサービスを利用されている方々の生活やリハビリ内容を発表する。これにより訪問リハビリの目的を明らかにする。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：各班の発表をまとめておくこと、ポートフォリオの提出 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<p>事前に授業計画を確認し、積極的に授業に参加すること。他の学生の迷惑となるような行為（私語・携帯電話の使用など）は厳禁。 体験学習は出席を前提とするため休まず予習を行った上で臨むこと。体験学習の実習記録は、翌日の9：00までに提出すること。 内容が類似した実習記録は受け付けないため、自己の努力により作成すること。 学外実習が行えない場合、遠隔などを用いて対応する予定。</p>
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式

授業外時間にかかわる情報	前回の復習をして授業に臨むこと。 体験学習にあたっては、事前に準備（情報収集や実技練習）をすること。
オフィスアワー	木曜日16時～17時は随時（変更時は掲示する）　その他の曜日については要予約
評価方法	ポートフォリオ100%
教科書	授業内で適宜紹介する。
参考書	授業内で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> ■実務経験のある教員が担当している <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>急性期および回復期、生活期におけるリハビリテーション業務に理学療法士として従事する他、運動学・運動力学の研究を実践してきた。現在はそれらの研究報告を基に、臨床業務の指導などを実践している。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	2単位(30)	必修
担当教員			
柴ひとみ・村山明彦			
臨床実習	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] 臨床技能の実践を中心に、理学療法士として必要な「知識」「技能」「態度」を確実に身につけることが目的である。</p> <p>[到達目標] ①「感染予防」「医療面接」「リスク管理」「検査測定」について、決められた時間内に安全かつ正確に実施することができる。 ②実習後、レジュメを作成し、発表することができる。 ③評価に関わる検査測定技術を身に付ける事ができる。</p>
授業の概要	近年、理学療法臨床実習においてクリニカルクラークシップ形式の実習スタイルが推奨されている。そのような中、実習に臨む学生には、患者に理学療法介入を行うための「知識」「技能」「態度」が求められる。臨床実習指導 I では実際の臨床技能の習得に着目して、実習前後の達成度を測るためにOSCEを実施し、確実に臨床技能が習得できるように取り組んでいく。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	○
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	○
(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	◎
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	第1回	<p>科目オリエンテーション/臨床実習の手引き</p> <p>【key words】 評価実習、評価、対人関係技法、医療面接、インフォームドコンセプト</p> <p>【授業概要】 評価実習、評価、対人関係技法、医療面接、インフォームドコンセプト手引きをもとに総合臨床実習の基本的な流れを説明する。学生としての謙虚な姿勢を忘れず、意欲的に学ぶ姿勢が重要であることを理解する。医療面接の要点やインフォームドコンセプトの重要性を再確認する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 臨床実習手引きを配布</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習：実習の手引きを熟読しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>
	第2回	<p>評価実習の進めかた①</p> <p>【key words】 臨床技能、評価、理学療法</p> <p>【授業概要】 対象者との対面、疾患に関する事前学習、評価、統合と解釈、問題点の超出、目標設定の流れについて理解する。また、クリニカルクラークシップについて理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：実習の手引きを熟読しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>
	第3回	<p>症例に関する情報収集について</p> <p>【key words】 臨床技能、評価、理学療法、情報収集</p> <p>【授業概要】 対象者の情報を取得する方法や各々の情報に含まれる項目について整理する。また、検査測定を行う前に各々の情報から考えられる問題点を予測することの重要性を理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p>

第4回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：各々の情報に含まれる項目について復習しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p> <p>症例の問題点の把握 【key words】 臨床技能、評価、理学療法、問題点抽出 【授業概要】 各々の情報や検査測定結果から関連図を導き出し、統合と解釈を行ったうえで、問題点を抽出する過程について整理する。 検査測定前に予測した問題点との摺り合せを行う。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p>
第5回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：関連図の記載について復習しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p> <p>症例の問題点の把握 【key words】 臨床技能、評価、理学療法、目標設定、全体像の把握 【授業概要】 情報収集、検査測定、統合と解釈、問題点抽出、目標設定という一連の過程を経て、対象者を「生活する人」として捉えながら、全体像を把握できるようにする。 【教科書ページ・参考文献】</p>
第6回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：生活者という視点について調べておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p> <p>実習前OSCE①の実施 【key words】 臨床技能、OSCE、理学療法 【授業概要】 OSCE (Objective Structured Clinical Examination = 客観的臨床能力試験) を行い、判断力・技術・マナーといった基本的な臨床技術を評価し、実際の臨床の場で必要とされる臨床技術を習得する。実施したOSCEについて、実施した内容、良かった点、改善すべき点についてまとめること 【教科書ページ・参考文献】</p>
第7回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：実習前OSCE振り返りシートの提出 【予習復習に必要な想定時間】 90～120分</p> <p>臨床推論を高めるために【TKA①】 【key words】 臨床推論、評価、理学療法、情報収集、TKA 【授業概要】 TKAの模擬症例について、情報を項目ごとに整理し、得られた情報から検査測定項目を考える術を理解する。 【教科書ページ・参考文献】</p>
第8回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：TKAについて、第3回の講義内容を復習し、情報を項目ごとに整理すること。情報を基に検査測定項目を挙げてくること 【予習復習に必要な想定時間】 90～120分</p> <p>臨床推論を高めるために【TKA②】 【key words】 臨床推論、評価、理学療法、問題点抽出、TKA 【授業概要】 TKAの模擬症例について、検査測定結果から各々の関連性を考える術を理解する。 【教科書ページ・参考文献】</p>
第9回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：検査測定結果を基に関連図を作成してくること 【予習復習に必要な想定時間】 90～120分</p> <p>臨床推論を高めるために【TKA③】 【key words】 臨床推論、評価、理学療法、全体像の把握、TKA 【授業概要】 TKAの模擬症例について、ICF分類による問題点の抽出について理解する。また、目標設定、全体像の把握について理解する。 【教科書ページ・参考文献】</p>
第10回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：ICF分類を用いて問題点を抽出してくること 【予習復習に必要な想定時間】 90～120分</p> <p>臨床推論を高めるために【脳血管障害①】 【key words】</p>

	<p>臨床推論、評価、理学療法、情報収集、脳血管障害</p> <p>【授業概要】 脳血管障害の模擬症例について、情報を項目ごとに整理し、得られた情報から検査測定項目を考える術を理解する。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：TKAについて、第3回の講義内容を復習し、情報を項目ごとに整理すること。情報を基に検査測定項目を挙げてくること 【予習復習に必要な想定時間】 90～120分</p>
第11回	<p>臨床推論を高めるために【脳血管障害②】</p> <p>【key words】 臨床推論、評価、理学療法、問題点抽出、脳血管障害</p> <p>【授業概要】 脳血管障害の模擬症例について、検査測定結果から各々の関連性を考える術を理解する。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：検査測定結果を基に関連図を作成してくること 【予習復習に必要な想定時間】 90～120分</p>
第12回	<p>臨床推論を高めるために【脳血管障害③】</p> <p>【key words】 臨床推論、評価、理学療法、全体像の把握、脳血管障害</p> <p>【授業概要】 脳血管障害の模擬症例について、ICF分類による問題点の抽出について理解する。また、目標設定、全体像の把握について理解する。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：ICF分類を用いて問題点を抽出してくること 【予習復習に必要な想定時間】 90～120分</p>
第13回	<p>実習前OSCE②の実施</p> <p>【key words】 臨床技能、OSCE、理学療法</p> <p>【授業概要】 OSCE (Objective Structured Clinical Examination =客観的臨床能力試験) を行い、判断力・技術・マナーといった基本的な臨床技術を評価し、実際の臨床の場で必要とされる臨床技術を習得する。実施したOSCEについて、実施した内容、良かった点、改善すべき点についてまとめること 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：実習前OSCE振り返りシートの提出 【予習復習に必要な想定時間】 90～120分</p>
第14回	<p>実習前OSCE③の実施</p> <p>【key words】 臨床技能、OSCE、理学療法</p> <p>【授業概要】 OSCE (Objective Structured Clinical Examination =客観的臨床能力試験) を行い、判断力・技術・マナーといった基本的な臨床技術を評価し、実際の臨床の場で必要とされる臨床技術を習得する。実施したOSCEについて、実施した内容、良かった点、改善すべき点についてまとめること 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：実習前OSCE振り返りシートの提出 【予習復習に必要な想定時間】 90～120分</p>
第15回	<p>評価実習の進めかた②</p> <p>【key words】 臨床技能、評価、理学療法</p> <p>【授業概要】 対象者との対面、疾患に関する事前学習、評価、統合と解釈、問題点の超出、目標設定の流れについて理解する。また、クリニカルラークシップについて理解する。実際の流れについて理解する。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：実習の手引きを熟読しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>
第16回	<p>評価実習の進めかた③/個人情報保護</p> <p>【key words】 臨床技能、個人情報保護、理学療法</p> <p>【授業概要】 理学療法を行ううえで、対象者の個人情報を保護する目的やその方法について理解する。また、実習中の携帯電話の使用、SNSの取り扱いについて確認する。 【教科書ページ・参考文献】</p>

第17回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：実習の手引きを熟読しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分 評価実習における提出物について</p> <p>【key words】 臨床技能、評価、理学療法</p> <p>【授業概要】 臨床実習指導者や患者、利用者との良好な関係を築くために重要な事を認識する。また、デイリーノートやレポート、レジユメの書き方、適切な報告の方法を学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p>
第18回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：実習の手引きを熟読しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分 評価実習に向けた目標設定</p> <p>【key words】 臨床技能、評価、理学療法</p> <p>【授業概要】 評価実習に向け目標を立て、個々の目標を達成させるために必要な達成目標を考える。目標シートを作成し、実習担当教員の指導を受ける</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p>
第19回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：目標シートの提出 【予習復習に必要な想定時間】 60~90分 レジユメ発表①</p> <p>【key words】 臨床技能、評価、理学療法、発表</p> <p>【授業概要】 実習において担当したケースのレジユメを作成し、発表を行う。発表後、各疾患やケースについての理解を深める。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p>
第20回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：発表の準備をしておくこと 復習：各ケースの発表の指摘事項をまとめ、調べておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60~90分 レジユメ発表②</p> <p>【key words】 臨床技能、評価、理学療法、発表</p> <p>【授業概要】 実習において担当したケースのレジユメを作成し、発表を行う。発表後、各疾患やケースについての理解を深める。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p>
第21回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：発表の準備をしておくこと 復習：各ケースの発表の指摘事項をまとめ、調べておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60~90分 レジユメ発表③</p> <p>【key words】 臨床技能、評価、理学療法、発表</p> <p>【授業概要】 実習において担当したケースのレジユメを作成し、発表を行う。発表後、各疾患やケースについての理解を深める。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p>
第22回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：発表の準備をしておくこと 復習：各ケースの発表の指摘事項をまとめ、調べておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60~90分 レジユメ発表④</p> <p>【key words】 臨床技能、評価、理学療法、発表</p> <p>【授業概要】 実習において担当したケースのレジユメを作成し、発表を行う。発表後、各疾患やケースについての理解を深める。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p>

第23回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：発表の準備をしておくこと 復習：各ケースの発表の指摘事項をまとめ、調べておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p> <p>レジュメ発表⑤</p> <p>【key words】 臨床技能、評価、理学療法、発表 【授業概要】 実習において担当したケースのレジュメを作成し、発表を行う。発表後、各疾患やケースについての理解を深める。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p>
第24回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：発表の準備をしておくこと 復習：各ケースの発表の指摘事項をまとめ、調べておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p> <p>レジュメ発表⑥</p> <p>【key words】 臨床技能、評価、理学療法、発表 【授業概要】 実習において担当したケースのレジュメを作成し、発表を行う。発表後、各疾患やケースについての理解を深める。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p>
第25回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：発表の準備をしておくこと 復習：各ケースの発表の指摘事項をまとめ、調べておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p> <p>レジュメ発表⑦</p> <p>【key words】 臨床技能、評価、理学療法、発表 【授業概要】 実習において担当したケースのレジュメを作成し、発表を行う。発表後、各疾患やケースについての理解を深める。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p>
第26回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：発表の準備をしておくこと 復習：各ケースの発表の指摘事項をまとめ、調べておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p> <p>レジュメ発表⑧</p> <p>【key words】 臨床技能、評価、理学療法、発表 【授業概要】 実習において担当したケースのレジュメを作成し、発表を行う。発表後、各疾患やケースについての理解を深める。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p>
第27回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：発表の準備をしておくこと 復習：各ケースの発表の指摘事項をまとめ、調べておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p> <p>レジュメ発表⑨</p> <p>【key words】 臨床技能、評価、理学療法、発表 【授業概要】 実習において担当したケースのレジュメを作成し、発表を行う。発表後、各疾患やケースについての理解を深める。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p>
第28回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：発表の準備をしておくこと 復習：各ケースの発表の指摘事項をまとめ、調べておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p> <p>ケースの振り返り</p> <p>【key words】 臨床技能、評価、理学療法、振り返り 【授業概要】 レジュメ発表をもとに、情報収集や理学療法の検査測定結果から問題点抽出、目標設定までの評価の流れについて理解を深めることを目的とする。問題点の把握、対象者の全体像について再検</p>

	<p>討する。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：発表時に受けた質問等を調べ直し、整理しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p> <p>第29回 臨床実習に向けた目標設定 【key words】 臨床技能、評価、理学療法 【授業概要】 実習前に立案した目標を基に、達成できた点、達成できなかった点をまとめる。そして、臨床実習に向けて準備すべきことを挙げる。目標振り返りシートを作成し、実習担当教員の指導を受ける 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：目標振り返りシートの提出 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p> <p>第30回 実習後OSCEの実施 【key words】 臨床技能、評価、理学療法、OSCE 【授業概要】 OSCE (Objective Structured Clinical Examination =客観的臨床能力試験) を行い、判断力・技術・マナーといった基本的な臨床技術を評価し、実際の臨床の場で必要とされる臨床技術を習得する。実施したOSCEについて、実施した内容、良かった点、改善すべき点についてまとめること 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：実習後OSCE振り返りシートの提出 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<p>[受講生に関わる情報] ・実技を行うときはケーシー着用を着用し、医療福祉従事者としての身だしなみを整えること。 [受講のルール] ・医療従事者として必要な態度や身だしなみを整えたいうで受講すること。準備不足の学生は授業を受けられないこともある。 ・OSCEの実施場面は、本人の携帯電話を使用して撮影すること。その際、動画の加工、SNS上での拡散をしてはならない。</p>
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード方式
授業外時間にかかわる情報	臨床技能は、度重なる練習を経て身につくものである。授業内で数回実施すれば身につくものではない。授業時間外での学習が必須となるので、PT、患者、評価者役を作り練習を重ねてもらいたい。また、ケース発表では事前に資料を熟読し、臨むこと。
オフィスアワー	担当教員のオフィスアワーに準ずる
評価方法	レジュメ発表50%、OSCE50%
教科書	理学療法臨床実習サポートブック 医学書院
参考書	才藤栄一監修：PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編. 金原出版. 2019
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容 急性期および回復期、生活期におけるリハビリテーション業務に理学療法士として従事する他、運動学・運動力学・介護予防・生活環境の研究を実践してきた。現在はそれらの研究報告を基に、臨床業務の指導などを実践している。</p> <p>アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない</p> <p>情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの(図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) ■情報を分析評価し整理するもの(情報処理、情報整理法等) ■情報のアウトプットに関するもの(レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない</p> <p>ICTの活用</p>

	<input type="checkbox"/> ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input type="checkbox"/> e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 <input type="checkbox"/> その他 その他の具体的内容
--	--

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	2単位(30)	必修
担当教員			
浅野貞美			
理学療法治療学	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 呼吸器疾患に対する基本的理学療法の評価（情報収集・統合と解釈・問題点抽出）と治療プログラム立案のための知識と実践力を身につける。</p> <p>〔到達目標〕 「知識・理解」 ①内部障害の定義が説明できる。 ②代表的な呼吸器疾患の病態と治療が説明できる。 ③呼吸器疾患に対する一般的な理学療法プログラムを説明できる。</p> <p>「思考・判断」 ①課題のテーマに沿ったプレゼンテーション資料を作成し発表できる。 ②プレゼンテーションにおいて他者が理解できるよう分かりやすい言葉で表現することができる。</p>
授業の概要	代表的な呼吸器疾患について、病態に関する知識の確認を行うと共にフィジカルアセスメントを学ぶ。また、呼吸リハビリテーションの意義と目的、その方法を学ぶ。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	◎
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション、プレゼンテーション</p> <p>【key words】 オリエンテーション、内部障害、プレゼンテーション</p> <p>【授業概要】 ①授業概要の説明と導入を行う。 ②事前課題に対するプレゼンテーションをグループごとに実施する。 グループは掲示板で発表するため必ず確認すること。</p> <p>【事前課題】 課題タイトル：内部障害と理学療法</p> <p>【発表方法】 パワーポイントを用いてスライド7枚以内にまとめる（うち1枚目はタイトル、サブタイトル、科目名、教員名、学籍番号、氏名）。 発表時間はグループ当たり6分間とする。 作成したスライドは授業開始前までに学内のノートパソコン内に保存すること。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 なし</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 スライドの作成、プレゼンテーションの準備</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p> <p>第2回 内部障害の理解</p> <p>【key words】 内部障害、定義、種類</p> <p>【授業概要】 内部障害の定義・種類・疫学・歴史的背景を理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p>
------	--

	資料配布
	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 内部障害について各自予習すること</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
第3回	<p>呼吸器系の解剖学、生理学、運動学 part1</p> <p>【key words】 呼吸器系、解剖学、生理学、運動学</p> <p>【授業概要】 ①小テスト実施（過去に学習した範囲） ②呼吸器系の解剖学、生理学、運動学を理解する。 （運動生理学演習で配布した資料を持参すること）</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 運動生理学演習で配布した資料</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 小テスト勉強</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1.5時間</p>
第4回	<p>呼吸器系の解剖学、生理学、運動学 part2</p> <p>【key words】 呼吸器系、解剖学、生理学、運動学</p> <p>【授業概要】 ①小テスト実施（過去に学習した範囲） ②呼吸器系の解剖学、生理学、運動学を理解する。 （運動生理学演習で配布した資料を持参すること） ③血液ガス分析の見方を理解し、理学療法へどのようにつなげるのかイメージできるようになる。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 運動生理学演習で配布した資料</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 小テスト勉強</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1.5時間</p>
第5回	<p>呼吸機能検査</p> <p>【key words】 スパイロメトリー、フローボリューム曲線</p> <p>【授業概要】 ①呼吸機能検査の実習 ②スパイロメトリー、フローボリューム曲線について理解し、理学療法へどのようにつなげるのかイメージできるようになる。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 配布資料</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 スパイロメトリー、フローボリューム曲線について復習すること</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
第6回	<p>呼吸不全の病態と呼吸器疾患</p> <p>【key words】 呼吸不全、呼吸器疾患</p> <p>【授業概要】 呼吸不全の定義、換気障害の種類、呼吸器疾患について理解し、理学療法との関連をイメージする。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 配布資料</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 呼吸器疾患について予習すること</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
第7回	<p>呼吸理学療法における評価（フィジカルアセスメントpart1）</p> <p>【key words】 フィジカルアセスメント、視診、触診、聴診、打診</p> <p>【授業概要】 呼吸器疾患患者に対するフィジカルアセスメントを学ぶ。 実技あり。実習に準じた服装で受講すること。</p>

	<p>【教科書ページ・参考文献】 呼吸・心臓リハビリテーションp12～</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 触診を行うため、体表解剖を復習すること</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p> <p>第8回 呼吸理学療法における評価（フィジカルアセスメントpart2）</p> <p>【key words】 フィジカルアセスメント、視診、触診、聴診、打診</p> <p>【授業概要】 呼吸器疾患患者に対するフィジカルアセスメントを学ぶ。 実技あり。実習に準じた服装で受講すること。 授業後半は実技テストを実施する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 呼吸・心臓リハビリテーションp12～</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 フィジカルアセスメントpart1の復習</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p> <p>第9回 呼吸理学療法における評価（運動耐容能、筋力、ADL、QOL、栄養状態、心理状態）</p> <p>【key words】 運動耐容能、ADL、QOL</p> <p>【授業概要】 呼吸器疾患患者の運動耐容能、筋力、ADL、QOL、栄養状態、心理状態について学ぶ。 小テスト実施（過去に学習した範囲）</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 配布資料、教科書該当ページを参照</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 タイトルに対する内容を予習すること 小テスト勉強</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p> <p>第10回 包括的呼吸リハビリテーション（コンディショニング、呼吸練習、呼吸筋トレーニング、胸郭可動域トレーニング）</p> <p>【key words】 呼吸リハビリテーション、包括的プログラム</p> <p>【授業概要】 コンディショニング、呼吸練習、呼吸筋トレーニング、胸郭可動域トレーニングについて学ぶ。 実技あり。実習に準じた服装で受講すること。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 配布資料、教科書該当ページを参照</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 タイトルに対する内容を予習すること</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p> <p>第11回 呼吸理学療法の実際</p> <p>【key words】 呼吸理学療法</p> <p>【授業概要】 呼吸理学療法の実際について学ぶ。 実技あり。実習に準じた服装で受講すること。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 配布資料、教科書該当ページを参照</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 タイトルに対する内容を予習すること</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p> <p>第12回 呼吸理学療法基本手技（排痰法）</p> <p>【key words】 排痰法</p> <p>【授業概要】 呼吸理学療法基本手技（排痰法）について学ぶ。</p>
--	---

	<p>実技あり。実習に準じた服装で受講すること。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 配布資料、教科書該当ページを参照</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回の実技方法を練習すること</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p> <p>第13回 呼吸理学療法基本手技（呼吸介助）</p> <p>【key words】 呼吸介助</p> <p>【授業概要】 呼吸理学療法基本手技（呼吸介助）について学ぶ。 実技あり。実習に準じた服装で受講すること。 授業後半は実技テストを実施する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 配布資料、教科書該当ページを参照</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回の実技方法を練習すること</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p> <p>第14回 酸素療法、在宅酸素療法</p> <p>【key words】 酸素療法、在宅酸素療法</p> <p>【授業概要】 酸素療法、在宅酸素療法について学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 配布資料、教科書該当ページを参照</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 タイトルに対する内容を予習すること</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p> <p>第15回 ケーススタディ</p> <p>【key words】 グループワーク、ケーススタディ</p> <p>【授業概要】 架空の症例に対して、グループ毎に検討する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 配布資料、教科書該当ページを参照</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 今まで学習した領域を復習すること</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
受講生に関わる情報 および受講のルール	<p>〔受講生に関わる情報〕 講義への出席は必須であり、無断欠席・遅刻は小テスト成績ならびに課題発表に影響するので注意すること。 実習を行う際は大学指定体操着着用とする。 臨床実習に準じる身だしなみ（爪は短く切る、長い髪は束ねる、アクセサリー・香水・派手な化粧・頭髪の染色など不可）とする。</p> <p>【受講のルール】 ①シラバスを毎回持参し、各回の講義終了時、次回の内容を確認の上、受講準備を十分行う事。 ②受講態度や身だしなみ（前述の通り）等が整っていない場合は受講を認めない。 ③他の受講生の迷惑になる行為（私語、スマートフォン等の使用）は厳禁。指導により態度を改めない場合は受講を認めない。</p>
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわ る情報	<p>①講義終了後、シラバスで次回内容の確認をし、受講の準備計画を立てる。 ②前回講義内容の復習をし、要点をまとめておくこと。確認テストを実施することがある。 ③次回内容のkey wordsを中心にわからないことを事前に調べておくこと。</p>
オフィスアワー	水曜日16時から17時は随時。それ以外は要予約。
評価方法	課題発表10%、実技テスト20%、小テスト20%、筆記試験50% 総合評価は筆記試験が60%以上であることが前提となる。
教科書	呼吸心臓リハビリテーション改訂第2版：中山書店

	PTOT入門イラストでわかる内部障害, 医歯薬出版株式会社
参考書	適宜紹介する
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> ■実務経験のある教員が担当している <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>運動器の理学療法に加え、呼吸・心臓・腎臓などの内部障害に対する理学療法を実践していた。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習) <input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育 <input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの(図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) <input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの(情報処理、情報整理法等) <input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの(レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) ■情報リテラシー教育は実施していない <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 <input type="checkbox"/>その他 <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	1単位(30)	必修
担当教員			
小島俊文			
理学療法治療学	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	義肢、装具の特徴を理解し、疾患や障害に合わせた義肢、装具を選択できるようになることを目的とする。また、主な義足のアライメントの異常や下肢装具のチェックポイントを説明できることを目的とする。歩行補助具や義肢・装具の目的に合わせた調整ができるようになる。		
授業の概要	「義肢装具学」で学んだことを実際の義肢・装具などを扱いながら知識を深めることを目的とする。切断の断端管理、ソケットの構造や制作方法、懸垂方法、継手の種類・適応、フィッティングの確認方法、義足着用時の動作分析などを学習する。また、下肢装具のチェックポイントや歩行への影響を学ぶ。		
各学科、専攻、コースにおけるDP			科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			
(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる			◎
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
授業計画	第1回	科目オリエンテーション/切断者の評価 【key words】 key words : 【授業概要】 本授業は、2年次に学習した「義肢装具学」の知識が必須である。第1回の授業では、その知識がどの程度身につけているかを測るテストを実施する。問題数は50問とし正答率60%未満の学生については、知識の補完のための補講に参加し、十分な知識をつけること。 【教科書ページ・参考文献】 義肢装具のチェックポイント 【課題・予習・復習・授業準備指示】 義肢装具のチェックポイント等を利用し、2年次の総復習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】	
	第2回	断端管理法 義足装着前理学療法 【key words】 key words : 術直後義肢装着法、早期義肢装着法、従来式義肢装着法 【授業概要】 大腿切断や下腿切断の断端管理法についてや立位・歩行練習、段差を乗り越える動作、階段昇降動作、坂道を上り下りする動作、立ち上がり動作を安全に行う方法とその根拠について実習を通して学ぶ。授業終了時に振り返りのテストを行う。正答率60%未満の者は補習を実施するので必ず参加すること。 【教科書ページ・参考文献】 義肢装具のチェックポイントp77～予習：主な断端管理法について調べておくこと。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本日のKey wordsについて、事前に調べ学習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習も含め1時間程度の事前学習を欠かさないこと。	
	第3回	早期義肢装着法と義足の適合 【key words】 key words : 断端訓練、基本動作練習、筋力強化、関節拘縮予防 【授業概要】 大腿切断や下腿切断の断端管理法についてや立位・歩行練習、段差を乗り越える動作、階段昇降動作、坂道を上り下りする動作、立ち上がり動作の方法とその根拠について実習を通して学ぶ。授業終了時に振り返りのテストを行う。正答率60%未満の者は補習を実施するので必ず参加すること。 【教科書ページ・参考文献】 義肢装具のチェックポイントp78～予習：早期義肢装着法の利点を調べておくこと。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本日のKey wordsについて、事前に調べ学習をしておくこと。	

第4回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 予習も含め1時間程度の事前学習を欠かさないこと。 大腿義足のアライメントと異常歩行①</p> <p>【key words】 key words：ベンチアライメント、スタティックアライメント、ダイナミックアライメント</p> <p>【授業概要】 大腿義足におけるアライメントの取り方と、異常歩行の関係について解説を行う。授業終了時に振り返りのテストを行う。正答率60%未満の者は補習を実施するので必ず参加すること。 【教科書ページ・参考文献】 義肢装具のチェックポイントp129～3つのアライメントの違いを調べておくこと。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本日のKey wordsについて、事前に調べ学習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習も含め1時間程度の事前学習を欠かさないこと。</p>
第5回	<p>大腿義足のアライメントと異常歩行②</p> <p>【key words】 key words：初期屈曲角、異常歩行</p> <p>【授業概要】 大腿義足におけるアライメントの取り方と、異常歩行の関係について解説を行う。授業終了時に振り返りのテストを行う。正答率60%未満の者は補習を実施するので必ず参加すること。 【教科書ページ・参考文献】 義肢装具のチェックポイントp132～初期屈曲角とは何か調べておくこと。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本日のKey wordsについて、事前に調べ学習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習も含め1時間程度の事前学習を欠かさないこと。</p>
第6回	<p>下腿義足のアライメントと異常歩行①</p> <p>【key words】 key words：ベンチアライメント、スタティックアライメント、ダイナミックアライメント</p> <p>【授業概要】 下腿義足におけるアライメントの取り方と、異常歩行の関係について解説を行う。授業終了時に振り返りのテストを行う。正答率60%未満の者は補習を実施するので必ず参加すること。 【教科書ページ・参考文献】 義肢装具のチェックポイントp150～下腿義足について復習しておくこと。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本日のKey wordsについて、事前に調べ学習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習も含め1時間程度の事前学習を欠かさないこと。</p>
第7回	<p>下腿義足のアライメントと異常歩行①</p> <p>【key words】 key words：初期屈曲角、初期内転角</p> <p>【授業概要】 下腿義足におけるアライメントの取り方と、異常歩行の関係について解説を行う。授業終了時に振り返りのテストを行う。正答率60%未満の者は補習を実施するので必ず参加すること。 【教科書ページ・参考文献】 義肢装具のチェックポイントp150～3つのアライメントの違いを調べておくこと。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本日のKey wordsについて、事前に調べ学習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習も含め1時間程度の事前学習を欠かさないこと。</p>
第8回	<p>下肢装具①</p> <p>【key words】 key words：KAFO、AFO、KO</p> <p>【授業概要】 代表的な下肢装具について名称・分類の仕方、装着の仕方、調整の仕方を学ぶ。授業終了時に振り返りのテストを行う。正答率60%未満の者は補習を実施するので必ず参加すること。 【教科書ページ・参考文献】 義肢装具のチェックポイントp214～代表的な下肢装具について調べておくこと。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本日のKey wordsについて、事前に調べ学習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習も含め1時間程度の事前学習を欠かさないこと。</p>
第9回	<p>下肢装具②</p> <p>【key words】 key words：継手、制動、遊動</p> <p>【授業概要】 具体的な短下肢装具におけるアライメントと、異常歩行の関係について解説を行う。授業終了時に振り返りのテストを行う。正答率60%未満の者は補習を実施するので必ず参加すること。 【教科書ページ・参考文献】 義肢装具のチェックポイントp222～アライメントの原因で起きる異常歩行について調べておくこと。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本日のKey wordsについて、事前に調べ学習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習も含め1時間程度の事前学習を欠かさないこと。</p>
第10回	<p>体幹装具の実際</p>

	<p>【key words】 key words：胸腰仙椎装具、腰仙椎装具、頸椎装具</p> <p>【授業概要】 各種体幹装具の特徴をまとめるとともにチェックポイントについて整理する。授業終了時に振り返りのテストを行う。正答率60%未満の者は補習を実施するので必ず参加すること。 【教科書ページ・参考文献】 義肢装具のチェックポイントp240～予習：代表的な体幹装具についてその機能も含め復習しておくこと。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本日のKey wordsについて、事前に調べ学習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習も含め1時間程度の事前学習を欠かさないこと。 第11回 上肢装具の実際</p>
	<p>【key words】 key words：肩装具、肘装具、前腕装具、指装具</p> <p>【授業概要】 代表的な上肢装具について、実際に装着し使用することでその特徴や機能を学ぶ。授業終了時に振り返りのテストを行う。正答率60%未満の者は補習を実施するので必ず参加すること。 【教科書ページ・参考文献】 義肢装具のチェックポイントp202～予習：代表的な上肢装具と機能について整理しておくこと。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本日のKey wordsについて、事前に調べ学習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習も含め1時間程度の事前学習を欠かさないこと。 第12回 靴型装具と足底装具</p>
	<p>【key words】 key words：靴型装具、足底装具</p> <p>【授業概要】 靴型装具や足底装具の種類とその効果について、実際の装具を用いて理解する。授業終了時に振り返りのテストを行う。正答率60%未満の者は補習を実施するので必ず参加すること。 【教科書ページ・参考文献】 義肢装具のチェックポイントp233～予習：靴型装具・足底装具の種類について整理しておくこと。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本日のKey wordsについて、事前に調べ学習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習も含め1時間程度の事前学習を欠かさないこと。 第13回 疾患と装具①</p>
	<p>【key words】 key words：片麻痺、脊髄損傷</p> <p>【授業概要】 片麻痺、脊髄損傷に対する代表的な歩行補助具や装具について、その目的や使い方について学ぶ。授業終了時に振り返りのテストを行う。正答率60%未満の者は補習を実施するので必ず参加すること。 【教科書ページ・参考文献】 義肢装具のチェックポイントp256～予習：片麻痺および脊髄損傷の当該ページを読んでくること。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本日のKey wordsについて、事前に調べ学習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習も含め1時間程度の事前学習を欠かさないこと。 第14回 疾患と装具②</p>
	<p>【key words】 key words：側弯症、関節リウマチ、骨関節疾患</p> <p>【授業概要】 側弯症、関節リウマチ、骨関節疾患に対する歩行補助具や装具について学ぶ。授業終了時に振り返りのテストを行う。正答率60%未満の者は補習を実施するので必ず参加すること。 【教科書ページ・参考文献】 義肢装具のチェックポイントp282～予習：該当のページを読んでおくこと。また各疾患についてその概要を復習しておくこと。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本日のKey wordsについて、事前に調べ学習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習も含め1時間程度の事前学習を欠かさないこと。 第15回 義肢装具実習のまとめ</p> <p>【key words】 key words：義肢、装具</p> <p>【授業概要】 代表的な義肢装具のまとめを行う。各回の小テストを用意しておくこと。各回の小テストの振り返りをしておくこと。授業終了時に振り返りのテストを行う。正答率60%未満の者は補習を実施するので必ず参加すること。 【教科書ページ・参考文献】 義肢装具のチェックポイントすべて 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本日のKey wordsについて、事前に調べ学習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習も含め1時間程度の事前学習を欠かさないこと。</p>

受講生に関わる情報 および受講のルール	<p>[受講生に関わる情報]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表や実習、見学は出席が前提となるので、体調管理を怠らないこと。 ・整形外科が基礎となるため履修内容に関連した範囲は必ず学習すること。積極的に義肢、装具などに触れること。 <p>[受講のルール]</p> <ol style="list-style-type: none"> ①シラバスを確認し予習復習を必ず行い積極的に臨むこと ②受講態度や身だしなみが整っていない場合受講を認めない ③授業の流れや雰囲気を乱したり他の受講生の迷惑となる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわ る情報	毎回授業の予習・復習を行うこと。予習状況については授業中に確認し、復習の結果は次の回の授業でミニテストで確認します。
オフィスアワー	火曜日16:30～
評価方法	筆記試験(客観・論述) 50%、小テスト等 50% ※授業への参加姿勢、小テスト等を勘案し、総合的に評価することとする。
教科書	2年次に購入した、「日本整形外科学会・他監修：義肢装具のチェックポイント 医学書院」を用いる
参考書	理学療法テキスト 義肢学 装具学 中山書店
実務者経験/アク ティブラーニング/ リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> ■実務経験のある教員が担当している <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>理学療法士として、中枢神経疾患を専門に6年間、運動器疾患を中心に11年間、介護保険事業関連で2年間の実務経験を生かして講義を行います。現在通所介護施設において理学療法士および施設管理として高齢者の全般的な仕事をしています。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習) <input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育 <input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） <input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） <input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） <input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 <input type="checkbox"/>その他 <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	2単位(30)	必修
担当教員			
浅野貞美			
理学療法治療学	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>【授業の目的】 循環器障害、慢性腎臓病、末梢動脈疾患、糖尿病、がん患者に対する基本的理学療法の評価（情報収集・統合と解釈・問題点抽出）と治療プログラム立案のための知識と実践力を身につける。</p> <p>【到達目標】 ①代表的な心血管疾患の病態と治療・リスク管理が説明できる。 ②腎機能障害の病態と治療・リスク管理が説明できる。 ③糖尿病の病態と治療・リスク管理が説明できる。 ④がんリハビリテーションの概要とリスク管理が説明できる。</p>
授業の概要	循環器障害、慢性腎臓病、末梢動脈疾患、糖尿病、がんについて、病態に関する知識の確認を行うと共に基本的理学療法の意義と方法を学ぶ。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	◎
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	第1回	<p>腎臓の機能と構造</p> <p>【key words】 腎臓、糸球体濾過、RAS</p> <p>【授業概要】 【課題提出】 初回授業までに作成した単語帳を提出すること。 提出方法は別途案内する。</p> <p>【授業概要】 ①腎臓の構造と機能等に関する小テスト実施 ②腎臓の構造と機能を理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 資料・下記教科書参照 ①PTOT入門イラストでわかる内部障害、医歯薬出版株式会社 ②古川順光・編：内部障害に対する運動療法 メジカルビュー社</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 小テスト勉強をすることタイトルの内容について復習すること</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1.5時間</p>
	第2回	<p>慢性腎臓病</p> <p>【key words】 慢性腎臓病、透析療法</p> <p>【授業概要】 ①慢性腎臓病の病態・検査と治療について理解する。 ②透析療法を理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 資料・下記教科書参照 ①PTOT入門イラストでわかる内部障害、医歯薬出版株式会社 ②古川順光・編：内部障害に対する運動療法 メジカルビュー社</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 key wordについて予習すること 【予習復習に必要な想定時間】</p>

第3回	<p>1時間 腎臓リハビリテーション 【key words】 腎臓リハビリ、運動療法 【授業概要】 ①腎機能障害に対するリハビリテーションについて理解する。 ②腎臓リハビリテーションの効果を理解する。 ③腎臓リハビリテーションのリスク管理を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 資料・下記教科書参照 ①PTOT入門イラストでわかる内部障害、医歯薬出版株式会社 ②古川順光・編：内部障害に対する運動療法 メジカルビュー社</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 key wordについて予習すること</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
第4回	<p>1時間 末梢動脈疾患 【key words】 PAD、Fontaine分類、運動療法 【授業概要】 ①CKD、腎臓リハビリテーションに関する小テスト実施 ②PADの病態と治療、評価を理解する。 ③PADに対する運動療法について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 資料・下記教科書参照 ①PTOT入門イラストでわかる内部障害、医歯薬出版株式会社 ②古川順光・編：内部障害に対する運動療法 メジカルビュー社</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 key wordについて予習すること</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
第5回	<p>1時間 虚血性心疾患の理学療法 【key words】 虚血性心疾患、心筋梗塞、狭心症 【授業概要】 虚血性心疾患の病態・検査と治療を理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 資料・下記教科書参照 ①PTOT入門イラストでわかる内部障害、医歯薬出版株式会社 ②古川順光・編：内部障害に対する運動療法 メジカルビュー社</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 key wordについて予習すること</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
第6回	<p>1時間 心不全の理学療法 【key words】 心不全、ポンプ 【授業概要】 心不全（急性・慢性）の病態・検査と治療を理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 資料・下記教科書参照 ①PTOT入門イラストでわかる内部障害、医歯薬出版株式会社 ②古川順光・編：内部障害に対する運動療法 メジカルビュー社</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 key wordについて予習すること</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
第7回	<p>1時間 心臓リハビリテーションの概要 【key words】 心リハ、ガイドライン</p> <p>【授業概要】 ①虚血性心疾患、心不全に関する小テスト実施 ②心臓リハビリテーションについて概説する。 【教科書ページ・参考文献】 ①PTOT入門イラストでわかる内部障害 ②古川順光・編：内部障害に対する運動療法 メジカルビュー社 ③心血管疾患におけるリハビリテーションに関するガイドライン（2012年改訂版）</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 key wordについて予習すること</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>

	第8回	<p>糖尿病</p> <p>【key words】 糖尿病、合併症、低血糖</p> <p>【授業概要】 ①代謝に関する小テスト実施 ②糖尿病の病態と分類について理解する。 ③糖尿病の合併症について理解する。 ④低血糖について理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 資料・下記教科書参照 ①PTOT入門イラストでわかる内部障害, 医歯薬出版株式会社 ②古川順光・編: 内部障害に対する運動療法 メジカルビュー社</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 小テスト勉強をすること key wordについて予習すること</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1.5時間</p>
	第9回	<p>糖尿病の治療と評価</p> <p>【key words】 糖尿病、治療、評価</p> <p>【授業概要】 ①糖尿病の治療について理解する。 ②糖尿病の評価について理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 資料・下記教科書参照 ①PTOT入門イラストでわかる内部障害, 医歯薬出版株式会社 ②古川順光・編: 内部障害に対する運動療法 メジカルビュー社</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 key wordについて予習すること</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
	第10回	<p>糖尿病の理学療法</p> <p>【key words】 糖尿病、運動療法</p> <p>【授業概要】 ①代謝、糖尿病に関する小テスト実施 ②糖尿病患者に対する運動療法について理解する。 ③糖尿病患者に対する運動療法のリスク管理を理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 資料・下記教科書参照 ①PTOT入門イラストでわかる内部障害, 医歯薬出版株式会社 ②古川順光・編: 内部障害に対する運動療法 メジカルビュー社</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 key wordについて予習すること</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
	第11回	<p>がんリハビリテーションの概要</p> <p>【key words】 がん、リハビリ</p> <p>【授業概要】 ①がん患者に対するリハビリテーションについて理解する。 ②がんリハビリテーションにおける理学療法評価を理解する。 ③がんリハビリテーションを行う上でのリスク管理を理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 資料・下記教科書参照 ①PTOT入門イラストでわかる内部障害, 医歯薬出版株式会社 ②古川順光・編: 内部障害に対する運動療法 メジカルビュー社</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 key wordについて予習すること</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1.5時間</p>
	第12回	<p>症例検討準備①</p> <p>【key words】 paper patient、重複障害、グループワーク</p> <p>【授業概要】 paper patientを用いた症例検討をグループ単位で行う。 グループは授業時に発表する。 詳細情報を記載した資料をもとにグループごとに問題点の抽出、治療プログラムの立案、目標設定治療プログラムを立案する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 配布資料、評価学・運動器・内部障害の教科書</p>

	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 資料をもとに評価項目を抽出すること。発表準備</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p> <p>第13回 症例検討準備②</p> <p>【key words】 paper patient、重複障害、グループワーク</p> <p>【授業概要】 paper patientを用いた症例検討をグループ単位で行う。 グループは授業時に発表する。 詳細情報を記載した資料をもとにグループごとに問題点の抽出、治療プログラムの立案、目標設定治療プログラムを立案する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 配布資料、評価学・運動器・内部障害の教科書</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 資料をもとに評価項目を抽出すること。発表準備</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p> <p>第14回 症例検討①発表</p> <p>【key words】 paper patient、重複障害、プレゼンテーション</p> <p>【授業概要】 グループごとに症例に対する、問題点の抽出、治療プログラムの立案、目標設定を発表する。 詳細は第12回の授業で発表する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 配布資料、評価学・運動器・内部障害の教科書</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 自身のグループ・他のグループの発表内容を振り返り、振り返りシートを作成する。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p> <p>第15回 症例検討②発表</p> <p>【key words】 paper patient、重複障害、プレゼンテーション</p> <p>【授業概要】 グループごとに症例に対する、問題点の抽出、治療プログラムの立案、目標設定を発表する。 詳細は第13回の授業で発表する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 配布資料、評価学・運動器・内部障害の教科書</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 自身のグループ・他のグループの発表内容を振り返り、振り返りシートを作成する。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
<p>受講生に関わる情報 および受講のルール</p>	<p>【受講生に関わる情報】 講義への出席は必須であり、無断欠席・遅刻は小テスト成績ならびに課題発表に影響するので注意すること。 実習を行う際は大学指定体操着着用とする。 臨床実習に準じる身だしなみ（爪は短く切る、長い髪は束ねる、アクセサリ・香水・派手な化粧・頭髪の染色など不可）とする。</p> <p>【受講のルール】 ①シラバスを毎回持参し、各回の講義終了時、次回の内容を確認の上、受講準備を十分行う事。 ②受講態度や身だしなみ（前述の通り）等が整っていない場合は受講を認めない。 ③他の受講生の迷惑になる行為（私語、スマートフォン等の使用）は厳禁。指導により態度を改めない場合は受講を認めない。</p>
<p>毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状況の 確認方法</p>	<p>チャトルカード</p>
<p>授業外時間にかかわる 情報</p>	<p>①講義終了後、シラバスで次回内容の確認をし、受講の準備計画を立てる。 ②前回講義内容の復習をし、要点をまとめておくこと。 ③次回内容のkey wordsを中心にわからないことを事前に調べておくこと。</p>
<p>オフィスアワー</p>	<p>火～木曜日16時から17時は随時。それ以外は要予約。</p>
<p>評価方法</p>	<p>筆記試験（客観）50%、課題発表20%、小テスト20%、事前課題10% 総合評価は筆記試験が60%以上であることが前提となる。</p>
<p>教科書</p>	<p>①PTOT入門イラストでわかる内部障害、医歯薬出版株式会社 ②古川順光・編：内部障害に対する運動療法、メジカルビュー社</p>

参考書	適宜講義時に紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> ■実務経験のある教員が担当している <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育 <input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの(図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) <input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの(情報処理、情報整理法等) <input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの(レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) ■情報リテラシー教育は実施していない <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 <input type="checkbox"/>その他 <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	1単位(30)	必修
担当教員			
浅野貞美			
理学療法治療学	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 内部障害に対する基本的理学療法の評価（情報収集・統合と解釈・問題点抽出）と治療プログラム立案のための知識と実践力を身につける。</p> <p>〔到達目標〕 理学療法を実施するうえで必要となる画像所見、検査値、評価項目を理解し、問題点の抽出や治療プログラムの立案に役立てることができる。</p>
授業の概要	内部障害患者に対する理学療法実践において実施することがある、検査・測定・臨床検査データの解釈の理論と方法を学び、演習を通し理解する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	◎
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	第1回	<p>科目オリエンテーション、心電図の読み方①（理論）</p> <p>【key words】 講義の受け方、オリエンテーション、心電図</p> <p>【授業概要】 ①授業概要の説明と導入を行う。 ②心電図（用語の説明、種類など）について理解する。</p> <p>【事前課題】 下記タイトルについてレポートを作成し、授業開始前までに直接教員に提出する。 課題タイトル：心血管疾患、呼吸器疾患、糖尿病、腎機能障害の症例に対し、臨床検査データを読み取る必要性</p> <ul style="list-style-type: none"> レポートは罫線入りのレポート用紙（A4サイズ）を用いて、で2枚以内で作成する。 手書きで作成すること <p>【教科書ページ・参考文献】 配付資料および教科書該当ページを参照</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 ①事前課題の準備をすること ②心臓の解剖学・生理学を復習して受講すること。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 2.5時間</p>
	第2回	<p>心電図の読み方②（理論）</p> <p>【key words】 心電図、刺激伝導系、興奮</p> <p>【授業概要】 ①刺激伝導系を復習する。 ②波形の名称、各波形の正常値を理解する。 ③心電図から心拍数の求め方を理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 配布資料、教科書該当ページを参照</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 タイトルに対する内容を予習すること</p>

<p>第3回</p>	<p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間 心電図の読み方③（理論） 【key words】 心電図、興奮、異常波形</p> <p>【授業概要】 ①心電図波形の読み方を理解する。 ②各波形の異常を理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 配布資料、教科書該当ページを参照</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 タイトルに対する内容を予習すること 国家試験出題レベルの異常波形についてもしらべ学習をしておくことが望ましい。</p>
<p>第4回</p>	<p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間 心電図の読み方④（演習） 【key words】 心電図、異常波形、国試問題</p> <p>【授業概要】 ①異常心電図を理解する。 ②過去の国家試験問題を中心に練習問題を解く。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 配布資料、教科書該当ページを参照</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 タイトルに対する内容を予習すること</p>
<p>第5回</p>	<p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間 胸部X線写真の読影①（理論） 【key words】 胸部X線、画像</p> <p>【授業概要】 ①心電図に関する小テストを実施する。 ②胸部X線写真の読み方を理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 配布資料、教科書該当ページを参照</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 タイトルに対する内容を予習すること</p>
<p>第6回</p>	<p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間 胸部X線写真の読影②（演習） 【key words】 胸部X線、画像</p> <p>【授業概要】 ①胸部X線写真の異常を理解する。 ②過去の国家試験問題を中心に練習問題を解く。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 配布資料、教科書該当ページを参照</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 タイトルに対する内容を予習すること</p>
<p>第7回</p>	<p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間 検査値の読み方（理論） 【key words】 血液検査、尿検査、血液ガス</p> <p>【授業概要】 ①胸部X線に関する小テストを実施する。 ②検査値の知識がなぜ必要なのかを理解する。 ③検査値の基本を理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 配布資料、教科書該当ページを参照</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 タイトルに対する内容を予習すること</p>

第8回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間 検査値の読み方（演習） 【key words】 血液検査、尿検査、血液ガス</p> <p>【授業概要】 ①理学療法を実施するうえで身につけておきたい検査に関する知識を理解する。 ②検査値に関する小テストをグループ単位で実施する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 配布資料、教科書該当ページを参照</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 タイトルに対する内容を予習すること</p>
第9回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間 吸引のしくみ（理論） 【key words】 気管吸引</p> <p>【授業概要】 吸引用のモデルを用い、演習を行うための基本的知識を理解する。 臨床実習に準じる身だしなみとすること。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 配布資料、教科書該当ページを参照</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 タイトルに対する内容を予習すること</p>
第10回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間 吸引のしくみ（演習） 【key words】 気管吸引</p> <p>【授業概要】 吸引用のモデルを用い、演習を行う。 臨床実習に準じる身だしなみとすること。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 配布資料、教科書該当ページを参照</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 タイトルに対する内容を予習すること</p>
第11回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間 血糖測定（理論） 【key words】 血糖測定</p> <p>【授業概要】 血糖測定の意義と理論、方法について基礎的知識の整理をする。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 配布資料、教科書該当ページを参照</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 タイトルに対する内容を予習すること</p>
第12回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間 血糖測定（演習） 【key words】 血糖測定</p> <p>【授業概要】 血糖測定の実際について理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 配布資料、教科書該当ページを参照</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 タイトルに対する内容を予習すること</p>
第13回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間 心肺運動負荷試験（理論） 【key words】</p>

	<p>心肺運動負荷試験、血圧、呼吸ガス</p> <p>【授業概要】 心肺運動負荷試験の目的や方法について理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 配布資料、教科書該当ページを参照</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 タイトルに対する内容を予習すること</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p> <p>第14回 心肺運動負荷試験（演習）</p> <p>【key words】 心肺運動負荷試験、運動処方</p> <p>【授業概要】 心肺運動負荷試験で得られるデータとそのみかたについて演習を通して学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 配布資料、教科書該当ページを参照</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 タイトルに対する内容を予習すること</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p> <p>第15回 人工呼吸器</p> <p>【key words】 人工呼吸器</p> <p>【授業概要】 ①人工呼吸器のグラフィック波形の基本的な見方を理解する。 ②人工呼吸器のしくみについて理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 配布資料、教科書該当ページを参照</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 タイトルに対する内容を予習すること</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
受講生に関わる情報 および受講のルール	<p>〔受講生に関わる情報〕 講義への出席は必須であり、無断欠席・遅刻は小テスト成績ならびに課題発表に影響するので注意すること。 実習を行う際は大学指定体操着着用とする。 臨床実習に準じる身だしなみ（爪は短く切る、長い髪は束ねる、アクセサリー・香水・派手な化粧・頭髪の染色など不可）とする。</p> <p>【受講のルール】 ①シラバスを毎回持参し、各回の講義終了時、次回の内容を確認の上、受講準備を十分行う事。 ②受講態度や身だしなみ（前述の通り）等が整っていない場合は受講を認めない。 ③他の受講生の迷惑になる行為（私語、スマートフォン等の使用）は厳禁。指導により態度を改めない場合は受講を認めない。</p>
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわ る情報	<p>①講義終了後、シラバスで次回内容の確認をし、受講の準備計画を立てる。 ②前回講義内容の復習をし、要点をまとめておくこと。確認テストを実施することがある。 ③次回内容のkey wordsを中心にわからないことを事前に調べておくこと。</p>
オフィスアワー	水曜日16時から17時は随時。それ以外は要予約。
評価方法	筆記試験 60% 小テスト20% 課題20% 総合評価は筆記試験が60%以上であることが前提となる。
教科書	<p>①PTOT入門イラストでわかる内部障害、医歯薬出版株式会社 ②居村茂幸・監修：ビジュアル実践リハ 呼吸・心臓リハビリテーション改訂第2版、羊土社</p>
参考書	適宜講義時に紹介する。
実務者経験/アク ティブラーニング/ リテラシー教育	<p>授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容 運動器の理学療法に加え、呼吸・心臓・腎臓などの内部障害に対する理学療法を実践していた。</p> <p>アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク</p>

- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- アクティブラーニングは実施していない

情報リテラシー教育

- 情報モラルに関する教育
- 課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）
- 情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）
- 情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）
- 情報リテラシー教育は実施していない

ICTの活用

- ICTを活用した双方向型の授業の実施
- e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援
- その他

その他の具体的内容

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	4単位(180)	必修
担当教員			
理学療法専攻教員			
臨床実習	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] 臨床の場で各対象者に応じた評価項目を選択、実施し、得られた結果をもとに問題点の抽出を行えるようになることを目的とする。</p> <p>[到達目標] ①理学療法士を目指す上で必要な基本的態度を身につける。 ②臨床実習施設職員並びに対象者と良好な関係を築くことができる。 ③理学療法の位置づけや役割を説明することができる。 ④関連職種の役割について説明することができる。 ⑤各対象者に応じた評価項目を選択し、実施することができる。 ⑥評価結果をもとに問題点の抽出、ゴールの設定を行うことができる。 ⑦実習内容を記録し、書面や口頭で実習指導者に報告することができる。</p>		
授業の概要	臨床評価実習を医療機関または介護老人保健施設において4週間実施する。これまで学んできた知識・技術を臨床の現場で、臨床実習指導者のもとで実施する。病院・老健という大きな組織の中で理学療法士の位置付け、他部門・他職種とのやり取り、患者様との交流などを学んでいく。クリニカルクラークシップのもとにリハビリテーション業務に実際に関与しながら、その実態を学んでいく。臨床実習指導者から紹介された患者様にインタビュー、評価を実施する。その際は患者様の背景、疾患の知識、初期情報とそこから評価の戦略、結果の統合と解釈、問題点抽出といった思考過程を、指導者の監視とアドバイスのもとに進めていく。		
各学科、専攻、コースにおけるDP			科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			○
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			◎
(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる			◎
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			○
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
授業計画	<p>第1回</p> <p>【key words】 理学療法評価、問題点抽出、ゴール設定、全体像の把握、知識、技能、態度</p> <p>【授業概要】 臨床評価実習を医療機関または介護老人保健施設において4週間実施する。病院・老健という大きな組織の中で理学療法士の位置付け、他部門・他職種とのやり取り、患者様との交流などを学んでいく。クリニカルクラークシップのもとにリハビリテーション業務に実際に関与しながら、その実態を学んでいく。臨床実習指導者から紹介された患者様にインタビュー、評価を実施する。その際は患者様の背景、疾患の知識、初期情報とそこから評価の戦略、結果の統合と解釈、問題点抽出といった思考過程を、指導者の監視とアドバイスのもとに進めていく。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 見学した内容や実施した内容を振り返り、考察と共にまとめること。 翌日実施する予定の検査測定項目を調べ、実施できるよう準備すること。 【予習復習に必要な想定時間】 平日は60分を目安とし、休日については過度な負担とならないよう自己研鑽すること。</p>		
受講生に関わる情報および受講のルール	<ul style="list-style-type: none"> ・医療従事者として必要な態度や身だしなみを整えたいうで実習に臨むこと。 ・時間の厳守と、報告・相談・連絡を怠らないこと。 ・体調管理に留意し、実習に対して積極的に行動すること。 ・臨床実習の手引きを熟読すること。 		
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	学生からの実習報告および実習地訪問等を活用		
授業外時間にかかわる情報	臨床実習の手引きを熟読すること。 臨床における経験を通して、知識や技能の定着を図るために自主的に学ぶこと。		
オフィスアワー	担当教員のオフィスアワーに準ずる。		

評価方法	出席（出席時間数要件：4/5以上） 臨床実習評価の結果60%、デイリーノート・レジユメ20%、実習に関する態度等20%
教科書	適宜紹介する。
参考書	適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> ■実務経験のある教員が担当している <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>総合病院、及び介護老人保健施設や発達障害領域の施設で勤務し、機能訓練を行っていた。症例を評価し、問題点を抽出後、適切な治療プログラムを立案・実施、再評価することが求められる。臨床における知識、技能だけでなく求められる資質についても指導する。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート □グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学习支援 □その他 <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4年次	2単位(30)	必修
担当教員			
柴ひとみ・村山明彦			
臨床実習	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] 理学療法評価からプログラム実施までの基本的な進め方を学び、実際の場面で実施できるようになることを目的とする。</p> <p>[到達目標] ①臨床で必要とされる「知識」「技能」「態度」を身に付け、実践することができる。 ②実習後、レジユメを作成し、発表することができる。</p>		
授業の概要	<p>これまで学んできたことを整理し、臨床総合実習に向けた準備とする。実習後は担当した症例について整理し、レジユメを作成した後に発表・報告会を行い、理学療法の評価から効果判定に対する理解を深めることを目的とする。また、実際の臨床技能の習得に着目して、OSCEを実施し、確実に臨床技能が習得できるように取り組んでいく。</p>		
各学科、専攻、コースにおけるDP			科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			○
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			
(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる			◎
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション/臨床実習の手引き 【key words】 臨床実習、評価、対人関係技法、医療面接、インフォームドコンセプト 【授業概要】 手引きをもとに総合臨床実習の基本的な流れを説明する。学生としての謙虚な姿勢を忘れず、意欲的に学ぶ姿勢が重要であることを理解する。医療面接の要点やインフォームドコンセプトの重要性を再確認する。 【教科書ページ・参考文献】 臨床実習の手引きを配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 3年次の臨床実習の手引きを持参すること 予習：実習の手引き（3年次）を熟読しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p> <p>第2回 臨床実習の進めかた 【key words】 臨床実習、理学療法評価、ゴール設定、効果判定 【授業概要】 対象者との対面、疾患に関する事前学習、評価、統合と解釈、問題点の超出、目標設定、治療プログラムの立案および実施、経過、効果判定の流れについて理解する。また、クリニカルクラークシップについて理解する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：実習の手引きを熟読しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p> <p>第3回 臨床実習の進めかた/個人情報保護 【key words】 臨床実習、個人情報保護 【授業概要】 理学療法を行ううえで、対象者の個人情報を保護する目的やその方法について再確認をする。また、実習中の携帯電話の使用、SNSの取り扱いについて再確認する。 【教科書ページ・参考文献】</p>		

第4回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：実習の手引きを熟読しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分 臨床実習における提出物について① 【key words】 臨床実習、デイリーノート、レジюме、報告 【授業概要】 臨床実習指導者や患者、利用者との良好な関係を築くために重要な事を認識する。また、デイリーノートやレジюмеの書き方、適切な報告の方法を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】</p>
第5回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：実習の手引きを熟読しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分 臨床実習における提出物について② 【key words】 臨床実習、デイリーノート、レジюме、報告 【授業概要】 臨床実習指導者や患者、利用者との良好な関係を築くために重要な事を認識する。また、デイリーノートやレポート、レジюмеの書き方、適切な報告の方法を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】</p>
第6回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：臨床実習Ⅰ期目標シートの提出、臨床実習Ⅱ期個人プロフィール票・誓約書の提出 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分 レジюме発表① 【key words】 臨床実習、理学療法評価、ゴール設定、効果判定、全体像の把握 【授業概要】 実習において担当したケースのレジюмеを作成し、発表を行う。発表後、各疾患やケースについての理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】</p>
第7回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：発表の準備をしておくこと 復習：各ケースの発表の指摘事項をまとめ、調べておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分 レジюме発表② 【key words】 臨床実習、理学療法評価、ゴール設定、効果判定、全体像の把握 【授業概要】 実習において担当したケースのレジюмеを作成し、発表を行う。発表後、各疾患やケースについての理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】</p>
第8回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：発表の準備をしておくこと 復習：各ケースの発表の指摘事項をまとめ、調べておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分 レジюме発表③ 【key words】 臨床実習、理学療法評価、ゴール設定、効果判定、全体像の把握 【授業概要】 実習において担当したケースのレジюмеを作成し、発表を行う。発表後、各疾患やケースについての理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】</p>
第9回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：発表の準備をしておくこと 復習：各ケースの発表の指摘事項をまとめ、調べておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分 レジюме発表④ 【key words】 臨床実習、理学療法評価、ゴール設定、効果判定、全体像の把握 【授業概要】 実習において担当したケースのレジюмеを作成し、発表を行う。発表後、各疾患やケースについての理解を深める。</p>

第10回	<p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：発表の準備をしておくこと 復習：各ケースの発表の指摘事項をまとめ、調べておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p> <p>レジメ発表⑤</p> <p>【key words】 臨床実習、理学療法評価、ゴール設定、効果判定、全体像の把握</p> <p>【授業概要】 実習において担当したケースのレジメを作成し、発表を行う。発表後、各疾患やケースについての理解を深める。</p>
第11回	<p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：発表の準備をしておくこと 復習：各ケースの発表の指摘事項をまとめ、調べておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p> <p>レジメ発表⑥</p> <p>【key words】 臨床実習、理学療法評価、ゴール設定、効果判定、全体像の把握</p> <p>【授業概要】 実習において担当したケースのレジメを作成し、発表を行う。発表後、各疾患やケースについての理解を深める。</p>
第12回	<p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：発表の準備をしておくこと 復習：各ケースの発表の指摘事項をまとめ、調べておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p> <p>レジメ発表⑦</p> <p>【key words】 臨床実習、理学療法評価、ゴール設定、効果判定、全体像の把握</p> <p>【授業概要】 実習において担当したケースのレジメを作成し、発表を行う。発表後、各疾患やケースについての理解を深める。</p>
第13回	<p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：発表の準備をしておくこと 復習：各ケースの発表の指摘事項をまとめ、調べておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p> <p>レジメ発表⑧</p> <p>【key words】 臨床実習、理学療法評価、ゴール設定、効果判定、全体像の把握</p> <p>【授業概要】 実習において担当したケースのレジメを作成し、発表を行う。発表後、各疾患やケースについての理解を深める。</p>
第14回	<p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：発表の準備をしておくこと 復習：各ケースの発表の指摘事項をまとめ、調べておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p> <p>レジメ発表⑨</p> <p>【key words】 臨床実習、理学療法評価、ゴール設定、効果判定、全体像の把握</p> <p>【授業概要】 実習において担当したケースのレジメを作成し、発表を行う。発表後、各疾患やケースについての理解を深める。</p>
	<p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：発表の準備をしておくこと 復習：各ケースの発表の指摘事項をまとめ、調べておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>

第15回	<p>ケースの振り返り</p> <p>【key words】 臨床実習、理学療法評価、ゴール設定、効果判定、全体像の把握</p> <p>【授業概要】 レジメ発表をもとに、理学療法の評価から効果判定に対する理解を深めることを目的とする。問題点の把握、効果的な理学療法について再検討する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：振り返りシート（Ⅰ期）を提出すること 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p>
第16回	<p>目標設定</p> <p>【key words】 臨床実習、理学療法、目標</p> <p>【授業概要】 実習前に立案した目標を基に、達成できた点、達成できなかった点をまとめる。そして、次期の臨床実習に向けて準備すべきことを挙げる。目標シートを作成し、実習担当教員の指導を受ける</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：目標シート（Ⅱ期）を提出すること 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p>
第17回	<p>レジメ発表⑩</p> <p>【key words】 臨床実習、理学療法評価、ゴール設定、効果判定、全体像の把握</p> <p>【授業概要】 実習において担当したケースのレジメを作成し、発表を行う。発表後、各疾患やケースについての理解を深める。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：発表の準備をしておくこと 復習：各ケースの発表の指摘事項をまとめ、調べておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>
第18回	<p>レジメ発表⑪</p> <p>【key words】 臨床実習、理学療法評価、ゴール設定、効果判定、全体像の把握</p> <p>【授業概要】 実習において担当したケースのレジメを作成し、発表を行う。発表後、各疾患やケースについての理解を深める。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：発表の準備をしておくこと 復習：各ケースの発表の指摘事項をまとめ、調べておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>
第19回	<p>レジメ発表⑫</p> <p>【key words】 臨床実習、理学療法評価、ゴール設定、効果判定、全体像の把握</p> <p>【授業概要】 実習において担当したケースのレジメを作成し、発表を行う。発表後、各疾患やケースについての理解を深める。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：発表の準備をしておくこと 復習：各ケースの発表の指摘事項をまとめ、調べておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>
第20回	<p>レジメ発表⑬</p> <p>【key words】 臨床実習、理学療法評価、ゴール設定、効果判定、全体像の把握</p> <p>【授業概要】 実習において担当したケースのレジメを作成し、発表を行う。発表後、各疾患やケースについての理解を深める。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p>

第21回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：発表の準備をしておくこと 復習：各ケースの発表の指摘事項をまとめ、調べておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分 レジュメ発表⑭</p> <p>【key words】 臨床実習、理学療法評価、ゴール設定、効果判定、全体像の把握</p> <p>【授業概要】 実習において担当したケースのレジュメを作成し、発表を行う。発表後、各疾患やケースについての理解を深める。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p>
第22回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：発表の準備をしておくこと 復習：各ケースの発表の指摘事項をまとめ、調べておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分 レジュメ発表⑮</p> <p>【key words】 臨床実習、理学療法評価、ゴール設定、効果判定、全体像の把握</p> <p>【授業概要】 実習において担当したケースのレジュメを作成し、発表を行う。発表後、各疾患やケースについての理解を深める。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p>
第23回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：発表の準備をしておくこと 復習：各ケースの発表の指摘事項をまとめ、調べておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分 レジュメ発表⑯</p> <p>【key words】 臨床実習、理学療法評価、ゴール設定、効果判定、全体像の把握</p> <p>【授業概要】 実習において担当したケースのレジュメを作成し、発表を行う。発表後、各疾患やケースについての理解を深める。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p>
第24回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：発表の準備をしておくこと 復習：各ケースの発表の指摘事項をまとめ、調べておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分 レジュメ発表⑰</p> <p>【key words】 臨床実習、理学療法評価、ゴール設定、効果判定、全体像の把握</p> <p>【授業概要】 実習において担当したケースのレジュメを作成し、発表を行う。発表後、各疾患やケースについての理解を深める。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p>
第25回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：発表の準備をしておくこと 復習：各ケースの発表の指摘事項をまとめ、調べておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分 ケースの振り返り</p> <p>【key words】 臨床実習、理学療法評価、ゴール設定、効果判定、全体像の把握</p> <p>【授業概要】 レジュメ発表をもとに、理学療法の評価から効果判定に対する理解を深めることを目的とする。問題点の把握、効果的な理学療法について再検討する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p>
第26回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習：発表時の質問等に対する内容をまとめたうえで、発表担当教員のフィードバックを受けること 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分 目標設定</p> <p>【key words】 臨床実習、理学療法、全体像の把握</p> <p>【授業概要】</p>

	<p>実習前に立案した目標を基に、達成できた点、達成できなかった点をまとめる。そして、臨床に向けて準備すべきことを挙げる。目標振り返りシートを作成し、実習担当教員の指導を受ける</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：目標振り返りシートの提出（Ⅱ期） 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p> <p>第27回 OSCEの準備 【key words】 臨床技能、OSCE 【授業概要】 OSCE (Objective Structured Clinical Examination =客観的臨床能力試験) を行い、判断力・技術・マナーといった基本的な臨床技術を評価し、実際の臨床の場で必要とされる臨床技術を習得する。これに向けて準備を進めること。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：OSCEの実施に対する準備をすること 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分</p> <p>第28回 OSCEの実施 【key words】 臨床技能、OSCE 【授業概要】 OSCE (Objective Structured Clinical Examination =客観的臨床能力試験) を行い、判断力・技術・マナーといった基本的な臨床技術を評価し、実際の臨床の場で必要とされる臨床技術を習得する。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：OSCEの場面を振り返り、実施したこと、良かった点、改善すべき点についてまとめること 【予習復習に必要な想定時間】 90～120分</p> <p>第29回 OSCEの実施 【key words】 臨床技能、OSCE 【授業概要】 OSCE (Objective Structured Clinical Examination =客観的臨床能力試験) を行い、判断力・技術・マナーといった基本的な臨床技術を評価し、実際の臨床の場で必要とされる臨床技術を習得する。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：OSCEの場面を振り返り、実施したこと、良かった点、改善すべき点についてまとめること 【予習復習に必要な想定時間】 90～120分</p> <p>第30回 OSCEの振り返り 【key words】 臨床技能、OSCE 【授業概要】 OSCE (Objective Structured Clinical Examination =客観的臨床能力試験) を行い、判断力・技術・マナーといった基本的な臨床技術を評価し、実際の臨床の場で必要とされる臨床技術を習得する。実施したOSCEについて、良かった点、改善すべき点についてまとめたものを基にフィードバックを受けること 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習：フィードバック内容をまとめておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<p>[受講生に関わる情報]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4年次総合臨床実習対象者が、受講の条件となる。 ・実技を行うときはケーシー着用を着用し、医療福祉従事者としての身だしなみを整えること。 <p>[受講のルール]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療従事者として必要な態度や身だしなみを整えたいうえで受講すること。準備不足の学生は授業を受けられないこともある。 ・OSCEの実施場面は、本人の携帯電話を使用して撮影すること。その際、動画の加工、SNS上での拡散をしてはならない。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	チャトルカード方式
授業外時間にかかわる情報	臨床実習の手引きを熟読すること。臨床技能を高めるために、積極的に授業時間外において実技練習を重ねること。また、ケース発表では事前に資料を熟読し、臨むこと。
オフィスアワー	各担当教員のオフィスアワーに準ずる
評価方法	レジュメ発表50%、OSCE50%
教科書	理学療法臨床実習サポートブック 医学書院

参考書	授業内で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> ■実務経験のある教員が担当している <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>総合病院、及び介護老人保健施設や発達障害領域の施設で勤務し、機能訓練を行っていた。症例を評価し、問題点を抽出後、適切な治療プログラムを立案・実施、再評価することが求められる。臨床における知識、技能だけでなく求められる資質についても指導する。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの(図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) ■情報を分析評価し整理するもの(情報処理、情報整理法等) ■情報のアウトプットに関するもの(レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) <input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 <input type="checkbox"/>その他 <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4年次	2単位(60)	必修
担当教員			
理学療法専攻教員			
卒業研究	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	本講義では4年間の講義や実習で学んだ知識の集大成として、1年間をかけ自ら研究を計画・実践し、論文の作成・発表を行う。また臨床実習で体験した症例などから観察された症状や障害について様々なデータを収集し、その特徴を明らかにし、治療モデルを見つけ出すことができる。
授業の概要	研究テーマを見つけ、調査・資料収集を行いながら、担当教員の指導を受けながら計画的に研究を進める、その手順について学ぶ。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	◎
(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	○
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	第1回	科目オリエンテーション 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第2回	研究計画の立案① 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第3回	研究計画の立案② 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第4回	調査(調査及び資料の収集)① 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第5回	調査(調査及び資料の収集)② 【key words】

	<p>第6回</p> <p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>研究計画書作成①</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>研究計画書作成②</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>倫理的配慮について①（倫理審査書類の作成）</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>倫理的配慮について②（倫理審査書類の作成）</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>倫理的配慮について③（倫理審査書類の作成）</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>各自の研究テーマに沿った調査・実践などの研究活動（個別指導）①</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>各自の研究テーマに沿った調査・実践などの研究活動（個別指導）②</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>各自の研究テーマに沿った調査・実践などの研究活動（個別指導）③</p> <p>【key words】</p>
--	--

	<p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
第14回	<p>各自の研究テーマに沿った調査・実践などの研究活動（個別指導）④</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
第15回	<p>各自の研究テーマに沿った調査・実践などの研究活動（個別指導）⑤</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
第16回	<p>各自の研究テーマに沿った調査・実践などの研究活動（個別指導）⑥</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
第17回	<p>各自の研究テーマに沿った調査・実践などの研究活動（個別指導）⑦</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
第18回	<p>各自の研究テーマに沿った調査・実践などの研究活動（個別指導）⑧</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
第19回	<p>各自の研究テーマに沿った調査・実践などの研究活動（個別指導）⑨</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
第20回	<p>各自の研究テーマに沿った調査・実践などの研究活動（個別指導）⑩</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
第21回	<p>卒業研究発表会の準備①</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】</p>

	<p>第22回</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>卒業研究発表会の準備②</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>第23回</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>卒業研究発表会の準備③</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>第24回</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>卒業研究発表会①</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>第25回</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>卒業研究発表会②</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>第26回</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>卒業研究発表会③</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>第27回</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>卒業研究論文の最終調整①</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>第28回</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>卒業研究論文の最終調整②</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>第29回</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>卒業研究論文の最終調整③</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】</p>
--	---

	<p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第30回 卒業研究論文の最終調整④</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<p>・授業中の居眠りや、他の学生に迷惑となるような行為は厳に慎むこと。たび重なる注意を与えても改善が見られない場合は、退室してもらう場合がある。</p> <p>・この科目は、自ら行動を起こすことを求められる。各担当教員と綿密に連絡を取り合い、計画的に研究を進めること。</p>
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	-
授業外時間にかかわる情報	-
オフィスアワー	自ら担当教員と連絡を取り合いながら、個別に設定すること。
評価方法	提出論文、取り組み、発表状況を総合的に勘案する。目安として研究論文（50%）及び研究発表（50%）
教科書	-
参考書	-
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <p>■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>理学療法士として、中枢神経疾患を専門に6年間、運動器疾患を中心に11年間、介護保険事業関連で2年間の実務経験を生かして講義を行います。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <p><input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習)</p> <p>■ディスカッション・ディベート</p> <p>■グループワーク</p> <p>■プレゼンテーション</p> <p>■実習、フィールドワーク</p> <p><input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</p> <p>情報リテラシー教育</p> <p>■情報モラルに関する教育</p> <p>■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）</p> <p>■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）</p> <p>■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）</p> <p><input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない</p> <p>ICTの活用</p> <p>■ICTを活用した双方向型の授業の実施</p> <p>■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援</p> <p><input type="checkbox"/>その他</p> <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年次	1単位(30)	必修
担当教員			
理学療法専攻教員			
基礎理学療法学	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] 臨床においては、評価結果をもとに個々の症例の問題点を改善していくことが必須となる。より良い効果が得られるような治療の選択および実施ができるよう知識・実技を確実に身につけることを目的とする。</p> <p>[到達目標] ①各疾患の特徴が説明できる。 ②問題点を改善するために必要な治療を選択することができる。 ③実施した治療に対する効果判定を行うために必要な検査項目を列挙し、検査の意義を説明できる。</p>
授業の概要	模擬症例について評価結果を整理し、問題点を改善するための治療プログラムを立案する。選択した治療プログラムの根拠を説明できるようにし、効果判定に関わる考え方を学ぶ。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	◎
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	<p>第1回 初期評価からゴール設定まで 【key words】 理学療法、初期評価、問題点抽出、ゴール設定</p> <p>【授業概要】 理学療法を行う中で、評価結果をもとにして症例の問題点を改善するために必要な治療プログラムを立案することが求められる。ゴール設定までの過程を整理する。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 準備：評価実習で評価をさせて頂いた症例に関する資料を持参すること 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p> <p>第2回 初期評価からゴール設定まで【病期間連携】 【key words】 理学療法、初期評価、問題点抽出、ゴール設定、急性期、回復期、生活期</p> <p>【授業概要】 理学療法を行う中で、評価結果をもとにして症例の問題点を改善するために必要な治療プログラムを立案することが求められる。ゴール設定までの過程を病期ごとに整理する。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：急性期・回復期・生活期におけるゴール設定を調べておく 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p> <p>第3回 治療プログラムの立案・実施～経過、再評価 【key words】 理学療法、治療プログラム、経過、再評価、全体像の把握</p> <p>【授業概要】 理学療法を行う中で、評価結果をもとにして症例の問題点を改善するために必要な治療プログラムを立案することが求められる。治療プログラムの実施、経過、再評価の流れを理解する。 【教科書ページ・参考文献】</p>
------	--

第4回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：全体像を把握するために必要な生活の視点について調べておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分 症例検討①情報収集、初期評価 【key words】 理学療法、情報収集、初期評価</p> <p>【授業概要】 模擬症例について情報収集から初期評価時の検査測定項目の抽出までを考え、理解する。 【教科書ページ・参考文献】</p>
第5回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：提示された模擬症例の情報を項目ごとに整理し、検査測定項目を挙げてくること 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分 症例検討①問題点抽出、ゴール設定 【key words】 理学療法、問題点抽出、ゴール設定 【授業概要】 模擬症例について得られた検査測定項目の結果を整理し、関連図を作成する。ICF分類を用い、問題点を整理し、ゴール設定を考える術を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】</p>
第6回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：提示された検査測定結果を基に関連図を作成すること 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分 症例検討①治療プログラムの立案、経過 【key words】 理学療法、治療プログラム、経過</p> <p>【授業概要】 模擬症例について問題点を改善できるような治療プログラムを理解する。また、再評価を行う際の検査測定項目を説明できるようにする。 【教科書ページ・参考文献】</p>
第7回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：適切な治療プログラムを立案できるよう根拠となる文献を調べて持参すること 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分 症例検討①再評価のまとめ 【key words】 理学療法、再評価</p> <p>【授業概要】 模擬症例について再評価の結果を基に関連図を作成する。また、ICF分類を用いて問題点を説明できるようにする。 【教科書ページ・参考文献】</p>
第8回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：再評価時の結果を基に関連図を作成する 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分 症例検討①全体像の把握 【key words】 理学療法、効果判定、全体像の把握</p> <p>【授業概要】 模擬症例について再評価の結果から、治療プログラムの効果判定について理解する。また、症例の全体像について説明することができる。 【教科書ページ・参考文献】</p>
第9回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：模擬症例の全体像について10項目以上列举してくること 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分 症例検討②情報収集、初期評価 【key words】 理学療法、情報収集、初期評価</p> <p>【授業概要】 模擬症例について情報収集から初期評価時の検査測定項目の抽出までを考え、理解する。 【教科書ページ・参考文献】</p>
第10回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：提示された模擬症例の情報を項目ごとに整理し、検査測定項目を挙げてくること 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分 症例検討②問題点抽出、ゴール設定 【key words】</p>

	<p>【授業概要】 模擬症例について得られた検査測定項目の結果を整理し、関連図を作成する。ICF分類を用い、問題点を整理し、ゴール設定を考える術を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：提示された検査測定結果を基に関連図を作成すること 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p> <p>第11回 症例検討②治療プログラムの立案、経過 【key words】 理学療法、治療プログラム、経過</p> <p>【授業概要】 模擬症例について問題点を改善できるような治療プログラムを理解する。また、再評価を行う際の検査測定項目を説明できるようにする。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：適切な治療プログラムを立案できるよう根拠となる文献を調べて持参すること 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分</p> <p>第12回 症例検討②再評価のまとめ 【key words】 理学療法、再評価</p> <p>【授業概要】 模擬症例について再評価の結果を基に関連図を作成する。また、ICF分類を用いて問題点を説明できるようにする。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：再評価時の結果を基に関連図を作成する 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分</p> <p>第13回 症例検討②全体像の把握 【key words】 理学療法、効果判定、全体像の把握</p> <p>【授業概要】 模擬症例について再評価の結果から、治療プログラムの効果判定について理解する。また、症例の全体像について説明することができる。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：模擬症例の全体像について10項目以上列挙してくること 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分</p> <p>第14回 症例検討-発表①- 【key words】 症例検討、理学療法、評価、治療プログラム、全体像の把握</p> <p>【授業概要】 模擬症例について、以下の内容を含めたプレゼンテーション（発表10分）を行う ・症例紹介 ・評価結果から問題点抽出まで ・目標設定 ・治療プログラム ・再評価 ・全体像の把握 【一連の過程が明確となるように発表すること】 レジュメを基に発表すること 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：レジュメ（二段組、A4用紙2枚）提出のこと 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分</p> <p>第15回 症例検討-発表②- 【key words】 症例検討、理学療法、評価、治療プログラム、全体像の把握</p> <p>【授業概要】 模擬症例について、以下の内容を含めたプレゼンテーション（発表10分）を行う ・症例紹介 ・評価結果から問題点抽出まで ・目標設定 ・治療プログラム ・再評価 ・全体像の把握 【一連の過程が明確となるように発表すること】 レジュメを基に発表すること 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：レジュメ（二段組、A4用紙2枚）提出のこと 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分</p>
受講生に関わる情報 および受講のルール	【受講生に関わる情報】 ・予習復習を必ず行い、授業中は自ら積極的に参加し、考え、発言すること。

	<p>・実技を行うときはケーシーを着用し、医療従事者としての身だしなみを整えること。 [受講のルール] ・医療従事者として必要な態度や身だしなみを整えたいうえで受講すること。準備不足の学生は授業を受けられないこともある。</p>
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード方式
授業外時間にかかわる情報	与えられた課題は、授業時間中では達成できない。授業時間外での予習は必須である。また確実に知識を身につけるためには、復習も必須となるので「自ら学び、学び続ける」努力を怠らないこと。
オフィスアワー	各担当教員のオフィスアワーに準ずる
評価方法	発表100%
教科書	授業内で適宜紹介する。
参考書	授業内で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> ■実務経験のある教員が担当している <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>総合病院、及び介護老人保健施設で勤務し、機能訓練を行っていた。症例を評価し、問題点を抽出後、適切な治療プログラムを立案・実施、再評価することが求められる。臨床における知識、技能だけでなく求められる資質についても指導する。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの(図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) ■情報を分析評価し整理するもの(情報処理、情報整理法等) ■情報のアウトプットに関するもの(レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年次	8単位(360)	必修
担当教員			
理学療法専攻教員			
臨床実習	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的]</p> <p>臨床の場で各対象者に応じた評価を実施し、得られた結果をもとに問題点の抽出、プログラムの実施、効果判定を行えるようになることを目的とする。</p> <p>①各対象者に応じた評価項目を選択し、実施することができる。</p> <p>②評価結果をもとに問題点の抽出、ゴールの設定、理学療法プログラムの立案を行うことができる。</p> <p>③理学療法再評価を実施し、理学療法の効果判定を考察することができる。</p> <p>④実習内容を記録し、書面や口頭で実習指導者に報告することができる。</p>		
授業の概要	<p>総合臨床実習を医療機関または介護老人保健施設において8週間実施する。これまで学んできた知識・技術を臨床の現場で、臨床実習指導者のもとで実施する。病院・老健という大きな組織の中で理学療法士の位置付け、他部門・他職種とのやり取り、患者様との交流などを学んでいく。臨床実習指導者から紹介された患者様にインタビュー、評価、プログラムを実施する。その際は患者様の背景、疾患の知識、初期情報とそこからの評価の戦略、結果の統合と解釈、問題点抽出、ゴールの設定、プログラム立案・実施といった思考過程を、指導者の監視とアドバイスをもとに進めていく。</p>		
各学科、専攻、コースにおけるDP			科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			◎
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			◎
(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる			◎
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			◎
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			○
授業計画	<p>第1回</p> <p>【key words】 理学療法評価、ゴール設定、治療プログラム、全体像の把握、再評価、知識、技能、態度</p> <p>【授業概要】 総合臨床実習を医療機関等において8週間実施する。これまで学んできた知識・技術を臨床の現場で、臨床実習指導者のもとで実施する。病院等大きな組織の中で理学療法士の位置付け、他部門・他職種とのやり取り、患者様との交流などを学んでいく。臨床実習指導者から紹介された患者様にインタビュー、評価、プログラムを実施する。その際は患者様の背景、疾患の知識、初期情報とそこからの評価の戦略、結果の統合と解釈、問題点抽出、ゴールの設定、プログラム立案・実施といった思考過程を、指導者の監視とアドバイスをもとに進めていく。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 見学した内容や実施した内容を振り返り、考察と共にまとめること。 翌日行う予定の検査測定項目や治療プログラムについて調べ、実施できるよう準備すること。 【予習復習に必要な想定時間】 平日は60分を目安とし、休日については過度な負担とならないよう自己研鑽すること。</p>		
受講生に関する情報および受講のルール	<ul style="list-style-type: none"> ・医療従事者として必要な態度や身だしなみを整えたくて実習に臨むこと。 ・時間の厳守と、報告・相談・連絡を怠らないこと。 ・体調管理に留意し、実習に対して積極的に行動すること。 		
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	学生からの実習報告や実習地訪問等を活用		
授業外時間にかかわる情報	臨床実習の手引きを熟読すること。 臨床における経験を通して、知識や技術の定着を図るよう自主的に学ぶこと。		
オフィスアワー	各担当教員のオフィスアワーに準ずる。		
評価方法	出席(出席時間数要件:4/5以上) 臨床実習評価の結果60%、ディリーノート・レジュメ20%、実習に関する態度等20%		
教科書	適宜紹介する。		
参考書	適宜紹介する。		
実務者経験/アク			

<p>ティブラーニング/ リテラシー教育</p>	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> ■実務経験のある教員が担当している <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>総合病院、及び介護老人保健施設や発達障害領域の施設で勤務し、機能訓練を行っていた。症例を評価し、問題点を抽出後、適切な治療プログラムを立案・実施、再評価することが求められる。臨床における知識、技能だけでなく求められる資質についても指導する。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート □グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの(図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) ■情報を分析評価し整理するもの(情報処理、情報整理法等) ■情報のアウトプットに関するもの(レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 <p>その他の具体的内容</p>
------------------------------	--

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4年次	8単位(360)	必修
担当教員			
理学療法専攻教員			
臨床実習	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的]</p> <p>臨床の場で各対象者に応じた評価を実施し、得られた結果をもとに問題点の抽出、プログラムの実施、効果判定を行えるようになることを目的とする。</p> <p>①各対象者に応じた評価項目を選択し、実施することができる。</p> <p>②評価結果をもとに問題点の抽出、ゴールの設定、理学療法プログラムの立案を行うことができる。</p> <p>③理学療法再評価を実施し、理学療法の効果判定を考察することができる。</p> <p>④実習内容を記録し、書面や口頭で実習指導者に報告することができる。</p>
授業の概要	<p>総合臨床実習を医療機関または介護老人保健施設において8週間実施する。これまで学んできた知識・技術を臨床の現場で、臨床実習指導者のもとで実施する。病院・老健という大きな組織の中で理学療法士の位置付け、他部門・他職種とのやり取り、患者様との交流などを学んでいく。臨床実習指導者から紹介された患者様にインタビュー、評価、プログラムを実施する。その際は患者様の背景、疾患の知識、初期情報とそこからの評価の戦略、結果の統合と解釈、問題点抽出、ゴールの設定、プログラム立案・実施といった思考過程を、指導者の監視とアドバイスをもとに進めていく。</p>

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	◎
(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	◎
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	◎
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	○

授業計画	<p>第1回</p> <p>【key words】 理学療法評価、ゴール設定、プログラム実施、再評価、全体像の把握、知識、技能、態度</p> <p>【授業概要】 総合臨床実習を医療機関等において8週間実施する。これまで学んできた知識・技術を臨床の現場で、臨床実習指導者のもとで実施する。病院等大きな組織の中で理学療法士の位置付け、他部門・他職種とのやり取り、患者様との交流などを学んでいく。臨床実習指導者から紹介された患者様にインタビュー、評価、プログラムを実施する。その際は患者様の背景、疾患の知識、初期情報とそこからの評価の戦略、結果の統合と解釈、問題点抽出、ゴールの設定、プログラム立案・実施といった思考過程を、指導者の監視とアドバイスをもとに進めていく。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 見学した内容や実施した内容を振り返り、考察を含めてまとめること。 予習については、翌日行う検査測定項目や治療内容を調べ、実施できるように準備すること。 【予習復習に必要な想定時間】 平日は60分を目安とし、休日については過度な負担とならないよう自己研鑽すること。</p>
受講生に関する情報および受講のルール	<ul style="list-style-type: none"> ・医療従事者として必要な態度や身だしなみを整えたくて実習に臨むこと。 ・時間の厳守と、報告・相談・連絡を怠らないこと。 ・体調管理に留意し、実習に対して積極的に行動すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	学生からの実習報告や実習地訪問等を活用
授業外時間にかかわる情報	<p>臨床実習の手引きを熟読すること。</p> <p>臨床における経験を通して、知識や技術の定着を図るように自主的に学ぶこと。</p>
オフィスアワー	各担当教員のオフィスアワーに準ずる。
評価方法	<p>出席(出席時間数要件：4/5以上)</p> <p>臨床実習評価の結果60%、デイレクター・レジユメ20%、実習に関する態度等20%</p>
教科書	適宜紹介する。
参考書	適宜紹介する。
実務者経験/アク	

<p>ティブラーニング/ リテラシー教育</p>	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> ■実務経験のある教員が担当している <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>総合病院、及び介護老人保健施設や発達障害領域の施設で勤務し、機能訓練を行っていた。症例を評価し、問題点を抽出後、適切な治療プログラムを立案・実施、再評価することが求められる。臨床における知識、技能だけでなく求められる資質についても指導する。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート □グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 <p>その他の具体的内容</p>
------------------------------	--

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年次	2単位(30)	選択
担当教員			
櫻井秀雄			
基礎科目	初級障がい者スポーツ指導員指 定科目		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>【授業の目的】 障がい者が豊かな生活を送るために、障がい者スポーツを理解して支援・援助できる知識・技能を習得することを目的とする。</p> <p>【到達目標】 ①障がい者スポーツの意味、特性、支援・援助方法を理解できる。 ②障がい区分に応じた基本的な支援・援助技法を身に身につけることができる。 ③障がい者スポーツ指導員としての資質を身につけ、スポーツを生活の中で親しめることができる。</p>
授業の概要	<p>【求められる指導者像】 ①障がいや障がい者スポーツ、安全管理等に関する基礎的な知識や障がい者に対応するための基本的な技術を持ち、地域に住む障がい者を運動やスポーツへと導く。 ②プレーヤーに運動やスポーツの楽しさ、基本的な運動の仕方やその意義や価値を伝える。 ③地域の大会や行事に積極的に参加し、指導員組織の事業にも積極的に参加し、地域の障がい者スポーツ振興を支える。 ④中級障がい者スポーツ指導員資格取得を目指すなど自己研鑽を積むようにする。</p>
各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	○
(理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	△
(理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	
(作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	○
(作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	△
(作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	
授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション：スポーツのインテグリティと指導者に求められる資質</p> <p>【key words】 【key words】 スポーツ インテグリティ 資質・能力 【授業概要】 【授業概要】 スポーツにおけるインテグリティを理解し、プレイヤーズファーストの視点やプレイヤーとともに学び続ける姿勢について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 障がい者スポーツ教本(初級・中級) p2～ 日本障がい者スポーツ協会編 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 障がい者スポーツの意義・理念について学んでおく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p> <p>第2回 障がい者スポーツの意義と理念</p> <p>【key words】 【key words】 スポーツ 障がい者 意義 理念 【授業概要】 【授業概要】 障がい者にとってのスポーツの意義と理念を理解する。 【教科書ページ・参考文献】</p>

第3回	<p>【教科書ページ・参考文献】障がい者スポーツ教本（初級・中級）p14～日本障がい者スポーツ協会編 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備指示】全国障がい者スポーツ大会について調べておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分 全国障がい者スポーツ大会の概要 【key words】 【key words】障がい者スポーツ大会 障がい者福祉法 【授業概要】 【授業概要】全国障がい者スポーツ大会の基本理念など大会の概要及び大会開催の目的や意義について学び、大会がスポーツ未経験者や初心者の方のスポーツ参加の動機づけになっていること、地域のスポーツ振興を進める契機となっていることを学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】障がい者スポーツ教本（初級・中級）p20～日本障がい者スポーツ協会編 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備指示】障害のある人たちのグループ、行事等を調べておく。 【予習復習に必要な想定時間】</p>
第4回	<p>60分 障がいの人との交流（第1回目） 【key words】 【key words】障がい者 コミュニケーション 【授業概要】 【授業概要】スポーツ活動をしている障がい当事者の体験談を聞いたり、スポーツ現場に出向きしおう会社とのふれあいを体験する。 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】障がい者スポーツ教本（初級・中級）p28～日本障がい者スポーツ協会編 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備指示】障がい者との交流内容をまとめておく。 【予習復習に必要な想定時間】</p>
第5回	<p>60分 障がいの人との交流（第2回目） 【key words】 【key words】障がい者 コミュニケーション 【授業概要】 【授業概要】スポーツ活動をしている障がい当事者の体験談を聞いたり、スポーツ現場に出向きしおう会社とのふれあいを体験する。 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】障がい者スポーツ教本（初級・中級）p44～日本障がい者スポーツ協会編 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備指示】障がい者との交流内容をまとめておく。 【予習復習に必要な想定時間】</p>
第6回	<p>60分 障がい者スポーツ推進の取り組み 【key words】 【key words】障がい者スポーツ指導員 スポーツ基本法 【授業概要】 【授業概要】資格を取得したのちに、地域で行われている教室や大会へ積極的にいかかわれるよう、地域の障がい者スポーツ振興の現状について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】障がい者スポーツ教本（初級・中級）p54～日本障がい者スポーツ協会編 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備指示】障がい者スポーツの振興についてまとめておく。 【予習復習に必要な想定時間】</p>
第7回	<p>60分 障がい者スポーツに関する諸施策 【key words】 【key words】障がい者福祉法 スポーツ基本法 スポーツ振興計画 総合型地域スポーツクラブ 【授業概要】 【授業概要】我が国の障がい者福祉施策（障害者手帳を含む）および障がい者スポーツに関する施策（スポーツ基本法やスポーツ振興計画など）について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】障がい者スポーツ教本（初級・中級）p64～日本障がい者スポーツ協会編 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備指示】地域で行っている障がい者スポーツについて調べてみる。 【予習復習に必要な想定時間】</p>
第8回	<p>60分 安全管理 【key words】 【key words】スポーツ 安全 救急法 【授業概要】 【授業概要】スポーツを実施する際の安全管理の基本的な項目と内容を学ぶ。（ヒヤリハットや指導者の安全配慮義務、AED、応急手当など） 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】障がい者スポーツ教本（初級・中級）p78～日本障がい者スポーツ協会編 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>

<p>第9回</p>	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】身近な活動場所を点検して安全性を確認してみる。 【予習復習に必要な想定時間】 60分 各障がいの理解：身体障害（肢体不自由） 【key words】 【key words】 身体障がい 【授業概要】 【授業概要】 身体障がいの主な特性や、実際のスポーツ活動場で生かせる、身体障がいに関する知識と指導上の配慮点を身につける。 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 障がい者スポーツ教本（初級・中級）p95～日本障がい者スポーツ協会編 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 肢体不自由者の特性をまとめておく。 【予習復習に必要な想定時間】</p>
<p>第10回</p>	<p>60分 各障がいの理解：身体障がい（視覚障がい 聴覚障がい 内部障がい） 【key words】 【key words】 身体障がい 【授業概要】 【授業概要】 身体障がいの主な特性や、実際のスポーツ活動場で生かせる、身体障がいに関する知識と指導上の配慮点を身につける。 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 障がい者スポーツ教本（初級・中級）p115～日本障がい者スポーツ協会編 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 視覚・聴覚・内部障がい者の特性をまとめておく。 【予習復習に必要な想定時間】</p>
<p>第11回</p>	<p>60分 各障がいの理解：知的障がい 【key words】 【key words】 知的障がい 【授業概要】 【授業概要】 知的障がいの主な特性や、実際のスポーツ活動場で生かせる、知的障がいに関する知識と指導上の配慮点を身につける。 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 障がい者スポーツ教本（初級・中級）p124～日本障がい者スポーツ協会編 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 知的障がい者の特性をまとめておく。 【予習復習に必要な想定時間】</p>
<p>第12回</p>	<p>60分 各障がいの理解：精神障がい 【key words】 【key words】 精神障がい 【授業概要】 【授業概要】 精神障がいの主な特性や、実際のスポーツ活動場で生かせる、精神障がいに関する知識と指導上の配慮点を身につける。 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 障がい者スポーツ教本（初級・中級）p137～日本障がい者スポーツ協会編 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 精神障がい者の特性をまとめておく。 【予習復習に必要な想定時間】</p>
<p>第13回</p>	<p>60分 各障がいのスポーツ指導上の留意点：（身体障がい） 【key words】 【key words】 障がい 特性 指導 【授業概要】 【授業概要】 障害のある人がスポーツやレクリエーションを安全に楽しむためのルール・用具の工夫や指導員としての留意点・接し方を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 障がい者スポーツ教本（初級・中級）p146～日本障がい者スポーツ協会編 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 障がい者との交流のまとめを熟読しておく。 【予習復習に必要な想定時間】</p>
<p>第14回</p>	<p>60分 各障がいのスポーツ指導上の留意点（知的・精神障がい） 【key words】 【key words】 障がい 特性 指導 【授業概要】 【授業概要】 障害のある人がスポーツやレクリエーションを安全に楽しむためのルール・用具の工夫や指導員としての留意点・接し方を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 障がい者スポーツ教本（初級・中級）p163～日本障がい者スポーツ協会編 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 障がい者との交流のまとめとともに整理しておく。 【予習復習に必要な想定時間】</p>

	<p>第15回 まとめ：コミュニケーションスキルの基礎</p> <p>【key words】 【key words】 コミュニケーション 【授業概要】 【授業概要】 障がい者スポーツ指導員として必要なコミュニケーションスキルやソーシャルスキルの基礎を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 障がい者スポーツ教本（初級・中級）p171～日本障がい者スポーツ協会編 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 障がい者スポーツ指導員として学んだことをまとめておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>
受講生に関する情報および受講のルール	<p>[受講者に関する情報]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がい者の生活支援を念頭に置き、真摯な態度で受講する。 ・実技は運動着、運動靴、メモの用意をする。 <p>[受講のルール]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・着替え等は迅速にして授業の用具準備をおこなう。 ・教材の整頓、会場の清掃は全員で協力しておこなう。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	施設実習や障がい者へのボランティア活動をとおして、障がい者スポーツの情報を収集しておく。
オフィスアワー	講義終了後30分間 他の時間帯の希望のときはアポイントを取っていただく
評価方法	筆記試験・レポート試験（70%） 実技試験（30%）の総合評価
教科書	日本障がい者スポーツ協会編：新盤障がい者スポーツ教本（初級・中級）：ぎょうせい：令和2年
参考書	井田朋宏：NO LIMIT（障がい者スポーツ情報誌）：日本障がい者スポーツ協会：2019（年4回発刊）
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> ■実務経験のある教員が担当している <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>公立学校教員（保健体育）21年、管理職6年、群馬県教育委員会スポーツ振興課課長補佐6年（生涯スポーツ、障がいスポーツ）群馬県知事部局（障害福祉、社会福祉、保健福祉）群馬県社会福祉事業団・群馬県立ふれあいスポーツプラザ次長・指導課長5年（障がい者スポーツ指導、障がい者スポーツ行政）群馬県障がい者スポーツ指導者協議会会長（現在）</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> ■PBL(課題解決型学習) <input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育 <input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） <input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） <input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>ICTを活用した双方向型の授業の実施 ■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 <input type="checkbox"/>その他 <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年次	2単位(30)	選択
担当教員			
高坂駿・中山洋子・時田詠子			
基礎科目			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>【授業の目的】 医療・福祉・教育に関わる専門職の基礎について学び、専門職者としての素養を身に付けることを目的とする。</p> <p>【到達目標】 ①医療・福祉・教育に関わる法・制度について理解・説明できる。 ②医療・福祉・教育に関わる専門職と、その役割について理解・説明できる。 ③ライフステージに応じた対象者の生活支援に関して、各専門職の取り組みを理解・説明できる。 ④対人コミュニケーションや多職種連携の重要性について理解・説明することができる。</p>
授業の概要	人は生まれてから最期を迎えるまで、多様な生活を送る。医療・福祉・教育に関わる支援者の役割は、人々が必要な教育を受け、幸福で健康的な生活を送ることができるようにすることである。本講義では、乳幼児期から老年期にある様々な年代の対象者が、生き生きと生活を送るために、どのような専門職が、どのように治療・指導・援助に関わっているか演習を交えながら学ぶ。また、治療・指導・援助の際には、対象者や多くの専門職とのコミュニケーション（多職種連携）が必要不可欠である。講義内で行われる、グループワークなどの演習を通し、人とのコミュニケーションの重要性についても理解を深めて欲しい。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	△
(理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	◎
(理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	△
(作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	△
(作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	◎
(作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	△

授業計画	<p>第1回 オリエンテーション／「ボランティア活動」と「サービス・ラーニング」(足立勤一)</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】 本学の建学の精神である「仁」をもとに、「ボランティア活動」と「サービス・ラーニング」の基本について学びます。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 「障害について学ぼう」 -共生社会の実現に向けて- (小林義信)</p> <p>第2回</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】 障がいのあるなしにかかわらず、だれもが安心して幸せに生活できる共生社会の実現に向けて、障がいについて学びます。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料</p>
------	---

	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 社会福祉士の専門性と連携（富澤一央） 【key words】</p> <p>【授業概要】 社会福祉士の仕事と多職種と連携する時の情報共有の大切さ、人に伝える難しさを学びます。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第3回	
	<p>【予習復習に必要な想定時間】 子どもの育ちに大切なこと（塚越亜希子） 【key words】</p> <p>【授業概要】 子どもたちの笑顔と未来を守るために、今、改めて注目されている保育・幼児教育の重要性について学びます。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第4回	
	<p>【予習復習に必要な想定時間】 手術を受ける子どもへの関わり方（西山智春） 【key words】</p> <p>【授業概要】 病院で子どもが医療行為により引き起こされる心理的混乱に対し、プレパレーションを通じた説明の仕方を学びます。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第5回	
	<p>【予習復習に必要な想定時間】 高齢者に対するコミュニケーション（颯持貴史） 【key words】</p> <p>【授業概要】 ユマニチュードなどのコミュニケーション技法を通して、高齢者の心をつかむコミュニケーションについて学びます。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第6回	
	<p>【予習復習に必要な想定時間】 私の健康、備えあれば患え（うれえ）なし？（橋本いずみ） 【key words】</p> <p>【授業概要】 自分の健康を守るためにどのようなことに気をつけていますか。健康を守るための仕組みや方法について学びます。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第7回	
	<p>【予習復習に必要な想定時間】 医療者の目線から学ぶ救急止血処置 【key words】</p> <p>【授業概要】 生体に不可欠な血液の種類と出血のメカニズムについて理解し、救急止血処置を医療者の目線で学びます。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第8回	
	<p>【予習復習に必要な想定時間】 ひとの身体と臨床における理学療法の役割（小林雄斗） 【key words】 理学療法士、リハビリテーション、役割</p> <p>【授業概要】 医療、スポーツ、福祉など多岐にわたる領域で、理学療法士が実際にどのようなアプローチを通して現場で活躍しているかを学びます。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料（事前に配布します） 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
第9回	

第10回	<p>理学療法における治療テクニックと大学での学び（浅野貞美）</p> <p>【key words】 骨、コミュニケーション、グループワーク</p> <p>【授業概要】 理学療法の基本的な治療テクニックを紹介し、また本学学生の様子を通して基礎科目の重要性を学びます。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 配布資料</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
第11回	<p>作業療法士から見る対象者の生活課題とリハビリテーション（高坂駿）</p> <p>【key words】 リハビリテーション、作業、作業療法</p> <p>【授業概要】 作業療法士がリハビリテーションの中で果たす役割や、人の生活を構造的に捉える視点等について演習を通じてお伝えします。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 配布資料</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 自分の典型的な平日を思い出し、どんな活動が、どこで、誰と、どのように行われているか考えてきてください。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 20分程度</p>
第12回	<p>臨床や地域における作業療法の実践（牛込祐樹）</p> <p>【key words】 作業療法、治療・支援、実践</p> <p>【授業概要】 作業療法の概要を学び、作業療法士が対象の方々や社会の抱える課題に対して具体的にどのように取り組み、実践を行っているのかを学びます。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 配布資料</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 日本作業療法士協会ホームページのピックアップコンテンツである「TEAM_OT」、「OTのすご技（作業療法士）」について、自身の興味のある内容を2つ読んでおいてください。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 20分程度</p>
第13回	<p>介護という生活支援学のススメ（清水久二雄）</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】 バラエティに富む人の「生活」とそれを支援するために「生活する」ことを考えつつ、介護のエピソードからも学んでいきます。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 配布資料</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
第14回	<p>コード・ブルーから学ぶチーム医療と医療情報（淡島正浩）</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】 メディカルスタッフが連携・協働し、専門スキルを発揮するチーム医療と推進のために大切なことを学びます。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 配布資料</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
第15回	<p>臨床検査技師の使命（半田正）</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】 検査のスペシャリストとして、どのように医療へ貢献しているのか、学んでみましょう。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 配布資料</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
第16回	<p>臨床工学技士の仕事（秋山康則）</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】 高度医療の現場で活躍する臨床工学の業務と、将来期待される可能性について学びます。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 配布資料</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>

受講生に関わる情報 および受講のルール	<p>[受講生に関わる情報]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本講義は、高大連携事業の一環で行われ、履修者は主に初学者（高校生）となる。 ・授業形態は、対面またはオンデマンドとなる。オンデマンドの場合は、PC、インターネット環境が必要となる。 ・予習復習をしっかりとすること。 ・講義では、学びを深めるグループワークや演習も行うので、積極的にアクティビティに参加すること。 ・各講義の終盤には小テストを実施予定のため、聞き落としたことや質問は授業内にすること。 ・講義は前橋キャンパスを中心に行うが、専門分野についての学びを深めるために、看護学部（藤岡キャンパス）や、リハビリテーション学部（本町キャンパス）での講義も行う。 <p>[受講のルール]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義は特別な事情のない限り、欠席のないようにすること。 ・講義内外問わず、積極的に自ら調べたり、質問をすること。 ・講義中の私語など他学生に迷惑となる行為は禁止する。
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	オムニバス形式の授業のため、その単元の内容に関わるものは単元を担当した教員に、なるべくその場で質問をすること。
授業外時間にかかわ る情報	授業を受ける前に必ずシラバスを確認して、授業内容の把握や予習を進めておくこと。また、分からないことを解決したり、授業で扱った内容の理解を深めるため、自ら調べ学習を進めること。
オフィスアワー	講義時に指示する。
評価方法	各講義終了時の試験を総合して評価する。（100%）
教科書	講義内で適時資料配布する。
参考書	講義内で適時紹介する。
実務者経験/アク ティブラーニング/ リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> ■実務経験のある教員が担当している <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>各学部部に所属する専門資格をもつ教員が講義を担当する。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> PBL（課題解決型学習） ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> アクティブラーニングは実施していない <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 情報モラルに関する教育 <input type="checkbox"/> 課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） <input type="checkbox"/> 情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） <input type="checkbox"/> 情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） ■情報リテラシー教育は実施していない <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> ICTを活用した双方向型の授業の実施 ■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 <input type="checkbox"/> その他 <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年次	1単位(30)	必修
担当教員			
柴ひとみ			
基礎科目			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 ボランティアへの参加を通し、医療従事者としての基本的態度を学び、身に付ける。幅広い視点・視野、協調性、行動力といった能力を中心に培うことを目的とする。</p> <p>〔到達目標〕</p> <p>①本学におけるボランティア活動の位置づけについて理解し、説明することができる。 ②依頼ボランティアや学校行事ボランティアへの参加を通して、基本的参加態度やボランティアの必要性を理解することができる。 ③ボランティア体験を通して、医療従事者としての基本的態度などの実践を行うことができる。 ④グループボランティアの企画・実施を通して、協調性・コミュニケーションについて振り返り、修正することができる。</p>		
授業の概要	医療従事者を目指す者として、専門的な医学知識や技術の習得だけでなく、汎用的技能や態度・志向性を身につける必要がある。そのために必要なことをボランティア活動などを通して学ぶ。		
各学科、専攻、コースにおけるDP			科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			◎
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			
(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる			
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			◎
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			◎
授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション：本学・本学部におけるボランティアの位置づけと自己目標の設定、ボランティアに臨むための態度</p> <p>【key words】 【key words】 学士力、態度、志向性、ポートフォリオ、ボランティア</p> <p>①目標シートを完成させて提出する。 ②ポートフォリオを作成する。</p> <p>【授業概要】 学士力、態度、志向性、ポートフォリオ、ボランティア、学士力とボランティアの関わりについて説明する。目標シート・目標書き出しシート・活動記録簿を含めた各種書類・資料の説明、及びボランティアの種類及び参加方法の説明をします。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題 ①ポートフォリオを作成する</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第2回 ボランティア講和</p> <p>【key words】 ボランティア講和、依頼ボランティア、行事ボランティア、継続ボランティア</p> <p>【授業概要】 上級生によるボランティアに関わる講和を行う。上級生が体験したボランティアの紹介、そこで学んだこと、ボランティア参加に関するアドバイスを聞き、自らのボランティア活動計画に役立てる。また、ボランティア申し込み方法を学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題 ①ポートフォリオを作成する。 ②対面を伴わないボランティア活動について各自調べ、調べたことをポートフォリオに追加す</p>		

第3回	<p>る。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 ボランティア活動を考える①：グループボランティアについて</p> <p>【key words】 ボランティア、非対面のボランティア活動、必要性</p> <p>【授業概要】 感染症対策を考え、対面を伴わないボランティア活動について、事前学習した内容をグループで共有する。ボランティアを必要とする対象者、実施可能な内容についてグループで話し合い検討する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>課題 ①ポートフォリオを作成する。</p>
第4回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 車椅子体験①</p> <p>【key words】 車椅子、介助者、注意点、体験、グループワーク</p> <p>【授業概要】 車椅子の構造・使用方法を学び、3～4人1組のグループとなり、街中に車椅子で外出する。歩道の移動やトイレの利用など、日常生活の一部を体験し、注意・配慮する点について考える。車椅子利用者、介助者、観察者を順に全て体験し、それぞれの体験で気づいたことを各自メモし、それをもとにグループで話し合う。車椅子体験のまとめと考察を各グループで発表し、体験から気づいたこと、考えたことを共有する。それをもとに、対象者の心理面に配慮した適切な介助方法について考える。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>注意点 ①車椅子体験に適した服装で参加。屋外に出ることを考慮すること ②メモを用意。</p> <p>課題 ①車椅子体験の発表用資料をグループで作成し提出する（詳細は後日提示） ②ポートフォリオを作成する。</p>
第5回	<p>ボランティア活動を考える②：グループボランティアの企画</p> <p>【key words】 企画、対面を伴わないボランティア活動、情報共有、役割分担</p> <p>【授業概要】 実施可能な活動内容を話し合い、実際に活動するフィールドを決めていく。企画書（予算書を含む）を作成する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>課題 ①企画書（予算書を含む）を作成し提出する（提出期限は後日提示） ②ポートフォリオを作成する。 ③発表用資料を準備し、発表の練習を行う。 ④車椅子体験の発表の練習を行う。</p>
第6回	<p>車椅子体験②：発表</p> <p>【key words】 発表、発表者の態度、レジュメ</p> <p>【授業概要】 車椅子体験の発表をグループごとに行う。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>課題 ①グループボランティアの企画書を提出する（期限は後日提示します） ②企画の発表の練習をする。 ③ポートフォリオを作成する。</p>
第7回	<p>ボランティア活動の企画の発表会</p> <p>【key words】 企画、グループワーク、運営</p> <p>【授業概要】 対面を伴わないボランティア活動（グループボランティア）の企画の発表会を行う。他グループの発表を参考に、修正点・改善点について話し合う。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>注意点 ①グループボラは企画書の許可後に開始。予算取得後物品を購入し、領収書・出納帳で管理。</p> <p>課題 ①ポートフォリオを作成。</p>

第8回	<p>②活動後に活動記録簿・ポートフォリオを1週間以内に提出する。 【予習復習に必要な想定時間】 ボランティア活動の意義・目的 【key words】 ボランティア活動の目的、建学の精神、文献検索、根拠論文 【授業概要】 本学におけるボランティア活動の目的・意義を、グループで話しあう。基礎演習で学んだKJ法を用いて意見をまとめる。また、感想や考えと言った抽象的なまとめ方ではなく、先行研究や文献を使用して根拠のあるまとめを行う。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題 ①グループ発表用のPP資料を作成する。提出期限・提出方法等は後日提示します。 ②ポートフォリオを作成する。</p>
第9回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 クリスマス会企画 【key words】 企画、グループワーク</p> <p>【授業概要】 大学周辺に在住の方を対象に、クリスマス会を企画する。ボランティア委員会を中心に、企画、準備での担当、当日の担当を決めていく。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 注意事項 ①企画書の許可が出た時点から、各グループで活動を開始すること。 課題 ①ポートフォリオを作成する ②発表の練習をする</p>
第10回	<p>ボランティア活動の意義・目的の発表 【key words】 発表、ボランティア活動の目的、ボランティア活動の意義、建学の精神</p> <p>【授業概要】 ボランティア活動の意義・目的について部グループで話し合い、まとめたことを発表する。他グループの発表を聞き、本学におけるボランティア活動と建学精神について学びを深める。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題 ①ポートフォリオを作成する。 ②クリスマス会の準備を各グループで進めておく</p>
第11回	<p>クリスマス会の予演会 【key words】 企画、運営、役割分担</p> <p>【授業概要】 クリスマス会の予演会を行う。実際に流れに沿ってすすめ、各担当から気づいた点、修正点を話し合い、修正を行う。</p> <p>※授業開始前に使用箇所飾りつけ、教室の準備等を行うこと 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題 ①ポートフォリオを作成する。 ②クリスマス会当日までに各グループで準備を進める。</p>
第12回	<p>クリスマス会① 【key words】 企画、運営</p> <p>【授業概要】 クリスマス会を実施する。各グループで準備した企画を実践し、対象者とのコミュニケーションや対応、状況に合わせた対応について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第13回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 クリスマス会② 【key words】 企画、運営</p> <p>【授業概要】 クリスマス会を実施する。各グループで準備した企画を実践し、対象者とのコミュニケーションや対応、状況に合わせた対応について学ぶ。終了後、各グループ・企画で反省点を話し合う 【教科書ページ・参考文献】</p>

	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題 ①ポートフォリオを作成する。 【予習復習に必要な想定時間】 グループボランティアの報告会 【key words】 発表 【授業概要】 対面を伴わないボランティアの活動報告会を行います。各グループの活動報告を聞き、情報を共有し、対面を伴わないでも行えるボランティア活動の意味・目的について考える。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題 ①ポートフォリオを作成する。 ②次回のスピーチ原稿を用意し、発表の練習をする。 【予習復習に必要な想定時間】 1年間のボランティア活動の発表 【key words】 2分間スピーチ、発表</p> <p>【授業概要】 1年間のボランティア活動・講義を通し、自分が経験したこと・学んだことについて2分間スピーチを行う。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題 ①1年間のボランティア活動・講義の経験を振り返って、成長報告書を記載し、ポートフォリオにファイルする。 【予習復習に必要な想定時間】</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<p>ポートフォリオ用のA4クリアブックを用意し、毎回講義終了後に資料等をファイリングすること。</p> <p>この科目は、ボランティア活動を通して1年間で自分自身がどの様に成長したか、自分でまとめていきます。積極的なボランティア活動の実践が前提となっています。 依頼ボランティア参加方法について十分理解し、ボランティア先や地域連携センターとトラブルのないよう、計画的に参加してください。 また、様々な提出物に関し、期限が切れた場合は未提出とみなします。</p>
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	初回オリエンテーション時、講義内で詳細を伝えます。
オフィスアワー	月曜日 16:30~17:00
評価方法	<p>ポートフォリオ70% ボランティア参加状況10% 授業内発表20%</p> <p><ポートフォリオ採点基準></p> <p>①目標書き出しシート・目標シート：自己像をもとにそれぞれの目標が明確に記載されている（10点） ②目標シート（後期）：後期の活動計画、自己の課題・行動目標を具体的かつ現実的にあげられている（10点） ③成長報告書：1年を振り返り、自己の成長・反省・改善策を具体的にあげられている（15点） ④資料：事前および事後に調べた資料、配布資料が日付順にファイリングされ、それぞれに出典・考察が書かれている（15点） ⑤活動記録簿：記載の漏れがなく、適切に記載できている（8点）。ボランティア参加後に速やか（1週間以内）に提出できている（12点）</p> <p><ボランティア参加状況評価基準></p> <p>①依頼ボランティア・継続ボランティア（グループボランティアを含む）に参加（10点）</p> <p><授業内発表評価基準></p> <p>①声の大きさ明瞭度：聞きやすい声の大きさと明瞭度（2点） ②内容：わかりやすく十分まとめられている（5点） 所々不十分（3点） 不十分（1点） ③態度：開始・終了時の挨拶や発表中の姿勢・視線が適切（2点） ④時間：1分45秒以上2分以内（3点） 1分30秒以上1分45秒以内（2点） 1分30秒以内、2分以上（0点） ⑤発表用資料：書式・内容ともに十分（5点） 書式・内容の一部が不十分（3点） ⑥質疑応答：質問に適切に答えられる（3点） 質問に不十分だが答えられる（1点）</p>
教科書	ボランティアハンドブック
参考書	鈴木敏恵 著：ポートフォリオ評価とコーチング手法—臨床研修・臨床実習の成功戦略！, 医学書院, 2006
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <p>■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>病院、老人保健施設、訪問リハビリの理学療法士として20年ほど勤務。現在、群馬県高崎市の障害者支援に関わっている。過去にリハビリテーション学部ボランティア委員の経験があり、ボランティア教育・活動に関わっている。</p>

	<p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> PBL(課題解決型学習) <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input checked="" type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> アクティブラーニングは実施していない <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 情報モラルに関する教育 <input checked="" type="checkbox"/> 課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） <input type="checkbox"/> 情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） <input checked="" type="checkbox"/> 情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） <input type="checkbox"/> 情報リテラシー教育は実施していない <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input type="checkbox"/> e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 <input type="checkbox"/> その他 <p>その他の具体的内容</p>
--	---

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	1年～4年次	2単位(60)	選択
担当教員			
田口敦彦			
基礎科目			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>【授業の目的】 海外研修を通じて国際社会に貢献する意欲を養い、様々な人と出会い交流し、文化や言葉の壁を越えた理解を深めながらコミュニケーション能力を身につける。また国際社会で活躍する医療福祉人材として、海外での様々な体験を通して世界を違う視点から見るができるようになることを目的とする。本プログラムは参加者の英語能力を、面接授業、ワークショップ及びセミナーを通して向上させ、さらにカナダの歴史、文化、伝統等について学んだり、現地でのフィールドワークに携わったりしながら、カナダ独特の文化に触れ英語能力の更なる向上を目指していく。現地の学生やホームステイ先のホストファミリーとの交流により、英語によるコミュニケーション能力並びに異文化体験の機会を得る。</p>
授業の概要	<p>研修は、群馬医療福祉大学の協定・提携大学 カナダ・レジャイナ大学との間に企画された、誰もが参加しやすい語学学習(英語)に重点を置いたプログラムである。事前学習として訪問先の文化・社会等についての理解を深め、日常英会話についてのコミュニケーション能力を高める。その後、本学の協定大学における11日間の研修プログラム(講義又フィールドワーク)を中心に実施し、帰国後、それらの講義、体験をもとに、まとめ・報告会を行う。 研修期間 平成31年8月28日～9月7日</p>

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	◎
(理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	
(理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	
(作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	◎
(作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	
(作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	<p>第1回 研修先の概要(1)オリエンテーション 海外研修プログラムについての概要 申込書などの記入の仕方 【key words】 【授業概要】 グローバル人材海外研修を通じて、国際社会に貢献する意欲を養い、様々な人と出会い交流し、文化や言葉の壁を越えた理解を深めながらコミュニケーション能力を身につけることを理解する。海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)を熟読しておくこと。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 30分</p> <p>第2回 研修先の概要(2) レジャイナ大学についての概要 【key words】 【授業概要】 訪問するレジャイナ大学の概要について理解するとともに、レジャイナ大学が提携する</p>
------	--

	<p>ESL(English as a Second Language class)プログラムを確認する。海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)パスポートやETA取得をスムーズに行うため事前に外務省等のホームページを確認して置くこと。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 30分</p>
第3回	<p>カナダ研究(1) 世界とカナダの関係について 文化、歴史、経済、習慣等について 【key words】</p> <p>【授業概要】 カナダの歴史、文化、伝統 自然等について学び、現地でのフィールドワークに活かせるよう知識、教養を身につける。海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)ネット、情報誌等でカナダの文化、歴史等を収集しておくこと。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 30分</p>
第4回	<p>手続きガイダンス(1) 海外渡航に必要な諸手続きについて 【key words】</p> <p>【授業概要】 パスポート、ETAの申請について。さらに渡航前の健康管理と安全管理について確認する。また、リスクマネジメントを徹底し、病状悪化などの緊急時用の対応ができるよう安全管理について渡航前から学ぶ。海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成) 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 30分</p>
第5回	<p>英語研修(1) 日常英会話 英語圏の生活に必要なこと 入国審査カードの書き方、入国審査での質問、機内での英会話 【key words】</p> <p>【授業概要】 機内、出入国で使用する英語について学ぶ。さらに挨拶、日常会話について理解を深める。英単語学習及び日常的な英語フレーズを1つでも多く覚えらるよう努力すること。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
第6回	<p>英語研修(2) 日常英会話 自文化を紹介する態度、言い回し 【key words】</p> <p>【授業概要】 英語で自らの文化、習慣、伝統等を紹介する方法について学ぶ。またレジャイナ大学の学生と交流する機会があるので、レクリエーションプログラム等の計画を立てる。英単語学習及び日常的な英語フレーズを1つでも多く覚えらるよう努力すること。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 30分</p>
第7回	<p>英語研修(3) 日常英会話 研修先でのコミュニケーション 【key words】</p> <p>【授業概要】 研修時の日常で困ったことがないよう基本的なコミュニケーション方法等についてロールプレイを行いながら学ぶ。英単語学習及び日常的な英語フレーズを1つでも多く覚えらるよう努力すること。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 30分</p>
第8回	<p>英語研修(4) 日常英会話 寮、ホームステイ 研修先での注意事項 【key words】</p> <p>【授業概要】 研修時の日常で困ったことがないよう基本的なコミュニケーション方法等についてロールプレイを行いながら学ぶ。英単語学習及び日常的な英語フレーズを1つでも多く覚えらるよう努力すること。 【教科書ページ・参考文献】</p>

第9回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 30分</p> <p>英語研修(5) 日常英会話 危機管理 【key words】</p> <p>【授業概要】 研修時の日常で困ったことがないよう基本的なコミュニケーション方法等についてロールプレイを行いながら学ぶ。英単語学習及び日常的な英語フレーズを1つでも多く覚えられるよう努力すること。 【教科書ページ・参考文献】</p>
第10回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 30分</p> <p>協定校での授業 会話、課外授業 Meet with Program Team 【key words】</p> <p>【授業概要】 レジャイナ大学 ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。(プログラムの詳細は現地にて説明) 【教科書ページ・参考文献】</p>
第11回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 30分</p> <p>協定校での授業 会話、課外授業 Welcome & Program Orientation 【key words】</p> <p>【授業概要】 レジャイナ大学 ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。(プログラムの詳細は現地にて説明) 【教科書ページ・参考文献】</p>
第12回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 30分</p> <p>協定校での授業 会話、課外授業 Campus Orientation & Tour 【key words】</p> <p>【授業概要】 レジャイナ大学 ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。(プログラムの詳細は現地にて説明) 【教科書ページ・参考文献】</p>
第13回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 30分</p> <p>協定校での授業 会話、課外授業 Language Canada-at-aGlance ① 【key words】</p> <p>【授業概要】 レジャイナ大学 ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。(プログラムの詳細は現地にて説明) 【教科書ページ・参考文献】</p>
第14回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 30分</p> <p>協定校での授業 会話、課外授業 Language Canada-at-aGlance ② 【key words】</p> <p>【授業概要】 レジャイナ大学 ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。(プログラムの詳細は現地にて説明) 【教科書ページ・参考文献】</p>
第15回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 30分</p> <p>協定校での授業 会話、課外授業 Tour of the Royal Saskatchewan Museum 【key words】</p> <p>【授業概要】 レジャイナ大学 ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。(プログラムの詳細は現地にて説明) 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>

第16回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 協定校での授業 会話、課外授業 Language History ① 【key words】</p> <p>【授業概要】 レジャイナ大学 ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。(プログラムの詳細は現地にて説明) 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第17回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 協定校での授業 会話、課外授業 Language History ② 【key words】</p> <p>【授業概要】 レジャイナ大学 ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。(プログラムの詳細は現地にて説明) 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第18回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 協定校での授業 会話、課外授業 Farmer, s Market and Regina Down Town Tour 【key words】</p> <p>【授業概要】 レジャイナ大学 ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。(プログラムの詳細は現地にて説明) 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第19回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 協定校での授業 会話、課外授業 Language Culture ① 【key words】</p> <p>【授業概要】 レジャイナ大学 ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。(プログラムの詳細は現地にて説明) 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第20回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 協定校での授業 会話、課外授業 Language Cu l ture② 【key words】</p> <p>【授業概要】 レジャイナ大学 ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。(プログラムの詳細は現地にて説明) 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第21回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 協定校での授業 会話、課外授業 Tour of Sa s katoon & Western Development Museum 【key words】</p> <p>【授業概要】 レジャイナ大学 ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。(プログラムの詳細は現地にて説明) 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第22回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 協定校での授業 会話、課外授業 Language Sports ① 【key words】</p> <p>【授業概要】 レジャイナ大学 ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。(プログラムの詳細は現地にて説明) 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第23回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 協定校での授業 会話、課外授業 Language Sports ② 【key words】</p>

	<p>【授業概要】 レジャイナ大学 ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。(プログラムの詳細は現地にて説明) 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 第24回 協定校での授業 会話、課外授業 Tour of the Royal Canadian Mounted Police & Government House 【key words】</p> <p>【授業概要】 レジャイナ大学 ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。(プログラムの詳細は現地にて説明) 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 第25回 協定校での授業 会話、課外授業 Language Arts ① 【key words】</p> <p>【授業概要】 レジャイナ大学 ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。(プログラムの詳細は現地にて説明) 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 第26回 協定校での授業 会話、課外授業 Language Arts ② 【key words】</p> <p>【授業概要】 レジャイナ大学 ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。(プログラムの詳細は現地にて説明) 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 第27回 協定校での授業 会話、課外授業 Kayaking on Wascana & Barbeque wiyh U of R students 【key words】</p> <p>【授業概要】 レジャイナ大学 ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。(プログラムの詳細は現地にて説明) 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 第28回 協定校での授業 会話、課外授業 Program Closing Ceremony 【key words】</p> <p>【授業概要】 レジャイナ大学 ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。(プログラムの詳細は現地にて説明) 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 第29回 研修成果 レポート及び報告会プレゼンテーション準備 【key words】</p> <p>【授業概要】 研修事業の成果報告会に向けて発表の準備及び研修前と研修後の意識変化について確認する。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 2時間 第30回 研修成果 報告会 (まとめとふりかえり) 【key words】</p> <p>【授業概要】 研修成果 報告会 (まとめとふりかえり) 【教科書ページ・参考文献】</p>
--	---

	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
受講生に関する情報および受講のルール	<p>① 研修への参加責任及び費用負担義務の所在が本人及び保護者であることを十分理解し、研修について保護者とよく話し合い、同意を得る。</p> <p>② 研修予定地の事情をよく調べ、研修機関のサポート内容などを確認しながら研修計画を作成する。</p> <p>③ 旅行保険等の加入など万全の準備をするほか、連絡体制についても明確にし、大学に伝える。</p> <p>④ 担当教員による事前・事後指導も評価の対象となるので、誠実な態度で指導を受ける。</p> <p>⑤ 国際情勢の急な変化によって研修実施が困難となる場合もあることに留意する。</p> <p>⑥ 小学校における英語必修化に伴い初等教育コースの学生は履修することが望ましい</p> <p>⑦ 本講義は10人以上により開講する</p>
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	渡航先の語学や会話を授業で受講しておくこと。また日常から海外のニュースを見聞きし、情報を得ておく必要がある。旅券の取得、現地通貨などの準備、ツアーや航空券の手配、保険の申請などがある。
オフィスアワー	火曜日 16:00～17:30 (変更が生じた場合は適宜指示する)
評価方法	<p>海外研修時において学生個人が定めた目的に対し、十分な学習経験を得ていると認められる活動に対し、単位を認める。成績は、事前指導、事後指導への参加状況、研修中の活動記録(40%)、研修後報告書の課題(60%)をもとに評価する。原則として以下の条件を満たすこと。</p> <p>① 学内におけるガイダンス、事前・事後指導にすべて出席すること。</p> <p>② 事前に研修期間を通して学修・研究すべき課題を決め、事前レポートを提出すること。</p> <p>③ 滞在期間中に必要な学習活動を行うこと。</p> <p>④ 研修期間中の活動記録を提出すること。</p> <p>⑤ 帰国後、指定された時期までに報告書などの課題を提出すること。</p>
教科書	担当教員が適宜指示する。
参考書	海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成) 渡航先に関するガイドブック、新聞、海外ニュース、ネットなどによる最新の情報など
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <p><input type="checkbox"/>実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育 <input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの(図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) <input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの(情報処理、情報整理法等) <input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの(レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) <input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 <input type="checkbox"/>その他 <p>その他の具体的内容</p>

英文科目名称： *

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	1年次～3年次	2単位(60)	選択
担当教員			
田口敦彦・小林洋子			
基礎科目			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	海外研修を通じて国際社会に貢献する意欲を養い、様々な人と出会い交流し、文化や言葉の壁を越えた理解を深めながらコミュニケーション能力を身につける。また国際社会で活躍する医療福祉人材として、海外での様々な体験を通して世界を違う視点から見るができるようになることを目的とする。このプログラムはフィリピンでの医療福祉事情の理解と臨床現場での実地体験を目的としたプログラムを組み込んでいる。医療・福祉施設（小児がん治療施設・リハビリデイケアセンター・障害者施設・病院）にて実地体験を経験し、国際的な視野、協調性、行動力、自主性といった能力を中心に培いながら、現地の学生との交流により、英語によるコミュニケーション能力並びに医療英語や英会話を含む英語能力の向上や異文化体験の機会をも得ることを目的とする。
授業の概要	研修は、群馬医療福祉大学の協定・提携大学 フィリピン・アレリアノ大学との間に企画された、誰もが参加しやすい医療福祉ボランティア学習に重点を置いたプログラムである。事前学習として訪問先の文化・社会等についての理解を深め、医療英語及び日常英会話についてのコミュニケーション能力を高める。その後、本学の協定大学における8日間の研修プログラム（講義又フィールドワーク）を中心に実施し、帰国後、それらの講義、体験をもとに、まとめ・報告会を行う。 研修期間 平成32年3月15日～3月23日

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(理学療法) (豊かな人間性) 真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(理学療法) (専門性の探求) 専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	◎
(理学療法) (専門的実践力) 心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる。	
(理学療法) (多職種協働) 対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(理学療法) (地域実践) 地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	
(作業療法) (豊かな人間性) 真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(作業療法) (専門性の探求) 専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	◎
(作業療法) (専門的実践力) 生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	
(作業療法) (多職種協働) 対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(作業療法) (地域実践) 地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	第1回	研修先の概要(1)オリエンテーション 海外研修プログラムについての概要 申込書などの記入の仕方 【key words】 (群馬医療福祉大学作成)海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)を熟読しておくこと。 【授業概要】 グローバル人材海外研修を通じて、国際社会に貢献する意欲を養い、様々な人と出会い交流し、文化や言葉の壁を越えた理解を深めながらコミュニケーション能力を身につけることを理解する。海外渡航学生マニュアル 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】	申込書などの記入
	第2回	研修先の概要(2) アレリアノ大学についての概要 【key words】 【授業概要】 訪問するアレリアノ大学の概要について理解するとともに、アレリアノ大学が提携する病院、福祉施設訪問プログラムを確認する。海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)パスポート取得をスムーズに行うため事前に外務省等のホームページを確認しておくこと。	

	<p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第3回 フィリピン研究(1) 世界とフィリピンの関係について 文化、歴史、経済、習慣等について</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】</p> <p>フィリピンの歴史、文化、伝統 自然等について学び、現地でのフィールドワークに活かせるよう知識、教養を身につける。海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)ネット、情報誌等でフィリピンの文化、歴史等を収集しておくこと。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
	<p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第4回 手続きガイダンス(1) 海外渡航に必要となる諸手続きについて</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】</p> <p>パスポート、ETAの申請について。さらに渡航前の健康管理と安全管理について確認する。また、リスクマネジメントを徹底し、病状悪化などの緊急時用の対応ができるよう安全管理について渡航前から学ぶ。海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
	<p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第5回 医療福祉研修(1) ボランティア先での注意事項</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】</p> <p>海外でボランティアを行う上での心構えや英語でのコミュニケーションまた英語以外でのコミュニケーションの方法等について理解する。レクリエーションの企画立案をグループごとに行う。レクリエーション企画について事前に自分たちができそうなことを事前に準備しておくこと。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
	<p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第6回 医療福祉研修(2) ボランティア先でのレクリエーション企画について</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】</p> <p>海外でボランティアを行う上での心構えや英語でのコミュニケーションまた英語以外でのコミュニケーションの方法等について理解する。レクリエーションの企画立案をグループごとに行う。日本の文化を紹介するにはどのように行ったらよいかを考えてみる。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
	<p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第7回 英語研修(1) 日常英会話 英語圏の生活に必要なこと 入国審査カードの書き方、入国審査での質問、機内での英会話</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】</p> <p>機内、出入国で使用する英語について学ぶ。さらに挨拶、日常会話について理解を深める。英単語学習及び日常的な英語フレーズを1つでも多く覚えられるよう努力すること。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
	<p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第8回 英語研修(2) 日常英会話 自文化を紹介する態度、言い回し</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】</p> <p>研修時の日常で困ったことがないよう基本的なコミュニケーション方法等についてロールプレイを行いながら学ぶ。英単語学習及び日常的な英語フレーズを1つでも多く覚えられるよう努力すること。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
	<p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第9回 英語研修(3) 医療英語 患者及び施設利用者とのコミュニケーション</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】</p> <p>研修時の日常で困ったことがないよう基本的なコミュニケーション方法等についてロールプレイ</p>

	<p>を行いながら学ぶ。英単語学習及び日常的な英語フレーズを1つでも多く覚えられるよう努力すること。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
第10回	<p>協定校での授業 会話、課外授業、ボランティア体験 【key words】</p> <p>【授業概要】 アレリアノ大学 医療福祉研修プログラムへ参加し海外での実践活動・講義及びフィールドワークについて確認する。(プログラムの詳細は現地にて説明) 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第11回	<p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>協定校での授業 会話、課外授業、ボランティア体験 【key words】</p> <p>【授業概要】 アレリアノ大学のキャンパス見学及び概要説明。現地大学生との交流を行う。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第12回	<p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>協定校での授業 会話、課外授業、ボランティア体験 【key words】</p> <p>【授業概要】 アレリアノ大学のキャンパス見学及び概要説明。現地大学生との交流を行う。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第13回	<p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>協定校での授業 会話、課外授業、ボランティア体験 【key words】</p> <p>【授業概要】 Esperanza Health Center and Lying In Clinicにて 健康診断 栄養管理 予防接種、体重モニタリング、について学ぶ。フィリピンの医療、福祉制度について事前に調査・学習しておくこと。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第14回	<p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>協定校での授業 会話、課外授業、ボランティア体験 【key words】</p> <p>【授業概要】 Esperanza Health Center and Lying In Clinicにて 健康診断 栄養管理 予防接種、体重モニタリングについて学ぶ。フィリピンの医療、福祉制度について事前に調査・学習しておくこと。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第15回	<p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>協定校での授業 会話、課外授業、ボランティア体験 【key words】</p> <p>【授業概要】 Esperanza Health Center and Lying In Clinicにて 健康教育、出産について学ぶ。フィリピンの医療、福祉制度について事前に調査・学習しておくこと。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第16回	<p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>協定校での授業 会話、課外授業、ボランティア体験 【key words】</p> <p>【授業概要】 Esperanza Health Center and Lying In Clinicにて 産前産後検診について学ぶフィリピンの医療、福祉制度について事前に調査・学習しておくこと。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>

第17回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 協定校での授業 会話、課外授業、ボランティア体験 【key words】</p> <p>【授業概要】 Kaisaka Rehabilitative therapies リハビリ病院訪問フィリピンの医療、福祉制度について事前に調査・学習しておくこと。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第18回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 協定校での授業 会話、課外授業、ボランティア体験 【key words】</p> <p>【授業概要】 Kaisaka Adult day care services 高齢者デイケア訪問フィリピンの医療、福祉制度について事前に調査・学習しておくこと。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第19回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 協定校での授業 会話、課外授業、ボランティア体験 【key words】</p> <p>【授業概要】 Kaisaka Caring for persons with disabilities and social rehabilitation 身体障害者施設を訪問し社会復帰プログラムについて理解を深める。フィリピンの医療、福祉制度について事前に調査・学習しておくこと。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第20回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 協定校での授業 会話、課外授業、ボランティア体験 【key words】</p> <p>【授業概要】 Arellano University Rehabilitation Clinic Rehabilitation therapiesを訪問し リハビリ療法、成人向けデイケアサービス、障害者のケアと社会復帰に向けた支援について学ぶ。フィリピンの医療、福祉制度について事前に調査・学習しておくこと。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第21回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 協定校での授業 会話、課外授業、ボランティア体験 【key words】</p> <p>【授業概要】 Arellano University Rehabilitation Clinic リハビリ療法、成人向けデイケアサービス、障害者のケアと社会復帰に向けた支援について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第22回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 協定校での授業 会話、課外授業、ボランティア体験 【key words】</p> <p>【授業概要】 Arellano University Rehabilitation Clinic リハビリ療法、成人向けデイケアサービス、障害者のケアと社会復帰に向けた支援について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第23回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 協定校での授業 会話、課外授業、ボランティア体験 【key words】</p> <p>【授業概要】 "マニラおよび近郊の文化、観光施設 "現地でのフィールドワークに活かせるよう知識、教養を身につけておくこと。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>

	<p>第24回 協定校での授業 会話、課外授業、ボランティア体験 【key words】 【授業概要】 ”マニラおよび近郊の文化、観光施設 ”現地でのフィールドワークに活かせるよう知識、教養を身につけておくこと。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第25回 協定校での授業 会話、課外授業、ボランティア体験 【key words】 【授業概要】 ”マニラおよび近郊の文化、観光施設 ”現地でのフィールドワークに活かせるよう知識、教養を身につけておくこと。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第26回 協定校での授業 会話、課外授業、ボランティア体験 【key words】 【授業概要】 CHILD HAUS children`s home, day care centersを訪問し、がんなどの重篤な病気に罹患している子どもたちとの交流活動を行う。子どもたちのプレゼントを事前に用意しておくこと。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第27回 協定校での授業 会話、課外授業、ボランティア体験 【key words】 【授業概要】 CHILD HAUS children`s home, day care centersを訪問し、がんなどの重篤な病気に罹患している子どもたちとの交流活動を行う。子どもたちのプレゼントを事前に用意しておくこと。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第28回 協定校での授業 会話、課外授業、ボランティア体験 【key words】 【授業概要】 CHILD HAUS children`s home, day care centersを訪問し、がんなどの重篤な病気に罹患している子どもたちとの交流活動を行う。子どもたちのプレゼントを事前に用意しておくこと。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第29回 研修成果 レポート及び報告会プレゼンテーション準備 【key words】 【授業概要】 研修事業の成果報告会に向けて発表の準備及び研修前と研修後の意識変化について確認する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第30回 研修成果 報告会（まとめとふりかえり） 【key words】 【授業概要】 研修事業の振り返りと研修の成果について確認を行う。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】</p>
<p>受講生に関わる情報 および受講のルール</p>	<p>①研修への参加責任及び費用負担義務の所在が本人及び保護者であることを十分理解し、研修について保護者とよく話し合い、同意を得る。 ②研修予定地の事情をよく調べ、研修機関のサポート内容などを確認しながら研修計画を作成する。 ③旅行保険等の加入など万全の準備をするほか、連絡体制についても明確にし、大学に伝える。</p>

	<p>④担当教員による事前・事後指導も評価の対象となるので、誠実な態度で指導を受ける。</p> <p>⑤国際情勢の急な変化によって研修実施が困難となる場合もあることに留意する。</p> <p>⑥本講義は10人以上により</p>
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	渡航先の語学や会話を授業で受講しておくこと。また日常から海外のニュースを見聞きし、情報を得ておくことが必要である。旅券の取得、現地通貨などの準備、ツアーや航空券の手配、保険の申請などがある。
オフィスアワー	火曜日 16:00～17:30 (変更が生じた場合は適宜指示する)
評価方法	<p>海外研修時において学生個人が定めた目的に対し、十分な学習経験を得ていると認められる活動に対し、単位を認める。成績は、事前指導、事後指導への参加状況、研修中の活動記録(40%)、研修後報告書の課題(60%)をもとに評価する。原則として以下の条件を満たすこと。</p> <p>① 学内におけるガイダンス、事前・事後指導にすべて出席すること。</p> <p>② 事前に研修期間を通して学修・研究すべき課題を決め、事前レポートを提出すること。</p> <p>③ 滞在期間中に必要な学習活動を行うこと。</p> <p>④ 研修期間中の活動記録を提出すること。</p> <p>⑤ 帰国後、指定された時期までに報告書などの課題を提出すること。</p>
教科書	担当教員が適宜指示する。
参考書	海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成) 渡航先に関するガイドブック、新聞、海外ニュース、ネットなどによる最新の情報など
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <p><input type="checkbox"/>実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育 <input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの(図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) <input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの(情報処理、情報整理法等) <input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの(レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) <input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 <input type="checkbox"/>その他 <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位 (30)	必修
担当教員			
伊東順太			
人体の構造と機能及び心身の発達	理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的]</p> <p>人体の構造と分類、特に骨格系、筋系および神経系について学び、運動に関係する基本的な解剖学的な構造を習得できるようになることを目的とする。</p> <p>[到達目標]</p> <p>①椎骨の基本型と脊柱および胸郭の構成を説明することができる。 ②四肢の骨格の構成と各部の名称を説明することができる。 ③頭蓋骨の構成と各部の特徴を説明することができる。 ④四肢の筋群の起始停止部、支配神経および作用を説明することができる。 ⑤体幹および頭頸部の筋群の構成と位置関係を説明することができる。 ⑥骨の連結</p>
授業の概要	生体観察を通して、人体の区分、各部の特徴および骨格系と筋系、骨の連結について知り、理解できるようになることが必要である。また、解剖学実習、生理学実習、生理学、運動学の知識と双方向性の理解が必要となる。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(理学療法) (豊かな人間性) 真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(理学療法) (専門性の探求) 専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(理学療法) (専門的実践力) 心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	◎
(理学療法) (多職種協働) 対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(理学療法) (地域実践) 地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	
(作業療法) (豊かな人間性) 真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(作業療法) (専門性の探求) 専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(作業療法) (専門的実践力) 生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	◎
(作業療法) (多職種協働) 対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(作業療法) (地域実践) 地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、人体の各部の名称と方向用語</p> <p>【key words】 正面、前頭面、水平面、三角筋部、etc授業の進め方、復習の仕方を説明。 人体の部位名等を説明。 【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 トレーニングノート 身体の断面、上肢、下肢の暗記 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第2回 骨格系-1 上肢の骨</p> <p>【key words】 ・骨の構造と機能 ・上肢帯の骨について 【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 トレーニングノート 鎖骨、肩甲骨の関節部や筋の付着部の名称の暗記 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
------	--

第3回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 骨格系-2 上肢の骨 【key words】 ・前回の内容の確認試験 ・上腕骨、尺骨、橈骨について 【授業概要】</p>
第4回	<p>【教科書ページ・参考文献】 トレーニングノート 上腕骨、前腕の骨の名称の暗記 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 骨格系-3 骨盤、下肢の骨 【key words】 ・前回の内容の確認試験 ・寛骨、大腿骨、脛骨、腓骨について 【授業概要】</p>
第5回	<p>【教科書ページ・参考文献】 トレーニングノート 寛骨、大腿骨、脛骨、腓骨の名称の暗記 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 骨格系-4、-5 椎骨、脊椎と胸郭 【key words】 頭蓋骨を構成する骨の名称と構造 【授業概要】</p>
第6回	<p>【教科書ページ・参考文献】 トレーニングノート 頭蓋骨を構成する骨の名称と構造の暗記 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 骨格系-5、-6 胸郭と頭部の骨、骨の構成 【key words】 胸部の構造、椎骨の構造 【授業概要】</p>
第7回	<p>【教科書ページ・参考文献】 トレーニングノート 椎骨の構造の暗記 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 筋系-1 頭頸部の筋、頭部の各骨との連結 【key words】 関節の構造と種類、筋の構造と種類について 【授業概要】</p>
第8回	<p>【教科書ページ・参考文献】 トレーニングノート 関節の構造と種類、筋の構造と種類の暗記 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 筋系-2 体幹の筋、胸部の筋 【key words】 体幹、胸部の筋について 【授業概要】</p>
第9回	<p>【教科書ページ・参考文献】 トレーニングノート 胸部の筋、腹部の筋の暗記 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 筋系-3 脊柱の筋、上肢の筋、肩関節 【key words】 体幹、胸部の筋について 【授業概要】</p>
第10回	<p>【教科書ページ・参考文献】 トレーニングノート 胸部の筋、腹部の筋の暗記 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 筋系-4 上肢の筋、肘関節、前腕の筋、手の筋 【key words】 脊柱起立筋、肩関節の構造と作用について 【授業概要】</p>
	<p>【教科書ページ・参考文献】 トレーニングノート 浅背筋群、脊柱起立筋、肩関節の構造の暗記</p>

	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>第11回 【予習復習に必要な想定時間】 筋系-5 上肢の筋、肘関節、前腕の筋、手の筋 【key words】 上肢の筋、肘関節、前腕の筋、手の筋について 【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 トレーニングノート 上肢帯、上肢後面・全面の筋、肘関節の構造の暗記 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>第12回 【予習復習に必要な想定時間】 筋系-6 骨盤の筋、骨盤の連結、下肢の筋 【key words】 上肢の筋、肘関節、前腕の筋、手の筋について 【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 トレーニングノート 上肢帯、上肢後面・全面の筋、肘関節の構造の暗記 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>第13回 【予習復習に必要な想定時間】 筋系-7 骨盤の筋、骨盤の連結、下肢の筋 【key words】 骨盤、下肢の骨について 【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 トレーニングノート 骨盤、下肢の筋について暗記 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>第14回 【予習復習に必要な想定時間】 筋系-8 下肢の筋、下肢の連結と運動について 【key words】 下肢の筋、下肢の連結と運動について、試験勉強について 【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 トレーニングノート 下肢の筋について暗記 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>第15回 【予習復習に必要な想定時間】 筋系-9 まとめ、試験について 【key words】 前期のまとめ、試験勉強について前期分すべて試験勉強を指示 【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
受講生に関わる情報 および受講のルール	<p>〔受講生に関わる情報〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義の予習復習に十分な時間を割くこと。 ・講義資料を配付しますので、解剖トレーニングノートおよび教科書の該当ページを必ず参照すること。 <p>〔受講のルール〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業概要を必ず確認し、積極的に授業に臨むこと。 ・最前列から着席し、授業を受けやすい環境を作ること。 ・医療専門職及び対人サービス職として、出席時間の厳守および対象者が好感を持てる態度を身につけることは基本である。そのため態度や身だしなみ等が整っていない場合は、受講を認めないことがある。 ・授業の流れや雰囲気乱
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわ る情報	授業時間外には、予習復習に十分に時間を割くこと。特に、復習に重点を置き、授業内容はその日のうちに身につけること。
オフィスアワー	授業終了後20分程度、対応可能。
評価方法	筆記試験（客観・論述）100%であり、60%を越えていることが必要である。しかし、総合評価には課題提出状況が良好であることが前提となる。
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 解剖学 野村巖【編】 医学書院 ・解剖トレーニングノート 竹内 修二（著） 医学教育出版社 ・解剖学ワークブック 西川彰・小林直行（著）、野村巖（監） 医歯薬出版
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・ネッター解剖学アトラス Frank H. Netter（著） 南江堂 ・ネッター解剖生理学アトラス John T. Hansen（著） 南江堂

	<ul style="list-style-type: none"> ・プロメテウス解剖学アトラス解剖学総論 ・運動器系 坂井 建雄 (著) 医学書院 ・カラーイラストで学ぶ 集中講義 解剖学 メジカルビュー社
<p>実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育</p>	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員が担当している <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> PBL(課題解決型学習) <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニングは実施していない <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 情報モラルに関する教育 <input type="checkbox"/> 課題解決のために必要な情報を探索するもの (図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) <input type="checkbox"/> 情報を分析評価し整理するもの (情報処理、情報整理法等) <input type="checkbox"/> 情報のアウトプットに関するもの (レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) <input checked="" type="checkbox"/> 情報リテラシー教育は実施していない <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input type="checkbox"/> e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 <input type="checkbox"/> その他 <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位(30)	必修
担当教員			
笠松哲光			
人体の構造と機能及び心身の発達	理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 神経系、運動器、造血器の調節機構の基礎を身につけること、及び、専門科目に応用可能な知識を習得することを目的とする。</p> <p>〔到達目標〕</p> <p>① 内臓器の基礎を簡潔に説明出来るようになる。 ② 生理学全体を鳥瞰的に理解し、基本概念を全体の中での位置づけを意識して説明出来るようになる。 ③ 他の基礎科目・専門科目に応用することが出来るようになる。</p>
授業の概要	生理学はヒトの体の正常の機能を理解することを目的としており、疾病から正常状態への復帰を目指すリハビリテーションには不可欠である。しかし、生理学の領域は膨大で、未だ解明されていないことが多くある。リハビリテーションの実践に、いかに生理学の知識を活用していくのかを常に念頭に置いて、体系的に理解が進められるように授業を進めていく。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	◎
(理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	
(作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	◎
(作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	<p>第1回 生命現象と人体①</p> <p>【key words】 組織と細胞、エネルギー産生</p> <p>【授業概要】 生理学の総論と身体の階層性、生命現象についての講義・解説を行う。 教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んでおき、疑問点をpick upしておく。 【教科書ページ・参考文献】 1-12 【課題・予習・復習・授業準備指示】 毎回授業の冒頭で小テストを行うので、指示された範囲を学習すること 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p> <p>第2回 生命現象と人体②</p> <p>【key words】 細胞内液と細胞外液、浸透圧、細胞膜タンパク質、DNAとRNA</p> <p>【授業概要】 水、ホメオスタシスと負のフィードバック についての講義・解説を行う。 教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んでおき、疑問点をpick upしておく。 【教科書ページ・参考文献】 8-16</p>
------	--

第3回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 毎回授業の冒頭で小テストを行うので、指示された範囲を学習すること 【予習復習に必要な想定時間】 60分 細胞の構造と機能 【key words】 細胞小器官、静止電位と活動電位 【授業概要】 細胞の構造と機能、静止電位と活動電位 についての講義・解説を行う。 教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んでおき、疑問点をpick upしておく。 【教科書ページ・参考文献】 15-19</p>
第4回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 毎回授業の冒頭で小テストを行うので、指示された範囲を学習すること 【予習復習に必要な想定時間】 90分 神経の興奮伝導と末梢神経① 【key words】 神経細胞の構造、興奮の伝導、末梢神経の種類 【授業概要】 神経細胞の構造、興奮の発生と伝導、末梢神経の種類についての講義・解説を行う。 教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んでおき、疑問点をpick upしておく。 【教科書ページ・参考文献】 21-24</p>
第5回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 毎回授業の冒頭で小テストを行うので、指示された範囲を学習すること 【予習復習に必要な想定時間】 90分 神経の興奮伝導と末梢神経② 【key words】 自律神経、シナプス、神経伝達物質 【授業概要】 自律神経、シナプスにおける興奮の伝達についての講義・解説を行う。 教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んでおき、疑問点をpick upしておく。 【教科書ページ・参考文献】 24-30</p>
第6回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 毎回授業の冒頭で小テストを行うので、指示された範囲を学習すること 【予習復習に必要な想定時間】 120分 中枢神経系① 【key words】 自律神経、神経核、脊髄反射、伸張反射 【授業概要】 中枢神経系とは、脊髄、脳幹についての講義・解説を行う。 教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んでおき、疑問点をpick upしておく。 【教科書ページ・参考文献】 33-39</p>
第7回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 毎回授業の冒頭で小テストを行うので、指示された範囲を学習すること 【予習復習に必要な想定時間】 120分 中枢神経系② 【key words】 小脳、間脳、大脳皮質と各種中枢 【授業概要】 小脳、間脳：視床と視床下部、大脳皮質についての講義・解説を行う。 教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んでおき、疑問点をpick upしておく。 【教科書ページ・参考文献】 40-45</p>
第8回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 毎回授業の冒頭で小テストを行うので、指示された範囲を学習すること 【予習復習に必要な想定時間】 90分 中枢神経系③ 【key words】 学習、記憶、睡眠 【授業概要】 脳の高次機能についての講義・解説を行う。 教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んでおき、疑問点をpick upしておく。 【教科書ページ・参考文献】 45-48</p>

第9回	<p>中枢神経系④</p> <p>【key words】 大脳辺縁系、脳脊髄液、血液脳関門</p> <p>【授業概要】 大脳基底核と脳梁、辺縁系、室と脳脊髄液・血液脳関門についての講義・解説を行う。 教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んでおき、疑問点をpick upしておく。 【教科書ページ・参考文献】 45-49</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 毎回授業の冒頭で小テストを行うので、指示された範囲を学習すること 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>
第10回	<p>筋と骨①</p> <p>【key words】 興奮収縮連関、筋の収縮メカニズム、骨格筋収縮の種類</p> <p>【授業概要】 筋の分類、骨格筋、心筋についての講義・解説を行う。 教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んでおき、疑問点をpick upしておく。 【教科書ページ・参考文献】 53-60</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 毎回授業の冒頭で小テストを行うので、指示された範囲を学習すること 【予習復習に必要な想定時間】 120分</p>
第11回	<p>筋と骨②</p> <p>【key words】 筋紡錘とGolgi腱器官、心筋、骨</p> <p>【授業概要】 平滑筋、骨についての講義・解説を行う。 教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んでおき、疑問点をpick upしておく。 【教科書ページ・参考文献】 60-67</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 毎回授業の冒頭で小テストを行うので、指示された範囲を学習すること 【予習復習に必要な想定時間】 90分</p>
第12回	<p>感覚①</p> <p>【key words】 感覚、視覚</p> <p>【授業概要】 感覚とは、体性感覚についての講義・解説を行う。 教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んでおき、疑問点をpick upしておく。 【教科書ページ・参考文献】 71-77</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 毎回授業の冒頭で小テストを行うので、指示された範囲を学習すること 【予習復習に必要な想定時間】 90分</p>
第13回	<p>感覚②</p> <p>【key words】 視覚、聴覚、嗅覚、味覚</p> <p>【授業概要】 内臓感覚、特殊感覚についての講義・解説を行う。 教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んでおき、疑問点をpick upしておく。 【教科書ページ・参考文献】 77-83</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 毎回授業の冒頭で小テストを行うので、指示された範囲を学習すること 【予習復習に必要な想定時間】 90分</p>
第14回	<p>血液①</p> <p>【key words】 赤血球、白血球</p> <p>【授業概要】 血液の組成と機能、赤血球、白血球についての講義・解説を行う。 教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んでおき、疑問点をpick upしておく。 【教科書ページ・参考文献】 86-95</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 毎回授業の冒頭で小テストを行うので、指示された範囲を学習すること 【予習復習に必要な想定時間】 90分</p>
第15回	<p>血液②</p> <p>【key words】 止血、膠質浸透圧、血液型</p> <p>【授業概要】</p>

	<p>血小板、血漿、血液型についての講義・解説を行う。 教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んでおき、疑問点をpick upしておく。 【教科書ページ・参考文献】 95-99 【課題・予習・復習・授業準備指示】 毎回授業の冒頭で小テストを行うので、指示された範囲を学習すること 【予習復習に必要な想定時間】 90分</p>
受講生に関する情報および受講のルール	<p>[受講生に関する情報] ・予習復習は必ず行うこと。 [受講のルール] ・授業概要を必ず確認し積極的に授業に臨むこと。 ・出席時間厳守・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。</p>
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	授業時に指示する。
オフィスアワー	授業終了後20分程度、またはメールによる質疑であれば随時対応可能。
評価方法	選択式もしくは筆記式（論述含む）、小テストの総合評価
教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第5版 岡田 隆夫／鈴木 敦子／長岡 正範 著、医学書院
参考書	シンプル生理学（改訂7版）、貴邑 富久子、根来 英雄、南江堂
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員 <input type="checkbox"/>実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素 <input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習) <input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/>グループワーク <input type="checkbox"/>プレゼンテーション <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク <input checked="" type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</p> <p>情報リテラシー教育 <input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育 <input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） <input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） <input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） <input checked="" type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない</p> <p>ICTの活用 <input checked="" type="checkbox"/>ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input checked="" type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 <input type="checkbox"/>その他</p> <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位(30)	必修
担当教員			
多田真和			
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修	社会福祉主事任用資格指定科目	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 将来皆さんが、医師、看護師、薬剤師等の専門職と協同でチーム医療を行うにあたり、医療従事者として共通の幅広い医学および医療の知識を備えておく必要があります。本講義では、医学の歴史、近代医学の発展と医の倫理、人体の構造と機能、主要な疾患とその対応、医療保障制度、医療施設の種類と現状、保健医療対策、医療にまつわる法規等について広く解説します。</p> <p>〔到達目標〕 医学、医療を広く学ぶことで、チーム医療における理学療法士、作業療法士として果たすべき役割およびその重要性が理解できることを目標の一つとします。また、医療従事者として、患者さんや医療チームの構成員からも信頼され、尊敬されるような人間性、倫理観が身につけられることを目標とします。</p>
授業の概要	<p>将来、チーム医療を実践される皆さんにとって必要な医学および医療の幅広い知識を、できる限りわかりやすく、平易に解説します。皆さんが将来遭遇する可能性が高い疾患については、その解剖学的構造、生理学的機能を学習した上で、疾患および障害が生じるメカニズム、さらに基本的な治療法およびその予後等について解説します。1年次で学ぶ、解剖学、生理学、生化学等の講義と並行して学習することで、より深い理解が得られるよう配慮します。</p>

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	◎
(理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	
(作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	◎
(作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、医学の定義とその使命(第1章) 【key words】 医学の定義、医学の使命 【授業概要】 初めにあたり、授業のオリエンテーションを行います。また、「医学とは何か」「医学の使命」について解説します。将来、医療従事者として必要な生命倫理および医学倫理について熟考します。 【教科書ページ・参考文献】 p.1 - p.4 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストの該当部分を熟読した上で授業に臨んで下さい。授業では、重要なポイントを解説します。授業終了後に重要ポイントを復習し、知識を確かなものとして下さい。 【予習復習に必要な想定時間】 30-60分</p> <p>第2回 医学の歴史(第2章)、近代医学の発展と医の倫理(第3章) 【key words】 医学の歴史、近代医学、ヘルシンキ宣言、インフォームドコンセント、脳死、尊厳死 【授業概要】</p>
------	--

	<p>「近代医学への道程」「ヒポクラテスの誓い」「20世紀・21世紀の医学」について、さらに「ヘルシンキ宣言」「インフォームドコンセント」「脳死」および「尊厳死」をとり上げ解説します。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 p. 5 - p. 13</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストの該当部分を熟読した上で授業に臨んで下さい。授業では、重要なポイントを解説します。授業終了後に重要ポイントを復習し、知識を確かなものとして下さい。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 30-60分</p>
第3回	<p>人体の構造と機能 I (第4章)・・・人体の構成、細胞、骨・筋肉、血液、循環器系、呼吸器系</p> <p>【key words】 細胞、骨、筋肉、血液、循環器、呼吸器</p> <p>【授業概要】 人体の構造の基本単位である「細胞」、そして「骨」「筋肉」「血液」について解説します。さらに心臓、血管系およびリンパ系からなる「循環器系」を学び、「呼吸器系」では、気道、肺、胸郭・横隔膜の解剖に加え、呼吸運動について解説します。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 p. 14 - p. 27</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストの該当部分を熟読した上で授業に臨んで下さい。授業では、重要なポイントを解説します。授業終了後に重要ポイントを復習し、知識を確かなものとして下さい。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 60-90分</p>
第4回	<p>人体の構造と機能 II (第4章)・・・消化器系、泌尿器系、内分泌系とホルモン、神経系、生殖器系、皮膚、感覚器</p> <p>【key words】 消化器、泌尿器、内分泌、ホルモン、神経、生殖器、皮膚、感覚器</p> <p>【授業概要】 口腔にはじまり、食道、胃、小腸、大腸までの消化管に加え、肝臓、胆道系および膵臓で構成される「消化器系」の解剖学的構造、さらに生理学的メカニズムについて解説します。また、「泌尿器系」「内分泌系」「神経系」「生殖器系」「皮膚」および眼、耳の「感覚器」について、その解剖学的構造および生理学的メカニズムを解説します。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 p. 27 - p. 44</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストの該当部分を熟読した上で授業に臨んで下さい。授業では、重要なポイントを解説します。授業終了後に重要ポイントを復習し、知識を確かなものとして下さい。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 60-90分</p>
第5回	<p>臨床医学総論 I (第5章)・・・主要症状からその原因を探る</p> <p>【key words】 発熱、ショック、浮腫、悪心、嘔吐、下痢、便秘、腹痛、食欲不振、呼吸困難、胸痛</p> <p>【授業概要】 臨床の場でみられる、「発熱」「ショック」「浮腫」「悪心」「嘔吐」「下痢」「便秘」「腹痛」「食欲不振」「呼吸困難」および「胸痛」の症状について、そのメカニズムと対応を解説します。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 p. 45 - p. 54</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストの該当部分を熟読した上で授業に臨んで下さい。授業では、重要なポイントを解説します。授業終了後に重要ポイントを復習し、知識を確かなものとして下さい。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 60-90分</p>
第6回	<p>臨床医学総論 II (第5章)・・・主要症状からその原因を探る</p> <p>【key words】 頭痛、めまい、運動麻痺、不随意運動、排尿障害、咳、咯血、血痰、吐血、動悸</p> <p>【授業概要】 臨床の場でみられる、「頭痛」「めまい」「運動麻痺」「不随意運動」「排尿障害」「咳」「咯血」「血痰」「吐血」および「動悸」の症状について、そのメカニズムと対応を解説します。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 p. 55 - p. 60</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストの該当部分を熟読した上で授業に臨んで下さい。授業では、重要なポイントを解説します。授業終了後に重要ポイントを復習し、知識を確かなものとして下さい。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 60-90分</p>
第7回	<p>臨床医学各論 I (第6章)・・・呼吸器疾患、循環器疾患</p> <p>【key words】 呼吸器疾患、循環器疾患</p> <p>【授業概要】 日常の臨床の場でみられる代表的な呼吸器および循環器に生じる疾患について解説します。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 p. 61 - p. 69</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストの該当部分を熟読した上で授業に臨んで下さい。授業では、重要なポイントを解説します。授業終了後に重要ポイントを復習し、知識を確かなものとして下さい。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 60-90分</p>
第8回	<p>臨床医学各論 II (第6章)・・・消化器疾患、代謝・内分泌疾患、腎臓・泌尿器疾患</p> <p>【key words】</p>

	<p>消化器疾患、代謝疾患、内分泌疾患、腎臓疾患、泌尿器疾患</p> <p>【授業概要】 日常の臨床の場でみられる代表的な消化器に生じる疾患、糖尿病、脂質異常症をはじめとする代謝・内分泌疾患、さらに腎臓および泌尿器に生じる代表的な疾患について解説します。 【教科書ページ・参考文献】 p. 69 - p. 76 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストの該当部分を熟読した上で授業に臨んで下さい。授業では、重要なポイントを解説します。授業終了後に重要ポイントを復習し、知識を確かなものとして下さい。 【予習復習に必要な想定時間】 60-90分</p>
第9回	<p>臨床医学各論 III (第6章)・・・血液・造血器疾患、神経・筋疾患、精神疾患</p> <p>【key words】 血液疾患、造血器疾患、神経疾患、筋疾患、精神疾患</p> <p>【授業概要】 鉄欠乏性貧血をはじめとする血液疾患、脳出血、脳梗塞、くも膜下出血等の神経疾患、さらに、統合失調症、双極性障害等の精神疾患について解説します。 【教科書ページ・参考文献】 p. 76 - p. 83 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストの該当部分を熟読した上で授業に臨んで下さい。授業では、重要なポイントを解説します。授業終了後に重要ポイントを復習し、知識を確かなものとして下さい。 【予習復習に必要な想定時間】 60-90分</p>
第10回	<p>臨床医学各論 IV (第6章)・・・アレルギー性疾患、膠原病、感染症、中毒性疾患</p> <p>【key words】 アレルギー疾患、膠原病、感染症、中毒性疾患</p> <p>【授業概要】 薬物アレルギー、アレルギー性鼻炎等のアレルギー性疾患、関節リウマチ、シェーグレン症候群等の膠原病、食中毒、破傷風等の感染症、さらに一酸化炭素中毒、フグ中毒等の中毒疾患について解説します。 【教科書ページ・参考文献】 p. 84 - p. 91 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストの該当部分を熟読した上で授業に臨んで下さい。授業では、重要なポイントを解説します。授業終了後に重要ポイントを復習し、知識を確かなものとして下さい。 【予習復習に必要な想定時間】 60-90分</p>
第11回	<p>臨床医学各論 V (第6章)・・・運動器疾患、皮膚疾患、婦人科・妊産婦疾患</p> <p>【key words】 運動器疾患、皮膚疾患、婦人科疾患、妊産婦疾患</p> <p>【授業概要】 日常の臨床の場で多くみられる腰痛症、変形性膝関節症等の運動器疾患、アトピー性疾患、蕁麻疹および熱傷等の皮膚疾患、さらに更年期障害、子宮筋腫等の婦人科・妊産婦疾患について解説します。 【教科書ページ・参考文献】 p. 92 - p. 103 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストの該当部分を熟読した上で授業に臨んで下さい。授業では、重要なポイントを解説します。授業終了後に重要ポイントを復習し、知識を確かなものとして下さい。 【予習復習に必要な想定時間】 60-90分</p>
第12回	<p>臨床医学各論 VI (第6章)・・・小児疾患、眼疾患、耳鼻咽喉疾患、メタボリックシンドローム</p> <p>【key words】 小児疾患、眼疾患、耳鼻咽喉疾患、メタボリックシンドローム</p> <p>【授業概要】 小児にみられる疾患、眼精疲労、緑内障等の眼疾患、メニエール病、突発性難聴等の耳鼻咽喉疾患、さらにメタボリックシンドロームについて解説します。 【教科書ページ・参考文献】 p. 103 - p. 114 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストの該当部分を熟読した上で授業に臨んで下さい。授業では、重要なポイントを解説します。授業終了後に重要ポイントを復習し、知識を確かなものとして下さい。 【予習復習に必要な想定時間】 60-90分</p>
第13回	<p>人口統計と疾病の変化(第7章)、健康状態と受療状況(第8章)、医療保障制度(第9章)</p> <p>【key words】 人口静態、世界の人口、人口動態、社会保障制度、医療保障、医療保険、老人医療、介護保険制度、国民医療費</p> <p>【授業概要】 さまざまな保健衛生事業を効率よく実施するために必要な人口統計、さらに医療保障制度、社会保障制度として医療保険、老人医療、介護保険制度そして国民医療費について解説します。 【教科書ページ・参考文献】 p. 115 - p. 139 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストの該当部分を熟読した上で授業に臨んで下さい。授業では、重要なポイントを解説します。授業終了後に重要ポイントを復習し、知識を確かなものとして下さい。 【予習復習に必要な想定時間】 30-60分</p>
第14回	<p>医療関係の職種(第10章)、医療施設の種類と現状(第11章)、保健医療対策(第12章)、医師法・薬事法・衛生法規(第13章)</p>

	<p>【key words】 医療関係の職種、医療施設の種類、保健医療対策、医師法、薬事法、衛生法規</p> <p>【授業概要】 将来協同してチーム医療を行う医師、歯科医師、看護師等の医療職について解説します。また、病院、診療所等の医療施設について学び、さらに保健医療対策、医療にまつわる法規についても解説します。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 p. 140 - p. 188</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストの該当部分を熟読した上で授業に臨んで下さい。授業では、重要なポイントを解説します。授業終了後に重要ポイントを復習し、知識を確かなものとして下さい。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 30-60分</p> <p>第15回 総まとめ、国家試験対策</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】 第14回までの授業で学んだ内容を、問題を解き解説する形式で総復習します。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 p. 1 - p. 188</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 第14回までに学んできた内容の総復習を行います。同時に定期試験対策にもなりますので、知識を確かなものとするよう、自身が修得できていない部分を明らかにして授業に臨んで下さい。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 60-120分</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	将来の医療従事者として、だれからも信頼され尊敬されるような真摯な姿勢で授業に臨んでください。他の方の聴講を妨げることをないように配慮してください。教室の座席については、学籍番号順に、指定された席に着席して授業に臨んでください。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	前もってテキストの該当する範囲を熟読し、わかりにくい部分を明確にした上で授業に臨んで下さい。授業では、テキストをもとに、さらに深い知識が得られるよう解説します。
オフィスアワー	授業終了後の30-60分ほど対応可能です。
評価方法	筆記による期末試験（100点満点） 試験は選択方式で、授業範囲内の過去の国家試験問題をもとに作成されます。（予定）
教科書	コメディカルのための専門基礎分野テキスト 医学概論 改訂7版 （中外医学社）
参考書	授業中に適宜紹介します。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <p>■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>かつて大学病院にて、医師として臨床医学および基礎医学研究に携わっていました。現在も一般病院において、臨床医学を中心に活動しています。施設および個人宅への訪問診療を通じて高齢者、障害を有する方に対する医療を実践しています。また、産業医として、一般企業で働く方々の健康の維持、増進等の産業医学分野にも関わっています。さらに、健康診断、人間ドックにも携わり、予防医療分野にも従事しています。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習) <input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/>グループワーク <input type="checkbox"/>プレゼンテーション <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク ■アクティブラーニングは実施していない <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育 <input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） <input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） <input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） ■情報リテラシー教育は実施していない <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 <input type="checkbox"/>その他 <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位(30)	必修
担当教員			
伊東順太			
人体の構造と機能及び心身の発達	理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 人体の構造と分類、特に筋系、関節および神経系について学び、運動に関係する基本的な解剖学的な構造を習得できるようになることを目的とする。</p> <p>〔到達目標〕</p> <p>①中枢神経の構造と機能および伝導路が説明することができる。 ②末梢神経のうち、体性神経（脳神経、脊髄神経）の構成と分布先が説明することができる。 ③末梢神経のうち、自律神経（交感神経、副交感神経）の構成と分布先が説明することができる。 ④骨格系、筋系および神経系の構造を機能と関連づけて説明することができる。</p>
授業の概要	生体観察を通して、人体の区分、各部の特徴および筋系と神経系、筋の神経支配について知り、理解できるようになることが必要である。また、解剖学実習、生理学実習、生理学、運動学の知識と双方向性の理解が必要となる。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(理学療法) (豊かな人間性) 真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(理学療法) (専門性の探求) 専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(理学療法) (専門的実践力) 心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	◎
(理学療法) (多職種協働) 対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(理学療法) (地域実践) 地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	
(作業療法) (豊かな人間性) 真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(作業療法) (専門性の探求) 専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(作業療法) (専門的実践力) 生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	◎
(作業療法) (多職種協働) 対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(作業療法) (地域実践) 地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション、神経系と筋系との関わり</p> <p>【key words】 中枢神経、脳神経、脊椎神経、etc神経系と筋系との関わりについて配布プリント神経のしくみと働きの図の理解・暗記</p> <p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第2回 脳と脊髄 -1 中枢神経系の全体的な構造、大脳と間脳の構造</p> <p>【key words】 中枢神経の全体的な構造について</p> <p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 トレーニングノート 脳葉の名称、大脳皮質にある機能局在の暗記</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第3回 脳と脊髄 -2 中脳、橋、延髄、小脳、脊髄の構造</p>
------	--

	<p>【key words】 中枢神経の全体的な構造について 【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 トレーニングノート 脳大脳基底核・大脳辺縁系の構造の暗記 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第4回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 脳と脊髄 -3 脳と脊髄のまとめ</p> <p>【key words】 中脳、橋、延髄、小脳、脊髄の構造について 【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 トレーニングノート 大脳核、脳幹の構造について暗記 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第5回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 脳と脊髄 -4 中脳、橋、延髄、小脳、脊髄の伝導路</p> <p>【key words】 中脳、橋、延髄、小脳、脊髄の伝導路について 【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 トレーニングノート 感覚系の上行路、運動系の下行路の復習 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第6回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 脊髄神経 -1 脊髄神経の構造とその枝</p> <p>【key words】 脊髄神経の構造とその枝について 【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 トレーニングノート ベル・マジヤンディーの法則、脊髄神経叢の暗記 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第7回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 脊髄神経-2、-3 頸神経叢、腕神経叢の構成とその枝</p> <p>【key words】 頸神経叢、腕神経叢の構成とその枝について 【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 トレーニングノート 腕神経叢の構成と枝について暗記 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第8回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 脊髄神経-4 腕神経叢の枝と支配筋</p> <p>【key words】 腕神経叢の枝と支配筋について 【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 トレーニングノート 腕神経叢の構成と枝、支配筋について暗記 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第9回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 脊髄神経-5 腕神経叢のまとめ</p> <p>【key words】 腰神経叢の構成とその枝、支配筋についてトレーニングノート p181 - 183大腿神経、閉鎖神経、伏在神経の暗記 【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第10回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 脊髄神経-6 肋間神経の構成とその枝、支配筋</p> <p>【key words】 仙骨神経叢の構成とその枝、支配筋について 【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 トレーニングノート 上殿神経、下殿神経、坐骨神経の暗記 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第11回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 脊髄神経-7 腰神経叢の構成とその枝、支配筋</p>

	<p>【key words】 坐骨神経の枝、支配筋について 【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 トレーニングノート 脛骨神経、内側足底神経、外側足底神経、総腓骨神経、浅腓骨神経、深腓骨神経の暗記 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 第12回 脊髄神経-8 仙骨神経叢の構造とその枝、支配筋 【key words】 肋間神経の構成とその枝、支配筋について 【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 トレーニングノート 皮節 (T5、T7、T10) の暗記 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 第13回 脊髄神経-9 坐骨神経の枝、支配筋 【key words】 脳神経について 【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 トレーニングノート 脳神経の名称の暗記 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 第14回 脊髄神経-10 腰神経総、仙骨神経叢のまとめ 【key words】 自律神経（交感神経、副交感神経）について 【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 トレーニングノート 自律神経の暗記 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 第15回 脊髄神経-11 脳神経、自律神経、試験勉強 【key words】 試験勉強について講義内容すべて試験勉強について 【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
受講生に関わる情報 および受講のルール	<p>〔受講生に関わる情報〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義の予習復習に十分な時間を割くこと。 ・講義資料を配付しますので、解剖トレーニングノートおよび教科書の該当ページを必ず参照すること。 <p>〔受講のルール〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業概要を必ず確認し、積極的に授業に臨むこと。 ・最前列から着席し、授業を受けやすい環境を作ること。 ・医療専門職及び対人サービス職として、出席時間の厳守および対象者が好感を持てる態度を身につけることは基本である。そのため態度や身だしなみ等が整っていない場合は、受講を認めないことがある。 ・授業の流れや雰囲気乱
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわ る情報	授業時に指示する。
オフィスアワー	授業終了後20分程度、対応可能。
評価方法	筆記試験（客観・論述）100%であり、60%を越えていることが必要である。しかし、総合評価には課題提出状況が良好であることが前提となる。
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 解剖学 野村巖【編】 医学書院 ・解剖トレーニングノート 竹内 修二（著） 医学教育出版社
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・ネッター解剖学アトラス Frank H. Netter（著） 南江堂 ・ネッター解剖生理学アトラス John T. Hansen（著） 南江堂 ・解剖学ワークブック 西川彰・小林直行（著）、野村巖（監） 医歯薬出版 ・プロメテウス解剖学アトラス解剖学総論・運動器系 坂井 建雄（著） 医学書院 ・カラーイラストで学ぶ 集中講義 解剖学 メジカルビュー社

<p>実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育</p>	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員が担当している <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> PBL(課題解決型学習) <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニングは実施していない <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 情報モラルに関する教育 <input type="checkbox"/> 課題解決のために必要な情報を探索するもの(図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) <input type="checkbox"/> 情報を分析評価し整理するもの(情報処理、情報整理法等) <input type="checkbox"/> 情報のアウトプットに関するもの(レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) <input checked="" type="checkbox"/> 情報リテラシー教育は実施していない <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input type="checkbox"/> e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 <input type="checkbox"/> その他 <p>その他の具体的内容</p>
---------------------------------	---

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位(30)	必修
担当教員			
笠松哲光			
人体の構造と機能及び心身の発達	理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 循環器、呼吸器、泌尿生殖器、消化器、内分泌器の基礎を身につけること、及び、専門科目に応用可能な知識を習得することを目的とする。</p> <p>〔到達目標〕 ① 循環器、呼吸器、泌尿生殖器、消化器、内分泌器の基礎を簡潔に説明出来るようになる。 ② 生理学全体を鳥瞰的に理解し、基本概念を全体の中での位置づけを意識して説明出来るようになる。 ③ 他の基礎科目・専門科目に応用することが出来るようになる。</p>
授業の概要	生理学はヒトの体の正常の機能を理解することを目的としており、疾病から正常状態への復帰を目指すリハビリテーションには不可欠である。しかし、生理学の領域は膨大で、未だ解明されていないことが多くある。リハビリテーションの実践に、いかに生理学の知識を活用していくのかを常に念頭に置いて、体系的に理解が進められるように授業を進めていく。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	◎
(理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	
(作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	◎
(作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	<p>第1回 心臓と循環①</p> <p>【key words】 血液の循環、心臓の興奮と刺激伝導系、心電図</p> <p>【授業概要】 血液の循環、心臓の興奮と刺激伝導系、心電図について講義・解説を行う。 教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んで予習しておくこと。 【教科書ページ・参考文献】 102-108 【課題・予習・復習・授業準備指示】 毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること 【予習復習に必要な想定時間】 120分</p> <p>第2回 心臓と循環②</p> <p>【key words】 血液の拍出と血圧、心周期、前負荷・後負荷と収縮性</p> <p>【授業概要】 血液の拍出と血圧、心周期、前負荷・後負荷と収縮性図について講義・解説を行う。 教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んで予習しておくこと。 【教科書ページ・参考文献】 109-114 【課題・予習・復習・授業準備指示】 毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること</p>
------	--

第3回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 90分</p> <p>心臓と循環③</p> <p>【key words】 血圧の調節、圧受容器反射、微小循環</p> <p>【授業概要】 心機能曲線、血圧の調節、微小循環と物質交換について講義・解説を行う。 教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んで予習しておくこと。 【教科書ページ・参考文献】 117-123</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 90分</p>
第4回	<p>心臓と循環④</p> <p>【key words】 静脈還流、ポンプ作用</p> <p>【授業概要】 静脈還流、臓器循環、リンパ循環について講義・解説を行う。 教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んで予習しておくこと。 【教科書ページ・参考文献】 123-127</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 90分</p>
第5回	<p>呼吸とガスの運搬 ①</p> <p>【key words】 ガス交換、呼吸筋</p> <p>【授業概要】 外呼吸と内呼吸、気道と肺胞、呼吸運動について講義・解説を行う。 教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んで予習しておくこと。 【教科書ページ・参考文献】 131-135</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 90分</p>
第6回	<p>呼吸とガスの運搬 ②</p> <p>【key words】 呼吸気量、ガス交換</p> <p>【授業概要】 呼吸気量、ガス交換とガスの運搬について講義・解説を行う。 教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んで予習しておくこと。 【教科書ページ・参考文献】 135-139</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 90分</p>
第7回	<p>呼吸とガスの運搬 ③</p> <p>【key words】 呼吸の調節、病的呼吸</p> <p>【授業概要】 呼吸の調節、病的呼吸について講義・解説を行う。 教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んで予習しておくこと。 【教科書ページ・参考文献】 138-142</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 90分</p>
第8回	<p>尿の生成と排泄①</p> <p>【key words】 尿の生成、クレアチニンクリアランス</p> <p>【授業概要】 腎臓の役割、腎臓の構造、尿の生成、クリアランス、について講義・解説を行う。 教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んで予習しておくこと。 【教科書ページ・参考文献】 144-145</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 90分</p>
第9回	<p>尿の生成と排泄②、酸塩基平衡①</p> <p>【key words】 排尿と排尿障害、アシドーシスとアルカローシス</p> <p>【授業概要】 排尿、尿の性状と排尿の異常、血漿のpH調節、アシドーシスとアルカローシスについて講義・解説を行う。 教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んで予習しておくこと。 【教科書ページ・参考文献】</p>

	<p>150-157 【課題・予習・復習・授業準備指示】 毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること 【予習復習に必要な想定時間】 90分 第10回 酸塩基平衡②、消化と吸収① 【key words】 嚥下、胃による消化 【授業概要】 消化器の役割、口腔内消化と嚥下、食道における食物輸送、胃の役割と消化、について講義・解説を行う。 教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んで予習しておくこと。 【教科書ページ・参考文献】 157-162</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること 【予習復習に必要な想定時間】 消化と吸収② 【key words】 各消化器と消化酵素、ホルモンの作用 【授業概要】 十二指腸における消化、空腸・回腸における消化と栄養素の吸収、大腸の役割、肝臓の役割、内分泌機能とホルモンについて講義・解説を行う。 教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んで予習しておくこと。 【教科書ページ・参考文献】 163-170</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第12回 内分泌① 【key words】 負・正のフィードバック、神経内分泌、内分泌腺とホルモンおよびその異常 【授業概要】 各腺から分泌されるホルモンの作用について講義・解説を行う。 教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んで予習しておくこと。 【教科書ページ・参考文献】 173-181</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること 【予習復習に必要な想定時間】 120分 第13回 内分泌②、代謝と体温① 【key words】 電解質コルチコイド、糖質コルチコイド、3大栄養素 【授業概要】 内分泌腺とホルモンおよびその異常、栄養素、エネルギー代謝 について講義・解説を行う。 教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んで予習しておくこと。 【教科書ページ・参考文献】 181-190</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること 【予習復習に必要な想定時間】 120分 第14回 代謝と体温②、運動生理 【key words】 基礎代謝量と代謝等量、体温の調節、筋収縮のエネルギー源、 【授業概要】 体温、 について講義・解説を行う。 教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んで予習しておくこと。 【教科書ページ・参考文献】 191-198、216-218</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第15回 生殖と発生、成長と老化、 【key words】 運動に伴う全身の変化、トレーニングの効果、成長と老化 【授業概要】 筋収縮のエネルギー源、運動に伴う全身の変化、トレーニングの効果、加齢変化、受精、着床、胎児の発生、成長と老化、筋力と持久力、について講義・解説を行う。 教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学を読んで予習しておくこと。 【教科書ページ・参考文献】 219-223、199-215</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること 【予習復習に必要な想定時間】 90分</p>
受講生に関わる情報 および受講のルール	[受講生に関わる情報] ・予習復習は必ず行うこと。

	<p>[受講のルール]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業概要を必ず確認し積極的に授業に臨むこと。 ・出席時間厳守 ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	授業時に指示する。
オフィスアワー	授業終了後20分程度、またはメールにて随時対応可能。
評価方法	選択式もしくは筆記式（論述含む）、小テスト、出席点の総合評価
教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第5版 岡田 隆夫／鈴木 敦子／長岡 正範 著、医学書院
参考書	シンプル生理学（改訂7版）、貴邑 富久子、根来 英雄、南江堂
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <p><input type="checkbox"/>実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習) <input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/>グループワーク <input type="checkbox"/>プレゼンテーション <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク ■アクティブラーニングは実施していない <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育 <input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） <input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） <input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） ■情報リテラシー教育は実施していない <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 ■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 <input type="checkbox"/>その他 <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	1単位(30)	必修
担当教員			
大竹一男			
人体の構造と機能及び心身の発達	理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 生理学の授業で学んだ知識を最大限に活用し、実習を通じて生体の仕組みをより深く理解する。 〔到達目標〕 ①人体の仕組みについての知識を習得し系統だてて説明できる。 ②実際に医療現場で使われている器具や装置を適切に扱うことができる。 ③お互い測定しあうことによって医療人としてのコミュニケーション能力を高めることができる。
授業の概要	実際の医療の現場で使われている器具や装置を使って、私たちの血圧、呼吸、体温、心電図を実際に測定したり、血液を顕微鏡で観察したり、尿試験紙による尿検査も行います。また私たちが食物を摂取することによってエネルギーを生み出し、消費し、排泄するまでの一連の過程についても学習します。また、PT・OTの領域で重要な視覚や聴覚についての仕組みについても学びます。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	
(理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	
(作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	
(作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	第1回	血圧測定の意義と方法について学ぶ。 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】
	第2回	【予習復習に必要な想定時間】 実際に水銀血圧計で血圧を測定し、その評価ができる。 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】
	第3回	【予習復習に必要な想定時間】 心電図の測定の意義と方法について学ぶ。 【key words】

	<p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
第4回	<p>実際に心電図計で心電図を測定し、その評価ができる。</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
第5回	<p>呼吸機能の測定の意義と方法について学ぶ。</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
第6回	<p>実際にスパイロメータで呼吸機能を測定し、その評価ができる。</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
第7回	<p>体温測定の意義と方法について学ぶ。実際に体温を測定し、その評価ができる。</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
第8回	<p>消化と吸収について学ぶ。消化管の運動（嚥下、蠕動運動、排便）について学ぶ。</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
第9回	<p>エネルギー産生について学ぶ。十二指腸、肝臓、膵臓、胆のうのネットワークについて学ぶ。</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
第10回	<p>体組成と腹囲測定の意義と方法について学ぶ。実際に体組成を測定し、その評価ができる。</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
第11回	<p>神経細胞の軸索のネットワークと脳の可塑性</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】</p>

	<p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第12回 血液について学ぶ。実際の血液像を顕微鏡で観察し、その評価ができる。 【key words】</p> <p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第13回 尿の生成と排尿のしくみについて学ぶ。実際に尿検査を実施し、その評価ができる。 【key words】</p> <p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第14回 視覚についての基礎を学ぶ。盲点、瞳孔の反射の確認、色盲試験を行い、その評価ができる。 【key words】</p> <p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第15回 聴覚についての基礎を学ぶ。音の周波数の違い、平衡感覚試験を行い、その評価ができる。 【key words】</p> <p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
受講生に関わる情報 および受講のルール	実習の実施に当たっては怪我のないように十分に注意し指導教員の指示に従うこと。実習で得られた検査結果を基に報告書（ノート）を作成し期限内に提出すること。その他、実習器具、検査値、感染性一般ゴミの取り扱いに注意し指導教員の指示に従うこと。一部の实習項目で、体操服での参加があります（体温測定と血圧測定）。
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわ る情報	授業時に指示する。
オフィスアワー	授業前後10分程度
評価方法	実習レポート30% 期末レポート試験70%
教科書	生理学の講義で使用する教科書を持参すること
参考書	その都度指示する。
実務者経験/アク ティブラーニング/ リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <p>■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <p>■PBL(課題解決型学習)</p> <p>□ディスカッション・ディベート</p> <p>■グループワーク</p> <p>□プレゼンテーション</p> <p>■実習、フィールドワーク</p> <p>□アクティブラーニングは実施していない</p> <p>情報リテラシー教育</p> <p>□情報モラルに関する教育</p> <p>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）</p> <p>■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）</p>

	<ul style="list-style-type: none">■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）□情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 <ul style="list-style-type: none">■ICTを活用した双方向型の授業の実施□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援□その他 その他の具体的内容
--	--

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	1単位(15)	必修
担当教員			
榊原清			
人体の構造と機能及び心身の発達	理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 ヒトの神経系の発達と運動発達、認知・精神機能及び社会性の発達を学び、リハビリテーションに携わるものとしてQOLの視点から対象者の発達区分や状況に応じた対応ができるようになることを目的とする。</p> <p>〔到達目標〕 ①発達の諸段階と発達課題について説明できる。 ②ヒトの発達における身体、認知機能の発達について理解し、説明することができる。 ③心理、社会生活活動の発達について理解し、説明することができる。 ④育ちを支える社会機構について理解し、説明することができる。</p>
授業の概要	ヒトの発達は脳を中心とする神経系の発達と外部からの情報を入力することでなされ、様々な機能や行動を学習し成熟する。発達を理解することでリハビリテーションにおける対象者の状況や目標を適切に把握するため、発達過程や発達課題について学ぶ。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	◎
(理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	
(作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	◎
(作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション、人間発達概念</p> <p>【key words】 発達概念・発達と成長・ライフステージ・胎芽期・胎児期</p> <p>【授業概要】 人間発達期の区分、発達の原則について学ぶ。 人体の不思議「生命誕生」の映像を観て、胎芽期から胎児期の発達について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 p1-24</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 シラバスを印刷し、ポケットファイルに綴じてくること。 授業の終わりに今回の授業内容の確認小テストを行うのでしっかり聴講すること。 人間発達期の区分、発達の原則について復習しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p> <p>第2回 胎芽期から胎児期の発達過程、反射、神経系の発達</p> <p>【key words】 胎生期・胚芽期・胎芽期・胎児期</p> <p>【授業概要】 受精から出生までの成長・発達の流れについて学ぶ。</p>
------	---

	<p>胎生期の発達状況と出生後の発達との関係について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 p11-12 配布資料「受精から出生まで」 【課題・予習・復習・授業準備指示】 p11-12の表5. 胎児の発達過程について予習してくる。 授業の終わりに今回の授業内容の確認小テストを行う。間違えたところの振り返りしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p> <p>第3回 新生児期・乳児期の発達、反射、神経系の発達 【key words】 新生児期・乳児期・正常運動発達・原始反射</p> <p>【授業概要】 新生児期・乳児期（0～6か月）の粗大運動の正常発達、原始反射の関係について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 p77-88、p89-103 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書p77-103に目を通し、腹臥位の発達の流れについてイメージしておくこと。 授業の終わりに今回の授業内容の確認小テストを行う。間違えたところの振り返りしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>
	<p>第4回 乳児期の発達、反射、神経系の発達 【key words】 乳児期・正常運動発達・原始反射反応</p> <p>【授業概要】 乳児期（7か月～12か月）と6歳までの粗大運動の正常発達、原始反射・反応の関係について学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 p105-126、p127-137、p139-149 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書p105-149に目を通し、腹臥位から立位までの発達、粗大運動発達の流れについてイメージしておくこと。 次回の授業の始まりに今回の授業内容の確認テストを行うので復習しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 90分</p> <p>第5回 正常運動発達の復習、出生後の成長 【key words】 正常運動発達・在胎期間と出生後の成長</p>
	<p>【授業概要】 正常運動発達についての復習テストを行う。 出生後の身長、体重、頭囲、歯の成長について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 p77-88、p89-103、p105-126、p127-137、p139-149、p2-5 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回の授業の確認小テストを行うので姿勢ごとの発達の流れについて復習して参加すること。 p63表1. 原始反射、姿勢反射・反応の中核レベルと出現・消失（統合）時期について目を通して くること。 【予習復習に必要な想定時間】 90分</p> <p>第6回 姿勢反射／反応 【key words】 原始反射・姿勢反射／反応・出現／消失（統合）</p> <p>【授業概要】 神経系の成熟と姿勢反射／反応の発達、および運動発達との関連について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 p61-76 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回の授業の確認小テストを行うので姿勢ごとの発達の流れについて復習して参加すること。 p63表1. 原始反射、姿勢反射・反応の中核レベルと出現・消失（統合）時期について目を通して くること。 【予習復習に必要な想定時間】 90分</p>
	<p>第7回 感覚・知覚・認知・社会性の発達 【key words】 感覚・知覚・認知・社会性</p> <p>【授業概要】 感覚・知覚・認知・社会性の発達について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 p201-210 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書p201-210に目を通して 授業の終わりに今回の授業内容の確認テストを行う。間違えたところの振り返りしておく こと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>

	<p>第8回 学童期・青年期・成人期・高齢期の発達</p> <p>【key words】 学童期・青年期・成人期・高齢期</p> <p>【授業概要】 学童期・青年期における行動について学ぶ。 青年期・成人期・高齢期における発達について（身体・生理的機能、運動的機能、心理社会的機能）学ぶ。 高齢期では、加齢の影響を受けやすいばかりでなく、受けにくい機能もあることを学ぶ。 ヒトは生涯発達する生き物であることを学ぶ。 期末試験対策について説明する。 【教科書ページ・参考文献】 p211-236 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書p211-236に目を通してここと。 授業の終わりに今回の授業内容の確認テストを行う。間違えたところの振り返りをしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 120分</p>
<p>受講生に関わる情報 および受講のルール</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書、ノート、配布資料を綴じたファイルを持参すること。 ・配布資料はポケットファイル（20p）に整理して綴じ込むこと。 ・欠席した場合は、出校後速やかに、授業内容の確認、配布資料の受け取りに来ること。 ・授業の進行を妨げる行為、雰囲気乱す行為、常識を欠く行為は厳禁。
<p>毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状況 の確認方法</p>	<p>コメントカード方式、確認小テスト</p>
<p>授業外時間にかかわる 情報</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の最後の時間、または次の授業の初めの時間に確認小テストをするため、授業内容の復習をしておくこと。 ・次の回の授業内容の教科書の該当ページを読んで授業の臨むこと。
<p>オフィスアワー</p>	<p>授業終了後</p>
<p>評価方法</p>	<p>筆記試験100%</p>
<p>教科書</p>	<p>上杉雅之監修：イラストでわかる人間発達学。医歯薬出版。2015</p>
<p>参考書</p>	<p>福田恵美子編集：コメディカルのための専門基礎分野テキスト 人間発達学 2版。中外医学社。2012 細田多穂監修：小児理学療法学テキスト。南江堂。2018 上杉雅之監修：イラストでわかる小児理学療法学演習。医歯薬出版。2019</p>
<p>実務者経験/アクティブラーニング/ リテラシー教育</p>	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> ■実務経験のある教員が担当している <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>小児領域で常勤として16年間、非常勤として15年間の実務経験を有する。特に、重症心身障害児（者）に対する地域（施設・在宅）でのリハビリテーションを数多く実践してきた。また、群馬県下において複数の市町村の発達相談・機能訓練事業、園訪問による5歳児発達検診事業にも従事してきた。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>PBL（課題解決型学習） <input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート ■グループワーク <input type="checkbox"/>プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育 <input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） <input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） <input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） ■情報リテラシー教育は実施していない <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 <input type="checkbox"/>その他 <p>その他の具体的内容</p> <p>発達段階の様子を示した映像・画像を用いた授業を展開します。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位(30)	必修
担当教員			
橋本広信			
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>【授業の目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理学療法士・作業療法士を目指す者として、臨床心理学領域における国試問題に対処できる基礎知識を習得する。 ・心の健康を阻害する問題を多面的に理解し、その対処のあり方の基本を臨床心理学的な角度から理解できる。 ・リハ専門職が会う「患者」一人ひとりが抱え得る心の問題を理解し、臨床心理学的な見方から心を支えるための基礎知識を学ぶ。 <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①代表的な心理療法の理論と臨床の実際について、その基礎を理解できる。 ②リハビリ患者を含め、それ以外の心理的な支援を必要とする人が抱える生きづらさや心理的課題を理解できる。 ③心理的な課題を抱えた人が歩む、回復と成長のプロセスとその支援方法を思い描くことができる。 		
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床心理学において積み上げられてきた人の心に関する諸理論を解説する。 ・そして、多様な角度から考えられた心の回復や成長のプロセスを学ぶことで、それを引き出す対人支援の基本的あり方を理解できるよう授業を行う。 ・授業全体を通し、「心が回復する」、「人が成長する」ということの意味や意義を考えられるように、具体的事例や障害当事者の方の授業参加を取り入れ、受講生が主体的に考える力を高められるような授業を目指していく。 		
各学科、専攻、コースにおけるDP			科目における重要度
(理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			○
(理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			
(理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる			◎
(理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
(作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			○
(作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			
(作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。			◎
(作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
授業計画	第1回	<p>臨床心理学と障害受容：科目オリエンテーション</p> <p>【key words】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・想像力、共感、身体と心のインタラクション、フロイト、ロジャーズ、行動主義、DSM、障害受容 <p>【授業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の最初として、「臨床」という言葉を手掛かりにしながら、解決に向かう答えが簡単に得られない問題と向かいあう人の心をどう受け止めていくのか。臨床心理学の誕生の経緯と歴史上の展開、また、その基本的な考え方の変遷について解説する。また、リハ専門職が会う患者の多くが、答えの出ない問題、すなわち「なぜ障害を負ってまで生きなければならないのか」という問いと出会う。この問題と向き合い個々の患者也に消化していく過程として障害受容のプロセスを学ぶ。 <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>教科書10-11、64-71頁、78-79頁、教科書78-79頁、田島明子編著(2015)『障害受容からの自由』(シービーアール)</p>	

	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 大学入学直後に交通事故で車いす生活となり、希望の進路をあきらめて“うつ病”と診断された人が、あなたに「なぜ私はあの時死ななかつたのでしょうか？」と質問した場合のあなたなりの答えを考えておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習2時間、復習2時間</p> <p>第2回 リハビリ患者の心理① 患者の立場から、知ってほしいこと、わかってほしいこと</p> <p>【key words】 リハビリ体験、難病、障害、障害受容</p> <p>【授業概要】 たくさんの心理療法やアセスメントを学ぶまえに、実際にリハビリを必要とした患者の心理について、zoomを使って、直接語っていただく機会を作る。患者の臨床に将来断つ者として、リハビリ患者の抱える心の課題についての感性を高めたい。患者となった日から、一人ひとりが様々な過程を経ながら、人生と生活と命のあり方を見つめ、生き方の再構築をしている。そうした患者の具体的な体験を通して、リハビリ患者の心理を学ぶ視野を広げる。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 【参考文献】山崎明夫（2016）『にほんごがこんなふうにもえたのよ！』（株QOLサービ ス）、千秋実（1979）、『生きるなり』（文芸春秋）、池ノ上寛太（2009）『リハビリの結果と責任』（三輪書店）等</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 参考文献として挙げたもの以外にも、ネット等でリハビリを必要とする患者となった方々の手記、体験記録があるので、一人の方を選んで、印刷しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間</p>
	<p>第3回 フロイトの精神分析療法</p> <p>【key words】 催眠、クライエント、フロイト、無意識、夢分析、自由連想法</p> <p>【授業概要】 20世紀初頭に登場した、臨床心理学の原点ともいえるフロイトの理論と、その延長に理論家された「防衛機制」について学ぶ。「無意識」を発見することで、人とその心の見方をがらりと変えたフロイトの心の見方を確認し、薬も物理療法も用いない、言葉による心理療法としての精神分析を解説する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書104-105<small>頁</small></p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 さらに、人が自らの心を気づかないうちに守ろうとする防衛機制について、例を挙げながら学んでいく。 防衛機制は国試頻出であるので、事前によく予習しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間</p>
	<p>第4回 フロイト以後の精神分析の流れと防衛機制</p> <p>【key words】 アンナ・フロイト、自我心理学、遊戯療法、メラニー・クライン、対象関係論、ドナルド・ウィニコット、移行対象、ユング、アドラー、防衛機制（適応規制）</p> <p>【授業概要】 フロイト以降の精神分析の大きな流れや展開の仕方について解説する。また、そうした精神分析が広がり、無意識の働きが浸透する状況で理解が広まった、「防衛機制」について、例を挙げながら学ぶ。なお、防衛機制は、国試頻出のテーマであるので、心の守り方の違いについてよく理解すること。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書104-105、72-73<small>頁</small></p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 学んだ防衛機制について、復習をしながら、ネット等で事例を探しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間</p>
	<p>第5回 ロジャーズの人格理論と来談者（クライエント）中心療法</p> <p>【key words】 カール・ロジャーズ、自己実現傾向、傾聴、自己一致（純粋性）、肯定的関心、共感的理解</p> <p>【授業概要】 現代の「カウンセリング」の生みの親ともいべきロジャーズが提唱した心理療法の基礎を学ぶ。本来人は、ただ苦しみ悩むだけの弱い存在ではなく、すべての人に「自己実現への動機」に向かう強い心が備わっているという考え方にに基づき彼が提唱した臨床心理学上の基本原理を学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書112-113<small>頁</small></p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 グループワークなどをしながら理解を深めたい。あらかじめワークシートが課された場合、事前に記入をしておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間</p>
	<p>第6回 臨床心理支援のキー概念と支持的精神療法</p> <p>【key words】 共感、傾聴、ラポール、カタルシス、転移、逆転移、正の転移（陽性転移）、負の転移（陰性転移）</p> <p>【授業概要】 臨床心理の対象となる人の基本的な心情を理解し、心を支える立場として認め、患者やクライエントと良い関係を築くために重要な基本的態度について学ぶ。いずれも、フロイトの精神分析やロジャーズの来談者中心療法に関連する内容となるので、復習も兼ねて、キー概念について学んでいく。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p>

第7回	<p>教科書74-75、76-77[※]、114-115[※] 【課題・予習・復習・授業準備指示】 転移、逆転移は、理解が難しい概念でもあるので、予習を特にしっかりしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間</p> <p>心理アセスメント①：人格検査（質問紙法） 【key words】 構造化面接、半構造化面接、異常と不適応、生物-心理-社会モデル、質問紙法人格検査、矢田部ギルフォード検査（Y-G検査）、ミネソタ多面人格目録（MMPI）、コーネル・メディカル・インデックス（CMI）他 【授業概要】 心は目に見えるものではなく、行動や態度、表情や語りなど、心の働きが表現されたものを通してしか理解することができない。そうした前提に立ちながら、現状を把握したり、状況の変化を見極めるためにこれまでに開発され実施されてきた多くの心理アセスメントについて学ぶ。心を客観的に理解し、ある人の内面世界を知る手掛かりの一つとして、今回は、代表的な質問紙による人格検査を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】</p>
第8回	<p>教科書80-88[※] 【課題・予習・復習・授業準備指示】 心理検査は国試頻出である。国家試験の過去問題を調べ、どのように出題されているかを確認しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間</p> <p>心理アセスメント②：人格検査（作業検査法、投影法） 【key words】 投影法人格検査、ロールシャッハ・テスト、主題統覚検査（TAT）、文章完成法テスト（SCT）、HTPテスト、バウムテスト、風景構成法、内田クレペリン検査、ベンダー・ゲシュタルト・テスト他 【授業概要】 前回の続きとして、心の全体や無意識までも含む深い領域の動きをとらえるための投影法の人格検査を学ぶ。また、質問紙でも投影法でもなく、何らかの作業活動を通して人格の一側面を捉えようとする作業検査法まで学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】</p>
第9回	<p>教科書14-31[※] 【課題・予習・復習・授業準備指示】 重要な多くの検査が出てくるので、あらかじめ予習をしっかりとしておくこと。また国試頻出のテーマでもあるので、国家試験でどのように出題されているかを確認しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間</p> <p>知能検査・認知機能検査、発達検査 【key words】 ・ビネー式知能検査、ウェクスラー式知能検査（WPPSI、WISC、WAIS）、K-ABC、三宅式記憶力検査、ベントン視覚記憶検査、HDS-R、MMSE、WCST 【授業概要】 知能や認知上の個人的特徴は、その人の生き方や判断、行動のあり方に大きな影響を及ぼす。一見しただけではわからない個人の行動の特徴を知ることで、何がその人の生きづらさとなっているかを理解することにもつながる。ここでは、こうした知能や認知機能の個人的特徴を客観的に検査し、把握するための様々な方法について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】</p>
第10回	<p>教科書90-91[※]、94-95[※] 【課題・予習・復習・授業準備指示】 知能検査は国試頻出テーマでもあるので、よく復習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間</p> <p>行動療法の起源と行動療法の諸技法 【key words】 ウォルピ、系統的脱感作法、不安階層表、トークンエコノミー法）、シェイピング法、消去法、タイムアウト、レスポンス・コスト法、過剰修正法、嫌悪療法、自己監視法、自己強化法等 【授業概要】 学習理論に基づいて、問題となっている行動に焦点を当て、改善を目指す行動療法について学ぶ。精神分析やロジャーズの考え方と大きく異なる原理に基づく心理療法であることを理解し、その有効性と限界を考える。また、行動療法は多くの技法が開発されているので、それらを整理しながら解説する。 【教科書ページ・参考文献】</p>
第11回	<p>教科書96-99[※] 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習3時間、1時間 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間</p> <p>認知行動療法とその他の行動論的技法 【key words】 ・ベック、抑うつ尺度、エリスの論理情動療法（RET、REBT）、ベックの認知療法、マイケンバウムの自己教示訓練、自律訓練法（シュルツ）、バイオフィードバック、SST 【授業概要】 ・人生で出会う辛く苦しい出来事や不適応状況に対し、それをどう捉えているかという「認知過程」に着目し、適応的な対処が出来るようになることを目指す認知行動療法（CBT）について学習する。また、行動療法や認知行動療法と関連し、行動もしくは身体に働きかけることで心身のリラクゼーションをもたらす技法など、行動論的技法についても学んでいく。 【教科書ページ・参考文献】</p>

	<p>こと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間</p> <p>第12回 内観療法・森田療法：日本的な発想に基づく心理療法を学ぶ 【key words】 内観、身調べ、ヒポコンドリー基調、絶対臥褥、日記指導、作業活動</p> <p>【授業概要】 ・二人の日本人が創始した二つの心理療法を扱う。 ・時として人は、自分の中から生じる「不安」や何らかの「身体症状」にとらわれてしまうことがある。原因がはっきりとしなくても、なぜか自分を認められなくなったり、満たされない思いに振り回されて生きてしまうこともある。こんな、生きづらい状態からどうしたら逃れられるのか。今回は、こうした問題に正面から独自に取り組んだ二人の日本人と彼らから生まれた心理療法について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書56-66頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題として、この授業の前にワークシートを配布するので、それに沿って「想定書簡法」などを実施し、ワークシートを記入し提出できるようにしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間</p> <p>第13回 絵画療法、箱庭療法 【key words】 HTPテスト、バウムテスト、風景構成法、スクリブル法、スクウィグル法、箱庭療法、河合隼雄 【授業概要】 ・心は言葉や絵や動作など、身体や動作などに表現をされて、他者と共有できるものになる。心理的な機能不全に陥るとこうした表現が滞りがちになるが、何らかの表現活動を心理療法の道具として活用するのが芸術療法になる。ここでは、代表的な絵画による表現療法を解説する。また、日本で発展し非常によく用いられる箱庭療法について解説する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書108-109頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 キーワードについて予習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習2時間、復習2時間</p> <p>第14回 人とともに回復を目指す心理療法：心理劇、SST、家族療法 【key words】 感受性訓練法、心理劇（モレノ）、SST（リバーマン）、自助グループ、SST、家族療法、IP 【授業概要】 人の問題を抱えた人に対して、あえて人と関わる場を作ることで回復を目指す心理療法がある。人の中にいてこそ引き出される回復力を利用する様々な心理療法を学ぶことで、集団のもつ特性や力を活かすあり方を理解する。また、家族のつながりの中で問題が誰かの心に抱え込まれているような場合、家族全体のシステムが病んでいると考えることもできる。後半は、家族システムの回復を目指す家族療法を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書110-111頁、116-117頁、プリント 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特にSSTは作業療法としても実施することがあるので、ネット等で予習をしておくこと。簡単なワークとしてできるだけ実施できるようにする予定 【予習復習に必要な想定時間】 予習2時間、復習2時間</p> <p>第15回 交流分析 【key words】 バーン、デュセイ、エゴグラム、PAC理論、交流パターン分析、ゲーム分析、脚本分析 【授業概要】 ・フロイトの精神分析理論を簡略化しつつ、人と人が関わるところで生まれる交流（interaction）に注目し、人の心に抱え込まれた生きる様式（ライフスタイル）を明らかにする交流分析を最後に学ぶ。リハ専門職として、これから多くの患者との交流をしていく上でも、自分の交流パターンを知っておくことは有益であろう。時間があれば、国家試験問題の過去問を解く。 【教科書ページ・参考文献】 教科書110-111頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の記載は短いので、配布資料を中心に解説する。あらかじめ、ネット等で予習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間</p>
<p>受講生に関わる情報 および受講のルール</p>	<p>・国家試験に関連する科目であるが、それ以上に、医療現場で関わる方々の心の動きや心の回復につながる科目として、真剣に取り組むこと。 ・毎回の講義の中で、実際の患者と対話をするような姿勢を磨いてもらいたい。そのため、私語が多かったり、関心が薄い態度をとったり、授業の雰囲気や乱したりする行為には厳しく指導する。 ・悩みながら生きていく人や、心の問題を抱える人に対して、尊厳を持って向き合う姿勢を求める。 最低限、自分が人の心の学習に対して誠実に取り組んでいるときちゃんとと言える程度の態度は求める。 ・評価方法にある通り、3回程度小レポートや感想文を課す。それぞれ評価の対象になるので、必ず期限内に提出すること。</p>
<p>毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状況 の確認方法</p>	<p>資料を配布するスレッドへの返信を授業後30分以内に行うこと。出席の確認も兼ねるので、提出がない場合欠席扱いとする。</p>
<p>授業外時間にかかわる 情報</p>	<p>・毎回の授業では、シラバスをもとに授業に出てくる重要人物や理論について授業前に調べ、ノートに整理しておくこと。 ・毎年講義の後半に、リハビリ患者を代表してゲスト講師をお呼びして、学生と対話をしながら、</p>

	「リハビリ患者の心理」について学んでいく。一人一人が患者の方々に、専門職を目指すものとして誠実に向かい合っていける態度を養ってもらいたい。
オフィスアワー	・授業後に教室か非常勤講師控え所にて声をかけること。メールでの質問は随時受け付ける。 hashimoto@shoken-gakuen.ac.jp
評価方法	〈総合評価〉総合得点60～69点：C 70～79：B 80～89：A 90点以上：S で評価。 〈評価割合〉期末試験100点を基本とする。小レポート・感想文等提出物はインセンティブ（報奨制度・点を上積みする）として扱う。20点を上限とする。
教科書	内山 靖・藤井浩美・立石雅子（編著）（2020）『リハベーシック 心理学・臨床心理学』（医歯薬出版）
参考書	・窪内節子・吉武光世（2003）『やさしく学べる心理療法の基礎』（培風館） ・松島恭子（2004）『臨床実践からみるライフサイクルの心理療法』（創元社） その他適宜指示をする。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <p><input type="checkbox"/>実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <p><input type="checkbox"/>PBL（課題解決型学習）</p> <p>■ディスカッション・ディベート</p> <p>■グループワーク</p> <p><input type="checkbox"/>プレゼンテーション</p> <p>■実習、フィールドワーク</p> <p><input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</p> <p>情報リテラシー教育</p> <p><input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育</p> <p><input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）</p> <p><input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）</p> <p><input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）</p> <p>■情報リテラシー教育は実施していない</p> <p>ICTの活用</p> <p><input type="checkbox"/>ICTを活用した双方向型の授業の実施</p> <p><input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援</p> <p>■その他</p> <p>その他の具体的内容</p> <p>zoomの機能を用いて双方向的に授業が行えるような部分を設けていく。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位(30)	必修
担当教員			
神谷誠			
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修	社会福祉主事任用資格指定科目	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 第4の医学といわれるリハビリテーション医学の成り立ち、背景を理解し、対象とする疾患の病態生理ならびに解決方法を、簡潔にかつ的確に述べられること。</p> <p>〔到達目標〕 ①痛みや機能障害発生のメカニズムを病態生理学的に説明できる。②診断にあたっての手順とその所見が説明できる。③治療方法の根拠と手順が説明できる。④治療前後の病態の変化が観察、理解、明示できる。</p>
授業の概要	<p>2年次以降に展開される、専門科目や実習で必要となるリハビリテーション医学の内容は、広範囲にわたり、膨大な知識が必要となる。テキストは、基礎医学、臨床医学を学習している事が前提に記載されており、1年次の知識量ではやや難解である。授業では、第1章から第3章の基礎医学的な内容を取り扱い、各項目について要点のみ簡潔に解説する。4章の臨床医学的事項は、2年次以降に学習する各専門科目および実習時の参考書として頂きたい。授業中に、国家試験問題についても触れる。</p>

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	○
(理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	◎
(理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	
(作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	○
(作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	◎
(作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	<p>第1回 リハビリテーション医学・医療の概要 I 【key words】 歴史、概念、急性期、回復期、維持期 【授業概要】 リハビリテーション医学・医療の成り立ちと発展、理念と障害、急性期・回復期・維持期。 【教科書ページ・参考文献】 最新リハビリテーション医学 第3版 P2-P19 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書を一読する。予習として要点をノートにまとめ授業にのぞむ。復習として授業内容をノートに記載する。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間+復習30分X4回 合計3時間前後</p> <p>第2回 リハビリテーション医学・医療の概要 II 【key words】 保険、医療、福祉、工学 【授業概要】 保険・医療・福祉の連携、リハビリテーション工学の概要。 【教科書ページ・参考文献】 最新リハビリテーション医学 第3版 P20-P30 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
------	--

第3回	<p>教科書を一読する。予習として要点をノートにまとめ授業にのぞむ。復習として授業内容をノートに記載する。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間+復習30分X4回 合計3時間前後 リハビリテーション診療Ⅰ</p> <p>【key words】 診療手順、ADL 【授業概要】 リハビリテーション診療の手順、ADL評価。 【教科書ページ・参考文献】 最新リハビリテーション医学 第3版 P32-P45 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書を一読する。予習として要点をノートにまとめ授業にのぞむ。復習として授業内容をノートに記載する。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間+復習30分X4回 合計3時間前後</p>
第4回	<p>リハビリテーション診療Ⅱ</p> <p>【key words】 画像診断、神経伝導検査 【授業概要】 画像診断、神経伝導検査。 【教科書ページ・参考文献】 最新リハビリテーション医学 第3版 P46-P60 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書を一読する。予習として要点をノートにまとめ授業にのぞむ。復習として授業内容をノートに記載する。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間+復習30分X4回 合計3時間前後</p>
第5回	<p>リハビリテーション診療Ⅲ</p> <p>【key words】 筋電図、病巣診断、機能予後診断、チーム医療、リハ医、理学療法 【授業概要】 筋電図、病巣診断と障害の種類、機能予後診断、チーム医療、リハ医の役割、理学療法。 【教科書ページ・参考文献】 最新リハビリテーション医学 第3版 P55-P71 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書を一読する。予習として要点をノートにまとめ授業にのぞむ。復習として授業内容をノートに記載する。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間+復習30分X4回 合計3時間前後</p>
第6回	<p>リハビリテーション診療Ⅳ</p> <p>【key words】 作業療法、言語聴覚療法、在宅リハビリテーション、QOL、障害者心理 【授業概要】 作業療法、言語聴覚療法、在宅リハビリテーション、QOL評価、障害者心理と障害受容。 【教科書ページ・参考文献】 最新リハビリテーション医学 第3版 P71-P82 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書を一読する。予習として要点をノートにまとめ授業にのぞむ。復習として授業内容をノートに記載する。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間+復習30分X4回 合計3時間前後</p>
第7回	<p>障害の病態生理と評価・治療Ⅰ</p> <p>【key words】 廃用症候群、中枢神経系 【授業概要】 廃用による障害、運動制御に関与する中枢神経系。 【教科書ページ・参考文献】 最新リハビリテーション医学 第3版 P84-P98 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書を一読する。予習として要点をノートにまとめ授業にのぞむ。復習として授業内容をノートに記載する。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間+復習30分X4回 合計3時間前後</p>
第8回	<p>障害の病態生理と評価・治療Ⅱ</p> <p>【key words】 運動障害、歩行障害 【授業概要】 運動障害の種類・評価・治療、歩行障害。 【教科書ページ・参考文献】 最新リハビリテーション医学 第3版 P98-P111 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書を一読する。予習として要点をノートにまとめ授業にのぞむ。復習として授業内容をノートに記載する。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間+復習30分X4回 合計3時間前後</p>
第9回	<p>障害の病態生理と評価・治療Ⅲ</p> <p>【key words】 循環障害、呼吸障害 【授業概要】 循環機能障害、呼吸の障害。 【教科書ページ・参考文献】</p>

第10回	<p>最新リハビリテーション医学 第3版 P112-P128 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書を一読する。予習として要点をノートにまとめ授業にのぞむ。復習として授業内容をノートに記載する。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間+復習30分X4回 合計3時間前後</p> <p>障害の病態生理と評価・治療IV 【key words】 摂食嚥下障害、排尿障害 【授業概要】 摂食嚥下障害、排尿障害。 【教科書ページ・参考文献】</p>
第11回	<p>最新リハビリテーション医学 第3版 P129-P147 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書を一読する。予習として要点をノートにまとめ授業にのぞむ。復習として授業内容をノートに記載する。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間+復習30分X4回 合計3時間前後</p> <p>障害の病態生理と評価・治療V 【key words】 褥瘡、痙縮・固縮 【授業概要】 褥瘡、痙縮・固縮。 【教科書ページ・参考文献】</p>
第12回	<p>最新リハビリテーション医学 第3版 P148-P162 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書を一読する。予習として要点をノートにまとめ授業にのぞむ。復習として授業内容をノートに記載する。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間+復習30分X4回 合計3時間前後</p> <p>障害の病態生理と評価・治療VI 【key words】 記憶障害、失行、失認、失語、言語障害 【授業概要】 記憶障害、失行、失認・失語、言語障害。 【教科書ページ・参考文献】</p>
第13回	<p>最新リハビリテーション医学 第3版 P163-P176 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書を一読する。予習として要点をノートにまとめ授業にのぞむ。復習として授業内容をノートに記載する。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間+復習30分X4回 合計3時間前後</p> <p>障害の病態生理と評価・治療VII 【key words】 注意障害、遂行機能障害、認知症 【授業概要】 注意障害、遂行機能障害、認知症。 【教科書ページ・参考文献】</p>
第14回	<p>最新リハビリテーション医学 第3版 P177-P187 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書を一読する。予習として要点をノートにまとめ授業にのぞむ。復習として授業内容をノートに記載する。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間+復習30分X4回 合計3時間前後</p> <p>障害の病態生理と評価・治療VIII 【key words】 フレイル、老年症候群、サルコペニア、発達障害 【授業概要】 加齢による障害、発達障害。 【教科書ページ・参考文献】</p>
第15回	<p>最新リハビリテーション医学 第3版 P188-P202 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書を一読する。予習として要点をノートにまとめ授業にのぞむ。復習として授業内容をノートに記載する。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間+復習30分X4回 合計3時間前後</p> <p>障害の病態生理と評価・治療IX 【key words】 ED、補装具 【授業概要】 障害者の性機能、補装具（上肢・下肢・体幹装具、車椅子、シーティング）。 【教科書ページ・参考文献】</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<p>授業中の私語は厳禁とする。注意をしても守れない者は、退室させる。教室の座席については、学籍番号順に、指定された席に着席して授業に臨むこと。集中して授業を聞き取ることが必須となる。自分の授業前の作業が、的確であったか否かの確認とな</p>

	る。さらに派生する重要事項も吸収することが必要で、1時間半の集中を要求する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	教科書を一読し予習しておくこと。授業でその内容を確認して、さらに追加内容を復習すること。
オフィスアワー	授業終了後の休憩時間。
評価方法	筆記試験による期末試験。
教科書	最新リハビリテーション医学 第3版 江藤文夫 理宇明元 監修 医歯薬出版株式会社
参考書	理学療法士 作業療法士 国家試験問題
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> ■実務経験のある教員が担当している <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>日本体育協会公認スポーツドクター</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習) <input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/>グループワーク <input type="checkbox"/>プレゼンテーション <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク ■アクティブラーニングは実施していない <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育 <input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの(図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) <input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの(情報処理、情報整理法等) <input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの(レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) ■情報リテラシー教育は実施していない <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 ■その他 <p>その他の具体的内容</p> <p>zoomにて講義を行う場合もある。また、Webポータルにて学生の質問を受ける。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	2単位(30)	必修
担当教員			
栗原卓也			
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 筋骨格系疾患の痛み、機能障害を訴える患者の体の異常を的確に把握し、その現象（病態生理）をわかりやすく説明できるようになることである。その上で、その異常（痛みや機能障害）を改善するためには、どのような方法をとればよいのか説明できるようになることである。</p> <p>〔到達目標〕 ①痛みや機能障害発生のメカニズムを病態生理学的に説明できる。 ②診断においての手順とその所見が説明できる。 ③治療方法の根拠と手順が説明できる。 ④治療前後の病態の変化が観察、理解、明示できる。</p>
授業の概要	運動器（筋、骨格、神経系）の機能障害を対象とする外科学の1分野であるが、外科の手技だけでなく、保存的治療も重要である。理学、作業療法は、保存的治療の主役であり、将来の君たちが治療の主役を担う事となる。リハビリテーション医療においては、必須の科目であり、日常よく遭遇する疾患を重点的に学習し、繰り返し行なう問題演習により、知識の定着を図る。将来君たちが現場に出た時に、迷わず動く事ができる実用的な知識を伝える。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	○
(理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	◎
(理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	
(作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	○
(作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	◎
(作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション、骨 I：骨の基礎</p> <p>【key words】 配布するKeywords を参照</p> <p>【授業概要】 骨の発生、成長、構造について学習する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（14版）の該当頁を指示する。</p> <p>Keywords完成後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布するKeywordsを、プリントや標準整形外科学で確認しておく（予習）。授業後A4のノートの左頁にチェックの各文を短冊状に切って貼り付け、右頁に指定内容を記載してゆく。繰り返しの復習が重要。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間、復習（繰り返しの合計2時間）程度</p> <p>第2回 骨 II：骨疾患、骨折総論①</p> <p>【key words】 配布するKeywords を参照</p> <p>【授業概要】</p>
------	--

第3回	<p>各種骨疾患の症状と特徴を学習。 【教科書ページ・参考文献】 授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（14版）の該当頁を指示する。 Keywords完成後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間、復習（繰り返しの合計2時間）程度 骨 III：骨折総論② 【key words】 配布するKeywords を参照 【授業概要】 骨折の治療経過と、その過程で起こる合併症について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（14版）の該当頁を指示する。 Keywords完成後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間、復習（繰り返しの合計2時間）程度</p>
第4回	<p>骨 IV：骨折各論① 体幹部の骨折 【key words】 配布するKeywords を参照 【授業概要】 体幹部の骨折の注意点、合併症、治療方法について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（14版）の該当頁を指示する。 Keywords完成後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間、復習（繰り返しの合計2時間）程度</p>
第5回	<p>骨 V：骨折各論② 上肢の骨折 【key words】 配布するKeywords を参照 【授業概要】 上肢の各骨折の合併症、注意点、治療方法について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（14版）の該当頁を指示する。 Keywords完成後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間、復習（繰り返しの合計2時間）程度</p>
第6回	<p>骨 VI：骨折各論③ 下肢の骨折 【key words】 配布するKeywords を参照 【授業概要】 下肢の骨折の病態と合併症、治療法穂について学習する。特に、偽関節を形成しやすい大腿骨頸部骨折、下腿骨折について確実に知識を習得する。 【教科書ページ・参考文献】 授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（14版）の該当頁を指示する。 Keywords完成後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間、復習（繰り返しの合計2時間）程度</p>
第7回	<p>関節 I：関節の基本構造、関節の変形、先天性股関節脱臼 【key words】 配布するKeywords を参照 【授業概要】 関節の基本構造を学んだ後、特徴的な変形、代表的な変形とその背後にある病態を知る。先天性股関節脱臼については、その診断方法、管理、指導方法について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（14版）の該当頁を指示する。 Keywords完成後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間、復習（繰り返しの合計2時間）程度</p>
第8回	<p>関節 II：変形性関節症総論 【key words】 配布するKeywords を参照 【授業概要】 変形性関節症の病理（関節リウマチとの違い）、症状、診断、各部位の関節症の特徴について学習する。併せて、痛風、神経病性関節症、血友病性関節症などの、関節破壊に至る疾患の経過を</p>

	<p>学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（14版）の該当頁を指示する。 Keywords完成後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間、復習（繰り返しの合計2時間）程度 小テスト①（骨ⅠからⅥまでの範囲）、関節Ⅲ：変形性関節症各論 【key words】 配布するKeywords を参照 【授業概要】 講義に先立ち、第1講から第6講までの内容（骨Ⅰ～Ⅵ）の小テストを実施する。その後変形性関節症の中でも頻度が高く重要な、変形性膝関節症、変形性股関節症について、治療面について深く学習する。保存的治療の中で、理学、作業療法士が深くかかわる、運動療法、装具療法、手術前後の療法、手術方法の得失などについて学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（14版）の該当頁を指示する。 Keywords完成後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間、復習（繰り返しの合計2時間）程度 関節Ⅳ：関節リウマチ 【key words】 配布するKeywords を参照 【授業概要】 関節リウマチの病態と治療について学習する。いかに早期に痛みをとり、ADLを確保し、機能障害を防ぐかを念頭に置いて学ぶこと。 【教科書ページ・参考文献】 授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（14版）の該当頁を指示する。 Keywords完成後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間、復習（繰り返しの合計2時間）程度 関節Ⅴ：外傷性疾患① 【key words】 配布するKeywords を参照 【授業概要】 関節脱臼、靭帯損傷などの、関節周辺の外傷性疾患学習する。スポーツ外傷と密接に関連する範囲である。診断方法（特に徒手検査が重要である）と初期治療について学習するが、これらはみな、学生諸君がすぐに実践可能な内容である。 【教科書ページ・参考文献】 授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（14版）の該当頁を指示する。 Keywords完成後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間、復習（繰り返しの合計2時間）程度 関節Ⅵ：外傷性疾患② 【key words】 配布するKeywords を参照 【授業概要】 第11講に引き続き、関節周辺の外傷性疾患について学習する。特に頻度の高い、膝関節、足関節に関わる外傷性疾患を深く理解することが大切である。 【教科書ページ・参考文献】 授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（14版）の該当頁を指示する。 Keywords完成後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間、復習（繰り返しの合計2時間）程度 小テスト②（関節ⅠからⅥまでの範囲）、脊椎Ⅰ：脊椎の構造、障害部位と神経所見、脊椎疾患① 【key words】 配布するKeywords を参照 【授業概要】 授業に先立ち、第7講から第12講までの範囲（関節Ⅰから関節Ⅵまで）に関する小テストを実施する。その後脊椎と脊髄の構造を理解した後・1次ニューロン障害、2次ニューロン障害について理解する。その後、脊椎疾患の代表である、頸椎ならびに腰椎椎間板ヘルニアの病態と症状について、深く学習する 【教科書ページ・参考文献】 授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（14版）の該当頁を指示する。 Keywords完成後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。</p>
第9回	
第10回	
第11回	
第12回	
第13回	

	<p>【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間、復習（繰り返しの合計2時間）程度 脊椎 II：脊椎疾患②</p> <p>【key words】 配布するKeywords を参照</p> <p>【授業概要】 脊椎分離症、滑り症、脊柱管狭窄症、変形性脊椎症といった、脊椎の構造変化に起因する疾患について学習する。大半の症例で手術は必要なく、リハビリテーションによる保存的治療で改善することに気付く。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（14版）の該当頁を指示する。 Keywords完成後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間、復習（繰り返しの合計2時間）程度 脊椎 III：脊椎疾患③</p> <p>【key words】 配布するKeywords を参照</p> <p>【授業概要】 側弯症、後縦靭帯化症、といった脊椎の構造異常によって生ずる疾患を引き続き学習する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（14版）の該当頁を指示する。 Keywords完成後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間、復習（繰り返しの合計2時間）程度</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	授業中の私語は厳禁とする。注意をしても守れない者は、退室させる。教室の座席については、学籍番号順に、指定された席に着席して授業に臨むこと。チェックシート以外の重要点も随時強調する。神経を研ぎ澄ませ、聞き漏らさないこと。1時間半の集中を要求する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	授業で配布するチェックシートに従って、学習する。A4のノートの左側にチェックシートを短冊状に切って貼り付け、右側のページに、指定内容を教科書から調べ記載してゆくこと。これが予習である。授業で自分の事前の作業の妥当性を確認し、自宅で問題演習と併せ復習を行う。
オフィスアワー	木曜日の授業終了後の休憩時間。
評価方法	筆記試験による期末試験で、60%以上の得点を得る事が、成績評価の前提条件である。その上で、学期中に2回行なう小テストの点数を50%（25点x2回）、期末テストの点数に50%（50点）の配分をした点数をもって、成績評価を行なう。小テストの比重が重いことに注意されたい。なお小テストについては、再試験を実施しない。欠席の場合は、如何なる理由でも0点となる。期末の再試験においても、小テストの再試験は実施せず、前期講義の全範囲の内容の100点満点の再試験で、単位修得の可否のみ判定（CまたはD評価のみとなる）する。日
教科書	1：標準整形外科学 第14版 中村利孝 他編 医学書院 2：最新リハビリテーション医学 第3版（医歯薬出版）1年次で使用したテキスト、も適宜使用する。 3：PTOT国家試験共通問題 でるもん でたもん [臨床医学] 医学書院
参考書	授業中に適宜紹介する
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <p>■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>日本専門医機構 認定 整形外科専門医 日本整形外科学会認定 リウマチ医 日本整形外科学会認定 脊椎脊髄病医 日本リウマチ学会認定 リウマチ専門医 整形外科臨床経験 25年</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <p><input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習) <input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/>グループワーク <input type="checkbox"/>プレゼンテーション <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク</p> <p>■アクティブラーニングは実施していない</p> <p>情報リテラシー教育</p> <p><input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育 <input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） <input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） <input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）</p> <p>■情報リテラシー教育は実施していない</p>

	<p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> ICTを活用した双方向型の授業の実施<input type="checkbox"/> e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<input checked="" type="checkbox"/> その他 <p>その他の具体的内容</p> <p>you tubeにて、講義を行う。また、Webポータルにて学生の質問を受ける。</p>
--	--

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	2単位(30)	必修
担当教員			
栗原卓也			
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的・到達目標〕 神経系の障害による、運動、知覚を代表とする諸機能の障害を訴える患者の異常を的確に把握し、その現象（病態生理）を説明できることをまず目的とする。そのためには、中枢神経、末梢神経、脳循環、脳脊髄液循環の構造としくみをしっかり理解していることが基礎となる。その上で、その障害を改善するためには、どのような方法をとればよいか説明できるようになることを最終目標とする。
授業の概要	リハビリテーションの中心分野である神経疾患の知識は、理学、作業療法を行うものにとっては、必須である。まず中枢神経のしくみ（解剖学、生理学の復習となる）を理解し、そのうえで各種障害のメカニズムを学習してゆく。後期では、各種神経疾患を順次学習する。前期に学習した内容、整形外科学ならびに小児科学で学習する内容を繰り返し学習することで、知識の確実な定着をはかる。そして繰り返し行なう小テストと各自が行う問題演習により、知識は更に確実なものになる。将来諸君が現場に出た時に、目の前で生じている障害を的確に判断し、何が生じているかの病態生理を説明でき、自信を持って動く事ができる実用的な知識を伝える。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(理学療法) (豊かな人間性) 真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(理学療法) (専門性の探求) 専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	○
(理学療法) (専門的実践力) 心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	◎
(理学療法) (多職種協働) 対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(理学療法) (地域実践) 地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	
(作業療法) (豊かな人間性) 真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(作業療法) (専門性の探求) 専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	○
(作業療法) (専門的実践力) 生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	◎
(作業療法) (多職種協働) 対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(作業療法) (地域実践) 地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション、 中枢神経のしくみ I 中枢神経と末梢神経、大脳①</p> <p>【key words】 配布される神経内科学 Key Words を参照のこと</p> <p>【授業概要】 大脳の構造と機能について学習</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 絵で見る脳と神経 しくみと傷害のメカニズム 第4版 P2-p21</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布する神経内科学KeyWordsの項目を予めテキストで確認しておく(予習)。授業後、A4のノートの左頁にチェックシートの各文を短冊状に切って貼り、右頁に指定内容を記載してゆくこと。復習が重要である。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習30分。復習1時間。作成したNOTEから、記憶の確認作業10分程度を5回以上実施する必要あり。</p> <p>第2回 中枢神経のしくみ II 大脳②、小脳</p> <p>【key words】 配布される神経内科学 Key Words を参照のこと</p> <p>【授業概要】 前回に引き続き、大脳の構造と機能を学んだ後、小脳についても、その構造と機能を学習する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 絵で見る脳と神経 しくみと傷害のメカニズム 第4版 P22-p31</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
------	---

<p>第3回</p>	<p>第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分。復習1時間。作成したNOTEから、記憶の確認作業10分程度を5回以上実施する必要あり。 中枢神経のしくみ III 脳幹、脊髄 【key words】 配布される神経内科学 Key Words を参照のこと 【授業概要】 生命中枢の存在する脳幹部とそれにつながる脊髄の構造と機能を学習する 【教科書ページ・参考文献】 絵で見る脳と神経 しくみと傷害のメカニズム 第4版 P32-P42 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分。復習1時間。作成したNOTEから、記憶の確認作業10分程度を5回以上実施する必要あり。</p>
<p>第4回</p>	<p>中枢神経のしくみ IV 脳循環、脳脊髄液循環 【key words】 配布される神経内科学 Key Words を参照のこと 【授業概要】 脳血管の構造、支配領域と脳脊髄液の産生から吸収までのメカニズムを学習する 【教科書ページ・参考文献】 絵で見る脳と神経 しくみと傷害のメカニズム 第4版 P43-P55 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分。復習1時間。作成したNOTEから、記憶の確認作業10分程度を5回以上実施する必要あり。</p>
<p>第5回</p>	<p>障害のメカニズム I 意識障害、脳ヘルニア、脳腫瘍 【key words】 配布される神経内科学 Key Words を参照のこと 【授業概要】 意識障害や脳ヘルニア発生の機序とその緊急度を学び、対処方法について理解を深める。最後に脳腫瘍の分離と症状を学習する。 【教科書ページ・参考文献】 絵で見る脳と神経 しくみと傷害のメカニズム 第4版 P58-P82 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分。復習1時間。作成したNOTEから、記憶の確認作業10分程度を5回以上実施する必要あり。</p>
<p>第6回</p>	<p>障害のメカニズム II 言語障害、認知症、てんかん 【key words】 配布される神経内科学 Key Words を参照のこと 【授業概要】 高次脳機能障害の代表的病態である、言語障害、認知症についての理解を深める。最後にてんかんについての理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 絵で見る脳と神経 しくみと傷害のメカニズム 第4版 P83-P108 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分。復習1時間。作成したNOTEから、記憶の確認作業10分程度を5回以上実施する必要あり。</p>
<p>第7回</p>	<p>小テスト① (第1回から4回までの内容：20点満点) 障害のメカニズム III 運動麻痺 【key words】 配布される神経内科学 Key Words を参照のこと 【授業概要】 授業に先立ち、第1講から第4講までの範囲の小テストを実施する。その後の授業は、運動麻痺の発生機序を学習する。中心前回の運動神経細胞から末梢の筋までのどこに障害が起きるとどのような病態を呈するのかを理解する。 【教科書ページ・参考文献】 絵で見る脳と神経 しくみと傷害のメカニズム 第4版 P109-P130 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分。復習1時間。作成したNOTEから、記憶の確認作業10分程度を5回以上実施する必要あり。</p>
<p>第8回</p>	<p>障害のメカニズム IV 知覚障害 【key words】 配布される神経内科学 Key Words を参照のこと 【授業概要】 皮膚に存在する知覚受容器から、頭頂葉中心後回の感覚細胞に至る経路までのどこにどのような障害が起きると、どういった近くの障害を呈するのかを学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 絵で見る脳と神経 しくみと傷害のメカニズム 第4版 P131-P149 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分。復習1時間。作成したNOTEから、記憶の確認作業10分程度を5回以上実施する必要あり。</p>
<p>第9回</p>	<p>障害のメカニズム V 脳神経障害①</p>

	<p>【key words】 配布される神経内科学 Key Words を参照のこと 【授業概要】 脳神経障害（ⅠからⅥ）の発症機序ならびにその症状について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 絵で見る脳と神経 しくみと傷害のメカニズム 第4版 P150-P166 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分。復習1時間。作成したNOTEから、記憶の確認作業10分程度を5回以上実施する必要あり。</p>
第10回	<p>障害のメカニズム Ⅵ 脳神経障害 ②、摂食嚥下障害 【key words】 配布される神経内科学 Key Words を参照のこと 【授業概要】 脳神経障害（ⅦからⅩⅡ）の発症機序とその症状を学ぶ。摂食嚥下についても、その仕組みを再復習し、障害発生の部位とその症状を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 絵で見る脳と神経 しくみと傷害のメカニズム 第4版 P166-P190 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分。復習1時間。作成したNOTEから、記憶の確認作業10分程度を5回以上実施する必要あり。</p>
第11回	<p>障害のメカニズム Ⅶ 小脳の障害 【key words】 配布される神経内科学 Key Words を参照のこと 【授業概要】 小脳障害の病態を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 絵で見る脳と神経 しくみと傷害のメカニズム 第4版 P191-P194 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分。復習1時間。作成したNOTEから、記憶の確認作業10分程度を5回以上実施する必要あり。</p>
第12回	<p>障害のメカニズム Ⅷ 排尿障害 【key words】 配布される神経内科学 Key Words を参照のこと 【授業概要】 排尿機構を復習し脳卒中後や脊髄損傷後に認められる排尿障害の病態を理解し、管理方法を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 絵で見る脳と神経 しくみと傷害のメカニズム 第4版 P195-P200 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分。復習1時間。作成したNOTEから、記憶の確認作業10分程度を5回以上実施する必要あり。</p>
第13回	<p>障害のメカニズム Ⅸ 脳血管障害① 【key words】 配布される神経内科学 Key Words を参照のこと 【授業概要】 授業に先立ち、小テスト②（第5から10回までの内容【30点満点】）を実施。その後高血圧性脳出血やくも膜下出血について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 絵で見る脳と神経 しくみと傷害のメカニズム 第4版 P201-P214 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分。復習1時間。作成したNOTEから、記憶の確認作業10分程度を5回以上実施する必要あり。</p>
第14回	<p>障害のメカニズム Ⅹ 脳血管障害② 【key words】 配布される神経内科学 Key Words を参照のこと 【授業概要】 閉塞性脳血管障害（脳梗塞）について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 絵で見る脳と神経 しくみと傷害のメカニズム 第4版 P214-P224 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分。復習1時間。作成したNOTEから、記憶の確認作業10分程度を5回以上実施する必要あり。</p>
第15回	<p>障害のメカニズム ? 脳脊髄液障害 【key words】 配布される神経内科学 Key Words を参照のこと 【授業概要】 脳脊髄液の循環について復習し、その障害と水頭症について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 絵で見る脳と神経 しくみと傷害のメカニズム 第4版 P225-P234 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>

	<p>第1講に記載した内容の通り、予習、復習を毎回実施すること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分。復習1時間。作成したNOTEから、記憶の確認作業10分程度を5回以上実施する必要あり。</p>
受講生に関する情報および受講のルール	<p>授業中の私語は厳禁とする。注意をしても守れない者は、退室させる。教室の座席については、学籍番号順に、指定された席に着席して授業に臨むこと。チェックシートを傍らに置き、予習でわからなかったチェックシートの項目を、授業中に明らかにすること。膨大テキストの内容をこなすには、授業に集中することが必須である。</p>
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	<p>コメントカード方式</p>
授業外時間にかかわる情報	<p>膨大な内容を短時間で理解するために、授業前にテキストの該当範囲を一読することが必要である。その上で、配布されたチェックシートに従って、学習する。A4のノートの左側にチェックシートを短冊状に切って貼り付け、右側のページに、指定内容を教科書から調べ記載してゆくこと（予習）。授業で自分の事前の作業の妥当性を確認し、不明点、誤っていた点は授業中に修正する。授業後、チェックシートを点検したのち、該当範囲の国家試験問題を、PT OT 国家試験共通問題 であるもんでたもん [臨床医学] で演習する。（復習）。</p>
オフィスアワー	<p>木曜日の授業終了後の休憩時間。</p>
評価方法	<p>筆記試験による期末試験（前期講義の全範囲）で、60%以上の得点を得る事が、成績評価の前提条件である。その上で、学期中に2回行なう小テストの点数を50%（20点×1回+30点×1回=合計50点）、期末テストの点数に50%（50点）の配分をした点数をもって、成績評価を行なう。小テストの比重が重いことに注意されたい。なお小テストについては、再試験を実施しない。欠席の場合は、如何なる理由でも0点となる。期末の再試験においても、小テストの再試験は実施せず、前期講義の全範囲の内容の100点満点の再試験で、単位修得の可否のみ判定（CまたはD評価のみとなる）する。日頃の健康管理も重要であり、医療人となる者にとっては必須の事項である。各テストは、空欄補充形式の問題と指定範囲内の過去の国家試験問題からなる。</p>
教科書	<p>① JJNブックス 絵でみる脳と神経 しくみと障害のメカニズム第4版 馬場元毅 著 医学書院（1年次の解剖学実習で使用したテキストである） ② ベッドサイド神経の診かた 第18版 田崎義昭 著 南山堂 ③ PT OT 国家試験共通問題 であるもんでたもん [臨床医学] 医学書院</p>
参考書	<p>授業中に適宜紹介する</p>
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 藤田保健衛生大学（現 藤田医科大学） 脳神経外科学教室 所属経験あり アクティブラーニング要素 <input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習) <input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/>グループワーク <input type="checkbox"/>プレゼンテーション <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク ■アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 <input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育 <input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） <input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） <input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） ■情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 <input type="checkbox"/>ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 ■その他 その他の具体的内容 you tubeにて、講義を行う。また、Webポータルにて学生の質問を受ける。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	2単位 (30)	必修
担当教員			
諸川由実代・石関圭			
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕</p> <p>精神障害リハビリテーションに関わる基本的な疾病の知識や評価・診断の方法、治療・援助の方法を理解・説明できることを目的とする。</p> <p>〔達成目標〕</p> <p>①精神医学の歴史と精神障害者の処遇について理解・説明することができる。 ②現代社会とストレスおよびメンタルヘルスの関係性について理解・説明することができる。 ③“脆弱性—ストレスモデル”に基づいた精神障害の成因について理解・説明することができる。 ④精神医学において用いられる診断・評価方法の概要について理解・説明することができる。 ⑤薬物療法や精神療法、リハビリテーションなどの治療の枠組みについて理解・説明することができる。 ⑥精神障害リハビリテーションにおける多職種連携の重要性を理解・説明することができる。 ⑦各疾患における成因や症状、治療を理解・説明することができる。 ⑧精神障害者が地域生活を送るためのポイントと課題について理解・説明することができる。</p>		
授業の概要	<p>理学・作業療法士は対象者の身体・精神機能を十分把握した上でリハビリテーションを進めなければならない。本授業では、リハビリテーションに必要な、精神疾患の成因や症状、診断・評価について学ぶ。また、入院から地域生活に移行するためのおおまかな治療・援助の流れと精神障害領域に関わる職種の連携、障害を持つ人が地域生活を送るためのポイントや課題を学ぶ。</p>		
各学科、専攻、コースにおけるDP			科目における重要度
(理学療法) (豊かな人間性) 真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			
(理学療法) (専門性の探求) 専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			○
(理学療法) (専門的実践力) 心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる			◎
(理学療法) (多職種協働) 対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(理学療法) (地域実践) 地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
(作業療法) (豊かな人間性) 真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			
(作業療法) (専門性の探求) 専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			○
(作業療法) (専門的実践力) 生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。			◎
(作業療法) (多職種協働) 対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(作業療法) (地域実践) 地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
授業計画	第1回 (諸川)	<p>オリエンテーション/ 精神医学とは/ 精神障害の成因と分類</p> <p>【key words】 ・Impairment/ Activity limitation/ Mental disability ・内因、外因、身体因 ・ストレス—脆弱性モデル ・ICD-10</p> <p>【授業概要】 日本および海外における精神医学の歴史を学ぶとともに、理学療法や作業療法を実施する際の精神医学的知識の必要性を認識する。精神障害の成因と分類を理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書第1章・第2章 (P1~15)</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の予習・復習 【予習復習に必要な想定時間】 30分~60分</p>	
	第2回	精神機能の障害と精神症状 (1)	

	<p>(諸川)</p> <p>【key words】 ・精神機能 ・意識 ・知能 ・記憶</p> <p>【授業概要】 精神医学の基礎知識として症候学の習得が重要である。理学療法や作業療法を行う際には、精神機能のどの領域にどのような障害があるのかを評価し、その機能障害が治療でどのように改善するかを評価する必要がある。ここでは精神機能の障害のなかで、意識、知能および記憶の障害、神経心理学的症状について学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 第3章 (P16～45)</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の予習・復習 【予習復習に必要な想定時間】 30分～60分</p>
<p>第3回 (諸川)</p>	<p>精神機能の障害と精神症状 (2)</p> <p>【key words】 ・幻覚、妄想 ・自我意識障害 ・気分の障害</p> <p>【授業概要】 精神機能の障害のうち、知覚、思考および気分の障害について学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 第3章 (P16～45)</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の予習・復習 【予習復習に必要な想定時間】 30分～60分</p>
<p>第4回 (諸川)</p>	<p>精神障害の診断と評価</p> <p>【key words】 ・病歴 ・神経学的検査 ・心理検査 ・社会生活評価尺度</p> <p>【授業概要】 精神機能の評価では診断面接とともに心理検査、生理学検査、画像検査、評価尺度を用いた症状評価を行う。ここでは、診断面接のポイント、脳波検査、心理検査や評価尺度の意義や特性について学ぶ。</p> <p>(WAIS、kohs立方体テスト、長谷川式簡易知能評価スケール改訂版、BPRS、GAF、Hamiltonうつ病評価尺度、WHO/QOL26など)</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 第4章 (P46～67)</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の予習・復習 【予習復習に必要な想定時間】 30分～60分</p>
<p>第5回 (諸川)</p>	<p>脳器質性精神障害/ てんかん</p> <p>【key words】 ・認知症 ・てんかん</p> <p>【授業概要】 ・認知症の症状には、中核症状 (基本症状) と周辺症状があることを学ぶ。 ・代表的な認知症として、アルツハイマー型認知症、血管性認知症、レビー小体型認知症、ピック病について学ぶ。 ・てんかんの精神症状およびリハビリテーションについて学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 第5章 (P68～93)、第8章 (P115～126)</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の予習・復習 【予習復習に必要な想定時間】 30分～60分</p>
<p>第6回 (諸川)</p>	<p>症状性精神障害/ 精神作用物質による精神および行動の障害</p> <p>【key words】 ・症状精神病 ・アルコール関連障害</p> <p>【授業概要】 ・精神障害の診断では、身体疾患との鑑別が重要であるため、症状精神病の概念と主な症状精神病について学ぶ。 ・精神作用物質による精神・行動の障害として、依存症の概念を理解し、アルコール依存および薬物依存について学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 第6章 (P94～99)、第7章 (P100～114)</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の予習・復習 【予習復習に必要な想定時間】 30分～60分</p>
<p>第7回 (諸川)</p>	<p>統合失調症およびその関連障害</p> <p>【key words】 ・陽性症状 ・陰性症状 ・社会復帰</p> <p>【授業概要】 ・統合失調症およびその関連障害の病因、症状、経過、予後について学び、リハビリテーション</p>

第8回 (石関)	<p>の重要性を認識する。 【教科書ページ・参考文献】 第9章 (P127～148) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の予習・復習 【予習復習に必要な想定時間】 30分～60分 気分(感情)障害①</p>
第9回 (石関)	<p>【key words】 ・うつ病 ・躁うつ病 【授業概要】 ・気分障害の症状、経過、発症の機制について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 第10章 (P149～163) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の予習・復習 【予習復習に必要な想定時間】 30分～60分 気分(感情)障害②</p>
第10回 (石関)	<p>【key words】 ・うつ病 ・躁うつ病 【授業概要】 ・気分障害の症状、経過、治療について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 第10章 (P149～163) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の予習・復習 【予習復習に必要な想定時間】 30分～60分 神経症性障害</p>
第11回 (石関)	<p>【key words】 ・不安 ・恐怖 ・強迫 ・解離 ・ストレス ・神経症 ・パニック障害 【授業概要】 ・神経症性障害の種類とそれぞれの臨床的特徴について学ぶ。 ・神経症性障害の治療について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 第11章 (P164～175) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の予習・復習 【予習復習に必要な想定時間】 30分～60分 生理的障害および身体的要因に関連した障害、成人のパーソナリティ・行動・性の障害</p>
第12回 (石関)	<p>【key words】 ・摂食障害 ・睡眠障害 ・パーソナリティ障害 【授業概要】 ・摂食障害の臨床的特徴と症状、治療について学ぶ。 ・睡眠障害の分類と症状について学ぶ。 ・パーソナリティ障害の概念を理解し、代表的な人格障害の類型と特徴について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 第12章 (P176～180)、第13章 (P181～187) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の予習・復習 【予習復習に必要な想定時間】 30分～60分 精神遅滞、心理的発達の障害、リエゾン精神医学</p>
第13回 (石関)	<p>【key words】 ・IQ ・自閉症 ・発達障害 ・コンサルテーションリエゾン 【授業概要】 ・精神遅滞の分類、精神遅滞を伴う疾患について学ぶ。 ・精神遅滞の診断・治療、ケア、リハビリテーション、社会的処遇について学ぶ。 ・リエゾン精神医学の概念を理解し、リエゾン精神医学の対象となる場合や求められる対応について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 第14章 (P188～197)、第15章 (P198～206)、第16章 (P207～211) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の予習・復習 【予習復習に必要な想定時間】 30分～60分 心身医学、ライフサイクルにおける精神医学</p> <p>【key words】 ・心身症 ・ライフサイクル ・小児期 ・青年期 【授業概要】 ・心身症の概念、発症機序、診断、治療について学ぶ。 ・ライフサイクルにおける精神疾患の特徴について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 第17章 (P212～214)、第18章 (P215～230)</p>

	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の予習・復習 【予習復習に必要な想定時間】 30分～60分 精神障害の治療とリハビリテーション</p> <p>第14回 (石関)</p> <p>【key words】 ・インフォームドコンセント ・治療の目標 ・向精神薬 ・副作用 【授業概要】 ・精神障害に対する治療方法とリハビリテーションの目標や到達点について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 第19章 (P231～253) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の予習・復習 【予習復習に必要な想定時間】 30分～60分 精神科保健医療と福祉、職業リハビリテーション、社会・文化とメンタルヘルス</p> <p>第15回 (石関)</p> <p>【key words】 ・精神保健福祉法 ・社会とメンタルヘルス 【授業概要】 ・精神保健に関わる法律や制度について学ぶ。 ・社会におけるメンタルヘルスについて学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 第20章 (P254～272)、第21章 (P273～279) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の予習・復習 【予習復習に必要な想定時間】 30分～60分</p>
<p>受講生に関わる情報 および受講のルール</p>	<p>[受講生に関わる情報] 極力欠席のないようにし、質問は積極的に授業内で行うようにしてください。 [受講のルール] 携帯電話はマナーモードもしくは電源を切り、鞆にしまっておくこと。集中して講義に参加してください。</p>
<p>毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法</p>	<p>コメントカード方式</p>
<p>授業外時間にかかわ る情報</p>	<p>より効率的に授業を進めるため、事前に十分予習を行ってこよう。また、授業終了後に復習をすること。</p>
<p>オフィスアワー</p>	<p>授業終了後20分対応可能</p>
<p>評価方法</p>	<p>出席率2/3以上を試験受験資格とし、筆記試験100%で判断。</p>
<p>教科書</p>	<p>上野武治 編：標準理学療法・作業療法学 精神医学 (第4版 増補版) . 医学書院, 2021</p>
<p>参考書</p>	<p>上島国利 立山万里 編：精神医学テキスト 改訂第3版. 南江堂, 2012</p>
<p>実務者経験/アク ティブラーニング/ リテラシー教育</p>	<p>授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容 精神科医として病院勤務 医学部講義、臨床実習 看護学校講義</p> <p>アクティブラーニング要素 <input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習) <input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/>グループワーク <input type="checkbox"/>プレゼンテーション <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク ■アクティブラーニングは実施していない</p> <p>情報リテラシー教育 <input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育 <input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの (図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) <input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの (情報処理、情報整理法等) <input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの (レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) ■情報リテラシー教育は実施していない</p> <p>ICTの活用 <input type="checkbox"/>ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 ■その他</p> <p>その他の具体的内容 you tubeにて、講義を行う。また、Webポータルにて学生の質問を受ける。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	必修
担当教員			
栗原卓也			
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 筋骨格系疾患の痛み、機能障害を訴える患者の体の異常を的確に把握し、その現象（病態生理）をわかりやすく説明できるようになることである。その上で、その異常（痛みや機能障害）を改善するためには、どのような方法をとればよいのか説明できるようになることである。</p> <p>〔到達目標〕 ①痛みや機能障害発生のメカニズムを病態生理学的に説明できる。 ②診断にあたっての手順とその所見が説明できる。 ③治療方法の根拠と手順が説明できる。 ④治療前後の病態の変化が観察、理解、明示できる。</p>
授業の概要	運動器（筋、骨格、神経系）の機能障害を対象とする外科学の1分野であるが、外科の手技だけでなく、保存的治療も重要である。理学、作業療法は、保存的治療の主役であり、将来の君たちが治療の主役を担う事となる。リハビリテーション医療においては、必須の科目であり、日常よく遭遇する疾患を重点的に学習し、繰り返し行なう問題演習により、知識の定着を図る。将来君たちが現場に出た時に、迷わず動く事ができる実用的な知識を伝える。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	○
(理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	◎
(理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	
(作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	○
(作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	◎
(作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	第1回	<p>脊髄損傷 I 【key words】 配布するKeyWords 参照 【授業概要】 脊髄損傷の受傷機転、病態、症状、高位診断について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（14版）の該当頁を指示する。 +最新リハビリテーション医学第3版 P253-P268 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布されるKeywordsを完成させる。これを繰り返し復習。その後に、PTOTでるもん。でたもの 該当範囲の問題を解くこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間+復習は20-30分を繰り返し実施（合計2時間程度）</p>
	第2回	<p>脊髄損傷 II 【key words】 配布するKeyWords 参照 【授業概要】 脊髄損傷における治療、急性期ならびに慢性期の合併症とその対策について学ぶ。</p>

第3回	<p>【教科書ページ・参考文献】 授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（14版）の該当頁を指示する。 +最新リハビリテーション医学第3版 P253-P268 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布されるKeywordsを完成させる。これを繰り返し復習。その後、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間+復習は20-30分を繰り返し実施（合計2時間程度） 脊髄損傷 III 【key words】 配布するKeyWords 参照 【授業概要】 脊髄損傷におけるリハビリテーションについて学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（14版）の該当頁を指示する。 +最新リハビリテーション医学第3版 P253-P268 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布されるKeywordsを完成させる。これを繰り返し復習。その後、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間+復習は20-30分を繰り返し実施（合計2時間程度）</p>
第4回	<p>末梢神経 I 【key words】 配布するKeyWords 参照 【授業概要】 末梢神経損傷の病態と回復過程を学習する。その後、腕神経叢損傷をはじめとする、上肢の末梢神経障害について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（14版）の該当頁を指示する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布されるKeywordsを完成させる。これを繰り返し復習。その後、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間+復習は20-30分を繰り返し実施（合計2時間程度）</p>
第5回	<p>末梢神経 II 【key words】 配布するKeyWords 参照 【授業概要】 第4講に引き続き、上肢そして下肢の末梢神経損傷、障害について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（14版）の該当頁を指示する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布されるKeywordsを完成させる。これを繰り返し復習。その後、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間+復習は20-30分を繰り返し実施（合計2時間程度）</p>
第6回	<p>神経・筋疾患 【key words】 配布するKeyWords 参照 【授業概要】 脳性麻痺、運動ニューロン疾患、筋ジストロフィーなどについて学習する。神経学的徴候や検査手技については、DVDにより目で見て確認する。 【教科書ページ・参考文献】 授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（14版）の該当頁を指示する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布されるKeywordsを完成させる。これを繰り返し復習。その後、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間+復習は20-30分を繰り返し実施（合計2時間程度）</p>
第7回	<p>小テスト①（脊髄損傷IからIIIと末梢神経IからIIが範囲）、骨・軟部腫瘍 【key words】 配布するKeyWords 参照 【授業概要】 授業に先立ち、小テスト①（第1講から5講までの範囲、脊髄損傷、末梢神経）を実施する。その後、骨・軟部腫瘍について学ぶ。頻度の高い転移性骨腫瘍と小児に多い骨肉腫を中心に学習する。 【教科書ページ・参考文献】 授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（14版）の該当頁を指示する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布されるKeywordsを完成させる。これを繰り返し復習。その後、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間+復習は20-30分を繰り返し実施（合計2時間程度）</p>

第8回	<p>四肢の循環障害と壊死性疾患</p> <p>【key words】 配布するKeyWords 参照</p> <p>【授業概要】 保存的治療が重要な四肢の循環障害疾患の病態生理を理解し、適切な治療法が選択できるように学ぶ。切断に至る壊死性疾患については、進行防止の対策を学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（14版）の該当頁を指示する。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布されるKeywordsを完成させる。これを繰り返し復習。その後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間+復習は20-30分を繰り返し実施（合計2時間程度）</p>
第9回	<p>切断および離断と義肢 I</p> <p>【key words】 配布するKeyWords 参照</p> <p>【授業概要】 切断の原因、切断部位による利点欠点、手術の留意点などを学習する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（14版）の該当頁を指示する。</p> <p>+最新リハビリテーション医学第3版 P297-309</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布されるKeywordsを完成させる。これを繰り返し復習。その後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間+復習は20-30分を繰り返し実施（合計2時間程度）</p>
第10回	<p>切断および離断と義肢 II</p> <p>【key words】 配布するKeyWords 参照</p> <p>【授業概要】 切断後の後療法、義肢の構造と特性、選択基準、などについて学習する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（14版）の該当頁を指示する。</p> <p>+最新リハビリテーション医学第3版 P297-309</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布されるKeywordsを完成させる。これを繰り返し復習。その後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間+復習は20-30分を繰り返し実施（合計2時間程度）</p>
第11回	<p>切断および離断と義肢 III</p> <p>【key words】 配布するKeyWords 参照</p> <p>【授業概要】 義手の構造と特徴、選択基準などについて学習する。供覧する義手、義肢の実物に触れながら、第10講と11講の重要点を再確認する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（14版）の該当頁を指示する。</p> <p>+最新リハビリテーション医学第3版 P310-318</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布されるKeywordsを完成させる。これを繰り返し復習。その後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間+復習は20-30分を繰り返し実施（合計2時間程度）</p>
第12回	<p>小テスト②（神経筋疾患、骨軟部腫瘍腫瘍、四肢循環障害、壊死性疾患、切断、離断、義肢が範囲）熱傷、手の外科</p> <p>【key words】 配布するKeyWords 参照</p> <p>【授業概要】 授業に先立ち、小テスト②（第6講から11講までの範囲、神経・筋疾患、骨・軟部腫瘍、四肢の循環障害と壊死性疾患、切断および離断と義肢）を実施する。その後、熱傷の診断と治療、後療法について学ぶ。手の外科については、一般外来で非常によくみる上肢の疾患について徒手検査を中心とした診断方法を学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（14版）の該当頁を指示する。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布されるKeywordsを完成させる。これを繰り返し復習。その後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間+復習は20-30分を繰り返し実施（合計2時間程度）</p>
第13回	<p>スポーツ外傷・障害 I</p> <p>【key words】 配布するKeyWords 参照</p> <p>【授業概要】 スポーツ外傷の発症機序、初期治療、後療法と予防策について学習する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p>

	<p>授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（14版）の該当頁を指示する。 +最新リハビリテーション医学第3版 P381-392 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布されるKeywordsを完成させる。これを繰り返し復習。その後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間+復習は20-30分を繰り返し実施（合計2時間程度）</p> <p>第14回 スポーツ外傷・障害 II 【key words】 配布するKeyWords 参照 【授業概要】 スポーツ障害の対処方法について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（14版）の該当頁を指示する。 +最新リハビリテーション医学第3版 P381-392 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布されるKeywordsを完成させる。これを繰り返し復習。その後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間+復習は20-30分を繰り返し実施（合計2時間程度）</p> <p>第15回 整形外科的治療法 【key words】 配布するKeyWords 参照 【授業概要】 整形外科領域で行われる保存的治療から各種手術まで、適応と実際を学習する。1年間学習してきたことの総復習を兼ねる。 【教科書ページ・参考文献】 授業は、配布するプリントにより実施。授業中必要に応じ、標準整形外科学（14版）の該当頁を指示する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布されるKeywordsを完成させる。これを繰り返し復習。その後に、PTOTでるもん。でたもんの該当範囲の問題を解くこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間+復習は20-30分を繰り返し実施（合計2時間程度）</p>
<p>受講生に関わる情報 および受講のルール</p>	<p>授業中の私語は厳禁とする。注意をしても守れない者は、退室させる。教室の座席については、学籍番号順に、指定された席に着席して授業に臨むこと。 チェックシート以外の重要点も随時強調する。神経を研ぎ澄ませ、聞き漏らさないこと。1時間半の集中を要求する。</p>
<p>毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状況の 確認方法</p>	<p>コメントカード方式</p>
<p>授業外時間にかかわる 情報</p>	<p>授業で配布するチェックシートに従って、学習する。A4のノートの左側にチェックシートを短冊状に切って貼り付け、右側のページに、指定内容を教科書から調べ記載してゆくこと。これが予習である。授業で自分の事前の作業の妥当性を確認し、自宅で問題演習（PT OT 国家試験共通問題 であるもん 出たもん [臨床医学] を使用）と併せノートの復習を行う。</p>
<p>オフィスアワー</p>	<p>木曜日の授業終了後の休憩時間。</p>
<p>評価方法</p>	<p>筆記試験による期末試験で、60%以上の得点を得る事が、成績評価の前提条件である。その上で、学期中に2回行なう小テストの点数を50%（25点x2回）、期末テストの点数に50%（50点）の配分をした点数をもって、成績評価を行なう。小テストの比重が重いことに注意されたい。なお小テストについては、再試験を実施しない。欠席の場合は、如何なる理由でも0点となる。期末の再試験においても、小テストの再試験は実施せず、後期講義の全範囲の内容の100点満点の再試験で、単位修得の可否のみ判定（CまたはD評価のみとなる）する。日頃の健康管理も重要であり、医療人となる者にとっては必須の事項である。各テストは、空欄補充形式の問題と指定範囲内の過去の国家試験問題からなる。</p>
<p>教科書</p>	<p>1：標準整形外科学 第14中村利孝 他編 医学書院 2：最新リハビリテーション医学 第3版（医歯薬出版）（1年次で使用したテキスト）も適宜使用する。 3：PT OT 国家試験共通問題 であるもん 出たもん [臨床医学] 医学書院</p>
<p>参考書</p>	<p>授業中に適宜紹介する</p>
<p>実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育</p>	<p>授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容 日本専門医機構 整形外科専門医 日本整形外科学会認定 脊椎脊髄病医 日本整形外科学会認定 スポーツ医 整形外科臨床経験25年以上</p> <p>アクティブラーニング要素 <input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習) <input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/>グループワーク <input type="checkbox"/>プレゼンテーション <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク</p>

■アクティブラーニングは実施していない

情報リテラシー教育

- 情報モラルに関する教育
- 課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）
- 情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）
- 情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）
- 情報リテラシー教育は実施していない

ICTの活用

- ICTを活用した双方向型の授業の実施
- e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援
- その他

その他の具体的内容

you tubeにて講義を実施。また、Webポータルにて学生の質問を受ける。

英文科目名称： *

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	必修
担当教員			
栗原卓也			
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的・到達目標〕 神経系の障害による、運動、知覚を代表とする諸機能の障害を訴える患者の異常を的確に把握し、その現象(病態生理)を説明できることをまず目的とする。そのためには、中枢神経、末梢神経、脳循環、脳脊髄液循環の構造としくみをしっかり理解していることが基礎となる。その上で、その障害を改善するためには、どのような方法をとればよいか説明できるようになることを最終目標とする。		
授業の概要	リハビリテーションの中心分野である神経疾患の知識は、理学、作業療法を行うものにとっては、必須である。まず中枢神経のしくみ(解剖学、生理学の復習となる)を理解し、そのうえで各種障害のメカニズムを学習してゆく。後期では、各種神経疾患を順次学習する。前期に学習した内容、整形外科学ならびに小児科学で学習する内容を繰り返し学習することで、知識の確実な定着をはかる。そして繰り返し行なう小テストと各自が行う問題演習により、知識は更に確実なものになる。将来諸君が現場に出た時に、目の前で生じている障害を的確に判断し、何が生じているかの病態生理を説明でき、自信を持って動く事ができる実用的な知識を伝える。		
各学科、専攻、コースにおけるDP			科目における重要度
(理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			
(理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			○
(理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる			◎
(理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
(作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			
(作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			○
(作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。			◎
(作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション、小児神経疾患 【key words】 配布されるKeywords を参照 【授業概要】 脳性麻痺、二分脊椎、Down症候群、中枢神経に障害を生じる先天性代謝異常、について学ぶ 【教科書ページ・参考文献】 神経内科学 第5版 p316-338 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布するKeywordsを、A4のノート左頁に貼りつけ、プリントや神経内科学のテキストからの解答を右頁の記入しノートを作成(予習)。このノートの復習を繰り返し行う。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間+復習30分X4回=合計3時間以上</p> <p>第2回 てんかん 【key words】 配布されるKeywords を参照 【授業概要】 小児ならびに脳血管障害後の成人に見られるてんかんについてその症状と分類、診断方法と治療について学ぶ 【教科書ページ・参考文献】 神経内科学 第5版 p284-P287 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布するKeywordsを、A4のノート左頁に貼りつけ、プリントや神経内科学のテキストからの解答</p>		

第3回	<p>を右頁の記入しノートを作成（予習）。このノートの復習を繰り返し行う。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間＋復習30分X4回＝合計3時間以上 筋疾患 【key words】 配布されるKeywords を参照 【授業概要】 筋ジストロフィーを代表とする、各筋疾患について、その病態生理、診断方法、治療方法を学習する。 【教科書ページ・参考文献】 神経内科学 第5版 p 288-P301 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布するKeywordsを、A4のノート左頁に貼りつけ、プリントや神経内科学のテキストからの解答を右頁の記入しノートを作成（予習）。このノートの復習を繰り返し行う。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間＋復習30分X4回＝合計3時間以上</p>
第4回	<p>脳腫瘍、外傷性脳損傷 【key words】 配布されるKeywords を参照 【授業概要】 脳腫瘍の診断、治療、予後について学習する。その後、外傷性脳損傷の病態について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 神経内科学 第5版 p224-P237 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布するKeywordsを、A4のノート左頁に貼りつけ、プリントや神経内科学のテキストからの解答を右頁の記入しノートを作成（予習）。このノートの復習を繰り返し行う。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間＋復習30分X4回＝合計3時間以上</p>
第5回	<p>脳血管障害① 【key words】 配布されるKeywords を参照 【授業概要】 脳血管障害の症状と分類、診断と治療について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 神経内科学 第5版 p173-P203 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布するKeywordsを、A4のノート左頁に貼りつけ、プリントや神経内科学のテキストからの解答を右頁の記入しノートを作成（予習）。このノートの復習を繰り返し行う。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間＋復習30分X4回＝合計3時間以上</p>
第6回	<p>脳血管障害② 【key words】 配布されるKeywords を参照 【授業概要】 脳血管障害のリハビリテーションについて学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 神経内科学 第5版 p173-P203 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布するKeywordsを、A4のノート左頁に貼りつけ、プリントや神経内科学のテキストからの解答を右頁の記入しノートを作成（予習）。このノートの復習を繰り返し行う。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間＋復習30分X4回＝合計3時間以上</p>
第7回	<p>認知症 【key words】 配布されるKeywords を参照 【授業概要】 認知症の鑑別診断と治療可能な認知症について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 神経内科学 第5版 p204-P223 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布するKeywordsを、A4のノート左頁に貼りつけ、プリントや神経内科学のテキストからの解答を右頁の記入しノートを作成（予習）。このノートの復習を繰り返し行う。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間＋復習30分X4回＝合計3時間以上</p>
第8回	<p>変性疾患、脱髄疾患、錐体外路の変性疾患 【key words】 配布されるKeywords を参照 【授業概要】 Parkinson病（症候群）と変性、脱髄疾患について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 神経内科学 第5版 p253-p274 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布するKeywordsを、A4のノート左頁に貼りつけ、プリントや神経内科学のテキストからの解答を右頁の記入しノートを作成（予習）。このノートの復習を繰り返し行う。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間＋復習30分X4回＝合計3時間以上</p>
第9回	<p>小テスト ①（第1-6回の内容） 感染性疾患、中毒性疾患、栄養欠乏による神経疾患 【key words】 配布されるKeywords を参照 【授業概要】 授業に先立ち、第1講から第6講までの範囲の小テスト(25点満点)を行う。その後、髄膜炎、脳炎を代表とする神経系感染疾患、中毒性疾患、栄養欠乏による神経疾患について学習する。</p>

第10回	<p>【教科書ページ・参考文献】 神経内科学 第5版 p302-P315 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布するKeywordsを、A4のノート左頁に貼りつけ、プリントや神経内科学のテキストからの解答を右頁の記入しノートを作成（予習）。このノートの復習を繰り返し行う。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間+復習30分X4回=合計3時間以上 脊髄疾患、末梢神経疾患</p> <p>【key words】 配布されるKeywords を参照 【授業概要】 脊髄損傷の病態と随伴症状、合併症について学ぶ。その後末梢神経障害についても学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 神経内科学 第5版 p238-P252、P275-P283 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布するKeywordsを、A4のノート左頁に貼りつけ、プリントや神経内科学のテキストからの解答を右頁の記入しノートを作成（予習）。このノートの復習を繰り返し行う。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間+復習30分X4回=合計3時間以上</p>
第11回	<p>廃用症候群と誤用症候群、排尿障害、性機能障害</p> <p>【key words】 配布されるKeywords を参照 【授業概要】 神経疾患に多い合併症である、廃用症候群と、排尿障害、性機能障害について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 神経内科学 第5版 p339-P362 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布するKeywordsを、A4のノート左頁に貼りつけ、プリントや神経内科学のテキストからの解答を右頁の記入しノートを作成（予習）。このノートの復習を繰り返し行う。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間+復習30分X4回=合計3時間以上</p>
第12回	<p>高次脳機能障害①（失語症、失認、失行）</p> <p>【key words】 配布されるKeywords を参照 【授業概要】 高次脳機能障害の、失語症、失認、失行、について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 神経内科学 第5版 p107-P151 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布するKeywordsを、A4のノート左頁に貼りつけ、プリントや神経内科学のテキストからの解答を右頁の記入しノートを作成（予習）。このノートの復習を繰り返し行う。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間+復習30分X4回=合計3時間以上</p>
第13回	<p>小テスト②（第7回～第11.回の内容）高次脳機能障害②（記憶障害、注意障害、遂行機能障害）</p> <p>【key words】 配布されるKeywords を参照 【授業概要】 授業に先立ち、第7講から第11講までの範囲の小テスト②（25点満点）を行う。その後、高次脳機能障害の、記憶障害、注意障害、遂行機能障害、について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 神経内科学 第5版 p 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布するKeywordsを、A4のノート左頁に貼りつけ、プリントや神経内科学のテキストからの解答を右頁の記入しノートを作成（予習）。このノートの復習を繰り返し行う。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間+復習30分X4回=合計3時間以上</p>
第14回	<p>脳神経外科領域の疾患（頭蓋内圧亢進、脳浮腫、脳ヘルニア、髄膜刺激症状）、構音障害、嚥下障害</p> <p>【key words】 配布されるKeywords を参照 【授業概要】 はじめに、構音、嚥下のメカニズムを学習、その後診断と治療を学ぶ。また脳神経外科領域の疾患（頭蓋内圧亢進、脳浮腫、脳ヘルニア、髄膜刺激症状）についても学習する。 【教科書ページ・参考文献】 神経内科学 第5版 p152-P171 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布するKeywordsを、A4のノート左頁に貼りつけ、プリントや神経内科学のテキストからの解答を右頁の記入しノートを作成（予習）。このノートの復習を繰り返し行う。 【予習復習に必要な想定時間】 予習1時間+復習30分X4回=合計3時間以上</p>
第15回	<p>総復習 神経診断技術から診る神経疾患</p> <p>【key words】 配布されるKeywords を参照 【授業概要】 神経診断学的手法を復習し、そこから得られる情報をもとに考えられる疾患について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 神経内科学 第5版 p 35-P70 ベッドサイド神経の診かた 第18版 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布するKeywordsを、A4のノート左頁に貼りつけ、プリントや神経内科学のテキストからの解答を右頁の記入しノートを作成（予習）。このノートの復習を繰り返し行う。 【予習復習に必要な想定時間】</p>

	予習1時間+復習30分X4回=合計3時間以上
受講生に関する情報および受講のルール	授業中の私語は厳禁とする。注意をしても守れない者は、退室させる。教室の座席については、学籍番号順に、指定された席に着席して授業に臨むこと。チェックシートを傍らに置き、予習でわからなかったチェックシートの項目を、授業中に明らかにすること。膨大テキストの内容をこなすには、授業に集中することが必須である。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	膨大な内容を短時間で理解するために、授業前にテキストの該当範囲を一読することが必要である。その上で、配布されたチェックシートに従って、学習する。A4のノートの左側にチェックシートを短冊状に切って貼り付け、右側のページに、指定内容を教科書から調べ記載してゆくこと（予習）。授業で自分の事前の作業の妥当性を確認し、不明点、誤っていた点は授業中に修正する。授業後、チェックシートを点検したのち、該当範囲の国家試験問題を、配布するプリント、テキストのでもんでたもん〔臨床医学〕で行う（復習）。
オフィスアワー	木曜日の授業終了後の休憩時間。
評価方法	筆記試験による期末試験（前期講義の全範囲）で、60%以上の得点を得る事が、成績評価の前提条件である。その上で、学期中に2回行なう小テストの点数を50%（25点×2回）、期末テストの点数に50%（50点）の配分をした点数をもって、成績評価を行なう。小テストの比重が重いことに注意されたい。なお小テストについては、再試験を実施しない。欠席の場合は、如何なる理由でも0点となる。期末の再試験においても、小テストの再試験は実施せず、後期講義の全範囲の内容の100点満点の再試験で、単位修得の可否のみ判定（CまたはD評価のみとなる）する。日頃の健康管理も重要であり、医療人となる者にとっては必須の事項である。各テストは、空欄補充形式の問題と指定範囲内の過去の国家試験問題からなる。
教科書	① 標準理学療法学、作業療法学 専門基礎分野 神経内科学 第5版 川平和美 編集 医学書院 ② ベッドサイド神経の診かた第18版 田崎義昭 著 南山堂 ③ PT OT 国家試験共通問題 であるもん であるもん〔臨床医学〕 医学書院
参考書	授業中に適宜紹介する
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <p>■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容 藤田保健衛生大学（現 藤田医科大学）脳神経外科学教室 事績経験あり</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <p><input type="checkbox"/>PBL（課題解決型学習） <input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/>グループワーク <input type="checkbox"/>プレゼンテーション <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク ■アクティブラーニングは実施していない</p> <p>情報リテラシー教育</p> <p><input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育 <input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） <input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） <input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） ■情報リテラシー教育は実施していない</p> <p>ICTの活用</p> <p><input type="checkbox"/>ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 ■その他</p> <p>その他の具体的内容 you tubeにて講義を実施。また、Webポータルにて学生の質問を受ける。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位(30)	必修
担当教員			
鈴木利定			
基礎科目			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	「人間とは何か」我々はこれまで幾度となくこの問いかけを繰り返してきた。中国の思想家たちは、この問いにどのように解答しているのか。そしてそれぞれの解答に対して自分自身はどう思うのかを自ら問うてみる学問をねらいとしている。
授業の概要	孔子は人間にいかにかに生くべきかという問いについて、人間によるべき新しい「道」をどのように考えたか。仁と礼について、特に最近では礼儀をわきまえないという声もある。つまり「形式的な礼など無用だ。真心さえ持っていればそれでよいのでは虚礼廃止だ。」ということもあるが、孔子の説いた礼をもとに現代における礼のあり方を学ぶ。プラトンと同じく孔子は、理想国家を説くことにより政治のあり方を説いた。孔子の説いた政治道徳の現代にあてはまることを学ぶ。老子・荘子は孔子と並ぶ中国の代表的な思想家である。両者は全く相反する傾向すら持っている。この両者の思想を比較し、学ぶ。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	
(理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	
(作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	
(作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	第1回	科目オリエンテーション / 論語序説「史記」孔子出家で孔子の履歴を知る。学ぶことの意義、孝弟について、文を学ぶことは人倫の大きなる者について、信と義について。君子と貧しきもの生き方。学問について。 論語 史記 信と義学ぶことの意義、孝弟について、分を学ぶことは人倫の大きなる者について、学問について。
	第2回	政とは如何なるべきか。志学より従心までの心持。孝と敬と。人物の観察法。身を正すこと。内省。志の大切さ。道に志す。性善論。信の大切さ。 命の使い方P1、P174
	第3回	教育論、礼に反する儀式について。僭し泰れに旅したこと。祭りと祭神について。射にみる古道について。 プロタゴラス(真理なし) ソクラテス プラトン(イデア論)(真理あり)プリントを配布孝と敬と。人物の観察法。身を正すこと。内省。志の大切さ。道に志す。
	第4回	大学の道についての孔子の説明。大学辛句(右経一章) 明德を明らかにするを積く。民を新に積く。(右伝の三章、右伝の二章) プラトンからアリストテレスの思考の違いを「例」を持って説明
	第5回	至善に止まるを積く。本末を積く。(右伝の三章、右伝の四章) 心を正しくして身を脩めて、家を斉う。(右伝の七章、右伝の八章) コメントカードの質問に答える。
	第6回	① 形物上学他、② ギリシャの愛についてプリント配布して説明成有一徳 P14~22 家を斉へて国を治むるを積く。(右伝の十章) 朱子の中庸に対する解説であり、孔子の孫子思

	が道学のその伝を失わんことを優えて作るより説きおこす。(中庸章句序)
第7回	道に対する知者、愚者、賢者、不肖のかかわりを論ずる。(右章第四章、五章、六章)
第8回	顔回が中庸をえらび人生に処したことを論ずる。(右第七、八、九章) 大学の道についての孔子の説明。大学辛句(右経一章) 明德を明らかにするを積く。民を新に積く。
第9回	国に道あるとき無きとに関せず節操を持つべきを子細に示す。(右第十、十一章) 朱子の中庸に対する解説であり、孔子の孫子思が道学のその伝を失わんことを優えて作るより説きおこす。
第10回	孔子が憂いが無いのは文王だけだろうと語った理由を論ず。(右第十九章) 後世へ残すもの、1、お金 2 事業 3、 思想 、祈 4、元気
第11回	結論 誰にでも出来て 害にならないもの よく民を治めるには、誠は天の道なるを知るに有るを論ず。(右第二十章) 道に対する知者、愚者、賢者、不肖のかかわりを論ずる。
第12回	孔子の思想が「人間中心」であり、「ヒューマニズム」であるといわれるのはなぜかを学ぶ。 ①西洋の2聖人 アリストテレス イエスキリストのその後の影響 ②宗教と哲学の違い 宗教は信ずること 哲学は問うこと P8
第13回	孟子の人間観と荀子の人間観は孔子を中心とした仁と礼のいずれかの強調からきたものである。 孟子、荀子はそれぞれを重視するものか、仁を重視するものかを考える。「四端の心」について学ぶ。 顔回が中庸を選び人生に処したことを論ずる。
第14回	老荘思想においては、人間をどのようにとらえるか。又、儒教の人間観に対してどのような批判をしているかを学ぶ。 孟子の人間観と荀子の人間観は孔子を中心とした仁と礼のいずれかの強調からきたものである。 孟子、荀子はそれぞれを重視するものか、仁を重視するものかを考える。
第15回	老荘思想と儒教のどちらの人間観により自己の思想を築いていくのかを学ぶ。 現代のみだれ 宗教・道徳が必要 宗教の問題 1、救済の問題 2、続行者の問題 3、 信仰者の問題(行為) 「親鸞」についても話すプリント 日本の仏教一覧表
受講生に関わる情報および受講のルール	成績評価は、試験・レポート・出席状況を監視、一度も休みのない者については、成績としては十分な評価を与える。出欠席は重視する。理由なくして欠席、遅刻の多い者(2回以上のもの)は成績評価を受ける資格を失う。欠席の虚偽申告(代返等)をした者は単位を認めない。講義中のノート筆記は必ず行い、質問に対して的確な解答ができるよう努める。私語は厳禁。注意を促し、場合によっては退出を命ずる。再試は1回のみ。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	テキストの予習・復習をすること。
オフィスアワー	火曜日 10時30分～12時。
評価方法	■筆記試験(□論述 □客観) ■レポート □口頭試験 □その他評価配分:成績評価は、試験(70%)・レポート(15%)・授業取組み状況(15%)を鑑み、評価を与える。
教科書	鈴木利定著「儒教哲学の研究一修正版」(明治図書) 咸有一徳(中央法規)
参考書	講義の中で適宜紹介していく。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク ■アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの(図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの(情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの(レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) ■情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 ■その他 その他の具体的内容

you tube にて遠隔授業の実施。学生の質問はwebポータルを利用。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位(30)	選択
担当教員			
岡野康幸			
基礎科目			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] 社会の一員として人は他者と協力し共存しながら生活をしていきます。では、どのようにすれば自他ともによりよい生活を送ることが可能でしょうか。それは人が誰しも心の奥に存在する「人間らしくよりよく生きよう」とする小さな声、つまり道徳心を構築することから始まります。この講義では道徳心をどのように育てていくのかを建学の精神（儒学の「仁」）と関連しながら解説していきます。また、小・中教員免許の取得を目指す学生のために、どのように道徳の授業を構成・展開するのかを、テキスト以外にも身近な事例話題をもとに指導案の作成などを通して指導力の育成に当たります。</p> <p>[到達目標] ・自覚的に道徳心を養おうとする態度を身につけ、感情ではなく道徳的判断を可能としその道徳的判断を論理的に説明できる。 ・児童・生徒の発達段階に即した道徳の授業を計画し、系統的に授業ができる。</p>		
授業の概要	<p>・人はどのような時に道徳心を発揮するのか、テキスト掲載の中国古典を例に学生との議論や解説を通じて考察する。その過程を経ることにより、人としてのあり方・生き方について自ら学び、積極的に社会に参加できる力を養う。 ・児童・生徒が日常的に経験する事例から道徳の端緒を探り、どのように拡充していくかを討論から考察する。</p>		
各学科、専攻、コースにおけるDP			科目における重要度
(理学療法) (豊かな人間性) 真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			◎
(理学療法) (専門性の探求) 専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			
(理学療法) (専門的実践力) 心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる			
(理学療法) (多職種協働) 対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(理学療法) (地域実践) 地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
(作業療法) (豊かな人間性) 真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			◎
(作業療法) (専門性の探求) 専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			
(作業療法) (専門的実践力) 生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。			
(作業療法) (多職種協働) 対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(作業療法) (地域実践) 地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
授業計画	第1回	授業オリエンテーション（講義内容・方法・授業時の留意事項・評価）ハチドリのひとしずく（事象の論説・事実把握・論述すること）	
	第2回	咸有一徳とは、「徳」「仁」の字源から咸有一徳を解釈する	
	第3回	論語に見る「仁」「徳」の解釈、孔子の時代について	
	第4回	「真心」の解説（中国における儒学関係古典の解釈）「心」の字源	
	第5回	「至誠」「尽くす」の解説・「儒教」とは、五倫五常の解説	
	第6回	王陽明『伝習録』と建学の精神一仁について	

	<p>第7回 王陽明『伝習録』と教育理念－知行合一について－</p> <p>第8回 小学校・中学校学習指導要領に示された「道徳」－各年代における位置づけ－、明治以降の教育界における道徳教育の変遷</p> <p>第9回 小学校・中学校における道徳課題について</p> <p>第10回 道徳課題に基づき指導案を作成してみる</p> <p>第11回 模擬授業</p> <p>第12回 続模擬授業、総括（総括に基づき訂正の上、指導案を提出してもらいます）</p> <p>第13回 豊かな人間性の涵養と、人格の向上について（交際・礼儀作法・エチケット）家庭生活の基本マナー（儒学における関係古典文献より考察）</p> <p>第14回 福祉界が望むマナー（人として大切であることを説く中国古典、先達の言葉から考察）</p> <p>第15回 時事問題の考察・発表・解説（人としてのあり方・生き方を考える）</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<ul style="list-style-type: none"> ・ただ授業を聞くといった受け身の姿勢ではなく、「学ぶ意義」を自身に問いかけながら、積極的に参加すること。 ・周囲の迷惑になるので私語は慎むこと。 ・本人の責に帰す遅刻早退は認めない。 ・不明な用語に当たったら、辞典類で調べること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	講義に臨む前に、指定個所を必ず読んでおくこと。読んでいるという前提で講義を進める。
オフィスアワー	毎週火曜14時～16時。
評価方法	期末試験70%、課題15%、発表15%。
教科書	鈴木利定・中田勝著『咸有一徳』修訂第2版、中央法規、2014年5月 鈴木利定関 中田勝著『王陽明 徐愛「伝習録集評」』明徳出版社、2016年6月
参考書	『中学校学習指導要領 道徳編』『小学校学習指導要領解説 道徳編』
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <p><input type="checkbox"/>実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <p><input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>グループワーク</p> <p><input type="checkbox"/>プレゼンテーション</p> <p><input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク</p> <p><input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</p> <p>情報リテラシー教育</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>情報モラルに関する教育</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）</p> <p><input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）</p> <p><input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）</p> <p><input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない</p> <p>ICTの活用</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>ICTを活用した双方向型の授業の実施</p> <p><input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援</p> <p><input type="checkbox"/>その他</p> <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位(30)	選択
担当教員			
江島正子			
基礎科目			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 学習指導要領の「総則」に示される、これからの日本の学校教育の理念、具体化の方向の趣旨に沿い、我が国が歩んできた教育の歴史的背景を理解する。教育課程とは何か、これからの日本の教師はどうあるべきかを学び、必要な資質や能力、態度の基礎・基本を養う。</p> <p>〔到達目標〕 1 教育思想の変遷に基づき、歴史的背景から教育の本質を捉えることができる。 2 学校の歴史・義務教育の意義が理解できる。 3 教育課程を理解し、教育活動の展開の実際を身につける。</p>
授業の概要	<p>1 教育における人間観を哲学者のカントや比較動物学者のポルトマンから言及し、教育思想の展開を、村井実のモデル（①手細工モデル、②農耕モデル、③生産モデル）を用い、社会的背景を交えながら考察し、学校の歴史や義務教育史にも触れる。 2 子どもと授業の関係を、「わかる」「できる」「考える」といったそれぞれの違った視点から捉える。さらに、教育現場における言語コミュニケーションと非言語コミュニケーションの教育的意義について考え、学校における教育的効果について考える。 3 教育課程を理解し、教育活動の展開の実際を身につける。</p>

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	
(理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	
(作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	
(作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	
授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション（授業概要、評価方法等）－授業の冒頭に示す【視点】を意識し授業に臨む。教育における人間観－「人間は教育によってのみ人間になる」その功罪、野生児に学ぶ。</p> <p>第2回 教育思想の変遷 ① 手細工モデルと農耕モデルの特徴と問題点</p> <p>第3回 教育思想の変遷 ② 生産モデルの特徴と問題点</p> <p>第4回 学校の歴史 ① 学校とは何か・学校の定義、下構型・上構型の学校システム</p> <p>第5回 学校の歴史 ② 就学の形態：複線型、分岐型、単線型</p> <p>第6回 義務教育の意義 ① 義務教育の歴史からその成立に至った意義について4つの視点からみる</p> <p>第7回 義務教育の意義 ② 日本の義務教育制度の変遷、教育課程</p>

	<p>第8回 教育システムの閉鎖性と開放性の諸問題</p> <p>第9回 教育課程の編成</p> <p>第10回 子ども理解の視点 ① 「わかっている」とはどういうことか-事例を通して考える-</p> <p>第11回 子ども理解の視点 ② 「わかっている」が出来ていないというのはどういうことか-事例を通して考える-</p> <p>第12回 学校における非言語コミュニケーション ①人は気持ちをどう伝え合うのか- 近言語的、非言語-</p> <p>第13回 学校における非言語コミュニケーション ②人は気持ちをどう伝え合うのか-空間の行動、人工物、物理的環境等-</p> <p>第14回 言語コミュニケーション 言語を通してのコミュニケーションの役割</p> <p>第15回 教師について考える 発問と質問/まとめ 14回を通して、教育の意義・目的を理解し、教師としての資質を確認する。</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<p>1 遅刻・欠席は授業時間前に必ず届け出ること。無断欠席や遅刻の多い学生は受講取消もあり得る。</p> <p>2 授業中に課したミニレポート・シャトルカードを必ず提出すること。</p> <p>3 予習復習を必ず行い、疑問点を確認しておくこと。</p> <p>4 将来、教職に携わる者としての資質を養うため、私語を慎み、誠意ある態度での受講を求める。</p>
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード方式、その他（ミニレポート）
授業外時間にかかわる情報	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の要約もしくは課題をミニレポートとシャトルカードにまとめ、指定した日時までに提出すること。ミニレポートをまとめる際、語句の意味や内容を専門書等で調べ詳細にまとめること。 ・定期試験やミニレポートのまとめは授業中の内容が中心となるため、真摯な態度で授業に臨み、毎回の授業内容を確認し、疑問点等を残さないようにしておくこと。
オフィスアワー	水曜日 9時～11時。それ以外の時間帯については、要相談・要予約。
評価方法	授業中に課したミニレポート・シャトルカードの内容（30%）、試験またはレポート（70%）を総合して評価する。
教科書	柴田義松著 『新教育原理』 有斐閣双書、2005年
参考書	講義の中で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <p><input type="checkbox"/>実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習) <input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/>グループワーク <input type="checkbox"/>プレゼンテーション <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク ■アクティブラーニングは実施していない <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育 <input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） <input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） <input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） ■情報リテラシー教育は実施していない <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 <input type="checkbox"/>その他 <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位(30)	選択
担当教員			
篠原章			
基礎科目			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	生涯学習の基本理念と内容を理解し、わが国の歴史的展開と現状や世界の流れを知るとともに、生涯学習における学び方を身に付け、学習者への支援方法を効果的に活かせる力を養う。		
授業の概要	生涯学習における日本と世界の基本的考え方や理念、特にユネスコとOECDの相違、生涯学習の今後の展望を学ぶ。また現在の家庭・学校・社会の諸課題を踏まえ、生涯学習時代に期待される人間像について考察する。		
各学科、専攻、コースにおけるDP			科目における重要度
(理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			◎
(理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			
(理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる			
(理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
(作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			◎
(作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			
(作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。			
(作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
授業計画	第1回	オリエンテーション	
	第2回	国際社会における議論	
	第3回	日本での議論・政策	
	第4回	生涯学習の理念と理論(その1)	
	第5回	生涯学習の理念と理論(その2)	
	第6回	生涯学習の内容と形態	
	第7回	学校教育と生涯学習	
	第8回	外国の生涯学習(その1)	
	第9回	外国の生涯学習(その2)	
	第10回	生涯学習の先駆け(その1)	
	第11回	生涯学習の先駆け(その2)	

	<p>第12回 社会教育制度</p> <p>第13回 生涯学習支援の動向と課題</p> <p>第14回 まちづくりと生涯学習</p> <p>第15回 グローバリゼーションと生涯学習</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<p>板書・口述内容は、定期試験に重要なので整理すること。 小論文、レポートは必ず提出すること。 5回を超えて欠席すると定期試験の受験資格を失う。</p>
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	予習に重点を置き学習すること。「学び方を学ぶ」ということ意識して学習すること。
オフィスアワー	講師室で授業後30分。
評価方法	定期試験・小論文・レポートを総合的に評価する。（目安）定期試験70%、小論文・レポート30%。
教科書	「テキスト生涯学習 新訂版」学文社
参考書	講義の中で適宜紹介していく。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <p><input type="checkbox"/>実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <p><input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習)</p> <p><input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート</p> <p><input type="checkbox"/>グループワーク</p> <p><input type="checkbox"/>プレゼンテーション</p> <p><input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク</p> <p>■アクティブラーニングは実施していない</p> <p>情報リテラシー教育</p> <p><input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育</p> <p><input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）</p> <p><input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）</p> <p><input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）</p> <p>■情報リテラシー教育は実施していない</p> <p>ICTの活用</p> <p>■ICTを活用した双方向型の授業の実施</p> <p><input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援</p> <p><input type="checkbox"/>その他</p> <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位(30)	選択
担当教員			
橋本広信			
基礎科目	社会福祉主事任用資格指定科目		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>【授業の目的】 ヒトの心を成立させている機能や基本的なメカニズムについて理解し、人間を理解する視野を広げる。</p> <p>【到達目標】 ①知覚や認知などヒトが環境を知る基本的メカニズムを学び、人が感じ生きている個別の世界を想像する基礎知識を得る。 ②学習や記憶、感情など、ヒトの人格を成り立たせる基本的な仕組みを学ぶことで、それぞれの人の生き方や生活世界の内的基盤をイメージすることができる。 ③生涯にわたる発達の流れを把握することで、人がどのように生き、どのような課題と出会うかについてイメージすることができる。 ④専門職としてやがて出会う「患者の心理」に関連する知識を学ぶことで、今後の医療技術の専門的学習への姿勢や意欲を高め、患者理解の基礎体験を作ることができる。</p>
授業の概要	<p>広範囲にわたる心理学の知識や人間に対する見方を短期間で学習し、人の心理や行動、人間関係の理解に関する知的基盤を養う。 心理学は臨床心理学など、応用的心理学の基礎ともなる科目であり、精神医学などその他の科目とも連動する内容となっている。専門職として深くかかわる患者の心理や人間そのものの理解のためにも、積極的に学習に臨んでほしい。</p>

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	○
(理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	
(作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	○
(作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション：心理学とリハビリテーション なぜ心理学を学ぶのか</p> <p>【key words】 ・共感、ICF(国際生活機能分類)、ヴント、行動主義、精神分析学、ゲシュタルト心理学、認知心理学</p> <p>【授業概要】 ・現在までに至る心理学の歴史をおおまかに学ぶ。心理学が何に注目し、どのように心を知ろうとしてきたかを知ること、心理学が対象とする「心」の特質を知る。同時に、それをリハビリ専門職が学ぶ意義について、患者の体験などを参考に、考えていく。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書8-19頁、山崎明夫(2016)『にほんごがこんなふうにもえたのよ!』(株QOLサービス)</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 ICFについてネット等で調べておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習2時間、復習2時間</p> <p>第2回 感覚と知覚：ヒトの目は、なぜ顔の前に二つしているのか?</p> <p>【key words】 感覚、適刺激、刺激閾、刺激頂、弁別閾、知覚、知覚の体制化、図と地、プレグナンツの法則、</p>
------	--

	<p>恒常性、錯視 【授業概要】 ・すべての生物は進化の過程を経て、環境に対応する姿かたちと生きる能力を備えている。それが、心の身体的な基盤となっていることを知る。今回は感覚と知覚に焦点を当て、ヒトが、自分の生きる環境とどのように関わりながら内面的な能力を発展させていったかを考える。 【教科書ページ・参考文献】 教科書24-27頁、更科功 (2019) 『残酷な進化論：なぜ私たちは「不完全」なのか』 (NHK出版) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 「錯覚」について、ウェブサイトなどで調べ、授業後、それぞれが学習したことを深めておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習2時間、復習2時間</p>
第3回	<p>注意、認知 【key words】 奥行知覚、運動知覚、ファイ現象、自動運動、知覚的防衛、知覚の異常に基づく発達障害、学習障害、コグニティブ・トレーニング 【授業概要】 ヒト（生物）は、知覚したすべての情報を均等に処理するのではない。生物が持つ、情報に「注意」を向ける力によって、短時間での反応（情報処理）を可能にしている。ここでは、知覚の基盤の上に成り立つ、ヒトならではの複雑な認知のプロセスについて学ぶ。また、発展的な問題として、「不器用な子ども」や認知面での問題がある人に対して提起されている「認知作業トレーニング」について体験する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書28-31頁、更科功 (2019) 『残酷な進化論：なぜ私たちは「不完全」なのか』 (NHK出版)、宮口幸治他 (2014) 『不器用な子どもたちへの認知作業トレーニング』 (三輪書店) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 認知作業トレーニング（コグニティブ・トレーニング）について予習しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間</p>
第4回	<p>情動・動機づけ 【key words】 情動、ジェームズ・ランゲ説、キャノン・バード説、情動二要因説（シャクターとシンガー）、ホメオスタシス（キャノン）、マズロー、欲求階層説、アンダー・マイニング効果 【授業概要】 ヒトの心は常に何らかの刺激に反応し、動き続ける。今回は、本能的・反射的に動くヒトの情動の特質を学びつつ、そうした情動の背景にある動機づけのメカニズムや種類を学び、人に備わる情動の役割について総合的に考えていく。 【教科書ページ・参考文献】 教科書32-35頁、ディラン・エヴァンズ (2005) 『感情』 (岩波書店) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 「自分が感情的になりやすい場面」について書き出しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間</p>
第5回	<p>パーソナリティ あなたの心の形はどんな形？ 【key words】 パーソナリティ、気質、クロニンジャー、類型論、クレッチマーの類型論、ユングの内向・外向、特性論、ビッグ・ファイブ、人か状況か論争、状況特性理論、傍観者効果、社会的促進・抑制、内集団びいき 【授業概要】 ・同じ環境下にあっても、人はそれぞれ個別の捉え方や行動をする。こうした「その人らしさ」を人のパーソナリティ（人格）として捉える視点を学ぶ。また、様々なパーソナリティの捉え方について理解することで、どのようにパーソナリティというものを考えればよいのかについて考える。 【教科書ページ・参考文献】 教科書36-39頁、 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ワーク課題を出す予定なので、事前にそれをやって持参すること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習2時間、課題2時間</p>
第6回	<p>記憶 【key words】 宣言記憶、エピソード記憶、意味記憶、非宣言記憶、手続き記憶、プライミング、チャンク、マジカルナンバー、感覚情報保存、短期記憶、長期記憶、ワーキンメモリー（作動記憶）、展望記憶、健忘 【授業概要】 ・ヒトが現在の出来事を越えて判断をしたり予想を立てることが出来るのは、記憶の力があるからである。ここでは、こうした力を支える記憶のメカニズムの基礎を理解する。また、記憶がどのように内外の状況に影響を受けるのか、また、記憶が失われたり損なわれてしまうとどのようなことが起こるのかについても考えていく。 【教科書ページ・参考文献】 教科書42-43頁、ジュリア・ショウ (2016) 『脳はなぜ都合よく記憶するのか』 (講談社) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 記憶はリハビリや国試にストレートに関係するテーマであるので、特に予習復習をしっかりとしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習2時間、復習2時間</p>
第7回	<p>学習</p>

	<p>【key words】 レスポデント条件付け（パプロフ）、強化、般化、分化、消去、オペラント条件付け（スキナー）、報酬と罰、強化子、観察学習（バンデューラ）、洞察学習（ケーラー）</p> <p>【授業概要】 生物にはそれぞれ生まれながらにできる多くの行動（本能）がある。ヒトの場合は、できる行動は大変少ない状態で生まれ、意識的な行動が急速にできるようになっていく。すなわち、ヒトの多くの行動は生後にどこかで「学習」され、獲得されていく。ここでは、学習の基本的なメカニズムを学び、どのようにヒトが変化をしていくようになっているのかを考える。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書44-47頁</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 学習理論も大変大切なテーマであるので、予習復習を含め、ひとつひとつしっかり理解しておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習2時間、復習2時間</p>
第8回	<p>言語と概念</p> <p>【key words】 音声言語、文字言語、音韻知覚、シナプスの刈込、構音発達、象徴、概念、カテゴリー化、定義的特性、特講的特性、理論的概念</p> <p>【授業概要】 ヒトが他の生物と異なる点は多くあるが、言語と概念を操作する力は、中でも大きな違いの一つだといえる。生まれた時には話せない状態であるが、どのように言語を身につけるのかをまず学ぶ。また、言語をもつことで得られる「概念」について学び、ヒトの独自の生き方の基盤である言語的な世界について理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書48-49、52-53頁</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページを熟読しておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習2時間</p>
第9回	<p>思考と推理</p> <p>【key words】 創世記（アダムとイブ）、アルゴリズム、ヒューリスティック、集中的思考（収束的思考）、拡散的思考、アナロジー、帰納的推論、演繹的推論、転動推理、確証バイアス、ディーブラーニング</p> <p>【授業概要】 ヒトは本能的・感覚・感情的に自然に目の前の状況に反応しながら生きるのみではなく、考える力によって状況を推理したり、状況を打破する方法を生み出すことさえする。このように物事を認識したり、推理・判断をする基礎となる思考のメカニズムについて理解し、「人らしさ」の源を考える。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書82-92頁、三宅芳雄・三宅なほみ（2014）『新訂教育心理学概論』（放送大学教育振興会）</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページを熟読しておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習2時間、復習2時間</p>
第10回	<p>生まれてからヒトはどのように変化していくのか？発達① 子ども時代</p> <p>【key words】 胎児期、生理的早産、乳児期、言葉の発達、幼児期、ピアジェ、ヴィゴツキー、発達の再近接領域、フロイトの心理学的発達理論、リビドー</p> <p>【授業概要】 ヒトは生物として見た時、非常に変わった状態で誕生する。このことの持つ意味や意義を確認しながら、人が乳幼児期から児童期という子ども時代に内面的にはどのような力や感覚を発達させていくかについて学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書56-57頁、60-61頁</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・幼い頃の自分が描いた絵や作文などを探して一つ写真かコピーを撮っておくこと。（授業時に提出日を指示した上で提示予定）</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間</p>
第11回	<p>エリクソン（Erikson）の発達段階理論①</p> <p>【key words】 ライフサイクル、エピジェネティック・チャート、乳児期（基本的信頼 対 不信 : 希望）、早期幼児期（自律性 対 恥・疑惑 : 意志）、幼児期（イニシアティブ 対 罪悪感 : 目的）</p> <p>【授業概要】 独自の発達段階論で有名な、エリック・エリクソンによるエピジェネティック・チャート（発達の漸成理論図）に基づきながら、人の発達の变化とライフサイクル上の課題について解説する。今回は、最も早期の三つの段階について解説する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書58-59頁</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 ネットなども使って、エリクソンと彼のライフサイクル論についてよく調べておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習2時間、復習2時間</p>
第12回	<p>エリクソン（Erikson）の発達段階理論② オトナになるとは</p> <p>【key words】 学童期（勤勉性 対 劣等感 : コンピテンシー）、青年期（アイデンティティ 対 アイデンティティ拡散 : 忠誠）、モラトリアム、マーシャの4分類</p> <p>【授業概要】</p>

	<p>持って生まれた能力を子ども時代の遊びや仲間関係を通じてそれぞれに伸ばしながら、やがて子どもたちは家族から離れ、それぞれの「社会」に入るための訓練を受ける時期を迎える。学校を中心とした生活において学習などの適応課題にうまく対処することで、社会で適応的に生きる力を伸ばすが、その逆も多く起こる。そして、身体の急速な変化とともに、社会の出口を展望し始め、青年期を生き始める。ここではこのような、ヒトが大人になっていくプロセスについて考えていく。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書62-63頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 主にスライドや演習、活動を通して青年期が何故あるのかを考える。積極的に参加すること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習2時間、復習2時間</p> <p>第13回 エリクソン (Erikson) の発達段階理論③ 中年期・老年期</p> <p>【key words】 ジェネラティビティ、加齢、更年期、空の巣症候群、中年期の危機、サクセスフルエイジング、モーニング・ワーク、グリーンワーク、お迎え現象</p> <p>【授業概要】 長い時間をかけてオトナとしての時間を生きていくうちに、やがてヒトは種々の能力や社会的なつながり、立場を喪失し、衰退を体験する人生後半の課題に向き合うことになる。この人生の後半にこそ、ネガティブな自分の心に捕らわれず、創造的に変化を遂げることが試される。一人のヒトとして自分の人生をいかに閉じていくか、ライフサイクル終盤の発達課題について検討する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書62-63頁、プリント 【課題・予習・復習・授業準備指示】 偉人の一生など、ライフサイクル全体を見通して描かれたような映画を探し、あらすじを報告できるようにしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間</p> <p>第14回 ヒトとして、心が健康である状態とは？：精神的健康</p> <p>【key words】 抑うつ、不安、抑うつ尺度、ストレス尺度、不安神経症、統合失調症、人格障害、物質関連性障害、心身症 等</p> <p>【授業概要】 ヒトは体が健康でも、社会的に安定していても、心が健康に機能しないために苦悩の中にとらわれて日々の生活を送る人々がいる。青年期は特に体も社会的立場も不安定で、精神的に不健康になりやすい。本格的な一人一人の苦悩に寄り添う臨床心理学は後期に学ぶが、ここでは、心の健康が損なわれている状態について理解を深めることで、健康な心というものを考えていく。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 配布資料、指示された参考書など 【課題・予習・復習・授業準備指示】 あらかじめゲスト講師に関係することについて、調べ学習の課題を出す予定。 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間</p> <p>第15回 大きな変化と出会う時、心はどう揺れるのか？</p> <p>【key words】 病、難病、障害、障害受容</p> <p>【授業概要】 来医療現場で仕事をする専門職を目指す学生を対象とする講義という特性を考え、教科書にはないが、人生の中で大きな病を体験し、医療的支援を受けた患者当事者や医療専門職として現場で活躍されている方をお呼びして、ゲスト講師による授業を行う。生きていくということは、長い人生のどこかで、病や事故という想像しえない出来事と出会う可能性の中に生きることでもある、ということを理解する。また、そうした出来事によって「患者」となった人の心の揺れを直接お聞きし、リハ専門職として患者の心を支える視点を学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前にゲスト講師に関連する病や障害などを調べ、「質問」を一つ必ず用意しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間</p>
<p>受講生に関する情報 および受講のルール</p>	<p>〔受講生に関する情報〕 ・医療・福祉職を目指す者にとって、「ヒト」とは何かという、人間観の基礎を培う科目に位置づけられる。 ・国家試験に関連する基礎知識を学ぶ科目ともなるもので、紹介する図書などをもとに、さらに主体的な学習を期待する。</p> <p>〔受講のルール〕 ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、スマホなどの使用）は退席を命じる。その場合は欠席扱いとする。ただし、授業によってはスマホなどを利用する場合もあるので、指示に従って行動すること。 ・評価にある通り、2回程度小レポートや感想文を課す予定。それぞれ評価の対象になりますので、必ず提出すること。</p>
<p>毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状況の 確認方法</p>	<p>スレッドで資料配布をするので、そこへの返信の形で、授業後すぐに授業へのコメントを書き込むこと。できる限り返信をする。</p>
<p>授業外時間にかかわる 情報</p>	<p>・多くの用語が出てくるので、シラバスに基づき教科書中の該当部分を予習しておくこと。 ・授業時に紹介する図書や映画などを積極的に学習すること。</p>
<p>オフィスアワー</p>	<p>前橋キャンパスで授業を行うので、授業後2号館2階東角にある高等教育支援センターにて声をかけること。特に決まった時間は設けない。授業後の質問、メールによる質問も受け付ける。</p>
<p>評価方法</p>	<p>・総合評価は、以下の通りの割合で評価。総合得点60-69点：C、70-79点：B、80-89点：A、90点以上S</p>

	・原則期末試験で80点、小レポート・課題提出等で20点として、100点満点で計算。
教科書	内山 靖・藤井浩美・立石雅子（編著）（2020）『リハベーシック 心理学・臨床心理学』（医歯薬出版）
参考書	鹿取廣人・杉本敏夫・鳥居修晃編（2020）『心理学（第5版補訂版）』（東京大学出版会） 二宮克己（編著）（2016）『ベーシック心理学第2版』（医歯薬出版）
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <p><input type="checkbox"/>実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <p><input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>グループワーク</p> <p><input type="checkbox"/>プレゼンテーション</p> <p><input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク</p> <p><input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</p> <p>情報リテラシー教育</p> <p><input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育</p> <p><input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）</p> <p><input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）</p> <p><input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない</p> <p>ICTの活用</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>ICTを活用した双方向型の授業の実施</p> <p><input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援</p> <p><input type="checkbox"/>その他</p> <p>その他の具体的内容</p> <p>状況によってzoomを用いて授業を行う。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位(30)	選択
担当教員			
久山宗彦			
基礎科目			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] 国際文化論（intercultural studies）を勉強すれば、国際的な相互依存関係の中で生きていく私たちが、自立した個人として生き生きと活躍していくためには、自国の文化に根差した自己の確立や、異なる文化を持った人たちをも受け入れる必要があることがわかるようになる。</p> <p>[到達目標] 国際文化論は、異なる文化を持った人たちと繋がっていきける能力や態度を身につけていくことを主眼としている。</p>		
授業の概要	世界の諸事情と日本との関係を知り、自らの歩む道について考える。更に、日本と世界（諸外国）の関係がどのように発展したらよいかについても考察する。		
各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度		
(理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎		
(理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			
(理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる			
(理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
(作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎		
(作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			
(作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。			
(作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
授業計画	<p>第1回 「国際文化論が目指すのは国際平和である。」～特に難民問題と日本の関わりを巡って～</p> <p>第2回 和の文化（1）～その構造について～</p> <p>第3回 和の文化（2）～神の文化との比較～</p> <p>第4回 マルティン・ブーバー（Martin Buber）の「関係」の哲学（1）</p> <p>第5回 マルティン・ブーバー（Martin Buber）の「関係」の哲学（2）～医療世界への応用～</p> <p>第6回 日本外交の原点に位置する聖徳太子</p> <p>第7回 ヨーロッパ文明とEU</p> <p>第8回 日本と中東（1）</p> <p>第9回 日本と中東（2）</p> <p>第10回 湾岸戦争後のイラクの弱者に対する救護活動</p>		

	<p>第11回 ダブリン（Dublin）のホスピスの発祥の地、聖母ホスピスを訪ねて</p> <p>第12回 「平和」実現への第一歩とは（1）</p> <p>第13回 「平和」実現への第一歩とは（2）～平和憲法の共有～</p> <p>第14回 国際文化論として考えるリハビリテーション</p> <p>第15回 個性と異文化との格闘、異文化理解、そして外国語</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<ul style="list-style-type: none"> ・授業レジュメは原則として毎回配布する。 ・授業には積極的な態度で臨むように。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	世界の国々と関わる日本のニュースにも、いつも関心を持っていただきたい。
オフィスアワー	授業終了後30分。
評価方法	最終レポート試験（80%）、授業時等のレポート（20%）。
教科書	教科書は使用しないが、毎回の授業時には授業レジュメのほかに、時々参考資料を配布する。
参考書	授業時に随時紹介する。久山宗彦著「神の文化と和の文化」（北樹出版）もそのうちの一つである。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>実務経験のある教員が担当している <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習) <input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/>グループワーク <input type="checkbox"/>プレゼンテーション <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク ■アクティブラーニングは実施していない <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育 <input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） <input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） <input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） ■情報リテラシー教育は実施していない <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 <input type="checkbox"/>その他 <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位(30)	選択
担当教員			
栗原秀司			
基礎科目			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 物理学を通して自然科学の基本的な考え方を学び、応用できるようになることを目的とする。</p> <p>〔到達目標〕 ①力の種類を知り、力のつりあいや運動の法則等を応用して、ヒトの体や骨・筋肉にはたらく力を求めることができる。 ②運動の表し方を知り、式やグラフを読み取ることや式やグラフで表すことができる。 ③エネルギー、熱、波、電気、磁気、放射線等について知り、その表し方や法則を理解し説明できる。</p>
授業の概要	物理学は自然を理解する基本的な考え方であるとともに、多くの場面で利用されている。医療の現場では検査や治療に応用されているだけでなく、ヒトの体の骨格・筋肉等は力学に従っている。本授業では力学を中心に物理学の基本的な考え方を説明し、エネルギー、熱、波、電気、磁気、放射線等について概説する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	○
(理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	
(作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	○
(作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	<p>第1回 (科目オリエンテーション) 物理を理解するための道具とルール 【key words】 単位、有効数字、累乗、三角比、ベクトル 【授業概要】 物理で扱う量には単位があること、測定値の有効数字と計算の仕方を学ぶ。物理に必要な最低限の数学の知識として、累乗、三角比、ベクトルの復習をする。第1章 章末問題を解く。 【教科書ページ・参考文献】 教科書 p1 ~ p8 第1章「物理を理解するための道具とルール」 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第1章 章末問題 授業中に出来なかった問題を解いておく。 教科書の第2章を読んでおく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分~90分</p> <p>第2回 力学の基本ー物体の運動を数式で表すー 【key words】 速度、等速直線運動、加速度、等加速度直線運動、落下運動、反発係数 【授業概要】 速さと速度の違い、等速直線運動のv-t図、x-t図の見方を学ぶ。速度が変わるときは加速度があり、直線上で加速度が一定の場合(等加速度直線運動)のグラフや式を考える。その応用として、自由落下・鉛直投射運動について学ぶ。第2章 章末問題を解く。 【教科書ページ・参考文献】 教科書 p9 ~ p17 第2章「力学の基本」</p>
------	--

第3回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 第2章 章末問題 授業中に出来なかった問題を解いておく。 教科書の第3章を読んでおく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～120分</p> <p>物体の運動と力の関係(1) ー力の表し方と力の種類ー</p> <p>【key words】 力、力のつりあい、作用反作用の法則、重力、垂直抗力、張力、弾性力、摩擦力、合力、分力</p> <p>【授業概要】 物体にどのような力がはたらいているかを知り、その関係を学ぶ。力はベクトルなので、矢印で表す。力のつり合い、作用反作用の法則を知る。力には重力、垂直抗力、張力、弾性力、摩擦力などがあることを知る。力の合成、分解の仕方(作図)を学ぶ。プリントで演習をする。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書 p18 ～ p23 第3章「物体の運動と力の関係」</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 力の演習プリントの残った問題を解いておく。(次回の最初に答え合わせをする。)</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 60分～120分</p>
第4回	<p>物体の運動と力の関係(2) ー運動方程式ー</p> <p>【key words】 慣性の法則、運動の法則、運動方程式</p> <p>【授業概要】 前時の力の演習プリントの残りの問題について答え合わせをする。物体に力がはたらいて加速度が生じる場合の法則を知り、運動方程式のつくり方を学ぶ。練習問題で1物体、2物体の運動について運動方程式を作る。第3章 章末問題を解く。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書 p18 ～ p20、p23 ～ p25 第3章「物体の運動と力の関係」</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 第3章 章末問題 授業中に出来なかった問題を解いておく。 教科書の第4章を読んでおく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～120分</p>
第5回	<p>圧力のはたらきと物を回転させる力 ー身近な力を数式で表すー</p> <p>【key words】 圧力、気圧、水圧、浮力、力のモーメント、重心</p> <p>【授業概要】 気圧や水圧など身近な圧力を知る。大気圧や、水圧の求め方、浮力が生じる理由について学ぶ。力のモーメント、大きさのある物体はたらく力やその合力の求め方、重心について学ぶ。3種類のこと、その応用例について学ぶ。第4章 章末問題を解く。国試の過去問を解く。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書 p26 ～ p33 第4章「圧力のはたらきと物を回転させる力」</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 第4章 章末問題 国試の過去問 授業中に出来なかった問題を解いておく。(過去問は次回解説する。)</p> <p>教科書の第5章を読んでおく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～120分</p>
第6回	<p>エネルギーとその保存法則</p> <p>【key words】 仕事、仕事率、運動エネルギー、位置エネルギー、エネルギー保存の法則</p> <p>【授業概要】 物理の「仕事」の定義について知り、問題を解く。「仕事の原理」とその例について学ぶ。「仕事率」の意味を知り練習問題で求める。エネルギーとは何か、エネルギーの種類、エネルギーの保存、様々なエネルギーの変換例などを学ぶ。第5章 練習問題を解く。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書 p34 ～ p40 第5章「エネルギーとその保存法則」</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 第5章 章末問題 授業中に出来なかった問題を解いておく。 教科書の第6章を読んでおく 【予習復習に必要な想定時間】 60分～120分</p>
第7回	<p>運動量と視点の違いにより感じる力</p> <p>【key words】 運動量、力積、運動量保存の法則、相対速度、慣性力</p> <p>【授業概要】 瞬間的な力が働くときは、運動量や力積を考えると便利なことを知り、衝突や分裂などのときの運動の扱い方、考え方を学ぶ。見る位置の違いで速度や力のはたらき方に違いがあることを学ぶ。第6章 章末問題を解く。国試の過去問を解く。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書 p41 ～ p47 第6章「運動量と視点の違いにより感じる力」</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 第6章 章末問題 国試の過去問 授業中に出来なかった問題を解いておく。(過去問は次回解説する。)</p> <p>教科書の第7章を読んでおく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～120分</p>
第8回	<p>気体分子の運動と熱エネルギー</p> <p>【key words】 温度、熱、比熱、熱容量、熱量保存の法則、ボイル・シャルルの法則、内部エネルギー、熱力学第一法則</p> <p>【授業概要】 物質の三態変化とその時に出入りする熱について知る。比熱、熱容量の定義をし、熱量保存の法</p>

	<p>則が成り立っていることを学ぶ。気体の体積は圧力や温度によって変化し、ボイルの法則、シャルルの法則が成り立っていること、内部エネルギーの定義とその変化について熱力学第一法則が成り立っていることを学ぶ。第7章 章末問題を解く。 【教科書ページ・参考文献】 教科書 p 48 ～ p 56 第7章「気体分子の運動と熱エネルギー」 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第7章 章末問題 授業中に出来なかった問題を解いておく。 教科書の第8章を読んでおく 【予習復習に必要な想定時間】 60分～120分</p>
第9回	<p>波の性質とその表し方 【key words】 振幅、波長、周期、振動数、横波・縦波、反射、屈折、回折、定常波、干渉 【授業概要】 波を表す「振幅・波長・周期・振動数」を知り、媒質の振動の様子や波の進み方について学ぶ。縦波・横波の違いと例、波の性質（反射・屈折・回折）、重ね合わせの原理、定常波について実験を観察することによって学ぶ。第8章 章末問題を解く。 【教科書ページ・参考文献】 教科書 p 57 ～ p 65 第8章「波の性質とその表し方」 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第8章 章末問題 授業中に出来なかった問題を解いておく。 教科書の第9章を読んでおく 【予習復習に必要な想定時間】 60分～120分</p>
第10回	<p>波で理解する音と光の現象 【key words】 音波、うなり、ドップラー効果、光波、全反射、レンズ、光の干渉 【授業概要】 音の三要素について知る。音叉のうなりを聞き、成り立つ式を学ぶ。ドップラー効果が起こる理由を考える。光の波としての諸現象（分散によるスペクトル、反射・屈折及び全反射等）について実験・観察を通して学ぶ。凸レンズ・凹レンズの像を観察し、作図の仕方及びレンズの式を学ぶ。光の干渉・散乱の例とその理由を学ぶ。第9章 章末問題を解く 【教科書ページ・参考文献】 教科書 p 66 ～ p 78 第9章「波で理解する音と光の現象」 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第9章 章末問題 授業中に出来なかった問題を解いておく。 教科書の第10章を読んでおく 【予習復習に必要な想定時間】 60分～120分</p>
第11回	<p>静電気力とその表し方 【key words】 電子、静電気力、電気量保存の法則、電場、電位 【授業概要】 目に見えない電気について原子の構造から考え、電荷の間にはたらく力（クーロンの法則）、電気量保存の法則について学ぶ。電気力がはたらく空間として「電場」を考え、その表し方、電位の意味とその求め方について学ぶ。第10章 章末問題を解く。 【教科書ページ・参考文献】 教科書 p 79 ～ p 83 第10章「静電気力とその表し方」 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第10章 章末問題 授業中に出来なかった問題を解いておく。 教科書の第11章を読んでおく 【予習復習に必要な想定時間】 60分～120分</p>
第12回	<p>オームの法則から理解する電気回路 【key words】 自由電子、オームの法則、ジュール熱、電力量、電力、アース、コンデンサー 【授業概要】 金属中の自由電子の運動と電流の考え方、抵抗にかかる電圧と電流の関係（オームの法則）とその水流によるイメージを学ぶ。抵抗の直列接続と並列接続の合成抵抗の求め方、電流の熱作用、電力量・電力について学ぶ。アースの役割、コンデンサーの原理とそのはたらき（実験を含む）を学ぶ。第11章 章末問題を解く。 【教科書ページ・参考文献】 教科書 p 84 ～ p 93 第11章「オームの法則から理解する電気回路」 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第11章 章末問題 授業中に出来なかった問題を解いておく。冬休み中に今までの復習をしておく。 教科書の第12章を読んでおく 【予習復習に必要な想定時間】 60分～120分</p>
第13回	<p>電流と磁場の関係 【key words】 磁場、コイル、右ねじの法則、フレミングの左手の法則、ローレンツ力、モーター 【授業概要】 磁石のまわりに磁場があること、電流によって磁場ができることを知り、その磁場の表し方と磁力線について学ぶ。磁場から電流にはたらく力（フレミングの左手の法則）、磁場の中で運動する荷電粒子にはたらく力（ローレンツ力）を学ぶ。その例として、直流モーターの仕組みを学ぶ。第12章 章末問題を解く。 【教科書ページ・参考文献】 教科書 p 94 ～ p 100 第12章「電流と磁場の関係」 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第12章 章末問題 授業中に出来なかった問題を解いておく。 教科書の第13章を読んでおく 【予習復習に必要な想定時間】</p>

	<p>60分～120分 第14回 電磁誘導と交流 【key words】 誘導起電力、誘導電流、交流、自己誘導、相互誘導、電磁波 【授業概要】 交流や電磁波について学ぶ。磁石やコイルを動かすと起電力が生じる現象（電磁誘導）について成り立っているレンツの法則、ファラデーの電磁誘導の法則（実験を含む）について学ぶ。日常使用している交流の作り方とその利用について、及びコイルのはたらきと自己誘導、相互誘導について学ぶ。第13章 章末問題を解く。 【教科書ページ・参考文献】 教科書 p101 ～ p108 第13章「家庭のコンセントに流れる交流電源の作り方とその利用」 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第13章 章末問題 授業中に出来なかった問題を解いておく。 教科書の第14章を読んでおく。次回の授業の後半に今までの学習内容全てについて質問の時間があるので、復習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～120分</p> <p>第15回 原子の構造と放射線 【key words】 放射線、放射性崩壊、半減期 【授業概要】 原子の構造とその表し方、放射線（α線・β線・γ線）の本体と放射性崩壊のしかたについて学ぶ。崩壊の法則により半減期の式と意味を考える。核分裂・核融合によるエネルギーの解放、放射線の利用例について学ぶ。残った時間で全範囲についてのまとめをする。今まで学習した全範囲について疑問があれば質問をする。 【教科書ページ・参考文献】 教科書 p109、p111 ～ p114ページ 第14章「原子の構造と半導体・放射線」 【課題・予習・復習・授業準備指示】 「まとめ」の事項について、確認テストを重点的に復習しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 300分～</p>
受講生に関わる情報 および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・高校で物理を履修していなくてもよいが、授業の前に教科書を読んでおおよその内容を把握しておくこと。 ・シャトルカードで出席を確認するので、授業終了時に必ず提出すること。 ・座席は特に指定しないが、できるだけ前に座るようにすること。 〔受講のルール〕 ・分からないところがあれば、授業中いつ質問をしてもよい。分からないところをそのままにしないようにすること。 ・授業内容に関係のない私語は慎むこと。他の受講生の迷惑になる行為は禁止する。 ※遠隔授業の場合は別途指示する。
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状況の 確認方法	シャトルカード方式 ※遠隔授業の場合は別途指示する。
授業外時間にかかわる 情報	事前に教科書を読み、学習内容の全体像を把握しておくこと。授業終了後は、授業で扱った問題や授業中に扱えなかった教科書の章末問題を解いて理解を深めるようにすること。2回目以降の授業では最初に前回の授業についての確認テストを行う。 ※遠隔授業の場合は変更がある。
オフィスアワー	・授業終了後30分間 ・シャトルカードに質問を記載すれば返答を書き、必要に応じて次の授業で返答する。 ※遠隔授業の場合は別途指示する。
評価方法	確認テスト15%、筆記試験85% ※遠隔授業の場合、変更がある。
教科書	時政孝行監修、菓子研著：まるわかり！基礎物理、南山堂
参考書	佐藤和良著：看護学生のための物理学、医学書院
実務者経験/アク ティブラーニング/ リテラシー教育	授業担当教員 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 <input type="checkbox"/> PBL(課題解決型学習) <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 <input type="checkbox"/> 情報モラルに関する教育 <input type="checkbox"/> 課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） <input type="checkbox"/> 情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） <input type="checkbox"/> 情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） <input checked="" type="checkbox"/> 情報リテラシー教育は実施していない

	<p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> ICTを活用した双方向型の授業の実施<input type="checkbox"/> e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<input type="checkbox"/> その他 <p>その他の具体的内容</p>
--	--

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位(30)	選択
担当教員			
森田隆夫			
基礎科目	社会福祉主事任用資格指定科目		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>【授業の目的】 医療福祉の法律の実践では、法律関係が随所にあり、基本的知識や法的センスが必要となります。そこで、医療福祉を志す者に必要な基本的法領域として、法学概論・憲法・民法を中心に、実務上の具体例等を通じた学習をしたいと考えています。この学習を通じて、法条の検索、判例等に触れて行きたいと考えています。</p> <p>【到達目標】 ①六法で条文を調べることができる。 ②法学概論・憲法・民法につきその重要な概念、制度等を説明することができる。 ③法を解釈するという思考方法をとることができる。</p>
授業の概要	法学概論の学習によって、法についての基本的な考えを身につけます。その上で、公法の代表としての憲法と私法の代表としての民法を用いて、法解釈学を理解してもらいます。さらに、具体的な事案についてディベートすることで、法解釈を体験してもらいます。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(理学療法)(専門実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	
(理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	
(作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(作業療法)(専門実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	
(作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	第1回	<p>オリエンテーション／概論1：市民生活と社会規範</p> <p>【key words】 社会規範、法源、法の解釈</p> <p>【授業概要】 授業の進め方(シラバスの説明) 法の市民生活との関わり合い(日本理学療法士協会「倫理規定」・日本作業療法士会「倫理綱領」) 「法源」、「法の解釈」について 関連する事例についての討論</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 P2～8 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書 P9～19 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>
	第2回	<p>概論2：市民生活の各領域と主な関係法</p> <p>【key words】 日常生活上の法律関係、仕事上の法律関係、消費者保護関連法、不法行為法、労働関係法</p> <p>【授業概要】 日常生活や仕事上、生活上の法律関係(消費者保護関連法や、不法行為法、労働関係法等) 関連する事例についての討論</p>

第3回	<p>【教科書ページ・参考文献】 P9～19予習：教科書P22～33 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書P22～33 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p> <p>憲法1：憲法総論、基本的人権総論1 【key words】 憲法、基本原理、日本国憲法、国民主権、平和主義、基本的人権の尊重 【授業概要】 憲法一般の概念・歴史・基本原理 日本国憲法の歴史・基本原理、国民主権、平和主義、基本的人権の尊重等 関連する事例についての討論 【教科書ページ・参考文献】 P22～33 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書 P33～37 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>
第4回	<p>憲法2：基本的人権総論2・思想・良心の自由、信教の自由 【key words】 人権、新しい人権、平等権、思想・良心の自由、信教の自由 【授業概要】 人権についての思考方法 新しい人権、平等権、思想・良心の自由、信教の自由等 関連する事例についての討論 P33～37予習：教科書 P38～41 【教科書ページ・参考文献】 P33～37 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書 P38～41 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>
第5回	<p>憲法3：表現の自由、経済的自由 【key words】 表現の自由、知る権利、経済的自由 【授業概要】 民主主義の課程に直結する表現の自由の重要性、知る権利等 経済的自由（精神的な自由との比較も含めて） 関連する事例についての討論 P38～41予習 P41、P44～46 【教科書ページ・参考文献】 P38～41予習 P41、P44～46 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書 P41、P44～46 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>
第6回	<p>憲法4：財産権、社会権 【key words】 財産権、社会権 【授業概要】 財産権 「国家による自由」という性格を持つ社会権（自由権との違いを確認しながら） 関連する事例についての討論 【教科書ページ・参考文献】 P41、P44～46 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書 P41～43、P45～51 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>
第7回	<p>憲法5：人身の自由、その他の人権、国民の義務 【key words】 人身の自由、参政権、国務請求権、国民の義務 【授業概要】 人身の自由 その他の人権（参政権、国務請求権）、国民の義務 関連する事例についての討論 P41～43、P45～51予習 P50～59 【教科書ページ・参考文献】 P41～43、P45～51予習 P50～59 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書 P50～59 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>
第8回	<p>憲法6：統治機構の基本原則、国会、内閣 【key words】 統治、権力分立、国会、立法権、内閣、行政権 【授業概要】 統治機構の概説（権力分立を中心として） 国民の代表によって構成される国会の地位、組織、権能等 行政を担当する内閣の地位、組織、権能等 関連する事例についての討論 【教科書ページ・参考文献】 P50～59 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>

<p>第9回</p>	<p>予習：教科書 P59～70 【予習復習に必要な想定時間】 60分 憲法7：裁判所、財政、地方自治 【key words】 裁判所、司法権、財政、財政民主主義、法地方自治、地方自治の本旨 【授業概要】 裁判所を民主主義、自由主義の観点から考える。 財政における民意を反映方法 法地方自治につき、その本旨から考える 関連する事例についての討論 P59～70予習：P72～82 【教科書ページ・参考文献】 P59～70 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：P72～82 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>
<p>第10回</p>	<p>民法1：民法総則 【key words】 法律行為、権利能力、行為能力、代理、時効 【授業概要】 法律効果の生じる法律行為とそれに必要な権利能力、行為能力 その他、代理、時効等 関連する事例についての討論 P72～82予習：P96～102 【教科書ページ・参考文献】 P72～82 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書 P96～102 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>
<p>第11回</p>	<p>民法2：契約総論 【key words】 契約、契約の成立、契約の効力、解除 【授業概要】 法的に拘束力される契約の原則・種類、契約の成立・効力、その解消としての解除 関連する事例についての討論 【教科書ページ・参考文献】 P96～102 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：P102～115 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>
<p>第12回</p>	<p>民法3：契約各論 【key words】 売買、賃貸借、典型契約、不法行為 【授業概要】 売買、賃貸借等の典型契約、契約がない場合にも成立する不法行為 関連する事例についての討論 【教科書ページ・参考文献】 P102～115 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書 P130～159 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>
<p>第13回</p>	<p>民法4：親権 【key words】 婚姻、親子、親権 【授業概要】 夫婦の関係、親子の関係 関連する事例についての討論 P130～159予習：P162～180 【教科書ページ・参考文献】 P130～159 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書 P162～180 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>
<p>第14回</p>	<p>民法5：相続 【key words】 相続、遺言 【授業概要】 自らの意思に基づいて遺言、遺言のない場合のための法定相続 関連する事例についての討論 P162～180教科書、プリント等の見直し 【教科書ページ・参考文献】 P162～180 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書、プリント等の見直し 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>
<p>第15回</p>	<p>まとめ 【key words】 法学概論、憲法、民法、まとめ 【授業概要】</p>

	<p>法学概論、憲法、民法、それぞれについての重要事項のまとめP2～180</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 P2～180</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<ul style="list-style-type: none"> ・可及的に多くの情報を提供したいので、予習復習は必ず行うこと。 ・授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。 ・社会福祉を志す者として、出席時間の厳守し、態度や身だしなみ等を整えること。 ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	教科書で予習・復習すること、根拠条文を確認しておくことが、絶対に必要です。
オフィスアワー	月曜日 9時～12時
評価方法	定期試験（60%）、授業時間に行う小テスト（40%）を総合して評価する。
教科書	森長秀 編著「法学入門」光生館，2015年、有斐閣「ポケット六法」
参考書	授業中に随時紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>実務経験のある教員が担当している <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習) <input checked="" type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/>グループワーク <input type="checkbox"/>プレゼンテーション <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育 <input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） <input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） <input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） <input checked="" type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/>ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 <input type="checkbox"/>その他 <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位(30)	選択
担当教員			
白石憲一			
基礎科目			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] 経済学の基礎を学習していないと、毎日報道される経済関係のニュースに対して自分なりの的確な見解を持つことは難しい。この授業では学生がマクロ経済学の基礎を理解することを目的とする。</p> <p>[到達目標] そして毎日起きる経済事象について自分なりの意見を持つことを授業の到達目標とする。</p>
授業の概要	経済学の基礎理論について概観していく。あわせて現実の経済データを用いて、経済の実態についても講義をしていく。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	
(理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	
(作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	
(作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	
授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション</p> <p>第2回 貧困</p> <p>第3回 社会保障と経済</p> <p>第4回 医療経済学</p> <p>第5回 格差</p> <p>第6回 GDP</p> <p>第7回 幸福の経済学</p> <p>第8回 ストック経済学</p> <p>第9回 経済成長</p> <p>第10回 教育の経済学</p> <p>第11回 福祉と経済学</p>

	<p>第12回 国際収支</p> <p>第13回 国際金融</p> <p>第14回 金融</p> <p>第15回 経済学と日本経済</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	新聞、ニュースなどで最新の経済の情報について確認すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	予習を毎回行い、質問があればコメントカードを活用すること。
オフィスアワー	木曜日4限。
評価方法	試験（60%）と授業中の課題（40%）によって評価。
教科書	井堀利広「大学4年間の経済学が10時間でざっと学べる」（KADOKAWA）2015
参考書	中谷巖「入門マクロ経済学」（日本評論社）2007
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <p><input type="checkbox"/>実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <p><input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習)</p> <p><input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート</p> <p><input type="checkbox"/>グループワーク</p> <p><input type="checkbox"/>プレゼンテーション</p> <p><input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</p> <p>情報リテラシー教育</p> <p><input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育</p> <p><input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）</p> <p><input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）</p> <p><input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない</p> <p>ICTの活用</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>ICTを活用した双方向型の授業の実施</p> <p><input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援</p> <p><input type="checkbox"/>その他</p> <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	1単位(30)	選択
担当教員			
藤本 亮			
基礎科目			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>【授業の目的】 演習を中心として、情報リテラシーの理解や情報活用能力を高め、レポート・論文の作成やプレゼンテーション、データ分析などに生かせるようにすることを目的とする</p> <p>【到達目標】 ①パソコンの基本的な操作を理解する ②基本的な情報の利活用（収集・分析など）ができる ③Microsoft Wordでレポート等の文章を作成できる ④P検3級の試験を受験できる ④Microsoft Excelでデータの集計や分析を行うことができる ⑤Microsoft PowerPointでプレゼンテーションができる ⑥情報セキュリティや情報モラルについて正しく理解できる</p>
授業の概要	<p>授業を通し、情報リテラシーを理解し、情報活用能力を高め、レポート・論文などの各種の文書を作成したり、基本的なデータ分析を行ったり、プレゼンテーションを行ったりすることができるようになることを目標とする。 また、パソコン検定の「P検」の3級レベルを受験できる程度の知識と技能を得られようとする</p>

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(理学療法) (豊かな人間性) 真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(理学療法) (専門性の探求) 専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(理学療法) (専門的実践力) 心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	
(理学療法) (多職種協働) 対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(理学療法) (地域実践) 地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	
(作業療法) (豊かな人間性) 真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(作業療法) (専門性の探求) 専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(作業療法) (専門的実践力) 生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	
(作業療法) (多職種協働) 対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(作業療法) (地域実践) 地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、パソコンの基本操作 【key words】 情報リテラシー、パソコンの基本 【授業概要】 情報リテラシーの必要性や、情報処理とパソコンの関係などを学習する ・講義のオリエンテーション ・情報リテラシーの必要性 ・情報を活用する上でのパソコンの役割 ・パソコンの基本操作（キーボードの使い方など） 【教科書ページ・参考文献】 スライド資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・情報リテラシーの基本を復習する ・キーボード入力を練習する 【予習復習に必要な想定時間】 30分</p> <p>第2回 情報の収集と利用 【key words】 インターネット、検索、図書館</p>
------	---

	<p>【授業概要】 レポート作成などの元となる情報の収集や利用の方法を学習する ・主な情報源(新聞、書籍、インターネット、etc) ・インターネットの仕組み ・ホームページの検索(Google) ・インターネットの主な情報源(統計データ、WikiPediaなど) ・図書館の蔵書の検索 【教科書ページ・参考文献】 スライド資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・ホームページで各種の情報を検索する ・図書館で必要な蔵書を検索する 【予習復習に必要な想定時間】 【予習復習に必要な想定時間】 30分</p> <p>第3回 レポート・論文の作成(1) 【key words】 レポート、論文 【授業概要】 レポートや論文を作る基本的な流れを学習する ・レポート・論文の基本(作文との違いなど) ・レポートの構成の立て方(アウトラインを作ってから詳細に進む) ・Wordでの文書作成の基本 【教科書ページ・参考文献】 スライド資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テーマを立ててレポートの構成を考え、それをWordで入力する練習をする 【予習復習に必要な想定時間】 30分</p> <p>第4回 レポート・論文の作成(2) 【key words】 書式、構成 【授業概要】 レポートや論文を構成する各種の項目と、それをWordで作成する手順を学習する ・基本的な書式の設定(ページ書式、文字書式、段落書式) ・文書の構成を整える(箇条書きなど) 【教科書ページ・参考文献】 スライド資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 適切な書式設定を行い、読みやすいレポートを作成する練習をする 【予習復習に必要な想定時間】 30分</p> <p>第5回 情報の分析や可視化(1) 【key words】 Excel、表、分析、可視化 【授業概要】 情報の分析・可視化のツールとなるExcelの基本を学習する ・情報の分析・可視化とExcelの関係 ・Excelでの情報管理の基本(データの入力・整理など) ・Excelでの基本的な書式設定 【教科書ページ・参考文献】 スライド資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 Excelで情報を管理する練習をする(各種のデータの入力や整理など) 【予習復習に必要な想定時間】 30分</p> <p>第6回 プレゼンテーション(1) 【key words】 プレゼンテーション、PowerPoint 【授業概要】 プレゼンテーションの一連の流れや、資料作成の基本について学習する ・プレゼンテーションの流れ(準備作業、資料作成、発表など) ・資料作成前の準備(データ収集、構成の検討、会場設備の確認など) ・PowerPointでの資料作成の基本(スライド作成、書式設定など) 【教科書ページ・参考文献】 スライド資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 プレゼンテーションのテーマを立てて、実際にプレゼンテーションすることを想定して準備作業などを行う練習をする 【予習復習に必要な想定時間】 30分</p> <p>第7回 レポート・論文の作成(3) 【key words】 表 【授業概要】 レポートや論文の中で表を使って情報をまとめる場面は多いので、表の作り方を学数する ・表の作成とデータ入力 ・表の操作(行/列の挿入、削除、コピー、セルの結合など操作) ・表の書式設定(罫線、網掛け、文字配置など) 【教科書ページ・参考文献】 スライド資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 表を作る練習をしてWordやPowerPointでレポートや論文を作る際に活用する</p>
--	--

第8回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 30分</p> <p>レポート・論文の作成(4)</p> <p>【key words】 図形、写真、ワードアート、スマートアート</p> <p>【授業概要】 レポートや論文に図や写真を入れる場面も多いので、それらの扱い方を学習する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図形の挿入と書式設定 ・図や写真の挿入 ・図等のレイアウト ・ワードアート(特殊なレイアウトの文字の並び)の挿入 ・スマートアート(よく使いそうな図)の挿入 <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>スライド資料</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 図形や写真を含む文書を作る練習をしてレポートや論文を作る際に活用する</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 30分</p>
第9回	<p>レポート・論文の作成(5)</p> <p>【key words】 改ページ、表紙、ヘッダー、フッター、スタイル、目次</p> <p>【授業概要】 レポートや論文を仕上げる際に行う作業について学習する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レポートの推敲(文章を読み直す、誤字脱字のチェック、不備がないかどうかのチェックなど) ・改ページの挿入 ・ヘッダー(上余白)とフッター(下余白)の利用 ・スタイル(書式の組み合わせ)の利用と設定 ・目次の作成 <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>スライド資料</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 レポートを美しく仕上げる練習をする</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 30分</p>
第10回	<p>情報の分析や可視化(2)</p> <p>【key words】 棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ</p> <p>【授業概要】 多くの情報をグラフで可視化する方法を学習する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・棒グラフの作成 ・グラフ要素の追加軸ラベル、データラベルなど)と書式設定 ・折線、円グラフの作成 ・複合グラフの作成 <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>スライド資料</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 グラフの作成を練習する</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 30分</p>
第11回	<p>情報の分析や可視化(3)</p> <p>【key words】 計算、集計、分析</p> <p>【授業概要】 多くの情報を分析する際の基本となる計算や関数の使い方を学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Excelでの計算の基本 ・データの集計(合計、最大値、最小値など) ・データ分析の基本(平均、標準偏差など) <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>スライド資料</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 数式や関数を使った計算を練習する</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 30分</p>
第12回	<p>プレゼンテーション(2)</p> <p>【key words】 画面切り替え、アニメーション、動画</p> <p>【授業概要】 聞き手にとって分かりやすいプレゼンテーションを行うための手法や、それをPowerPointで実現する手順を学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動きのあるプレゼンテーションの作成(アニメーション、画面切り替え) ・プレゼンテーション内での動画や音声の利用 <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>スライド資料</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 動きのあるプレゼンテーションを作れるように練習する</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 30分</p>
第13回	<p>プレゼンテーション(3)</p> <p>【key words】 発表、練習、アフターフォロー</p> <p>【授業概要】 プレゼンテーション直前、当日、そして終了後に行うことや、それらに関するPowerPointの機能</p>

	<p>を学習する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーション前の準備(発表の練習、発表時間の測定と発表内容の調整など) ・プレゼンテーションでの話し方(視線誘導、ジェスチャーなど) ・アフターフォロー(プレゼンテーション後の資料の配布など) <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>スライド資料</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>実際のプレゼンテーションを行えるように練習する</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>30分</p> <p>第14回 文書等の活用と管理</p> <p>【key words】</p> <p>コピー、貼り付け、ドライブ、フォルダ、ファイル</p> <p>【授業概要】</p> <p>レポートや論文を作る際に、アプリケーション間でデータをコピーしたりなど、各種の作業が必要となるので、それらについて学習する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アプリケーション間のコピーと貼り付け ・ドライブ/フォルダ/ファイルの概念 ・フォルダ/ファイルの操作(コピー、移動、削除など) <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>スライド資料</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>アプリケーション間のデータのやり取りを練習する</p> <p>ファイル操作に慣れる</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>30分</p> <p>第15回 情報セキュリティ・情報モラルと課題説明・作成</p> <p>【key words】</p> <p>情報セキュリティ、情報モラル、課題</p> <p>【授業概要】</p> <p>情報を活用する上で知っておくべき情報セキュリティや情報モラルを学習する</p> <p>また、課題の作成も行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報セキュリティ ・情報モラル ・課題内容の説明 ・課題作成実習 ・課題を作成して期限までに提出 <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>スライド資料</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>情報セキュリティに留意し、ウイルス感染などの被害を受けないようにする</p> <p>情報モラルを守り、他の人に迷惑をかけないようにする</p> <p>課題を作成して期限までに提出する</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>30分</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<p>[受講生に関わる情報]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ファイル保存用にUSBメモリを持参すること。 <p>[受講のルール]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積極的に授業に臨むこと。 ・実習形式の授業なので、話を聞くだけでなく、手を動かしてパソコンの操作を身につけること。 ・授業に関係のないこと(例:YouTubeを見る)をしないこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	授業の資料をホームページで配布するのでそれを見て復習する レポート作成などで授業の内容を活用する
オフィスアワー	授業開始前20分間
評価方法	レポート課題による評価(100%)
教科書	スクリーンを利用した独自資料(ホームページで配布あり)
参考書	繰り返して慣れる!完全マスターWord Office365・Office2019対応、NOA出版 繰り返して慣れる!完全マスターExcel Office365・Office2019対応、NOA出版 ドリルでマスター!PowerPoint&プレゼンテーション、NOA出版
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> ■実務経験のある教員が担当している <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>Office関係の雑誌原稿執筆多数あり コンピュータ関連書籍執筆多数あり</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習) <input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/>グループワーク ■プレゼンテーション <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない <p>情報リテラシー教育</p>

- 情報モラルに関する教育
- 課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）
- 情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）
- 情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）
- 情報リテラシー教育は実施していない

ICTの活用

- ICTを活用した双方向型の授業の実施
- e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援
- その他

その他の具体的内容

授業を毎回録画してYouTubeで配布

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	1単位(30)	選択
担当教員			
藤本 亮			
基礎科目			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>【授業の目的】 情報処理Iに続き、パソコンをより深く使いこなせるようになることを目的とする。 また、自助具作成などのために、パソコンで立体の物を作ることも目的とする。</p> <p>【到達目標】 ①Word/Excel/PowerPointをより深く使いこなすことができる。 ②3Dデータの作成方法を学び、自助具作りに生かすことができるようになる。</p>		
授業の概要	WordおよびExcelのより詳しい使い方を学ぶ。 3次元モデリングソフトのFusion 360の基本的な使い方や、3Dプリンタでの出力などを学ぶ。		
各学科、専攻、コースにおけるDP			科目における重要度
(理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			◎
(理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			
(理学療法)(専門実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる			
(理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
(作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			◎
(作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			
(作業療法)(専門実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。			
(作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
授業計画	第1回	<p>レポート・論文の作成(6)</p> <p>【key words】 脚注、図表番号、テンプレート</p> <p>【授業概要】 レポートや論文を作る上で便利な機能を学習する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・脚注の設定(ページ末尾の脚注、文末脚注) ・図表番号の設定(図表番号の入力、図表番号の参照) ・テンプレートの作成 <p>【教科書ページ・参考文献】 スライド資料</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 レポートを作る際に目次や脚注等の機能を利用する</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 30分</p>	
	第2回	<p>レポート・論文の作成(7)</p> <p>【key words】 セクション、ブックマーク、相互参照、引用文献</p> <p>【授業概要】 レポートや論文を作る上で便利な機能を学習する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・段組みの設定(2段組み等) ・セクションで文章を複数のブロックに区切る ・ブックマーク(文章内に付ける目印)の挿入 ・相互参照(ブックマークの位置のページ番号等の情報を挿入する) ・引用文献の挿入 <p>【教科書ページ・参考文献】 スライド資料</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>	

	<p>長文作成の際にブックマークや相互参照を活用する 【予習復習に必要な想定時間】 30分</p>
第3回	<p>情報の分析や可視化(4) 【key words】 スパークライン、条件付き書式 【授業概要】 Excelで情報を可視化する方法を学習する ・スパークラインの作成 ・条件付き書式の設定 ・各種の条件付き書式(データバー、カラーバー、アイコンセット) 【教科書ページ・参考文献】 スライド資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 複数の人に同じ文面の文書を送るときなどに差し込み印刷を活用する 【予習復習に必要な想定時間】 30分</p>
第4回	<p>情報の分析や可視化(5) 【key words】 データベース、並べ替え、抽出、ピボットテーブル 【授業概要】 多くのデータを元に分析を行う方法を学習する ・データベース用のデータ入力 ・データの並べ替え ・データの抽出 ・ピボットテーブルを使った集計 【教科書ページ・参考文献】 スライド資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 アンケートなどのデータを整理する際にExcelを活用する 【予習復習に必要な想定時間】 30分</p>
第5回	<p>情報の分析や可視化(6) 【key words】 相対参照、絶対参照、関数 【授業概要】 情報の分析の際に必要な各種の計算方法を学習する ・相対参照と絶対参照 ・順位(RANK関数) ・複合条件(AND関数/OR関数) 【教科書ページ・参考文献】 スライド資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 Excelで複雑な計算を行う際にこの回で行ったことを利用する 【予習復習に必要な想定時間】 30分</p>
第6回	<p>情報の分析や可視化(7) 【key words】 名前、関数 【授業概要】 情報の分析の際に必要な各種の計算方法を学習する ・セルに名前を付けて数式で利用する ・セルにふりがなを表示する ・日付に関する関数 ・文字列に関する関数 【教科書ページ・参考文献】 スライド資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 名前機能や各種の関数の使い方を理解する 【予習復習に必要な想定時間】 30分</p>
第7回	<p>3Dプリンタによる物作りの概要 【key words】 3Dプリンタ、3Dデータ 【授業概要】 3Dプリンタによる物づくりについて、その概要を学習する ・医療と3Dプリンタの関係 ・3Dプリンタの仕組みや方式 ・3Dデータの入手や作成の概要 ・3Dプリンタでの出力の概要 【教科書ページ・参考文献】 スライド資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 3Dプリンタや3Dデータについて復習する 【予習復習に必要な想定時間】 30分</p>
第8回	<p>Fusion360の基本操作(1) 【key words】 Fusion 360、立体 【授業概要】 Fusion360で基本的な立体を作る手順を学習する ・基本的な立体(直方体など)の作成</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・立体の移動や回転 ・各種の立体作成操作（トーラス、ミラーなど） <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>スライド資料</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>スライド資料</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>30分</p>
第9回	<p>Fusion360の基本操作(2)</p> <p>【key words】</p> <p>スケッチ、押し出し</p> <p>【授業概要】</p> <p>教科書2章の作業を実際に行い、Fusion360に慣れる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下書き画像の配置 ・スケッチの作成 ・スケッチの立体化 <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>教科書第2章</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>平面に描いたものから立体を作る方法を復習する</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>30分</p>
第10回	<p>Fusion360の基本操作(3)</p> <p>【key words】</p> <p>スケッチ、拘束、押し出し</p> <p>【授業概要】</p> <p>教科書5章の作業を実際に行い、平面に絵を描いてそれを立体化する手順を学習する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スケッチの作成 ・拘束の設定 ・スケッチから立体を押し出す <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>教科書第5章</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>スケッチの作成を復習する</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>30分</p>
第11回	<p>Fusion 360の基本操作(3)</p> <p>【key words】</p> <p>フォーム</p> <p>【授業概要】</p> <p>粘土細工的な物作りができるフォーム機能を学習する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フォーム ・フォームの押出 ・フォームの移動 ・フォームの拡大、縮小、回転 <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>教科書第8章</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>粘土細工のような要領で立体を作る方法を復習する</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>30分</p>
第12回	<p>3Dプリンタ出力を想定したデータの作成</p> <p>【key words】</p> <p>サポート、分割</p> <p>【授業概要】</p> <p>3Dプリンターの制限を考慮して、それに対応した3Dデータを作ることを学習する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普通には出力しづらい／できない形状 ・サポートを利用して出力する ・複数の部品に分割して出力する ・ネジ穴の作り方 <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>スライド資料</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>3Dプリンタで出力しづらい形状があるので、それに対応したデータを作る方法を復習する</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>30分</p>
第13回	<p>自助具を作ってみる</p> <p>【key words】</p> <p>自助具</p> <p>【授業概要】</p> <p>ごく簡単な自助具を作ることを通して、Fusion360に慣れる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ストローホルダーの作成 ・スプーンホルダーの作成 <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>スライド資料</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>具体的なものを作る方法を復習する</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>30分</p>
第14回	<p>3Dプリンタでの出力</p> <p>【key words】</p> <p>スライス、素材、パラメータ、3D出力サービス</p>

	<p>【授業概要】 モデリングした3Dデータを、3Dプリンタで実際に出力するまでの流れを学習する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・素材の選択 ・データのスライス ・出力パラメータの調整 ・3D出力サービスの利用 <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書第3章、スライド資料</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 3Dデータを3Dプリンタで出力するまでの流れを復習する</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 30分</p> <p>第15回 3Dデータ作成実習</p> <p>【key words】 3Dプリンタ、3Dデータ</p> <p>【授業概要】 ・好きなものを自分で考えて作ってみる</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 なし</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 作成したデータを期限までに提出する</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 90分</p>
<p>受講生に関わる情報 および受講のルール</p>	<p>[受講生に関わる情報]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ファイル保存用にUSBメモリを持参すること。 <p>[受講のルール]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積極的に授業に臨むこと。 ・実習形式の授業なので、話を聞くだけでなく、手を動かしてパソコンの操作を身につけること。 ・授業に関係のないこと（例：YouTubeを見る）をしないこと。
<p>毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法</p>	<p>コメントカード方式</p>
<p>授業外時間にかかわ る情報</p>	<p>授業の資料は公開するので、それを使って復習すること</p>
<p>オフィスアワー</p>	<p>授業開始前20分間</p>
<p>評価方法</p>	<p>平常点(50%)、3Dデータの作成(50%)</p>
<p>教科書</p>	<p>スクリーンを利用した独自資料(ホームページで配布あり)</p>
<p>参考書</p>	<p>はじめてでも簡単！3Dプリンタで自助具を作ろう、三輪書店</p>
<p>実務者経験/アク ティブラーニング/ リテラシー教育</p>	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> ■実務経験のある教員が担当している <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>パソコン関連書籍執筆多数</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> PBL(課題解決型学習) <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク ■アクティブラーニングは実施していない <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの(図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) ■情報を分析評価し整理するもの(情報処理、情報整理法等) ■情報のアウトプットに関するもの(レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) <input type="checkbox"/> 情報リテラシー教育は実施していない <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input type="checkbox"/> e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 <input type="checkbox"/> その他 <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位(30)	選択
担当教員			
新井英司			
基礎科目			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] テレビ番組の制作過程を具体的にたどりながら、ジャーナリストの情熱や工夫、技術を学び、自分の人生を輝かせる生活態度、智慧を習得する。</p> <p>[到達目標] ①ものの見方、考え方が深められるようになる。 ②客観的な認識の方法と態度について理解する。 ③メディア・リテラシーが磨かれる。 ④複眼で見る大切さを知る。 ⑤なぜ、という問いの重要性を認識する。</p>		
授業の概要	テレビ番組の企画、制作、報道等の現場から様々な事例を紹介するとともに、今日的なニュースや話題も数多く取り上げ、高度情報化社会を明るく楽しく生きるたくましさを養う。		
各学科、専攻、コースにおけるDP			科目における重要度
(理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			◎
(理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			
(理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる			
(理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
(作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			◎
(作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			
(作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。			
(作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
授業計画	第1回	オリエンテーション	
	第2回	おしゃべりは明るく元気にありがとう	
	第3回	恥かき、汗かき、原稿書き	
	第4回	3分間スピーチは四コママンガ	
	第5回	番組づくりは八木節音頭	
	第6回	身近なところにヒントあり	
	第7回	地名は知らないとチメイ的	
	第8回	ニュースとは何か	
	第9回	客観報道とメディア・リテラシー	

	<p>第10回 たかが順番、されど順番</p> <p>第11回 スタッフの複眼生きるナマ中継</p> <p>第12回 実況は大和言葉で花盛り</p> <p>第13回 アブになれ</p> <p>第14回 人生は mismatch、三日三月三年</p> <p>第15回 満点を狙わぬ結果が合格点</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	タイムリーなニュースや話題を取り上げ、意見や感想を發表い合います。その都度、資料も配布しますので、積極的に参加して下さい。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	チャトルカード方式
授業外時間にかかわる情報	授業時に指示する。
オフィスアワー	毎時間授業終了後30分は対応可能。
評価方法	筆記試験100%。
教科書	テキストは特にありませんが、常時、国語辞典を携帯して下さい。(電子辞書も可)
参考書	日々の新聞、テレビ等。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <p><input type="checkbox"/> 実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <p><input type="checkbox"/> PBL(課題解決型学習)</p> <p><input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート</p> <p><input type="checkbox"/> グループワーク</p> <p><input type="checkbox"/> プレゼンテーション</p> <p><input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニングは実施していない</p> <p>情報リテラシー教育</p> <p><input type="checkbox"/> 情報モラルに関する教育</p> <p><input type="checkbox"/> 課題解決のために必要な情報を探索するもの(図書館利用法・文献探索・データベース活用法等)</p> <p><input type="checkbox"/> 情報を分析評価し整理するもの(情報処理、情報整理法等)</p> <p><input type="checkbox"/> 情報のアウトプットに関するもの(レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 情報リテラシー教育は実施していない</p> <p>ICTの活用</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> ICTを活用した双方向型の授業の実施</p> <p><input type="checkbox"/> e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援</p> <p><input type="checkbox"/> その他</p> <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位(30)	必修
担当教員			
ザック グレース			
基礎科目			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的]</p> <p>医療の場面の中に基本的なコミュニケーションができるようになることを目的とする。</p> <p>[到達目標]</p> <p>① 日常会話も含め、患者との基本的な会話ができる。 ② 医療の専門用語を理解できる。 ③ 英語でコミュニケーションをとる自信をつける。</p>		
授業の概要	医療の現場に必要な会話や専門的な用語を中心に学びます。単語を学び、それを使って患者さんと会話できるように練習します。		
各学科、専攻、コースにおけるDP			科目における重要度
(理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			◎
(理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			
(理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる			
(理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
(作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			◎
(作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			
(作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。			
(作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
授業計画	<p>第1回 Meeting Colleagues I - Introducing Yourself to the Team / Orientation</p> <ul style="list-style-type: none"> • Class orientation • 'Getting to know you' exercise • Grammar: Present simple of be • Conversation 1 • Textbook p4 & 5 • Homework: Review conversation 1 <p>第2回 Meeting Colleagues II - Reading a Nursing Schedule</p> <ul style="list-style-type: none"> • Review conversation 1 • Grammar: Present simple • Numbers & time expressions • Textbook: p6 & 7 • Homework: Review conversation 1 <p>第3回 Meeting Colleagues III - Meeting Patients and their Visitors ① - Textbook p8</p> <ul style="list-style-type: none"> • Review time expressions • Conversation 2 • Listening practice • Textbook: p7 & 8 • Homework: Review conversations 1 & 2 <p>第4回 Meeting Colleagues III - Meeting Patients and their Visitors ② - Textbook p9</p> <ul style="list-style-type: none"> • Review conversation 2 • Family vocabulary • Visitor's code 		

	<ul style="list-style-type: none"> 第5回 <ul style="list-style-type: none"> • Grammar: Imperative • Conversation 3 • Textbook: p8 & 9 • Homework: Review conversations 1 ~ 3 Meeting Colleagues IV- Escorting a Patient for Tests <ul style="list-style-type: none"> • Review conversation 3 • Ordinal numbers & dates (handout) • Hospital equipment and giving comfort expressions 第6回 <ul style="list-style-type: none"> • Conversation 4 • Textbook: p10 & 11 • Homework: Review conversations 1 ~ 4 Nursing Assessment I- Checking Patient Details <ul style="list-style-type: none"> • Asking for personal details • Grammar: Wh- questions • Patient details interview • Textbook: p12 & 13 • Homework: Review conversations 1 ~ 4 第7回 <ul style="list-style-type: none"> • Review patient details • Symptom vocabulary • Describing and asking about symptoms • Conversation 5 • Textbook: p14 & 15 • Homework: Review conversations 1 ~ 5 Nursing Assessment II- Describing Symptoms <ul style="list-style-type: none"> • Review conversation 5 • Patient ward vocabulary • Prepositions of place • Grammar: There is/There are • Textbook: p22 & 23 • Homework: Review conversations 1 ~ 5 第8回 <ul style="list-style-type: none"> • Review conversation 5 • Patient ward vocabulary • Prepositions of place • Grammar: There is/There are • Textbook: p22 & 23 • Homework: Review conversations 1 ~ 5 The Patient Ward I- The Patient Ward <ul style="list-style-type: none"> • Review conversation 5 • Patient ward vocabulary • Prepositions of place • Grammar: There is/There are • Textbook: p22 & 23 • Homework: Review conversations 1 ~ 5 第9回 <ul style="list-style-type: none"> • Listening • Conversation 6 • Grammar: Present continuous • Textbook p24 & 25 • Prepare for next week's test The Patient Ward II- Nursing Duties <ul style="list-style-type: none"> • Prepare for next week's test 第10回 <ul style="list-style-type: none"> • Do test (listening 10 minutes, writing 40 minutes) • Go over answers Review Test ① ・ノート提出 ① <ul style="list-style-type: none"> • Do test (listening 10 minutes, writing 40 minutes) • Go over answers 第11回 <ul style="list-style-type: none"> • Body parts vocabulary • Body movement vocabulary • Conversation 7 • Giving exercise instructions • Textbook p36 & 37 • Homework: Review body parts vocabulary The Body and Movement I- The Body: Limbs and Joints <ul style="list-style-type: none"> • Body parts vocabulary • Body movement vocabulary • Conversation 7 • Giving exercise instructions • Textbook p36 & 37 • Homework: Review body parts vocabulary 第12回 <ul style="list-style-type: none"> • More body parts vocabulary • Giving body movement instructions (pairwork) • Textbook: p38 & 39 • Homework: Review conversations 1 ~ 7 The Body and Movement II- The Body: Torso and Head <ul style="list-style-type: none"> • Review conversation 7 • More body parts vocabulary • Giving body movement instructions (pairwork) • Textbook: p38 & 39 • Homework: Review conversations 1 ~ 7 第13回 <ul style="list-style-type: none"> • Review body parts vocabulary • Grammar: Comparative adjectives • Asking patients about their goals • Conversation 8 • Textbook: p40 & 41 • Homework: Review conversations 1 ~ 8 The Body and Movement III- Setting Goals and Giving Encouragement <ul style="list-style-type: none"> • Review body parts vocabulary • Grammar: Comparative adjectives • Asking patients about their goals • Conversation 8 • Textbook: p40 & 41 • Homework: Review conversations 1 ~ 8 第14回 <ul style="list-style-type: none"> • Review body parts vocabulary • Review conversation 8 • Review body movement • ROM exercise vocabulary • Textbook p42 & 43 • Prepare for review test The Body and Movement IV- Documenting ROM Exercises <ul style="list-style-type: none"> • Review body parts vocabulary • Review conversation 8 • Review body movement • ROM exercise vocabulary • Textbook p42 & 43 • Prepare for review test 第15回 <ul style="list-style-type: none"> • Do test • Go over answers • Japanese things quiz (speaking practice) • Revise for final test Review Test ② ・ノート提出 ② <ul style="list-style-type: none"> • Do test • Go over answers • Japanese things quiz (speaking practice) • Revise for final test
<p>受講生に関わる情報 および受講のルール</p>	<p>[受講生に関わる情報] • 英和・和英辞書があると授業に役立つでしょう。</p> <p>[受講のルール] • 授業をよく聞いて、ノートをとる。 • ペアワークやグループワークをするときに積極的に参加すること。</p>

	・英和・和英辞典が入っても携帯電話を使用しないこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	・Review Test の時は、指示された範囲を必ず学習すること。 ・分からない単語があれば、調べておくこと。
オフィスアワー	授業終了後20分は対応可能
評価方法	筆記試験（論述・客観）、聞き取りを含む 90% ・ ノート提出、評価 10%
教科書	「著者」 Ros Wright & Bethany Cagnol 「書名」 English for Nursing ① - Course Book 「出版社」 PEARSON 「出版年」 2012
参考書	授業内で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員 <input type="checkbox"/>実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素 <input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習) <input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/>グループワーク <input type="checkbox"/>プレゼンテーション <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク <input checked="" type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</p> <p>情報リテラシー教育 <input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育 <input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） <input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） <input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） <input checked="" type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない</p> <p>ICTの活用 <input checked="" type="checkbox"/>ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 <input type="checkbox"/>その他</p> <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位(30)	選択
担当教員			
ザック グレース			
基礎科目			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] 医療の場面の中に基本的なコミュニケーションができるようになることを目的とする。</p> <p>[到達目標]</p> <p>① 日常会話も含め、患者との基本的な会話ができる。 ② 医療の専門用語を理解できる。 ③ 英語でコミュニケーションをとる自信をつける。</p>
授業の概要	医療の現場に必要な会話や専門的な用語を中心に学びます。単語を学び、それを使って患者さんと会話できるように練習します。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	
(理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	
(作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	
(作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	第1回	Medication I - Medication Routes and Forms / Orientation <ul style="list-style-type: none"> • Medication vocabulary • Prepositions • Talking to patients about medication (listening) • Conversation 1 • Textbook p44 & 45 • Review conversation 1
	第2回	Medication II - Dosages and Frequency <ul style="list-style-type: none"> • Review conversation 1 • Dosage and frequency vocabulary • Expressions of frequency • Textbook p46 & 47 • Review conversation 1
	第3回	Medication III - Side Effects; Assisting Patients with Medication <ul style="list-style-type: none"> • Side effects vocabulary • Talking to patients about medication and side effects • Grammar: Auxiliary verbs (may/might) • Conversation 2 • Textbook: p48 & 49 • Review conversations 1 & 2
	第4回	Communicating with Relatives by Phone <ul style="list-style-type: none"> • Telephone etiquette • Grammar: Auxiliary verb (will) • Conversation 3

	<ul style="list-style-type: none"> • Textbook p50 & 51 • Homework: Review conversation 1 ~ 3 <p>第5回 Moving and Handling Patients</p> <ul style="list-style-type: none"> • Equipment for moving and handling patients vocabulary • Grammar: Phrasal verbs, be + going to, will • Conversation 4 • Textbook: p52 & 53 • Homework: Review conversation 1 ~ 4 <p>第6回 The Hospital Team II- Communicating with Team Members by Phone</p> <ul style="list-style-type: none"> • Listening • Talking on the phone: procedures and phrases • Conversation 5 • Grammar: Past simple of be • Textbook: p54 & 55 • Homework: Review conversations 1 ~ 5 <p>第7回 Ordering Supplies</p> <ul style="list-style-type: none"> • Review conversation 5 • Listening • Supplies vocabulary • Grammar: Quantifiers (any, enough, much, many) • Textbook: p55 ~ 57 • Homework: Review conversations 1 ~ 5 <p>第8回 Hospital Food and Beverages</p> <ul style="list-style-type: none"> • Food and beverages vocabulary • Grammar: a/an, some • Conversation 6 • Textbook: p28 & 29 • Homework: Review conversations 1 ~ 6 <p>第9回 Measurements and Quantities</p> <ul style="list-style-type: none"> • Review conversation 6 • Listening • Numbers & measurements vocabulary • Textbook p30 • Homework: Prepare for review test <p>第10回 Review Test ① ・ノート提出 ①</p> <ul style="list-style-type: none"> • Do test (40 minutes) • Go over answers • Review test answers <p>第11回 Caring for a Patient in the Recovery Room ①</p> <ul style="list-style-type: none"> • Recovery room questions • Grammar: Past simple, irregular verbs • Textbook p60 & 61 • Review conversations 1 ~ 6 <p>第12回 Caring for a Patient in the Recovery Room ②</p> <ul style="list-style-type: none"> • Grammar: Review past simple (negative and questions) • Conversation 7 • Christmas Listening Activity • Textbook: p61 • Homework: Review conversation 1 ~ 7 <p>第13回 Removing Sutures</p> <ul style="list-style-type: none"> • Grammar: Sequencers • Removing sutures vocabulary • Conversation 8 • Textbook: p62 & 63 • Homework: Review conversations 1 ~ 8 <p>第14回 Assessing an Elderly Care Home Resident</p> <ul style="list-style-type: none"> • Care home resident vocabulary • Assessment form Q & A • Assessment form pairwork • Textbook: p66 & 67 • Homework: Prepare for review test <p>第15回 Review Test ② ・ノート提出 ②</p> <ul style="list-style-type: none"> • Do test • Go over answers • Students study by themselves and ask me questions • Revise for final test
受講生に関わる情報 および受講のルール	<p>[受講生に関わる情報]</p> <ul style="list-style-type: none"> • 英和・和英辞書があると授業に役立つでしょう。 <p>[受講のルール]</p> <ul style="list-style-type: none"> • 授業をよく聞いて、ノートをとる。 • ペアワークやグループワークをするときに積極的に参加すること。 • 英和・和英辞典が入っていても携帯電話を使用しないこと。
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわ る情報	<ul style="list-style-type: none"> • Review Test の時は、指示された範囲を必ず学習すること。 • 分からない単語があれば、調べておくこと。

オフィスアワー	授業終了後20分は対応可能
評価方法	・筆記試験（論述・客観）、聞き取りを含む 90% ・ノート提出、評価 10%
教科書	「著者」 Ros Wright & Bethany Cagnol 「書名」 English for Nursing ① - Course Book 「出版社」 PEARSON 「出版年」 2012
参考書	授業内で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員 <input type="checkbox"/>実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素 <input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習) <input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/>グループワーク <input type="checkbox"/>プレゼンテーション <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク <input checked="" type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</p> <p>情報リテラシー教育 <input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育 <input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） <input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） <input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） <input checked="" type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない</p> <p>ICTの活用 <input checked="" type="checkbox"/>ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 <input type="checkbox"/>その他</p> <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位(30)	選択
担当教員			
朴惠蘭			
基礎科目			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] ハングル（文字）の成り立ちや発音を学習し、文字が読み、書けるようにする。日常生活の中でよく使う基本会話を身に付ける。 韓国語で自己紹介が出来るようにする。パソコンで韓国語の入力が出来るようにする。</p> <p>[到達目標] 1) ハングル文字が書けて正しく読める。 2) 挨拶・生活の基本会話を身に付ける。 3) 韓国語で自己紹介が出来る。 4) パソコンで韓国語の入力が出来る。</p>
授業の概要	<p>ハングルの特長、話し言葉の特徴や発音、イントネーションを日常生活及び一般的な話題を通じて学び、基礎会話が出来る様に何度も口に出して練習する。 ハングルの仕組、特徴を理解し読み書き出来る様になり返し練習する。パソコン・CD・DVD等の視聴覚教材も用いる。</p>

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(理学療法) (豊かな人間性) 真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(理学療法) (専門性の探求) 専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	△
(理学療法) (専門的実践力) 心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	
(理学療法) (多職種協働) 対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(理学療法) (地域実践) 地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	○
(作業療法) (豊かな人間性) 真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(作業療法) (専門性の探求) 専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	△
(作業療法) (専門的実践力) 生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	
(作業療法) (多職種協働) 対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(作業療法) (地域実践) 地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	○
授業計画	
第1回	オリエンテーション ハングルについて、語順、仕組み、特徴
第2回	ハングルの母音、出会いの挨拶
第3回	ハングルの子音、発音のコツ、別れの挨拶
第4回	ハングルの子音（平音、激音、濃音の相違点） 感謝、謝罪の際の会話
第5回	ハングルの二重母音、有声音化 食事の時の会話
第6回	ハングルのバッチム、お願いの時の会話
第7回	ハングルの二重バッチム、お休みの時の挨拶
第8回	ハングルの発音の法則 弱化、連音化、鼻音化、激音化、濃音化

	<p>第9回 ハングルのカナ表記法による人名、地名などの固有名詞の表記</p> <p>第10回 パソコンでのハングルの入力の仕方</p> <p>第11回 ～は～ですの文型、自己紹介</p> <p>第12回 ～は何ですか?の文型 指示代名詞</p> <p>第13回 疑問詞を用いての分の表現 (いつ、どこ、なに、だれ)</p> <p>第14回 ある、ない、分かる、分からないの表現</p> <p>第15回 読み書きのまとめ、日常会話の復習</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	日本語に無い発音が多い為、正しい発音を身に付けるためには、積極的に出席し積極的に何度も口に出して練習する事が望ましい。 文字の読み書きから覚えて行く初めての言語なので文字を覚える為には、繰り返しの練習、復習が必要である。 韓国語Ⅰに続けて韓国語Ⅱも一緒に履修する事が望ましい。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	毎回の授業後に復習用の宿題を次回授業時に提出する事。
オフィスアワー	授業の15分前、授業後の30分は対応可能。
評価方法	定期試験60%、宿題及びレポート40%。
教科書	李昌圭著『韓国語へ旅しよう (初級)』 朝日出版社
参考書	授業内で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <p><input type="checkbox"/>実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <p><input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習)</p> <p><input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート</p> <p><input type="checkbox"/>グループワーク</p> <p><input type="checkbox"/>プレゼンテーション</p> <p><input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク</p> <p>■アクティブラーニングは実施していない</p> <p>情報リテラシー教育</p> <p><input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育</p> <p><input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの(図書館利用法・文献探索・データベース活用法等)</p> <p><input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの(情報処理、情報整理法等)</p> <p><input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの(レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等)</p> <p>■情報リテラシー教育は実施していない</p> <p>ICTの活用</p> <p>■ICTを活用した双方向型の授業の実施</p> <p><input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援</p> <p><input type="checkbox"/>その他</p> <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位(30)	選択
担当教員			
朴惠蘭			
基礎科目			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] 基礎会話から少し進んだ日常会話を身に付ける。数字、番号、物の値段が言えるようにする。言葉を通じて韓国語と日本語の発想、表現の違いなどを確認して行く。韓国に興味を持って、現代韓国社会・文化と現代日本社会・文化との共通点と相違点を知る。</p> <p>[到達目標] 1) 基礎会話から進んだ日常会話を身に付ける。 2) 月・日・番号・値段が言える。 3) 韓国語と日本語の共通点、相違点を知る。 4) 簡単な発表などを韓国語で出来る様にする。 5) 韓国の社会・文化・歴史に対する理解を深める。</p>
授業の概要	韓国語Ⅰで韓国語の基礎会話、発音の習得を終えた学生を対象に、書く・読む・話すの4機能のうち書くこと・話す事にやや比重を置いて授業を進めて行き会話力を身に付ける。疑問詞、数詞などを用いて教科書の項目別文例をもとに、対応の言い換え練習を行いながら会話を覚えて行く。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	△
(理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	
(理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	○
(作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	△
(作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	
(作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	○
授業計画	<p>第1回 否定文の表現 助詞～も</p> <p>第2回 指示代名詞 (事物・場所) 身の回りの単語</p> <p>第3回 家族の呼び名 助詞～の</p> <p>第4回 この～は誰の物ですかの文型</p> <p>第5回 位置関係の言葉</p> <p>第6回 何処に～がありますの文型 助詞～が (主格助詞)</p> <p>第7回 助詞～に (場所)、～と (並列・羅列)</p> <p>第8回 動詞、形容詞の会話体 (です、ます) の活用 助詞～を (目的格)</p>

	<p>第9回 ～で～をしますの文型 助詞～で</p> <p>第10回 体の名称の単語 主要副詞語</p> <p>第11回 時を表す言葉 疑問を表す言葉</p> <p>第12回 映像で学ぶハングル</p> <p>第13回 尊敬型の活用 曜日</p> <p>第14回 リウル変則用言、助詞～しに</p> <p>第15回 まとめ (助詞 活用 変則活用の復習)</p>
受講生に関わる情報 および受講のルール	日常生活及び身近な一般的な題材を中心に会話を学んで行く授業である。日本語の発音と似ている単語も多く、新たな発見も有り、とても学び易い言語でもある。身に付ける為には、繰り返しの練習、復習が必要である。原則として「韓国語Ⅰ」の修了者を対象とする。
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわ る情報	毎回の授業後に復習用の宿題を次回授業時に提出する事。
オフィスアワー	授業の15分前、授業後の30分は対応可能。
評価方法	定期試験60%、宿題及びレポート40%。
教科書	李昌圭著『韓国語へ旅しよう(初級)』 朝日出版社
参考書	授業内で適宜紹介する。
実務者経験/アク ティブラーニング/ リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <p><input type="checkbox"/>実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <p><input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習)</p> <p><input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート</p> <p><input type="checkbox"/>グループワーク</p> <p><input type="checkbox"/>プレゼンテーション</p> <p><input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</p> <p>情報リテラシー教育</p> <p><input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育</p> <p><input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの(図書館利用法・文献探索・データベース活用法等)</p> <p><input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの(情報処理、情報整理法等)</p> <p><input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの(レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない</p> <p>ICTの活用</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>ICTを活用した双方向型の授業の実施</p> <p><input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援</p> <p><input type="checkbox"/>その他</p> <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位(30)	選択
担当教員			
岡野康幸			
基礎科目			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的]</p> <ul style="list-style-type: none"> 中国語の正確な発音と初歩の文法・語彙を修得することにより、自身に関する簡単なことが言えるようにする。 中国語の学習を通じて、日本語との構造の差異に着目する。 <p>[到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ピンインを見て発音ができるようになる。 中国語であいさつ・簡単な自己紹介ができるようになる。
授業の概要	中国語は声調（音声の高低）によって意味が変わる言語であり、また日本語には存在しない発音も多い言語です。発音を徹底的に練習することにより、正しい発音の習得と今後の自発的学習（予習・復習）の筋道をつける。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(理学療法) (豊かな人間性) 真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(理学療法) (専門性の探求) 専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(理学療法) (専門的実践力) 心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	
(理学療法) (多職種協働) 対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(理学療法) (地域実践) 地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	
(作業療法) (豊かな人間性) 真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(作業療法) (専門性の探求) 専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(作業療法) (専門的実践力) 生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	
(作業療法) (多職種協働) 対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(作業療法) (地域実践) 地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	第1回	授業オリエンテーション（教科書2・3頁を読んでおく）
	第2回	第1課 你好（こんにちは） 中国語の音節 声調 ドリル
	第3回	第2課 明天见（また明日） 単母音 複母音 ドリル
	第4回	第3課 谢谢（ありがとう） 子音（1）ドリル
	第5回	第4課 好久不见（お久しぶり） 子音（2） 鼻音 ドリル
	第6回	第5課 迎接（出迎える） 名前の言い方・たずね方
	第7回	第6課 欢迎会（歓迎会） 動詞「是」・助詞「的」の使い方
	第8回	第7課 打的（タクシーに乗る） 基本語順S+V+O 連動文
	第9回	第8課 住宿（宿泊する） 希望・願望を表す「想」、「いる・ある・持っている」を表す「有」、指示代名詞

	<p>第10回 第9課 問路（道を尋ねる）動詞「在」・前置詞の使い方</p> <p>第11回 第10課 买东西（ショッピングをする） 数の言い方・お金の言い方・値段の尋ね方</p> <p>第12回 第11課 聊天儿（おしゃべりをする） 年月日・曜日の言い方、年齢の言い方</p> <p>第13回 第12課 点菜（料理を注文する） 量詞、動詞の重ね方</p> <p>第14回 第13課 买足球票（サッカーのチケットを買う）時刻の言い方、状態の変化を表す「了」</p> <p>第15回 前期総復習</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<ul style="list-style-type: none"> ・ただ授業を聞くといった受け身の姿勢ではなく、「学ぶ意義」を自身に問いかけながら、積極的に参加すること。 ・周囲の迷惑になるので私語は慎むこと。 ・本人の責に帰す遅刻早退は認めない。中国語Ⅰに続けて中国語Ⅱも一緒に履修することが望ましい。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	漢字で書かれていても中国語は外国語です。漢字を見て中国語ではどのように発音するのかと意識してみてください。
オフィスアワー	毎週火曜14時～16時。
評価方法	期末試験70%、小テスト30%。
教科書	陳淑海 劉赤光『しゃべっていいとも中国語 トータル版』 朝日出版社、2014年1月
参考書	相原茂『はじめての中国語』 講談社現代新書、1990年2月
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>実務経験のある教員が担当している <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習) <input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/>グループワーク <input type="checkbox"/>プレゼンテーション <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク <input checked="" type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育 <input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） <input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） <input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） <input checked="" type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/>ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 <input type="checkbox"/>その他 <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位(30)	選択
担当教員			
岡野康幸			
基礎科目			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 中国語Ⅰに続き、正確な発音、初級文法・語彙を修得することにより、身の周りの日常的な事柄を表現できるようにする。 中国語の学習を通して、日本語日本文化との相違に着目する。 語学学習を通して、異文化理解を深めます。 <p>〔到達目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 簡単・初歩的な日常会話ができるようにする。このレベルは真面目に予習復習をすれば中国語検定4級のレベルになります。
授業の概要	中国語は声調（音声の高低）によって意味が変わる言語であり、また日本語には存在しない発音も多い言語です。発音を徹底的に練習することにより、正しい発音の習得と今後の自発的学習（予習・復習）の筋道をつける。加えて、中国語Ⅱは語学のみならず、中国の文化歴史にも着目し授業を進めます。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	
(理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	
(作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	
(作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	第1回	第14 課 做按摩（マッサージをする）時間の長さの言い方 完了を表す「了」
	第2回	第15 課 网吧（ネットカフェ）動作の対象を表す前置詞「給」、助動詞「可以」「能」
	第3回	第16 課 打电话（電話をかける）動作行為の進行を表す表現、助動詞「会」
	第4回	第17 課 打工（アルバイトをする）前置詞「在」二重目的語をとる動詞
	第5回	第18 課 在饭店（レストランで）経験を表す「过」、選択疑問文
	第6回	第19 課 去唱卡拉OK（カラオケに行く）助動詞「得」、「一～就」構文
	第7回	第20 課 你唱得真好（あなたは歌がうまい）補語結果 様態補語
	第8回	中国の日本事情
	第9回	第21 課 全家照（家族写真）「是～的」構文、比較表現「比」

	<p>第10回 第22 課 买衬衫（ シャツを買う） 方向補語①単純方向補語</p> <p>第11回 第23 課 生日晚会（ 誕生パーティー） 「把」構文、方向補語②複合方向補語</p> <p>第12回 第24 課 看DVD（ DVDを見る） 程度補語 可能補語</p> <p>第13回 第25 課 看病（ 診察） 主述述語文 受身表現</p> <p>第14回 第26 課 回国之前（ 帰国前） 「就要～了」構文、使役表現</p> <p>第15回 総復習</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<ul style="list-style-type: none"> ・ただ授業を聞くといった受け身の姿勢ではなく、「学ぶ意義」を自身に問いかけながら、積極的に参加すること。 ・周囲の迷惑になるので私語は慎むこと。 ・本人の責に帰す遅刻早退は認めない。中国語Ⅰに続けて中国語Ⅱも一緒に履修することが望ましい。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	漢字で書かれていても中国語は外国語です。漢字を見て中国語ではどのように発音するのかと意識してみてください。
オフィスアワー	毎週火曜14 時～ 16 時。
評価方法	期末試験70%、小テスト30%。
教科書	陳淑海 劉赤光『しゃべっていいとも中国語 トータル版』朝日出版社、2014 年1 月
参考書	相原茂他『why?にこたえる はじめての 中国語文法書』同学社、1996 年9 月 倉石武四郎『中国語五十年』岩波新書、1973 年1 月
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <p><input type="checkbox"/>実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習) <input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/>グループワーク <input type="checkbox"/>プレゼンテーション <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク ■アクティブラーニングは実施していない <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育 <input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） <input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） <input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） ■情報リテラシー教育は実施していない <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 <input type="checkbox"/>その他 <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年次	2単位(30)	選択
担当教員			
田口敦彦			
基礎科目	レクリエーションインストラクター資格取得に関わる必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>「授業の目的」レクリエーションプログラムの習得と企画や運営、指導技術を身につける。学びを通して、ゲームや歌、集団遊び、スポーツといったアクティビティを効果的に活用し、福祉施設、病院、学校教育の現場等で対象者や目的に合わせた支援活動できるようにすることを目的とする。</p> <p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 福祉分野や教育分野などで、高齢者や子どもなどの対象者の心の元気づくりの手助けをすることができる。 2. 1対1、1対集団といった場面で、コミュニケーションを促進する力を身につけている 3. 既存のアクティビティを、対象に合ったアクティビティへとアレンジする力を身につけている 4. 対象者の主体性や協調性を引き出す力を身につけている 5. 福祉施設や保育や学校教育など、現場に応じたレクリエーションプログラムを企画・展開する力を身につけている
授業の概要	レクリエーションの楽しさを知り、ゲームや歌、集団遊び、スポーツといったアクティビティを効果的に活用したレクリエーション支援の技術を習得する。そのための指導理論、組織論、事業論などの学習を通じ、支援者(指導者)としての実践力を高める。レクリエーションインストラクター資格取得のための科目である。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	
(理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	
(作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	
(作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション・レクリエーションの理解</p> <p>【key words】 レクリエーション</p> <p>【授業概要】 余暇活動におけるレクリエーション援助の役割を理解する。さらに基本的人権としてレクリエーション活動が位置づけられていることも同時に学ぶ指定体育着、体育館シューズを着用し装飾品や爪など活動時に支障とならないようにすること。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書P4～P8 学習課題の概要を確認しておくこと</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 アイブレイキングとして相応しい材料を検討しておくこと</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p> <p>第2回 レクリエーション活動の習得 モデルプログラムの習得 レクリエーション活動の習得 レクリエーション支援のためのゲーム</p>
------	--

	<p>【key words】 アイスブレーキング</p> <p>【授業概要】 集団の雰囲気や和らげ、無理なく、無駄なく、早く活動が進められるようなアイスブレーキングを実践し、その効果を理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書P66</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 コミュニケーションゲームを実践したが、どのような効果があったのか確認しておくこと。次回は室内でできるレクリエーションを実践するがどのような活動があるか考えておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 30分</p>
第3回	<p>レクリエーション活動の習得 モデルプログラムの習得 レクリエーション支援のためのゲーム対象に合わせたアレンジ方法①</p> <p>【key words】 アレンジ</p> <p>【授業概要】 対象にあわせたレクリエーション・ワークの全体像を理解する。あわせて「環境の設定」についてその用法を学ぶ。様々な「アレンジ」手法を知るとともに、基本となる「段階的なアレンジ法」を理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書P74</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 素材・アクティビティの中から段階的なアレンジ法を活用したアレンジに取り組んでみる。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 30分</p>
第4回	<p>レクリエーション支援の方法 自主的、主体的に楽しむ力を高める展開方法 段階的に成功体験をしやすいようにアレンジの基本と応用</p> <p>【key words】 アレンジの方法</p> <p>【授業概要】 アレンジ例を通してもともとの素材・アクティビティを最初の段階と位置付け、それを楽しむことで個人と集団の土台に、効力感を高めやすい付け足していくという原則を理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書P74</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 アレンジ方法を用いて中高年向けの健康体操などをアレンジしてみる。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
第5回	<p>レクリエーション活動の習得 モデルプログラムの習得 レクリエーション活動の習得 レクリエーション支援のための歌</p> <p>【key words】 アイスブレイク 集団ゲーム</p> <p>【授業概要】 室内でできるレクリエーションゲーム実践する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 対象者にとって快適な遊びの提供とは何かを考えておくこと</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 30分</p>
第6回	<p>レクリエーション活動の習得 モデルプログラムの習得 レクリエーション支援のための様々な活動 新聞紙を使ったレクリエーションゲーム(実践)</p> <p>【key words】 アイスブレイク 集団ゲーム</p> <p>【授業概要】 新聞紙を使った遊びについて理解する。新聞紙を使用するだけで様々なゲーム 遊びができることを確認する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 自分にはどんなレクリエーションが提供できるか考えておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 30分</p>
第7回	<p>レクリエーション支援の実施 プログラムの実施と評価及び改善①-1 (制約のある空間での支援方法/企画案の発表及び実践)</p> <p>【key words】 レクリエーション実践活動 支援 ホスピタリティ アイスブレーキング</p> <p>【授業概要】 レクリエーション計画の基本的な考え方にに基づき、支援実践活動を行う。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 参考書P162～206</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 実践活動となるので支援者は参加者に快さ、快適さ、楽しさ等を提供すること。参加者は積極的に参加することを心がけること。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 2時間</p>
第8回	<p>レクリエーション支援の実施 プログラムの実施と評価及び改善①-2 (制約のない空間での支援方法/企画案の発表及び実践)</p> <p>【key words】 レクリエーション実践活動 支援 ホスピタリティ アイスブレーキング</p> <p>【授業概要】</p>

	<p>レクリエーション計画の基本的な考え方に基づき、支援実践活動を行う。 【教科書ページ・参考文献】 参考書P162～206 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実践活動となるので支援者は参加者に快さ、快適さ、楽しさ等を提供すること。参加者は積極的に参加することを心がけること。 【予習復習に必要な想定時間】 2時間</p>
第9回	<p>レクリエーション支援の実施 プログラムの実施と評価及び改善①-3（企画案の評価及び好評） 【key words】 レクリエーション実践活動 支援 ホスピタリティ アイスブレーキング 【授業概要】 レクリエーションを企画し、実施、運営を行ったことについての評価及び反省会を実施する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P162～206 【課題・予習・復習・授業準備指示】 反省会での指摘事項は今後の実践活動を行う上で、参考となるのでしっかりとまとめておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分</p>
第10回	<p>レクリエーション活動の習得 モデルプログラムの習得 レクリエーション支援のための様々な活動 【key words】 アレンジ キンボール 【授業概要】 対象者にあわせたレクリエーション・ワークの全体像を理解する。様々なアレンジの手法を知ると共に、基本となる「段階的なアレンジ法」を体験して理解する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回も同様の活動を行うので競技ルールの確認を行っておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分</p>
第11回	<p>レクリエーション活動の習得 モデルプログラムの習得 レクリエーション支援のための様々な活動 【key words】 アレンジ キンボール 【授業概要】 対象者にあわせたレクリエーション・ワークの全体像を理解する。様々なアレンジの手法を知ると共に、基本となる「段階的なアレンジ法」を体験して理解する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回も同様の活動を行うので競技ルールの確認を行っておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分</p>
第12回	<p>レクリエーション支援の実施 プログラムの実施と評価及び改善①-1（制約のある空間での支援方法/企画案の発表及び実践） 【key words】 レクリエーション実践活動 支援 ホスピタリティ アイスブレーキング 【授業概要】 レクリエーション計画の基本的な考え方に基づき、支援実践活動を行う。 【教科書ページ・参考文献】 参考書P162～206 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実践活動となるので支援者は参加者に快さ、快適さ、楽しさ等を提供すること。参加者は積極的に参加することを心がけること。 【予習復習に必要な想定時間】 2時間</p>
第13回	<p>レクリエーション支援の実施 プログラムの実施と評価及び改善①-2（制約のない空間での支援方法/企画案の発表及び実践） 【key words】 レクリエーション実践活動 支援 ホスピタリティ アイスブレーキング 【授業概要】 レクリエーション計画の基本的な考え方に基づき、支援実践活動を行う。 【教科書ページ・参考文献】 参考書P162～206 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実践活動となるので支援者は参加者に快さ、快適さ、楽しさ等を提供すること。参加者は積極的に参加することを心がけること。 【予習復習に必要な想定時間】 2時間</p>
第14回	<p>レクリエーション支援の実施 プログラムの実施と評価及び改善①-3（企画案の評価及び好評） 【key words】 レクリエーション実践活動 支援 ホスピタリティ アイスブレーキング 【授業概要】 レクリエーションを企画し、実施、運営を行ったことについての評価及び反省会を実施する。 【教科書ページ・参考文献】 参考書P162～206 【課題・予習・復習・授業準備指示】 反省会での指摘事項は今後の実践活動を行う上で、参考となるのでしっかりとまとめておくこと。</p>

第15回	<p>と。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 前期の振り返り まとめ 【key words】 レクリエーション支援 【授業概要】 前期の授業の振り返りとレポートについての確認を行う。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 前期レポート指示を確認し振り返りを行うこと 【予習復習に必要な想定時間】 30分</p>
第16回	<p>レクリエーション活動の習得 モデルプログラムの習得 レクリエーション支援のための歌 【key words】 リズム、地域文化伝承、地域貢献 【授業概要】 前橋だんべえ踊りについて実践する。基本、サンバ、ファンク等のバージョンの一連の流れの確認と地域における文化伝承、お祭り、行事等のレクリエーションについて理解を深める。リズムと心の高揚の効果について理解する 【教科書ページ・参考文献】 参考書P25 【課題・予習・復習・授業準備指示】 積極的な参加を心がけること 【予習復習に必要な想定時間】 30分</p>
第17回	<p>レクリエーション活動の習得 モデルプログラムの習得 レクリエーション支援のための歌 【key words】 リズム、地域文化伝承、地域貢献 【授業概要】 前橋だんべえ踊りについて実践する。基本、サンバ、ファンク等のバージョンの一連の流れの確認と地域における文化伝承、お祭り、行事等のレクリエーションについて理解を深める。リズムと心の高揚の効果について理解する 【教科書ページ・参考文献】 教科書P25 【課題・予習・復習・授業準備指示】 積極的な参加を心がけること 【予習復習に必要な想定時間】 30分</p>
第18回	<p>レクリエーション支援の方法 信頼関係づくりの方法・ホスピタリティ ①あたたかくもてなすという意識と配慮 【key words】 ホスピタリティ、コミュニケーションワーク 【授業概要】 レクリエーションの提供を効果的に行うためには、対象者との良好なコミュニケーションが欠かせないことを理解する必要がある。そのためのホスピタリティについて学習する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P58 【課題・予習・復習・授業準備指示】 日常生活の中でホスピタリティについて意識してみる。そこから良好なコミュニケーションの取り方を実践してみる。 【予習復習に必要な想定時間】 30分</p>
第19回	<p>レクリエーション支援の方法 信頼関係づくりの方法・ホスピタリティ ②対象者の気持ちを受け止めていることを伝える技術 【key words】 レポート ジョイニング トラッキング アコモデーション マイム 【授業概要】 対象者との良好なコミュニケーションをとるために信頼関係を成立させる必要性やそのための技法をについて理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P62 【課題・予習・復習・授業準備指示】 日常生活の会話の中で信頼関係が築かれている状態とはどのようなものか。レポートの成立している状態等について意識してみる。 【予習復習に必要な想定時間】 30分</p>
第20回	<p>レクリエーション活動の習得 モデルプログラムの習得 レクリエーション支援のための様々な活動 【key words】 ユニバーサルホッケー 【授業概要】 ユニバーサルホッケーはいつでも・どこでも・誰でも楽しめるスポーツとして愛好されること知る。このスポーツは、安全生が高く、年齢・性別を越えて幅広くプレイできるのが特徴を理解しながら実践活動を進める。 【教科書ページ・参考文献】</p>

第21回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 今回も同様の活動を行うので競技ルールの確認を行っておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 レクリエーション活動の習得 モデルプログラムの習得 レクリエーション支援のための様々な活動</p> <p>【key words】 ユニバーサルホッケー</p> <p>【授業概要】 ユニバーサルホッケーはいつでも・どこでも・誰でも楽しめるスポーツとして愛好されること知る。このスポーツは、安全生が高く、年齢・性別を越えて幅広くプレイできるのが特徴を理解しながら実践活動を進める。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p>
第22回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 対象者が快適に楽しめる工夫について検討しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 レクリエーション支援の実施 プログラムの実施と評価及び改善①-1（制約のある空間での支援方法/企画案の発表及び実践）</p> <p>【key words】 レクリエーション実践活動 支援 ホスピタリティ アイスブレーキング</p> <p>【授業概要】 レクリエーション計画の基本的な考え方にに基づき、支援実践活動を行う。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 参考書P162～206</p>
第23回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 実践活動となるので支援者は参加者に快さ、快適さ、楽しさ等を提供すること。参加者は積極的に参加することを心がけること。 【予習復習に必要な想定時間】 2時間 レクリエーション支援の実施 プログラムの実施と評価及び改善①-2（制約のない空間での支援方法/企画案の発表及び実践）</p> <p>【key words】 レクリエーション実践活動 支援 ホスピタリティ アイスブレーキング</p> <p>【授業概要】 レクリエーション計画の基本的な考え方にに基づき、支援実践活動を行う。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 参考書P162～206</p>
第24回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 実践活動となるので支援者は参加者に快さ、快適さ、楽しさ等を提供すること。参加者は積極的に参加することを心がけること。 【予習復習に必要な想定時間】 2時間 レクリエーション支援の実施 プログラムの実施と評価及び改善①-3（企画案の評価及び好評）</p> <p>【key words】 レクリエーション実践活動 支援 ホスピタリティ アイスブレーキング</p> <p>【授業概要】 レクリエーションを企画し、実施、運営を行ったことについての評価及び反省会を実施する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 参考書P162～206</p>
第25回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 反省会での指摘事項は今後の実践活動を行う上で、参考となるのでしっかりとまとめておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 レクリエーション支援の方法 良好な集団作りの方法・アイスブレーキング 集団がまとまる仕組みを活かすプログラム アイスブレーキングモデル</p> <p>【key words】 よりよい生の実現</p> <p>【授業概要】 レクリエーション支援の目的が対象者のよりよい生の実現につながることを理解する。目的に合わせて、レクリエーション支援を展開するイメージを確認する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書P70 参考書P274</p>
第26回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 CASE STUDY の事例を確認しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 30分 レクリエーション支援の方法 自主的、主体的に楽しむ力を高める展開方法 対象者の相互作用を促進するコミュニケーション技法の活用方法（CSSプロセス）</p> <p>【key words】 素材・アクティビティ、ハードル設定、CSSプロセス</p> <p>【授業概要】 支援者の願い＝対象者の生活課題の充実に向けて、様々な支援の「素材・アクティビティ」を選択し、展開していく際の原則的な考え方を理解する。併せて、実際の選択時に参考できる既存の「素材・アクティビティ」の分類方法について学習する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書P78 参考書P278～P287</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>

	<p>目的に合わせたレクリエーションワークを構成する3つの技術について確認しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分</p> <p>第27回 レクリエーション支援の実施 プログラムの実施と評価及び改善①-1（制約のある空間での支援方法/企画案の発表及び実践） 【key words】 レクリエーション実践活動 支援 ホスピタリティ アイスブレイキング 【授業概要】 レクリエーション計画の基本的な考え方にに基づき、支援実践活動を行う。 【教科書ページ・参考文献】 参考書P162～206 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 2時間</p> <p>第28回 レクリエーション支援の実施 プログラムの実施と評価及び改善①-2（制約のない空間での支援方法/企画案の発表及び実践） 【key words】 レクリエーション実践活動 支援 ホスピタリティ アイスブレイキング 【授業概要】 レクリエーション計画の基本的な考え方にに基づき、支援実践活動を行う。 【教科書ページ・参考文献】 参考書P162～206 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実践活動となるので支援者は参加者に快さ、快適さ、楽しさ等を提供すること。参加者は積極的に参加することを心がけること。 【予習復習に必要な想定時間】 2時間</p> <p>第29回 レクリエーション支援の実施 プログラムの実施と評価及び改善①-3（企画案の評価及び好評） 【key words】 レクリエーション実践活動 支援 ホスピタリティ アイスブレイキング 【授業概要】 レクリエーションを企画し、実施、運営を行ったことについての評価及び反省会を実施する。 【教科書ページ・参考文献】 参考書P162～206 【課題・予習・復習・授業準備指示】 反省会での指摘事項は今後の実践活動を行う上で、参考となるのでしっかりとまとめておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分</p> <p>第30回 1年間の振り返り まとめ 【key words】 レクリエーション支援 【授業概要】 1年の授業の振り返りとテストについての確認を行う。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 試験に向けて配付したプリントを確認しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 30分</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<ul style="list-style-type: none"> レクリエーション活動(実技)を行う場合は、指定体育着、体育館シューズを着用すること。 装飾品や爪など活動時に支障とならないようにすること。 積極的に授業に取り組むこと。また支援者として好感のもてる態度、身だしなみを心掛けること 実技活動、グループ活動は仲間と協力して作業をすすめること。自分勝手な行動をとる受講者は減点の対象とする。 遠隔授業にて受講する場合はにはカメラ機能をオンにすること。通信環境により実施できない場合は申し出ること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	<ul style="list-style-type: none"> 日頃からレクリエーションに関する情報を新聞、雑誌、テレビ インターネット等で収集するよう心がけること。 地域で行われているレクリエーション活動に積極的に参加すること。
オフィスアワー	火曜日 16:00～17:30（変更時は掲示する）
評価方法	評価の基準：到達目標の達成度を評価する。 評価の方法：筆記試験50% レポート等提出物(活動企画書)20% 実技30% として総合的に評価する。
教科書	楽しさをとおした心の元気づくり レクリエーション支援の理論と方法 (財)日本レクリエーション協会編
参考書	必要に応じて紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 地域においてスポーツ活動指導の経験あり アクティブラーニング要素

- PBL(課題解決型学習)
- ディスカッション・ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- アクティブラーニングは実施していない

情報リテラシー教育

- 情報モラルに関する教育
- 課題解決のために必要な情報を探索するもの(図書館利用法・文献探索・データベース活用法等)
- 情報を分析評価し整理するもの(情報処理、情報整理法等)
- 情報のアウトプットに関するもの(レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等)
- 情報リテラシー教育は実施していない

ICTの活用

- ICTを活用した双方向型の授業の実施
- e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援
- その他

その他の具体的内容

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年次	2単位(60)	選択
担当教員			
田口敦彦			
基礎科目	レクリエーションインストラクター資格取得に関わる必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的]：レクリエーション活動の社会的意義を理解し、福祉施設、医療機関、学校等様々な活動現場における適切なレクリエーション活動支援の在り方や技術を身につけ、良好な人間関係を構築し、人々が笑顔に満ちた豊かなライフスタイルを確立できるように、公認指導者資格を有する支援者（レクリエーション・インストラクター）として、実践できるようになることを目的とする。</p> <p>[到達目標]：</p> <ol style="list-style-type: none"> 福祉分野や教育分野などで、高齢者や子どもなどの対象者の心の元気づくりの手助けをすることができる。 1 対1、1 対集団といった場面で、コミュニケーションを促進する力を身につけている 既存のアクティビティを、対象に合ったアクティビティへとアレンジする力を身につけている 対象者の主体性や協調性を引き出す力を身につけている 福祉施設や保育や学校教育など、現場に応じたレクリエーションプログラムを企画・展開する力を身につけている
授業の概要	<p>年代ごとの課題や特徴を知り、対象者のニーズに沿ったふさわしい形で提供できるレクリエーション活動の計画づくりを行い、対象者の元気や活力づくりの意欲を高め、自立・自律的な活動展開を支援できるよう学ぶ。レクリエーション活動支援に必要な理論と基礎技術を身につけ、様々な現場・対象者に快い楽しさのレクリエーションを提供することや良好な人間関係を構築し、楽しさの雰囲気づくりの方法を体験を通して学習する。対象者の成長や満足、達成感、充実感を獲得するためのレクリエーションプログラムの作成、発表、さらに脳トレ、介護予防体操等が実践できる技術を身につける。</p>

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(理学療法) (豊かな人間性) 真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(理学療法) (専門性の探求) 専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(理学療法) (専門的実践力) 心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	
(理学療法) (多職種協働) 対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(理学療法) (地域実践) 地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	
(作業療法) (豊かな人間性) 真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(作業療法) (専門性の探求) 専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(作業療法) (専門的実践力) 生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	
(作業療法) (多職種協働) 対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(作業療法) (地域実践) 地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション 福祉サービスにおけるレクリエーション援助の役割</p> <p>【key words】 生きがい、基本的人権、良循環</p> <p>【授業概要】 余暇活動におけるレクリエーション援助の役割を理解する。さらに基本的人権としてレクリエーション活動が位置づけられていることも同時に学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 参考書 レクリエーション活動援助法P2～P7</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 これからレクリエーションを活用して人々や地域を支える支援者にとってのレクリエーションの在り方について考えてみる</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p> <p>第2回 レクリエーション概論 レクリエーションという言葉の主旨</p>
------	--

	<p>【key words】 RE-CREATE</p> <p>【授業概要】 レクリエーションという言葉の由来や、様々な学説・定義から、レクリエーションがどのようにとらえられてきたかを理解し、その捉え方からレクリエーションの基本的な考え方を確認する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書P10～11 参考書 レクリエーション活動援助法P10～P11</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 自分がいままで体験してきたレクリエーション活動についてどのような活動があったのか思い出してみる。さらにその活動が、福祉分野においてどのように活用できるのかを考えてみる。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
第3回	<p>レクリエーション概論 レクリエーション支援の目的と方法 インストラクターの役割</p> <p>【key words】 厚生、コメニウス、フレーベル、プレイランド運動</p> <p>【授業概要】 レクリエーションのルーツを理解し、社会福祉サービスの流れの中で、レクリエーションが果たしてきた役割と今後の課題について理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書P11～P24 参考書 レクリエーション活動援助法P12～P16</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 重要な語句が数多く出てきたのでしっかりとまとめておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
第4回	<p>基礎理論 レクリエーションへの期待</p> <p>【key words】 生活者 支援者 人を支える</p> <p>【授業概要】 生活者 支援者という2つの視点からレクリエーションが期待されていることを確認する。さらに人を支えていく支援者にとってのレクリエーションについて理解を深める。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書P25～P33</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書P32～33に掲載されている演習問題を解いておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
第5回	<p>基礎理論 生活のレクリエーション化</p> <p>【key words】 生活のレクリエーション化</p> <p>【授業概要】 レクリエーションを生活の軸に生活を遊び化してく支援の在り方を理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 参考書 レクリエーション活動援助法P19～P23</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回の講義でレクリエーションの生活化を学習する。本講義を良く整理しておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
第6回	<p>基礎理論 レクリエーションの生活化</p> <p>【key words】 レクリエーションの生活化</p> <p>【授業概要】 日常生活において余暇の獲得とその充実を通して自律的な余暇生活の確立を目指すことを</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 参考書 レクリエーション活動援助法P19～P23</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回の講義で学習した生活のレクリエーション化と本講義を良く整理しておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
第7回	<p>日常生活におけるレクリエーションの捉え方</p> <p>【key words】 基礎生活 社会生活 余暇生活</p> <p>【授業概要】 近年、余暇活動にとどまらず「人間性の回復・再創造」など広義的に理解されている。福祉領域においては利用者の主体性をより尊重し、より楽しい生活を実現していくことを理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 参考書 レクリエーション活動援助法P39～P42</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 ライフスタイルと基本的欲求の関係を確認しておくこと</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
第8回	<p>日常生活の3領域とレクリエーション援助の関係</p> <p>【key words】 基礎生活 社会生活 余暇生活 ライフスタイル 基本的欲求</p> <p>【授業概要】 福祉領域に含まれる「レクリエーション」の在り方を理解するとともに、日常生活の3つの領域(基礎生活、社会生活、余暇生活)についてどのような援助が望ましいか理解を深める。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 参考書 レクリエーション活動援助法P43～P48</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>

	<p>それぞれの領域における必要なレクリエーション援助について確認しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
第9回	<p>楽しさと心の元気づくりの理論 レクリエーション活動の楽しさを感じる心の仕組み、および心の仕組みを根拠にした支援 【key words】 地域課題 コミュニティ リージョン 【授業概要】 自分も楽しみ、その楽しさがまわりの人々や地域にも役立つことで、さらに事業を充実する方法について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 P162～P169 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個人に働きかける場面と集団に働きかける場面について、それぞれにどんな効果があるか考えておく 【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
第10回	<p>楽しさと心の元気づくりの理論 楽しさが心の元気をもたらす生理的な仕組み、および社会的な仕組み 【key words】 地域課題 コミュニティ リージョン 【授業概要】 身近な地域（コミュニティ）とより広い領域の（リージョン）。それぞれの地域が抱える課題を理解し、解決するためのレクリエーションの活用について考えてみる。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P142～157 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自分の住む地域を調べ、レクリエーションを活用して働きかけることができる課題についてあげてみる 【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
第11回	<p>レクリエーション支援理論 レクリエーション支援におけるコミュニケーション 【key words】 コミュニケーションワーク ホスピタリティ 【授業概要】 レクリエーションの提供を効果的に行うには、対象者との良好なコミュニケーションがかかせないことを理解する必要がある。そのためのホスピタリティ、効果的な支援の方法を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P226～245 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ホスピタリティがどのような場面で有効的か、自分自身の活動を振り返り、その局面をイメージしてみる。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
第12回	<p>レクリエーション支援理論 コミュニケーションワーク アイスブレイキングのプログラミング～プログラミングの原則～ 【key words】 アイスブレイキングモデル 【授業概要】 レクリエーション支援が展開される様々な現場に応じた、アイスブレイキング・モデルの実践例を理解する。さらにグループにおいてアイスブレイキングモデルの作成と実践活動を行う。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P259～269 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書P268 演習を解いておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
第13回	<p>レクリエーション支援理論 自主的、主体的に楽しむ力を育む理論 ～アイスブレイキングモデルの作成～ 【key words】 アイスブレイキングモデル 【授業概要】 レクリエーション支援が展開される様々な現場に応じた、アイスブレイキング・モデルの実践例を理解する。さらにグループにおいてアイスブレイキングモデルの作成と実践活動を行う。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P259～269 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書P268 演習を解いておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
第14回	<p>レクリエーション支援のプログラム プログラムの立案 アイスブレイキングのプログラミング・実践 発表 【key words】 アイスブレイキングのプログラミング 【授業概要】 アイスブレイキングのプログラミングについてグループごとに発表を行う。発表に際して、プログラムの目的の明確化、安心感、一体感が感じられるプログラム内容であったかを評価する。（質疑応答含む） 【教科書ページ・参考文献】 教科書P259～269</p>

第15回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 各グループの発表は今後のレクリエーション支援の素材となるので必ず記録しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間 まとめ（評価・ふりかえり） 【key words】</p> <p>【授業概要】 前期 授業の振り返りとテストについての確認を行う。 【教科書ページ・参考文献】 前期テストにむけて配付プリント ノートを整理しておくこと 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
第16回	<p>楽しさと心の元気づくりの理論 ライフステージと心の元気づくり 乳幼児期～児童期～青年期～老年期</p> <p>【key words】 ライフスタイル 対応するレクリエーション課題</p> <p>【授業概要】 年代ごとに大まかに共通する課題や生活環境、ライフスタイルを持っている。年代ごとの特徴を知り、対象者のニーズを把握する。さらにライフステージごとの課題について理解を深める。今回は乳幼児期～老年期を学習する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P70～P81</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 ライフスタイルごとに対応するレクリエーションの視点について確認しておくこと。次回は青年期～老年期を学習するので先に取り上げた内容を事前に確認しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
第17回	<p>楽しさと心の元気づくりの理論 ライフステージと心の元気づくり 少子高齢社会の課題とレクリエーション</p> <p>【key words】 ライフスタイル 対応するレクリエーション課題</p> <p>【授業概要】 少子高齢者の中でレクリエーションが働きかけることのできる課題は何か理解する。「個人、集団、環境づくり」といったレクリエーションの考え方に沿いながら、それらの課題に向けた支援方法について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書 P92～P141</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 それぞれの課題とそれに対するレクリエーション支援について何ができるか自分自身で検討してみる 【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
第18回	<p>楽しさと心の元気づくりの理論 ライフステージと心の元気づくり 地域のきずなとレクリエーション（地域介護予防事業の取り組みについて）</p> <p>【key words】 生活のレクリエーション化 個人への働きかけ 集団への働きかけ</p> <p>【授業概要】 高齢者社会の課題に向けて、一人ひとりの対象者にどのようなレクリエーション支援が可能か、また一人の対象者を介して、その人が所属するグループや集団、対象者を取り巻く環境にどのような働きかけができるのか理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P92～116</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 個人への直接的支援、あるいは個人を介した支援が有効な高齢社会の課題をあげ、具体的な働きかけを考えてみる 【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
第19回	<p>支援論 治療的意味合いを含めたレクリエーション セラピューティックレクリエーションサービス</p> <p>【key words】 レクリエーション療法、セラピューティックレクリエーション</p> <p>【授業概要】 治療的な意味合いを含めたレクリエーションについて、レクリエーション療法とセラピューティックレクリエーションの二つの方向性があることを理解する。 【教科書ページ・参考文献】 参考書 レクリエーション活動援助法(中央法規) P150～P168</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回からレクリエーション計画の策定について学習を進めるが、どんなプログラムができそうかイメージを膨らませておく。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
第20回	<p>目的にあわせたレクリエーションワーク 素材アクティビティの提供</p> <p>【key words】 素材・アクティビティ、ハードル設定、CSSプロセス</p> <p>【授業概要】 レクリエーション支援がよりよい生の実現につながるものであることを理解する。あわせて、目的にあわせてレクリエーション支援の展開イメージを理解する。</p>

第2 1回	<p>【教科書ページ・参考文献】 教科書 P274～P277 【課題・予習・復習・授業準備指示】 目的に合わせたレクリエーションワークを構成する3つの技術について確認しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p> <p>目的にあわせたレクリエーションワーク ハードル設定 CSSプロセス</p> <p>【key words】 素材・アクティビティ、すり合わせ 【授業概要】 素材、アクティビティの選択について支援側からの特質と、対象者からの楽しさのすり合わせのプロセスについて理解する。さらに学習を深めるために、素材、アクティビティの選択方法について演習を行い各自検討する。 レクリエーション実技 リズム手合わせ”</p>
第2 2回	<p>【教科書ページ・参考文献】 教科書 P278～P287 【課題・予習・復習・授業準備指示】 素材、アクティビティの選択が支援者の思いと対象者の目標により、慎重に検討されていることを確認しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p> <p>目的にあわせたレクリエーションワーク 対象者間の相互作用の活用</p> <p>【key words】 ハードル設定 CSSプロセス 【授業概要】 達成感の積み重ねが対象者の有用感・自尊感情を満たし、前向きな姿勢や意欲を引き出すこと、ハードルの設定について理解する。さらに対象者間の相互作用が、対象者自ら支援の目的に近づく原動力となる原則を確認する。活用する基本技術としてのCSSプロセスについても理解を深める。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書P288～P297 【課題・予習・復習・授業準備指示】 リズム手遊びにみるハードルの設定について確認しておく。普段の遊びの中からCSSプロセスを実践してみる。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
第2 3回	<p>目的にあわせたレクリエーションワーク 指導実習</p> <p>【key words】 ハードル設定 CSSプロセス 【授業概要】 乳幼児から高齢者まで幅広い支援の対象者に好まれている歌や体操を用いて、支援の良い手段として「素材・アクティビティ」を活用する技術を理解する。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 今回紹介した技術を自分たちでも実践できるように復習しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
第2 4回	<p>レクリエーション支援のプログラム 事業計画 レクリエーション事業とは</p> <p>【key words】 マズロー5段階欲求説 生活の快 動機づけ 【授業概要】 レクリエーションプログラムを計画する際の基本的な考え方について理解する。また利用者のレクリエーションニーズの実現とレクリエーションの動機づけについて理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 教科書 P162～P169 参考書 楽しさの追求を支える理論と支援の方法P26～P27 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自分の得意とすることを活かしてどんな事業が展開できるかイメージを膨らませておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
第2 5回	<p>レクリエーション支援のプログラム アセスメントに基づいたプログラム計画 A-PIEプロセス～ニーズの確認 目標設定 展開 期待される効果 ～</p> <p>【key words】 A-PIEプロセス 【授業概要】 A-PIEプロセスの手順とそれぞれのステップで考慮しなくてはならない事柄について理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 教科書 P184～P195 参考書 楽しさの追求を支える理論と支援の方法P40～P45 【課題・予習・復習・授業準備指示】 A-PIEプロセスについてテキストにでている事例を確認しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
第2 6回	<p>レクリエーション支援のプログラム レクリエーション事業のプログラムの組み立て方～集団を介して個人にアプローチする支援計画の作り方～</p> <p>【key words】 レクリエーションプログラム総合計画 A-PIEプロセス 【授業概要】 福祉レクリエーション総合計画の基本的な考え方に基づき計画前の確認を行う。その後、展開の技術について理解を深め、グループごとにレクリエーションプログラムの作成を行う。 【教科書ページ・参考文献】</p>

	<p>教科書P162～P195 参考書 楽しさの追求を支えるサービスの企画と実施P30～P43 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実際に自分たちが将来活躍するであろう施設や病院をイメージしながら、レクリエーション実施の一連の流れを確認しておくこと。その際に、支援者の対象者への思いを必ず確認すること。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p> <p>第27回 レクリエーション支援のプログラム プログラムの立案 事業計画 レクリエーション事業のプログラムの組み立て方 【key words】 Plan Do See プロセス 【授業概要】 「企画・準備・実施・整理」の段階から構成されるPlan-Do-Seeプロセスの手順と、それぞれのステップで考慮しなくてはならない事柄について理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書P196～P207 参考書 楽しさの追求を支えるサービスの企画と実施P30～P43 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自分の住む地域の課題を想定し、目標設定とそれに基づく地域住民を対象とした事業計画をつくってみる。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p> <p>第28回 レクリエーション支援のプログラム リスクマネジメント リスクマネジメントの方法～ 【key words】 リスクマネジメント 【授業概要】 レクリエーション活動における安全管理の必要性と方法について学習し、自己だけでなく犯罪や災害をも視野に入れた安全管理の考え方について理解を深める 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>教科書P208～P223 参考書 楽しさの追求を支えるサービスの企画と実施P30～P43 【課題・予習・復習・授業準備指示】 子ども、高齢者のプログラムイベントでどんなリスクがあるか確認しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p> <p>第29回 レクリエーション支援のプログラム レクリエーションプログラムの計画発表及び実践 【key words】 レクリエーションプログラム総合計画 【授業概要】 福祉レクリエーション総合計画の基本的な考え方に基づきそれぞれのグループごとに発表を行う。発表に際して、プログラムの目的の明確化、利用者の心を動かすプログラム内容であったかを評価する。(質疑応答含む) 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>教科書P162～P195 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実際に自分たちが将来活躍するであろう施設や病院をイメージしながら、レクリエーション実施の一連の流れを確認しておくこと。各グループの発表は今後のレクリエーション支援の素材となるので必ず記録しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p> <p>第30回 一年間のまとめ（評価・ふりかえり） 【key words】 【授業概要】 1年の授業の振り返りとテストについての確認を行う。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 後後期試験に向けてノート、プリントを整理しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<ul style="list-style-type: none"> ・出席を重視し、授業態度を評価するので積極的に反応の良い授業参加を心がけること。また支援者として好感のもてる態度、身だしなみを心掛けること。 ・授業シラバスを必ず確認すること。 ・グループ活動は仲間と協力して作業をすすめること。自分勝手な行動をとる受講者は減点の対象とする。 ・遠隔授業にて受講する場合にはカメラ機能をオンにすること。通信環境により実施できない場合は申し出ること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	各地で開催される、大会や講習会・研修会・セミナー・ボランティア等へ積極的に参加し、楽しい体験（世代間交流）の中で、レクリエーション支援の在り方、手法を幅広く習得すること。
オフィスアワー	火曜日 16:00～17:30（変更時は掲示する）
評価方法	筆記試験60% 授業中レポート20% グループワーク及び発表20% （詳細な評価基準は授業シラバス参照）
教科書	楽しさをとoshした心の元気づくり レクリエーション支援の理論と方法 （財）日本レクリエーション協会編
参考書	参考書 【楽しさの追求を支えるサービスの企画と実施】 【楽しさの追求を支える理論と支援の方法】 （日本レクリエーション協会） 【レクリエーション活動援助法】 （中央法規）

<p>実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育</p>	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> ■実務経験のある教員が担当している <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>地域スポーツクラブでの指導経験あり</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育 <input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの(図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) <input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの(情報処理、情報整理法等) <input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの(レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) <input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 <input type="checkbox"/>その他 <p>その他の具体的内容</p>
---------------------------------	---

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年次	1単位(30)	必修
担当教員			
柴ひとみ			
基礎科目			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕</p> <p>本学の建学の精神・教育目標に基づき、高校と大学の相違を、さまざまな観点から学び、円滑な移行を目指して初年次教育をおこなう。基礎演習 I においては、礼儀・挨拶、ボランティア活動、環境美化活動を理解し、積極的に取り組み、人間としての基礎的教養力と自律的実践能力を養う。基礎演習の導入として、学問への動機づけ、コミュニケーション能力など、学習成果を保証するための学習方法や技術を総合的に学ぶ。また、データベースを用いて適切な情報を探索し、得られた情報を分析・整理する力を育む。</p> <p>①礼儀・挨拶について説明でき、日々の生活の中で実践できる。 ②環境美化について説明でき、日々の生活の中で実践できる。 ③レポートを形式に則って作成できる。 ④グループワークを円滑に実施できる。 ⑤発表を簡潔にわかりやすく行える。 ⑥実際の場面において適切な身だしなみ、態度、時間厳守、報告・連絡・相談が実践できる。 ⑦データベースを用いて適切な情報を探索し、得られた情報を分析・整理することができる。</p>
授業の概要	本学の建学の精神・教育目的に基づき、自律的実践能力（マナー、バランス感覚、挨拶、服装、時間厳守、環境美化、ボランティア等）や基礎学士力（読書力、発表力、企画力等）の定着を図る。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	第1回	<p>建学の精神と実践教育プログラム①：科目オリエンテーション、建学の精神、基礎学士力の育成、ポートフォリオについて</p> <p>【key words】 建学の精神、基礎学士力、ポートフォリオ</p> <p>【授業概要】 基礎学士力とは何か。また、基礎演習 I において建学の精神を基に基礎学士力を培うことの必要性を理解する。円滑な学生生活を行うために自らがどのように行動しなければならないかを考える。ポートフォリオについて概要、制作方法について説明する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：建学の精神について調べ、資料を印刷してくること 課題：基礎学士力を培うために、4年間の目標および1年生の目標をたてること 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p>
	第2回	<p>建学の精神と実践教育プログラム②：礼儀、挨拶の実践</p> <p>【key words】 建学の精神、礼儀、挨拶</p> <p>【授業概要】 他者から好感をもたれる礼儀・挨拶について、電話のかけ方、メールの受信・送信についてまとめ実践できるようにする。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：適切なメールの送信文を作成すること 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>
	第3回	<p>建学の精神と実践教育プログラム③：学び方、ノートの取り方について</p>

	<p>【key words】 基礎学力、学び方、ノートの取り方</p> <p>【授業概要】 高校までの授業の受け方と大学での授業の受け方の違いを説明し、主体的な学びへと取り組めるよう日々の学習の仕方、ノートの取り方を紹介する。また、ポートフォリオについて概要、制作方法を再確認する。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：大学での授業の受け方、ノートの取り方について実践したい方法をまとめること 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p> <p>第4回 建学の精神と実践教育プログラム④：図書館の利用について</p> <p>【key words】 建学の精神、基礎学力、図書館の利用、データベース、文献検索、情報リテラシー</p> <p>【授業概要】 図書館の利用について説明する。また、レポートや卒業論文を制作する際に必要な資料を引用する時の注意点、電子資料の使い方について説明する。 第1回～第3回までに作成したポートフォリオを互いに確認し合い、ポートフォリオの作成方法を確認する。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：本学図書館の契約電子資料を用いて、興味を持った文献を一つ以上印刷し、要点にアンダーラインを引くこと 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p> <p>第5回 建学の精神と実践教育プログラム⑤：グループワーク手法、礼儀、挨拶、身だしなみ</p> <p>【key words】 建学の精神、グループワーク手法、礼儀、挨拶、身だしなみ</p> <p>【授業概要】 グループワークの1手法であるKJ法について説明する。その後、実際にKJ法を使用し、他者から好感をもたれる身だしなみ、礼儀・挨拶について、グループワークを行い、まとめる。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：グループワークの内容をまとめておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p> <p>第6回 建学の精神と実践教育プログラム⑥：個人情報保護について</p> <p>【key words】 建学の精神、個人情報保護、情報リテラシー</p> <p>【授業概要】 医療従事者にとって情報管理は最重要課題である。初年次よりこのことについて理解することは今後の学習のみならず、社会人としての素養として必要である。ここでは、群馬県警察から講師を招き、サイバーテロやインターネットの利用について講義を受ける。遠隔授業やネットショッピングなどでPCを使用する機会が増している今、今後の生活に役立てる。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：個人情報の漏えいに関する記事を集め、要点にアンダーラインを引くこと。 また、漏えい防止のために行うべきことをまとめること 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p> <p>第7回 学士力育成プログラム①： レポートの書き方①、個人情報の取り扱いについて</p> <p>【key words】 学士力、レポートの書き方、文献検索、情報リテラシー</p> <p>【授業概要】 レポートの書き方についてグループワークを行う。また、レポート作成における個人情報の取り扱いについても学ぶ。 各自準備した文献をグループで共有し、論文の構成、整合性、考察における引用文献の使用などについて確認する。</p> <p>【予習課題】 次回までに図書館及び契約電子資料を用いて文献を検索し、各自1点以上の文献を印刷したうえで次回持参すること。文献は原著論文のみ。文献検索のテーマは自由 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：発表用レジュメ（A4用紙2枚、パワーポイントのスライド18枚以内）を作成し、発表前に提出する。提出期限は後日提示する。 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p> <p>第8回 学士力育成プログラム②：レポートの書き方</p> <p>【key words】 学士力、レポートの書き方、文献検索、情報リテラシー</p>
--	---

	<p>【授業概要】 グループ毎に発表を行い、医学教育におけるレポートの書き方について理解を深める。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：発表内容を踏まえて、第7回で使用した文献が医学教育におけるレポート形式となるよう補足すること</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p>
第9回	<p>建学の精神と実践教育プログラム⑦：身だしなみの実践</p> <p>【key words】 建学の精神、礼儀、身だしなみ</p> <p>【授業概要】 臨床の場面を想定し、他者から好感をもたれる身だしなみとして制服・ケーシー（実習着）を着用する。実践した身だしなみについて他者評価を受け、改善点を理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：制服・ケーシーを着用した立位姿勢（前面・後面）を写真に撮り、気づいた点・改善点を付記し、ポートフォリオにまとめる。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p>
第10回	<p>建学の精神と実践教育プログラム⑧：礼儀・挨拶、環境美化について①</p> <p>【key words】 建学の精神、礼儀、挨拶、環境美化</p> <p>【授業概要】 学生生活や臨床場面において礼儀のある対応やより良い挨拶が行えるよう普段の生活を振り返り、改善策を考える。環境美化の必要性は誰しも理解しているが、臨床場面（病院での環境衛生）においてのその重要性を考える。「感染症予防」や「標準予防策」の環境整備に焦点を当て、現在の環境美化活動を振り返る。 【レポート課題】前期を振り返り、理学療法士または作業療法士としての資質について、基礎演習で学んだことをまとめ、先行研究をもとに考察し、レポートにまとめる。文献検索のキーワードは「社会人基礎力」「マナー」「感染症予防」「環境整備」とする。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 レポート課題あり ポートフォリオの最期にレポートを入れ、ポートフォリオを提出する。 提出期限は、後日提示する。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p>
第11回	<p>学士力育成プログラム③：前期の活動の振り返り</p> <p>【key words】 建学の精神、礼儀、挨拶、環境美化、身だしなみ、個人情報、ポートフォリオ</p> <p>【授業概要】</p> <p>前期に学んだ内容についてポートフォリオをもとに振り返る。また、ポートフォリオについて他者評価を受ける。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>ポートフォリオを持参すること。 課題：他者評価の結果をもとにポートフォリオを作成し直すこと</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 120～180分</p>
第12回	<p>学士力育成プログラム④：レポートの書き方③</p> <p>【key words】 建学の精神、礼儀、挨拶、環境美化、レポートの書き方</p> <p>【授業概要】 礼儀・挨拶・環境美化のレポートの読みあわせを行い、レポートの書き方を確認する。用紙の使用法、ナンバリング等レイアウトのルール、レポートのテーマの一貫性などについて検討し、書き方のルールを習得する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：適切なレポートの書き方に基づき、修正をすること</p>

	<p>【予習復習に必要な想定時間】 60～90分 第13回 学士力育成プログラム⑤：【事前学習：命の大切さ】 【key words】 命の大切さ、安全性、情報リテラシー</p> <p>【授業概要】 1985年8月12日に起こった日航機墜落事故について、何故事故が起こったのかその原因と共に理解する。データベースを用いて調べた後、正確な情報とは何か、情報の分析について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：日航機墜落事故について調べ、資料を印刷し、要点にアンダーラインを引くこと。 課題：グループで話し合った内容をまとめておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分 第14回 学士力育成プログラム⑥：【講演：命の大切さ】 【key words】 命の大切さ、安全性、情報リテラシー</p> <p>【授業概要】 命の大切さについて、いのちを織る会事務局の美谷島氏の講演を聴講する。遺族の思いや安全面について考える機会を持つ。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：講演内容をまとめておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第15回 学士力育成プログラム⑦：【まとめ：命の大切さ】 【key words】 命の大切さ、安全性、情報リテラシー</p> <p>【授業概要】 聴講した内容を基に、事前学習内容を整理する。当事者の思い、遺族の思いについて考える。また、事故や災害などで甚大な影響が及ばないよう安全面について考える。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 レポート課題：日航機墜落事故についてまとめ、突然発症した患者と向き合いながらPT・OTとして働くことについての自身の考えを述べよ。 提出期限は、後日提示する。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分</p>
<p>受講生に関わる情報 および受講のルール</p>	<p>グループワークや発表は出席が前提となるので、体調管理を怠らないこと。 ①シラバスを確認し予習復習を必ず行い積極的に臨むこと。 ②受講態度や身だしなみが整っていない場合受講を認めない。 ③授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑となる行為（私語、携帯電話の使用等）は厳禁。 ④内容が類似した課題は受け付けなため、自己の努力で作成すること。 ⑤提出物等が基準を満たさない場合は、再提出とする。</p>
<p>毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状況 の確認方法</p>	<p>チャトルカード方式</p>
<p>授業外時間にかかわる 情報</p>	<p>毎回、課題が提示されるので、シラバスを確認すること。 全ての回で、情報収集、資料作成を行い、ポートフォリオを作成する。 また、発表では、指定時間を厳守し、わかりやすく伝える工夫をすること。</p>
<p>オフィスアワー</p>	<p>木曜日16：00～17：00</p>
<p>評価方法</p>	<p>◆レポート30%◆発表30%◆ポートフォリオ40%</p> <p><レポート採点基準> ①表紙：タイトルが適切に記載できた（2点） 必要項目が全て指定の書式に則り記載できた（2点） ②はじめに：レポートの主旨がわかるように適切に記載できた（4点） ③内容：レポートのテーマに沿って、記載の漏れなく適切に記載できた（8点） ④考察：テーマに沿って文献を使用して適切に記載できた（8点） ⑤終わりに：学んだことのまとめや今後について記載できた（3点） ⑥文献：引用文献を正しい表記の仕方で行った（3点）</p> <p><発表評価基準> ①声の大きさ・明瞭度：聞きやすい声の大きさと明瞭度で発表できた（3点） ②内容：体験したこと・学んだことなどが適切に十分記載できた（10点）。所々不十分（5点）。不十分（1点） ③態度：開始・終了の挨拶、発表中の姿勢が適切であった（2点） ④時間：4分30秒以上5分以内（5点） 4分以上4分30秒未満（3点） 4分未満、5分超え（1点） ⑤レジュメ：見やすさ・内容共に十分（10点） 所々不十分（5点） 不十分（1点）</p> <p><ポートフォリオ評価基準> ①ポートフォリオの基本事項が守られている</p>

	<p>1) 全ての資料に日付が記載されている (5点)</p> <p>2) 日付順にファイリングしてある (5点)</p> <p>3) 全ての資料に出典が記載されている (5点)</p> <p>4) 全ての資料に考察が書かれている (10点)</p> <p>②資料</p> <p>1) 各回の全ての配布資料がファイリングされている (5点)</p> <p>2) 自ら収集した資料 (授業中にメモした資料も含む) がファイリングされている (10点)</p>
教科書	知へのステップ、学生生活HAND BOOK
参考書	授業内で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <p>■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>病院、老人保健施設、訪問リハビリの理学療法士として20年ほど勤務。現在、群馬県高崎市の障害者支援に関わっている。また、理学療法教育分野の研究に携わっている。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <p><input type="checkbox"/> PBL (課題解決型学習)</p> <p>■ディスカッション・ディベート</p> <p>■グループワーク</p> <p>■プレゼンテーション</p> <p><input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク</p> <p><input type="checkbox"/> アクティブラーニングは実施していない</p> <p>情報リテラシー教育</p> <p>■情報モラルに関する教育</p> <p>■課題解決のために必要な情報を探索するもの (図書館利用法・文献探索・データベース活用法等)</p> <p>■情報を分析評価し整理するもの (情報処理、情報整理法等)</p> <p>■情報のアウトプットに関するもの (レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等)</p> <p><input type="checkbox"/> 情報リテラシー教育は実施していない</p> <p>ICTの活用</p> <p>■ICTを活用した双方向型の授業の実施</p> <p><input type="checkbox"/> e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援</p> <p><input type="checkbox"/> その他</p> <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	1単位(30)	必修
担当教員			
新谷益巳			
基礎科目	基礎科目「総合科学」		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>【授業の目的】 本学の建学の精神・教育目的に基づき、基礎演習Ⅰで行った初年次教育のステップアップを行う。基礎演習Ⅱにおいては、礼儀・挨拶、ボランティア活動、環境美化活動に自主的に取り組み、工夫できることを目指し、人間としての基礎的教養力と自律的実践能力を確実なものとする。読書力、コミュニケーション能力、問題解決能力などを高め、専門演習への橋渡しとする。</p> <p>【到達目標】 ①ディベートを通して、傾聴、発言、論理的説明ができるようになる。 ②自分のコミュニケーションの特徴を理解することができる。 ③国際福祉機器展を通して、最新の福祉機器について学ぶとともに、グループ活用および発表を通して伝達力を養う。</p>
授業の概要	<p>基礎演習Ⅱでは、①建学の精神と実践教育、学士力育成、③進路・資格取得、④地域貢献、⑤心身の健康の5つのプログラムから構成し、建学の精神に則り、ボランティア活動、環境美化活動、挨拶等の礼儀作法等に関する人間としての基礎的教養力と自律的実践能力を学習する。また、読書力、問題解決能力、コミュニケーション能力を高め、学士力の向上を図る。</p>

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	○
(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	○
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	<p>第1回 建学の精神と実践教育プログラム 1：科目オリエンテーション 【key words】 学士力、社会人基礎力、建学の精神 【授業概要】 ・学士力、建学の精神基礎演習Ⅱの位置づけやボランティア活動Ⅱとの関連性についてレクチャーを行う。また、学士力向上に必要な知識/技能について学ぶ。 ・第1回から第15回までのシラバス内容について説明する。 ・前期は計8回、後期は計7回の実施予定。 ・SA制度について。 【教科書ページ・参考文献】 基礎演習テキスト、学生生活GUIDE。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 基礎演習Ⅰの振り返りをし・ておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分程度</p> <p>第2回 学士力育成プログラム1：ディベートについて 1 【key words】 グループ、ディスカッション、傾聴。 【授業概要】 ディベートについて ・基本的な考え方を学び、その方法や手順などを理解する。 ・ディベートを通して自分自身の意見を相手に伝える方法について学び、それを実践することの難しさを経験する。 【教科書ページ・参考文献】 ・資料を配布する。また、参考書を紹介する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・ディベートについて、講義終了後に復習を通して理解すること。 ・資料はポートフォリオにまとめ、日付およびコメントを付け加えて見やすくしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分程度</p> <p>第3回 学士力育成プログラム2：ディベートに向けた準備 2-① 【key words】 グループ、ディスカッション、傾聴。 【授業概要】</p>
------	--

第4回	<p>事前学習 ・ディベートに向けた課題を通して、事前に自身の考えをまとめ、それを裏付ける資料を収集しまとめる。 【教科書ページ・参考文献】 ・資料を配布する。また、参考書を紹介する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・自信の考え方をまとめるための資料集めを行う。 ・資料はポートフォリオにまとめ、日付およびコメントを付け加えて見やすくしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分程度</p> <p>学士力育成プログラム3：ディベートの実践 2-②</p> <p>【key words】 グループ、ディスカッション、傾聴</p> <p>【授業概要】 ディベート ・事前学習で調べたことと、自身の考えをまとめた上で、ディベートに臨む。 ・他者の発表時には傾聴する。 ・意見がある時は、否定的な意見ではなく、建設的な意見で述べる。また、論理的な説明力を身につける。 【教科書ページ・参考文献】 ・資料を配布する。また、参考書を紹介する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・自身の考えをまとめておくこと。わかりやすい資料なども用意する。 ・資料はポートフォリオにまとめ、日付およびコメントを付け加えて見やすくしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分程度</p>
第5回	<p>学士力育成プログラム4：ディベートの振り返り 2-③</p> <p>【key words】 グループ、ディスカッション、傾聴</p> <p>【授業概要】 振り返り ・ディベートを通しての反省を行う。準備から実施までで不足していた点など。次回に向けて改善策を考える。 【教科書ページ・参考文献】 ・資料を配布する。また、参考書を紹介する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・第1回目のディベートを通して自身の反省および改善点を書き出し次回に向けた対策を行うこと。 ・自信の考え方をまとめるための資料集めを行う。 【予習復習に必要な想定時間】 60分程度</p>
第6回	<p>学士力育成プログラム5：ディベートに向けた準備 3-①</p> <p>【key words】 グループ、ディスカッション、傾聴</p> <p>【授業概要】 事前学習 ・ディベートに向けた課題を通して、事前に自身の考えをまとめ、それを裏付ける資料を収集しまとめる。 【教科書ページ・参考文献】 ・資料を配布する。また、参考書を紹介する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・自身の考えをまとめておくこと。わかりやすい資料なども用意する。 ・資料はポートフォリオにまとめ、日付およびコメントを付け加えて見やすくしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分程度</p>
第7回	<p>学士力育成プログラム6：ディベートの実践 3-②</p> <p>【key words】 グループ、ディスカッション、傾聴</p> <p>【授業概要】 ディベート ・事前学習で調べたことと、自身の考えをまとめた上で、ディベートに臨む。 ・他者の発表時には傾聴する。 ・意見がある時は、否定的な意見ではなく、建設的な意見で述べる。また、論理的な説明力を身につける。 【教科書ページ・参考文献】 ・資料を配布する。また、参考書を紹介する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・自身の考えをまとめておくこと。わかりやすい資料なども用意する。 ・資料はポートフォリオにまとめ、日付およびコメントを付け加えて見やすくしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分程度</p>
第8回	<p>学士力育成プログラム7：ディベートの振り返り 3-③</p> <p>【key words】 グループ、ディスカッション、傾聴</p> <p>【授業概要】 振り返り ・ディベートを通しての反省を行う。準備から実施までで不足していた点など。 【教科書ページ・参考文献】 ・資料を配布する。また、参考書を紹介する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 振り返り ・第2回目のディベートを通して自身の反省および改善点を書き出しポートフォリオにまとめてお</p>

第9回	<p>くこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分程度 学士力育成プログラム8：①国際福祉機器展の事前学習 「福祉機器Web2020」 後期オリエンテーション</p> <p>【key words】 生活支援、環境調整、福祉機器</p> <p>【授業概要】 ・グループ学習に向けて、グループ分けをおこない、各グループが取り組む課題を決める。 ・国際福祉機器展の概要、過去の展示会の状況などを理解する。次に、各グループで分かれて、事前の調べ学習に向けた計画を立てる。国際福祉機器展に出展している企業をWebを通して事前学習する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 国際福祉機器展ホームページ https://www.hcr.or.jp/</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 各グループで担当するカテゴリについて確認し、調べたい企業の情報収集を行う。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 60分程度</p>
第10回	<p>学士力育成プログラム9：②国際福祉機器展 「福祉機器Web2020」に参加</p> <p>【key words】 生活支援、環境調整、福祉機器</p> <p>【授業概要】 「福祉機器Web2020」から、興味ある企業の福祉機器を閲覧し、開発目的から製品の特長など情報収集を行う。各グループで取り組む。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 国際福祉機器展ホームページ https://www.hcr.or.jp/</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前学習に基づいて、「福祉機器Web2020」から気になる企業を閲覧する。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 60分程度</p>
第11回	<p>学士力育成プログラム10：③国際福祉機器展 「福祉機器Web2020」パワーポイントの作成および準備</p> <p>【key words】 生活支援、環境調整、福祉機器</p> <p>【授業概要】 「福祉機器Web2020」から、興味ある企業の福祉機器を閲覧し、開発目的から製品の特長など情報収集を行う。パワーポイントの作成方法の提示。興味ある福祉機器の閲覧から、製品の特徴をまとめる。パワーポイント作成および発表の準備。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 国際福祉機器展ホームページ https://www.hcr.or.jp/</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前学習に基づいて、「福祉機器Web2020」から気になる企業を閲覧する。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 60分程度</p>
第12回	<p>学士力育成プログラム11：④国際福祉機器展 「福祉機器Web2020」発表</p> <p>【key words】 生活支援、環境調整、福祉機器</p> <p>【授業概要】 各グループでまとめたものを発表する。2会場にわかれて発表。国際福祉機器展での学外学習を通じて、「福祉機器を用いての動作・生活支援」の視点を構築する一助とする。グループ学習の成果をプレゼンテーションする。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 国際福祉機器展ホームページ https://www.hcr.or.jp/</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 グループで発表の予行練習を行い、聴講者にわかりやすいプレゼンテーションができるように取り組むこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 60分程度</p>
第13回	<p>建学の精神と実践教育プログラム1：児童虐待防止講話（事前学習）</p> <p>【key words】 児童、虐待、防止対策</p> <p>【授業概要】 我が国の児童虐待について調べ、どのような防止対策が実施されているか事前学習を行う。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：児童虐待防止について調べ、資料を印刷してくること 復習：ポートフォリオの作成</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>
第14回	<p>建学の精神と実践教育プログラム2：児童虐待防止講話（講演）</p> <p>【key words】 児童、虐待、防止対策</p> <p>【授業概要】 群馬県警の担当者より、児童虐待に対する防止対策について聴講する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習：講演内容をまとめておくこと。ポートフォリオの作成。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 30分程度</p>

	<p>第15回 建学の精神と実践教育プログラム3：児童虐待防止講話（まとめ）</p> <p>【key words】 児童，虐待，防止対策</p> <p>【授業概要】 聴講した内容を基に，事前学習内容を整理する．当事者の思いについて考える． 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 レポート課題：児童虐待防止についてまとめ，PT・OTとして働くことについての自身の考えを述べよ． 【予習復習に必要な想定時間】 30分程度</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	コミュニケーション能力は授業だけでは身に付かないため、積極的にボランティアに参加し、授業で得た知識を実践していくこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	チャトルカード方式。新型コロナウイルスの状況によっては、Googleフォームを使ったコメントカードを提出することもある。
授業外時間にかかわる情報	<p>・各回のシラバスを確認した上で予習と復習を行うこと。</p> <p>・前期においては、ディベートに関する内容が中心となるため、資料は各自で情報収集すること。そのため、予習として60分程度必要となる。</p> <p>・後期は、国際福祉機器展についての見学から発表をグループで活動することとなる。そのため、企業情報の収集、パワーポイントの作成、発表の準備を行うため60～90分程度の準備が必要となる。</p>
オフィスアワー	木曜日の午後。事前相談にて別日に行くことも可能。
評価方法	<p>前期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ディベートに関するポートフォリオ ・国際福祉機器展に関する取り組みレポート、プレゼンテーション <p>上記について総合評価で行う。 *課題など提出できない場合には、再提出を指示する。</p>
教科書	なし
参考書	学生生活HAND BOOK。また、参考書については授業内で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> ■実務経験のある教員が担当している <p>具体的な実務経験の内容 アクティブラーニングを含めた学習の進め方について、3週間に渡る長期講習を受けたものが担当している。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習) <input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） <input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 ■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 <input type="checkbox"/>その他 <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	1単位(30)	必修
担当教員			
山口智晴・村山明彦			
基礎科目			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 本学の建学の精神に基づき、基礎演習で身に付けた基礎学力や問題解決能力等を基にして、高度な専門知識と豊かな人間性及び人間愛並びに奉仕の精神を備え、自立心と礼儀を重んじた世の中で役に立つ心豊かな学生を育成する。問題解決の思考プロセスの体得を目指し、総合的な学力を養成する。</p>		
授業の概要	<p>総合演習 I では、論理的思考能力の基礎となる「質問力」「問題解決能力」「コミュニケーション力」をグループワーク等を通して身につけていく。</p>		
各学科、専攻、コースにおけるDP			
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎		
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	△		
(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	△		
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
授業計画	第1回	<p>建学の精神と実践教育プログラム①： 科目オリエンテーション／学力について 【key words】 オリエンテーション</p> <p>【授業概要】 本科目のオリエンテーションを行うとともに、本科目で学ぶべき事項を明らかにする。ポートフォリオの説明と評価基準大学生における学力について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回までに、「学力とは何か？どのような力なのか？」という問いについて自分何解答できるよう、配布資料を基に各自で調べたことをまとめておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 90分</p>	
	第2回	<p>学習統合プログラム①：なぜあなたたちは「学ぶ」のか1 【key words】 学び、学力、多様性</p> <p>【授業概要】 学士号や国家資格を取得する意義とは何だろうか。 前回提示された課題の用紙を基に、学力について理解を深め、自分が今まで学び成長したことを振り返り、今後2年間の課題を見つめなおす機会とする。 視点の多様性について(多文化・多面的視点に関する教材をみる) 【教科書ページ・参考文献】 配布資料</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 提示された課題の実施 【予習復習に必要な想定時間】 90分</p>	
	第3回	<p>学習統合プログラム②：なぜあなたたちは「学ぶ」のか2 【key words】 グループワーク</p> <p>【授業概要】 定められた課題に対して、グループで解決していくための取り組みを行う。それらの活動を通して、グループワークの難しさや課題、メリットなどについて理解する。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>	

第4回	<p>提示された課題の実施 【予習復習に必要な想定時間】 90分 学習統合プログラム③：なぜあなたたちは「学ぶ」のか3 【key words】 多様性、民主主義、自由</p> <p>【授業概要】 学士号や国家資格を取得する意義とは何だろうか。また、昨今、様々な社会的な課題が取り沙汰されているが、あなたたちはそうした課題の解決にどのように寄与できるだろうか。いくつかのトピックを通して、それらについて考えることで、様々な価値観や事象の捉え方について知見を広げていく。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 配布資料</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第5回	<p>提示された課題の実施 【予習復習に必要な想定時間】 90分 学習統合プログラム④：問題解決型学習1-1 【key words】 課題解決型学習</p> <p>【授業概要】 提示されたテーマに対し、各自で事前に調べ学習を進めるとともに課題についてグループで討議する</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 配布資料</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第6回	<p>提示された課題の実施 【予習復習に必要な想定時間】 120分 学習統合プログラム⑤：問題解決型学習1-2 【key words】 課題解決、グループワーク</p> <p>【授業概要】 グループで討議した結果を全体発表で共有し、テーマに関する理解を深める</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 配布資料</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第7回	<p>提示された課題の実施 【予習復習に必要な想定時間】 180分 学習統合プログラム⑥：問題解決型学習2-1 【key words】 課題解決、グループワーク</p> <p>【授業概要】 提示されたテーマに対し、各自で事前に調べ学習を進めるとともに課題についてグループで討議する</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 配布資料</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第8回	<p>提示された課題の実施 【予習復習に必要な想定時間】 90分 学習統合プログラム⑦：問題解決型学習2-2 【key words】 課題解決、グループワーク</p> <p>【授業概要】 グループで討議した結果を全体発表で共有し、テーマに関する理解を深める</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 配布資料</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第9回	<p>提示された課題の実施 【予習復習に必要な想定時間】 90分 学習統合プログラム⑧：問題解決型学習3-1 【key words】 課題解決、グループワーク</p> <p>【授業概要】 提示されたテーマに対し、各自で事前に調べ学習を進めるとともに課題についてグループで討議する</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 配布資料</p>

第10回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 提示された課題の実施 【予習復習に必要な想定時間】 90分 学習統合プログラム⑨：問題解決型学習3-2 【key words】 課題解決、グループワーク</p>
第11回	<p>【授業概要】 グループで討議した結果を全体発表で共有し、テーマに関する理解を深める 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 提示された課題の実施 【予習復習に必要な想定時間】 90分 学習統合プログラム⑩：問題解決型学習4-1 【key words】 課題解決、グループワーク</p>
第12回	<p>【授業概要】 提示されたテーマに対し、各自で事前に調べ学習を進めるとともに課題についてグループで討議する 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 提示された課題の実施 【予習復習に必要な想定時間】 90分 学習統合プログラム⑪：問題解決型学習4-2 【key words】 課題解決、グループワーク</p>
第13回	<p>【授業概要】 グループで討議した結果を全体発表で共有し、テーマに関する理解を深める 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 提示された課題の実施 【予習復習に必要な想定時間】 90分 学習統合プログラム⑫：問題解決型学習5-1 【key words】 課題解決、グループワーク</p>
第14回	<p>【授業概要】 提示されたテーマに対し、各自で事前に調べ学習を進めるとともに課題についてグループで討議する 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 提示された課題の実施 【予習復習に必要な想定時間】 90分 学習統合プログラム⑬：問題解決型学習5-2 【key words】 課題解決、グループワーク</p>
第15回	<p>【授業概要】 グループで討議した結果を全体発表で共有し、テーマに関する理解を深める 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 提示された課題の実施 【予習復習に必要な想定時間】 180分 建学の精神と実践教育プログラム②：まとめ 【key words】 建学の精神、課題解決、グループワーク</p>
	<p>【授業概要】 これまでの授業の振り返り 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 提示された課題の実施 【予習復習に必要な想定時間】 90分</p>

受講生に関わる情報 および受講のルール	<p>[受講生に関わる情報]</p> <p>①グループワークが多いので休まないこと。 ②授業で使用するスライド等の資料は、全て電子媒体にて事前に配布する。授業当日までにプリントアウトもしくは、電子媒体を閲覧できる環境（PC・タブレット・スマートフォンなど）を整えておくこと。</p> <p>[受講のルール]</p> <p>①授業概要を確認し積極的に臨むこと。 ②受講態度や身だしなみ等が整っていない場合受講を認めない。 ③グループワークやディスカッションを通じて、双方向型の授業を展開する予定である。受講中はビデオをオンにしても安定する接続環境を整えておくこと。講師がスライドショー等でプレゼンテーションしている時はビデオ・オフでもよいが、それ以外のグループワークやディスカッション時はビデオ・オンで参加することを条件とする。ただし、機器の不調等がある場合は、事前に連絡をすること。</p>
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	スレッド（Webポータル） 初回オリエンテーション時に詳述するが、社会人としてのマナーを踏まえた報告・連絡・相談をすること。
授業外時間にかかわ る情報	論理的思考能力を身につけるには、日々の生活を疑問を持って送ることが重要となる。授業で学んだことを生活の中で実践することが大切である。
オフィスアワー	山口・村山 火曜日16時30分～17時30分（その他の曜日については要予約）
評価方法	授業内課題100%
教科書	授業内で適宜紹介する。
参考書	授業内で適宜紹介する。
実務者経験/アク ティブラーニング/ リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <p>■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>山口 急性期及び回復期病棟での作業療法士としての臨床経験の他に、群馬県内各市町村での介護予防事業の実践をしてきた。現在は前橋市認知症初期集中支援チームの運営や自立支援型ケアマネジメント推進事業群馬県アドバイザー、高次脳機能障害家族会の副理事長、群馬県作業療法士会副会長なども務めている。（詳細は以下を参照） https://researchmap.jp/t-yamaguchi</p> <p>村山 介護保険領域で常勤として11年間、非常勤として5年間の実務経験を有する。特に、地域（施設・在宅）でのリハビリテーションを数多く実践してきた。また、群馬県下において複数の市町村の介護予防事業にも携わっている。専門理学療法士（基礎理学療法・生活環境支援理学療法）、介護支援専門員、サルコペニア・フレイル指導士などの資格を有する。転倒予防指導士基礎講習会（2018年～）、群馬県フレイル予防サポーター養成（2019年～）の講師なども務める。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <p>■PBL（課題解決型学習） ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない</p> <p>情報リテラシー教育</p> <p>□情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない</p> <p>ICTの活用</p> <p>■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学习支援 □その他</p> <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4年次	1単位(30)	必修
担当教員			
浅野貞美			
基礎科目			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>【授業の目的】 本学の建学の精神・教育目的に基づき、人間としての総合的な力と問題解決能力を育成する。礼儀を重んじるとともに、ボランティア、環境美化活動、実習を通して身につけた実践力をさらに高め、「仁愛」の精神をもつ自立した社会人となるためのスキルアップを図る。</p> <p>【到達目標】 ①自己を客観的に分析し、他者に対しわかりやすく説明できる。 ②社会人としてのマナーを身につける。</p>
授業の概要	総合演習Ⅱでは、就職や資格取得における基本的な知識やを学ぶ。そして大学4年間で振り返り、自分自身を客観的に捉え直す機会とする。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	
第1回	建学の精神と実践教育プログラム①：科目オリエンテーション／建学の精神について 【key words】 科目オリエンテーション、建学の精神 【授業概要】 授業の流れと建学の精神について説明を行う。 課題であるポートフォリオの目標設定と概要説明を行う。 【教科書ページ・参考文献】 指定なし 【課題・予習・復習・授業準備指示】 建学の精神について振り返りをしておく。 【予習復習に必要な想定時間】 復習180分
第2回	進路・資格取得プログラム①：就職活動の流れ 【key words】 就職活動 【授業概要】 就職活動の一連の流れ・スケジュールを進路の手引きを使い説明する。 【教科書ページ・参考文献】 P77-81 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分
第3回	進路・資格取得プログラム②：就職活動におけるマナー講座① 【key words】 就職活動、マナー 【授業概要】 就職活動に必要なとなる社会人としてのマナーを学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 P27-36 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分
第4回	進路・資格取得プログラム③：就職活動におけるマナー講座② 【key words】 就職活動、マナー 【授業概要】 就職活動に必要なとなる社会人としてのマナーを学ぶ。

第5回	<p>【教科書ページ・参考文献】 P27-36 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分 進路・資格取得プログラム④：働くときの基礎知識</p> <p>【key words】 就職活動、求人票 【授業概要】 求人票に書かれている情報は何を意味しているのかを読み解き、実際の求人票を見定める。 気になる就職希望先の求人票をピックアップし、その内容について調べる。 【教科書ページ・参考文献】 予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 P16-17 【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分</p>
第6回	<p>進路・資格取得プログラム⑤：情報収集①</p> <p>【key words】 就職活動、情報収集 【授業概要】 興味・関心のある就職希望先を調べ、求人票などの情報収集を行う。 【教科書ページ・参考文献】 指定なし 【課題・予習・復習・授業準備指示】 就職活動に関する情報収集を行う。 【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分</p>
第7回	<p>進路・資格取得プログラム⑥：情報収集②</p> <p>【key words】 就職活動、情報収集 【授業概要】 興味・関心のある就職希望先を調べ、求人票などの情報収集を行う。 【教科書ページ・参考文献】 指定なし 【課題・予習・復習・授業準備指示】 就職活動に関する情報収集を行う。 【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分</p>
第8回	<p>進路・資格取得プログラム⑦：自己分析①</p> <p>【key words】 就職活動、自己分析 【授業概要】 就職の手引きワークシートを使い、現在の自分について、自己分析、質問シートを使い、自己分析を行う。 【教科書ページ・参考文献】 P85-88 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分</p>
第9回	<p>進路・資格取得プログラム⑧：自己分析②</p> <p>【key words】 就職活動、自己分析 【授業概要】 就職の手引きワークシートを使い、現在の自分について、自己分析、質問シートを使い、自己分析を行う。 【教科書ページ・参考文献】 P85-88 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分</p>
第10回	<p>進路・資格取得プログラム⑨：履歴書①</p> <p>【key words】 就職活動、履歴書 【授業概要】 就職の手引きに従い、履歴書の書き方を学ぶ。実際に自分の履歴書を作成する。 【教科書ページ・参考文献】 P18-19 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分</p>
第11回	<p>進路・資格取得プログラム⑩：履歴書②</p> <p>【key words】 就職活動、履歴書 【授業概要】 就職の手引きに従い、履歴書の書き方を学ぶ。実際に自分の履歴書を作成する。 【教科書ページ・参考文献】 P18-19</p>

	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分 進路・資格取得プログラム⑪：面接①</p> <p>【key words】 就職活動、面接 【授業概要】 面接時の態度、表情、言葉遣いなどについて学ぶ。また、実際の面接での質問事項について、自分なりの回答を考える。 【教科書ページ・参考文献】 P27-36</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分 進路・資格取得プログラム⑫：面接②</p> <p>【key words】 就職活動、面接 【授業概要】 面接時の態度、表情、言葉遣いなどについて学ぶ。また、実際の面接での質問事項について、自分なりの回答を考える。 【教科書ページ・参考文献】 P27-36</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習として、指定された教科書の範囲について確認をしておくこと。授業後は復習を行うこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分 進路・資格取得プログラム⑬：卒業生からのメッセージ（国家試験編）</p> <p>【key words】 就職活動、卒業生講話 【授業概要】 卒業生を招き、国家試験に向けての心構えや国試対策における学習方法について講話してもらう。 【教科書ページ・参考文献】 指定なし</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 卒業生講話を踏まえて、就職活動と国家試験の準備を進める。 【予習復習に必要な想定時間】 復習180分 進路・資格取得プログラム⑭：まとめ</p> <p>【key words】 就職活動、まとめ 【授業概要】 これまでの振り返りとポートフォリオを用いた自己評価を行う。 【教科書ページ・参考文献】 指定なし</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 全15回の授業の振り返りを行い、ポートフォリオを作成する。 【予習復習に必要な想定時間】 ポートフォリオ作成180分</p>
<p>受講生に関わる情報 および受講のルール</p>	<p>【受講生に関わる情報】 教室指定をするので確認しておくこと。 ポートフォリオを作成するため、各自でA4クリアファイルを用意しておくこと。 ホワイトボード、ホワイトボード用のペン、イレーザーを用意すること。 【受講のルール】 出席を前提とする。 自らの手で調べ、自らの頭で考えたことを他者に分かりやすく伝えること、他者の意見を受け入れること。 関連する資料はすべてポートフォリオに収めること。</p>
<p>毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法</p>	<p>チャトルカード</p>
<p>授業外時間にかかわ る情報</p>	<p>講義内で学んだことを踏まえて、就職活動を進めること。 資格取得に向けて、計画的に国家試験対策をすること。</p>
<p>オフィスアワー</p>	<p>木曜日16時～17時30分は随時 その他の曜日においては要予約</p>
<p>評価方法</p>	<p><input type="checkbox"/>ポートフォリオ 100%</p>
<p>教科書</p>	<p>進路の手引き</p>
<p>参考書</p>	<p>授業内で適宜紹介</p>
<p>実務者経験/アク ティブラーニング/ リテラシー教育</p>	<p>授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 総合病院、一般病院にて、理学療法士として臨床業務に携わった経験を有する。 その中でリハビリテーション科科长として、人事に携わり、求人活動を行っていた経験が、科目内で活かされている。</p>

	<p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> PBL(課題解決型学習) <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> アクティブラーニングは実施していない <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 情報モラルに関する教育 <input type="checkbox"/> 課題解決のために必要な情報を探索するもの(図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) <input checked="" type="checkbox"/> 情報を分析評価し整理するもの(情報処理、情報整理法等) <input type="checkbox"/> 情報のアウトプットに関するもの(レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) <input type="checkbox"/> 情報リテラシー教育は実施していない <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input type="checkbox"/> e-ラーニングなどICTを活用した自主学习支援 <input type="checkbox"/> その他 <p>その他の具体的内容</p>
--	--

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	1単位(30)	必修
担当教員			
榊原清・高坂駿			
基礎科目			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 ボランティア実践や模擬場面での練習を通し、医療従事者としての基本的態度を身につける。</p> <p>〔到達目標〕</p> <p>①社会人・職業人としての基本的マナーを身に付け、実践することができる。 ②自身のコミュニケーション能力について客観的に評価し、分析することができる。 ③計画、準備、実行、評価、振り返り・改善を含めた一連のボランティア実践ができる。 ④グループメンバーとの建設的な交流、意見交換を通じ、課題解決の手立てを提案することができる。</p>
授業の概要	医療従事者を目指す者として、専門的な医学知識や技術の習得だけでなく、汎用的技能や態度・志向性を身につける必要がある。アクティブ・ラーニングを通じてこれらについて学び、医療従事者としての基本的態度を身につける。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	○
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	◎
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	◎

授業計画	第1回	<p>科目オリエンテーション/ボランティア実践に向けて①</p> <p>【key words】 ボランティア、目標、学士力、ポートフォリオ</p> <p>【授業概要】 ポートフォリオ、学士力、ボランティア・本科目の位置づけと講義内容等について、今年度の目標設定やポートフォリオの作成方法などについて説明する。 【教科書ページ・参考文献】 シラバス、配布資料(穴埋め方式) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 シラバスに目を通し、講義のイメージを持つこと。ワークシートについて授業時間内に終わらなかった者は、授業時間外にまとめ終えること。授業内で行ったワークシートは順々にポートフォリオに綴じておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分程度</p>
	第2回	<p>ボランティア実践に向けて②</p> <p>【key words】 ビジネスマナー、個人情報保護</p> <p>【授業概要】 ビジネスマナーにおける、敬語、葉書・メール対応、個人情報保護について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 シラバス、配布資料(穴埋め方式) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ペア学習で実際にメール送信を体験するため、インターネットが使用できる通信機器(PC、スマホ、タブレット)を持参すること。授業内で行ったワークシートは順々にポートフォリオに綴じておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分程度</p>
	第3回	<p>ボランティア実践に向けて③</p> <p>【key words】 対人関係技能、他人認知、自己認知、アサーティブコミュニケーション</p> <p>【授業概要】 他者認知、自己認知、アサーティブコミュニケーションについて学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 シラバス、配布資料(穴埋め方式) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ワークシートについて授業時間内に終わらなかった者は、授業時間外にまとめ終えること。授</p>

第4回	<p>業内で行ったワークシートは順々にポートフォリオに綴じておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分程度 グループボランティア活動（企画） 【key words】 ボランティア実践、情報収集、ディスカッション、企画</p> <p>【授業概要】 社会情勢等を踏まえ、社会に必要なボランティア活動について考える。調べる。 【教科書ページ・参考文献】 各省庁データ、新聞記事、原著論文等 【課題・予習・復習・授業準備指示】 グループワークの進捗に応じ、次回の講義までに準備が必要な作業を進める。調べた資料やデータは順々にポートフォリオに綴じておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分程度</p>
第5回	<p>グループボランティア活動（企画） 【key words】 ボランティア実践、情報収集、ディスカッション、企画</p> <p>【授業概要】 社会情勢等を踏まえ、社会に必要なボランティア活動について考える。調べる。企画書を作成する。 【教科書ページ・参考文献】 各省庁データ、新聞記事、原著論文等 【課題・予習・復習・授業準備指示】 グループワークの進捗に応じ、次回の講義までに準備が必要な作業を進める。調べた資料やデータは順々にポートフォリオに綴じておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分程度</p>
第6回	<p>グループボランティア活動（企画） 【key words】 ボランティア実践、情報収集、ディスカッション、企画</p> <p>【授業概要】 社会情勢等を踏まえ、社会に必要なボランティア活動について考える。企画書を作成する。具体的なボランティア活動内容を練り上げる。 【教科書ページ・参考文献】 各省庁データ、新聞記事、原著論文等 【課題・予習・復習・授業準備指示】 グループワークの進捗に応じ、次回の講義までに準備が必要な作業を進める。調べた資料やデータは順々にポートフォリオに綴じておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分程度</p>
第7回	<p>グループボランティア活動（企画） 【key words】 ボランティア実践、情報収集、ディスカッション、企画</p> <p>【授業概要】 社会情勢等を踏まえ、社会に必要なボランティア活動について考える。企画書を仕上げる。 【教科書ページ・参考文献】 各省庁データ、新聞記事、原著論文等 【課題・予習・復習・授業準備指示】 グループワークの進捗に応じ、次回の講義までに準備が必要な作業を進める。調べた資料やデータは順々にポートフォリオに綴じておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分程度</p>
第8回	<p>グループボランティア（実践準備） 【key words】 ボランティア実践、ディスカッション、実践準備</p> <p>【授業概要】 グループごとにボランティア実践に必要な準備を進める。 【教科書ページ・参考文献】 なし 【課題・予習・復習・授業準備指示】 グループワークの進捗に応じ、ボランティア実践や次回の講義までに準備が必要な作業を進める。調べた資料やデータは順々にポートフォリオに綴じておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分程度</p>
第9回	<p>後期授業の進め方／中間振り返り 【key words】 ボランティア実践、振り返り、アセスメント</p> <p>【授業概要】 後期授業の進め方について概説するとともに、これまでの自身の成長について振り返る。 【教科書ページ・参考文献】 なし 【課題・予習・復習・授業準備指示】 成長記録について、授業時間内に終えられなかった者は作成し指定の方法で提出する。 【予習復習に必要な想定時間】 30分程度</p>
第10回	<p>グループボランティア活動（分析）</p>

	<p>【key words】 ボランティア実践、分析</p> <p>【授業概要】 これまで取り組んできたボランティア活動の意義と効果について分析する。 【教科書ページ・参考文献】 発表2～3日前までに資料を完成し、Webポータルシステムにアップロードする。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 遅れのあるグループは、資料作成の進捗度に応じ、分析の作業を進める。調べた資料やデータは順々にポートフォリオに綴じておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分程度</p> <p>第11回 グループボランティア活動（分析・資料作成）</p> <p>【key words】 ボランティア実践、分析、資料作成</p> <p>【授業概要】 これまで取り組んできたボランティア活動の意義と効果について分析し、まとめる。 【教科書ページ・参考文献】 各省庁データ、新聞記事、原著論文等 【課題・予習・復習・授業準備指示】 遅れのあるグループは、資料作成の進捗度に応じ、分析・資料作成の作業を進める。調べた資料やデータは順々にポートフォリオに綴じておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分程度</p> <p>第12回 グループボランティア活動（資料作成）</p> <p>【key words】 ボランティア実践、分析、資料作成</p> <p>【授業概要】 年間を通して携わってきたボランティア活動の内容や実績、課題についてパワーポイント等にまとめる。 【教科書ページ・参考文献】 各省庁データ、新聞記事、原著論文等 【課題・予習・復習・授業準備指示】 発表2～3日前までに資料を完成し、Webポータルシステムにアップロードする。 【予習復習に必要な想定時間】 30分程度</p> <p>第13回 グループボランティア活動（発表）</p> <p>【key words】 ボランティア実践、発表、聴講</p> <p>【授業概要】 年間を通して携わってきたボランティア活動の内容や実績、課題についてパワーポイント等を使用しグループごとに発表する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 なし 【課題・予習・復習・授業準備指示】 発表2～3日前までに資料を完成し、Webポータルシステムにアップロードする。 【予習復習に必要な想定時間】 30分程度</p> <p>第14回 グループボランティア報告会（発表）</p> <p>【key words】 ボランティア実践、発表、聴講</p> <p>【授業概要】 年間を通して携わってきたボランティア活動の内容や実績、課題についてパワーポイント等を使用しグループごとに発表する。 【教科書ページ・参考文献】 なし 【課題・予習・復習・授業準備指示】 発表2～3日前までに資料を完成し、Webポータルシステムにアップロードする。 【予習復習に必要な想定時間】 30分程度</p> <p>第15回 学んだことの振り返り</p> <p>【key words】 目標、ボランティア実践、振り返り、アセスメント</p> <p>【授業概要】 第1回～14回までに学んだ内容をもとに、1年間のボランティア活動状況、目標達成度の評価、今後の計画について他者と話し合いながら、振り返りを行う。 【教科書ページ・参考文献】 シラバス、ボランティア活動記録簿、ポートフォリオ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ポートフォリオを提出できるように、整理しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分程度</p>
受講生に関わる情報 および受講のルール	<p>〔受講生に係る情報〕 A4クリアブック(40ポケット)を用意すること。 〔受講のルール〕 本科目は、ボランティアを通じた自己の成長についてまとめていくため、積極的なボランティア活動</p>

	<p>の実践が前提となる。 ふざけた態度や礼を欠く態度を取る者は受講を拒否することがある。 授業に関係ないものの持ち込みを禁止。特別な指示がない限り、携帯電話やスマートフォンは机に出さない。</p>
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	初回オリエンテーション時に詳細を伝えます。
オフィスアワー	各専攻担任より指示
評価方法	<p>以下の基準に則り、「可」または「不可」で成績判定をします。</p> <p><ポートフォリオ 30%></p> <p>①提出期限を守ることができた (5点)</p> <p>②学んだ資料が含まれている (目標シート等、配布資料、ワークシート、実践の記録、発表資料) (10点)</p> <p>③日付・感想・考察がすべての保存資料に記載されている。 (10点)</p> <p>④得た日付に沿って、資料が整理できている (5点)</p> <p><各種目標・振り返りシート (30%)></p> <p>①目標書き出しシート・目標シート：自己像をもとにそれぞれの目標が明確に記載されている (10点)</p> <p>②中間振り返り票：夏休みを含めた前期のボランティア活動での自己の成長・反省・改善策を具体的にあげられている (10点)</p> <p>③成長報告書：1年を振り返り、自己の成長・反省・改善策を具体的にあげられている (10点)</p> <p><授業内課題 (40%)></p> <p>①企画書 (15点)</p> <p>②グループメンバーによる他者評価 (5点)</p> <p>③グループ学習に対する自己評価 (5点)</p> <p>④発表 (15点)</p>
教科書	特になし。適宜紹介する。
参考書	<p>鈴木敏恵 著：ポートフォリオ評価とコーチング手法—臨床研修・臨床実習の成功戦略!、医学書院、2006</p> <p>尾形圭子：イラッとされないビジネスマナー社会常識の正解、サンクチュアリ出版、2010</p>
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> ■実務経験のある教員が担当している <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>施設や病院での臨床経験のある教員が担当する。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの (図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) ■情報を分析評価し整理するもの (情報処理、情報整理法等) ■情報のアウトプットに関するもの (レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 <p>その他の具体的内容</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位(30)	必修
担当教員			
漆畑典子			
基礎科目	理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>【授業の目的】 将来医療者となる自分自身のコミュニケーション力を向上させ、心と心の通い合いによって生まれる暖かい人間理解を医療現場で実践できる人になることが本講義の目的である。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己理解を深め、自己肯定感を高めるための取り組みを自ら実践できる。 対人関係を円滑にするコミュニケーションについて具体的に理解し、コミュニケーションスキルを習得し向上させる具体的な方法について説明、実践できる。 感情に関する基本を理解し、自分の感情をコントロールする取り組みができる。 自分も相手も大切にしたい伝え方(アイメッセージ)や自己主張(アサーティブネス)の基本を理解し、方法について説明できる。
授業の概要	本講義では、自分自身を理解することに取り組み、他者とコミュニケーションを取るために必要なコミュニケーションスキルを実践的に学んでいく。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	
(理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	
(作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	◎
(作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	
(作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	<p>第1回</p> <p>ガイダンス</p> <p>【key words】 メタ認知</p> <p>【授業概要】 授業概要、シラバス(内容・評価法など)、授業方式と注意点などを理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書 pⅢ～XⅥ、p2～20 配布資料</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：シラバスを読み、授業概要を把握する。配布資料、教科書 pⅢ～pXⅥ、p2～20を読む。教科書、筆記用具、A4程度の白い紙(罫線がはいっていないもの)持っていればカラーペンや色鉛筆など。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 180分</p> <p>第2回</p> <p>自己理解 I</p> <p>【key words】 自己概念、自己肯定感</p> <p>【授業概要】 ワークシートやグループワークなどを通して自己理解に取り組む。</p>
------	--

第3回	<p>【教科書ページ・参考文献】 教科書 p21～25 配布資料</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習・復習：教科書 p 21～25を読む。 教科書、筆記用具。 【予習復習に必要な想定時間】 180分</p> <p>自己理解Ⅱ</p> <p>【key words】 エゴグラム</p>
第4回	<p>【授業概要】 ワークシートやグループワークなどを通して自己理解に取り組む。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書 p26～33 配布資料</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習・復習：教科書 p 26～33 を読む。 教科書、筆記用具。 【予習復習に必要な想定時間】 180分</p> <p>態度とコミュニケーション</p> <p>【key words】 人生態度、ポーターの態度類型、言語コミュニケーション、非言語コミュニケーション</p> <p>【授業概要】 態度とコミュニケーションに関する基本的知識を理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 配布資料 教科書 p 34～45</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習・復習：教科書 p 34～45を読む。 教科書、筆記用具。 【予習復習に必要な想定時間】 180分</p>
第5回	<p>コミュニケーション力を育もうⅠみる力</p> <p>【key words】 KYT（危険予知トレーニング）</p> <p>【授業概要】 観察することと観察した内容を活用することの重要性を学ぶ。 小グループでKYTを体験し、危険に対する感受性を高める方法を理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書 p 46～50 配布資料</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習・復習：教科書 p 41～50 を読む。 教科書、筆記用具。 【予習復習に必要な想定時間】 180分</p>
第6回	<p>コミュニケーション力を育もうⅡきく力Ⅰ</p> <p>【key words】 聞く、聴く、訊く、</p> <p>【授業概要】 聴くことの重要性について、ペアワークやグループワークも交えて体験的に理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書 p 50～60, p 165～170 配布資料</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習・復習：教科書 p 50～60, p 165～170 を読む。 教科書、筆記用具。 【予習復習に必要な想定時間】 180分</p>
第7回	<p>コミュニケーション力を育もうⅡきく力Ⅱ</p> <p>【key words】 傾聴</p> <p>【授業概要】 傾聴の基本的知識を理解し、ペアワークやグループワークを通して傾聴の方法について学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書 p 147～155 配布資料</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習・復習：教科書 p 147～155を読む。 教科書、筆記用具。 【予習復習に必要な想定時間】 180分</p>
第8回	<p>コミュニケーション力を育もうⅢ 伝える力Ⅰ</p> <p>【key words】 アイメッセージ</p> <p>【授業概要】 ワークシートやグル自分も相手も大切にした伝え方「アイメッセージ」や感情に関する基本を理解し、セルフワークやペアワークをを交えて伝わる伝え方について理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p>

	<p>教科書 p 60～65 配布資料</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習：教科書、配布資料を読む 教科書、筆記用具。 【予習復習に必要な想定時間】 180分</p>
第9回	<p>コミュニケーション力を育もうⅢ 伝える力2</p> <p>【key words】 アサーティブネス、アサーティブ、ノン・アサーティブ、アグレッシブ</p> <p>【授業概要】 自分も相手も大切にしたい自己主張「アサーティブネス」の基本を理解し、ワークシート、ペアワークを通して方法について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書 p 65～68 配布資料</p>
第10回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習・復習：教科書 p 65～68を読む。 教科書、筆記用具。 【予習復習に必要な想定時間】 180分 教科書、筆記用具持参。</p> <p>コミュニケーション力を育もうⅢ 伝える力3</p> <p>【key words】 DESC法</p> <p>【授業概要】 ワークシート、グループワークを通して、アサーショントレーニングのひとつであるDESC法を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料</p>
第11回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習・復習：配布資料を読む。 教科書、筆記用具。 【予習復習に必要な想定時間】 180分</p> <p>自己管理Ⅰ 時間管理・健康管理</p> <p>【key words】 時間管理</p> <p>【授業概要】 ワークシートやグループディスカッションを通して医療者として自律した自分になるための方法を理解し実践を始めるきっかけにする。 【教科書ページ・参考文献】 教科書 p 69～78 配布資料</p>
第12回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習・復習：教科書 p 69～78を読む。 教科書、筆記用具。 【予習復習に必要な想定時間】 180分</p> <p>自己管理Ⅱ 感情管理1</p> <p>【key words】 感情管理、リフレーミング</p> <p>【授業概要】 感情管理の必要性と方法について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書 p 78～82、p 179～183 配布資料</p>
第13回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習・復習：教科書 p 78～82、p 179～183を読む。 教科書、筆記用具。 【予習復習に必要な想定時間】 180分</p> <p>自己管理Ⅱ 感情管理2</p> <p>【key words】 認知行動療法</p> <p>【授業概要】 認知行動療法を応用した感情管理の方法を学び、ワークシートを用いて理解する。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料</p>
第14回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習・復習：配布資料を読む。 教科書、筆記用具。 【予習復習に必要な想定時間】 180分</p> <p>キャリア</p>

	<p>【key words】 キャリア、キャリア発達、キャリアプラン、社会人基礎力</p> <p>【授業概要】 キャリアに関する基礎的知識を学び、ワークシート、グループディスカッションを通して自身のキャリアプラン、身につけるべき社会人基礎力について考える。 【教科書ページ・参考文献】 教科書 p 92～101 配布資料</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習・復習：教科書 p 92～101を読む。 教科書、筆記用具。 【予習復習に必要な想定時間】 180分</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】 ふりかえり、全体を通じた感想（学んだこと、身についたことなど）をグループでシェアする。 レポート課題の説明。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書、配布資料に目を通す。 教科書、筆記用具。 【予習復習に必要な想定時間】 180分</p>
<p>受講生に関わる情報 および受講のルール</p>	<p>・本講義ではセルフワーク・ペアワーク・グループワークを実施する予定となっておりますが、新型コロナウイルス関連の状況によっては、Zoomのブレイクアウトセッション機能を用いたペアワーク、グループワークを実施する場合があります。</p> <p>・時間管理・健康管理に対して高い意識を持ち、“責任ある行動ができる医療者”になるために自分を育ててください。</p> <p>・本講義では心の問題について触れることがあります。ワークへの取り組みが難しい状況にある人は、遠慮、無理、我慢をせずに申し出てください。</p>
<p>毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状況の 確認方法</p>	<p>コメントカード・Googleフォーム・授業掲示板</p>
<p>授業外時間にかかわる 情報</p>	<p>教科書該当ページを、予習として各自読んでおく。授業時に配布した資料と教科書を用いて復習する。</p>
<p>オフィスアワー</p>	<p>水曜日1時限目を予定している。</p>
<p>評価方法</p>	<p>授業内での積極的・意欲的取り組み20%、ワークシート、ふりかえりシート、コメントカードの提出とその内容60%、レポートの提出とその内容20%</p>
<p>教科書</p>	<p>山口 美和 PT・OTのための これで安心コミュニケーション実践ガイド(第2版) 医学書院 2016</p>
<p>参考書</p>	<p>講義の際に適宜指定する。</p>
<p>実務者経験/アクティブラーニング/ リテラシー教育</p>	<p>授業担当教員</p> <p>■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容 教育相談、労働相談、職業相談などの相談員として、対人援助や心理的支援を、職場内外との協働と連携をしながら行った。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <p><input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習)</p> <p>■ディスカッション・ディベート</p> <p>■グループワーク</p> <p><input type="checkbox"/>プレゼンテーション</p> <p><input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク</p> <p><input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</p> <p>情報リテラシー教育</p> <p><input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育</p> <p><input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）</p> <p><input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）</p> <p><input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）</p> <p>■情報リテラシー教育は実施していない</p> <p>ICTの活用</p> <p>■ICTを活用した双方向型の授業の実施</p> <p><input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援</p> <p><input type="checkbox"/>その他</p> <p>その他の具体的内容</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位(30)	必修
担当教員			
柴ひとみ・野口直人			
人体の構造と機能及び心身の発達	理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] 身体の構造を理解しながら、体や各関節の動きを説明できることを目的とする。また、各関節運動に作用する筋について、自身の体に置き換えて説明できることを目的とする。</p> <p>[到達目標] ①身体各部・各関節の名称及び運動の名称・運動面・運動軸を答えることができる。 ②運動時の筋収縮様態を説明することができる。 ③生体力学の知識を用いて、人の動作・活動を理解できる。 ④各関節の形状分類を理解し、関節運動を述べることができる。 ⑤各関節運動の主動作筋を列挙することができる。</p>
授業の概要	<p>ひとの動作や活動を評価・分析するために必要な身体の構造・機能を力学的な視点で学ぶ。 授業を通して理学療法士・作業療法士が対象とする機能障害を把握するために必要な各関節の動作や筋肉の働きをについて理解を深める。</p>

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	◎
(理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	◎
(理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	
(作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	◎
(作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	◎
(作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション/運動学総論・筋の構造・運動力学【野口】</p> <p>【key words】 骨格筋、運動の面と軸、ベクトル</p> <p>【授業概要】 ・運動学の学問的特徴について理解を深め、骨格筋を含めた筋の種類や構造の理解、筋収縮のメカニズム、生体力学の概念(ベクトル・モーメント)について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：p1～36 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・物理学を高校に履修していない・自信のないものは下記教科書を用いて復習しておくこと 望月久、棚橋信雄、他、PT・OTゼロからの物理学、羊土社 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p> <p>第2回 筋の構造・運動力学【野口】</p> <p>【key words】 ベクトル、モーメント</p> <p>【授業概要】 ・生体力学の概念(ベクトル・モーメント)について理解する。 ・運動力学の視点で関節運動の際に力の働きについて理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：p1～36 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
------	---

<p>第3回</p>	<p>・物理学を高校に履修していない・自信のないものは下記教科書を用いて復習しておくこと 望月久、棚橋信雄、他、PT・OTゼロからの物理学、羊土社 【予習復習に必要な想定時間】 60分 筋の構造・運動力学【野口】 【key words】 ベクトル、モーメント、てこの種類、筋収縮 【授業概要】 ・運動力学の視点で関節運動の際に力の働きを説明する。 ・身体内で働く3種類のとこについて説明する。 ・骨格筋の筋収縮の違いについて理解する。 ・骨格筋を理解する上で必要な用語（起始・停止・作用）を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：p1～36 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・物理学を高校に履修していない・自信のないものは下記教科書を用いて復習しておくこと 望月久、棚橋信雄、他、PT・OTゼロからの物理学、羊土社 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>
<p>第4回</p>	<p>肩関節の構造と運動①/小テスト【野口】 【key words】 上肢帯・肩甲骨・鎖骨・上腕骨・関節・靭帯・筋肉 【授業概要】 ・上肢帯・肩関節の骨・関節・靭帯の構造を理解し、役割と運動について学ぶ。 ・上肢帯・肩甲骨に付着する各種の筋の特徴（構造・起始・停止・作用・神経支配）について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：p98～118 参考書：p16～59、108～133、154～222 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・解剖学で学習した骨の用語（特に肩甲骨・上腕骨など）については復習しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>
<p>第5回</p>	<p>肩関節の構造と運動②【野口】 【key words】 上肢帯・肩甲骨・鎖骨・上腕骨・関節・靭帯・筋肉 【授業概要】 ・上肢帯・肩関節の骨・関節・靭帯の構造を理解し、役割と運動について学ぶ。 ・上肢帯・肩甲骨に付着する各種の筋の特徴（構造・起始・停止・作用・神経支配）について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：p98～118 参考書：p16～59、108～133、154～222 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・解剖学で学習した骨の用語（特に肩甲骨・上腕骨など）については復習しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>
<p>第6回</p>	<p>肩関節の構造と運動③【野口】 【key words】 上肢帯・肩甲骨・鎖骨・上腕骨・関節・靭帯・筋肉 【授業概要】 ・上肢帯・肩関節の骨・関節・靭帯の構造を理解し、役割と運動について学ぶ。 ・上肢帯・肩甲骨に付着する各種の筋の特徴（構造・起始・停止・作用・神経支配）について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：p98～118 参考書：p16～59、108～133、154～222 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・解剖学で学習した骨の用語（特に肩甲骨・上腕骨など）については復習しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>
<p>第7回</p>	<p>肘関節・前腕の構造と運動①/小テスト【野口】 【key words】 上腕骨・橈骨・尺骨・関節・靭帯・筋肉 【授業概要】 ・肘関節・前腕の骨・関節・靭帯の構造を理解し、役割と運動について学ぶ。 ・肘関節・前腕に付着する各種の筋の特徴（構造・起始・停止・作用・神経支配）について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：p119～143 参考書：p39～79、134～149、223～260 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・解剖学で学習した骨の用語（特に上腕骨・橈骨・尺骨など）については復習しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>
<p>第8回</p>	<p>肘関節・前腕の構造と運動②【野口】 【key words】 上腕骨・橈骨・尺骨・関節・靭帯・筋肉 【授業概要】 ・肘関節・前腕の骨・関節・靭帯の構造を理解し、役割と運動について学ぶ。 ・肘関節・前腕に付着する各種の筋の特徴（構造・起始・停止・作用・神経支配）について理解する。</p>

第9回	<p>【教科書ページ・参考文献】 教科書：p119～143 参考書：p39～79、134～149、223～260 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・解剖学で学習した骨の用語（特に上腕骨・橈骨・尺骨など）については復習しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p> <p>手関節・手指の構造と運動①/小テスト【野口】 【key words】 上腕骨・尺骨・手根骨・手指骨 【授業概要】 ・手関節・手指の骨・関節・靭帯の構造を理解し、役割と運動について学ぶ。 ・手関節・手指に付着する各種の筋の特徴（構造・起始・停止・作用・神経支配）について理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書：p144～179 参考書：p39～106、150～152、261～341 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・解剖学で学習した骨の用語（特に上腕骨・橈骨・尺骨・手根骨・手指骨など）については復習しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>
第10回	<p>手関節・手指の構造と運動②/小テスト【野口】 【key words】 上腕骨・尺骨・手根骨・手指骨 【授業概要】 ・手関節・手指の骨・関節・靭帯の構造を理解し、役割と運動について学ぶ。 ・手関節・手指に付着する各種の筋の特徴（構造・起始・停止・作用・神経支配）について理解する。</p>
第11回	<p>・第1～9回で学んだ内容を基に、筆記試験を行う。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：p144～179 参考書：p39～106、150～152、261～341 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・解剖学で学習した骨の用語（特に上腕骨・橈骨・尺骨・手根骨・手指骨など）については復習しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p> <p>骨盤・股関節の運動について【柴】 【key words】 骨盤、股関節、ヤコビー線、スカルパ三角、ローザーネラトン線、腸骨大腿靭帯、坐骨大腿靭帯、恥骨大腿靭帯 【授業概要】 ・骨盤・股関節の骨・関節・靭帯の構造を理解し、役割と運動について学ぶ。</p>
第12回	<p>【教科書ページ・参考文献】 教科書：p180～183、189～199 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・解剖学で学習した骨の用語（特に寛骨・仙骨・大腿骨など）や股関節については復習しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p> <p>股関節の運動に作用する筋【柴】 【key words】 股関節、運動 主動作筋 【授業概要】 ・股関節等に付着する各種の筋の特徴（構造・起始・停止・作用・神経支配）について理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書：p183～188、200～202 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・解剖学で学習した骨の用語（特に寛骨・仙骨・大腿骨など）や股関節については復習しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p>
第13回	<p>膝関節の運動/小テスト【柴】 【key words】 膝関節、関節包内運動、終末伸展回旋、FTA 【授業概要】 ・膝関節の骨・関節・靭帯の構造を理解し、役割と運動について学ぶ。 ・膝関節等に付着する各種の筋の特徴（構造・起始・停止・作用・神経支配）について理解する。 ・第11～12回で学んだ内容を基に、小テストを行う。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書：p212～234 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・解剖学で学習した骨の用語（特に大腿骨・脛骨・膝蓋骨、腓骨など）や膝関節については復習しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p>

	<p>第14回 距腿関節の構造、足部の運動について【柴】</p> <p>【key words】 脛骨、腓骨、足根骨、中足骨、趾節骨、距腿関節の運動、足部の運動</p> <p>【授業概要】 ・距腿関節・足部の骨・関節・靭帯の構造を理解し、役割と運動について学ぶ。 ・膝関節等に付着する各種の筋の特徴（構造・起始・停止・作用・神経支配）について理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書：p244～261</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・解剖学で学習した骨の用語（特に脛骨・腓骨・足根骨・中足骨・趾節骨など）や距腿関節については復習しておくこと</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p> <p>第15回 頭部、頸部、体幹の運動について/小テスト【柴】</p> <p>【key words】 頭蓋骨、椎骨、環椎後頭関節、軸椎関節、椎間関節</p> <p>【授業概要】 ・環椎後頭関節・軸椎関節・椎間関節の骨・関節・靭帯の構造を理解し、役割と運動について学ぶ。 ・環椎後頭関節・軸椎関節・椎間関節等に付着する各種の筋の特徴（構造・起始・停止・作用・神経支配）について理解する。 ・第13～14回で学んだ内容を基に、小テストを行う。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書：p281～306</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・解剖学で学習した骨の用語（特に頭蓋骨・椎骨など）や脊柱については復習しておくこと</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p>
<p>受講生に関わる情報 および受講のルール</p>	<p>[受講生に関わる情報] ・解剖学が基礎となるため履修内容に関連した範囲は必ず復習すること。</p> <p>[受講のルール] ・事前にシラバスを確認し、講義範囲を確認し予習するなど積極的に取り組むこと。 ・他の受講生の迷惑になる行為（携帯電話の使用、私語）は厳禁。 ・小テストの結果が6割に満たない場合は、放課後の学習会に参加し、不足している知識を補うこと。</p>
<p>毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状況 の確認方法</p>	<p>・WEBポータルを使用したコメントスレッド</p>
<p>授業外時間にかかわる 情報</p>	<p>・各講義に対して予習・復習を積極的に取り組むこと。 ・各講義でわからないことは下記オフィスアワー等を使用し解決するように努力すること。</p>
<p>オフィスアワー</p>	<p>【柴】 木曜日16時～17時は随時（変更時は掲示する）その他の曜日については要予約</p>
<p>評価方法</p>	<p>筆記試験60% 小テスト40%</p>
<p>教科書</p>	<p>・小柳磨毅 編：PT・OTのための運動学テキスト 第1版，金原出版 ・林典雄：機能解剖学的触診技術 上肢 下肢・体幹，メジカルビュー ・林典雄：動画でマスター！機能解剖学的触診技術 上肢+下肢・体幹セット，メジカルビュー</p>
<p>参考書</p>	<p>・伊藤元，高橋正明編：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 運動学，医学書院 ・中村隆一・齋藤宏：基礎運動学，第6版，医歯薬出版株式会社</p>
<p>実務者経験/アク ティブラーニング/ リテラシー教育</p>	<p>授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>【柴】 急性期および回復期、生活期におけるリハビリテーション病棟での理学療法士として従事する他、運動学・運動力学・介護予防・生活環境の研究を実践してきた。現在はそれらの研究報告の基、臨床業務の指導などを実践している。</p> <p>【野口】 急性期および回復期リハビリテーション病棟での作業療法士としての臨床経験の他に、運動学・運動力学の研究を実践してきた。現在はそれらの研究報告を実践しながら、臨床業務の指導などを行っている。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <p><input type="checkbox"/> PBL(課題解決型学習)</p> <p><input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート</p> <p>■グループワーク</p> <p><input type="checkbox"/> プレゼンテーション</p> <p><input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク</p> <p><input type="checkbox"/> アクティブラーニングは実施していない</p> <p>情報リテラシー教育</p> <p><input type="checkbox"/> 情報モラルに関する教育</p> <p><input type="checkbox"/> 課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）</p> <p><input type="checkbox"/> 情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）</p>

	<p><input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）</p> <p><input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない</p> <p>ICTの活用</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>ICTを活用した双方向型の授業の実施</p> <p><input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援</p> <p><input type="checkbox"/>その他</p> <p>その他の具体的内容</p>
--	---

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位(30)	必修
担当教員			
柴ひとみ・野口直人			
人体の構造と機能及び心身の発達	理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] 身体の構造を理解し各関節の運動を捉えたうえで、姿勢や正常歩行、呼吸、リーチ・把握などについて説明できることを目的とする。また、理学療法士・作業療法士の対象となる疾患を運動学的視点を用いて理解することができる。</p> <p>[到達目標] ①重心、姿勢の名称について答えることができる。 ②歩行周期について説明することができる。 ③歩行時の下肢関節の運動や重心の移動について説明することができる。 ④呼吸時の胸郭の動きを説明することができる。 ⑤リーチ・把握動作や日常生活を運動学的な知識を用いて説明することができる。 ⑥上下肢や体幹の主な運動障害を列挙することができる。</p>		
授業の概要	授業を通し、理学療法士・作業療法士の対象となる機能障害を把握するうえで必要な身体の構造・機能、力学について学ぶ。また自らの身体を使って各関節や身体の動きを理解し、姿勢の保持や歩行、呼吸時、リーチ・把握動作に関わる関節運動の特徴を学ぶ。また、上下肢・体幹の各関節における運動障害を学ぶ。		
各学科、専攻、コースにおけるDP			科目における重要度
(理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			
(理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			◎
(理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる			◎
(理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
(作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			
(作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			◎
(作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。			◎
(作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション/運動力学【野口】</p> <p>【key words】 運動の面と軸、ベクトル、モーメント、筋収縮</p> <p>【授業概要】 ・基礎運動学Ⅰでの復習 ・生体力学の概念(ベクトル・モーメント)について理解する。 ・運動力学の視点で関節運動の際に力の働きについて理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書：p1～36 【課題・予習・復習・授業準備指示】 基礎運動学Ⅰの運動力学について復習をしておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p> <p>第2回 人体における重心について【柴】</p> <p>【key words】 重心、重心線、指標</p> <p>【授業概要】 ・安静立位における重心位置について、その求め方を含めて理解する。</p>		

第3回	<p>・重心を通る重心線について説明する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：p341～345 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：参考書「基礎運動学」のP347～352を事前に読み、重心についてまとめ重心の指標を調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分 姿勢・重心【柴】 【key words】 姿勢、重心、支持基底面、安定性 【授業概要】 ・支持基底面について理解し、重心との関連性について学ぶ。 ・姿勢の安定性について考える</p>
第4回	<p>【教科書ページ・参考文献】 教科書：p341-355 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：姿勢の保持はどのような場面で必要か、なるべく多く挙げてくること 【予習復習に必要な想定時間】 60分 正常歩行：歩行周期/小テスト【柴】 【key words】 歩行、歩行周期、歩行率 【授業概要】 ・正常歩行の歩行周期を理解する。 ・重心を前方に移動させる動作としての歩行の効率や実用性について考える。</p>
第5回	<p>【教科書ページ・参考文献】 教科書：p365～367 配布プリント 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習：歩行周期を替え歌を用いて表現できるようにすること 【予習復習に必要な想定時間】 60分 正常歩行：下肢の関節運動と重心の移動【柴】 【key words】 歩行周期、下肢の関節運動、ロッカー機能 【授業概要】 ・各歩行周期で行われる下肢の関節運動を理解する。 ・ヒールロッカー、アングルロッカー、フォアフットロッカーの機能を理解する。</p>
第6回	<p>【教科書ページ・参考文献】 教科書：p367～372 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：矢状面上の下肢（股関節・膝関節・足関節）の関節運動を復習しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分 正常歩行：歩行時の筋活動について/小テスト【柴】 【key words】 歩行周期、筋活動、歩行時の重心移動（矢状面・前額面） 【授業概要】 ・下肢のモーメントについて理解する。 ・各歩行周期における主な筋活動についてその理由とともに考える。 ・歩行時の重心の移動を考える。</p>
第7回	<p>【教科書ページ・参考文献】 教科書：371～382 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：下肢（股関節・膝関節・足関節）の関節運動に作用する主動筋を復習しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分 上肢帯・肩関節の運動/運動障害/小テスト【野口】 【key words】 上肢帯・肩甲骨・鎖骨・上腕骨・関節・靭帯・筋肉 【授業概要】 ・上肢帯・肩関節の骨・関節・靭帯の構造を理解し、役割と運動について学ぶ。 ・上肢帯・肩甲骨に付着する各種の筋の特徴（構造・起始・停止・作用・神経支配）について理解する。 ・上肢帯・肩関節の代表的な運動障害（腱板断裂、脱臼）について理解する。</p>
第8回	<p>【教科書ページ・参考文献】 教科書：p98～118 参考書：p16～59、108～133、154～222 【課題・予習・復習・授業準備指示】 基礎運動学Ⅰの上肢帯・肩関節の運動について復習をしておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分 肘関節・前腕の構造と運動/運動障害/小テスト【野口】 【key words】 上腕骨・橈骨・尺骨・関節・靭帯・筋肉 【授業概要】</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・肘関節・前腕の骨・関節・靭帯の構造を理解し、役割と運動について学ぶ。 ・肘関節・前腕に付着する各種の筋の特徴（構造・起始・停止・作用・神経支配）について理解する。 ・肘関節・前腕の代表的な運動障害（コーレス骨折・スミス骨折・テニス肘）について理解する。 <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書：p119～143 参考書：p39～79、134～149、223～260 【課題・予習・復習・授業準備指示】 基礎運動学Ⅰの肘関節・前腕の運動について復習をしておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>
第9回	<p>手関節・手指の構造と運動/運動障害/小テスト【野口】</p> <p>【key words】 上腕骨・尺骨・手根骨・手指骨・靭帯・筋肉</p> <p>【授業概要】 ・手関節・手指の骨・関節・靭帯の構造を理解し、役割と運動について学ぶ。 ・手関節・手指に付着する各種の筋の特徴（構造・起始・停止・作用・神経支配）について理解する。 ・手関節・手指の代表的な運動障害（手・手指の変形）について理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書：p144～179 参考書：p39～106、150～152、261～341 【課題・予習・復習・授業準備指示】 基礎運動学Ⅰの手関節・手指の運動について復習をしておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>
第10回	<p>骨盤・股関節の構造と運動/運動障害【柴】</p> <p>【key words】 骨盤・寛骨・仙骨・大腿骨・関節・靭帯・筋肉、変形性股関節症、大腿骨頸部骨折</p> <p>【授業概要】 ・骨盤・股関節の骨・関節・靭帯の構造を理解し、役割と運動について学ぶ。 ・骨盤・股関節に付着する各種の筋の特徴（構造・起始・停止・作用・神経支配）について理解する。 ・骨盤・股関節の代表的な運動障害（変形性股関節症・大腿骨頸部骨折）について理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書：p203～211 資料配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 基礎運動学Ⅰの骨盤・股関節の運動について復習をしておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>
第11回	<p>膝関節の構造と運動/運動障害/小テスト【柴】</p> <p>【key words】 大腿骨・脛骨・腓骨・膝蓋骨・関節・靭帯・筋肉、変形性膝関節症、ACL損傷、PCL損傷</p> <p>【授業概要】 ・膝関節の骨・関節・靭帯の構造を理解し、役割と運動について学ぶ。 ・膝関節に付着する各種の筋の特徴（構造・起始・停止・作用・神経支配）について理解する。 ・膝関節の代表的な運動障害（変形性膝関節症・ACL損傷・PCL損傷）について理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書：235～243 資料配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 基礎運動学Ⅰの膝関節の運動について復習をしておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>
第12回	<p>距腿関節・足部の構造と運動/運動障害/小テスト【柴】</p> <p>【key words】 脛骨・腓骨・距骨・踵骨・関節・靭帯・筋肉、内反捻挫、外反捻挫、内反尖足、下垂足</p> <p>【授業概要】 ・距腿関節・足部の骨・関節・靭帯の構造を理解し、役割と運動について学ぶ。 ・距腿関節・足部に付着する各種の筋の特徴（構造・起始・停止・作用・神経支配）について理解する。 ・距腿関節・足部の代表的な運動障害（内反捻挫・外反捻挫・内反尖足）について理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書：p262～268 資料配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 基礎運動学Ⅰの距腿関節・足部の運動について復習をしておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>
第13回	<p>呼吸/小テスト【柴】</p> <p>【key words】 呼吸・胸郭・運動・筋肉、肋骨関節、肋骨頭関節、肋横突関節</p> <p>【授業概要】 ・呼吸時の胸郭の運動を理解する。 ・呼吸の運動に関与する筋の特徴（構造・騎士・停止・作用・神経支配）について理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書：545～553 資料配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：生理学で履修した呼吸について復習しておくこと</p>

	<p>【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p> <p>第14回 上肢の運動学習/小テスト【野口】</p> <p>【key words】 リーチ動作・把握動作</p> <p>【授業概要】 ・リーチ動作・把握動作の特徴について理解できる。 ・日常生活動作における各動作についてリーチ動作・把握動作を用いて説明できる。 ・上肢動作をスムーズに行うために必要な要素について理解できる。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 配布プリント</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 肌を露出しやすい・動きやすい服（ジャージ推奨）を着てくること。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>第15回 下肢の運動学習/小テスト【柴】</p> <p>【key words】 運動学習、上行路、下行路、覚醒、パフォーマンス、KR</p> <p>【授業概要】 ・運動学習の意味を捉え、良い方向への変化が得られるように、適切なタイミングでフィードバックが付与できるよう運動学習について理解できる。 ・下肢動作をスムーズに行うために必要な要素について理解できる。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書：p60～76 資料配布</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：これまでの経験から上達した動作を挙げ、どのようにして上達したのか理由を5個以上考えてくること</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>
<p>受講生に関わる情報 および受講のルール</p>	<p>[受講生に関わる情報]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・解剖学が基礎となるため履修内容に関連した範囲は必ず復習すること。 <p>[受講のルール]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前にシラバスを確認し、講義範囲を確認し予習するなど積極的に取り組むこと。 ・他の受講生の迷惑になる行為（携帯電話の使用、私語）は厳禁。 ・小テストの結果が6割に満たない場合は、放課後の学習会に参加し、不足している知識を補うこと。
<p>毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法</p>	<p>WEBポータルを使用したコメントスレッド</p>
<p>授業外時間にかかわ る情報</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各講義に対して予習・復習を積極的に取り組むこと。 ・各講義でわからないことは下記オフィスアワー等を使用し解決するように努力すること。
<p>オフィスアワー</p>	<p>【柴】 木曜日16時～17時は随時（変更時は掲示する）その他の曜日については要予約</p>
<p>評価方法</p>	<p>筆記試験60% 小テスト40%</p>
<p>教科書</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小柳磨毅 編：PT・OTのための運動学テキスト 第1版，金原出版 ・林典雄：機能解剖学的触診技術 上肢 下肢・体幹，メジカルビュー ・林典雄：動画でマスター！機能解剖学的触診技術 上肢+下肢・体幹セット，メジカルビュー
<p>参考書</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・伊藤元，高橋正明編：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 運動学，医学書院 ・中村隆一・齋藤宏：基礎運動学，第6版，医歯薬出版株式会社
<p>実務者経験/アク ティブラーニング/ リテラシー教育</p>	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> ■実務経験のある教員が担当している <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>【柴】 急性期および回復期、生活期におけるリハビリテーション病棟での理学療法士として従事する他、運動学・運動力学・介護予防・生活環境の研究を実践してきた。現在はそれらの研究報告の基、臨床業務の指導などを実践している。</p> <p>【野口】 急性期および回復期リハビリテーション病棟での作業療法士としての臨床経験の他に、運動学・運動力学の研究を実践してきた。現在はそれらの研究報告を実践しながら、臨床業務の指導などを行っている。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> PBL(課題解決型学習) <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート ■ グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> アクティブラーニングは実施していない <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 情報モラルに関する教育 <input type="checkbox"/> 課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） <input type="checkbox"/> 情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） <input type="checkbox"/> 情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）

	<p><input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない</p> <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="checkbox"/>ICTを活用した双方向型の授業の実施<input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援<input type="checkbox"/>その他 <p>その他の具体的内容</p>
--	---

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	1単位(15)	必修
担当教員			
柴ひとみ・悴田敦子			
保健医療とリハビリテーションの理念	理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 ねらい：「包括的視点で対象者を捉え、多職種による円滑なケアが展開できるための基礎的知識・技術・態度について学び多職種連携のあり方を修得する」 目的：他学部・学科との学生間の交流を通して、多職種の連携の必要性について気づくことができる。</p> <p>〔目標〕 1) 自己の職種について他者に伝えることができる。 2) 他職種の基本的な役割について述べるができる。 3) ケアチームとして一連の取り組みのまとめ、報告、自己の評価ができる。 4) 他職種との連携について関心が持てる。</p>
授業の概要	保健医療福祉の動向に伴い、多様なニーズを必要とする対象者が増加しており保健医療福祉教育専門職に求められることも多様化している。対象者のケアの目標を達成するためには、多職種間の連携が不可欠となる。保健医療福祉教育職種が連携を取り合うことの意義・必要性と多様なチームケアの在り方について学習する。群馬医療福祉大学の福祉・医療総合大学の特色を生かし、3学部・短期大学1学科合同チームによる、「チームケア」について学ぶ。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	○
(理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	
(理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	◎
(理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	
(作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	○
(作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	
(作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	◎
(作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	<p>第1回</p> <p>1. 科目のオリエンテーション 2. なぜ、いま連携なのか チームケアの目的・意義、背景、多職種の種類とその役割、連携の目的・意義。</p> <p>【key words】 多職種、連携、チームケア</p> <p>【授業概要】 なぜ、いま連携なのか チームケアの目的・意義、背景、多職種の種類とその役割、連携の目的・意義を明確にする。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 資料を配布</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：多職種連携やチームケアについてまとめている論文をメデイカルオンライン等を用いて調べ、要点にラインを引いたうえで持参すること。 復習：ポートフォリオの作成(講義内容について考察すること)</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p> <p>第2回</p> <p>チームケアを担う人々を理解する。自己の職種役割についてまとめる。</p> <p>【key words】</p>
------	---

	<p>多職種・連携、チームケア、職種理解</p> <p>【授業概要】 チームケアを担う人々を理解する。自己の職種役割（法制度、職種内容、活躍する場等）についてまとめる。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 資料配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：自己の職種をまとめるうえで必要な文献や資料を準備すること。 復習：自己の職種シートを提出すること（提出日については、講義内で提示する予定） 課題：自己の職種調べシートを提出すること 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p>
第3回	<p>チームケア・チーム医療を担う人々を理解する。簡単な事例をとおして、チームケアにおける自職種・他職種の役割について各学部のグループで、討議する。</p> <p>【key words】 多職種・連携、チームケア、自職種の役割</p> <p>【授業概要】 チームケア・チーム医療を担う人々を理解する。簡単な事例（小児・高齢者）をとおして、チームケアにおける自職種・他職種の役割について各学部のグループで、討議する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 資料配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習：ポートフォリオの作成（講義内容について考察すること） 課題：事例に対する支援方法をまとめ、提出すること（提出日については、講義内で提示する予定） 【予習復習に必要な想定時間】 90～120分</p>
第4回	<p>チームケアにおける多職種の役割、連携方法についての合同討議。</p> <p>【key words】 多職種・連携、チームケア、グループワーク</p> <p>【授業概要】 チームケアにおける多職種の役割を理解するために、多職種の仕事内容を知る。そのうえで、共通する内容や異なる内容を挙げる。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 資料配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：自己の職種に関する発表の準備をすること 復習：自己の職種と多職種の共通点や異なる点について整理しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p>
第5回	<p>チームケアにおける多職種の役割、連携方法についての合同討議、報告準備。</p> <p>【key words】 多職種・連携、チームケア、ディスカッション</p> <p>【授業概要】 チームケアにおける多職種の役割を理解したうえで、事例（小児・高齢者）に対する支援内容を話し合う。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 資料配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：自己の職種が事例に対して行う支援内容の発表準備をしておくこと 復習：事例に対する各々の職種の支援内容を整理しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p>
第6回	<p>チームケアにおける多職種の役割、連携方法についての合同討議・報告会①</p> <p>【key words】 多職種・連携、チームケア、ディスカッション</p> <p>【授業概要】 チームケアにおける多職種の役割を理解したうえで、事例（小児・高齢者）に対する支援内容について共通する項目を挙げる。連携を行う意義について考え、意見をまとめる。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 資料配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習：事例に対する支援内容について共通項目をまとめておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p>
第7回	<p>チームケアにおける多職種の役割、連携方法についての合同討議・報告会②</p> <p>【key words】 多職種・連携、チームケア、発表</p> <p>【授業概要】 連携を行う意義についてまとめた意見を発表し、共有する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習：他のグループの発表内容も含め連携の意義について整理しておくこと。 ポートフォリオの作成（講義内容について考察すること） 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p>

	<p>第8回</p> <p>学習成果をリフレクションする。一連の学習過程を評価・考察し自己の課題に気付くことができる。</p> <p>【key words】 多職種、連携、チームケア</p> <p>【授業概要】 学習成果をリフレクションする。一連の学習過程を評価・考察し自己の課題に気付くことができる。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習：ポートフォリオの作成（講義内容について考察すること） 課題：後日、ポートフォリオを提出すること（期限については授業内で提示する） 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<p>①予習：事前学習課題を整理し、授業時活用する。</p> <p>②復習：授業で配布したプリント・資料を読み返す。</p> <p>〔受講のルール〕</p> <p>①積極的に取り組む事。</p> <p>②レポート等の課題について、提出期限を厳守する。</p> <p>③授業の学びを必ず記載すること。記載することで表現力を養うものである。</p>
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード・その他（ポートフォリオ）
授業外時間にかかわる情報	課題に積極的に取り組む。
オフィスアワー	木曜日の15:30～17:30
評価方法	①グループワークでの取り組み50% ②ポートフォリオ評価50%
教科書	資料配布
参考書	<p>1. 鷹野和美著：チームケア論 ぱる出版、2008.</p> <p>2. 小松秀樹：地域包括ケアの課題と未来、ロハス・メディカル、2015</p>
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <p>■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>急性期および回復期、生活期におけるリハビリテーション業務に理学療法士として従事する中、多職種と連携をしながら患者および利用者の支援に携わってきた。現在は地域包括ケアシステムの構築に関する研究報告を基に、臨床業務の指導などを実践している。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <p>■PBL(課題解決型学習)</p> <p>■ディスカッション・ディベート</p> <p>■グループワーク</p> <p>■プレゼンテーション</p> <p>□実習、フィールドワーク</p> <p>□アクティブラーニングは実施していない</p> <p>情報リテラシー教育</p> <p>□情報モラルに関する教育</p> <p>□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）</p> <p>□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）</p> <p>□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）</p> <p>□情報リテラシー教育は実施していない</p> <p>ICTの活用</p> <p>□ICTを活用した双方向型の授業の実施</p> <p>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援</p> <p>□その他</p> <p>その他の具体的内容</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位(30)	必修
担当教員			
大竹一男・大竹勤			
保健医療とリハビリテーションの理念	理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] 医療福祉従事者に必要なソーシャルワークについて学び、実践できるようになることを目的とする。</p> <p>[到達目標] ①ソーシャルワークの意義と目的について理解する。 ②援助技術の原理原則について理解する。 ③基本的な援助技法を身につける。</p>		
授業の概要	<p>講義や演習を通して、医療従事者に必要な社会福祉の知識や援助技術の実際について学ぶ。援助技術は「人の生活を支える」重要な技術であり、そのために必要な支援の方法を考える。</p>		
各学科、専攻、コースにおけるDP			科目における重要度
(理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			○
(理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			
(理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる			
(理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			◎
(理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			◎
(作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			○
(作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			
(作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。			
(作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			◎
(作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			◎
授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション、 自己紹介カード 【key words】 【keywords】 授業の進め方 自己紹介</p> <p>【授業概要】 【授業概要】 授業計画について説明する 予習・復習について説明する 評価方法について説明する コミュニケーションの第一歩である自己紹介について考察する</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 自己紹介カードを配付</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備】 自分を知ってもらうための印象に残る自己紹介を考える 【予習復習に必要な想定時間】 30分</p> <p>第2回 障害者の理解、DVD 視聴（障害者の自立について） 【key words】 【keywords】 障害者の自立 筋ジストロフィー 難病</p> <p>【授業概要】 【授業概要】</p>		

	<p>援助支援の対象となるハンディキャップを持った方の自立への意識を映像を通して知る 専門職者としての役割をレポートにまとめる</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 筋ジストロフィーに関する資料配付</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備】 筋ジストロフィーという病気についてあらかじめ調べておく 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p> <p>第3回 対人援助技術の原則</p> <p>【key words】 【keywords】 ソーシャルワーカー バイスティック</p> <p>【授業概要】 【授業概要】 場面に合わせた援助の原理原則について学ぶ バイスティックの7原則について学ぶ</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 バイスティックの7原則に関する資料を配付する</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備】 バイスティックについて事前に調べておくこと ソーシャルワーカーとしての原理原則がボランティアや実習の場面でどのように役立つのかを実 践の場で確認する</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 60分</p> <p>第4回 コミュニケーションスキルを磨こう DVD 視聴</p> <p>【key words】 【keywords】 コミュニケーションスキル ア行トーク サイレントトーク</p> <p>【授業概要】 【授業概要】 援助のテクニック・スキル・マインドについて、演習及び映像を通して学ぶ 映像を見て、援助場面でどのように役立てられるかレポートにまとめる</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備】 授業中に行うア行トーク・サイレントトークを復習してみよう</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 60分</p> <p>第5回 情報を共有し合意すること</p> <p>【key words】 【keywords】 コンセンサス</p> <p>【授業概要】 【授業概要】 グループ演習を通して、コンセンサス（合意すること）の難しさと重要性について学ぶ 演習を通して学んだことをレポートにまとめる</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 演習（ゲーム）の資料を配付する</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備】 他者の意見もしっかりと聴けるような習慣を身につける</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 30分</p> <p>第6回 リハビリテーションを通しての援助支援について考える DVD 視聴</p> <p>【key words】 【keywords】 スポーツ リハビリテーション</p> <p>【授業概要】 【授業概要】 ドキュメント映像を通して、リハビリテーションの仕事のやりがいと重要性について再確認する 【教科書ページ・参考文献】</p>
--	---

	<p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備】 感想文を提出していただきます 【予習復習に必要な想定時間】 30分</p> <p>第7回 人の一生と社会福祉 事例検討 【key words】 【keywords】 相談援助 社会福祉 児童福祉 老人福祉 障害者福祉 生活保護</p> <p>【授業概要】 【授業概要】 事例をもとに援助の実際について学ぶ</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備】 身近でおきている問題について考えてみよう</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 60分</p> <p>第8回 援助の基本原則 まとめ 【key words】 【keywords】 バイステックの7原則</p> <p>【授業概要】 【授業概要】 評価の方法について再度説明 ソーシャルワーカーとしての原理原則について復習</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 評価試験内容についての詳細を配付</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備】 レポート試験の準備をしよう</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>
受講生に関わる情報 および受講のルール	対人援助サービスに携わる者としての視点で授業に参加すること。 8回の授業なので、欠席が3回以上になると単位認定はできなくなるので注意すること。 演習には積極的に参加すること。授業の流れに反した行動を取る場合には履修しないこと。
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわ る情報	2回に1回の割合でレポート課題を出す
オフィスアワー	授業終了後20分ほど、対応可能。
評価方法	筆記試験（レポート試験）80%と授業中に出すレポート課題等の提出物20%により評価する。レポ ート試験の採点基準詳細については試験時に指示する。
教科書	授業中に指示する。
参考書	授業内で適宜紹介する。
実務者経験/アク ティブラーニング/ リテラシー教育	<p>授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない</p> <p>情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法 等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）</p>

	<p><input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない</p> <p>ICTの活用</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>ICTを活用した双方向型の授業の実施</p> <p><input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援</p> <p><input type="checkbox"/>その他</p> <p>その他の具体的内容</p>
--	--

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	1単位(30)	必修
担当教員			
村山明彦			
基礎理学療法学	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 理学療法関連研究の基本的な考え方、および統計解析の基礎を学び、それらを実践できるようになることを目的とする。</p> <p>〔到達目標〕 ①理学療法関連研究の基本的な考え方を説明できる。 ②ガイドラインについて説明できる。 ③統計解析の基礎を説明できる。</p>
授業の概要	理学療法士は、常に進歩する医療に興味を持ち、新しい知見を得ていく必要がある。そのためには、自らも先行研究を基に研究を進めることが重要となる。理学療法セミナー I では、研究の基礎を学ぶことで、論理的な思考能力、問題解決能力、文書作成能力などを身につけることを目的とする。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	◎
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション～なぜ研究をするのか?～ 【key words】 科学的根拠に基づく理学療法 (Evidence-based Physical Therapy : EBPT) 【授業概要】 EBPTの概要を学び、理学療法関連研究に必要なポイントを理解する。 日本理学療法士協会 EBPTチュートリアル http://jspt.japanpt.or.jp/ebpt/ 上記のURLを参考にして予習しておくこと。 【教科書ページ・参考文献】 山田実 編著, 土井剛彦, 浅井剛 著: PT・OTのための臨床研究ははじめの一步～研究デザインから統計解析、ポスター・口述発表のコツまで実体験から教えます。羊土社, pp.12-20 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordやURLを参考に予習・復習することが望ましい。 【予習復習に必要な想定時間】 90分 (予習とは別にシラバスの内容を把握したうえで授業に臨むこと)</p> <p>第2回 研究の基礎①～文献(和文・英文)を効率よく検索する～ 【key words】 文献レビュー 【授業概要】 文献(和文・英文)を効率よく検索するために必要なポイントを理解する。 日本理学療法士協会 EBPTチュートリアル http://jspt.japanpt.or.jp/ebpt/ Minds (マインズ) ガイドラインセンター https://minds.jcqh.or.jp/ 群馬医療福祉大学図書館 http://www.shoken-gakuen.ac.jp/library/ 上記のURLを参考にして予習しておくこと。 【教科書ページ・参考文献】 山田実 編著, 土井剛彦, 浅井剛 著: PT・OTのための臨床研究ははじめの一步～研究デザインから統計解析、ポスター・口述発表のコツまで実体験から教えます。羊土社, pp.21-27 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordやURLを参考に予習・復習することが望ましい。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分</p> <p>第3回 理学療法分野における研究の意義と目的 【key words】 理学療法研究</p>
------	--

	<p>【授業概要】 理学療法分野における研究の意義と目的を理解する。 日本理学療法士協会 EBPTチュートリアル http://jspt.japanpt.or.jp/ebpt/ 上記のURLを参考にして予習しておくこと。 【教科書ページ・参考文献】 山田実 編著, 土井剛彦, 浅井剛 著: PT・OTのための臨床研究はじめの一步～研究デザインから統計解析, ポスター・口述発表のコツまで実体験から教えます. 羊土社, pp. 28-42 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordやURLを参考に予習・復習することが望ましい。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分 研究デザインの種類</p>
第4回	<p>【key words】 研究デザイン 【授業概要】 研究デザインの種類を理解する。 日本理学療法士協会 EBPTチュートリアル http://jspt.japanpt.or.jp/ebpt/ 上記のURLを参考にして予習しておくこと。 【教科書ページ・参考文献】 山田実 編著, 土井剛彦, 浅井剛 著: PT・OTのための臨床研究はじめの一步～研究デザインから統計解析, ポスター・口述発表のコツまで実体験から教えます. 羊土社, pp. 43-48 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordやURLを参考に予習・復習することが望ましい。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分 研究に必要な基礎知識</p>
第5回	<p>【key words】 研究に必要な基礎知識 【授業概要】 研究に必要な基礎知識について理解する。 日本理学療法士協会 EBPTチュートリアル http://jspt.japanpt.or.jp/ebpt/ 上記のURLを参考にして予習しておくこと。 【教科書ページ・参考文献】 山田実 編著, 土井剛彦, 浅井剛 著: PT・OTのための臨床研究はじめの一步～研究デザインから統計解析, ポスター・口述発表のコツまで実体験から教えます. 羊土社, pp. 49-67 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordやURLを参考に予習・復習することが望ましい。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分 臨床研究の進め方①</p>
第6回	<p>【key words】 臨床研究の進め方 【授業概要】 臨床研究の進め方について理解する。 グループワーク 授業内でグループ分けを行い、グループごとに課題を提示する。 学習の成果を、グループごとに発表できるように準備しておくこと。 日本理学療法士協会 EBPTチュートリアル http://jspt.japanpt.or.jp/ebpt/ 上記のURLを参考にして予習しておくこと。 【教科書ページ・参考文献】 授業概要で紹介している参考URLを参照 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordやURLを参考に予習・復習することが望ましい。 また、各自で発表の予行練習を行い、効率よく効果的なプレゼンテーションができるようにしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分 臨床研究の進め方②</p>
第7回	<p>【key words】 臨床研究の進め方 【授業概要】 臨床研究の進め方について理解する。 グループワーク 授業内でグループ分けを行い、グループごとに課題を提示する。 学習の成果を、グループごとに発表できるように準備しておくこと。 日本理学療法士協会 EBPTチュートリアル http://jspt.japanpt.or.jp/ebpt/ JSPTF日本基礎理学療法学会 http://jspt.japanpt 上記のURLを参考にして予習しておくこと。 【教科書ページ・参考文献】 授業概要で紹介している参考URLを参照 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordやURLを参考に予習・復習することが望ましい。 また、各自で発表の予行練習を行い、効率よく効果的なプレゼンテーションができるようにしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分 研究の基礎②～身近な例で研究デザインを考える～</p>
第8回	<p>研究の基礎②～身近な例で研究デザインを考える～</p>

	<p>【key words】 研究デザイン</p> <p>【授業概要】 身近な例で研究デザインの概要を学び、理学療法関連研究に必要なポイントを理解する。 グループワーク 授業内でグループ分けを行い、グループごとに課題を提示する。 学習の成果を、グループごとに発表できるように準備しておくこと。 日本理学療法士協会 EBPTチュートリアル http://jspt.japanpt.or.jp/ebpt/ Minds (マインズ) ガイドラインセンター https://minds.jcqh.or.jp/ 上記のURLを参考にして予習しておくこと。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 授業概要で紹介している参考URLを参照 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordやURLを参考に予習・復習することが望ましい。 また、各自で発表の予行練習を行い、効率よく効果的なプレゼンテーションができるようにしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分</p> <p>第9回 統計解析の基礎①～記述統計～</p>
	<p>【key words】 記述統計</p> <p>【授業概要】 統計解析の基礎を学び、理学療法関連研究に必要なポイントを理解する。 統計WEB https://bellcurve.jp/statistics/ 上記のURLを参考にして予習しておくこと。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 山田実 編著, 土井剛彦, 浅井剛 著: PT・OTのための臨床研究ははじめの一步～研究デザインから統計解析、ポスター・口述発表のコツまで実体験から教えます。羊土社, pp. 83-119 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsやURLを参考に予習・復習することが望ましい。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分</p> <p>第10回 統計解析の基礎②～対応のあるT検定、ウィルコクソンの符号付順位検定～</p>
	<p>【key words】 対応のあるT検定、ウィルコクソンの符号付順位検定</p> <p>【授業概要】 統計解析の基礎を学び、理学療法関連研究に必要なポイントを理解する。 統計WEB https://bellcurve.jp/statistics/ 上記のURLを参考にして予習しておくこと。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 山田実 編著, 土井剛彦, 浅井剛 著: PT・OTのための臨床研究ははじめの一步～研究デザインから統計解析、ポスター・口述発表のコツまで実体験から教えます。羊土社, pp. 83-119 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsやURLを参考に予習・復習することが望ましい。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分</p> <p>第11回 統計解析の基礎③～対応のないT検定、マンホイットニーのU検定～</p>
	<p>【key words】 対応のないT検定、マンホイットニーのU検定</p> <p>【授業概要】 統計解析の基礎を学び、理学療法関連研究に必要なポイントを理解する。 統計WEB https://bellcurve.jp/statistics/ 上記のURLや参考文献を参考にして予習しておくこと。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 山田実 編著, 土井剛彦, 浅井剛 著: PT・OTのための臨床研究ははじめの一步～研究デザインから統計解析、ポスター・口述発表のコツまで実体験から教えます。羊土社, pp. 83-119 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsやURL・文献を参考に予習・復習することが望ましい。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分</p> <p>第12回 統計解析の基礎④～分散分析、クラスカルウォリス検定、フリードマン検定～</p>
	<p>【key words】 分散分析、クラスカルウォリス検定、フリードマン検定</p> <p>【授業概要】 統計解析の基礎を学び、理学療法関連研究に必要なポイントを理解する。 統計WEB https://bellcurve.jp/statistics/ 上記のURLや参考文献を参考にして予習しておくこと。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 山田実 編著, 土井剛彦, 浅井剛 著: PT・OTのための臨床研究ははじめの一步～研究デザインから統計解析、ポスター・口述発表のコツまで実体験から教えます。羊土社, pp. 83-119 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsやURL・文献を参考に予習・復習することが望ましい。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分</p> <p>第13回 統計解析の基礎⑤～相関と回帰～</p> <p>【key words】 ピアソンの積率相関係数、スピアマンの順位相関係数、重回帰分析、ロジスティック回帰分析</p>

	<p>【授業概要】 統計解析の基礎を学び、理学療法関連研究に必要なポイントを理解する。 統計WEB https://bellcurve.jp/statistics/ 上記のURLや参考文献を参考にして予習しておくこと。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 山田実 編著, 土井剛彦, 浅井剛 著: PT・OTのための臨床研究ははじめの一步～研究デザインから統計解析、ポスター・口述発表のコツまで実体験から教えます。羊土社, pp. 83-119</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsやURL・文献を参考に予習・復習することが望ましい。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分</p> <p>第14回 統計解析の基礎⑥～システムティックレビュー・メタアナリシス～</p> <p>【key words】 システムティックレビュー、メタアナリシス</p> <p>【授業概要】 統計解析の基礎を学び、理学療法関連研究に必要なポイントを理解する。 統計WEB https://bellcurve.jp/statistics/ 上記のURLや参考文献を参考にして予習しておくこと</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 山田実 編著, 土井剛彦, 浅井剛 著: PT・OTのための臨床研究ははじめの一步～研究デザインから統計解析、ポスター・口述発表のコツまで実体験から教えます。羊土社, pp. 83-119</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsやURL・文献を参考に予習・復習することが望ましい。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分</p> <p>第15回 まとめ～学会抄録・投稿論文の査読者の視点から～</p> <p>【key words】 研究計画、研究倫理審査</p> <p>【授業概要】 研究計画書と研究倫理審査申請書の作成の概要を学び、理学療法関連研究に必要なポイントを理解する。 1～14回目までの内容を復習し、自らの研究計画（案）をプレゼンテーションできるように準備しておくこと。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 山田実 編著, 土井剛彦, 浅井剛 著: PT・OTのための臨床研究ははじめの一步～研究デザインから統計解析、ポスター・口述発表のコツまで実体験から教えます。羊土社, pp. 146-151</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 各自で発表の予行練習を行い、効率よく効果的なプレゼンテーションができるようにしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習120分・復習60分</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<p>①対面・遠隔どちらでも対応できる授業構成としている。</p> <p>②授業で使用するスライド等の資料は、全て電子媒体にて事前に配布する。授業当日までにプリントアウトもしくは、電子媒体を閲覧できる環境（PC・タブレット・スマートフォンなど）を整えておくこと。</p> <p>③遠隔授業となった場合は、グループワークやディスカッションを通じて、双方向型の授業を展開する予定である。受講中はビデオをオンにしても安定する接続環境を整えておくこと。講師がスライドショー等でプレゼンテーションしている時はビデオ・オフでもよいが、それ以外のグループワークやディスカッション時はビデオ・オンで参加することを条件とする。ただし、機器の不調等がある場合は、事前に連絡をすること。</p>
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	スレッド（Webポータル）
授業外時間にかかわる情報	<p>初回の科目オリエンテーションにて詳細を説明する。 予習や課題の実施を前提に講義を進める。 本科目の理解が滞ると、卒業研究の進捗にも影響を及ぼす可能性がある。 この点を踏まえて、授業に臨んでほしい。</p>
オフィスアワー	火曜日16時30分～17時30分（その他の曜日については要予約）
評価方法	レポート40%、授業内で提示した課題（15回）30%、定期試験30%
教科書	山田実 編著, 土井剛彦, 浅井剛 著: PT・OTのための臨床研究ははじめの一步～研究デザインから統計解析、ポスター・口述発表のコツまで実体験から教えます。羊土社
参考書	<p>山田 実／編, 浅井 剛, 土井剛彦／編集協力: メディカルスタッフのためのひと目で選ぶ統計手法「目的」と「データの種類」で簡単検索！適した手法が76の事例から見つかる、結果がまとめられる。羊土社</p> <p>白戸亮吉, 鈴木研太: ていねいな保健統計学。羊土社</p> <p>対馬栄輝 編著: 最新理学療法学講座 理学療法研究法。医歯薬出版株式会社</p>
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <p>■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>日本転倒予防学会誌（編集委員・査読者）、理学療法群馬（編集委員長・査読者）、日本予防理学療法学会 査読者、日本地域理学療法学会 査読者、日本基礎理学療法学会 査読者、日本支援工学理学療法学会 査読者、厚生労働省 高齢者の特性を踏まえた保健事業（フレイル対策）に関する文献調査 検討会（委員）、群馬県フレイル予防サポーター養成標準教材作成 ワーキンググループ（委員）としての経験がある。</p> <p>専門理学療法士（基礎理学療法・生活環境支援理学療法）、サルコペニア・フレイル指導士など</p>

の資格を有する。
転倒予防指導士基礎講習会（2018年～）、群馬県フレイル予防サポーター養成（2019年～）の講師なども務める。

アクティブラーニング要素

- PBL(課題解決型学習)
- ディスカッション・ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- アクティブラーニングは実施していない

情報リテラシー教育

- 情報モラルに関する教育
- 課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）
- 情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）
- 情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）
- 情報リテラシー教育は実施していない

ICTの活用

- ICTを活用した双方向型の授業の実施
- e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援
- その他

その他の具体的内容

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	1単位(30)	必修
担当教員			
小林雄斗・小林昭博			
人体の構造と機能及び心身の発達	理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業の目的] 解剖学、運動学で学んだ知識を用いて、実際に人体の観察・触知する技術の基礎を学ぶ。 [到達目標] ①対象者に不快を与えない手技について説明できる。 ②対象者に対するあらゆる配慮について述べる事ができる。 ③解剖学で学んだ主要な部位を体表から観察、触知できる。
授業の概要	対象者が困難となっている日常生活の様々な活動について改善を促していくために、まず動作がどのように行われているのか(どのようにできていないのか)を観る事ができなければならない。また、これまでに学んだ解剖学や運動学に知識を照らし合わせて、原因となっている身体組織を見抜いていく必要がある。そのような能力を養う授業となる。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	○
(理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	◎
(理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	
(作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	○
(作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	◎
(作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	<p>第1回</p> <p>オリエンテーション</p> <p>【key words】 到達目標、触診</p> <p>【授業概要】 体表解剖・触診演習での、授業内容、進め方、注意点等の説明を行う。 ※第1回では服装指定はなし。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 使用教科書に一通り目を通しておく。 特に運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢：P10-13「触診を行う際の指のあて方」はよく読み、内容を把握しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習：60分 復習：30分</p> <p>第2回</p> <p>上肢① 実技前学習</p> <p>【key words】 三角筋(前部線維・中部線維・後部線維)、大胸筋、棘上筋、棘下筋、広背筋</p> <p>【授業概要】 三角筋(前部線維・中部線維・後部線維)、大胸筋、棘上筋、棘下筋、広背筋の触診についての事前学習を行う。 ワークシートを基にペア学習を行い、情報を共有しておくこと。 【教科書ページ・参考文献】 運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢：P154-176、P192-197</p>
------	--

	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習：30分 復習：60分</p> <p>第3回 上肢① 実技</p> <p>【key words】 三角筋（前部線維・中部線維・後部線維）、大胸筋、棘上筋、棘下筋、広背筋</p> <p>【授業概要】 教員による三角筋（前部線維・中部線維・後部線維）、大胸筋、棘上筋、棘下筋、広背筋の触診のデモンストレーションを見学し、実際にペアで触診を行う。 解剖学、運動学を理解した上で、触診できるようにすること。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢：P154-176、P192-197</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 第2回で実技前学習を行った内容をしっかり理解しておくこと。 動画テキストを使用し、触診時のポイントを整理しておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習：60分 復習：60分</p> <p>第4回 上肢② 実技前学習</p> <p>【key words】 僧帽筋（上部線維、中部線維、下部線維）、小胸筋、前鋸筋、上腕二頭筋、上腕三頭筋</p> <p>【授業概要】 僧帽筋（上部線維、中部線維、下部線維）、小胸筋、前鋸筋、上腕二頭筋、上腕三頭筋の触診についての事前学習を行う。 ワークシートを基にペア学習を行い、情報を共有しておくこと。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢：P202-207、P215-230、P240-247</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 第3回で実施した実技内容を必ず理解しておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習：30分 復習：60分</p> <p>第5回 上肢② 実技</p> <p>【key words】 僧帽筋（上部線維、中部線維、下部線維）、小胸筋、前鋸筋、上腕二頭筋、上腕三頭筋</p> <p>【授業概要】 教員による僧帽筋（上部線維、中部線維、下部線維）、小胸筋、前鋸筋、上腕二頭筋、上腕三頭筋の触診のデモンストレーションを見学し、実際にペアで触診を行う。 解剖学、運動学を理解した上で、触診できるようにすること。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢：P202-207、P215-230、P240-247</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 第4回で実技前学習を行った内容をしっかり理解しておくこと。 動画テキストを使用し、触診時のポイントを整理しておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習：60分 復習：60分</p> <p>第6回 上肢③ 実技前学習</p> <p>【key words】 長掌筋、橈側手根屈筋、尺側手根屈筋、長橈側手根伸筋、短橈側手根伸筋</p> <p>【授業概要】 長掌筋、橈側手根屈筋、尺側手根屈筋、長橈側手根伸筋、短橈側手根伸筋の触診についての事前学習を行う。 ワークシートを基にペア学習を行い、情報を共有しておくこと。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢：P261-279</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 第5回で実施した実技内容を必ず理解しておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習：30分 復習：60分</p> <p>第7回 上肢③ 実技</p> <p>【key words】 長掌筋、橈側手根屈筋、尺側手根屈筋、長橈側手根伸筋、短橈側手根伸筋</p> <p>【授業概要】 教員による長掌筋、橈側手根屈筋、尺側手根屈筋、長橈側手根伸筋、短橈側手根伸筋の触診のデモンストレーションを見学し、実際にペアで触診を行う。 解剖学、運動学を理解した上で、触診できるようにすること。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢：P261-279</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 第6回で実技前学習を行った内容をしっかり理解しておくこと。 動画テキストを使用し、触診時のポイントを整理しておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習：60分 復習：60分</p> <p>第8回 下肢① 実技前学習</p> <p>【key words】 大腿筋膜張筋、中殿筋、大殿筋、梨状筋</p> <p>【授業概要】</p>
--	---

第9回	<p>大腿筋膜張筋、中殿筋、大殿筋、梨状筋の触診についての事前学習を行う。 ワークシートを基にペア学習を行い、情報を共有しておくこと。 【教科書ページ・参考文献】 運動療法のための機能解剖学的触診技術 下肢・体幹：P2-23、P47-50、P151-171 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第7回で実施した実技内容を必ず理解しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習：30分 復習：60分 下肢① 実技 【key words】 大腿筋膜張筋、中殿筋、大殿筋、梨状筋 【授業概要】 教員による大腿筋膜張筋、中殿筋、大殿筋、梨状筋の触診のデモンストレーションを見学し、実際にペアで触診を行う。 解剖学、運動学を理解した上で、触診できるようにすること。 【教科書ページ・参考文献】 運動療法のための機能解剖学的触診技術 下肢・体幹：P2-23、P47-50、P151-171 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第8回で実技前学習を行った内容をしっかり理解しておくこと。 動画テキストを使用し、触診時のポイントを整理しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習：60分 復習：60分</p>
第10回	<p>下肢② 実技前学習 【key words】 縫工筋、大腿直筋、外側広筋、内側広筋 【授業概要】 縫工筋、大腿直筋、外側広筋、内側広筋の触診についての事前学習を行う。 ワークシートを基にペア学習を行い、情報を共有しておくこと。 【教科書ページ・参考文献】 運動療法のための機能解剖学的触診技術 下肢・体幹：P5-7、P30-35、P113-117、P146-150、P180-204 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第7回で実施した実技内容を必ず理解しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習：30分 復習：60分</p>
第11回	<p>下肢② 実技 【key words】 縫工筋、大腿直筋、外側広筋、内側広筋 【授業概要】 教員による縫工筋、大腿直筋、外側広筋、内側広筋の触診のデモンストレーションを見学し、実際にペアで触診を行う。 解剖学、運動学を理解した上で、触診できるようにすること。 【教科書ページ・参考文献】 運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢・体幹：P5-7、P30-35、P113-117、P146-150、P180-204 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第10回で実技前学習を行った内容をしっかり理解しておくこと。 動画テキストを使用し、触診時のポイントを整理しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習：60分 復習：60分</p>
第12回	<p>下肢③ 実技前学習 【key words】 半腱様筋、半膜様筋、大腿二頭筋（短頭・長頭）、前脛骨筋、腓腹筋、ヒラメ筋 【授業概要】 半腱様筋、半膜様筋、大腿二頭筋（短頭・長頭）、前脛骨筋、腓腹筋、ヒラメ筋の触診についての事前学習を行う。 ワークシートを基にペア学習を行い、情報を共有しておくこと。 【教科書ページ・参考文献】 運動療法のための機能解剖学的触診技術 下肢・体幹：P14-17、P51-53、P68-81、P205-216、P227-231、P236-241 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第11回で実施した実技内容を必ず理解しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習：30分 復習：60分</p>
第13回	<p>下肢③ 実技 【key words】 半腱様筋、半膜様筋、大腿二頭筋（短頭・長頭）、前脛骨筋、腓腹筋、ヒラメ筋 【授業概要】 教員による半腱様筋、半膜様筋、大腿二頭筋（短頭・長頭）、前脛骨筋、腓腹筋、ヒラメ筋の触診のデモンストレーションを見学し、実際にペアで触診を行う。 解剖学、運動学を理解した上で、触診できるようにすること。 【教科書ページ・参考文献】 運動療法のための機能解剖学的触診技術 下肢・体幹：P14-17、P51-53、P68-81、P205-216、P227-231、P236-241 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第12回で実技前学習を行った内容をしっかり理解しておくこと。 動画テキストを使用し、触診時のポイントを整理しておくこと。</p>

	<p>【予習復習に必要な想定時間】 予習：60分 復習：60分 実技試験 【key words】</p> <p>【授業概要】 ペアごとに実技試験を行う。 試験内容は、授業中にアナウンスを行う。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 これまで授業を十分に理解し、実技試験に臨むこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習：60分 実技試験 【key words】</p> <p>【授業概要】 ペアごとに実技試験を行う。 試験内容は、授業中にアナウンスを行う。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 これまで授業を十分に理解し、実技試験に臨むこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習：60分</p>
受講生に関わる情報 および受講のルール	<p><服装指定> 半袖、短パン</p> <p><持ち物> タオル（またはハンカチ）、フェイスシールド（またはゴーグル）、マスク、色鉛筆3色</p> <p><学習方法> 解剖学、運動学の知識を獲得済みであることが前提とします。不十分な者は事前学習を個人で進めてください。</p>
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	Googleフォーム
授業外時間にかかわ る情報	<ul style="list-style-type: none"> ・各講義に対して予習・復習を積極的に取り組むこと。 ・各講義でわからないことは下記オフィスアワー等を使用し解決するように努力すること。
オフィスアワー	<p>【小林雄斗】木曜日16:30～17:30は随時 【小林昭博】月曜日16:30～17:30は随時 ※変更時は掲示します。その他の曜日においては要予約 ※都合により対応できない場合もあります。</p>
評価方法	筆記試験60%、実技試験30%、ポートフォリオ10%の割合で総合的に評価を行う。
教科書	<p>林典雄（執筆）：改訂第2版運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢，メディカルビュー社，2011 林典雄（執筆）：改訂第2版運動療法のための機能解剖学的触診技術 下肢・体幹，メディカルビュー社，2016 林典雄（執筆）：動画でマスター！機能解剖学的触診技術 上肢+下肢・体幹セット，メディカルビュー社，2016 奈良勲ら（監修）：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学，第4版，医学書院，2018 井樋栄二ら（編集）：標準整形外科学，第14版，医学書院，2020</p>
参考書	小柳磨毅ら（編者）：PT・OTのための運動学テキスト 基礎・実習・臨床，金原出版，2015
実務者経験/アク ティブラーニング/ リテラシー教育	<p>授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容 【小林雄斗】 急性期および回復期のリハビリテーション病棟で理学療法士として従事し、主に脳血管疾患のリハビリテーションに携わってきた。 【小林昭博】急性期及び回復期リハビリテーション病棟、外来（生活期）で作業療法士として21年間従事してきた。</p> <p>アクティブラーニング要素 <input type="checkbox"/> PBL(課題解決型学習) <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input checked="" type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> アクティブラーニングは実施していない</p> <p>情報リテラシー教育 <input type="checkbox"/> 情報モラルに関する教育 <input checked="" type="checkbox"/> 課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） <input type="checkbox"/> 情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） <input checked="" type="checkbox"/> 情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）</p>

	<p><input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない</p> <p>ICTの活用</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>ICTを活用した双方向型の授業の実施</p> <p><input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援</p> <p><input type="checkbox"/>その他</p> <p>その他の具体的内容</p>
--	--

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	1単位(30)	必修
担当教員			
浅野貞美・宮寺亮輔・古田常人			
人体の構造と機能及び心身の発達	理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] 運動生理学は運動に対する生理反応を理解する学問である。運動という治療手段を用いてリハビリテーションを実践する我々セラピストにとって極めて重要な知識である。運動時の呼吸循環反応や運動の効果について理解することを目的とする。</p> <p>[到達目標] ①運動が循環器系に与える影響を説明できる。 ②運動が呼吸器系に与える影響を説明できる。 ③運動負荷試験による生体反応のしくみを説明できる。</p>
授業の概要	運動器障害を有する高齢者や、循環器・呼吸器をはじめとする内部障害などをもつ対象者における運動時の呼吸循環反応や運動の効果についての理解は、運動という手段を用いてリハビリテーションを実践する理学療法士・作業療法士にとって、極めて重要である。運動時の呼吸循環反応や運動が身体に及ぼす影響について、演習も交え学ぶ。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	○
(理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	◎
(理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	
(作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	
(作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション</p> <p>【key words】 講義の受け方、オリエンテーション、小テスト</p> <p>【授業概要】 ①1年次で学んだ循環系に関する小テストを実施する。 ②授業概要の説明と導入を行う。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 生理学教科書、各種資料</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 小テストの範囲について学習すること</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1.5時間</p> <p>第2回 循環器系の解剖生理①</p> <p>【key words】 心臓、循環、解剖・生理</p> <p>【授業概要】</p>
------	--

	<p>①循環器系の構造と機能を理解する。 ②循環器系の生理学を理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 解剖学・生理学・運動学教科書</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 key wordsに関する内容を復習すること 小テスト勉強をすること</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1.5時間</p>
第3回	<p>循環器系の解剖生理②</p> <p>【key words】 心臓、刺激伝導系</p> <p>【授業概要】 ①刺激伝導系を理解する。 ②心臓の支配神経を理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 解剖学・生理学・運動学教科書</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 key wordsに関する内容を復習すること</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
第4回	<p>循環器系の解剖生理③</p> <p>【key words】 心拍数、心拍出量、前負荷、後負荷</p> <p>【授業概要】 ①心拍数、心拍出量を理解する。 ②心拍出量を規定する因子を理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 リハビリテーション運動生理学 その他の参考教科書</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 key wordsに関する内容を予習・復習すること</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
第5回	<p>運動負荷と循環応答①</p> <p>【key words】 運動、血圧、血圧調節</p> <p>【授業概要】 ①血圧に関する小テスト実施 ②血圧の定義を理解する。 ③血圧を調節する機構を理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 リハビリテーション運動生理学 その他の参考教科書</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 key wordsに関する内容を予習・復習すること</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
第6回	<p>運動負荷と循環応答②</p> <p>【key words】 運動、血流分配</p> <p>【授業概要】 ①安静時と運動時の血流分配を理解する。 ②漸増運動負荷時の変化を理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 リハビリテーション運動生理学 その他の参考教科書</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 key wordsに関する内容を予習・復習すること</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
第7回	<p>呼吸器系の解剖生理①</p> <p>【key words】</p>

	<p>呼吸器系の構造、呼吸運動、ガス交換</p> <p>【授業概要】 ①呼吸に関連する小テストを実施 ②呼吸器系の構造を理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 リハビリテーション運動生理学 解剖学・生理学・運動学教科書</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 key wordsに関する内容を予習・復習すること</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
第8回	<p>呼吸器系の解剖生理②</p> <p>【key words】 呼吸器系の構造、呼吸運動、ガス交換</p> <p>【授業概要】 ①呼吸運動、ガス交換を理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 リハビリテーション運動生理学 解剖学・生理学・運動学教科書</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 key wordsに関する内容を予習・復習すること</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
第9回	<p>呼吸器系の解剖生理③</p> <p>【key words】 呼吸調節、酸塩基平衡、酸素解離曲線</p> <p>【授業概要】 ①呼吸調節機構を理解する。 ②酸塩基平衡、酸素解離曲線を理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 リハビリテーション運動生理学 その他の参考教科書</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 key wordsに関する内容を予習・復習すること</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
第10回	<p>呼吸機能検査</p> <p>【key words】 スパイロメータ、フローボリューム曲線</p> <p>【授業概要】 呼吸機能検査を理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 リハビリテーション運動生理学 その他の参考教科書</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 key wordsに関する内容を予習・復習すること</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
第11回	<p>運動と呼吸</p> <p>【key words】 運動、呼吸</p> <p>【授業概要】 運動時の呼吸状態を理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 リハビリテーション運動生理学 解剖学・生理学・運動学教科書 その他の参考教科書</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 key wordsに関する内容を予習・復習すること</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
第12回	<p>運動と筋①</p> <p>【key words】 筋線維、筋収縮、運動</p> <p>【授業概要】 ①筋線維の種類と組成について理解する。 ②筋の収縮様式と各収縮様式の特徴を理解する。</p>

	<p>【小テスト】 2年次までに学習した呼吸に関連する領域について、小テストを実施する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 リハビリテーション運動生理学 解剖学・生理学・運動学教科書</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 key wordsに関する内容を予習・復習すること</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p> <p>第13回 運動と筋②</p> <p>【key words】 筋線維、筋収縮、運動</p> <p>【授業概要】 ①運動による筋線維組成や筋力の変化を理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 リハビリテーション運動生理学 解剖学・生理学・運動学教科書</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 key wordsに関する内容を予習・復習すること</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p> <p>第14回 運動とエネルギー</p> <p>【key words】 エネルギー供給機構、ATP</p> <p>【授業概要】 ①エネルギー供給機構を理解する。 ②身体活動時のエネルギー供給を理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 リハビリテーション運動生理学 解剖学・生理学・運動学教科書</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 key wordsに関する内容を予習・復習すること</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p> <p>第15回 運動処方</p> <p>【key words】 運動強度、運動処方</p> <p>【授業概要】 ①運動処方を理解する。 ②運動強度の表し方、計算方法を理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 リハビリテーション運動生理学</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 key wordsに関する内容を予習・復習すること</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 1時間</p>
受講生に関わる情報 および受講のルール	<p>〔受講生に関わる情報〕 講義への出席は必須であり、無断欠席・遅刻は小テスト成績ならびに課題発表に影響するので注意すること。 実習を行う際は大学指定体操着着用とする。 臨床実習に準じる身だしなみ（爪は短く切る、長い髪は束ねる、アクセサリ・香水・派手な化粧・頭髪の染色など不可）とする。</p> <p>【受講のルール】 ①シラバスを毎回持参し、各回の講義終了時、次回の内容を確認の上、受講準備を十分行う事。 ②受講態度や身だしなみ（前述の通り）等が整っていない場合は受講を認めない。 ③他の受講生の迷惑になる行為（私語、スマートフォン等の使用）は厳禁。指導により態度を改めない場合は受講を認めない。</p>
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	チャトルカード方式
授業外時間にかかわ る情報	①講義終了後、シラバスで次回内容の確認をし、受講の準備計画を立てる。 ②前回講義内容の復習をし、要点をまとめておく。 ③次回内容のkey wordsを中心にわからないことを事前に調べておくこと。
オフィスアワー	水曜日16時から17時は随時。それ以外は要予約。
評価方法	小テスト20%、課題レポート20%、筆記試験60% 総合評価は筆記試験が60%以上であることが前提となる。
教科書	玉木 彰・監修：リハビリテーション運動生理学，メジカルニュー社
参考書	適宜紹介する
実務者経験/アク ティブラーニング/	授業担当教員

リテラシー教育	<p><input type="checkbox"/>実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習) <input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/>グループワーク <input checked="" type="checkbox"/>プレゼンテーション <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育 <input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの(図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) <input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの(情報処理、情報整理法等) <input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの(レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) <input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 <input type="checkbox"/>その他 <p>その他の具体的内容</p>
---------	--

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	1単位(30)	必修
担当教員			
小林雄斗・宮寺亮輔・古田常人・新谷益巳			
人体の構造と機能及び心身の発達	理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>【授業の目的】 人の動きに関して、筋力、角度・位置・速さの変化、重心の変化などを観察や各種測定機器を利用して分析する。そして、人間の活動のメカニズムを理解し、その動き・昨日を解剖・生理学・運動学、および医学用語を用いて表現できるようになる。</p> <p>【到達目標】 1) 身体の各部位や肢節の長さや周径等を正しく計測し、結果を適切に評価できる。 2) セグメント法により平面上で重心位置を推定し、平面上で重心線が体重支持面上に落ちることを証明できる。 3) 重心動揺計を用いていわゆる”重心動揺”を測定できる。重心と足圧中心の違い、立位姿勢制御における視覚の役割を説明できる。 4) 体重を用いて、この原理で重心の位置を推定することができる。 5) 運動課題に対する静的バランスと動的バランスの評価の仕方を説明できる。 6) 筋機能解析装置を使用し、筋力測定が行える。また肢位・角速度による筋力の違い、筋疲労を理解し、種々の活動における複合筋力を測定できる。 7) 筋電図法と電気角度計を用いて動作分析ができる。 8) 学習とパフォーマンスの関係を説明できる。反復練習に伴うパフォーマンスの変化を確認し、トランスファーテストを用いて運動学習の成立を確認する。 9) 健常者の寝返り・立ち上がり、座位、起立、歩行の動作を観察し、運動学テキストに記載されている運動分析にそって分析ができ、動作分析に必要な表現ができる。 10) 3次元動作解析装置を利用し、正常動作の動作分析、および解析を学ぶ。</p>
授業の概要	ひとが日々暮らしていく中で行っている様々な行為は、姿勢を保ちながら体の一部を動かして行われる。このひとの動きの基礎となる姿勢、運動、動作について学び、それらを行うために必要な機能について、動作分析の方法や機器を用いて学んでいく。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	◎
(理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	◎
(理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	
(作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	◎
(作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	◎
(作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	
授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション、体格・筋力・姿勢の測定方法について</p> <p>【key words】 到達目標、形態計測、体格、筋力測定、姿勢、支持基底面、重心、床反力、線画、アライメント、圧中心、静的バランス、動的バランス、リーチ</p> <p>【授業概要】 ①科目オリエンテーション ・科目での到達目標、進め方についてのガイダンス ②体格の測定方法について ・肢長、周径、身体の各部位や肢節の長さや周径等を正しく計測する。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・形態計測の結果を適切に評価できる。 ③筋力の測定方法について <ul style="list-style-type: none"> ・肢位の違いによる握力の計測、連続握力測定による筋持久力を評価する。 ④姿勢の測定方法について <ul style="list-style-type: none"> ・姿勢の概念について理解できる ・支持基底面、重心、重心線、身体重心、床反力、圧中心が理解できる ・線画を描くことができる ・支持基底面と重心の関係性を理解できる ・リーチなど運動課題に対する静的バランスと動的バランスの評価の仕方を理解できる。 <p>【教科書ページ・参考文献】 運動学テキスト：P341-344 配布資料・運動学実習の手引き(個人実習用) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・提示している参考テキストをよく読み授業に臨むこと ・各関節の関節運動について復習して授業に臨むこと ・実習が行える服装で参加すること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分</p>
第2回	<p>姿勢・バランスについて／体格・筋力・姿勢の測定値の分析</p> <p>【key words】 平均値、標準偏差、t検定、相関分析 【授業概要】 ・姿勢・バランスについての解説講義 ・第1回について解析方法、結果の書き方、及び考察の視点を説明する。 ・各個人の結果が、世代平均値と比較してどうだったかを考察する。 ・被験者全員の結果を平均値、標準偏差、統計分析(t検定、相関)の値から理解し、各個人の結果と比較して考察する。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料・運動学実習の手引き(個人実習用) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個人実習レポートを作成する。 【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分</p>
第3回	<p>体格・筋力・姿勢の測定値の分析②</p> <p>【key words】 平均値、標準偏差、t検定、相関分析 【授業概要】 ・第2回に引き続き、解析、結果、考察を行う。 ・各個人の結果が、世代平均値と比較してどうだったかを考察する。 ・被験者全員の結果を平均値、標準偏差、統計分析(t検定、相関)の値から理解し、各個人の結果と比較して考察する。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料・運動学実習の手引き(個人実習用) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個人実習レポートを提出する。 【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分</p>
第4回	<p>個人実習のまとめ</p> <p>【key words】 到達目標、形態計測、体格、筋力測定、姿勢、支持基底面、重心、床反力、線画、アライメント、圧中心</p> <p>【授業概要】 ・体格・筋力・姿勢の測定意義について解説する。 ・個人実習レポートの考察点について解説する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 配布資料・運動学実習の手引き(個人実習用) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回からグループ実習のため、グループ実習の手引きをよく読んでおくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分</p>
第5回	<p>筋機能解析装置／筋電図／運動学習</p> <p>【key words】 筋機能解析、筋電図、運動学習、学習曲線、熟練</p> <p>【授業概要】 ・グループ学習。被験者を選出し、筋の働きを機器を使って計測および分析する。 ・筋機能解析装置を使用し、筋力測定が行える。 ・肢位・角速度による筋力の違い、筋疲労を理解し、種々の活動における複合筋力を測定する。 ・筋電図法と電気角度計を用いて動作分析をする。 ・グループ学習。被験者を選出し、基本動作を機器を使って計測および分析をする。 ・グループ学習。被験者を選出し、釘打ちテストで運動学習を計測および分析する。 ・学習とパフォーマンスの関係性を説明できる。反復練習に伴うパフォーマンスの変化を確認し、釘打ちテストを用いて運動学習の成立を確認する。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料・運動学実習の手引き(グループ実習用) 運動学テキスト：筋機能解析；P16-30、筋電図；P30-59、運動学習；P60-84 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実習ができる服装で参加すること。グループ課題のため、それぞれの役割分担と議論を行うスケジュール調整をすること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分</p>
第6回	<p>筋機能解析装置／筋電図／運動学習</p>

第7回	<p>【key words】 筋機能解析、筋電図、運動学習、学習曲線、熟練</p> <p>【授業概要】 ・グループ学習。被験者を選出し、筋の働きを機器を使って計測および分析する。 ・筋機能解析装置を使用し、筋力測定が行える。 ・肢位・角速度による筋力の違い、筋疲労を理解し、種々の活動における複合筋力を測定する。 ・筋電図法と電気角度計を用いて動作分析をする。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料・運動学実習の手引き(グループ実習用) 運動学テキスト：筋機能解析；P16-30、筋電図；P30-59、運動学習；P60-84 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実習ができる服装で参加すること。グループ課題のため、それぞれの役割分担と議論を行うスケジュール調整をすること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分</p>
第8回	<p>筋機能解析装置／筋電図／運動学習</p> <p>【key words】 筋機能解析、筋電図、運動学習、学習曲線、熟練</p> <p>【授業概要】 ・グループ学習。被験者を選出し、筋の働きを機器を使って計測および分析する。 ・筋機能解析装置を使用し、筋力測定が行える。 ・肢位・角速度による筋力の違い、筋疲労を理解し、種々の活動における複合筋力を測定する。 ・筋電図法と電気角度計を用いて動作分析をする。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料・運動学実習の手引き(グループ実習用) 運動学テキスト：筋機能解析；P16-30、筋電図；P30-59、運動学習；P60-84 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実習ができる服装で参加すること。グループ課題のため、それぞれの役割分担と議論を行うスケジュール調整をすること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分</p>
第9回	<p>筋機能解析装置・筋電図・運動学習の解析方法について</p> <p>【key words】 筋機能解析、筋電図、運動学習、学習曲線、熟練</p> <p>【授業概要】 ・第5～7回について解析方法、結果の書き方、及び考察の視点を説明する。 ・各グループの被験者の結果が、他の被験者の結果と比較してどうだったかを考察する。 ・各グループの被験者の結果が、正常値や文献の結果と比較してどうだったかを考察する。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料・運動学実習の手引き(グループ実習用) 運動学テキスト：筋機能解析；P16-30、筋電図；P30-59、運動学習；P60-84 【課題・予習・復習・授業準備指示】 グループ実習レポートが提出できるように準備をしていくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習180分／復習180分(内発レポート作成180分)</p>
第10回	<p>動作分析(寝返り・起き上がり)／動作分析(座位・起立)／動作分析(歩行)</p> <p>【key words】 動作分析、寝返り、起き上がり、座位、起立動作、線画、支持基底面、重心、筋活動歩行周期、倒立振り子、二重振り子、ロッカーファンクション</p> <p>【授業概要】 ①寝返り、起き上がり動作について ・寝返り、起き上がり動作を相分けし、線画を描ける ・寝返り、起き上がり動作を文章化できる ・寝返り、起き上がり動作における筋活動を考察できる ②座位・起立動作について ・座位姿勢の線画を描ける ・座位姿勢を文章化できる ・起立動作を相分けし、線画を描ける ・起立動作を文章化できる ・起立動作における筋活動を考察できる ・起立動作時の支持基底面と重心の関係性を理解できる ③正常歩行について ・正常歩行の周期について理解できる ・倒立振り子、二重振り子について理解できる ・歩行中の重心移動について理解できる ・ロッカーファンクションについて理解できる 【教科書ページ・参考文献】 運動学テキスト：寝返り・起き上がり；P460-474、座位・起立；P475-495、歩行；P365-389 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・提示している参考テキストをよく読み授業に臨むこと ・1年生で学んだ歩行についての範囲をよく復習しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分</p>
第10回	<p>動作分析(寝返り・起き上がり)／動作分析(座位・起立)／動作分析(歩行)</p> <p>【key words】 動作分析、寝返り、起き上がり、座位、起立動作、線画、支持基底面、重心、筋活動歩行周期、倒立振り子、二重振り子、ロッカーファンクション</p> <p>【授業概要】 ①寝返り、起き上がり動作について ・寝返り、起き上がり動作を相分けし、線画を描ける</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・寝返り、起き上がり動作を文章化できる ・寝返り、起き上がり動作における筋活動を考察できる <p>②座位・起立動作について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・座位姿勢の線画を描ける ・座位姿勢を文章化できる ・起立動作を相分けし、線画を描ける ・起立動作を文章化できる ・起立動作における筋活動を考察できる ・起立動作時の支持基底面と重心の関係性を理解できる <p>③正常歩行について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正常歩行の周期について理解できる ・倒立振り子、二重振り子について理解できる ・歩行中の重心移動について理解できる ・ロッカーファンクションについて理解できる <p>【教科書ページ・参考文献】 運動学テキスト：寝返り・起き上がり；P460-474、座位・起立；P475-495、歩行；P365-389 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・提示している参考テキストをよく読み授業に臨むこと ・1年生で学んだ歩行についての範囲をよく復習しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分</p> <p>第11回 動作分析（寝返り・起き上がり）／動作分析（座位・起立）／動作分析（歩行）</p> <p>【key words】 動作分析、寝返り、起き上がり、座位、起立動作、線画、支持基底面、重心、筋活動歩行周期、倒立振り子、二重振り子、ロッカーファンクション 【授業概要】</p> <p>①寝返り、起き上がり動作について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寝返り、起き上がり動作を相分けし、線画を描ける ・寝返り、起き上がり動作を文章化できる ・寝返り、起き上がり動作における筋活動を考察できる <p>②座位・起立動作について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・座位姿勢の線画を描ける ・座位姿勢を文章化できる ・起立動作を相分けし、線画を描ける ・起立動作を文章化できる ・起立動作における筋活動を考察できる ・起立動作時の支持基底面と重心の関係性を理解できる <p>③正常歩行について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正常歩行の周期について理解できる ・倒立振り子、二重振り子について理解できる ・歩行中の重心移動について理解できる ・ロッカーファンクションについて理解できる <p>【教科書ページ・参考文献】 運動学テキスト：寝返り・起き上がり；P460-474、座位・起立；P475-495、歩行；P365-389 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・提示している参考テキストをよく読み授業に臨むこと ・1年生で学んだ歩行についての範囲をよく復習しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 予習90分／復習90分</p>
	<p>第12回 動作分析（寝返り・起き上がり）／動作分析（座位・起立）／動作分析（歩行）の解析方法について</p> <p>【key words】 動作分析、寝返り、起き上がり、座位、起立動作、線画、支持基底面、重心、筋活動歩行周期、倒立振り子、二重振り子、ロッカーファンクション 【授業概要】 ・第9～11回について解析方法、結果の書き方、及び考察の視点を説明する。 ・各グループの被験者の結果が、他の被験者の結果と比較してどうだったかを考察する。 ・各グループの被験者の結果が、正常値や文献の結果と比較してどうだったかを考察する。 【教科書ページ・参考文献】 運動学テキスト：寝返り・起き上がり；P460-474、座位・起立；P475-495、歩行；P365-389 【課題・予習・復習・授業準備指示】 グループ実習レポートが提出できるように準備をしていくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習180分／復習180分（内発レポート作成180分）</p>
	<p>第13回 解析方法について/発表準備</p> <p>【key words】 平均値、標準偏差、t検定、相関分析 【授業概要】 ・第5回～12回について解析方法、結果の書き方、及び考察の視点を説明する。 ・各グループの被験者の結果が、他の被験者の結果と比較してどうだったかを考察する。 ・各グループの被験者の結果が、正常値や文献の結果と比較してどうだったかを考察する。 ・次回発表できるように発表資料を作成する。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料・運動学実習の手引き(グループ実習用) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 グループレポートが提出できるように準備をしていくこと。次回発表できるように準備をすること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習180分／復習180分（内発表資料準備180分）</p>
	<p>第14回 発表</p> <p>【key words】</p>

	<p>発表、質疑応答 【授業概要】 ・今まで行ったグループ実習について、各グループで担当した範囲について発表を行う。指定なし発表は1グループ質疑を含め20分で行う。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料・運動学実習の手引き(グループ実習用) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 グループレポートの提出 【予習復習に必要な想定時間】 予習90分/復習90分</p> <p>第15回</p> <p>発表 【key words】 発表、質疑応答 【授業概要】 ・今まで行ったグループ実習について、各グループで担当した範囲について発表を行う。指定なし発表は1グループ質疑を含め20分で行う。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料・運動学実習の手引き(グループ実習用) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 グループレポートの提出 【予習復習に必要な想定時間】 予習90分/復習90分</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<p>実際に体を動かすことが多いため、学校指定のジャージを用意しておくこと。 メモがしやすいように筆記用ボードを用意しておくこと。 課題の提出は、原則としてデータ収集、あるいは解析方法の指導後2週間後の17時、担当教員に提出すること。</p>
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード方式
授業外時間にかかわる情報	解析方法などは授業内で説明するが、解析し、結果・考察を導き出すためには、解剖学・生理学・運動学の復習や深い理解が必要となる。グループで協力し、理解を深めること。
オフィスアワー	月曜日16時30分～18時は随時(変更時は掲示する)。その他の曜日においては要予約
評価方法	<input type="checkbox"/> レポート70%(個人実習レポート50%, グループ実習レポート20%) <input type="checkbox"/> 演習課題(発表など)30%
教科書	小柳磨毅ら・編:PT・OTのための運動学テキスト 基礎・実習・臨床第1版, 金原出版, 2015
参考書	石川朗ら・編:理学療法・作業療法テキスト 臨床運動学第1版, 中山書店, 2018
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <p>■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>小林雄斗 理学療法士経験 年 理学療法士養成校教員経験 年</p> <p>新谷益美 理学療法士経験 年 理学療法士養成校教員経験 年</p> <p>古田常人 作業療法士経験 年 作業療法士養成校教員経験 年</p> <p>宮寺亮輔 作業療法士経験 15年 作業療法士養成校教員経験 11年</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <p><input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習) <input checked="" type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/>グループワーク <input checked="" type="checkbox"/>プレゼンテーション <input checked="" type="checkbox"/>実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</p> <p>情報リテラシー教育</p> <p>■情報モラルに関する教育 <input checked="" type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの(図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) <input checked="" type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの(情報処理、情報整理法等) <input checked="" type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの(レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) <input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない</p> <p>ICTの活用</p> <p>■ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 <input type="checkbox"/>その他</p>

	その他の具体的内容
--	-----------

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	1単位(15)	必修
担当教員			
前島俊孝			
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 病理学的な用語の定義、様々な疾患の発生機序や病態について学び、理解することを目的とする。</p> <p>〔到達目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病理学関連の用語を理解し、正しく説明できる。 ・基本的な疾患の病態について説明できる。 		
授業の概要	細胞傷害、循環障害、炎症、免疫、腫瘍、代謝異常などを学び、様々な疾病の成り立ち・病態が理解できるよう解説する。病理学概論の内容は、将来医療スタッフとして働いていく上で必要不可欠な知識であり、その理解なしには医学書を読むことも不可能である。覚えることが多いが、できるだけ考えることを重視した講義を行う。		
各学科、専攻、コースにおけるDP			科目における重要度
(理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			
(理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			○
(理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる			◎
(理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
(作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			
(作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			○
(作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。			◎
(作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
授業計画	第1回	<p>オリエンテーション、解剖学の復習</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】 解剖学、病理学の位置づけ。講義の予定、内容の説明、注意事項など。病理学を学習する上で必要不可欠な解剖学の知識の再確認。特に、上皮組織を取り上げ、復習する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 病理学と解剖学、両方の教科書を用意すること</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>	
	第2回	<p>細胞傷害</p> <p>【key words】 壊死、アポトーシス、萎縮、過形成、肥大、化生、再生、低形成、無形成</p> <p>【授業概要】 細胞傷害に関する用語を理解し、説明できるようにする。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書： p. 50-52</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>	

第3回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 30-60分 循環障害</p> <p>【key words】 出血、血栓、塞栓、梗塞、虚血、充血、うっ血、側副血行、浮腫、ショック</p> <p>【授業概要】 循環障害とは。循環障害に関する用語を理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書： p. 65-75</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当する部分を読んで復習する。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 30-60分</p>
第4回	<p>炎症、免疫、アレルギー</p> <p>【key words】 炎症性細胞、急性炎症、慢性炎症、肉芽組織、肉芽腫、免疫細胞、I型～V型アレルギー</p> <p>【授業概要】 炎症の定義、様々な炎症の種類について学ぶ。免疫機能、アレルギー反応について理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書： p. 76-101</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当する部分を読んで復習する。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 60-120分</p>
第5回	<p>腫瘍 1</p> <p>【key words】 良性腫瘍、悪性腫瘍、がん、癌腫、肉腫</p> <p>【授業概要】 腫瘍の定義、分類について理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書： p. 118-134</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当する部分を読んで復習する。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 30-60分</p>
第6回	<p>腫瘍 2</p> <p>【key words】 リンパ行性転移、血行性転移、播種性転移、腫瘍の診断、検査、治療</p> <p>【授業概要】 腫瘍発生の原因や、転移様式、腫瘍の診断、治療の流れを理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書： p. 118-134</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当する部分を読んで復習する。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 30-60分</p>
第7回	<p>代謝異常、糖尿病</p> <p>【key words】 血糖、インスリン、1型糖尿病、2型糖尿病、診断、合併症、治療</p> <p>【授業概要】 代謝異常、特に糖尿病について学習し、疾患の重要性を理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書： p. 317-323</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当する部分を読んで復習する。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 30-60分</p>
第8回	<p>まとめ</p> <p>【key words】 補足、講義のまとめ、試験について</p> <p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>【key words】</p>

	<p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>【key words】</p> <p>【授業概要】</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<ul style="list-style-type: none"> ・春休みに解剖学全般の復習をして、臨床医学Ⅰ(病理学)の講義に望んで欲しい。 ・机の隣同士2~3人で相談し、毎時間、病理学と解剖学の教科書を各1冊は用意すること。 ・臨床医学Ⅰ(病理学)の講義では授業中の質問に対して「わからない」は禁句である。試験ではないので、教科書等で調べたり、周りの学生と相談するなどして何らかの答えを導き出すように。 ・時間厳守であるが、もし遅刻した場合やトイレ等で退室する際などは、授業の妨げとならないよう静かに行動すること。 ・新聞やテレビなどのニュース、特に医療・医学に関する内容に興味を持つ。 ・読書の習慣を身につける。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	講義を受けることで、教科書を理解して読むことが可能となるはずである。講義で扱った範囲の教科書を読み復習する習慣をつけておくと、試験直前に勉強を0から始めるような状況にならずに済む。
オフィスアワー	講義の前後
評価方法	筆記試験(客観・論述)80%、レポート20%
教科書	堤 寛：クイックマスター 病理学 第2版, サイオ出版, 2018
参考書	解剖学の教科書(臨床医学Ⅰ(病理学)の講義でも使用する)
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> ■実務経験のある教員が担当している <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>病理診断科の医師として急性期病院に勤務。医療機関での実務経験をふまえて講義を行っている。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習) <input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/>グループワーク <input type="checkbox"/>プレゼンテーション <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク ■アクティブラーニングは実施していない <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育 <input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの(図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) <input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの(情報処理、情報整理法等) ■情報のアウトプットに関するもの(レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) <input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 <input type="checkbox"/>その他 <p>その他の具体的内容</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	1単位(15)	必修
担当教員			
多田真和			
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p><画像診断学について> 単純X線、X線CTおよびMRI等の画像は、疾患の診断および治療に欠かせないものです。理学療法士・作業療法士としてチーム医療を担う皆さんには、これらの画像を理解する力が求められています。臨床上遭遇することが多い疾患および状態について画像を読影、理解し、臨床像と結び付けられるようになることを目標とします。</p> <p><救急救命医学について> リハビリテーションは手術後の方、高齢者や障害を有する方を対象に行われることが多く、状態の急激な変化のリスクは決して少なくありません。現在、急性疾患に対する早期からのリハビリテーション介入の有効性が認識されていますが、全身状態が不安定な状況下でのリハビリテーション中に状態が急変する可能性は否定できません。本講義では、日常遭遇することが多い疾患および状態を取り上げ、その病態を理解し、生じうるリスクが想起でき、救命救急の場において対応できる力を身に付けることを目標とします。</p>
授業の概要	<p><画像診断学について> 日常遭遇することが比較的多い疾患および状態を取り上げ、その単純X線、X線CTおよびMRI等の画像を提示し、解剖学上の変化および臨床像と連携させ解説し、理解を深めて頂きます。</p> <p><救急救命医学について> 日常遭遇することが比較的多い疾患および状態について、その病態を理解した上で、リハビリテーションの介入により生じうる全身状態の変化を解説します。その上で、救急処置が必要になった際の対応法を学び、実践できるような知識を習得して頂きます。</p>

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	
(理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	
(作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	
(作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	
授業計画	<p>第1回 画像診断学についてのオリエンテーション、頭部疾患の画像診断 (1)</p> <p>【key words】 単純X線、X線CT、MRI、脳梗塞、脳内出血、くも膜下出血</p> <p>【授業概要】 オリエンテーションとして、画像診断の必要性和有用性を解説します。その上で、実際の脳梗塞、脳内出血およびくも膜下出血のCT画像、MRI画像を提示し、解剖学の知識をもとに生じている病態を解説し、臨床像と結び付け説明します。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 p. 1-35</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストの該当部分を熟読した上で授業に臨んで下さい。授業では、重要なポイントを解説しま</p>

	<p>す。授業終了後に重要ポイントを復習し、知識を確かなものとして下さい。 【予習復習に必要な想定時間】 30-60分</p>
第2回	<p>頭部疾患の画像診断 (2)、胸部疾患の画像診断 【key words】 頭部外傷、脳腫瘍、認知症、無気肺、肺気腫、肺炎、気胸、心タンポナーデ、大動脈瘤 【授業概要】 頭部外傷、脳腫瘍、認知症、さらに呼吸器、循環器疾患として無気肺、肺気腫、肺炎、気胸、心タンポナーデ、大動脈瘤を取り上げ、実際のCT画像、MRI画像を提示し、解剖学の知識をもとに生じている病態を解説し、臨床像と結び付け説明します。 【教科書ページ・参考文献】 p. 36-45 p. 125-140 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストの該当部分を熟読した上で授業に臨んで下さい。授業では、重要なポイントを解説します。授業終了後に重要ポイントを復習し、知識を確かなものとして下さい。 【予習復習に必要な想定時間】 30-60分</p>
第3回	<p>脊柱疾患の画像診断 【key words】 椎間板ヘルニア、後縦靭帯骨化症、腰部脊柱管狭窄症、腰椎分離すべり症、椎体圧迫骨折 【授業概要】 脊椎疾患として、椎間板ヘルニア、後縦靭帯骨化症、腰部脊柱管狭窄症、腰椎分離すべり症、椎体圧迫骨折を取り上げ、実際のCT画像、MRI画像を提示し、解剖学の知識をもとに生じている病態を解説し、臨床像と結び付け説明します。 【教科書ページ・参考文献】 p. 47-78 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストの該当部分を熟読した上で授業に臨んで下さい。授業では、重要なポイントを解説します。授業終了後に重要ポイントを復習し、知識を確かなものとして下さい。 【予習復習に必要な想定時間】 30-60分</p>
第4回	<p>上肢・下肢疾患の画像診断 【key words】 鎖骨骨折、肩鎖関節脱臼、上腕骨骨折、肘関節脱臼、橈骨遠位端骨折、中手骨骨折、変形性股関節症、 大腿骨骨折、脛骨骨折、腓骨骨折、前十字靭帯損傷、後十字靭帯損傷 【授業概要】 上肢の疾患として、鎖骨骨折、肩鎖関節脱臼、上腕骨骨折、肘関節脱臼、橈骨遠位端骨折、中手骨骨折、さらに下肢の疾患として、変形性股関節症、大腿骨骨折、脛骨骨折、腓骨骨折、前および後十字靭帯損傷等を取り上げ、実際のCT画像、MRI画像を提示し、解剖学の知識をもとに生じている病態を解説し、臨床像と結び付け説明します。 【教科書ページ・参考文献】 p. 79-123 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストの該当部分を熟読した上で授業に臨んで下さい。授業では、重要なポイントを解説します。授業終了後に重要ポイントを復習し、知識を確かなものとして下さい。 【予習復習に必要な想定時間】 30-60分</p>
第5回	<p>救命救急医学についてのオリエンテーション、 I リハビリテーションにおけるリスク管理 (総論) 【key words】 リハビリテーション、リスク管理、安全管理、法的責任 【授業概要】 リハビリテーションにおけるリスク管理の必要性、合併症予防のための情報収集、リスク管理に必要な薬剤の知識、状態変化時の対応、リハビリテーション中に起きたアクシデントと法的責任等について解説します。 【教科書ページ・参考文献】 p. 1-86 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストの該当部分を熟読した上で授業に臨んで下さい。授業では、重要なポイントを解説します。授業終了後に重要ポイントを復習し、知識を確かなものとして下さい。 【予習復習に必要な想定時間】 30-60分</p>
第6回	<p>II 疾患ごとの急変予測 ～どのような症例に急変が生じやすいか～ 【key words】 脳卒中、運動器疾患、循環器疾患、呼吸器疾患、悪性腫瘍、糖尿病 【授業概要】 状態の急な変化が比較的生じやすい、脳卒中、運動器疾患、循環器疾患、呼吸器疾患、悪性腫瘍および糖尿病について、その病態を学び、なぜ急変が生じやすいのか、また急変を予測する手法等について解説します。 【教科書ページ・参考文献】 p. 87-166 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストの該当部分を熟読した上で授業に臨んで下さい。授業では、重要なポイントを解説します。授業終了後に重要ポイントを復習し、知識を確かなものとして下さい。 【予習復習に必要な想定時間】 30-60分</p>
第7回	<p>III どのような急変を生じるか ～遭遇しやすい症状とその対処法～ 【key words】 胸痛、呼吸困難、意識障害、高血圧、低血圧、痙攣発作、てんかん発作、浮腫、深部静脈血栓症、肺塞栓、頭痛、発熱、脈拍異常、めまい、悪心・嘔吐、腹痛</p>

	<p>【授業概要】 リハビリテーション中に実際に生じやすい（遭遇しやすい）症状および状態について学び、そのような状況が見られた際の対応法について解説します。 【教科書ページ・参考文献】 p. 167-248 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストの該当部分を熟読した上で授業に臨んで下さい。授業では、重要なポイントを解説します。授業終了後に重要ポイントを復習し、知識を確かなものとして下さい。 【予習復習に必要な想定時間】 30-60分 第8回 IV 急変を生じた場合に V リハビリテーションに関連するその他のリスク 【key words】 一次救命処置、心肺蘇生、外傷の対処、転倒予測、転倒予防、窒息事故、気道吸引、気管カニューレ、感染管理 【授業概要】 急な状態の変化が見られた場合の対処法としての一次救命処置、心肺蘇生法、また、リハビリテーションの際に遭遇しやすい外傷およびその対処法について解説します。さらに、転倒の予測、予防方法と転倒後の対応、窒息事故の予測と対応等について解説します。 【教科書ページ・参考文献】 p. 249-344 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストの該当部分を熟読した上で授業に臨んで下さい。授業では、重要なポイントを解説します。授業終了後に重要ポイントを復習し、知識を確かなものとして下さい。 【予習復習に必要な想定時間】 30-60分</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	将来の医療従事者として、だれからも信頼されるような真摯な姿勢で授業に臨んでください。他の方の聴講を妨げることをないように配慮してください。教室の座席については、学籍番号順に、指定された席に着席して授業に臨んでください。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	前もってテキストの該当する範囲を熟読し、自身がわかりにくい部分を明確にした上で授業に臨んで下さい。授業では、テキストをもとに、さらに知識を深められるよう解説していきます。
オフィスアワー	授業終了後の30-60分ほど対応可能です。
評価方法	筆記試験（100％）予定
教科書	PT・OT 基礎から学ぶ画像の読み方 国試画像問題攻略 第3版（医歯薬出版株式会社） リハビリテーション リスク管理ハンドブック 第3版（メジカルビュー社）
参考書	授業中に適宜紹介します。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <p>■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>かつて大学病院にて、医師として臨床医学および基礎医学研究に携わっていました。現在も一般病院において、臨床医学を中心に活動しています。施設および個人宅への訪問診療を通じて高齢者、障害を有する方に対する医療を実践しています。また、産業医として、一般企業で働く方々の健康の維持、増進等の産業医学分野にも関わっています。さらに、健康診断、人間ドックにも携わり、予防医療分野にも従事しています。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習) <input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/>グループワーク <input type="checkbox"/>プレゼンテーション <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク ■アクティブラーニングは実施していない <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育 <input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） <input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） <input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） ■情報リテラシー教育は実施していない <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 <input type="checkbox"/>その他 <p>その他の具体的内容</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	1単位(15)	必修
担当教員			
神内伸也・古屋牧子・中里見真紀・大澤吉弘			
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 リハビリテーションにおける栄養知識の重要性を理解し、主な病態又は主な疾患の栄養療法を学ぶ。また必要な薬理学の理解を深め、疾患や障害に対する薬物療法の効果や副作用を分析する能力を修得する。</p> <p>〔到達目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> ① リハビリテーションを実施する上で必要な栄養に関する基礎知識を修得している。 ② 主な病態の栄養療法について修得している。 ③ 薬物療法の意義や目的について理解できる。 ④ 病群ごとの薬物の効果や副作用のリスクについて理解できる。 ⑤ 理学療法と薬物療法を併用することの効果と注意点について理解できる。
授業の概要	<p>将来、チーム医療を実践していくにあたり、医学および医療の幅広い知識を持つことが重要である。本講義では、リハビリテーションの実施に必要な解剖学、生理学、生化学等の講義で解剖学的構造、生理学的機能を学習した上で、より高度な医療に対応することを目的に栄養学、薬理学について学ぶ。</p> <p>授業全体を通し、患者さんに対するアプローチの多様性を考える力を高められるような授業を目指す。</p>

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	
(理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	
(作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	
(作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	<p>第1回 生化学を理解する(大澤)</p> <p>【key words】 基礎化学、蛋白質・アミノ酸、酵素・ホルモン、糖質・脂質、ビタミン</p> <p>【授業概要】 生物を構成する物質と機能、その合成と分解を理解し、生体の恒常性がどのように維持されているかについて学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 リハベーシック 生化学・栄養学(医歯薬出版株式会社)内山靖、藤井浩美、立石雅子 p.8-55(CHAPTER 1~6)</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当部分を読み、用語調べをしておくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 90分</p> <p>第2回 栄養学を理解する(大澤)</p> <p>【key words】 消化吸収、エネルギー代謝、スポーツ栄養</p>
------	---

	<p>【授業概要】 栄養素の消化と吸収、エネルギーを理解し、運動や活動に必要な栄養素とエネルギーの適切な摂取方法を学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 リハベーシック 生化学・栄養学（医歯薬出版株式会社）内山靖，藤井浩美，立石雅子 p. 56-79 (CHAPTER 7～9)</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当部分を読み、用語調べをしておくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 90分</p> <p>第3回 リハビリテーションにおける栄養知識の重要性（中里見）</p> <p>【key words】 フレイル、低栄養、チーム医療、多職種連携、栄養アセスメント</p> <p>【授業概要】 低栄養やフレイルにおける栄養管理の重要性や多職種連携・チーム医療について学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 リハベーシック 生化学・栄養学（医歯薬出版株式会社）内山靖，藤井浩美，立石雅子 p. 80-95 (CHAPTER 10～11)</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当部分を読み、用語調べをしておくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 90分</p> <p>第4回 主な病態の栄養管理（中里見）</p> <p>【key words】 栄養管理、栄養療法</p> <p>【授業概要】 主な病態の栄養管理について学ぶ。自分の栄養アセスメントをした結果を、グループディスカッションする。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 リハベーシック 生化学・栄養学（医歯薬出版株式会社）内山靖，藤井浩美，立石雅子 p. 96-119 (CHAPTER 12～14)</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当部分を読み、用語調べをしておくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 90分</p> <p>第5回 リハビリテーションにおける薬理学（古屋）</p> <p>【key words】 薬理学、臨床薬理学</p> <p>【授業概要】 薬理学・臨床薬理学を学ぶ意義および薬理学の基礎について学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 リハベーシック 薬理学・臨床薬理学（医歯薬出版株式会社）内山靖，藤井浩美，立石雅子 p. 8～39 (CHAPTER 1～CHAPTER 4)</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当部分を読み、用語調べをしておくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 90分</p> <p>第6回 薬物の作用機序、体内動態および相互作用（古屋）</p> <p>【key words】 薬物の作用機序、薬物の体内動態、薬物の相互作用</p> <p>【授業概要】 薬物の作用機序、薬物の体内動態（吸収、分布、代謝、排泄）および薬物の相互作用（薬物と薬物、薬物と食品）について学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 リハベーシック 薬理学・臨床薬理学（医歯薬出版株式会社）内山靖，藤井浩美，立石雅子 p. 40～71 (CHAPTER 5～CHAPTER 8)</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当部分を読み、用語調べをしておくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 90分</p> <p>第7回 感染、炎症、神経疾患、精神疾患の薬物療法（神内）</p> <p>【key words】 感染・炎症の制御、神経疾患、精神疾患、薬物療法</p> <p>【授業概要】 感染と炎症の病態ならびに、主な神経疾患、精神疾患の発症機序を学ぶ。さらに、これら疾患に対する治療薬及びその作用機序について学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 リハベーシック 薬理学・臨床薬理学（医歯薬出版株式会社）内山靖，藤井浩美，立石雅子 p. 72～95 (CHAPTER 9～CHAPTER 11)</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当部分を読み、用語調べをしておくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 90分</p>
--	--

	<p>第8回 循環器、疼痛の薬物療法および、薬物の使用にあたり注意すべきこと（神内）</p> <p>【key words】 循環器系、疼痛、薬物療法、副作用</p> <p>【授業概要】 主な循環器系疾患の発症機序ならびに、疼痛の病態を学ぶ。さらに、これら疾患に対する治療薬及びその作用機序について学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 リハベーシック 薬理学・臨床薬理学（医歯薬出版株式会社）内山靖、藤井浩美、立石雅子 p.96～119(CAHPTE 12～CAHPTE 14)</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当部分を読み、用語調べをしておくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 90分</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<ul style="list-style-type: none"> ・授業概要を必ず確認し、積極的に授業に臨むこと。 ・最前列から着席し、授業を受けやすい環境を作ること。 ・医療専門職及び対人サービス職として、出席時間の厳守および対象者が好感を持てる態度を身につけることは基本である。そのため態度や身だしなみ等が整っていない場合は、受講を認めないことがある。 ・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話・スマートフォンの授業に関係ない使用）は厳禁。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	講義前にテキスト該当部分を読み、用語調べをしておくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。
オフィスアワー	授業終了後30分程度、対応可能。
評価方法	筆記試験60%、各回の課題40%
教科書	リハベーシック 生化学・栄養学（医歯薬出版株式会社）内山靖、藤井浩美、立石雅子 リハベーシック 薬理学・臨床薬理学（医歯薬出版株式会社）内山靖、藤井浩美、立石雅子
参考書	PT・OTのための治療薬ガイドブック リハビリテーション実施時の注意点（株式会社メジカルレビュー社）本間光信（監修）、編集高橋仁美（編集）
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>実務経験のある教員が担当している <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習) <input checked="" type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/>グループワーク <input type="checkbox"/>プレゼンテーション <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/>情報モラルに関する教育 <input checked="" type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） <input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） <input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） <input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/>ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 <input type="checkbox"/>その他 <p>その他の具体的内容</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	2単位(30)	必修
担当教員			
神谷誠			
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 目の前の患者さん、利用者さんの持っている内科的疾患に対して、その病態、治療内容、起こりうる合併症が把握、理解できるようになることである。到達目標は、作業療法士として活躍するために必要な内科学領域の知識、技術を習得することである。</p> <p>〔到達目標〕 ①メカニズムを病態生理学的に説明できる。 ②診断にあたっての手順とその根拠が説明できる。 ③治療方法の根拠と手順が説明できる。 ④治療前後の病態の変化が観察、理解、明示できる。</p>		
授業の概要	<p>内科学では、各臓器別に、解剖学、生理学的知識を再確認しながら、疾患の病態生理、検査方法、治療方法を学習する。テキストの内容が膨大である為、授業では各項目について要点のみ簡潔に解説する。</p> <p>老年学では、高齢者医療におけるリハビリテーションの役割を学習する。授業では、テキストの加齢と老化、高齢者へのアプローチ、高齢者をとりまく環境について、要点のみ簡潔に解説する。</p> <p>授業中に、国家試験問題についても触れる。</p>		
各学科、専攻、コースにおけるDP			科目における重要度
(理学療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			
(理学療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			
(理学療法)(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる			◎
(理学療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(理学療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
(作業療法)(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			
(作業療法)(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			
(作業療法)(専門的実践力)生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。			◎
(作業療法)(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(作業療法)(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
授業計画	第1回	内科学Ⅰ 内科学とは内科的診断と治療の実際	
	第2回	内科学Ⅱ 症候学	
	第3回	内科学Ⅲ 循環器疾患	
	第4回	内科学Ⅳ 呼吸器疾患	
	第5回	内科学Ⅴ 消化管疾患	
	第6回	内科学Ⅵ 肝胆膵疾患	
	第7回	内科学Ⅶ 血液・造血器疾患	

	<p>第8回 内科学Ⅷ 代謝性疾患</p> <p>第9回 内科学Ⅸ 内分泌疾患</p> <p>第10回 内科学Ⅹ 腎・泌尿器疾患</p> <p>第11回 内科学Ⅺ アレルギー疾患、膠原病と類縁疾患、免疫不全症候群</p> <p>第12回 内科学Ⅻ 感染症</p> <p>第13回 老年学Ⅰ 加齢と老化</p> <p>第14回 老年学Ⅱ 高齢者へのアプローチ</p> <p>第15回 老年学Ⅲ 高齢者をとりまく環境</p>
受講生に関する情報 および受講のルール	授業中の私語は厳禁とする。注意をしても守れない者は、退室させる。教室の座席については、学籍番号順に、指定された席に着席して授業に臨むこと。
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわ る情報	自宅で問題演習と併せ復習を行う。
オフィスアワー	授業終了後、20分程度対応可能。
評価方法	筆記試験による期末試験で行う。
教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学 第4版 医学書院 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 老年学 第5版 医学書院
参考書	理学療法士 作業療法士 国家試験問題
実務者経験/アク ティブラーニング/ リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <p>■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容 医師として、総合病院に勤務</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <p><input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習)</p> <p><input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート</p> <p><input type="checkbox"/>グループワーク</p> <p><input type="checkbox"/>プレゼンテーション</p> <p><input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク</p> <p>■アクティブラーニングは実施していない</p> <p>情報リテラシー教育</p> <p><input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育</p> <p><input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの(図書館利用法・文献探索・データベース活用法等)</p> <p><input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの(情報処理、情報整理法等)</p> <p>■情報のアウトプットに関するもの(レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等)</p> <p><input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない</p> <p>ICTの活用</p> <p><input type="checkbox"/>ICTを活用した双方向型の授業の実施</p> <p><input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援</p> <p>■その他</p> <p>その他の具体的内容 zoomにて講義を行う場合もある。また、Webポータルにて学生の質問を受ける。</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	1単位(15)	必修
担当教員			
村山明彦・山口智晴			
地域作業療法学/地域理学療法学	理学療法・作業療法国家試験受験資格に係る必修	社会福祉主事任用資格指定科目	
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 地域リハビリテーションの定義、社会背景、関連制度についての概要を学ぶとともに、地域で生活する対象者に必要なサポート手段を検討するうえで必要な知識を身につける。 〔到達目標〕 ①地域リハビリテーションの概要について説明できる。 ③地域リハビリテーションの対象および関連制度について説明できる。 ③群馬県下での地域リハビリテーションの現状について説明できる。
授業の概要	子どもから高齢者までが住み慣れた地域の中で生活していくことをサポートするうえで、リハビリテーション専門職が果たす役割が極めて大きいことを学ぶ。そして、リハビリテーション専門職として具体的に何ができるのかを自ら考え、実践するための素養を高める。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(理学療法) (豊かな人間性) 真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(理学療法) (専門性の探求) 専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(理学療法) (専門的実践力) 心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	
(理学療法) (多職種協働) 対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	○
(理学療法) (地域実践) 地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	◎
(作業療法) (豊かな人間性) 真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(作業療法) (専門性の探求) 専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(作業療法) (専門的実践力) 生活行為の遂行や向上において問題となる事項について、心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、全人的な評価と支援の視点で作業療法実践ができる。	
(作業療法) (多職種協働) 対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	○
(作業療法) (地域実践) 地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	◎

授業計画	第1回	はじめに (用語の定義および科目オリエンテーションを含む) (山口・村山) 【key words】 地域リハビリテーション 【授業概要】 科目オリエンテーション 地域リハビリテーション総論 科目オリエンテーションとともに、地域リハビリテーションの概念を理解する。 国立社会保障・人口問題研究所ホームページ http://www.ipss.go.jp/index.asp 【教科書ページ・参考文献】 授業概要で紹介している参考URLを参照 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsやURLを参考に予習することが望ましい。 【予習復習に必要な想定時間】 90分 (予習とは別にシラバスの内容を把握したうえで授業に臨むこと)
	第2回	わが国における社会的変遷と関連法規 (村山) 【key words】 国際生活機能分類、社会保障制度、医療保険 【授業概要】 地域リハビリテーション、国際生活機能分類 (International Classification of Functioning, disability and Health) について、知識の整理をして授業に臨んでください。 厚生労働省ホームページ http://www.mhlw.go.jp/houdou/2002/08/h0805-1.html 厚生労働省 我が国の医療保険について

第3回	<p>http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/iryuuohoken/iryuuohoken01/ 日本医師会 ホームページ https://www.med.or.jp/people/what/sh/#no3 【教科書ページ・参考文献】 授業概要で紹介している参考URLを参照 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsやURLを参考に予習・復習することが望ましい。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分 介護保険制度と地域包括ケアシステム（村山） 【key words】 介護保険制度、地域包括ケアシステム 【授業概要】 介護保険制度、地域包括ケアシステムについて、知識の整理をして授業に臨んでください。 厚生労働省 介護保険制度の概要 http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/kaigo_koureisha/gaiyo/index.html 独立行政法人 福祉医療機構 WAM NET（ワムネット） 介護保険制度解説 http://www.wam.go.jp/content/wamnet/wamnet/pcpub/kaigo/handbook/system/ 厚生労働省 地域包括ケアシステム http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/kaigo_koureisha/chiiki-houkatsu/ 【教科書ページ・参考文献】 授業概要で紹介している参考URLを参照 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsやURLを参考に予習・復習することが望ましい。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分</p>
第4回	<p>地域における介護予防とヘルスプロモーション（村山） 【key words】 介護予防、ヘルスプロモーション、ヘルスリテラシー 【授業概要】 介護予防、ヘルスプロモーションについて、知識の整理をして授業に臨んでください。 群馬県地域リハビリテーション支援センターホームページ http://www.grsc.biz/ 群馬県 地域包括ケア推進室 http://www.pref.gunma.jp/07/bf0100003.html 群馬県 高崎市 ホームページ https://www.city.takasaki.gunma.jp/docs/2014012000147/ 【教科書ページ・参考文献】 授業概要で紹介している参考URLを参照 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsやURLを参考に予習・復習することが望ましい。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分</p>
第5回	<p>地域におけるサルコペニア・フレイル予防（転倒予防を含む）（村山） 【key words】 サルコペニア、フレイル、転倒予防 【授業概要】 サルコペニア、フレイル、転倒予防について、知識の整理をして授業に臨んでください。 日本転倒予防学会ホームページ http://www.tentouyoubou.jp/ 日本骨粗鬆症学会ホームページ http://www.josteo.com/ja/index.html 日本サルコペニア・フレイル学会ホームページ http://jssf.umin.jp/ 日本リハビリテーション栄養学会ホームページ https://sites.google.com/site/jsrhnt/home 【教科書ページ・参考文献】 授業概要で紹介している参考URLを参照 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsやURLを参考に予習・復習することが望ましい。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分</p>
第6回	<p>地域における認知症予防（山口） 【key words】 認知症予防、認知症施策推進大綱 【授業概要】 地域における認知症予防について理解を深めるために、各自で事前に調べた認知症予防の取り組みを元に、セラピストとして実践可能な認知症予防のあり方について理解を深める。また、「認知症予防」における「予防」の真意についてディスカッションを通して理解を深める。 【予習】 ①認知症施策推進大綱について概要を知るために、ダウンロードして熟読する https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/kaigo_koureisha/ninchi/index.html ②認知症予防について、地域ではどのような取り組みが実践されているのか？について調べる。 具体的には、各自の居住市町村または出身市町村、興味がある市町村における認知症予防の取り組みについて各市のホームページで調べる。 【復習】 ①授業で学んだことや感想、疑問点をWEBポータルのスレッドに記載する。 ②認知症予防における「予防」とは何か？ 講義やディスカッションの内容を踏まえた自分なりの考えをまとめ、指定された方法で提出する。 【教科書ページ・参考文献】 上記URLを参照 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記の通り 【予習復習に必要な想定時間】</p>

	<p>150分 第7回 群馬県内における地域リハビリテーションの実践（山口） 【key words】 地域リハビリテーション、高次脳機能障害 【授業概要】 セラピストが実際にどのような地域実践を行っているのか、群馬県内での地域リハビリテーションの実践について学ぶ。また、群馬県自立支援型ケアマネジメント推進事業アドバイザーとしての山口の実践業務について紹介する。その他、介護保険領域にかかわらず、高次脳機能障害や認知症に関する山口の具体的実践な取り組みや政策提言に向けた活動などを紹介する。専門職として、診療報酬・介護報酬以外にも、その知識や技能をいかに地域に還元し、より良い地域社会に向けた貢献をしていくべきか理解を深める。 【予習】 ①群馬県内の地域リハビリテーション広域支援センターの各活動を閲覧する。各施設の取り組みは以下の群馬県地域リハ支援センターのリンク集から閲覧が可能。 http://www.grsc.biz/niji.php ②NPO法人ノーサイドのホームページの閲覧 https://www.npo-noside.com/</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 上記URL等を参照 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【復習】 自分が将来どのような領域でどのような実践を行いたいと考えるか（興味があるか）、自分の考えについて、授業の感想とともにWEBポータル授業スレッドに記載する。 【予習復習に必要な想定時間】 90分</p> <p>第8回 まとめ（山口・村山） 【key words】 介護予防、自立、自立支援 【授業概要】 介護予防とは何か、その本質に対して理解を深める。筋力や体力、口腔嚥下機能、栄養、認知機能などの個別機能等の改善だけでなく、その先を見据えた介護予防や自立支援を実現するためにセラピストとして実施すべき事項について考える。 【予習】 ①厚生労働省ホームページの「介護予防」について事前に関覧 https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/kaigo_koureisha/yobou/index.html 特に、その中にある「これからの介護予防」という部分をダウンロードして必ず読むこと。 【復習】 ①授業で学んだことや感想、疑問点をWEBポータル授業スレッドに記載。 ②講義内容を踏まえ、これからの超高齢社会において、PTまたはOTとして、「1. どのようなことが求められているか」、「2. それにはどのようなスキルが求められるか」の2点について、自分の考えをまとめ指定された方法で提出 【教科書ページ・参考文献】 特になし 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記の通り。 【予習復習に必要な想定時間】 120分</p>
<p>受講生に関わる情報 および受講のルール</p>	<p>〔受講生に関わる情報〕 ①予習・復習は必須である。 ②授業で使用するスライド等の資料は、全て電子媒体にて事前に配布する。授業当日までにプリントアウトもしくは、電子媒体を閲覧できる環境（PC・タブレット・スマートフォンなど）を整えておくこと。 〔受講のルール〕 ①授業概要を確認し積極的に臨むこと。 ②受講態度や身だしなみ等が整っていない場合受講を認めない。 ③グループワークやディスカッションを通じて、双方向型の授業を展開する予定である。受講中はビデオをオンにしても安定する接続環境を整えておくこと。講師がスライドショー等でプレゼンテーションしている時はビデオ・オフでもよいが、それ以外のグループワークやディスカッション時はビデオ・オンで参加することを条件とする。ただし、機器の不調等がある場合は、事前に連絡をすること。</p>
<p>毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状況の 確認方法</p>	<p>スレッド（Webポータル） 初回オリエンテーション時に詳述するが、社会人としてのマナーを踏まえた報告・連絡・相談をすること。</p>
<p>授業外時間にかかわる 情報</p>	<p>授業内容を確認し、事前学習および復習を計画的に進めること。 本科目の理解が乏しいと、3年時に各専攻で開講される地域系の科目を理解することが困難となる。 この点も踏まえて、授業外も学習することが望ましい。</p>
<p>オフィスアワー</p>	<p>山口・村山 火曜日16時30分～17時30分（その他の曜日については要予約）</p>
<p>評価方法</p>	<p>授業内課題80%（1コマ当たりの課題が10%）、レポート20%</p>
<p>教科書</p>	<p>特になし。各担当教員の作成した資料を配布する。</p>
<p>参考書</p>	<p>授業内で適宜紹介する。</p>
<p>実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育</p>	<p>授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 山口 急性期及び回復期病棟での作業療法士としての臨床経験の他に、群馬県内各市町村での介護予防</p>

事業の実践をしてきた。現在は前橋市認知症初期集中支援チームの運営や自立支援型ケアマネジメント推進事業群馬県アドバイザー、高次脳機能障害家族会の副理事長、群馬県作業療法士会副会長なども務めている。(詳細は以下を参照)
<https://researchmap.jp/t-yamaguchi>

村山

介護保険領域で常勤として11年間、非常勤として5年間の実務経験を有する。特に、地域（施設・在宅）でのリハビリテーションを数多く実践してきた。また、群馬県下において複数の市町村の介護予防事業にも携わっている。

専門理学療法士（基礎理学療法・生活環境支援理学療法）、介護支援専門員、サルコペニア・フレイル指導士などの資格を有する。転倒予防指導士基礎講習会（2018年～）、群馬県フレイル予防サポーター養成（2019年～）の講師なども務める。

アクティブラーニング要素

- PBL(課題解決型学習)
- ディスカッション・ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- アクティブラーニングは実施していない

情報リテラシー教育

- 情報モラルに関する教育
- 課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）
- 情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）
- 情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）
- 情報リテラシー教育は実施していない

ICTの活用

- ICTを活用した双方向型の授業の実施
- e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援
- その他

その他の具体的内容

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年次	1単位(30)	必修
担当教員			
柴ひとみ			
基礎理学療法学	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] リハビリテーション臨床を活動の場とする理学療法士に必要な利他性、科学性、行為性を育成することを目的とする。</p> <p>[到達目標] ①理学療法学生として適切な報告ができ、時間厳守、自律した生活（計画性含む）を送ることができる。 ②対象となる人とより良い関係を築くために相手に不快感を与えない身だしなみを励行し、適切なコミュニケーションを図ることができる。 ③基礎的な医学知識（解剖学・生理学・運動学）を横断的に理解することができる。 ④見学実習を通して、自身の理学療法士像を明確にすることができる。</p>
授業の概要	理学療法士は、動作の専門家と言われている。目の前の事象を捉え、科学的に考察する力が求められる。また、対象となる人を理解し、より良い関係を構築することも必要となる。この授業では、1年次で履修する知識を横断的に整理するとともに、対人関係に対する意識的配慮を姿勢として学び、実践できるようにする。また、見学実習を設定し、早期臨床体験を行うことで内在的動機付けを形成する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	○
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	△
(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	◎
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	<p>第1回 未来を思い描いた際の現在の自分—一年間の目標— 【key words】 理学療法士、志望動機、目標 【授業概要】 ・1～4年のグループを作り、ピア活動を行う ・PT志望動機を明確にし、他者に説明することができる ・他学年から情報収集を行ったうえで、2年後、3年後、4年後の自分を思い描き、一年間の目標を立てる。 【教科書ページ・参考文献】 資料を配布する 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：PT志望動機について考えてくる。他学年から得たい情報を項目として挙げてくる。 復習：ポートフォリオの作成 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p> <p>第2回 運動が起こる仕組みを知ろう—グループ学習— 【key words】 骨、筋、関節、筋収縮、随意運動、反射 【授業概要】 ・学びの基礎として、「運動が起こる仕組み」について理解し、他者に説明する。 ・グループ学習の方法を身につける。 ・下記4つの項目より1つ選び、その仕組みを明らかにするためにグループ学習を行う。 A. 膝蓋腱を叩くと膝関節が伸展するのは、何故か？ B. 画鋸を踏むと股関節や膝関節が屈曲して足が上がるのは何故か？ C. 熱いやかんを触ると肘関節が屈曲して手を引っ込めるのは何故か？ D. 閉眼のまま立てている母指をもう一方の手で握ることができるのは何故か？ ・小テスト①を実施する予定（範囲は1週間前に提示）。グループ全員が正解率が60%以上を目指すこと。達成できない場合は補習対象となるため、協力が欠かせない。 【教科書ページ・参考文献】 ・標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第5版 岡田 隆夫著 医学書院 ・標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 野村巖【編】 医学書院 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
------	---

第3回	<p>予習：各自、教科書などを用いて調べ学習をしておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p> <p>運動が起こる仕組みを知ろう-グループ学習-</p> <p>【key words】 骨、筋、関節、筋収縮、随意運動、反射</p> <p>【授業概要】 ・学びの基礎として、[運動が起こる仕組み]について理解し、他者に説明する。 ・グループ学習の方法を身に付ける。 ・下記4つの項目より1つ選び、その仕組みを明らかにするためにグループ学習を行う。 A. 膝蓋腱を叩くと膝関節が伸展するのは、何故か？ B. 画紙を踏むと股関節や膝関節が屈曲して足が上がるのは何故か？ C. 熱いやかんを触ると肘関節が屈曲して手を引っ込めるのは何故か？ D. 閉眼のまま立てている母指をもう一方の手で握ることができるのは何故か？ ・グループ学習でわかったことを模造紙にまとめること ・小テスト②を実施する予定（範囲は1週間前に提示）。グループ全員が正解率が60%以上を目指すこと。達成できない場合は補習対象となるため、協力が欠かせない。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 ・標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第5版 岡田 隆夫著 医学書院 ・標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 野村巖【編】 医学書院</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：次回の発表会に向けて、グループ全員が発表できるように準備をしておくこと。 模造紙を完成させること。 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p>
第4回	<p>運動が起こる仕組みを知ろう-ワールドカフェによる発表-</p> <p>【key words】 骨、筋、関節、筋収縮、随意運動、反射</p> <p>【授業概要】 ・ワールドカフェによる発表会を行うことで、情報共有を図る。 発表者は1名とし、他のグループメンバーは別の班の発表を聴き、その内容をグループに持ち帰って共有を図る。 ・小テスト③を実施する予定（範囲は1週間前に提示）。グループ全員が正解率が60%以上を目指すこと。達成できない場合は補習対象となるため、協力が欠かせない。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 ・標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第5版 岡田 隆夫著 医学書院 ・標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 野村巖【編】 医学書院</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：今回のタイトルやkey wordsに関する内容について教科書の該当ページを調べておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p>
第5回	<p>見学実習オリエンテーション、OSCE（臨床技能試験）について</p> <p>【key words】 理学療法士、見学実習、OSCE（臨床技能試験）</p> <p>【授業概要】 ・3年生とのグループ学習を通して、見学実習の概要を理解する。 ・次回予定されているOSCE（臨床技能試験）の概要を理解する。 ・小テスト④を実施する予定（範囲は1週間前に提示）。グループ全員が正解率が60%以上を目指すこと。達成できない場合は補習対象となるため、協力が欠かせない。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 臨床実習手引きを配布する</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：見学実習について得たい情報を挙げてくること 復習：ポートフォリオの作成 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p>
第6回	<p>理学療法評価場面の見学-3年次OSCE見学-</p> <p>【key words】 理学療法、評価、OSCE、報告</p> <p>【授業概要】 ・3年次のOSCEを見学し、事象を専門用語でまとめることができる ・自身がまとめた内容を当該の3年生に確認して頂き、フィードバックを受けた上で、適切に報告する力を身に付ける</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 資料を配布する</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：①見学した時に記述した内容、②見学後、当該学生からフィードバックを受けて修正した内容をそれぞれ提出すること（期限については、掲示板を確認のこと） 【予習復習に必要な想定時間】 90～120分</p>
第7回	<p>見学実習オリエンテーション</p> <p>【key words】 理学療法士、見学実習</p> <p>【授業概要】 ・見学実習の流れ（事前の挨拶、見学時の学ぶ姿勢、お礼状の作成）を理解する。 ・見学実習の課題（レポート等）を理解する。 ・小テスト⑤を実施する予定（範囲は1週間前に提示）。グループ全員が正解率が60%以上を目指すこと。達成できない場合は補習対象となるため、協力が欠かせない。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 臨床実習手引き</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 臨床実習手引きを持参すること 【予習復習に必要な想定時間】</p>

第8回	<p>60～90分 見学実習</p> <p>【key words】 理学療法、評価、治療、態度、時間厳守、報告</p> <p>【授業概要】 ・実習施設（6カ所）に別れ、見学実習を行う ・理学療法士として働くうえで必要となる対人援助や連絡、相談、報告、時間厳守について学ぶ ・見学内容を適切にまとめる力を身に付ける 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>臨床実習手引き 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：見学内容をレポートとして提出すること（期限については、掲示板を確認のこと） レポート提出後、教員のフィードバックを受け、再提出すること 【予習復習に必要な想定時間】</p>
第9回	<p>120分 見学実習</p> <p>【key words】 理学療法、評価、治療、態度、時間厳守、報告</p> <p>【授業概要】 ・実習施設（6カ所）に別れ、見学実習を行う ・理学療法士として働くうえで必要となる対人援助や連絡、相談、報告、時間厳守について学ぶ ・見学内容を適切にまとめる力を身に付ける 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>臨床実習手引き 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：見学内容をレポートとして提出すること（期限については、掲示板を確認のこと） レポート提出後、教員のフィードバックを受け、再提出すること 【予習復習に必要な想定時間】</p>
第10回	<p>120分 見学実習</p> <p>【key words】 理学療法、評価、治療、態度、時間厳守、報告</p> <p>【授業概要】 ・実習施設（6カ所）に別れ、見学実習を行う ・理学療法士として働くうえで必要となる対人援助や連絡、相談、報告、時間厳守について学ぶ ・見学内容を適切にまとめる力を身に付ける 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>臨床実習手引き 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：見学内容をレポートとして提出すること（期限については、掲示板を確認のこと） レポート提出後、教員のフィードバックを受け、再提出すること 【予習復習に必要な想定時間】</p>
第11回	<p>120分 見学実習</p> <p>【key words】 理学療法、評価、治療、態度、時間厳守、報告</p> <p>【授業概要】 ・実習施設（6カ所）に別れ、見学実習を行う ・理学療法士として働くうえで必要となる対人援助や連絡、相談、報告、時間厳守について学ぶ ・見学内容を適切にまとめる力を身に付ける ・見学実習終了1週間以内に実習施設に届くようお礼状を投函すること。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>臨床実習手引き 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：見学内容をレポートとして提出すること（期限については、掲示板を確認のこと） レポート提出後、教員のフィードバックを受け、再提出すること 【予習復習に必要な想定時間】</p>
第12回	<p>120分 見学実習報告会</p> <p>【key words】 理学療法、評価、治療、報告、グループ発表</p> <p>【授業概要】 ・見学実習で学んだ内容をまとめ、報告をする ・各グループの発表を聴く中で自身の体験と照らし合わせ、質疑応答を行う。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>資料を配布する 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：事前に発表用レジュメ（A4用紙1枚 パワーポイント8～9枚印刷）を提出すること。提出期限については、掲示を確認すること。 【予習復習に必要な想定時間】</p>
第13回	<p>90～120分 呼吸と循環</p> <p>【key words】 肺、心臓、呼吸、循環</p> <p>【授業概要】 ・2年生とのグループ学習を行う ・学びの基礎として、[呼吸と循環]について理解し、他者に説明する。 ・グループ学習の方法を身に付ける。 ・小テスト⑥を実施する予定（範囲は1週間前に提示）。グループ全員が正解率が60%以上を目指すこと。達成できない場合は補習対象となるため、協力が欠かせない。</p>

	<p>【教科書ページ・参考文献】 ・標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第5版 岡田 隆夫著 医学書院 ・標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 野村巖【編】 医学書院 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：今回のタイトルやkey wordsに関する内容について教科書の該当ページを調べておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p> <p>第14回 理学療法とは-卒業生講話-、OSCEオリエンテーション 【key words】 理学療法、情報、評価、治療 【授業概要】 ・臨床で働く卒業生の仕事内容を紹介する。 ・講話内容から、分かった点、理解不十分な点について整理する。 ・小テスト⑦を実施する予定（範囲は1週間前に提示）。グループ全員が正解率が60%以上を目指すこと。達成できない場合は補習対象となるため、協力が欠かせない。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習：講話内容をまとめ、提出すること（期限については掲示板を確認のこと） 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p> <p>第15回 OSCE（臨床技能試験）の実施 【key words】 理学療法士、対人技能、報告 【授業概要】 ・臨床場면을想定し、指示された内容に対応できる力を押し量る</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：レポート [実施内容をまとめ、良い点、改善すべき点について考察すること] 期限については、掲示板を確認のこと 【予習復習に必要な想定時間】 120～180分</p>
<p>受講生に関わる情報 および受講のルール</p>	<p>[受講生に関わる情報] ・解剖学、生理学、運動学が基礎となるため履修内容に関連した範囲は必ず復習すること。</p> <p>[受講のルール] ・事前にシラバスを確認し、講義範囲を確認したうえで予習するなど積極的に取り組むこと。 ・他の受講生の迷惑になる行為（携帯電話の使用、私語）は厳禁。 ・OSCEの実施場面では、相手に不快感を与えないような身だしなみ（髪色・髪型・化粧・髭・アクセサリ・服装）を励行すること。 ・OSCEの実施場面は、本人の携帯電話を使用して撮影すること。その際、動画の加工、SNS上での拡散をしてはならない。 ・小テストの正解率が60%に満たない学生がいるグループは、放課後、学習会を実施し不足を補うこと。普段の学習からグループで取り組み、相互に補い合うこと。</p>
<p>毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状況 の確認方法</p>	<p>WEBポータルを使用したコメントスレッド</p>
<p>授業外時間にかかわる 情報</p>	<p>・各講義に対して予習・復習を積極的に取り組むこと。 ・各講義でわからないことは下記オフィスアワー等を使用し解決するように努力すること。</p>
<p>オフィスアワー</p>	<p>木曜日16：00～17：00随時（変更時は掲示する）その他の曜日については要予約</p>
<p>評価方法</p>	<p>OSCE（臨床技能試験）30% 口頭試問30% レポート40%</p>
<p>教科書</p>	<p>授業内で適宜紹介する。</p>
<p>参考書</p>	<p>才藤栄一監修：PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編. 金原出版. 2019</p>
<p>実務者経験/アクティブラーニング/ リテラシー教育</p>	<p>授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容 急性期および回復期、生活期におけるリハビリテーション病棟での理学療法士として従事する他、運動学・運動力学・介護予防・生活環境の研究を実践してきた。現在はそれらの研究報告の基、臨床業務の指導などを実践している。</p> <p>アクティブラーニング要素 ■PBL（課題解決型学習） ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない</p> <p>情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）</p>

	<p>■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）</p> <p>□情報リテラシー教育は実施していない</p> <p>ICTの活用</p> <p>□ICTを活用した双方向型の授業の実施</p> <p>□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援</p> <p>□その他</p> <p>その他の具体的内容</p>
--	---

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	1単位(30)	必修
担当教員			
榊原清・浅野貞美			
基礎理学療法学	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] 協同学習（グループ学習）を通して、基礎学力強化のための学習方法について学び、基礎的な医学知識の定着につなげる。 診療参加型臨床実習では、診療チームの一員となって患者様に接するための医学知識、臨床技能を身につけているとともに、患者様と接し、他の医療専門職と協働するにふさわしい態度も求められる。その基礎となる検査測定実習に向けて、診療参加型臨床実習に参加する学生に必要とされる技術と態度を評価する「客観的臨床能力試験；OSCE(Objective Structured Clinical Examination)」について学び、真に患者様に役立つための統合された臨床能力の獲得につなげる。</p> <p>[到達目標] ①協同学習の意義を理解し、グループ内で協力して作業が出来る。 ②分からないことについて、自らで調べて理解出来るようになる。 ③知識・技術・態度のいずれもが、対象となる人との関係づくりには欠かせないものであることを理解し、自らの行動変容を促すことができる。</p>		
授業の概要	他学年との協同学習を通して、学ぶことの楽しさを学ぶと同時に、学習方法の習得、基礎学力の定着を図る。 客観的臨床能力試験；OSCE(Objective Structured Clinical Examination)の意義、方法について学び、臨床技能、臨床態度の向上を図る。		
各学科、専攻、コースにおけるDP			科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			○
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			○
(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる			◎
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			○
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
授業計画	<p>第1回 基礎学力強化のための学習方法を学ぶ① 【key words】 科目オリエンテーション、グループワーク、生理学 【授業概要】 ・科目オリエンテーションを実施する。 ・解剖学（内臓）に関する国試問題を解く。 ・上級生の指導の下、グループ学習の方法を身に付ける。 【教科書ページ・参考文献】 資料を配布する 【課題・予習・復習・授業準備指示】 初回の授業までに、ホワイトボード（A4サイズ以上）、ホワイトボード用マーカー（3色以上）、ホワイトボード用イレーザー、A4ファイル、A4用紙を用意すること。 【予習復習に必要な想定時間】 90分</p> <p>第2回 基礎学力強化のための学習方法を学ぶ② 【key words】 グループワーク、ポスター 【授業概要】 ・上級生の指導の下、グループ学習の方法を身に付ける。 ・上級生の指導の下、調べた用語に関するポスターを作成する。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前週の復習をすること 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p> <p>第3回 基礎学力強化のための学習方法を学ぶ③</p>		

	<p>【key words】 記憶のメカニズム、アクティブアウトプット</p> <p>【授業概要】 ・記憶のメカニズムを学習する。 ・アクティブアウトプットにより、知識の定着を図る。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>配布資料</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 前週の復習をすること 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>
第4回	<p>基礎学力強化のための学習方法を学ぶ④</p> <p>【key words】 グループワーク、ポスター、シェア学習、情報の共有</p> <p>【授業概要】 ・分からない単語を各自で調べて、ポスターを作成する。 ・調べたことをグループでシェアする。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>配布資料</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 前週の復習をすること 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>
第5回	<p>基礎学力強化のための学習方法を学ぶ⑤</p> <p>【key words】 グループワーク、ポスター、シェア学習、情報の共有</p> <p>【授業概要】 ・分からない単語を各自で調べて、ポスターを作成する。 ・調べたことをグループでシェアする。 ・正しく確実な学習方法を身につける。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>配布資料</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 前週の復習をすること 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>
第6回	<p>基礎学力強化のための学習方法を学ぶ⑥</p> <p>【key words】 グループワーク、ポスター、シェア学習、情報の共有</p> <p>【授業概要】 ・分からない単語を各自で調べて、ポスターを作成する。 ・調べたことをグループでシェアする。 ・正しく確実な学習方法を身につける。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>配布資料</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 前週の復習をすること 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>
第7回	<p>基礎学力強化のための学習方法を学ぶ⑦</p> <p>【key words】 グループワーク、ポスター、シェア学習、情報の共有</p> <p>【授業概要】 ・分からない単語を各自で調べて、ポスターを作成する。 ・調べたことをグループでシェアする。 ・正しく確実な学習方法を身につける。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>配布資料</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 発表会の準備をすること 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p>
第8回	<p>プレゼン発表会</p> <p>【key words】 プレゼン、共有</p> <p>【授業概要】 グループ単位で学んだ成果を、他のグループの前で発表することで情報を共有する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>配布資料</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 発表会の準備をすること 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p>
第9回	<p>客観的臨床能力試験 (Objective Structured Clinical Examination: OSCE) について</p> <p>【key words】 検査測定実習、臨床技能、臨床態度、客観的臨床能力試験、OSCE</p> <p>【授業概要】 ・検査測定実習に参加する前に実施する客観的臨床能力試験；OSCEの概要について理解する。 ・検査測定実習に参加する学生に必要とされる技能と態度についての到達目標を知り、学修する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p>

	<p>資料を配布する 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ポートフォリオを作成する 【予習復習に必要な想定時間】 120分 第10回 臨床技能・臨床態度の標準化①車椅子の駆動介助について 【key words】 OSCE、臨床技能、臨床態度、標準化、車椅子駆動 【授業概要】 車椅子の駆動介助を通して、臨床実習に参加する前に求められる技能と態度について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 資料を配布する 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ポートフォリオを作成する。 【予習復習に必要な想定時間】 120分 第11回 臨床技能・臨床態度の標準化②コミュニケーション技法について 【key words】 OSCE、臨床技能、臨床態度、標準化、コミュニケーション技法 【授業概要】 コミュニケーション技法を通して、臨床実習に参加する前に求められる技能と態度について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 資料を配布する 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ポートフォリオを作成する。 【予習復習に必要な想定時間】 120分 第12回 臨床技能・臨床態度の標準化③関節可動域検査について 【key words】 OSCE、臨床技能、臨床態度、標準化 【授業概要】 関節可動域測定を通して、臨床実習に参加する前に求められる技能と態度について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 資料を配布する 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ポートフォリオを作成する。 【予習復習に必要な想定時間】 120分 第13回 OSCE（客観的臨床能力試験）の実施① 【key words】 理学療法士、対人技能、報告 【授業概要】 ・臨床場면을想定し、指示された内容に対応できる力を推し量る。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：レポート [実施内容をまとめ、良い点、改善すべき点について考察すること] レポート書式・提出期限については、追って説明する。 【予習復習に必要な想定時間】 120～180分 第14回 OSCE（客観的臨床能力試験）の実施① 【key words】 理学療法士、対人技能、報告 【授業概要】 ・臨床場면을想定し、指示された内容に対応できる力を推し量る。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：レポート [実施内容をまとめ、良い点、改善すべき点について考察すること] レポート書式・提出期限については、追って説明する。 【予習復習に必要な想定時間】 120～180分 第15回 検査測定実習報告会 【key words】 理学療法、評価、検査測定、報告、グループ発表 【授業概要】 ・検査測定実習で学んだ内容をまとめ、報告をする ・各グループの発表を聴く中で自身の体験と照らし合わせ、質疑応答を行う。 【教科書ページ・参考文献】 資料を配布する 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：事前に発表用レジュメを提出すること。レジュメ書式・提出期限については、追って説明する。 【予習復習に必要な想定時間】 90～120分</p>
<p>受講生に関わる情報 および受講のルール</p>	<p>[受講生に関わる情報] ・解剖学、生理学、運動学が基礎となるため、履修内容に関連した範囲は必ず復習しておくこと。 ・基礎理学療法評価学で学んだ内容を含むため、履修内容に関連した範囲は必ず復習しておくこと。</p>

	<p>[受講のルール]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前にシラバスを確認し、講義範囲を確認したうえで予習するなど積極的に取り組むこと。 ・OSCEのためだけの学修ではなく、将来の対象者を見据えた態度で臨むこと。将来の対象者に不安や不快感を与えないような身だしなみ：髪色・髪型・化粧・髭・アクセサリ・服装の励行。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	<ul style="list-style-type: none"> ・各講義に対して予習・復習を積極的に取り組むこと。 ・各講義でわからないことは下記オフィスアワー等を使用し解決するように努力すること。
オフィスアワー	火曜日放課後、その他の曜日時間については要予約
評価方法	課題30%、プレゼン発表会20%、OSCE（客観的臨床能力試験）50%
教科書	授業内で適宜紹介する。
参考書	才藤栄一監修：PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編. 金原出版. 2019
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> ■実務経験のある教員が担当している <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>実務経験のある教員が担当している</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 <p>その他の具体的内容</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位(30)	必修
担当教員			
榊原清			
理学療法評価学	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 理学療法評価の基本的な考え方・枠組み、基本的な検査項目を学び、実践できるよう検査・測定のスルを身につける。</p> <p>〔到達目標〕</p> <p>①理学療法における評価の手順や治療の流れを理解する。 ②理学療法で用いる基本的な検査・測定の意義や目的を理解する。 ③理学療法で用いる基本的な検査・測定実施時のリスク管理を理解する。 ④理学療法における検査・測定のスルを身につける。</p>		
授業の概要	対象者が持つ身体的機能面から全生活場面までをみて症状や障害を把握し、その回復の方策を探すことが「評価」の目的である。理学療法評価の目的、意義、方法、流れを基軸としつつ、基礎となる身体計測、関節可動域検査の方法を学ぶ。		
各学科、専攻、コースにおけるDP			科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いづくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			
(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる			◎
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
授業計画	第1回	<p>科目オリエンテーション(授業計画説明、予習復習の説明、評価方法の説明など)、理学療法評価とは?</p> <p>【key words】 実技演習の受け方、感染対策、理学療法評価、検査・測定</p> <p>【授業概要】 ①実技を伴う授業の受け方、予習・復習について、評価方法などについて説明する。 ②感染対策について説明する。 ③対象者に触れるための心構え・準備について説明する。 ④理学療法評価の種類について紹介する。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料参照 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前準備資料を配布するので熟読し、準備して受講すること。 感染対策の装備や体を動かしやすい服装などの準備を行っておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分+復習60分</p>	
	第2回	<p>【姿勢・形態測定】姿勢評価1</p> <p>【key words】 抗重力姿勢、重心線、異常姿勢</p> <p>【授業概要】 ヒトの抗重力姿勢の特徴や姿勢評価の意義、手順、観察ポイントについて学ぶ。 学生同士で、立位姿勢(正面、側面、後面)でのアライメント観察を行い、重心線の位置やランドマークについて確認する。その中で確認できた左右差等の理由について検討する。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料参照 【課題・予習・復習・授業準備指示】 メジャーを用意すること。 運動学の復習をし、姿勢、重心線、関節の運動方向について理解した上で受講すること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分+復習60分</p>	
	第3回	<p>【姿勢・形態測定】姿勢評価2</p> <p>【key words】 抗重力姿勢、重心線、異常姿勢</p>	

第4回	<p>【授業概要】 ヒトの抗重力姿勢の特徴や姿勢評価の意義、手順、観察ポイントについて学ぶ。 学生同士で、立位姿勢（正面、側面、後面）でのアライメント観察を行い、重心線の位置やランドマークについて確認する。その中で確認できた左右差等の理由について検討する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 配布資料参照</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 メジャーを用意すること。 運動学の復習をし、姿勢、重心線、関節の運動方向について理解した上で受講すること。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習60分+復習60分</p> <p>【姿勢・形態測定】 体格指数</p> <p>【key words】 体格指数、BMI、カウプ指数、ローレル指数、ピルケの栄養指数</p>
第5回	<p>【授業概要】 体格指数（①BMI、②カウプ指数、③ローレル指数、④ピルケの栄養指数）の種類、算出式、判定基準、適応範囲について学ぶ。 学生自身の体格指数について計算式により算出し、得られた結果より判定、その意義について考察する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書p23～26、配布資料参照</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 計算機を用意すること。 BMIの計算式について調べておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習60分+復習60分</p> <p>【姿勢・形態測定】 四肢長測定</p> <p>【key words】 四肢長、断端長、脚長差</p>
第6回	<p>【授業概要】 形態測定の意義・目的・注意事項を整理し、結果からの解釈について学ぶ。 四肢長の測定肢位、測定点を理解し、正確に素早く触診、測定できるようにする。 学生同士で、四肢長の測定を行い、得られた数値を基に、その差異（脚長差）が起こる理由について検討する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書p23～37</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 メジャーを用意すること。 P23エッセンス、p27図5・6の【測定点（骨指標・ランドマーク）】について解剖学の知識を基に再確認しておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習60分+復習60分</p> <p>【姿勢・形態測定】 四肢周径測定</p> <p>【key words】 四肢周径、断端周径、筋萎縮</p>
第7回	<p>【授業概要】 形態測定の意義・目的・注意事項を整理し、結果からの解釈について学ぶ。 四肢周径の測定肢位、測定点を理解し、正確に素早く触診、測定できるようにする。 学生同士で、四肢周径の測定を行い、得られた数値を基に、その差異（筋萎縮、筋肥大等）が起こる理由について検討する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書p23～37</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 メジャーを用意すること。 P23エッセンス、p29図9、p30図10～12、p31図13【測定部位】について解剖学の知識を基に再確認しておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習60分+復習60分</p> <p>【姿勢・形態測定】 四肢長・周径測定の実技小テスト</p> <p>【key words】 四肢長・四肢周径、正確性</p> <p>【授業概要】 四肢長・四肢周径測定技術の習得を確認するため実技小テストを行う。 ※実技小テストの順番を待っている間は精度を高めるために練習を行うこと。 ※実技小テストが終わった後は振り返りを行うこと。 姿勢・形態測定に関する問題を配布するので、解答し次回提出すること。 ※選択問題を解答する際は、すべての選択肢において、なぜ正しいか、なぜ誤っているかその理由を記述すること。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書p23～37</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 実施範囲の実技練習を繰り返し十分に行い試験を受けること。 実技小テストの振り返りを行い、次回提出すること。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習60分+復習60分</p> <p>【関節可動域検査】 肩関節の関節可動域検査</p> <p>【key words】</p>
第8回	<p>【関節可動域検査】 肩関節の関節可動域検査</p> <p>【key words】</p>

	<p>基本軸・移動軸・制限因子・代償運動</p> <p>【授業概要】 デモンストレーション 肩関節の関節可動域検査の実技演習：学生同士で、検者・被検者を交代しながら実習を行う。 関節可動域検査に関する問題を配布するので、解答し次回提出すること。 ※選択問題を解答する際は、すべての選択肢において、なぜ正しいか、なぜ誤っているかその理由を記述すること。 【教科書ページ・参考文献】 教科書p39～84 【課題・予習・復習・授業準備指示】 肩関節の解剖学・運動学、関節可動域検査について事前学習を行い、不明な点や確認したい点などをまとめておき受講すること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分+復習60分</p>
第9回	<p>【関節可動域検査】 肘関節・前腕・手関節の関節可動域検査 【key words】 基本軸・移動軸・制限因子・代償運動</p> <p>【授業概要】 デモンストレーション 肘関節・前腕・手関節の関節可動域検査の実技演習：学生同士で、検者・被検者を交代しながら実習を行う。 関節可動域検査に関する問題を配布するので、解答し次回提出すること。 ※選択問題を解答する際は、すべての選択肢において、なぜ正しいか、なぜ誤っているかその理由を記述すること。 【教科書ページ・参考文献】 教科書p39～84 【課題・予習・復習・授業準備指示】 肘関節・前腕・手関節の解剖学・運動学、関節可動域検査について事前学習を行い、不明な点や確認したい点などをまとめておき受講すること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分+復習60分</p>
第10回	<p>【関節可動域検査】 肩甲帯の関節可動域検査 【key words】 基本軸・移動軸・制限因子・代償運動</p> <p>【授業概要】 デモンストレーション 肩甲帯の関節可動域検査の実技演習：学生同士で、検者・被検者を交代しながら実習を行う。 関節可動域検査に関する問題を配布するので、解答し次回提出すること。 ※選択問題を解答する際は、すべての選択肢において、なぜ正しいか、なぜ誤っているかその理由を記述すること。 【教科書ページ・参考文献】 教科書p39～84 【課題・予習・復習・授業準備指示】 肩甲帯の解剖学・運動学、関節可動域検査について事前学習を行い、不明な点や確認したい点などをまとめておき受講すること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分+復習60分</p>
第11回	<p>【関節可動域検査】 実技小テスト（上肢の関節可動域検査） 【key words】 基本軸・移動軸・制限因子・代償運動</p> <p>【授業概要】 上肢の関節可動域検査技術の習得を確認するため実技小テストを行う。 ※実技小テストの順番を待っている間は精度を高めるために練習を行うこと。 ※実技小テストが終わった後は振り返りを行うこと。 関節可動域検査に関する問題を配布するので、解答し次回提出すること。 ※選択問題を解答する際は、すべての選択肢において、なぜ正しいか、なぜ誤っているかその理由を記述すること。 【教科書ページ・参考文献】 教科書p39～84 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実施範囲の実技練習を繰り返し十分に行い試験を受けること。 実技小テスト後、振り返りをまとめて指定期日までに提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分+復習60分</p>
第12回	<p>【関節可動域検査】 股関節の関節可動域検査 【key words】 基本軸・移動軸・制限因子・代償運動</p> <p>【授業概要】 デモンストレーション 股関節の関節可動域検査の実技演習：学生同士で、検者・被検者を交代しながら実習を行う。 関節可動域に関する問題を配布するので、解答し次回提出すること。 ※選択問題を解答する際は、すべての選択肢において、なぜ正しいか、なぜ誤っているかその理由を記述すること。 【教科書ページ・参考文献】 教科書p39～84 【課題・予習・復習・授業準備指示】 股関節の解剖学・運動学、関節可動域検査について事前学習を行い、不明な点や確認したい点などをまとめておき受講すること。</p>

	<p>第13回</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習60分+復習60分</p> <p>【関節可動域検査】膝関節・足関節・足部の関節可動域検査</p> <p>【key words】 基本軸・移動軸・制限因子・代償運動</p> <p>【授業概要】 デモンストレーション 膝関節・足関節・足部の関節可動域検査の実技演習：学生同士で、検者・被検者を交代しながら実習を行う。 関節可動域に関する問題を配布するので、解答し次回提出すること。 ※選択問題を解答する際は、すべての選択肢において、なぜ正しいか、なぜ誤っているかその理由を記述すること。 【教科書ページ・参考文献】 教科書p39～84 【課題・予習・復習・授業準備指示】 膝関節・足関節・足部の解剖学・運動学、関節可動域検査について事前学習を行い、不明な点や確認したい点などをまとめておき受講すること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分+復習60分</p> <p>第14回</p> <p>【関節可動域検査】実技小テスト（下肢の関節可動域検査）</p> <p>【key words】 基本軸・移動軸・制限因子・代償運動</p> <p>【授業概要】 下肢の関節可動域検査技術の習得を確認するため実技小テストを行う。 ※実技小テストの順番を待っている間は精度を高めるために練習を行うこと。 ※実技小テストが終わった後は振り返りを行うこと。 関節可動域検査に関する問題を配布するので、解答し次回提出すること。 ※選択問題を解答する際は、すべての選択肢において、なぜ正しいか、なぜ誤っているかその理由を記述すること。 【教科書ページ・参考文献】 教科書p39～84 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実施範囲の実技練習を繰り返し十分に行い試験を受けること。 実技小テスト後、振り返りをまとめて指定期日までに提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分+復習60分</p> <p>第15回</p> <p>【関節可動域検査】頸部・体幹・手指・その他の関節可動域検査、定期試験についての説明</p> <p>【key words】 基本軸・移動軸・制限因子・代償運動、定期試験</p> <p>【授業概要】 デモンストレーション 頸部・体幹・手指・その他の関節可動域検査の実技演習：学生同士で、検者・被検者を交代しながら実習を行う。 定期試験（筆記試験）についての説明を行う 【教科書ページ・参考文献】 教科書p39～84 【課題・予習・復習・授業準備指示】 頸部・体幹・手指・その他の関節可動域検査について事前学習を行い、不明な点や確認したい点などをまとめておき受講すること。課題・予習・復習・配布資料をポートフォリオに整理してまとめ、持参すること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分+復習60分</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<p>〔受講生に関わる情報〕 疾患を問わず臨床で用いられる理学療法の基本的な検査・測定的基础知識と基本手技を学習する科目である。2年の理学療法評価学、評価学実習を学習を経て、3年評価実習や4年臨床実習場面では対象者に実践することになるため、机上の学習止まりではなく、実践可能なレベルまで知識・技術を習得する必要がある。そのため、デモンストレーション・実技演習場面では、積極的態で臨むこと。講義への出席は必須の前提であり、無断欠席・遅刻は小テスト成績に影響するので注意すること。実技を行う場合は、感染対策を十分に講じ、指定の服装・装備を着用すること。</p>
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントシート方式
授業外時間にかかわる情報	<p>実技小テストの実施や再テストの実施は、授業時間外に行う場合がある。各検査・測定の技能向上のためには時間外にも実技練習を行う必要がある。個人の技能習熟度により必要な時間は異なる。 ①講義終了後、シラバスで次回内容の確認をし、受講の準備計画を立てる（5分程度）。②前回講義内容の復習をし、要点をまとめておくこと（20分程度）。③次回内容のkey wordsを中心にわからないことを事前に調べておくこと。</p>
オフィスアワー	火曜日の放課後
評価方法	筆記試験：50%、実技試験30%、授業内的小テスト・課題・コメント：10%、ポートフォリオ（期限遵守、適切な時系列でのファイリング）：10%の総合評価を行う。
教科書	上杉雅之 監修、西守隆 編集：イラストでわかる評価学。医歯薬出版株式会社。2020
参考書	<p>①潮見 泰蔵ら 編：リハビリテーション基礎評価学、羊土社 ②津山直一 中村耕三 訳：新徒手筋力検査法 協同医書出版 ③田崎 義昭 著：ベッドサイドの神経の診かた 南山堂 ④林典雄 著：運動療法のため機能解剖学的触診技術 上肢+下肢・体幹 改訂第2版</p>

<p>実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育</p>	<p>⑤市橋 則明 編：運動療法学—障害別アプローチの理論と実際</p> <p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> ■実務経験のある教員が担当している <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>理学療法士としての実務経験を活かし、理学療法士に必要な知識、技術について講じます。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習) <input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート ■グループワーク <input type="checkbox"/>プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ■情報モラルに関する教育 <input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの(図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) <input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの(情報処理、情報整理法等) <input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの(レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) <input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 <input type="checkbox"/>その他 <p>その他の具体的内容</p>
---------------------------------	--

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	1単位(30)	必修
担当教員			
榊原清			
理学療法評価学	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 理学療法評価の基本的な考え方・枠組み、基本的な検査項目を学び、実践できるよう検査・測定スキルを身につける。</p> <p>〔到達目標〕</p> <p>①理学療法における評価の手順や治療の流れを理解する。 ②理学療法で用いる基本的な検査・測定の意義や目的を理解する。 ③理学療法で用いる基本的な検査・測定実施時のリスク管理を理解する。 ④理学療法における検査・測定スキルを身につける。</p>
授業の概要	対象者が持つ身体的機能面から全生活場面までをみて症状や障害を把握し、回復や改善の方策を探ることが「評価」の目的である。理学療法評価の基本的な枠組みを学ぶとともに、実践できるよう検査測定技能を修得する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いづくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	◎
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション(授業計画説明、予習復習の説明 評価方法の説明など)、理学療法評価とは、理学療法の過程</p> <p>【key words】 講義の受け方、理学療法評価、理学療法の過程</p> <p>【授業概要】 講義の受け方、予習・復習について、評価方法などについて説明をする。 理学療法評価(意義・目的、流れ、検査・測定、統合と解釈、リハビリテーション医療における評価の意義)、理学療法の過程など、評価の基礎について学ぶ。 理学療法評価の場を映像を通して確認し、臨床像をイメージする。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 シラバスを印刷し、持参すること。 教科書①の目次vi～xiiに目を通してること。 【予習復習に必要な想定時間】 120分</p> <p>第2回 バイタルサイン</p> <p>【key words】 バイタルサイン、血圧、脈拍、呼吸、体温</p> <p>【授業概要】 バイタルサインの測定演習を行い、得られた結果について考察する。 学生同士で脈拍、血圧測定、呼吸数の測定について演習する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書①p1～13 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書①p1～13に目を通してること。 【予習復習に必要な想定時間】 120分</p> <p>第3回 意識障害</p> <p>【key words】 意識障害、AIUEOTIPS、JCS、GCS</p> <p>【授業概要】 意識障害、意識障害の検査方法と判定について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書①p15～21 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
------	---

第4回	<p>教科書①p15～21に目を通してくること。 前回の内容の確認テストを行うので、十分に復習をして臨むこと。 【予習復習に必要な想定時間】 120分</p> <p>反射検査 【key words】 反射異常、深部腱反射、表在反射、病的反射 【授業概要】 反射異常を引き起こすメカニズム、深部腱反射、表在反射、病的反射の検査方法と判定について学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書①p115～124 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書①p15～21に目を通してくること。 前回の内容の確認テストを行うので、十分に復習をして臨むこと。 【予習復習に必要な想定時間】 120分</p>
第5回	<p>感覚検査 【key words】 感覚異常、伝導路、表在感覚、深部感覚、複合感覚 【授業概要】 感覚異常を引き起こすメカニズム、神経支配領域、表在感覚、深部感覚、複合感覚の検査方法と判定について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書①p125～148 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書①p125～148に目を通してくること。 前回の内容の確認テストを行うので、十分に復習をして臨むこと。 【予習復習に必要な想定時間】 120分</p>
第6回	<p>疼痛検査 【key words】 一次痛と二次痛、VAS、NRS、フェイススケール 【授業概要】 疼痛発生のメカニズム、疼痛の分類、疼痛の量的評価法、質的評価法について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書①p243～256 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回の内容の確認テストを行うので、十分に復習をして臨むこと。 テキストp243～256に目を通してくること。 【予習復習に必要な想定時間】 120分</p>
第7回	<p>協調運動機能検査 【key words】 失調、測定障害、時間測定障害、振戦、反復拮抗運動、運動分解 【授業概要】 運動失調に関連する協調運動障害に対する検査方法と判定について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書①p177～193 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書①p177～193に目を通してくること。 前回の内容の確認テストを行うので、十分に復習をして臨むこと。 【予習復習に必要な想定時間】 120分</p>
第8回	<p>徒手筋力検査①プレテスト・徒手筋力検査の基礎 【key words】 関節運動方向と主動筋・筋の起始停止・MMT 【授業概要】 徒手筋力検査プレテスト（運動方向と主動筋、筋の起始・停止について）を行い、1年時の解剖学・運動学の学習の確認を行う。 徒手筋力検査の基礎（MMTとは、意義、目的、判定基準、信頼性、代償運動、固定と抵抗、手順、注意点）について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書①p85-113 教科書②p1-20 【課題・予習・復習・授業準備指示】 プレテスト（運動方向と主動筋、筋の起始・停止について）を行うので、1年時の解剖学・運動学の学習について確認しておくこと。プレテストでできなかった内容はまとめ、次回の提出とする。 【予習復習に必要な想定時間】 120分</p>
第9回	<p>徒手筋力検査②MMTにおける代償運動について 【key words】 代償運動・再現性・固定と抵抗 【授業概要】 徒手筋力検査においてみられる代償運動を防止するための検査肢位、固定と抵抗の部位や大きさについて整理する。 代償運動の出やすい関節運動を行い、現象の出方と出やすい理由について考察する。 学生同士で、検者・被検者を交代しながら実習を行う。 【教科書ページ・参考文献】 教科書①p85-113</p>

第10回	<p>教科書②p1-20 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書①②該当ページに目を通してること。 【予習復習に必要な想定時間】 120分 徒手筋力検査③上肢のMMT 【key words】 抗重力位・抵抗・重力除去位・代償運動 【授業概要】 デモンストレーション 上肢MMTの実技演習：学生同士で、検者・被検者を交代しながら実習を行う。 徒手筋力検査に関する問題を配布するので、解答し次回提出すること。 ※選択問題を解答する際は、すべての選択肢において、なぜ正しいか、なぜ誤っているかその理由を記述すること。</p>
第11回	<p>【教科書ページ・参考文献】 教科書①p85-113 教科書②p109-166 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上肢のMMTについて事前学習を行い、不明な点や確認したい点などをまとめておき受講すること。 【予習復習に必要な想定時間】 120分 徒手筋力検査④肩甲骨のMMT 【key words】 抗重力位・抵抗・重力除去位・代償運動 【授業概要】 デモンストレーション 肩甲骨MMTの実技演習：学生同士で、検者・被検者を交代しながら実習を行う。 徒手筋力検査に関する問題を配布するので、解答し次回提出すること。 ※選択問題を解答する際は、すべての選択肢において、なぜ正しいか、なぜ誤っているかその理由を記述すること。</p>
第12回	<p>【教科書ページ・参考文献】 教科書①p85-113 教科書②p82-108 【課題・予習・復習・授業準備指示】 肩甲骨のMMTについて事前学習を行い、不明な点や確認したい点などをまとめておき受講すること。 【予習復習に必要な想定時間】 120分 徒手筋力検査⑤下肢のMMT 【key words】 抗重力位・抵抗・重力除去位・代償運動 【授業概要】 デモンストレーション 下肢MMTの実技演習：学生同士で、検者・被検者を交代しながら実習を行う。 徒手筋力検査に関する問題を配布するので、解答し次回提出すること。 ※選択問題を解答する際は、すべての選択肢において、なぜ正しいか、なぜ誤っているかその理由を記述すること。</p>
第13回	<p>【教科書ページ・参考文献】 教科書①p85-113 教科書②p205-269 【課題・予習・復習・授業準備指示】 下肢のMMTについて事前学習を行い、不明な点や確認したい点などをまとめておき受講すること。 【予習復習に必要な想定時間】 120分 徒手筋力検査⑥頸部・体幹のMMT 【key words】 抗重力位・抵抗・重力除去位・代償運動 【授業概要】 デモンストレーション 頸部・体幹MMTの実技演習：学生同士で、検者・被検者を交代しながら実習を行う。 徒手筋力検査に関する問題を配布するので、解答し次回提出すること。 ※選択問題を解答する際は、すべての選択肢において、なぜ正しいか、なぜ誤っているかその理由を記述すること。</p>
第14回	<p>【教科書ページ・参考文献】 教科書①p85-113 教科書②p205-269 【課題・予習・復習・授業準備指示】 頸部・体幹のMMTについて事前学習を行い、不明な点や確認したい点などをまとめておき受講すること。 【予習復習に必要な想定時間】 120分 徒手筋力検査⑦実技テスト 【key words】 抗重力位・抵抗・重力除去位・代償運動 【授業概要】 徒手筋力検査（上肢・下肢・頸部・体幹）技術の習得を確認するため実技テストを行う。 ※実技テストの順番を待っている間は精度を高めるために練習を行うこと。実技テストが終わった後は振り返りを行うこと。 徒手筋力検査に関する問題を配布するので、解答し次回提出すること。 ※選択問題を解答する際は、すべての選択肢において、なぜ正しいか、なぜ誤っているかその理由を記述すること。</p>

	<p>【教科書ページ・参考文献】 教科書①p85-113 教科書②p21-269 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実施範囲の実技練習を繰り返し十分に行い試験を受けること。 【予習復習に必要な想定時間】 120分 徒手筋力検査⑧実技テストの振り返り、定期試験対策 【key words】 抗重力位・抵抗・重力除去位・代償運動 【授業概要】 実技テストの振り返り：学生同士で、検者・被検者を交代しながら実技テストの振り返りを行う。 定期試験についての説明を行う。 【教科書ページ・参考文献】 教科書①p85-113 教科書②p21-269 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実技テストの振り返りをまとめておき受講すること。 定期試験についての説明を行うので、教科書、配布資料の整理し持参すること。 【予習復習に必要な想定時間】 120分</p>
<p>受講生に関わる情報 および受講のルール</p>	<p>〔受講生に関わる情報〕 疾患を問わず臨床で用いられる理学療法の基本的な検査・測定の基礎知識と基本手技を学習する科目である。3年後期の評価実習や4年臨床実習場面で実践することになるため、机上の学習止まりではなく、実践可能なレベルまで知識・技術を習得する必要がある。そのため、自身の身体を用いて思考してもらう場面やデモンストレーションを行う場面では、積極的な態度で臨むこと。 講義への出席は必須の前提であり、無断欠席・遅刻は成績に影響するので注意すること。実技を行う場合は、感染対策を講じた装備の装着大学指定体操着、または指定の服装を着用すること。</p>
<p>毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法</p>	<p>コメントカード方式</p>
<p>授業外時間にかかわ る情報</p>	<p>各検査・測定の技能向上のためには時間外にも実技練習を行う必要がある。個人の技能習熟度により必要な時間は異なる。①講義終了後、シラバスで次回内容の確認をし、受講の準備計画を立てる（30分程度）。②前回講義内容の復習をし、要点をまとめておくこと（60分程度）。③次回内容のkey wordsを中心にわからないことを事前に調べておくこと（30分程度）。</p>
<p>オフィスアワー</p>	<p>火曜日16時30分～</p>
<p>評価方法</p>	<p>筆記試験（客観）：50%、実技テスト：20%、小テスト・課題・コメント：20%、ポートフォリオ（期限遵守、適切な時系列でのファイリング）：10%の総合評価を行う。</p>
<p>教科書</p>	<p>①上杉雅之 監修、西守隆 編集：イラストでわかる評価学、医歯薬出版株式会社 ②津山直一 中村耕三 訳：新徒手筋力検査法 協同医書出版</p>
<p>参考書</p>	<p>①潮見 泰蔵ら 編：リハビリテーション基礎評価学、羊土社 ②田崎 義昭 著：ベッドサイドの神経の診かた、南山堂 ③林典雄 著：運動療法のため機能解剖学的触診技術 上肢+下肢・体幹 改訂第2版</p>
<p>実務者経験/アク ティブラーニング/ リテラシー教育</p>	<p>授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 理学療法士としての実務経験を活かし、理学療法士に必要な知識、技術について講じます。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	1単位(30)	必修
担当教員			
新谷益巳			
理学療法評価学	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	運動器疾患に対するテスト方法の選択について学び、実際の手順から判定までの進め方について学ぶ。 ①疾患に応じたテスト方法を説明できる。 ②テストを実施する際の手順を理解し実施することが出来る。 ③実施にあたり、被検者に対する配慮を行うことが出来る。 ④実施後、判定を間違えず行うことが出来る。 ⑤結果を記録することが出来る。
授業の概要	理学療法士が用いる整形外科的テストは、診断するための検査法ではなく、治療のための運動器障害の機能評価として用いている。関節可動域や筋力の機能評価だけでは説明できない機能障害の原因を、整形外科的テストの評価結果を加味することで、よりの確な問題点を抽出するこ役立つ。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	△
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	◎
(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	◎
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	△
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	△

授業計画	第1回	科目オリエンテーション 整形外科的テストの理論と方法 【key words】 骨, 神経, 血管, 筋 【授業概要】 整形外科的テストの目的について理解する。 ①整形外科的テストの理論と方法について学ぶ ②整形外科的テストの実際 【教科書ページ・参考文献】 P1~17 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習P8~P17は1年次の復習であるため、1度は読んでおくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習に30分程度, 復習に30分程度。
	第2回	頸部 頸部の代表的な整形外科的テスト 【key words】 頸椎, 神経, 筋, 血管 【授業概要】 頸部の代表的な整形外科的テスト ・頸椎の椎間関節症, 頸椎症性神経根症 ①~④のテスト ・胸郭出口症候群 ⑤~⑨のテスト ・頸椎脱臼・亜脱臼 ⑩~⑪のテスト ・椎骨脳底部循環不全 ⑫のテスト 【教科書ページ・参考文献】 P18~47 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前WEB動画の視聴を行っておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習に30分程度, 復習に60分程度
	第3回	肩関節 肩関節周囲の代表的な整形外科的テスト① 【key words】 炎症, 脱臼, 損傷 【授業概要】 肩関節周囲の代表的な整形外科的テスト① ・肩関節脱臼・亜脱臼 ・上腕二頭筋腱炎・損傷

第4回	<p>【教科書ページ・参考文献】 P48～P61</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前WEB動画の視聴を行っておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習に30分程度，復習に60分程度</p> <p>肩関節 肩関節周囲の代表的な整形外科的テスト②</p> <p>【key words】 損傷，インピンジメント，腱板</p> <p>【授業概要】 肩関節周囲の代表的な整形外科的テスト②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肩腱板の炎症・損傷 ・肩インピンジメント症候群 ・肩関節唇損傷
第5回	<p>【教科書ページ・参考文献】 P62～79</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前WEB動画の視聴を行っておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習に30分程度，復習に60分程度</p> <p>肘関節 肘関節周囲の代表的な整形外科的テスト</p> <p>【key words】 肘関節，内側，外側，靭帯</p> <p>【授業概要】 肘関節周囲の代表的な整形外科的テスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上腕骨外側上顆炎 ・上腕骨内側上顆炎 ・肘外側側副靭帯損傷 ・肘内側側副靭帯損傷 ・肘部管症候群
第6回	<p>【教科書ページ・参考文献】 P80～97</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前WEB動画の視聴を行っておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習に30分程度，復習に60分程度</p> <p>小テスト 第1回～第5回までの範囲 手関節・テブの代表的な整形外科的テスト</p> <p>【key words】 末梢血管，麻痺，炎症</p> <p>【授業概要】 小テストを第1回～第5回までの範囲で行う。</p> <p>手関節・主部の代表的な整形外科的テスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・末梢血管・動脈循環不全 ・手根管症候群 ・前骨間神経麻痺 ・ギヨン管症候群 ・狭窄性腱鞘炎
第7回	<p>【教科書ページ・参考文献】 P98～115</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前WEB動画の視聴を行っておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習に30分程度，復習に60分程度</p> <p>胸部 胸部の代表的な整形外科的テスト， 腰部 腰部の代表的な整形外科的テスト①</p> <p>【key words】 胸椎，腰椎，捻挫，挫傷</p> <p>【授業概要】 胸部の代表的な整形外科的テスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・胸椎椎体骨折 ・胸部の神経根障害 <p>腰部の整形外科的テスト①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・腰椎椎体骨折，腰椎挫傷，捻挫 ・腰部の神経根障害（腰椎脊柱管狭窄症）
第8回	<p>【教科書ページ・参考文献】 P116～131</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前WEB動画の視聴を行っておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習に30分程度，復習に60分程度</p> <p>腰部 腰部の代表的な整形外科的テスト②</p> <p>【key words】 腰椎，ヘルニア，SLR</p> <p>【授業概要】 腰部の代表的な整形外科的テスト②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・坐骨神経痛 ・大腿神経根障害（腰椎椎間板ヘルニア） ・下肢の動脈循環障害

第9回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 予習に30分程度，復習に60分程度</p> <p>骨盤 骨盤の代表的な整形外科的テスト</p> <p>【key words】 寛骨，捻挫，梨状筋</p> <p>【授業概要】 骨盤の代表的な整形外科的テスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仙腸関節捻挫 ・梨状筋症候群 ・仙腸関節障害 <p>【教科書ページ・参考文献】 P148～165</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前WEB動画の視聴を行っておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習に30分程度，復習に60分程度</p>
第10回	<p>股関節 股関節の代表的な整形外科的テスト</p> <p>【key words】 骨折，拘縮，筋力低下</p> <p>【授業概要】 股関節の代表的な整形外科的テスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・股関節周囲の骨折 ・股関節炎 ・中殿筋の筋力低下 ・股関節拘縮 <p>【教科書ページ・参考文献】 P166～183</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前WEB動画の視聴を行っておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習に30分程度，復習に60分程度</p>
第11回	<p>小テスト 第6回～第10回までの範囲 膝関節 膝関節の代表的な整形外科的テスト①</p> <p>【key words】 靭帯，膝関節，水腫</p> <p>【授業概要】 小テストを第6回～第10回までの範囲で行う。</p> <p>膝関節の代表的な整形外科的テスト①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・膝関節水腫 ・膝半月板損傷 ・膝前十字靭帯損傷 <p>【教科書ページ・参考文献】 P184～202</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前WEB動画の視聴を行っておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習に30分程度，復習に60分程度</p>
第12回	<p>膝関節 膝関節の代表的な整形外科的テスト②</p> <p>【key words】 半月板，靭帯，脱臼・亜脱臼</p> <p>【授業概要】 膝関節の代表的な整形外科的テスト②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・膝後十字靭帯損傷 ・膝側副靭帯損傷 ・膝蓋大腿関節部の炎症・変形 ・膝蓋骨脱臼・亜脱臼 <p>【教科書ページ・参考文献】 P202～217</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前WEB動画の視聴を行っておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習に30分程度，復習に60分程度</p>
第13回	<p>足関節 足関節の代表的な整形外科的テスト①</p> <p>【key words】 足関節，靭帯，捻挫</p> <p>【授業概要】 足関節の代表的な整形外科的テスト①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前距腓靭帯損傷 ・後距腓靭帯損傷 ・踵腓靭帯損傷 <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前WEB動画の視聴を行っておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習に30分程度，復習に60分程度</p>
第14回	<p>足関節 足関節の代表的な整形外科的テスト②</p> <p>【key words】 足関節，靭帯，捻挫</p> <p>【授業概要】 足関節の代表的な整形外科的テスト②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三角靭帯損傷

	<ul style="list-style-type: none"> ・アキレス腱断裂 ・足根管症候群 ・深部静脈血栓症 【教科書ページ・参考文献】 P226～235 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前WEB動画の視聴を行っておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習に30分程度，復習に60分程度 小テスト 第11回～第14回までの範囲 【key words】 整形外科，機能障害 【授業概要】 小テスト：第11回～第14回までの範囲で行う。 まとめとしてテスト対策 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 予習に30分程度，復習に60分程度
受講生に関わる情報および受講のルール	<p>解剖学，運動学の知識を理解していることが前提となります。理解が不十分と感じている人は，事前学習を個人で進めて下さい。</p> <p>予習：指定された教科書の範囲について取り組みをして下さい（例：範囲内で読めない漢字や意味が分からない言葉を調べて下さい）。</p> <p>授業中：わからない事があったら場合，積極的に質問をして下さい（コメントカードでも構いません）。</p> <p>復習：授業内容を再度確認して下さい。</p>
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	チャトルカード方式で行いますが，状況次第でGoogleフォームから回答を願います。
授業外時間にかかわる情報	SA制度を利用し，時間外で実技に関する復習を行う機会を設ける。また，各自で練習をする機会を作り技術の習得を行う。
オフィスアワー	木曜日16時30分～17時30分
評価方法	第1回～第5回まで小テスト20%，第6回～第10回まで小テスト20%，第11回～第14回小テスト20%，期末試験40%，（総合評価にて判定）。小テスト3回と期末試験の合計が60%に達していない場合は再試験および課題対象となります。
教科書	吉田一也：病態動画から学ぶ臨床整形外科的テスト，ヒューマン・プレス，2021。
参考書	<p>松村将司：適切な判断を導くための整形外科徒手検査法，Medhical View，2020。</p> <p>林典雄：林典雄の運動器疾患の機能解剖に基づく評価と解釈（上肢編，下肢編）。運動と医学の出版社，2017。</p>
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> ■実務経験のある教員が担当している <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>整形外科領域の病院で勤務経験（5年），大学または専門学校で教員経験が10年以上の経験がある者が行います。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> ■PBL（課題解決型学習） <input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/>グループワーク <input type="checkbox"/>プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） <input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） <input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 <input type="checkbox"/>その他 <p>その他の具体的内容</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	1単位(30)	必修
担当教員			
小島俊文・小林雄斗			
理学療法評価学	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] 神経障害疾患に対する神経学的根拠に基づく評価技術を学ぶ。</p> <p>[達成目標] ①病態が自分言葉で説明ができる。 ②神経学的根拠に基づき、適切な評価手技を実施できる。 ③神経学的根拠に基づき、評価の意義が自分の言葉で説明できる。 ④神経学的根拠に基づき、評価結果の解釈ができる。</p>		
授業の概要	理学療法において評価は基本的な要素の一つである。解剖学、生理学、運動学、また中枢神経疾患の病態についての知識を統合し、各種評価の意義、評価方法、評価結果の解釈について学ぶ。		
各学科、専攻、コースにおけるDP			科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			◎
(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる			◎
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
授業計画	第1回	<p>オリエンテーション</p> <p>【key words】 理学療法評価、神経系</p> <p>【授業概要】 ①授業概要について ・到達目標 ・授業内におけるルール等 ②理学療法評価とは ・理学療法評価の意義について ③神経系について ・神経系についての解剖学、生理学の復習</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 病気がみえる：PP2-67 神経理学療法学：PP4-15 【課題・予習・復習・授業準備指示】 今までに学んだ神経系についての解剖学、生理学を十分に復習し、授業に臨むこと。 授業を通して理解が不十分な点は、必ず補っておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習：60分 復習60分</p>	
	第2回	<p>中枢神経系の疾患について</p> <p>【key words】 中枢神経系、脳卒中、脊髄疾患</p> <p>【授業概要】 ①中枢神経系の働きについて ・中枢神経系の基本的な働きについて理解する ②脳血管疾患について ・脳卒中の分類について理解する ・脳卒中の各病態、脳卒中により呈する症状について理解する ③脊髄疾患について ・脊髄損傷の病態、呈する症状について理解する ・脳の疾患と脊髄の疾患の違いを理解する</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 病気がみえる：PP68-85 神経理学療法学：PP284-293 【課題・予習・復習・授業準備指示】 今までに学んだ中枢神経系の疾患について十分に復習し、授業に臨むこと。 授業を通して理解が不十分な点は、必ず補っておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】</p>	

第3回	<p>予習：60分 復習60分 意識障害について</p> <p>【key words】 意識障害、覚醒、上行性網様体賦活系、JCS、GCS</p> <p>【授業概要】 ①意識障害について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・覚醒について神経メカニズムを理解する ・JCS、GCSの評価意義を理解する ・意識障害の評価方法を理解する <p>【教科書ページ・参考文献】 病気がみえる：PP548-553 神経理学療法学：PP94-101 評価学：P15-22</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記で提示している教科書範囲を読み、わからない点はピックアップしておくこと。 授業を通して理解が不十分な点は、必ず補っておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習：60分 復習60分</p>
第4回	<p>運動麻痺について①</p> <p>【key words】 運動麻痺、随意運動、ブルンストロームステージ、上田式片麻痺機能テスト</p> <p>【授業概要】 ①運動麻痺について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動麻痺の定義、神経学的メカニズムについて理解する ・中枢神経障害による運動麻痺の特徴について理解する <p>②運動麻痺の評価について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブルンストロームステージの評価内容・意義を理解する ・運動麻痺の評価方法・結果の解釈について理解する <p>【教科書ページ・参考文献】 病気がみえる：PP190-207 神経理学療法学：PP102-115 評価学：PP151-176</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記で提示している教科書範囲を読み、わからない点はピックアップしておくこと。 授業を通して理解が不十分な点は、必ず補っておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習：60分 復習60分</p>
第5回	<p>運動麻痺について②</p> <p>【key words】 運動麻痺、随意運動、ブルンストロームステージ、上田式片麻痺機能テスト</p> <p>【授業概要】 ①運動麻痺の評価について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実技を通してブルンストロームステージ、上田式片麻痺機能テストの方法を理解する ・運動麻痺の評価方法・結果の解釈について理解する（MMTとの関連性） <p>【教科書ページ・参考文献】 病気がみえる：PP190-207 神経理学療法学：PP102-115 評価学：PP151-176</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 ブルンストロームステージの方法を復習し、手技を覚えて授業に臨むこと。 授業を通して理解が不十分な点は、必ず補っておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習：60分 復習60分</p>
第6回	<p>筋緊張について①</p> <p>【key words】 筋緊張、異常筋緊張、痙縮、固縮</p> <p>【授業概要】 ①筋緊張について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筋緊張の定義、神経学的メカニズムについて理解する <p>②異常筋緊張について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中枢神経疾患による筋緊張の影響を理解する ・筋緊張のメカニズムより評価方法・結果の解釈について理解する <p>【教科書ページ・参考文献】 病気がみえる：PP198-211 神経理学療法学：PP131-139 評価学：PP115-124</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記で提示している教科書範囲を読み、わからない点はピックアップしておくこと。 授業を通して理解が不十分な点は、必ず補っておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習：60分 復習60分</p>
第7回	<p>筋緊張について②</p> <p>【key words】 筋緊張、異常筋緊張、痙縮、固縮、腱反射検査、安静時・動作時筋緊張検査、被動性検査</p> <p>【授業概要】 ①筋緊張検査について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実技を通して腱反射検査、安静時・動作時筋緊張検査、被動性検査の方法を理解する ・筋緊張のメカニズムより評価方法・結果の解釈について理解する

第8回	<p>【教科書ページ・参考文献】 病気がみえる：PP198-211 神経理学療法学：PP131-139 評価学：PP115-124 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記で提示している教科書範囲を読み、わからない点はピックアップしておくこと。 授業を通して理解が不十分な点は、必ず補っておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習：60分 復習60分 感覚障害について①</p> <p>【key words】 感覚、知覚、認知、感覚の種類 【授業概要】 ①感覚について ・感覚・知覚・認知について理解する ・感覚の必要性について理解する ・感覚の種類について理解する ・感覚の神経学的メカニズムについて理解する ②感覚障害について ・中枢神経障害による感覚障害の病態を理解する ・病態より感覚検査の意義を理解する</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 病気がみえる：PP218-229 神経理学療法学：PP118-139 評価学：PP125-149 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記で提示している教科書範囲を読み、わからない点はピックアップしておくこと。 授業を通して理解が不十分な点は、必ず補っておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習：60分 復習60分 感覚障害について②</p>
第9回	<p>【key words】 感覚、知覚、認知、感覚の種類、感覚評価におけるオリエンテーション 【授業概要】 ①感覚検査について ・感覚の神経学的メカニズムより検査時のオリエンテーションの意義を理解する ・実技を通して各種検査の方法を理解する ・感覚の神経学的メカニズムより評価方法・結果の解釈について理解する</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 病気がみえる：PP218-229 神経理学療法学：PP118-139 評価学：PP125-149 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記で提示している教科書範囲を読み、わからない点はピックアップしておくこと。 授業を通して理解が不十分な点は、必ず補っておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習：60分 復習60分 運動失調について①</p>
第10回	<p>【key words】 運動の協調性、運動失調、姿勢バランス 【授業概要】 ①運動失調について ・運動の協調性について理解する ・原因別運動失調の病態を理解する ・運動の協調性のメカニズムより評価方法・結果の解釈について理解する ②姿勢バランスについて ・姿勢バランスの神経学的メカニズムを理解する ・姿勢バランスのメカニズムより評価方法・結果の解釈について理解する</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 病気がみえる：PP48-49、PP214-217 神経理学療法学：PP140-153 評価学：PP177-193、PP303-316 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記で提示している教科書範囲を読み、わからない点はピックアップしておくこと。 授業を通して理解が不十分な点は、必ず補っておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習：60分 復習60分 運動失調について②</p>
第11回	<p>【key words】 運動の協調性、運動失調、姿勢バランス、ロンベルグ徴候 【授業概要】 ①運動の協調性検査について ・実技を通して運動の協調性の検査方法を理解する ・運動の協調性の神経学的メカニズムより評価方法・結果の解釈について理解する ②姿勢バランスの検査について ・実技を通して姿勢バランスの検査方法を理解する ・姿勢バランスの神経学的メカニズムより評価方法・結果の解釈について理解する</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p>

第12回	<p>病気がみえる：PP48-49、PP214-217 神経心理学療法：PP140-153 評価学：PP177-193、PP303-316 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記で提示している教科書範囲を読み、わからない点はピックアップしておくこと。 授業を通して理解が不十分な点は、必ず補っておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習：60分 復習60分 高次脳機能障害について 【key words】 大脳皮質、社会脳、連合野 【授業概要】 ①高次脳機能について ・人間における高次脳機能の意義について ・高次脳機能の基本的メカニズムについて ②高次脳機能障害について ・高次脳機能障害の種類・現象について理解する 【教科書ページ・参考文献】 病気がみえる：PP157-163 神経心理学療法：PP16-29、PP154-202 評価学：PP195-209 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記で提示している教科書範囲を読み、わからない点はピックアップしておくこと。 授業を通して理解が不十分な点は、必ず補っておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習：60分 復習60分</p>
第13回	<p>脳神経について 【key words】 脳神経、運動機能、感覚機能、副交感神経機能 【授業概要】 ①脳神経について ・脳神経の概要（解剖学、神経生理学）を理解する ・各脳神経の機能を理解する ②脳神経の障害について ・脳神経が障害される病態について理解する 【教科書ページ・参考文献】 病気がみえる：PP242-283 神経心理学療法：PP6-7 （評価学：PP229-242） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記で提示している教科書範囲を読み、わからない点はピックアップしておくこと。 ※最低限、脳神経12対と各機能は覚えて授業に臨むこと。 授業を通して理解が不十分な点は、必ず補っておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習：60分 復習60分</p>
第14回	<p>高次脳機能障害、脳神経の評価について 【key words】 注意障害、半側空間無視、脳神経 【授業概要】 ①高次脳機能障害の検査について ・注意障害についての検査を理解する ・半側空間無視について理解する ②脳神経検査について ・各脳神経の有する機能より評価方法・意義を理解する 【教科書ページ・参考文献】 病気がみえる：PP157-163、PP242-283 神経心理学療法：PP6-7、PP16-29、PP154-202 評価学：PP195-209（、PP229-242） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記で提示している教科書範囲を読み、わからない点はピックアップしておくこと。 授業を通して理解が不十分な点は、必ず補っておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習：60分 復習60分</p>
第15回	<p>評価項目のピックアップについて 【key words】 トップダウン、ボトムアップ 【授業概要】 ①評価項目のピックアップについて ・トップダウン、ボトムアップについて理解する ・症例について実際に評価項目を考察する 【教科書ページ・参考文献】 提示している全テキスト 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実際に症例に対しての評価項目を考察するため、これまでの授業をしっかりと復習し、授業に臨むこと。 授業を通して理解が不十分な点は、必ず補っておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習：60分 復習60分</p>

受講生に関わる情報 および受講のルール	<p>[受講生に関わる情報] 授業概要・シラバスを毎回確認して受講に臨むこと。</p> <p>[受講ルール] ・課題・予習・復習を怠らないこと。 ・講義の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、居眠り、許可した場面以外でのスマートフォン等の使用、ガムを噛む等）は厳禁とする。</p> <p>[実習時の服装] 実習着が必要な場合は、事前に提示する。</p>
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	Googleフォーム
授業外時間にかかわ る情報	難易度は高めであっても臨床では普通に要求される内容であり、理解ができない部分は自己学習で十分に補うこと。 課題等の出来栄が悪い場合は、個別に課題提示することがある。
オフィスアワー	木曜日16:30～17:30は随時
評価方法	筆記試験100%
教科書	医療情報科学研究所（編集）：病気がみえる（vol.7）脳・神経第2版，メディックメディア，2017 奈良勲（監修）：標準理学療法学専門分野神経理学療法学第2版，医学書院，2019 上杉雅之（監修）：PT・OT入門イラストでわかる評価学，医歯薬出版，2020
参考書	田崎ら（著者）：ベッドサイドの神経の診かた，南山堂，2017
実務者経験/アク ティブラーニング/ リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> ■実務経験のある教員が担当している <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>急性期および回復期のリハビリテーション病棟で理学療法士として従事し、主に脳血管疾患のリハビリテーションに携わってきた。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク <input type="checkbox"/>プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） <input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） <input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） <input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 <input type="checkbox"/>その他 <p>その他の具体的内容</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	2単位(30)	必修
担当教員			
新谷益巳・小林雄斗			
理学療法治療学	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	理学療法における治療技術の基礎を身につける。 ①主要なキーワードを自分の言葉で説明ができる。 ②正常と異常について説明ができる。 ③評価と結び付けて運動プログラムを説明できる。		
授業の概要	解剖学、運動学、評価学の学習を踏まえて、理学療法で必要となる治療技術の考え方の基礎について学ぶ。		
各学科、専攻、コースにおけるDP			科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			△
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			◎
(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる			◎
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			△
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			△
授業計画	第1回 科目オリエンテーション / 運動療法とは 【key words】 インフォームドコンセント、力源分類、治療訓練 【授業概要】 理学療法において重要な部分を占める運動療法の定義、目的、対象、運動療法の種類、運動療法の特性から運動療法の実施主体が誰であるのか、禁忌事項、インフォームドコンセントの重要性について理解する。 1. 運動療法の定義を説明できる。 2. 保健、医療、福祉領域において、運動療法の対象が何かを答えることができ、それぞれの意義、目的を説明できる。 3. 運動療法の実施主体が何であるかを説明できる。 4. 運動療法の禁忌事項について、運動療法の特性や疾患の特性を理解したうえで説明できる。 5. インフォームドコンセントとは何かを説明できる。 6. 運動療法の前提としてインフォームドコンセントがどのように行われるかを説明できる。 【教科書ページ・参考文献】 シンプル理学療法学シリーズ運動療法学テキスト P2～21。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】P2～21をよく読んでおくことと、調べておこうに取り組んでおくこと。 【復習】学習到達度自己評価問題を解く(P22)。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度、復習30分程度。合わせて60分程度。		
	第2回 運動の必要性と効果 【key words】 運動の効果、二次的障害 【授業概要】 運動は生理機能すべてを動員する総合的な働きであり、運動の過不足は人の生理機能に大きな影響を与えることを理解し、疾患に伴う、一次的障害に加え、二次的障害があることを理解する。 1. 運動による生理機能の変化を具体的に説明できる。 2. 運動の効果を具体的に説明できる。 3. 二次的障害の種類、原因、症状、対策を説明できる。 4. 廃用症候群の重要性を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 シンプル理学療法学シリーズ運動療法学テキスト P23～35。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】P23～35をよく読んでおくことと、調べておこうに取り組んでおくこと。 【復習】学習到達度自己評価問題を解く(P35)。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度、復習30分程度。合わせて60分程度。		
	第3回 運動療法の順序 【key words】 ゴール設定、起立性低血圧、意識障害		

	<p>【授業概要】 重力が生体に与える影響を考慮しながら姿勢交換をはかり、筋収縮を伴う運動、筋収縮を伴わない運動、起居・移動動作、ADL訓練へと進める運動療法の流れを理解する。 1. 運動療法の開始基準とリスクの管理方法を説明できる。 2. 重力が生体に与える影響を理解し、抗重力位姿勢の重要性を説明できる。 3. 運動療法の実施主体は対象者（患者）であることを理解して説明できる。 4. 姿勢変換、自動運動、他動運動の効果を理解して説明できる。 5. 基本動作としての起居・移動動作訓練の重要性を理解して説明できる。 【教科書ページ・参考文献】 シンプル理学療法学シリーズ運動療法学テキスト P36～43。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】 【予習】P36～43をよく読んでおくことと、調べておこうに取り組んでおくこと。 【復習】 学習到達度自己評価問題を解く（P43）。 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>
第4回	<p>関節可動域訓練（1） 【key words】 他動的関節可動域訓練、自動的関節可動域訓練</p>
	<p>【授業概要】 評価学で学んだ参考可動域を基にペアで上半身の評価を行い、関節可動域訓練（他動運動、自動介助運動、自動運動、抵抗運動、伸張運動）後の可動域を再評価する。また、なぜ関節可動域の改善が起こったのかペアごとに理解を深める。 1. 関節可動域訓練の目的、意義を説明できる。 2. 関節可動域訓練の種類を説明できる。 3. 関節可動域訓練の方法を説明できる。 【教科書ページ・参考文献】 シンプル理学療法学シリーズ運動療法学テキスト P124～142。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】 教科書P124～142をよく読んでおくことと、調べておこうに取り組んでおくこと。 【復習】 わからない所についてはノートにまとめること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度、復習30分程度。合わせて60分程度。</p>
第5回	<p>関節可動域訓練（2） 【key words】 関節の位置、関節包内運動</p>
	<p>【授業概要】 評価学で学んだ参考可動域を基にペアで下半身の評価を行い、関節可動域訓練（他動運動、自動介助運動、自動運動、抵抗運動、伸張運動）後の可動域を再評価する。また、なぜ関節可動域の改善が起こったのかペアごとに理解を深める。 1. 関節可動域訓練の原則を説明できる。 2. 関節可動域訓練の適応、禁忌を説明できる。 【教科書ページ・参考文献】 シンプル理学療法学シリーズ運動療法学テキスト P124～142。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】 教科書P124～142よく読んでおくことと、調べておこうに取り組んでおくこと。 【復習】 わからない所についてはノートにまとめること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度、復習30分程度。合わせて60分程度。</p>
第6回	<p>関節の機能と障害 【key words】 関節構造、てこ、凹凸の法則、拘縮、強直</p>
	<p>【授業概要】 小テスト①(20点) 人が円滑に運動できるのは、運動器を構成する各器官が機能し、協調して働いているためである。その関節を構成する骨の構造と機能について理解する。 1. 骨の組織構造を説明できる。 2. 骨の形状と種類を説明できる。 3. 関節組織の機能を説明できる。 4. 関節の種類を説明できる。 5. 身体部位を例にあげて「てこの原理」を説明できる。 6. 関節拘縮と関節強直の違いを説明できる。 【教科書ページ・参考文献】 シンプル理学療法学シリーズ運動療法学テキスト P109～123。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】 教科書P109～123よく読んでおくことと、調べておこうに取り組んでおくこと。 【復習】 学習到達度自己評価問題を解く（P123）。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度、復習30分程度。合わせて60分程度。</p>
第7回	<p>トレーニングの基礎的原理 【key words】 ストレス、過負荷の原則、超回復 【授業概要】 運動は人の生理機能すべてを動員する総合的な機能であり、運動を行うことはこれらすべての機能を刺激することである。効果的な運動療法を行うためには、科学的な根拠に基づく適切な運動処方が必要である。これら運動療法を行う際の基本的な理論を理解する。 1. 運動開始時に行う基本的なバイタルチェックを説明できる。 2. ストレスについて説明できる。 3. 効果的な運動負荷方法を説明できる。 4. 刺激は、対象者個々に異なることを理解できる。 5. 刺激に対する対象者の反応をモニターできる。</p>

第8回	<p>【教科書ページ・参考文献】 シンプル理学療法学シリーズ運動療法学テキスト P44～50。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書P44～50よく読んでおくことと、調べておこうに取り組んでおくこと。 【復習】学習到達度自己評価問題を解く (P50)。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度、復習30分程度。合わせて60分程度。 筋の機能と障害 【key words】 等尺性収縮、等張性収縮、等速性収縮 【授業概要】 骨格筋の機能と障害について理解する。 1. 骨格筋の構造と機能が説明できる。 2. 興奮収縮連関について説明できる。 3. 筋収縮の種類が説明できる。 4. 筋萎縮について説明できる。 5. 過用性筋力低下について説明できる。 6. 解剖と筋出力低下との関係が説明できる。 【教科書ページ・参考文献】 シンプル理学療法学シリーズ運動療法学テキスト P143～152。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書P143～152よく読んでおくことと、調べておこうに取り組んでおくこと。 【復習】学習到達度自己評価問題を解く (P152)。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度、復習30分程度。合わせて60分程度。</p>
第9回	<p>筋力増強訓練 (1) 【key words】 筋力低下、筋力の回復、筋力の強化、筋力低下の予防 【授業概要】 安全で効果的な筋力増強訓練を行うために必要な、医学的根拠に基づく適切な動作設定を理解する。 1. 筋力増強訓練の目的を説明できる。 2. 筋力を決定する因子を説明できる。 3. 筋力増強のメカニズムを説明できる。 4. 筋力増強に影響を及ぼす因子を説明できる。</p>
第10回	<p>【教科書ページ・参考文献】 シンプル理学療法学シリーズ運動療法学テキスト P153～160。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書P153～166よく読んでおくことと、調べておこうに取り組んでおくこと。 【復習】学習到達度自己評価問題を解く (P166)。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度、復習30分程度。合わせて60分程度。 筋力増強訓練 (2) 【key words】 過負荷の原則、個別性の原則、等尺性運動、等張性運動 【授業概要】 適切な運動設定のために必要な知識を習得する。 1. 筋力増強訓練の基本原則を説明できる。 2. 筋力増強訓練の方法について説明できる。 【教科書ページ・参考文献】 シンプル理学療法学シリーズ運動療法学テキスト P161～166。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書P167～177よく読んでおくことと、調べておこうに取り組んでおくこと。 【復習】学習到達度自己評価問題を解く (前回までで終わらない所を終わらせておくこと)。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度、復習30分程度。合わせて60分程度。</p>
第11回	<p>筋持久力増強訓練 【key words】 持久力、瞬発力、継続性の原則 【授業概要】 小テスト② (20点) 筋持久力とは、筋力と並び質の高い動作を可能とするために必要不可欠なものである。筋力と、筋持久力、全身持久力と筋持久力の違いをそれぞれ理解する。また、筋持久力を決定する要因と影響を与える因子について理解する。 1. 筋持久力を決定する要因を生理学的に説明できる。 2. 臨床場面において筋持久力の評価を実施できる。 3. 筋持久力増強訓練に適した負荷の量、時間、頻度を設定できる。 4. 臨床場面において、具体的な筋持久力増強訓練の方法を提案・指導できる。 【教科書ページ・参考文献】 シンプル理学療法学シリーズ運動療法学テキスト P178～188。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書P178～188よく読んでおくことと、調べておこうに取り組んでおくこと。 【復習】学習到達度自己評価問題を解く (P188)。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度、復習30分程度。合わせて60分程度。</p>
第12回	<p>随意運動と運動制御モデル 【key words】 随意運動、運動制御、筋、中枢 【授業概要】 随意運動のメカニズムについて理解する。また、運動制御に対応した中枢神経系について理解する。 【教科書ページ・参考文献】</p>

第13回	<p>標準理学療法学 P57～73。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】配布資料の教科書P57～75よく読んでおくことと、調べておこうに取り組んでおくこと。 【復習】わからない所についてはノートにまとめること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度，復習30分程度。合わせて60分程度。 姿勢制御のメカニズム 【key words】 静的，動的，アングルストラテジー，ヒップストラテジー 【授業概要】 1. 姿勢制御のメカニズムについて理解する。 2. 運動学習とこのメカニズムに基づく練習の構成について考える。 【教科書ページ・参考文献】 標準理学療法学 運動療法学 総論 P85～96。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書P86～96よく読んでおくことと、調べておこうに取り組んでおくこと。 【復習】わからない所についてはノートにまとめること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度，復習30分程度。合わせて60分程度。</p>
第14回	<p>障害別機能（統合）訓練 対麻痺・四肢麻痺 ① 【key words】 対麻痺、四肢麻痺、随伴症状、合併症 【授業概要】 対麻痺、四肢麻痺のリハビリテーションは最大限の機能回復とADL獲得、個人の最高のQOL獲得を目標としている。理学療法は運動療法を中心とした内容ではあるが、活動制限へのアプローチとしてADL指導や装具療法は必要不可欠である。ここでは、対麻痺者、四肢麻痺者の理学療法のなかでの運動療法の流れを理解する。 1. 対麻痺・四肢麻痺者の機能分類を説明できる。 2. 随伴症状と合併症を説明できる。 3. 対麻痺・四肢麻痺者に対する運動療法を説明できる。 【教科書ページ・参考文献】 ②シンプル理学療法学シリーズ運動療法学テキスト P353～373。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書P353～373よく読んでおくことと、調べておこうに取り組んでおくこと。 【復習】学習到達度自己評価問題を解く（P364）。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度，復習30分程度。合わせて60分程度。</p>
第15回	<p>障害別機能（統合）訓練 対麻痺・四肢麻痺 ② 【key words】 対麻痺、四肢麻痺、随伴症状、合併症 【授業概要】 小テスト③（20点） 対麻痺、四肢麻痺のリハビリテーションは最大限の機能回復とADL獲得、個人の最高のQOL獲得を目標としている。理学療法は運動療法を中心とした内容ではあるが、活動制限へのアプローチとしてADL指導や装具療法は必要不可欠である。ここでは、対麻痺者、四肢麻痺者の理学療法のなかでの運動療法の流れを理解する。 1. 対麻痺・四肢麻痺者の機能分類を説明できる。 2. 随伴症状と合併症を説明できる。 3. 対麻痺・四肢麻痺者に対する運動療法を説明できる。 【教科書ページ・参考文献】 ②シンプル理学療法学シリーズ運動療法学テキスト P353～373。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書P353～373よく読んでおくことと、調べておこうに取り組んでおくこと。 【復習】学習到達度自己評価問題を解く（P364）。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度，復習30分程度。合わせて60分程度。</p>
受講生に関する情報および受講のルール	<p>学習方法：運動療法の基礎を学びながら、実際の運動療法について学びます。 解剖学，運動学の知識を理解していることが前提となります。理解が不十分と感じている人は、事前学習を個人で進めて下さい。 予習：指定された教科書の範囲について取り組みをして下さい（例：範囲内で読めない漢字や意味が分からない言葉を調べて下さい）。 授業中：わからない事があったら場合、積極的に質問をして下さい（コメントカードでも構いません）。 復習：授業内容を再度確認して下さい。</p>
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	<p>チャトルカード方式で行いますが、状況次第でGoogleフォームから回答を願います。</p>
授業外時間にかかわる情報	<p>運動療法学実習Ⅰに繋がる内容のため、十分な理解が必要となります。各自ノートを用意し、授業後に整理を行ってください。また、小テストについては授業内で範囲を説明しますので自己学習を進めて下さい。</p>
オフィスアワー	<p>木曜日16時30分～17時30分</p>
評価方法	<p>第1回～第5回まで小テスト20%，第6回～第10回まで小テスト20%，第11回～第14回小テスト20%，期末試験40%，（総合評価にて判定）。小テスト3回と期末試験の合計が60%に達していない場合は再試験対象となります。</p>
教科書	<p>細田多穂：シンプル理学療法学シリーズ運動療法学テキスト、改定第3版、南江堂</p>
参考書	<p>奈良 勲：標準理学療法学，運動療法学（総論），医学書院，2010 第12回，第13回時に使用します。</p>

<p>実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育</p>	<p>市橋則明：運動療法学（障害別アプローチの理論と実際，文光堂，2015.）</p> <p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> ■実務経験のある教員が担当している <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>整形外科領域の病院で勤務経験（5年），大学または専門学校で教員経験が10年以上の経験がある者が行います。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> ■PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 <p>その他の具体的内容</p>
---------------------------------	--

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	1単位(30)	必修
担当教員			
新谷益巳・小林雄斗			
理学療法治療学	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>授業の目的 理学療法における治療技術の基礎を身につける。</p> <p>到達目標 ①異常な状態に対する治療技術を選ぶことができる。 ②①に関連した主要な治療技術を実行できる。 ③②について、評価学に基づいて、介入効果を示すことができる。</p>
授業の概要	運動療法学Ⅰの学習を踏まえて、理学療法で必要となる治療技術の代表的なものが実施できるように、体験して身につける。この科目で学んだことは、今後運動療法学、理学療法技術論へつながる科目である。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	△
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	◎
(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	◎
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	△
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	△

授業計画	第1回	<p>科目オリエンテーション / リラクゼーションテクニック</p> <p>【key words】 ストレス、ストレッチング、身体運動、マッサージ</p> <p>【授業概要】 ・ストレス、闘争・逃避反応、呼吸法、自律訓練法、ストレッチング、身体運動、マッサージ、リラクゼーションテクニックの基本的な考え方を理解し、その代表的なテクニックによる身体的変化を確認する。 ・実技で学んだ事は、各自時間を作り習得できるよう努力すること。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 シンプル理学療法学シリーズ運動療法学テキスト P50～69。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書の範囲をよく読んでおくこと。 【復習】実施した内容をノートに整理してまとめておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度、復習30分程度。合わせて60分程度。</p>
	第2回	<p>ストレッチング(上肢)</p> <p>【key words】 静的、動的、ストレッチング</p> <p>【授業概要】 ・上肢のストレッチングの目的と効果を理解し、ストレッチングの種類を必要に応じて選択して実施する。また、注意点についても説明することができる。また上半身のストレッチングを実施する。 ・実技で学んだ事は、各自時間を作り習得できるよう努力すること。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 ・資料を配布。 ・図書室の理学療法学ゴールドマスター・テキスト P59～73(各自でコピーをしておくこと)。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書の範囲をよく読んでおくこと。 【復習】実施した内容をノートに整理してまとめておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度、復習30分程度。合わせて60分程度。</p>
	第3回	<p>ストレッチング(下肢)</p> <p>【key words】 IDストレッチング、PNFストレッチング、バリスティックストレッチング</p> <p>【授業概要】 ・下肢のストレッチングの目的と効果を理解し、ストレッチングの種類を必要に応じて選択して実施する。また、注意点についても説明することができる。また上半身のストレッチングを実施</p>

	<p>する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実技で学んだ事は、各自時間を作り習得できるよう努力すること。 <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料を配布 ・図書室の理学療法学ゴールドマスター・テキスト P59～73（各自でコピーをしておくこと）。 <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習】教科書の範囲をよく読んでおくこと。</p> <p>【復習】実施した内容をノートに整理してまとめておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>予習30分程度，復習30分程度。合わせて60分程度。</p> <p>第4回 運動療法による関節可動域の維持と改善（1）上肢</p> <p>【key words】</p> <p>副運動、凹凸の法則</p> <p>【授業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上肢における関節可動域訓練の基本技術を理解し、実技練習をおこない習得する。 ・実技で学んだ事は、各自時間を作り習得できるよう努力すること。 <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>シンプル理学療法学シリーズ運動療法学テキスト P124～142・</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習】教科書の範囲をよく読んでおくこと。</p> <p>【復習】実施した内容をノートに整理してまとめておくこと</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>予習30分程度，復習30分程度。合わせて60分程度。</p>
	<p>第5回 運動療法による関節可動域の維持と改善（2）下肢</p> <p>【key words】</p> <p>副運動、凹凸の法則</p> <p>【授業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下肢における関節可動域訓練の基本技術を理解し、実技練習をおこない習得する。 ・実技で学んだ事は、各自時間を作り習得できるよう努力すること。 <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>シンプル理学療法学シリーズ運動療法学テキスト P124～142。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習】教科書の範囲をよく読んでおくこと。</p> <p>【復習】実施した内容をノートに整理してまとめておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>予習30分程度，復習30分程度。合わせて60分程度。</p>
	<p>第6回 姿勢変化と生体反応の実際</p> <p>【key words】</p> <p>起立性低血圧、ティルトテーブル</p> <p>【授業概要】</p> <p>小テスト①（20点）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臥位からの姿勢変化に伴う血圧変化などの生体応答を計測する方法を理解する。そのために、ティルトテーブルとがっじアップベッドを用いて反応を確認する。 ・実技で学んだ事は、各自時間を作り習得できるよう努力すること。 <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>シンプル理学療法学シリーズ運動療法学テキスト P70～84。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習】教科書の範囲をよく読んでおくこと。</p> <p>【復習】実施した内容をノートに整理してまとめておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>予習30分程度，復習30分程度。合わせて60分程度。</p>
	<p>第7回 疾患別の運動療法（治療体操）</p> <p>【key words】</p> <p>コッドマン体操、ウィリアズ体操</p> <p>【授業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回～第7回までの範囲で小テストを実施する。 ・治療体操の歴史的背景や理論的背景を理解する。また、各治療体操が対象となる疾患を理解する。 ・実技で学んだ事は、各自時間を作り習得できるよう努力すること。 <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>シンプル理学療法学シリーズ運動療法学テキスト P242～263・</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習】教科書の範囲をよく読んでおくこと。</p> <p>【復習】実施した内容をノートに整理してまとめておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>予習30分程度，復習30分程度。合わせて60分程度。</p>
	<p>第8回 運動療法による筋力の維持と増強（1）上肢</p> <p>【key words】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・張性収縮、肩甲上腕リズム <p>【授業概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全に上肢の筋力増強訓練を行うことができ、適切な手技、器具を選択して筋力増強訓練を行うことができる。 ・実技で学んだ事は、各自時間を作り習得できるよう努力すること。 <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>シンプル理学療法学シリーズ運動療法学テキスト P178～188。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習】教科書の範囲をよく読んでおくこと。</p> <p>【復習】実施した内容をノートに整理してまとめておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>予習30分程度，復習30分程度。合わせて60分程度。</p> <p>第9回 運動療法による筋力の維持と増強（2）下肢</p>

	<p>【key words】 等尺性収縮、等張性収縮、SLR</p> <p>【授業概要】 ・安全に下肢の筋力増強訓練を行うことができ、適切な手技、器具を選択して筋力増強訓練を行うことができる。 ・実技で学んだ事は、各自時間を作り習得できるよう努力すること。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 シンプル理学療法学シリーズ運動療法学テキスト P178～188。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書の範囲をよく読んでおくこと。 【復習】実施した内容をノートに整理してまとめておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度、復習30分程度。合わせて60分程度。</p>
第10回	<p>運動療法による筋力の維持と増強（3）体幹</p> <p>【key words】 求心性収縮、遠心性収縮、同時性収縮</p> <p>【授業概要】 ・安全に体幹の筋力増強訓練を行うことができ、適切な手技、器具を選択して筋力増強訓練を行うことができる。 ・実技で学んだ事は、各自時間を作り習得できるよう努力すること。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 シンプル理学療法学シリーズ運動療法学テキスト P178～188。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書の範囲をよく読んでおくこと。 【復習】実施した内容をノートに整理してまとめておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度、復習30分程度。合わせて60分程度。</p>
第11回	<p>筋力低下に対する運動療法</p> <p>【key words】 負荷量、抵抗、筋力低下</p> <p>【授業概要】 小テスト②（20点） ・筋力低下の分類を理解し、その原因を判断することができる。次に、筋力低下が認められる筋に対して運動療法が立案することができる。その運動を学生間で実施することができ、運動指導からリスク管理までを学ぶ。 ・実技で学んだ事は、各自時間を作り習得できるよう努力すること。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 運動療法学 障害別アプローチの理論と実際 文光堂：P221～228。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書の範囲をよく読んでおくこと。 【復習】実施した内容をノートに整理してまとめておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度、復習30分程度。合わせて60分程度。</p>
第12回	<p>運動療法による持久力の維持と改善</p> <p>【key words】 心拍数、運動</p> <p>【授業概要】 ・持久力の概念について理解し、運動負荷試験と運動処方が実施できる。 ・実技で学んだ事は、各自時間を作り習得できるよう努力すること。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 シンプル理学療法学シリーズ運動療法学テキスト P110～120。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書の範囲をよく読んでおくこと。 【復習】実施した内容をノートに整理してまとめておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度、復習30分程度。合わせて60分程度。</p>
第13回	<p>運動療法による筋持久力練習</p> <p>【key words】 超回復、筋持久力</p> <p>【授業概要】 ・筋持久力増強訓練のプログラム作成上の注意点を理解し、実際にプログラムを立案する。 ・実技で学んだ事は、各自時間を作り習得できるよう努力すること。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 シンプル理学療法学シリーズ運動療法学テキスト P189～196。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書の範囲をよく読んでおくこと。 【復習】実施した内容をノートに整理してまとめておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度、復習30分程度。合わせて60分程度。</p>
第14回	<p>障害別機能（統合）訓練 対麻痺・四肢麻痺に対しての実際①</p> <p>【key words】 四肢麻痺、対麻痺</p> <p>【授業概要】 ・対麻痺・四肢麻痺者の日常生活での基本動作は、受傷前の運動様式とは異なり、動作の習得には時間を要す。また、対麻痺・四肢麻痺者がADLを最大限に自立するためには、ベッドから起き上がり、座位となり、車いす上で安定した座位を保持することが望まれる。学生は実際に背臥位から起き上がり、起き上がりから座位、座位から車いすへの移乗、車いす操作までの動作が自ら可能となり、これらの動作を指導できることを目標とする。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 シンプル理学療法学シリーズ運動療法学テキスト P353～374実技。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書の範囲をよく読んでおくこと。 【復習】実施した内容をノートに整理してまとめておくこと。</p>

第15回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度，復習30分程度。合わせて60分程度。 障害別機能（統合）訓練 対麻痺・四肢麻痺に対しての実際②</p> <p>【key words】 四肢麻痺，対麻痺</p> <p>【授業概要】 小テスト③（20点） ・対麻痺・四肢麻痺者の日常生活での基本動作は、受傷前の運動様式とは異なり、動作の習得には時間を要す。また、対麻痺・四肢麻痺者がADLを最大限に自立するためには、ベッドから起き上がり、座位となり、車いす上で安定した座位を保持することが望まれる。学生は実際に背臥位から起き上がり、起き上がりから座位、座位から車いすへの移乗、車いす操作までの動作が自ら可能となり、これらの動作を指導できることを目標とする。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 シンプル理学療法学シリーズ運動療法学テキスト P353～374実技。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書の範囲をよく読んでおくこと。 【復習】実施した内容をノートに整理してまとめておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度，復習30分程度。合わせて60分程度。</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<p>服装指定：Tシャツ+ハーフパンツ（防寒対策は認めます）。 学習方法：基礎を学びながら，実際の運動療法について学びます。</p> <p>解剖学，運動学の知識を理解していることが前提となります。不十分な者は事前学習を個人で進めて下さい。</p>
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード方式で行いますが，状況次第でGoogleフォームから回答を願います。
授業外時間にかかわる情報	復習学習：技術を身につけるために復習とトレーニングを支援します。
オフィスアワー	木曜日16時30分～17時30分
評価方法	第1回～第5回まで小テスト20%，第6回～第10回まで小テスト20%，第11回～第14回小テスト20%，期末試験40%，（総合評価にて判定）。小テスト3回と期末試験の合計が60%に達していない場合は再試験および課題対象となります。
教科書	細田多穂：シンプル理学療法学シリーズ運動療法学テキスト，南江堂，第3版，2019
参考書	<p>加藤浩：理学療法学テキスト運動器障害理学療法学，Medical View，2020 上杉雅之：PT入門イラストでわかる運動器障害理学療法，医歯薬出版株式会社，2021 市橋則明：運動療法学（障害別アプローチの理論と実際、文光堂</p>
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <p>■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容 整形外科領域の病院で勤務経験（5年），大学または専門学校で教員経験が10年以上の経験がある者が行います。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <p>■PBL（課題解決型学習） □ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない</p> <p>情報リテラシー教育</p> <p>□情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない</p> <p>ICTの活用</p> <p>■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他</p> <p>その他の具体的内容</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	必修
担当教員			
村山明彦・榊原清			
理学療法治療学	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] 生涯の全ライフステージ（発達過程）の中から、特に小児期・老年期において障害を持つ方に対する理学療法治療技術の基礎を身に付ける。</p> <p>[到達目標] ①発達過程において課題となる疾患や障害を把握し、対応する治療技術、課題解決策を選択することができる。 ②①の主要な治療技術、課題解決策を立案・実行できる。 ③高齢者の精神・心理の一般的な状態について述べるができる。 ④高齢者の身体機能の特性について述べるができる。 ⑤高齢者にみられやすい併存疾患の管理・リスク管理を説明できる。</p>
授業の概要	<p>小児期・老年期において課題となる疾患や障害に対する理学療法治療技術の基礎を身に付ける。小児期においては、主に「脳性麻痺」、「遺伝性疾患」、「小児整形疾患」、「発達障害」について、症例を基に、必要な症例の観察・評価・介入について学ぶ。</p> <p>老年期においては、加齢による身体機能・精神機能が変化した高齢者の特性を知り、併存疾患の管理やリスク管理について理解する。また、理学療法士として高齢者に多い問題にどのように対応するか、その視点を学ぶ。</p>

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	○
(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	◎
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	<p>第1回 小児疾患に対する理学療法①【リスク児（早産・新生児仮死）】</p> <p>【key words】 早産児・低出生体重児・アプガースコア・粗大運動能力尺度（GMFM）</p> <p>【授業概要】 脳性麻痺や発達の遅れなどのリスクのある早産、低出生体重児の映像からその特徴を捉え、その評価方法、理学療法について学ぶ。 人間発達学で学んだ正常発達、小児科学で学んだ疾患は習得しているものとして授業を展開しますので、復習を十分にしたいうえで授業に臨んでください。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 上杉雅之監修：イラストでわかる小児理学療法学演習。医歯薬出版。2019。p2～9 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書ページに該当する映像を観ておくこと。人間発達学、小児科学の復習をした上で授業に臨むこと。 講義内容に関連するポートフォリオ（学習成果・学習まとめ）を作成し提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p> <p>第2回 小児疾患に対する理学療法②【脳性麻痺 痙直型両麻痺】</p> <p>【key words】 脳性麻痺・痙直型両麻痺・筋緊張異常・粗大運動能力分類システム（GMFCS）</p> <p>【授業概要】 脳性麻痺の筋緊張異常による分類の中で、代表的な痙直型両麻痺児の映像からその特徴を捉え、その評価方法、理学療法について学ぶ。 人間発達学で学んだ正常発達、小児科学で学んだ疾患は習得しているものとして授業を展開しますので、復習を十分にしたいうえで授業に臨んでください。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 上杉雅之監修：イラストでわかる小児理学療法学演習。医歯薬出版。2019。p10～16 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書ページに該当する映像を観ておくこと。人間発達学、小児科学の復習をした上で授業に臨むこと。 講義内容に関連するポートフォリオ（学習成果・学習まとめ）を作成し提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】</p>
------	--

第3回	<p>60分 小児疾患に対する理学療法③【脳性麻痺 痙直型片麻痺】 【key words】 脳性麻痺・痙直型片麻痺・非対称性・遠城寺式乳幼児分析的発達検査法 【授業概要】 脳性麻痺の筋緊張異常による分類の中で、代表的な痙直型片麻痺児の映像からその特徴を捉え、その評価方法、理学療法について学ぶ。 人間発達学で学んだ正常発達、小児科学で学んだ疾患は習得しているものとして授業を展開しますので、復習を十分にしたうえで授業に臨んでください。 【教科書ページ・参考文献】 上杉雅之監修：イラストでわかる小児理学療法学演習。医歯薬出版。2019。p18～26 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書ページに該当する映像を観ておくこと。人間発達学、小児科学の復習をした上で授業に臨むこと。 講義内容に関連するポートフォリオ（学習成果・学習まとめ）を作成し提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】</p>
第4回	<p>60分 小児疾患に対する理学療法④【脳性麻痺 痙直型四肢麻痺】 【key words】 脳性麻痺・痙直型四肢麻痺・ウインドスエプト変形・側弯変形・重症心身障害児 【授業概要】 脳性麻痺の筋緊張異常による分類の中で、代表的な痙直型四肢麻痺児の映像からその特徴を捉え、その評価方法、理学療法について学ぶ。 人間発達学で学んだ正常発達、小児科学で学んだ疾患は習得しているものとして授業を展開しますので、復習を十分にしたうえで授業に臨んでください。 【教科書ページ・参考文献】 上杉雅之監修：イラストでわかる小児理学療法学演習。医歯薬出版。2019。p28～37 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書ページに該当する映像を観ておくこと。人間発達学、小児科学の復習をした上で授業に臨むこと。 講義内容に関連するポートフォリオ（学習成果・学習まとめ）を作成し提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】</p>
第5回	<p>60分 小児疾患に対する理学療法⑤【脳性麻痺 アテトーゼ型】 【key words】 脳性麻痺・アテトーゼ型・筋緊張変動・筋の同時収縮困難・リラクセーション 【授業概要】 脳性麻痺の筋緊張異常による分類の中で、代表的なアテトーゼ児の映像からその特徴を捉え、その評価方法、理学療法について学ぶ。 人間発達学で学んだ正常発達、小児科学で学んだ疾患は習得しているものとして授業を展開しますので、復習を十分にしたうえで授業に臨んでください。 【教科書ページ・参考文献】 映像と配布資料により授業を展開します。ポケットファイルに綴じて整理しておくこと。 参考文献 上杉雅之監修：イラストでわかる小児理学療法学演習。医歯薬出版。2019 【課題・予習・復習・授業準備指示】 人間発達学、小児科学の復習をした上で授業に臨むこと。 講義内容に関連するポートフォリオ（学習成果・学習まとめ）を作成し提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>60分 【教科書ページ・参考文献】 上杉雅之監修：イラストでわかる小児理学療法学演習。医歯薬出版。2019。p38～46 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書ページに該当する映像を観ておくこと。人間発達学、小児科学の復習をした上で授業に臨むこと。 講義内容に関連するポートフォリオ（学習成果・学習まとめ）を作成し提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】</p>
第6回	<p>60分 小児疾患に対する理学療法⑥【ダウン症候群】 【key words】 ダウン症候群・遺伝性疾患・染色体異常症・筋の弛緩性 【授業概要】 ダウン症児の映像からその特徴を捉え、その評価方法、理学療法について学ぶ。 人間発達学で学んだ正常発達、小児科学で学んだ疾患は習得しているものとして授業を展開しますので、復習を十分にしたうえで授業に臨んでください。 【教科書ページ・参考文献】 上杉雅之監修：イラストでわかる小児理学療法学演習。医歯薬出版。2019。p68～80 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書ページに該当する映像を観ておくこと。人間発達学、小児科学の復習をした上で授業に臨むこと。 講義内容に関連するポートフォリオ（学習成果・学習まとめ）を作成し提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】</p>
第7回	<p>60分 小児疾患に対する理学療法⑦【デュシェンヌ型筋ジストロフィー（DMD）】 【key words】 デュシェンヌ型筋ジストロフィー（DMD）・X連鎖劣性遺伝・進行性・筋ジストロフィーの機能障害度 【授業概要】 子どもの遺伝性疾患の代表的なデュシェンヌ型筋ジストロフィー（DMD）児の映像からその特徴を捉え、その評価方法、理学療法について学ぶ。 人間発達学で学んだ正常発達、小児科学で学んだ疾患は習得しているものとして授業を展開しますので、復習を十分にしたうえで授業に臨んでください。</p>

<p>第8回</p>	<p>【教科書ページ・参考文献】 上杉雅之監修：イラストでわかる小児理学療法学演習．医歯薬出版．2019．p82～96 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書ページに該当する映像を観ておくこと。人間発達学、小児科学の復習をした上で授業に臨むこと。 講義内容に関連するポートフォリオ（学習成果・学習まとめ）を作成し提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p> <p>小児疾患に対する理学療法⑧【先天性多発性関節拘縮症】 【key words】 先天性多発性関節拘縮症・非進行性・末梢の多関節の拘縮・装具 【授業概要】 子どもの整形疾患の代表的な先天性多発性関節拘縮症を持つ児の映像からその特徴を捉え、その評価方法、理学療法について学ぶ。 人間発達学で学んだ正常発達、小児科学で学んだ疾患は習得しているものとして授業を展開しますので、復習を十分にしたうえで授業に臨んでください。 【教科書ページ・参考文献】 上杉雅之監修：イラストでわかる小児理学療法学演習．医歯薬出版．2019．p98～105 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書ページに該当する映像を観ておくこと。人間発達学、小児科学の復習をした上で授業に臨むこと。 講義内容に関連するポートフォリオ（学習成果・学習まとめ）を作成し提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>
<p>第9回</p>	<p>小児疾患に対する理学療法⑨【二分脊椎】 【key words】 二分脊椎・合併症・Sharrardの分類・髄節レベル・骨盤帯付き長下肢装具 【授業概要】 子どもの整形疾患の代表の二分脊椎を持つ児の映像からその特徴を捉え、その評価方法、理学療法について学ぶ。 人間発達学で学んだ正常発達、小児科学で学んだ疾患は習得しているものとして授業を展開しますので、復習を十分にしたうえで授業に臨んでください。 【教科書ページ・参考文献】 上杉雅之監修：イラストでわかる小児理学療法学演習．医歯薬出版．2019．p106～113 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書ページに該当する映像を観ておくこと。人間発達学、小児科学の復習をした上で授業に臨むこと。 講義内容に関連するポートフォリオ（学習成果・学習まとめ）を作成し提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>
<p>第10回</p>	<p>小児疾患に対する理学療法⑩【広汎性発達障害】 【key words】 自閉スペクトラム症・注意欠如多動症・発達性学習症・発達性協調運動障害・DSM-5・ICD-11 【授業概要】 広汎性発達障害を持つ児の映像からその特徴を捉え、その評価方法、理学療法について学ぶ。 理学療法士が関わることの多い発達性協調運動障害について学ぶ。 人間発達学で学んだ正常発達、小児科学で学んだ疾患は習得しているものとして授業を展開しますので、復習を十分にしたうえで授業に臨んでください。 【教科書ページ・参考文献】 上杉雅之監修：イラストでわかる小児理学療法学演習．医歯薬出版．2019．p114～124 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書ページに該当する映像を観ておくこと。人間発達学、小児科学の復習をした上で授業に臨むこと。 講義内容に関連するポートフォリオ（学習成果・学習まとめ）を作成し提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>
<p>第11回</p>	<p>科目オリエンテーション・高齢者の定義と認知・身体機能特性 【key words】 高齢者、前期高齢者、後期高齢者、超高齢者 【授業概要】 高齢者の特徴と、加齢による身体部位別機能変化を理解する。 一般社団法人日本老年医学会ホームページ https://www.jpn-geriat-soc.or.jp/ 国立研究開発法人国立長寿医療研究センターホームページ http://www.ncgg.go.jp/ 高齢者の特徴と、加齢による身体部位別機能変化を口頭で述べられるように知識の整理をして授業に臨んでください。 また、高齢者に対する運動療法の基礎（実践方法）を学びます。 【教科書ページ・参考文献】 健康長寿診療ハンドブック ～実地医家のための老年医学のエッセンス～ 改訂版、pp2-6 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsやURLを参考に予習することが望ましい。 【予習復習に必要な想定時間】 90分（予習とは別にシラバスの内容を把握したうえで授業に臨むこと）</p>
<p>第12回</p>	<p>高齢者のリハビリテーション ～サルコペニア・低栄養～ 【key words】 サルコペニア、低栄養、指輪つかテスト 【授業概要】 サルコペニア・低栄養に対する評価と介入方法を理解する。 日本サルコペニア・フレイル学会ホームページ http://jssf.umin.jp/ 日本リハビリテーション栄養学会ホームページ https://sites.google.com/site/jsrht/home サルコペニアの定義を調べ、説明できるように準備して授業に臨んでください。</p>

	<p>また、高齢者に対する運動療法の基礎（実践方法）を学びます。 【教科書ページ・参考文献】 PT・OT入門 イラストでわかる評価学、p29 健康長寿診療ハンドブック ～実地医家のための老年医学のエッセンス～ 改訂版、pp42-50、pp72-76 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsやURLを参考に予習することが望ましい。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分 第13回 高齢者のリハビリテーション ～認知症の定義と分類、認知症の症状と評価～ 【key words】 認知症、認知機能障害、高次脳機能障害 【授業概要】 認知症の定義と分類、認知機能低下について理解する。 公益社団法人日本老年精神医学会ホームページ http://www.rounen.org/ 日本認知症学会ホームページ http://dementia.umin.jp/ 認知症の定義と分類を調べて、答えられるように準備して授業に臨んでください。 また、認知症高齢者に対する運動療法の基礎（実践方法）を学びます。 【教科書ページ・参考文献】 PT・OT入門 イラストでわかる評価学、pp195-210 健康長寿診療ハンドブック ～実地医家のための老年医学のエッセンス～ 改訂版、pp13-27 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsやURLを参考に予習・復習することが望ましい。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分 第14回 認知症高齢者に対するリハビリテーション ～認知症状と認知症の行動・心理症状への介入～ 【key words】 認知症の行動・心理症状、認知症ケア 【授業概要】 認知症に対するリハビリテーション 認知症状と認知症の行動・心理症状への介入について理解する。 公益社団法人日本老年精神医学会ホームページ http://www.rounen.org/ 日本認知症学会ホームページ http://dementia.umin.jp/ 認知症の症状と行動・心理症状について調べて、授業に臨んでください。 また、認知症高齢者に対する運動療法の基礎（実践方法）を学びます。 【教科書ページ・参考文献】 PT・OT入門 イラストでわかる評価学、pp195-210 健康長寿診療ハンドブック ～実地医家のための老年医学のエッセンス～ 改訂版、pp13-27 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsやURLを参考に予習・復習することが望ましい。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分 第15回 高齢者のリハビリテーション ～Quality of Life (QOL)とQuality of Deth (QOD)～ 【key words】 Quality of Life (QOL)、Quality of Deth (QOD) 【授業概要】 高齢者のQuality of Life (QOL)とQuality of Deth (QOD)について考える。 厚生労働省「人生会議」してみませんか https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_02783.html 高齢者の主観的幸福感・Quality of Life (QOL)・看取り・Quality of Deth (QOD)の定義を調べ、説明できるように準備して授業に臨んでください。 【教科書ページ・参考文献】 PT・OT入門 イラストでわかる評価学、pp275-285 健康長寿診療ハンドブック ～実地医家のための老年医学のエッセンス～ 改訂版、pp176-182 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsやURLを参考に予習・復習することが望ましい。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分</p>
<p>受講生に関わる情報 および受講のルール</p>	<p>榊原 [服装・装着指定]実技演習中心となります。感染対策のための装着、本学指定ジャージ等の着用をお願いします。 [学習方法]1年次の人間発達学、2年次の小児科学の知識を基に、授業を展開していきます。不十分な場合は事前学習を十分に行った上で受講してください。 村山 ①対面・遠隔どちらでも対応できる授業構成としております。 ②授業で使用するスライド等の資料は、全て電子媒体にて事前に配布する。授業当日までにプリントアウトもしくは、電子媒体を閲覧できる環境（PC・タブレット・スマートフォンなど）を整えておいてください。 ③遠隔授業となった場合は、グループワークやディスカッションを通じて、双方向型の授業を展開する予定です。受講中はビデオをオンにしても安定する通信環境を整えておいてください。</p>
<p>毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状況の 確認方法</p>	<p>榊原 コメントカードを使用します。 村山 スレッド（Webポータル）を使用します。 初回オリエンテーション時に詳述しますが、社会人としてのマナーを踏まえた報告・連絡・相談をするよう心掛けてください。</p>
<p>授業外時間にかかわる 情報</p>	<p>授業内容を確認し、事前学習および復習を計画的に進めてください。</p>

オフィスアワー	榑原 火曜日16時30分～17時30分（その他の曜日については要予約） 村山 火曜日16時30分～17時30分（その他の曜日については要予約）
評価方法	榑原：筆記試験（50%）、課題レポート（20%）の70%分を評価する。 村山：小テスト（15%）、課題レポート（15%）の30%分を評価する。 二人分を合わせた総合評価にて判定する。
教科書	①イラストでわかる小児理学療法学演習：上杉雅之監修、医歯薬出版株式会社 ②PT・OT入門 イラストでわかる評価学：上杉雅之監修、西守隆編、医歯薬出版株式会社 ③健康長寿診療ハンドブック ～実地医家のための老年医学のエッセンス～ 改訂版：日本老年医学会 編、メジカルビュー社
参考書	①イラストでわかる人間発達学：上杉雅之監修、医歯薬出版株式会社
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> ■実務経験のある教員が担当している <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>榑原 小児領域で常勤として16年間、非常勤として15年間の実務経験を有する。特に、重症心身障害児（者）に対する地域（施設・在宅）でのリハビリテーションを数多く実践してきた。また、群馬県下において複数の市町村の発達相談・機能訓練事業、園訪問による5歳児発達検診事業にも従事してきた。</p> <p>村山 介護保険領域で常勤として11年間、非常勤として5年間の実務経験を有する。特に、地域（施設・在宅）でのリハビリテーションを数多く実践してきた。また、群馬県下において複数の市町村の介護予防事業にも携わっている。 専門理学療法士（基礎理学療法・生活環境支援理学療法）、介護支援専門員、サルコペニア・フレイル指導士などの資格を有する。転倒予防指導士基礎講習会（2018年～）、群馬県フレイル予防サポーター養成（2019年～）の講師なども務める。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>PBL（課題解決型学習） ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） <input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 <input type="checkbox"/>その他 <p>その他の具体的内容</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	1単位 (45)	必修
担当教員			
理学療法専攻教員			
臨床実習	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] 臨床の場で各対象者に応じた検査測定を実施し、結果を得るとともに結果の解釈について学ぶことを目的とする。</p> <p>[到達目標] ①理学療法士を目指す上で必要な基本的態度を身につける。 ②臨床実習施設職員並びに対象者と良好な関係を築くことができる。 ③理学療法の位置づけや役割を説明することができる。 ④検査測定を実施し、結果を報告することができる。 ⑤実習内容を記録し、書面や口頭で実習指導者に報告することができる。</p>		
授業の概要	<p>基礎評価実習を医療機関または介護老人保健施設において1週間実施する。これまで学んできた検査測定に関する知識・技術を臨床の現場で、臨床実習指導者のもとで実施する。病院・老健という大きな組織の中で理学療法士の位置付け、他部門・他職種とのやり取り、患者様との交流などを学んでいく。クリニカルクラークシップのもとにリハビリテーション業務に実際に関与しながら、その実態を学んでいく。臨床実習指導者から紹介された患者様に検査測定（バイタル・形態計測・ROM・MMTなど）を実施する。その際は患者様の背景、疾患の知識、初期情報を理解するとともに結果の解釈について指導者のアドバイスをもとに学ぶ。</p>		
各学科、専攻、コースにおけるDP			科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			◎
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			△
(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる			◎
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
授業計画	第1回	<p>基礎評価実習</p> <p>【key words】 理学療法、検査測定、知識、技能、態度</p> <p>【授業概要】 基礎評価実習を医療機関または介護老人保健施設において1週間実施する。病院・老健という大きな組織の中で理学療法士の位置付け、他部門・他職種とのやり取り、患者様との交流などを学んでいく。クリニカルクラークシップのもとにリハビリテーション業務に実際に関与しながら、その実態を学んでいく。臨床実習指導者から紹介された患者様にインタビュー、検査測定（バイタル・形態計測・ROM・MMTなど）を実施する。その際は患者様の背景、疾患の知識、初期情報を理解し、結果の解釈について指導者のアドバイスをもとに学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 見学した内容や実施した内容を振り返り、考察と共にまとめること。 翌日実施する予定の検査測定項目を調べ、実施できるよう準備すること。 【予習復習に必要な想定時間】 平日は60分を目安とし、休日については過度な負担とならないよう自己研鑽すること。</p>	
受講生に関わる情報および受講のルール	<ul style="list-style-type: none"> ・医療従事者として必要な態度や身だしなみを整えたくて実習に臨むこと。 ・時間の厳守と、報告・相談・連絡を怠らないこと。 ・体調管理に留意し、実習に対して積極的に行動すること。 ・臨床実習の手引きを熟読すること 		
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	学生からの実習報告および実習地訪問等を活用		
授業外時間にかかわる情報	臨床実習の手引きを熟読すること。 臨床における経験を通して、知識や技能の定着を図るために自主的に学ぶこと。		
オフィスアワー	担当教員のオフィスアワーに準じる		

評価方法	<p>出席（出席時間数要件：4/5以上） 形成的評価ルーブリック40%、チェックリスト20%、ポートフォリオ40% ポートフォリオの採点基準 ①目標シート（5点）：十分5点、不足あり3点、不可0点 ②日付の記載（3点）：あり3点、なし0点 ③日付順にファイリングされている（3点）：十分3点、不可0点 ④日付や項目別に見出しを付けることができる（4点）：十分4点、不足あり2点、不可0点 ⑤デイリーノート[その日の実習で見学や経験した事柄の記録]（10点）：十分10点、不足あり5点、不可0点 ⑥自己学習内容（10点）：十分10点、不足あり5点、不可0点 ⑦振り返りシート（5点）：十分5点、不足あり3点、不可0点</p>
教科書	適宜紹介する
参考書	適宜紹介する
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容 総合病院、及び介護老人保健施設や発達障害領域の施設で勤務し、機能訓練を行っていた。症例を評価し、問題点を抽出後、適切な治療プログラムを立案・実施、再評価することが求められる。臨床における知識、技能だけでなく求められる資質についても指導する。</p> <p>アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク <input type="checkbox"/>プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</p> <p>情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） <input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない</p> <p>ICTの活用 <input type="checkbox"/>ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 <input type="checkbox"/>その他</p> <p>その他の具体的内容</p>

英文科目名称： *

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	1単位(30)	必修
担当教員			
村山明彦			
理学療法治療学	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] 運動療法学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲおよびそれぞれの実習より学んだ各種運動療法の知識と技術を応用し、高齢者全般に関わる理学療法（特に運動療法）についての理解を深める。</p> <p>[到達目標] ①高齢者の精神・心理の一般的な状態について述べるができる。 ②高齢者の身体機能の特性について述べるができる。 ③高齢者にみられやすい併存疾患の管理・リスク管理を説明できる。 ④高齢者に多い問題への対応を説明できる。 ⑤高齢者に対する理学療法のエビデンスについて説明できる。</p>		
授業の概要	加齢による身体機能・精神機能が変化した高齢者の特性を知り、併存疾患の管理やリスク管理について理解する。また、理学療法士として高齢者に多い問題にどのように対応するか、その視点を学ぶ。		
各学科、専攻、コースにおけるDP			
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			科目における重要度
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			
(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる			◎
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
授業計画	第1回	科目オリエンテーション、超高齢社会、日本の現状と課題 【key words】 超高齢社会 【授業概要】 超高齢社会である日本の現状と課題について理解する。 一般社団法人日本老年医学会ホームページ https://www.jpn-geriat-soc.or.jp/ 国立社会保障・人口問題研究所ホームページ http://www.ipss.go.jp/index.asp わが国の高齢者を取り巻く環境について、知識の整理をして授業に臨んでください。 【教科書ページ・参考文献】 授業概要で紹介している参考URLを参照 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsやURLを参考に予習することが望ましい。 【予習復習に必要な想定時間】 90分（予習とは別にシラバスの内容を把握したうえで授業に臨むこと）	
	第2回	高齢者の定義と認知・身体機能特性 【key words】 高齢者の定義 【授業概要】 高齢者の特徴と、加齢による身体部位別機能変化を理解する。 一般社団法人日本老年医学会ホームページ https://www.jpn-geriat-soc.or.jp/ 国立研究開発法人国立長寿医療研究センターホームページ http://www.ncgg.go.jp/ 高齢者の特徴と、加齢による身体部位別機能変化を口頭で述べられるように知識の整理をして授業に臨んでください。また、高齢者に対する運動療法の基礎（実践方法）を学びます。動きやすい服装で出席してください。 【教科書ページ・参考文献】 授業概要で紹介している参考URLを参照 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsやURLを参考に予習・復習することが望ましい。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分	
	第3回	認知症の定義と分類、認知症の症状と評価	

	<p>【key words】 認知症の定義 【授業概要】 認知症の定義と分類、認知機能低下について理解する。 公益社団法人日本老年精神医学会ホームページ http://www.rounen.org/ 日本認知症学会ホームページ http://dementia.umin.jp/ 認知症の定義と分類を調べて、答えられるように準備して授業に臨んでください。また、認知症高齢者に対する運動療法の基礎（実践方法）を学びます。動きやすい服装で出席してください。 【教科書ページ・参考文献】 授業概要で紹介している参考URLを参照 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsやURLを参考に予習・復習することが望ましい。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分</p>
第4回	<p>認知症に対するリハビリテーション 認知症状と認知症の行動・心理症状への介入 【key words】 認知症の行動・心理症状 【授業概要】 認知症に対するリハビリテーション 認知症状と認知症の行動・心理症状への介入について理解する。 公益社団法人日本老年精神医学会ホームページ http://www.rounen.org/ 日本認知症学会ホームページ http://dementia.umin.jp/ 認知症の症状と行動について調べて、授業に臨んでください。また、認知症高齢者に対する運動療法の基礎（実践方法）を学びます。動きやすい服装で出席してください。 【教科書ページ・参考文献】 授業概要で紹介している参考URLを参照 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsやURLを参考に予習・復習することが望ましい。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分</p>
第5回	<p>認知症に対するリハビリテーション 非薬物療法としての理学療法 【key words】 認知症の非薬物療法 【授業概要】 認知症の非薬物療法としての理学療法のあり方を理解する。 公益社団法人日本老年精神医学会ホームページ http://www.rounen.org/ 日本認知症学会ホームページ http://dementia.umin.jp/ 認知症の非薬物療法について調べて、授業に臨んでください。また、認知症高齢者に対する運動療法の基礎（実践方法）を学びます。動きやすい服装で出席してください。 【教科書ページ・参考文献】 授業概要で紹介している参考URLを参照 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsやURLを参考に予習・復習することが望ましい。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分</p>
第6回	<p>高齢者のリハビリテーション ～医薬品による影響～ 【key words】 医薬品による影響 【授業概要】 リハビリにおける医薬品による影響について理解する。 一般社団法人日本老年医学会ホームページ https://www.jpn-geriat-soc.or.jp/ 日本睡眠学会ホームページ http://jssr.jp/ 催眠鎮静剤、抗不安薬を服用中のリハビリ対象者に対しどのようなリスク管理が重要かを説明できるようにして授業に臨んでください。 【教科書ページ・参考文献】 授業概要で紹介している参考URLを参照 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsやURLを参考に予習・復習することが望ましい。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分</p>
第7回	<p>高齢者のリハビリテーション ～低栄養・褥瘡～ 【key words】 低栄養・褥瘡 【授業概要】 高齢者に多い低栄養について、情報収集からの把握と、管理や関わり（褥瘡予防を含む）について理解する。 日本リハビリテーション栄養研究会ホームページ https://sites.google.com/site/rehabnutrition/ 日本理学療法士学会 栄養・嚥下理学療法部門ホームページ http://jspt.japanpt.or.jp/jsptns/ 一般社団法人日本褥瘡学会ホームページ http://www.jspu.org/ 低栄養、褥瘡の定義を調べ、説明できるように準備して授業に臨んでください。 【教科書ページ・参考文献】 授業概要で紹介している参考URLを参照</p>

第8回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsやURLを参考に予習・復習することが望ましい。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分 高齢者のリハビリテーション ～排尿・排便障害～</p> <p>【key words】 排尿・排便障害 【授業概要】 高齢者に多い排尿・排便障害に対する評価と介入方法を理解する。 一般社団法人日本老年医学会ホームページ https://www.jpn-geriat-soc.or.jp/ 日本理学療法士学会 ウィメンズヘルス・メンズヘルス理学療法部門ホームページ http://jspt.japanpt.or.jp/jsptns/ 正常な排尿・排便機能について口頭で説明できるように準備して授業に臨んでください。 【教科書ページ・参考文献】 授業概要で紹介している参考URLを参照 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsやURLを参考に予習・復習することが望ましい。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分</p>
第9回	<p>高齢者のリハビリテーション ～ロコモティブ・シンドローム～</p> <p>【key words】 ロコモティブ・シンドローム 【授業概要】 ロコモティブ・シンドロームに対する評価と介入方法を理解する。 公益社団法人日本整形外科学会ホームページ https://www.joa.or.jp/jp/index.html 一般社団法人日本運動器科学会ホームページ http://www.jsmr.org/locomotive_syndrome.html ロコモティブ・シンドロームの定義を調べ、説明できるように準備して授業に臨んでください。 また、高齢者に対する運動療法の基礎（実践方法）を学びます。動きやすい服装で出席してください。 【教科書ページ・参考文献】 授業概要で紹介している参考URLを参照 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsやURLを参考に予習・復習することが望ましい。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分</p>
第10回	<p>高齢者のリハビリテーション ～サルコペニア～</p> <p>【key words】 サルコペニア 【授業概要】 サルコペニアに対する評価と介入方法を理解する。 一般社団法人日本老年医学会ホームページ https://www.jpn-geriat-soc.or.jp/ 日本サルコペニア・フレイル学会ホームページ http://jssf.umin.jp/ サルコペニアの定義を調べ、説明できるように準備して授業に臨んでください。また、高齢者に対する運動療法の基礎（実践方法）を学びます。動きやすい服装で出席してください。 【教科書ページ・参考文献】 授業概要で紹介している参考URLを参照 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsやURLを参考に予習・復習することが望ましい。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分</p>
第11回	<p>高齢者のリハビリテーション ～フレイル～</p> <p>【key words】 フレイル 【授業概要】 フレイルに対する評価と介入方法を理解する。 一般社団法人日本老年医学会ホームページ https://www.jpn-geriat-soc.or.jp/ 日本サルコペニア・フレイル学会ホームページ http://jssf.umin.jp/ フレイルの定義を調べ、説明できるように準備して授業に臨んでください。また、高齢者に対する運動療法の基礎（実践方法）を学びます。動きやすい服装で出席してください。 【教科書ページ・参考文献】 授業概要で紹介している参考URLを参照 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsやURLを参考に予習・復習することが望ましい。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分</p>
第12回	<p>高齢者のリハビリテーション ～主観的幸福感・Quality of Life (QOL)～</p> <p>【key words】 主観的幸福感・Quality of Life (QOL) 【授業概要】 高齢者の主観的幸福感・Quality of Life (QOL)を理解する。 内閣府 経済社会総合研究所ホームページ http://www.esri.go.jp/jp/prj/current_research/shakai_shihyo/about/about.html 高齢者の主観的幸福感・Quality of Life (QOL)の定義を調べ、説明できるように準備して授業に臨んでください。 【教科書ページ・参考文献】 授業概要で紹介している参考URLを参照</p>

	<p>第13回</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsやURLを参考に予習・復習することが望ましい。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分 高齢者のリハビリテーション ～介護者教育・看取り・Quality of Death (QOD)～</p> <p>【key words】 介護者教育・看取り・Quality of Death (QOD)</p> <p>【授業概要】 介護者教育・看取り・Quality of Deth (QOD)を理解する。 財務省財務総合政策研究所ホームページ https://www.mof.go.jp/pri/research/conference/zk102.html 厚生労働省「人生会議」してみませんか https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_02783.html 看取り・Quality of Deth (QOD)の定義を調べ、説明できるように準備して授業に臨んでください。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 授業概要で紹介している参考URLを参照</p> <p>第14回</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsやURLを参考に予習・復習することが望ましい。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分 高齢者のリハビリテーション ～介護予防・ヘルスプロモーション～</p> <p>【key words】 ヘルスプロモーション</p> <p>【授業概要】 介護予防・ヘルスプロモーションを理解する。 厚生労働省 健康日本21(総論) http://www1.mhlw.go.jp/topics/kenko21_11/s0.html 厚生労働省 我が国における健康をめぐる施策の変遷 http://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/kousei/14/dl/1-01.pdf 介護予防・ヘルスプロモーションの定義を調べ、説明できるように準備して授業に臨んでください。また、高齢者に対する転倒予防プログラムの基礎(実践方法)を学びます。動きやすい服装で出席してください。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 授業概要で紹介している参考URLを参照</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsやURLを参考に予習・復習することが望ましい。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分</p> <p>第15回</p> <p>高齢者のリハビリテーション ～科学的根拠に基づく理学療法 (Evidence-based Physical Therapy : EBPT)～</p> <p>【key words】 科学的根拠に基づく理学療法 (Evidence-based Physical Therapy : EBPT)</p> <p>【授業概要】 高齢者のリハビリテーションを実施する上で、科学的根拠に基づく理学療法 (Evidence-based Physical Therapy : EBPT)の必要性となることを理解する。 日本理学療法士協会 EBPTチュートリアル http://jspt.japanpt.or.jp/ebpt/科学的根拠に基づく理学療法 (Evidence-based Physical Therapy : EBPT)の定義を調べ、説明できるように準備して授業に臨んでください。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 授業概要で紹介している参考URLを参照</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsやURLを参考に予習・復習することが望ましい。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<p>①対面・遠隔どちらでも対応できる授業構成としている。</p> <p>②授業で使用するスライド等の資料は、全て電子媒体にて事前に配布する。授業当日までにプリントアウトもしくは、電子媒体を閲覧できる環境(PC・タブレット・スマートフォンなど)を整えておくこと。</p> <p>③遠隔授業となった場合は、グループワークやディスカッションを通じて、双方向型の授業を展開する予定である。受講中はビデオをオンにしても安定する接続環境を整えておくこと。講師がスライドショー等でプレゼンテーションしている時はビデオ・オフでもよいが、それ以外のグループワークやディスカッション時はビデオ・オンで参加することを条件とする。ただし、機器の不調等がある場合は、事前に連絡をすること。</p>
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	スレッド (Webポータル)
授業外時間にかかわる情報	授業内容を確認し、事前学習および復習を計画的に進めること。
オフィスアワー	火曜日16時30分～17時30分 (その他の曜日については要予約)
評価方法	レポート40%、授業内で提示した課題 (15回) 30%、定期試験30%
教科書	日本老年医学会 (編) : 健康長寿診療ハンドブック ～実地医家のための老年医学のエッセンス～, 改訂版. メジカルビュー社
参考書	荒井秀典 編集 : フレイルハンドブック - ポケット版 -. ライフ・サイエンス 島田裕之 総編集, 牧迫飛雄馬, 山田実 編 : 高齢者理学療法学 . 医歯薬出版
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <p>■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p>

介護保険領域で常勤として11年間、非常勤として5年間の実務経験を有する。
特に、高齢者のリハビリテーションにおける安全管理（転倒予防など）と介護予防（フレイル予防など）を専門としている。
専門理学療法士（生活環境支援理学療法）、介護支援専門員、サルコペニア・フレイル指導士などの資格を有する。
転倒予防指導士基礎講習会の講師や、ぐんま認知症アカデミー（幹事・書記）なども務める。

アクティブラーニング要素

- PBL(課題解決型学習)
- ディスカッション・ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- アクティブラーニングは実施していない

情報リテラシー教育

- 情報モラルに関する教育
- 課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）
- 情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）
- 情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）
- 情報リテラシー教育は実施していない

ICTの活用

- ICTを活用した双方向型の授業の実施
- e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援
- その他

その他の具体的内容

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	2単位(30)	必修
担当教員			
新谷益巳			
理学療法治療学	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] 臨床で担当する機会が多い運動器疾患であるが、その病態を理解した上で、評価からプログラムへと進める考え方が求められる。本講義は関節機能障害、関節外機能障害、関節内外複合障害について学び、EBMを元に実際に治療について説明できることを目的とする。</p> <p>[到達目標] ①関節機能障害について説明できる。 ②関節外機能障害について説明できる。 ③関節内外複合障害について説明できる。 ④整形外科疾患の評価および理学療法プログラムを設定することができる。</p>		
授業の概要	<p>「整形外科学」、「理学療法評価学」、「運動療法学」で学んだ知識を基に、各疾患に対する治療方法について学ぶ。基礎的な内容に関しては、事前に復習しておく必要がある。授業は各疾患に対してどのような考えを基に治療（プログラムの立案）を進めるかについて学ぶ。</p>		
各学科、専攻、コースにおけるDP			科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。			
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。			○
(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる			◎
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。			
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。			
授業計画	第1回	<p>科目オリエンテーション / 運動器障害とは（運動器障害における基礎：炎症、再生、修復、癒着など）</p> <p>【key words】 炎症、再生、修復、癒合</p> <p>【授業概要】 運動器、疼痛、骨運動器障害について学び、どのような疾患があるか挙げる事ができる。また、運動器疾患の特徴を理解した上で説明ができる。特に炎症、再生、修復、癒着についての理解を深める。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト P1～15。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】当日の教科書範囲をよく読んでおくこと。また、「調べておこう」を確認しておくこと。 【復習】授業内で話した内容をまとめよく理解すること（重要事項に関しては教科書にマーキングをすること）。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度、復習30分程度</p>	
	第2回	<p>変形性関節症 ①変形性脊椎症（腰部）</p> <p>【key words】 姿勢、感覚、関節可動域制限</p> <p>【授業概要】 変形性脊椎症の概要を理解し、病的な姿勢や動作について学ぶ。また、実際の理学療法評価と治療について統合と解釈した上で理解を深める。</p> <p>1. 変形性脊椎症を説明できる。 2. 変形性脊椎症に対し理学療法評価を行い、その問題を抽出することができる。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト P27～36。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】当日の教科書範囲をよく読んでおくこと。また、「調べておこう」を確認しておくこと。 【復習】学習到達度自己評価問題を各自解くこと（P36）。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度、復習30分程度</p>	
	第3回	<p>変形性関節症 ②変形性膝関節症（保存療法・手術療法）</p>	

	<p>【key words】 立位荷重線、姿勢、内側・外側スラスト</p> <p>【授業概要】 膝OAの発症に関与する要因を理解し、保存療法における理学療法プログラムを立案できる。また、膝OAにおける生涯構造を理解し、病気に応じた治療目的を理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病気に応じた理学療法の目的を説明できる。 2. 膝OA患者の姿勢とアライメントの特徴を説明できる。 3. 膝OA患者の機能障害を説明できる。 4. 膝OA患者の日常生活障害について説明できる。 5. 保存療法として理学療法プログラムを作成できる。 <p>【教科書ページ・参考文献】 シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト P37～46。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】当日の教科書範囲をよく読んでおくこと。また、「調べておこう」を確認しておくこと。</p> <p>【復習】学習到達度自己評価問題を各自解くこと (P46、65、76)。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度、復習30分程度</p>
第4回	<p>変形性関節症 ③変形性股関節症 (保存療法)</p> <p>【key words】 歩行能力、転倒、合併症</p> <p>【授業概要】 高齢者の特性と膝OAの障害像を理解したうえで、理学療法評価と治療プログラムを立案できる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢膝OA患者に対する理学療法の目的を説明できる。 2. 高齢膝OA患者のリスクについて説明できる。 3. 高齢膝OA患者に対する治療内容について説明できる。 <p>【教科書ページ・参考文献】 シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト P67～76。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】当日の教科書範囲をよく読んでおくこと。また、「調べておこう」を確認しておくこと。</p> <p>【復習】学習到達度自己評価問題を各自解くこと (P76)。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度、復習30分程度</p>
第5回	<p>変形性関節症 ④変形性股関節症 (手術療法)</p> <p>【key words】 合併症、疼痛、筋力、関節可動域</p> <p>【授業概要】 膝OAに対する各手術療法について理解を深め、理学療法評価およびプログラムを立案できる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各手術療法の適応と特徴を説明できる。 2. 術前および術後理学療法評価項目を列挙、方法を説明できる。 3. 術前および術後理学療法評価項目を列挙し、方法を説明できる。 4. 術後合併症を列挙し、症状および予防・対処法を説明できる。 <p>【教科書ページ・参考文献】 シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト P47～65。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】当日の教科書範囲をよく読んでおくこと。また、「調べておこう」を確認しておくこと。</p> <p>【復習】学習到達度自己評価問題を各自解くこと (P86)。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度、復習30分程度</p>
第6回	<p>関節構造に由来する障害 動揺関節、関節不安定性</p> <p>【key words】 関節安定化機構、関節深層筋、関節のメカノレセプター、神経-筋協調性</p> <p>【授業概要】 第1回～第5回までの範囲でテストを実施する。</p> <p>各関節における不安定性の病態を理解し、必要な評価および治療プログラムを立案できる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 関節不安定性の原因について説明できる。 2. 各関節における不安適正の特徴を説明できる。 3. 各関節における不安定性テストをあげることができる。 4. 全身関節弛緩性の評価が実施できる。 5. 関節不安定性に対する運動療法を立案できる。 <p>【教科書ページ・参考文献】 シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト P127～136。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】当日の教科書範囲をよく読んでおくこと。また、「調べておこう」を確認しておくこと。</p> <p>【復習】学習到達度自己評価問題を各自解くこと (P136)。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度、復習30分程度</p>
第7回	<p>筋・軟部組織性障害 肩関節周囲炎・筋断裂</p> <p>【key words】 肩鎖関節、胸鎖関節、肩甲胸郭関節、第2肩関節</p> <p>【授業概要】 肩関節周囲炎の概念、特徴ならびに病態像から、その原因となる部位を理解する。</p> <p>筋断裂やアキレス腱断裂の特徴を理解し、組織の修復過程に応じた治療を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病気に応じた理学療法の目的を説明できる。 2. 肩関節複合体のそれぞれの働きについて述べることができる。 3. 肩関節の運動における腱板の働きについて説明できる。 4. 脊柱のアライメント変化が肩関節に及ぼす影響について説明できる。 5. 疾患の概要と障害像を結びつけることができる。 <p>【教科書ページ・参考文献】 シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト P217～236。</p>

第8回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】当日の教科書範囲をよく読んでおくこと。また、「調べておこう」を確認しておくこと。 【復習】学習到達度自己評価問題を各自解くこと（P225、P236）。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度、復習30分程度 骨性障害 ①大腿骨頸部骨折、転子部骨折（術前） 【key words】 転倒、高齢者、大腿骨頸部骨折、大腿骨転子部骨折 【授業概要】 大腿骨頸部骨折および転子部骨折における障害と術前のリスク管理を理解し、整形外科的処置に応じた理学療法を理解する。 1. 大腿骨頸部・転子部骨折による二次的合併症を説明できる。 2. 人工骨頭置換術後の脱臼の原因を説明できる。 3. 骨接合術、人工物置換術後のリスクとその予防法を説明できる。 【教科書ページ・参考文献】 シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト P149～156。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】当日の教科書範囲をよく読んでおくこと。また、「調べておこう」を確認しておくこと。 【復習】学習到達度自己評価問題を各自解くこと（P156）。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度、復習30分程度</p>
第9回	<p>骨性障害 ②大腿骨頸部骨折、転子部骨折（術後） 【key words】 関節応力、姿勢、バランス 【授業概要】 大腿骨頸部骨折および転子部骨折における障害と術後のリスク管理を理解し、整形外科的処置に応じた理学療法を理解する。 1. 回復期における理学療法の目的を説明できる。 2. 大腿骨頸部骨折の理学療法におけるリスクについて述べるができる。 3. 高齢者に特徴的な姿勢を説明できる。 4. 諸動作における股関節骨頭応力について説明できる。 【教科書ページ・参考文献】 シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト P157～166。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】当日の教科書範囲をよく読んでおくこと。また、「調べておこう」を確認しておくこと。 【復習】学習到達度自己評価問題を各自解くこと（P165）。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度、復習30分程度</p>
第10回	<p>骨性障害 ③大腿骨頸部骨折、転子部骨折（高齢者プログラム） 【key words】 バイタルサイン、DVT、起立性低血圧 【授業概要】 大腿骨頸部骨折術後の回復期における理学療法プログラムを立案できる。 1. 高齢患者に対する理学療法の目的を説明できる。 2. 高齢患者のリスクについて説明できる。 【教科書ページ・参考文献】 シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト P167～176。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】当日の教科書範囲をよく読んでおくこと。また、「調べておこう」を確認しておくこと。 【復習】学習到達度自己評価問題を各自解くこと（P176）。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度、復習30分程度</p>
第11回	<p>骨性障害 ④脊椎の骨折 【key words】 脱臼骨折、圧迫骨折、姿勢、アライメント 【授業概要】 第6回～第10回までの範囲でテストを実施する。 脊椎骨折後の障害の特徴を理解し、運動学的考察に裏づけられた治療目標と理学療法プログラムが立案できる。 1. 胸腰椎の脱臼骨折と圧迫骨折の発生メカニズムの違いが説明できる。 2. 病気に応じた理学療法の目的を説明できる。 3. 姿勢異常の特徴が説明できる。 【教科書ページ・参考文献】 シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト P197～206。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】当日の教科書範囲をよく読んでおくこと。また、「調べておこう」を確認しておくこと。 【復習】学習到達度自己評価問題を各自解くこと（P206）。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度、復習30分程度</p>
第12回	<p>関節軟部組織性障害 ①前十字靭帯 【key words】 4節リンク機構、終末強制回旋運動 【授業概要】 靭帯損傷、半月板損傷の受傷機転や分類を理解して、整形外科的治療の概略を説明できる。また、靭帯損傷、半月板損傷の運動学的考察に裏づけられた理学療法プログラムを立案できる。 1. ACL、PCLの機能解剖について理解し、説明できる。 2. ACL損傷、PCL損傷の受傷機転を説明できる。 3. ACL損傷、PCL損傷に対する理学療法の目的が説明できる。</p>

	<p>【教科書ページ・参考文献】 シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト P97～105。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】当日の教科書範囲をよく読んでおくこと。また、「調べておこう」を確認しておくこと。 【復習】学習到達度自己評価問題を各自解くこと (P105)。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度、復習30分程度 関節軟部組織性障害 ②前十字靭帯</p> <p>【key words】 関節運動の制動機構、半月板、靭帯 【授業概要】 靭帯損傷、半月板損傷の受傷機転や分類を理解して、整形外科的治療の概略を説明できる。また、靭帯損傷、半月板損傷の運動学的考察に裏づけられた理学療法プログラムを立案できる。 1. 靭帯損傷、半月板損傷の受傷機転を説明することができる。 2. 靭帯損傷、半月板損傷の分類を説明することができる。 3. 靭帯、半月板の基本的な構造を説明することができる。 4. メカノレセプターとは何か説明することができる。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト P87～96。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】当日の教科書範囲をよく読んでおくこと。また、「調べておこう」を確認しておくこと。 【復習】授業内で話した内容をまとめよく理解すること (重要事項に関しては教科書にマーキングをすること)。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度、復習30分程度 関節軟部組織性障害 ③膝内側側副靭帯、半月板および足関節外側側副靭帯損傷</p> <p>【key words】 大腿脛骨角、終末強制回旋運動、伸展不全 【授業概要】 膝内側側副靭帯、半月板および足関節外側側副靭帯損傷の概略を理解し、理学療法評価の想起、プログラムを立案する。 1. 損傷組織の構造的特徴を説明できる。 2. 受傷機転を運動学的に説明できる。 3. 疾患から想起できる検査項目を説明できる。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト P107～116。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】当日の教科書範囲をよく読んでおくこと。また、「調べておこう」を確認しておくこと。 【復習】学習到達度自己評価問題を各自解くこと (P116)。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度、復習30分程度 複合障害 ①関節リウマチ</p> <p>【key words】 全身症状、関節症状 【授業概要】 第11回～14回までの範囲でテストを実施する。 関節リウマチの病態を理解し、関節リウマチの複合的障害を理解する。 1. 特有な関節症状と関節外症状を説明できる。 2. 特有な機能障害と腫脹、疼痛、関節制限、筋力低下との関連から説明できる。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト P277～296。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】当日の教科書範囲をよく読んでおくこと。また、「調べておこう」を確認しておくこと。 【復習】学習到達度自己評価問題を各自解くこと (P286、P296)。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度、復習30分程度</p>
受講生に関する情報 および受講のルール	[受講生にかかわる情報]および[受講のルール] ・授業計画を必ず確認し積極的に授業に臨んでください。 ・授業の流れや雰囲気や乱したり、他の受講生の迷惑になる行為 (私語、携帯電話の使用) は厳禁とします。 ・寝ている者については、気づいた者が起こすなどして見て見ぬふりは絶対にしないでください。また、寝ている者がいる場合は授業の進行を一時止めたりすることもあります。
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	チャトルカード方式
授業外時間にかかわ る情報	ノートを用意して、授業内で説明したことをまとめてください。また、配布資料を用いてわからない用語は意味を調べておいてください。
オフィスアワー	木曜日の16時30分～17時30分
評価方法	筆記試験90% (第1回～第5回まで30%、第6回～第10回まで30%、第11回～第15回30%)。第15回のレポート10%。総合評価にて判定。筆記試験が60%に達していない場合は再試験対象とします。
教科書	シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト 南江堂 PT臨床実習ルートマップ MEDICALVIEW
参考書	授業内に随時紹介します。
実務者経験/アク ティブラーニング/	授業担当教員

リテラシー教育	<p>■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容 整形外科病院にて5年の臨床経験と、大学または専門学校にて10年の経験がある者が行います。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/>グループワーク <input type="checkbox"/>プレゼンテーション <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの(図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) ■情報を分析評価し整理するもの(情報処理、情報整理法等) <input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの(レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) <input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 <input type="checkbox"/>その他 <p>その他の具体的内容</p>
---------	--

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	2単位(30)	必修
担当教員			
小林雄斗			
理学療法治療学	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] 中枢神経障害の理学療法の基本的な進め方を、脳血管障害・脊髄損傷など具体的な疾患を通して学び、実習ではそれらを実行できる能力を身につける。</p> <p>[到達目標] ①実習で対応できるレベルのケースに即した理学療法を具体的に提示し、実行できる。 ②ケースに応じたリハビリテーションの展開について意見を述べられる。 ③実習に対応できるレベルのレポート、サマリーが作成できる。</p>
授業の概要	中枢神経障害を呈する代表的疾患に対しての基本的な理学療法の進め方について学ぶ。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	◎
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション、リハビリテーションとは 【key words】 到達目標、リハビリテーション</p> <p>【授業概要】 ①科目オリエンテーション ・科目での到達目標、進め方についてのガイダンス ②リハビリテーションとは ・リハビリテーションの概要について理解する。 ・リハビリテーションにおける理学療法士の役割を理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 2年次の運動療法学Ⅱ：第1回で使用した資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 2年次の運動療法学Ⅱ：第1回で使用した資料を中心に使用し、リハビリテーションの概要について復習しておくこと。 【課題】脳卒中片麻痺患者の歩行動画を視聴し、レポート課題を課す。内容は授業内で説明する。 【予習復習に必要な想定時間】 予習：1時間 復習：1時間</p> <p>第2回 脳卒中片麻痺患者の歩行① 【key words】 脳卒中、動作観察・分析、ADL実用性5要素</p> <p>【授業概要】 ①動作の解釈 ・動作観察と動作分析を行う。 ②動作からの考察 ・動作より対象者の生活を推測し、リハビリテーションの必要性を考察する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 神経筋障害理学療法学テキスト：P39 - 68 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第1回をしっかりと復習し、授業に臨むこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習：1時間 予習：1時間 予習：1時間 復習：1時間</p> <p>第3回 脳卒中片麻痺患者の歩行②</p>
------	--

	<p>【key words】 原因仮説、評価、トップダウン、ボトムアップ</p> <p>【授業概要】 ①評価項目のピックアップ ・トップダウン、ボトムアップの考え方を理解する。 ②評価項目の立案 ・動作観察と動作分析より原因を仮説し、評価項目の立案を行う。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 神経筋障害理学療法学テキスト：P39 - 68 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記に指定したテキストをよく読み、授業に臨むこと 【課題】脳卒中片麻痺患者の歩行動画より評価項目の立案をレポート課題として課す。内容は授業内で説明する。 【予習復習に必要な想定時間】 予習：1時間 復習：1時間</p>
第4回	<p>脳卒中片麻痺患者の歩行③</p> <p>【key words】 原因仮説、神経メカニズム、理学療法</p> <p>【授業概要】 ①トップダウンからアプローチまでの思考過程 ・動作観察より原因仮説、評価、理学療法までの思考過程を理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 神経筋障害理学療法学テキスト：P1 - 204 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第3回で課した課題について整理し、思考過程を具体的に説明できるようにしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習：1時間 復習：1時間</p>
第5回	<p>脳卒中片麻痺患者の歩行④</p> <p>【key words】 原因仮説、神経メカニズム、理学療法</p> <p>【授業概要】 グループにて症例についての原因仮説より神経メカニズム的根拠に基づく、理学療法アプローチを考察し、まとめる。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 神経筋障害理学療法学テキスト：P1 - 204 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第6回に発表が行えるように十分に準備をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習：1時間 復習：1時間</p>
第6回	<p>脳卒中片麻痺患者の歩行⑤</p> <p>【key words】 情報収集、福祉用具、介助</p> <p>【授業概要】 第5回でグループごとにまとめた内容の発表を行う。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 神経筋障害理学療法学テキスト：P1 - 204 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 予習：1時間 復習：1時間</p>
第7回	<p>脳卒中片麻痺患者の歩行⑥</p> <p>【key words】 情報収集、福祉用具、介助</p> <p>【授業概要】 ①身体以外のアプローチ方法の立案 ・立案に必要となる情報を考察する。 ・提示した脳卒中片麻痺患者に対しての身体以外のアプローチ方法の立案する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 神経筋障害理学療法学テキスト：P1 - 204 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題】脳卒中片麻痺患者の身体以外のアプローチ方法の立案をレポート課題として課す。内容は授業内で説明する。 【予習復習に必要な想定時間】 予習：1時間 復習：1時間</p>
第8回	<p>脳卒中片麻痺患者の歩行⑦</p> <p>【key words】 情報収集、福祉用具、介助</p> <p>【授業概要】 身体以外のアプローチ方法の立案したものをグループ内で共有し、思考を深める。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 神経筋障害理学療法学テキスト：P1 - 204 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>

	<p>第7回で課した課題について整理し、思考過程を具体的に説明できるようにしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習：1時間 復習：1時間</p>
第9回	<p>脳卒中片麻痺患者のトイレ動作① 【key words】 脳卒中、トイレ動作 【授業概要】 脳卒中片麻痺患者のトイレ動作の動画より、治療目標、推察した原因、メカニズム、アプローチ方法を考察し、グループでまとめる。 【教科書ページ・参考文献】 神経筋障害理学療学テキスト：P1 - 204 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第10回に発表が行えるように十分に準備をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習：1時間 復習：1時間</p>
第10回	<p>脳卒中片麻痺患者のトイレ動作② 【key words】 脳卒中、トイレ動作 【授業概要】 第9回でグループごとにまとめた内容の発表を行う。 【教科書ページ・参考文献】 神経筋障害理学療学テキスト：P1 - 204 【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>
第11回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 予習：1時間 復習：1時間 脊髄損傷① 【key words】 脊髄損傷、マイオトーム、デルマトーム 【授業概要】 脊髄の解剖理解より、脊髄損傷の病態の理解を深める。 各損傷高位や損傷の種類による症状の違いについても説明できるようにする。 【教科書ページ・参考文献】 神経筋障害理学療学テキスト：P269-382 【課題・予習・復習・授業準備指示】 神経筋障害理学療学テキストP269-280をよく読み、脊髄についての解剖・機能について復習しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習：1時間 復習：1時間</p>
第12回	<p>脊髄損傷② 【key words】 自律神経、呼吸障害、排尿障害 【授業概要】 脊髄損傷の随伴症状や二次的障害について、動画視聴を交えながら理解を深める 【教科書ページ・参考文献】 神経筋障害理学療学テキスト：P269-382 【課題・予習・復習・授業準備指示】 神経筋障害理学療学テキストP269-280をよく読み、脊髄についての解剖・機能について復習しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習：1時間 復習：1時間</p>
第13回	<p>パーキンソン病について 【key words】 基底核、錐体外路、4大徴候 【授業概要】 パーキンソン病の病態について復習しつつ、症例検討を通して理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 神経筋障害理学療学テキスト：P205-231 【課題・予習・復習・授業準備指示】 運動療法学・実習Ⅱで行ったパーキンソン病の範囲を復習しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習：1時間 復習：1時間</p>
第14回	<p>脳画像について 【key words】 CT、MRI、同定 【授業概要】 ①脳画像の基礎 ・CTとMRIの種類、見分け方を理解する。 ②脳画像の同定 ・各スライスにおける脳部位の同定が行えるようにする。 【教科書ページ・参考文献】 神経筋障害理学療学テキスト：P27-30</p>

	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 脳についての解剖を十分に復習しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習：1時間 復習：1時間 指定難病について 【key words】 ALS、脊髄小脳変性症、多発性硬化症</p> <p>【授業概要】 神経系の解剖、生理より指定難病の病態を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 神経筋障害理学療法テキスト：P245-265 【課題・予習・復習・授業準備指示】 神経系について復習し、特に脳、脊髄、末梢神経の解剖・生理が明確に説明できるようにしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習：1時間 復習：1時間</p>
<p>受講生に関わる情報 および受講のルール</p>	<p>[受講生に関わる情報] 授業概要・シラバスを毎回確認して受講に臨むこと [受講ルール] ・課題・予習・復習を怠らないこと ・講義の流れや雰囲気等を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、居眠り、許可した場面以外でのスマートフォン等の使用、ガムを噛む等）は厳禁とする。</p>
<p>毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法</p>	<p>Googleフォームを使用</p>
<p>授業外時間にかかわ る情報</p>	<p>難易度は高めであっても臨床では普通に要求される内容であり、理解ができない部分は自己学習で十分に補うこと 課題等の出来栄が悪い場合は、個別に課題提示することがある</p>
<p>オフィスアワー</p>	<p>木曜日16時00分～</p>
<p>評価方法</p>	<p>筆記試験70%、課題シート20%、発表10%の総合評価にて判定する。</p>
<p>教科書</p>	<p>細田多穂・監修：神経筋障害理学療法テキスト，南江堂，2018</p>
<p>参考書</p>	<p>脳卒中理学療法の理論と技術 第2版，メジカルビュー，2013 石川 齊ら・編：図解 理学療法技術ガイド，文光堂，2014 福井 園彦ら・編：脳卒中最前線第4版，医歯薬出版，2009 中島雅美ら：PT・OT 基礎から学ぶ 画像の読み方 第2版，医歯薬出版，2016 千田 富義ら・編：脳卒中（リハ実践テクニク），メジカルビュー2017 潮見 泰藏：編脳卒中に対する標準的理学療法介入 第2版，文光堂，2017 奈良勲，鎌倉矩子・監修：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学，医学書院，2018 奈良勲，鎌倉矩子・監修：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学，医学書院，2018 石井慎一郎・編著：動作分析 臨床活用講座 バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践，メジカルビュー社，2019</p>
<p>実務者経験/アク ティブラーニング/ リテラシー教育</p>	<p>授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容 急性期および回復期のリハビリテーション病棟で理学療法士として従事し、主に脳血管疾患のリハビリテーションに携わってきた。</p> <p>アクティブラーニング要素 <input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</p> <p>情報リテラシー教育 <input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育 <input type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） <input type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） <input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない</p> <p>ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 <input type="checkbox"/>その他</p> <p>その他の具体的内容</p>

英文科目名称： *

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	1単位(30)	必修
担当教員			
新谷益巳			
理学療法治療学	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] 理学療法技術論Ⅱを理解した上での科目となる。そのため、各疾患における治療プログラムの立案から実際の理学療法までについて実技を中心に行う。</p> <p>[到達目標] ①関節機能障害について説明できる。 ②関節外機能障害について説明できる。 ③関節内外複合障害について説明できる。 ④整形外科疾患の評価および理学療法プログラムを設定することができる。</p>
授業の概要	「整形外科学」、「理学療法評価学」、「運動療法学」で学んだ知識を基に、各疾患に対しての治療方法について学ぶ。基礎的な内容に関しては、事前に復習しておく必要がある。授業は各疾患に対してどのような考えを基に治療（プログラムの立案）を進めるかについて学ぶ。また、実際に実技を通して流れについても理解する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	○
(専門の実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	◎
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション / 理学療法介入の目的(理学療法の一般的介入アプローチ)</p> <p>【key words】 筋収縮、物理療法、運動連鎖</p> <p>【授業概要】 等尺性収縮、荷重、筋力強化、物理療法理学療法の一般的な介入アプローチについて紹介し、実技を通して筋収縮様式を考慮したもの、荷重感覚、開放性運動連鎖、閉鎖性運動連鎖、筋力強化について実施する。」</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト P8～15。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業内で話した内容をまとめよく理解すること(重要事項に関しては教科書にマーキングをすること)。 実技については、授業以外の時間で各自が練習し習得するための時間を作ること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度、復習30分程度</p> <p>第2回 変形性関節症 ①変形性脊椎症(腰部の理学療法プログラム)</p> <p>【key words】 椎間板ヘルニア、姿勢</p> <p>【授業概要】 変形性脊椎症の一般的な介入アプローチについて紹介し、なぜそれらのアプローチが必要か考察する。アプローチの具体的な意味を理解した上で評価し、アプローチ後との比較のため再評価する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト P27～36。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業内で話した内容をまとめよく理解すること(重要事項に関しては教科書にマーキングをすること)。 実技については、授業以外の時間で各自が練習し習得するための時間を作ること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度、復習30分程度</p> <p>第3回 変形性関節症 ②変形性膝関節症(保存療法・手術療法の実際)</p> <p>【key words】 O脚、X脚、疼痛</p> <p>【授業概要】</p>
------	--

	<p>変形性膝関節症に対する保存療法と手術療法前後の理学療法について理解を深め、それぞれの目的に違いを理解した上でプログラムを立案する。 【教科書ページ・参考文献】 シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト P41～46、P52～56。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業内で話した内容をまとめよく理解すること（重要事項に関しては教科書にマーキングをすること）。 実技については、授業以外の時間で各自が練習し習得するための時間を作ること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分程度</p> <p>第4回 変形性関節症 ③変形性股関節症（保存療法の実際） 【key words】 疼痛、脚長差、関節可動域制限 【授業概要】 変形性股関節症に対する保存療法と手術療法前後の理学療法について理解を深め、それぞれの目的に違いを理解した上でプログラムを立案する。また、リスク管理の大切さを熟知する。 【教科書ページ・参考文献】 シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト P73～76。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業内で話した内容をまとめよく理解すること（重要事項に関しては教科書にマーキングをすること）。 実技については、授業以外の時間で各自が練習し習得するための時間を作ること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度、復習30分程度</p>
	<p>第5回 変形性関節症 ④変形性股関節症（手術療法の実際） 【key words】 THA、脱臼肢位、荷重、日常生活動作 【授業概要】 変形性股関節症に対する保存療法と手術療法前後の理学療法について理解を深め、それぞれの目的に違いを理解した上でプログラムを立案する。また、リスク管理の大切さを熟知する。 【教科書ページ・参考文献】 シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト P81～86。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業内で話した内容をまとめよく理解すること（重要事項に関しては教科書にマーキングをすること）。 実技については、授業以外の時間で各自が練習し習得するための時間を作ること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分程度</p>
	<p>第6回 関節構造に由来する障害 動揺関節、関節不安定性の理学療法プログラム 【key words】 深部筋、浅層筋、筋力強化、運動 【授業概要】 第1回～第6回までの範囲でテストを行う。 個別の筋機能改善エクササイズと神経一筋協調性改善エクササイズを実際に体験し、エクササイズ前後の身体アライメント変化を評価する。 【教科書ページ・参考文献】 シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト P133～136。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業内で話した内容をまとめよく理解すること（重要事項に関しては教科書にマーキングをすること）。 実技については、授業以外の時間で各自が練習し習得するための時間を作ること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度、復習30分程度</p>
	<p>第7回 筋・軟部組織性障害 肩関節周囲炎・肩板損傷の理学療法プログラム 【key words】 疼痛、姿勢、インナーマッスル 【授業概要】 肩関節周囲炎と筋断裂・アキレス腱断裂に対する理学療法プログラムを評価結果から解釈し、日常生活指導を含む予防的観点からのホームプログラムを立案する。 【教科書ページ・参考文献】 シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト 肩関節周囲炎P222～224、P233～236。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業内で話した内容をまとめよく理解すること（重要事項に関しては教科書にマーキングをすること）。 実技については、授業以外の時間で各自が練習し習得するための時間を作ること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度、復習30分程度</p>
	<p>第8回 骨性障害 ①大腿骨頸部骨折、転子部骨折の術前の理学療法プログラム 【key words】 疼痛、脚長差、合併症 【授業概要】 外科的治療法別に術前・術後理学療法プログラムが立案できる。また、術後免荷期、部分荷重期、全荷重期別の理学療法プログラムが立案できる。 【教科書ページ・参考文献】 シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト P153～156。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業内で話した内容をまとめよく理解すること（重要事項に関しては教科書にマーキングをすること）。 実技については、授業以外の時間で各自が練習し習得するための時間を作ること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度、復習30分程度</p>

第9回	<p>骨性障害 ②大腿骨頸部骨折、転子部骨折の術後の理学療法プログラム</p> <p>【key words】 荷重時期、疼痛、歩行、日常生活動作</p> <p>【授業概要】 外科的治療法別に術前・術後理学療法プログラムが立案できる。また、術後免荷期、部分荷重期、全荷重期別の理学療法プログラムが立案できる。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト P160～165。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業内で話した内容をまとめよく理解すること（重要事項に関しては教科書にマーキングをすること）。</p> <p>実技については、授業以外の時間で各自が練習し習得するための時間を作ること。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度、復習30分程度</p>
第10回	<p>骨性障害 ③大腿骨頸部骨折、転子部骨折の術後回復期の理学療法プログラム</p> <p>【key words】 日常生活動作、基本動作、疼痛</p> <p>【授業概要】 術後のADLの手順、注意点を説明でき、身体レベルに応じたホームプログラムを作成する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト P170～176。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業内で話した内容をまとめよく理解すること（重要事項に関しては教科書にマーキングをすること）。</p> <p>実技については、授業以外の時間で各自が練習し習得するための時間を作ること。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度、復習30分程度</p>
第11回	<p>骨性障害 ④脊椎の骨折の理学療法プログラム</p> <p>【key words】 疼痛、装具療法、歩行、日常生活動作</p> <p>【授業概要】 第6回～第10回までの範囲でテストを行う。</p> <p>各回復期（急性期、回復期、維持期）を通して注意することと、生活指導を含めたホームプログラムを作成。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト P203～206。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業内で話した内容をまとめよく理解すること（重要事項に関しては教科書にマーキングをすること）。</p> <p>実技については、授業以外の時間で各自が練習し習得するための時間を作ること。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度、復習30分程度</p>
第12回	<p>関節軟部組織性障害 ①前十字靭帯損傷の理学療法プログラム</p> <p>【key words】 膝崩れ、疼痛、不安感</p> <p>【授業概要】 物理療法学で学んだRICE処置から各種回復時期に合わせた理学療法プログラムについて実技を通して学ぶことと、リスク管理について説明できる。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト P93～96、P102～105。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業内で話した内容をまとめよく理解すること（重要事項に関しては教科書にマーキングをすること）。</p> <p>実技については、授業以外の時間で各自が練習し習得するための時間を作ること。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度、復習30分程度</p>
第13回	<p>関節軟部組織性障害 ②前十字靭帯損傷の理学療法プログラム</p> <p>【key words】 筋力強化、関節可動域訓練、疼痛</p> <p>【授業概要】 物理療法学で学んだRICE処置から各種回復時期に合わせた理学療法プログラムについて実技を通して学ぶことと、リスク管理について説明できる。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト P102～105。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業内で話した内容をまとめよく理解すること（重要事項に関しては教科書にマーキングをすること）。</p> <p>実技については、授業以外の時間で各自が練習し習得するための時間を作ること。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 60分程度</p>
第14回	<p>関節軟部組織性障害 ③膝内側側副靭帯、半月版および足関節外側側副靭帯損傷の理学療法プログラム</p> <p>【key words】 疼痛、過重、関節可動域訓練</p> <p>【授業概要】 特徴的な障害に対して、具体的なプログラムを立案でき、再発予防のポイントを理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト P112～116。</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業内で話した内容をまとめよく理解すること（重要事項に関しては教科書にマーキングをすること）。</p>

	<p>実技については、授業以外の時間で各自が練習し習得するための時間を作ること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度、復習30分程度 第15回 複合障害 ①関節リウマチの理学療法プログラム 【key words】 疼痛、日常生活動作、自助具 【授業概要】 第11回～第14回までの範囲でテストを実施する。 特有な機能障害を腫脹、疼痛、関節制限、筋力低下との関連を理解し、理学療法プログラムを立案する。 【教科書ページ・参考文献】 シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト P288～296。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業内で話した内容をまとめよく理解すること（重要事項に関しては教科書にマーキングをすること）。 実技については、授業以外の時間で各自が練習し習得するための時間を作ること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分程度、復習30分程度</p>
受講生に関わる情報 および受講のルール	服装指定：Tシャツ+ハーフパンツ（防寒対策は認めます） 学習方法：基礎を学びながら、実際の運動療法について学びます。 解剖学、運動学の知識を理解していることが前提となります。 不十分な者は事前学習を個人で進めて下さい。
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	シャトルカード方式
授業外時間にかかわ る情報	ノートを用意して、授業内で説明したことをまとめてください。また、配布資料を用いてわからない用語は意味を調べておいてください。
オフィスアワー	木曜日の16時30分～17時30分
評価方法	筆記試験90%（第1回～第5回まで30%、第6回～第10回まで30%、第11回～第15回30%）。第15回のレポート10%。総合評価にて判定。筆記試験が60%に達していない場合は再試験対象とします。
教科書	シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト 南江堂 PT臨床実習ルートマップ MEDICALVIEW
参考書	授業内に随時紹介します。
実務者経験/アク ティブラーニング/ リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 整形外科病院にて5年の臨床経験と、大学または専門学校にて10年の経験がある者が行います。 アクティブラーニング要素 <input type="checkbox"/> PBL(課題解決型学習) <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/> アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 <input type="checkbox"/> 情報モラルに関する教育 <input checked="" type="checkbox"/> 課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） <input checked="" type="checkbox"/> 情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） <input type="checkbox"/> 情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） <input type="checkbox"/> 情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 <input checked="" type="checkbox"/> ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input type="checkbox"/> e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 <input type="checkbox"/> その他 その他の具体的内容

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	1単位(30)	必修
担当教員			
小林雄斗			
理学療法治療学	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] 中枢神経障害の理学療法の基本的な進め方を、脳血管障害・パーキンソン病など具体的な疾患を通して学び、実習ではそれらを実行できる能力を身につける。</p> <p>[到達目標] ①実習で対応できるレベルのケースに即した理学療法を具体的に提示し、実行できる。 ②ケースに応じたリスク管理について意見を述べ、実際に対応できる。 ③実習に対応できるレベルのレポート、サマリーが作成できる。</p>
授業の概要	疾患概要、評価、治療と個々に学んだものを神経障害の観点から統合して、一連の理学療法プロセスを実践する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	◎
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	

授業計画	第1回	<p>科目オリエンテーション、リハビリテーションとは</p> <p>【key words】 到達目標、リハビリテーション</p> <p>【授業概要】</p> <p>①科目オリエンテーション ・科目での到達目標、進め方についてのガイダンス</p> <p>②リハビリテーションとは ・リハビリテーションの概要について理解する。 ・リハビリテーションにおける理学療法士の役割を理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 2年次の運動療法学Ⅱ：第1回で使用した資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 2年次の運動療法学Ⅱ：第1回で使用した資料を中心に使用し、リハビリテーションの概要について復習しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習：1時間 復習：1時間</p>
	第2回	<p>脳卒中片麻痺患者の歩行①</p> <p>【key words】 脳卒中、動作観察・分析、ADL実用性5要素</p> <p>【授業概要】</p> <p>①動作の解釈 ・動作観察と動作分析を行う。</p> <p>②動作からの考察 ・動作より対象者の生活を推測し、リハビリテーションの必要性を考察する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 神経筋障害理学療法学テキスト：P39 - 68 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第1回をしっかりと復習し、授業に臨むこと 【予習復習に必要な想定時間】 予習：1時間 予習：1時間 予習：1時間 復習：1時間</p>
	第3回	<p>脳卒中片麻痺患者の歩行②</p> <p>【key words】</p>

	<p>原因仮説、評価、トップダウン、ボトムアップ</p> <p>【授業概要】</p> <p>①評価項目のピックアップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トップダウン、ボトムアップの考え方を理解する。 <p>②評価項目の立案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動作観察と動作分析より原因を仮説し、評価項目の立案を行う。 <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>神経筋障害理学療法学テキスト：P39 - 68</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>上記に指定したテキストをよく読み、授業に臨むこと</p> <p>【課題】脳卒中片麻痺患者の歩行動画より評価項目の立案をレポート課題として課す。内容は授業内で説明する。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>予習：1時間 予習：1時間 予習：1時間 復習：1時間</p>
第4回	<p>脳卒中片麻痺患者の歩行③</p> <p>【key words】</p> <p>原因仮説、神経メカニズム、理学療法</p> <p>【授業概要】</p> <p>①トップダウンからアプローチまでの思考過程</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動作観察より原因仮説、評価、理学療法までの思考過程を理解する。 <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>神経筋障害理学療法学テキスト：P1 - 204</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>第3回で課した課題について整理し、思考過程を具体的に説明できるようにしておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>予習：1時間 予習：1時間 予習：1時間 復習：1時間</p>
第5回	<p>脳卒中片麻痺患者の歩行④</p> <p>【key words】</p> <p>原因仮説、神経メカニズム、理学療法</p> <p>【授業概要】</p> <p>グループにて症例についての原因仮説より神経メカニズム的根拠に基づき、理学療法アプローチを考察し、まとめる。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>神経筋障害理学療法学テキスト：P1 - 204</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>第6回に発表が行えるように十分に準備をしておくこと。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>予習：1時間 予習：1時間 予習：1時間 復習：1時間</p>
第6回	<p>脳卒中片麻痺患者の歩行⑤</p> <p>【key words】</p> <p>情報収集、福祉用具、介助</p> <p>【授業概要】</p> <p>第5回でグループごとにまとめた内容の発表を行う。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>神経筋障害理学療法学テキスト：P1 - 204</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>予習：1時間 予習：1時間 予習：1時間 復習：1時間</p>
第7回	<p>脳卒中片麻痺患者の歩行⑥</p> <p>【key words】</p> <p>情報収集、福祉用具、介助</p> <p>【授業概要】</p> <p>①身体以外のアプローチ方法の立案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・立案に必要となる情報を考察する。 ・提示した脳卒中片麻痺患者に対しての身体以外のアプローチ方法の立案する。 <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>神経筋障害理学療法学テキスト：P1 - 204</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【課題】脳卒中片麻痺患者の身体以外のアプローチ方法の立案をレポート課題として課す。内容は授業内で説明する。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】</p> <p>予習：1時間 予習：1時間 予習：1時間 復習：1時間</p>
第8回	<p>外部講師による講義</p>

	<p>【key words】 生活期</p> <p>【授業概要】 通所リハビリテーションにて働く理学療法士より、生活期でのリハビリテーションの考え方を講義していただく。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習：1時間 予習：1時間 予習：1時間</p>
第9回	<p>脳卒中片麻痺患者のトイレ動作①</p> <p>【key words】 脳卒中、トイレ動作</p> <p>【授業概要】 脳卒中片麻痺患者のトイレ動作の動画より、治療目標、推察した原因、メカニズム、アプローチ方法を考察し、グループでまとめる。 【教科書ページ・参考文献】 神経筋障害理学療学テキスト：P1 - 204 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第10回に発表が行えるように十分に準備をしておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 予習：1時間 予習：1時間 予習：1時間 復習：1時間</p>
第10回	<p>脳卒中片麻痺患者のトイレ動作②</p> <p>【key words】 脳卒中、トイレ動作</p> <p>【授業概要】 第9回でグループごとにまとめた内容の発表を行う。 【教科書ページ・参考文献】</p>
第11回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 神経筋障害理学療学テキスト：P1 - 204 【予習復習に必要な想定時間】 予習：1時間 予習：1時間 予習：1時間 復習：1時間</p> <p>脊髓損傷①</p> <p>【key words】 脊髓損傷、マイオトーム、デルマトーム</p> <p>【授業概要】 脊髓の解剖理解より、脊髓損傷の病態の理解を深める。 各損傷高位や損傷の種類による症状の違いについても説明できるようにする。 【教科書ページ・参考文献】 神経筋障害理学療学テキスト：P269-382 【課題・予習・復習・授業準備指示】 神経筋障害理学療学テキストP269-280をよく読み、脊髓についての解剖・機能について復習しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習：1時間 予習：1時間 予習：1時間 復習：1時間</p>
第12回	<p>脊髓損傷②</p> <p>【key words】 自律神経、呼吸障害、排尿障害</p> <p>【授業概要】 脊髓損傷の随伴症状や二次的障害について、動画視聴を交えながら理解を深める 【教科書ページ・参考文献】 神経筋障害理学療学テキスト：P269-382 【課題・予習・復習・授業準備指示】 神経筋障害理学療学テキストP269-280をよく読み、脊髓についての解剖・機能について復習しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習：1時間 予習：1時間 予習：1時間 復習：1時間</p>
第13回	<p>パーキンソン病について</p> <p>【key words】 基底核、錐体外路、4大徴候</p> <p>【授業概要】 パーキンソン病の病態について復習しつつ、症例検討を通して理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 神経筋障害理学療学テキスト：P205-231</p>

	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 運動療法学・実習Ⅱで行ったパーキンソン病の範囲を復習しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習：1時間 予習：1時間 予習：1時間 復習：1時間</p> <p>第14回 脳画像について 【key words】 CT、MRI、同定</p> <p>【授業概要】 ①脳画像の基礎 ・CTとMRIの種類、見分け方を理解する。 ②脳画像の同定 ・各スライスにおける脳部位の同定が行えるようにする。 【教科書ページ・参考文献】 神経筋障害理学療法学テキスト：P27-30 【課題・予習・復習・授業準備指示】 脳についての解剖を十分に復習しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習：1時間 予習：1時間 予習：1時間 復習：1時間</p> <p>第15回 指定難病について 【key words】 ALS、脊髄小脳変性症、多発性硬化症 【授業概要】 神経系の解剖、生理より指定難病の病態を理解する 【教科書ページ・参考文献】 神経筋障害理学療法学テキスト：P245-265 【課題・予習・復習・授業準備指示】 神経系について復習し、特に脳、脊髄、末梢神経の解剖・生理が明確に説明できるようにしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習：1時間 予習：1時間 予習：1時間 復習：1時間</p>
受講生に関わる情報 および受講のルール	<p>[受講生に関わる情報] 授業概要・シラバスを毎回確認して受講に臨むこと [受講ルール] ・課題・予習・復習を怠らないこと ・講義の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、居眠り、許可した場面以外でのスマートフォン等の使用、ガムを噛む等）は厳禁とする。</p>
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	Googleフォームを使用
授業外時間にかかわ る情報	難易度は高めであっても臨床では普通に要求される内容であり、理解ができない部分は自己学習で十分に補うこと 課題等の出来栄が悪い場合は、個別に課題提示することがある
オフィスアワー	木曜日16時00分～
評価方法	筆記試験70%、課題シート20%、発表10%の総合評価にて判定する。
教科書	細田多穂・監修：神経筋障害理学療法学テキスト，南江堂，2018
参考書	<p>脳卒中理学療法の理論と技術 第2版，メジカルビュー，2013 石川 齊ら・編：凶解 理学療法技術ガイド，文光堂，2014 福井 罔彦ら・編：脳卒中最前線第4版，医歯薬出版，2009 中島雅美ら：PT・OT 基礎から学ぶ 画像の読み方 第2版，医歯薬出版，2016 千田 富義ら・編：脳卒中（リハ実践テクニック），メジカルビュー2017 潮見 泰藏：編脳卒中に対する標準的理学療法介入 第2版，文光堂，2017 奈良勲，鎌倉矩子・監修：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学，医学書院，2018 奈良勲，鎌倉矩子・監修：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学，医学書院，2018 石井慎一郎・編著：動作分析 臨床活用講座 バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践，メジカルビュー社，2019</p>
実務者経験/アク ティブラーニング/ リテラシー教育	<p>授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容 急性期および回復期のリハビリテーション病棟で理学療法士として従事し、主に脳血管疾患のリハビリテーションに携わってきた。</p> <p>アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク</p>

- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- アクティブラーニングは実施していない

情報リテラシー教育

- 情報モラルに関する教育
- 課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）
- 情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）
- 情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）
- 情報リテラシー教育は実施していない

ICTの活用

- ICTを活用した双方向型の授業の実施
- e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援
- その他

その他の具体的内容

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	1単位(15)	自由選択
担当教員			
新谷益巳			
理学療法治療学			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] スポーツ理学療法についての特徴を学び、実際の現場を通してより具体的なサポートについて経験する。</p> <p>[達成目標] ①主要なキーワードの自分言葉で説明ができる。 ②スポーツ現場における理学療法の役割について説明ができる。 ③スポーツ外傷と障害の違いについて明確に理解し、各疾患における対応方法について説明ができる。</p>
授業の概要	解剖学、運動学、評価学の学習を基に、スポーツ理学療法に必要な知識と技術を学ぶ。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	△
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	○
(専門の実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	◎
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	△
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	△

授業計画	第1回	<p>スポーツ障害の疫学と理学療法評価</p> <p>【key words】 障害、傷害</p> <p>【授業概要】 障害、傷害スポーツ障害とスポーツ傷害の違いについて理解し、それぞれの特徴について理解する。</p> <p>資料配布解剖学・運動学・生理学の知識が不十分な場合は各自学習した上で授業に臨むこと。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>資料配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】スポーツによるケガの場面を動画で調べておくこと。 【復習】授業で配布した資料をノートにまとめておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 復習30分程度</p>
	第2回	<p>スポーツ外傷発生時の対応と応急処置</p> <p>【key words】 RICE、傷害、障害</p> <p>【授業概要】 各スポーツ傷害について、疾患の特徴をそれぞれ説明し、アライメント不良による問題点について学ぶ。予防可能な理学療法について紹介する。</p> <p>配布資料解剖学・運動学・生理学の知識が不十分な場合は各自学習した上で授業に臨むこと。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>資料配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】スポーツによるケガの場面を動画で調べておくこと。 【復習】授業で配布した資料をノートにまとめておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 復習30分程度</p>
	第3回	<p>テーピングについて</p> <p>【key words】 伸縮性、非伸縮性、固定</p> <p>【授業概要】 テーピングの目的を知り、テーピングの種類・テーピングの巻き方について学び、実際にテーピ</p>

	<p>ングを用いて巻くことができるようになる。</p> <p>資料配布解剖学・運動学・生理学の知識が不十分な場合は各自学習した上で授業に臨むこと。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>資料配布 浦辺幸夫：PTマニュアル スポーツ理学療法 P119-131 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】スポーツによるケガの場面を動画で調べておくこと。 【復習】授業で配布した資料をノートにまとめておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 復習30分程度</p> <p>第4回 足関節内反捻挫に対してのテーピング① アンカー、フォースシュー 【key words】 アンカー、フォースシュー 【授業概要】 足関節内反捻挫に対してのテーピングができるようになる。アンカー・フォースシュー・スターアップ・フィギア8・ヒールロックの巻き方を学ぶ。</p> <p>資料配布解剖学・運動学・生理学の知識が不十分な場合は各自学習した上で授業に臨むこと。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>資料配布 浦辺幸夫：PTマニュアル スポーツ理学療法 P119-131 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】スポーツによるケガの場面を動画で調べておくこと。 【復習】授業で配布した資料をノートにまとめておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 復習30分程度</p> <p>第5回 足関節内反捻挫に対してのテーピング② スターアップ、エイトフィギア 【key words】 スターアップ、エイトフィギア 【授業概要】 足関節内反捻挫に対してのテーピングは固定が必要とするケースが多い。そのため、固定を目標にしたテーピングについて学ぶ。</p> <p>前回学んだ事を踏まえて3分以内に巻く実技試験を実施。</p> <p>資料配布解剖学・運動学・生理学の知識が不十分な場合は各自学習した上で授業に臨むこと。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>資料配布 浦辺幸夫：PTマニュアル スポーツ理学療法 P119-131 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】スポーツによるケガの場面を動画で調べておくこと。 【復習】授業で配布した資料をノートにまとめておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 復習30分程度</p> <p>第6回 足関節内反捻挫に対してのテーピング③ ヒールロック、ダブルヒールロック 【key words】 ヒールロック、ダブルヒールロック 【授業概要】 足関節内反捻挫に対してのテーピングは固定が必要とするケースが多い。そのため、固定を目標にしたテーピングについて学ぶ。</p> <p>前回学んだ事を踏まえて3分以内に巻く実技試験を実施。</p> <p>資料配布解剖学・運動学・生理学の知識が不十分な場合は各自学習した上で授業に臨むこと。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>資料配布 浦辺幸夫：PTマニュアル スポーツ理学療法 P119-131 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】スポーツによるケガの場面を動画で調べておくこと。 【復習】授業で配布した資料をノートにまとめておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 復習30分程度</p> <p>第7回 足関節内反捻挫に対してのテーピング④ 【key words】 アンカー、6ック、エイトフィギア 【授業概要】 第3回～第6回まで実施してきた内容のまとめ、次回に実施する実技試験に向けて最終確認を行う。</p> <p>資料配布解剖学・運動学・生理学の知識が不十分な場合は各自学習した上で授業に臨むこと。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>資料配布 浦辺幸夫：PTマニュアル スポーツ理学療法 P119-131 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】スポーツによるケガの場面を動画で調べておくこと。 【復習】授業で配布した資料をノートにまとめておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分程度</p> <p>第8回 足関節内反捻挫に対してのテーピング⑤ 【key words】 テーピング、固定、関節運動 【授業概要】</p>
--	--

	<p>第3回～第6回まで実施してきた内容に対する実技試験</p> <p>3分以内に巻く実技試験を実施。</p> <p>資料配布解剖学・運動学・生理学の知識が不十分な場合は各自学習した上で授業に臨むこと。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>資料配布 浦辺幸夫：PTマニュアル スポーツ理学療法 P119-131 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】スポーツによるケガの場面を動画で調べておくこと。 【復習】授業で配布した資料をノートにまとめておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 復習30分程度</p>
受講生に関わる情報 および受講のルール	<p>[服装指定] Tシャツ+ハーフパンツ 指定とします。(防寒対策は認めます)</p> <p>[学習方法] 基礎を学びながら、実際に体験して学びます。</p> <p>解剖学、運動学の知識を獲得済みであることが前提とします。不十分な者は事前学習を個人で進めてください。</p>
毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状 況の確認方法	シャトルカード方式
授業外時間にかかわ る情報	[復習支援] 技術を身につけるために復習とトレーニングを支援します。現場で必要とする技術などについては科目オリエンテーションで説明します。
オフィスアワー	木曜日16時30分～17時30分
評価方法	実技試験60%、レポート40%。実技試験，ポートフォリオで6割に達していない場合，再試験および再提出とします。
教科書	毎回の授業で資料を配布します。
参考書	スポーツ理学療法 浦辺幸夫(著) 医歯薬出版株式会社 スポーツ外傷・障害に対する術後のリハビリテーション 園部俊晴(著)，運動と医学の出版社
実務者経験/アク ティブラーニング/ リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <p>■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容 整形外科病院にて5年の臨床経験と、大学または専門学校にて10年以上の経験がある者が行います。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <p><input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習)</p> <p><input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート</p> <p>■グループワーク</p> <p><input type="checkbox"/>プレゼンテーション</p> <p>■実習、フィールドワーク</p> <p><input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</p> <p>情報リテラシー教育</p> <p><input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育</p> <p>■課題解決のために必要な情報を探索するもの(図書館利用法・文献探索・データベース活用法等)</p> <p>■情報を分析評価し整理するもの(情報処理、情報整理法等)</p> <p><input type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの(レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等)</p> <p><input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない</p> <p>ICTの活用</p> <p>■ICTを活用した双方向型の授業の実施</p> <p><input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援</p> <p><input type="checkbox"/>その他</p> <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	2単位 (30)	必修
担当教員			
村山明彦			
地域理学療法学	理学療法士国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>〔授業の目的〕 地域リハビリテーションの概念、社会背景、関連制度、施設についての知識を学ぶとともに、地域で生活する対象者を把握するうえで必要な知識を身につける。</p> <p>〔到達目標〕 ①地域理学療法の概要について説明できる。 ②地域理学療法におけるキャリアラダーについて説明できる。 ③地域理学療法の対象および関連制度について説明できる。</p>
授業の概要	地域リハビリテーションの思想を理解し、障害者や高齢者が社会の中で生活していくうえで地域が果たす役割が極めて大きいこと、その中で理学療法士に何ができるのかを考えながら自ら実践する基本を学ぶ。リハビリテーション入門、理学療法概論が基礎となり、地域で生活する対象者を取り巻く制度・環境について理解を深める。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	◎
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	◎

授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション 地域リハビリテーション総論 【key words】 地域リハビリテーション、平均寿命、健康寿命 【授業概要】 科目オリエンテーションとともに、地域リハビリテーションの概念を理解する。 国立社会保障・人口問題研究所ホームページ http://www.ipss.go.jp/index.asp 地域リハビリテーション、国際生活機能分類 (International Classification of Functioning, disability and Health) について、知識の整理をして授業に臨んでください。 【教科書ページ・参考文献】 授業概要で紹介している参考URLを参照 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsやURLを参考に予習することが望ましい。 【予習復習に必要な想定時間】 90分 (予習とは別にシラバスの内容を把握したうえで授業に臨むこと)</p> <p>第2回 地域理学療法の概念 【key words】 地域理学療法、地域リハビリテーション支援センター 【授業概要】 地域理学療法の概念と、社会からのニーズの高さを理解する。 日本地域理学療法学会ホームページ http://jspt.japanpt.or.jp/jscept/ 群馬県地域リハビリテーション支援センターホームページ http://www.grsc.biz/ 一般社団法人群馬県理学療法士協会ホームページ http://gunma-pt.com/?page_id=182 地域理学療法の概念について、知識の整理をして授業に臨んでください。 【教科書ページ・参考文献】 浅川康吉 (編) : 地域理学療法学 (Crosslink理学療法学テキスト) . メジカルビュー社, pp2-11 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsやURLを参考に予習・復習することが望ましい。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分</p> <p>第3回 隣接領域の理解 【key words】 多世代交流、多職種連携、ヘルスリテラシー</p>
------	--

	<p>【授業概要】 地域理学療法の実践例を事例を通じて学ぶ 厚生労働省 我が国における健康をめぐる施策の変遷 http://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/kousei/14/dl/1-01.pdf 群馬県 高崎市 ホームページ https://www.city.takasaki.gunma.jp/docs/2014012000147/ 群馬県社会福祉協議会 ホームページ https://www.g-shakyo.or.jp/ 多世代交流、多職種連携、ヘルスリテラシーに関する知識の整理をして授業に臨んでください。 【教科書ページ・参考文献】 浅川康吉（編）：地域理学療法学（Crosslink理学療法学テキスト）．メジカルビュー社，pp64-71 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsやURLを参考に予習・復習することが望ましい。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分 地域理学療法におけるキャリアラダー</p> <p>第4回</p> <p>【key words】 キャリアラダー、生涯学習 【授業概要】 地域理学療法におけるキャリアラダーを知り、将来の活躍の場を検討する一助とする。 日本理学療法学会 生涯学習の流れ 認定・専門理学療法士制度 http://www.japanpt.or.jp/members/lifelonglearning/flow/ 厚生労働省 介護支援専門員 http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakun キャリアラダーや生涯学習について、知識の整理をして授業に臨んでください。 【教科書ページ・参考文献】 浅川康吉（編）：地域理学療法学（Crosslink理学療法学テキスト）．メジカルビュー社，p10 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsやURLを参考に予習・復習することが望ましい。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分</p> <p>第5回</p> <p>社会参加の促進～理学療法士に必要なポイント～ 【key words】 特別支援教育、生涯スポーツ、障害者スポーツ、通いの場 【授業概要】 医療保険制度の概要を学び、理学療法士に必要なポイントを理解する。 厚生労働省 我が国の医療保険について http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/iryuhoken/iryuhoken01/ 日本医師会 ホームページ https://www.med.or.jp/people/what/sh/#no3 医療保険制度について、知識の整理をして授業に臨んでください。 【教科書ページ・参考文献】 浅川康吉（編）：地域理学療法学（Crosslink理学療法学テキスト）．メジカルビュー社，pp202-214 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsやURLを参考に予習・復習することが望ましい。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分</p> <p>第6回</p> <p>医療保険制度 ～理学療法士に必要なポイント～ 【key words】 社会保障制度、医療保険制度 【授業概要】 介護保険制度の概要を学び、理学療法士に必要なポイントを理解する。 厚生労働省 介護保険制度の概要 http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/kaigo_koureisha/gaiyo/index.html 独立行政法人 福祉医療機構 WAM NET（ワムネット） 介護保険制度解説 http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/kaigo/handbook/system/ 介護保険制度について、知識の整理をして授業に臨んでください。 【教科書ページ・参考文献】 浅川康吉（編）：地域理学療法学（Crosslink理学療法学テキスト）．メジカルビュー社，pp81-83 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsやURLを参考に予習・復習することが望ましい。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分</p> <p>第7回</p> <p>介護保険制度 ～理学療法士に必要なポイント～ 【key words】 社会保障制度、介護保険制度 【授業概要】 介護保険制度の概要を学び、理学療法士に必要なポイントを理解する。 厚生労働省 介護保険制度の概要 http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/kaigo_koureisha/gaiyo/index.html 独立行政法人 福祉医療機構 WAM NET（ワムネット） 介護保険制度解説 http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/kaigo/handbook/system/ 介護保険制度について、知識の整理をして授業に臨んでください。 【教科書ページ・参考文献】 浅川康吉（編）：地域理学療法学（Crosslink理学療法学テキスト）．メジカルビュー社，pp84-88 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsやURLを参考に予習・復習することが望ましい。</p>
--	---

第8回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分</p> <p>障害者総合支援法 ～理学療法士に必要なポイント～</p> <p>【key words】 社会保障制度、障害者総合支援法</p> <p>【授業概要】 障害者総合支援法の概要を学び、理学療法士に必要なポイントを理解する。 厚生労働省 障害者総合支援法 http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/shougaisahukushi/sougoushien/national-social-welfare-association-disability-comprehensive-support-law-service-utilization-explanation-pamphlet_h2704.pdf 障害者総合支援法について、知識の整理をして授業に臨んでください。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 浅川康吉（編）：地域理学療法学（Crosslink理学療法学テキスト）．メジカルビュー社，pp89-91</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsやURLを参考に予習・復習することが望ましい。</p>
第9回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分</p> <p>地域包括ケアシステム ～理学療法士に必要なポイント～</p> <p>【key words】 地域包括ケアシステム、自助、互助、共助、公助</p> <p>【授業概要】 地域包括ケアシステムの概要を学び、理学療法士に必要なポイントを理解する。 厚生労働省 地域包括ケアシステム http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/kaigo_koureisha/chiiki-houkatsu/gunma-disability-comprehensive-support-law-service-utilization-explanation-pamphlet_h2704.pdf 群馬県 地域包括ケア推進室 http://www.pref.gunma.jp/07/bf0100003.html 地域包括ケアシステムについて、知識の整理をして授業に臨んでください。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 浅川康吉（編）：地域理学療法学（Crosslink理学療法学テキスト）．メジカルビュー社，pp92-97</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsやURLを参考に予習・復習することが望ましい。</p>
第10回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分</p> <p>地域理学療法の実際①</p> <p>【key words】 訪問リハビリテーション、通所系サービス、特定疾病</p> <p>【授業概要】 訪問リハビリテーション、通所系サービスの概要を学び、理学療法士に必要なポイントを理解する。 厚生労働省 地域包括ケアシステム http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/kaigo_koureisha/chiiki-houkatsu/gunma-disability-comprehensive-support-law-service-utilization-explanation-pamphlet_h2704.pdf 群馬県 地域包括ケア推進室 http://www.pref.gunma.jp/07/bf0100003.html 訪問リハビリテーション、通所系サービスについて、知識の整理をして授業に臨んでください。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 浅川康吉（編）：地域理学療法学（Crosslink理学療法学テキスト）．メジカルビュー社，pp119-136</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsやURLを参考に予習・復習することが望ましい。</p>
第11回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分</p> <p>地域理学療法の実際②</p> <p>【key words】 介護保険施設、地域包括ケア病棟、特定疾病</p> <p>【授業概要】 介護保険施設の概要を学び、理学療法士に必要なポイントを理解する。 厚生労働省 地域包括ケアシステム http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/kaigo_koureisha/chiiki-houkatsu/gunma-disability-comprehensive-support-law-service-utilization-explanation-pamphlet_h2704.pdf 群馬県 地域包括ケア推進室 http://www.pref.gunma.jp/07/bf0100003.html 介護保険施設について、知識の整理をして授業に臨んでください。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 浅川康吉（編）：地域理学療法学（Crosslink理学療法学テキスト）．メジカルビュー社，pp137-166</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsやURLを参考に予習・復習することが望ましい。</p>
第12回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分</p> <p>マネジメント ～理学療法士に必要なポイント～</p> <p>【key words】 ケアマネジメント、リハビリテーションマネジメント</p> <p>【授業概要】 ケアマネジメント、リハビリテーションマネジメントの概要を学び、理学療法士に必要なポイントを理解する。 厚生労働省 地域包括ケアシステム http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/kaigo_koureisha/chiiki-houkatsu/gunma-disability-comprehensive-support-law-service-utilization-explanation-pamphlet_h2704.pdf</p>

	<p>houkatsu/ 群馬県 地域包括ケア推進室 http://www.pref.gunma.jp/07/bf0100003.html ケアマネジメント、リハビリテーションマネジメントについて、知識の整理をして授業に臨んでください。 【教科書ページ・参考文献】 浅川康吉（編）：地域理学療法学（Crosslink理学療法学テキスト）．メジカルビュー社，pp234-248 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsやURLを参考に予習・復習することが望ましい。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分</p> <p>第13回 認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）、認知症施策推進大綱 ～理学療法士に必要なポイント～ 【key words】 認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）、認知症施策推進大綱 【授業概要】 認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）、認知症施策推進大綱についての概要を学び、理学療法士に必要なポイントを理解する。 厚生労働省 認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン） http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-12300000-Roukenkyoku/nop1-2_3.pdf 内閣官房 認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン） http://www.cas.go.jp/jp/seisaku/ninchisho_taisaku/dail/siryoul.pdf 厚生労働省 認知症施策推進大綱について https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000076236_00002.html 認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）、認知症施策推進大綱について、知識の整理をして授業に臨んでください。 【教科書ページ・参考文献】 浅川康吉（編）：地域理学療法学（Crosslink理学療法学テキスト）．メジカルビュー社，pp30-33 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsやURLを参考に予習・復習することが望ましい。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分</p> <p>第14回 新型コロナ感染症禍での地域理学療法 【key words】 新型コロナ感染症、新しい生活様式、コロナフレイル 【授業概要】 新型コロナ感染症禍での地域理学療法の概要を学び、理学療法士に必要なポイントを理解する。 厚生労働省ホームページ https://kayoinoba.mhlw.go.jp/ 群馬県社会福祉協議会ホームページ https://www.g-shakyo.or.jp/ 新しい生活様式について、知識を整理をして授業に臨んでください。 【教科書ページ・参考文献】 浅川康吉（編）：地域理学療法学（Crosslink理学療法学テキスト）．メジカルビュー社，pp274-278 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsやURLを参考に予習・復習することが望ましい。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分</p> <p>第15回 まとめ ～教養としての社会保障制度と理学療法士に必要なポイント～ 【key words】 教養としての社会保障制度 【授業概要】 これまでの授業の振り返り 教養としての社会保障制度について考え、理学療法士に必要なポイントを理解する。 第1回目から第14回目までの授業を踏まえて、自らの考えをプレゼンテーションできるように準備してから、授業に臨んでください。 【教科書ページ・参考文献】 授業概要で紹介している内容を参照 【課題・予習・復習・授業準備指示】 各自で発表の予行練習を行い、効率よく効果的なプレゼンテーションができるようにしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習90分・復習60分</p>
<p>受講生に関わる情報 および受講のルール</p>	<p>①対面・遠隔どちらでも対応できる授業構成としている。 ②授業で使用するスライド等の資料は、全て電子媒体にて事前に配布する。授業当日までにプリントアウトもしくは、電子媒体を閲覧できる環境（PC・タブレット・スマートフォンなど）を整えておくこと。 ③遠隔授業となった場合は、グループワークやディスカッションを通じて、双方向型の授業を展開する予定である。受講中はビデオをオンにしても安定する接続環境を整えておくこと。講師がスライドショー等でプレゼンテーションしている時はビデオ・オフでもよいが、それ以外のグループワークやディスカッション時はビデオ・オンで参加することを条件とする。ただし、機器の不調等がある場合は、事前に連絡をすること。</p>
<p>毎回の授業に関する 質問や学習の進捗状況の 確認方法</p>	<p>スレッド（Webポータル）</p>
<p>授業外時間にかかわる 情報</p>	<p>授業内容を確認し、事前学習および復習を計画的に進めること。</p>
<p>オフィスアワー</p>	<p>火曜日16時30分～17時30分（その他の曜日については要予約）</p>

評価方法	レポート40%、授業内で提示した課題（15回）30%、定期試験30%
教科書	浅川康吉（編）：地域理学療法学（Crosslink理学療法学テキスト）．メジカルビュー社
参考書	牧迫飛雄馬，吉松竜貴 編著：最新理学療法学講座 地域理学療法学．医歯薬出版 鈴木英樹 責任編集：理学療法テキスト 地域理学療法学．中山書店
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <p>■実務経験のある教員が担当している</p> <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>介護保険領域で常勤として11年間、非常勤として5年間の実務経験を有する。 特に、地域（施設・在宅）でのリハビリテーションを数多く実践してきた。 また、群馬県下において複数の市町村の介護予防事業にも携わっている。 専門理学療法士（生活環境支援理学療法）、介護支援専門員、サルコペニア・フレイル指導士などの資格を有する。 ぐんま認知症アカデミー（幹事・書記）や、群馬県理学療法士協会・作業療法士会・言語聴覚士連絡協議会 介護予防部（部員）なども務める。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <p><input type="checkbox"/>PBL(課題解決型学習) <input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/>グループワーク <input checked="" type="checkbox"/>プレゼンテーション <input type="checkbox"/>実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない</p> <p>情報リテラシー教育</p> <p><input type="checkbox"/>情報モラルに関する教育 <input checked="" type="checkbox"/>課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） <input checked="" type="checkbox"/>情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） <input checked="" type="checkbox"/>情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） <input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない</p> <p>ICTの活用</p> <p><input type="checkbox"/>ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input checked="" type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 <input type="checkbox"/>その他</p> <p>その他の具体的内容</p>

英文科目名称： *

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	2単位(60)	必修
担当教員			
柴ひとみ			
地域理学療法	理学療法国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] 自立を援助する介助方法を身に付け、体験学習が円滑に実施できるようにする。地域リハビリテーションの対象者について面談から理学療法評価の一連の流れが安全・効率的に実践できる。また、地域サービスや自立支援施設等における体験学習を通し、理学療法士の役割や多職種との連携を学び、対象となる方の生活上の問題を考える事を目的とする。</p> <p>[到達目標] ①基本的な介助方法（起居動作から移乗動作まで）の説明と実施ができる。 ②体験学習を通して理学療法の対象者の生活について説明ができる。 ③情報収集や動作観察から対象者の全体像を考えることができる。 ④多職種の役割を理解したうえで、連携の必要性を説明できる。</p>
授業の概要	<p>地域リハビリテーションの思想を理解し、障害者や高齢者が社会の中で生活していくうえで地域が果たす役割が極めて大きいこと、その中でPTに何ができるのかを考えながら自ら実践する基本を学ぶ。また、体験学習を通して理学療法士の役割・連携する多職種の役割について学び、地域で生活する対象者の生活を捉える。</p>

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身に付ける。	○
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	△
(専門的実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	◎
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	○
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	◎

授業計画	第1回	<p>科目オリエンテーション 生活期における理学療法 ADLに着目して</p> <p>【key words】 地域 生活期 理学療法 ADL QOL</p> <p>【授業概要】 地域で生活している高齢者、障害者に対して理学療法士が関わる際に、GOLの向上を考えることはもちろんであるが、動作の専門家としてADLと身体機能の関係を考えられなければならない。よって、初回の講義では、ADL動作に対する着眼点について理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書：ADL P 14 ～ 25 その他、資料配布</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：ADL動作、基本動作について復習しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>
	第2回	<p>介助方法① 起居動作（寝返り）</p> <p>【key words】 寝返り動作、バイオメカニクス、重心</p> <p>【授業概要】 上記の動作を介助する上で、必要となる理論と技術を学ぶ。また、介助する上で求められる安全管理の視点を理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書：ADL P 36 ～ 103</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書の事前学習が必須となる。 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>
	第3回	<p>介助方法② 起居動作（起き上がり）</p> <p>【key words】 起き上がり動作、バイオメカニクス、重心</p>

	<p>【授業概要】 上記の動作を介助する上で、必要となる理論と技術を学ぶ。 また、介助する上で求められる安全管理の視点を理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書：ADL P 36 ～ 103</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書の事前学習が必須となる。 復習：起き上がり動作の自立、軽介助、全介助方法について復習しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p> <p>第4回 介助方法③ 立ち上がり</p> <p>【key words】 立ち上がり動作、バイオメカニクス、重心</p>
	<p>【授業概要】 上記の動作を介助する上で、必要となる理論と技術を学ぶ。 また、介助する上で求められる安全管理の視点を理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書：ADL P 36 ～ 103</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書の事前学習が必須となる。 復習：立ち上がり動作の自立、軽介助、全介助方法について復習しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p> <p>第5回 介助方法④ 移乗動作（部分介助）</p> <p>【key words】 移乗動作、バイオメカニクス、重心</p> <p>【授業概要】 上記の動作を介助する上で、必要となる理論と技術を学ぶ。 また、介助する上で求められる安全管理の視点を理解する。</p>
	<p>【教科書ページ・参考文献】 教科書：ADL P 36 ～ 103</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書の事前学習が必須となる。 復習：移乗動作（部分介助）の方法について復習しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p> <p>第6回 介助方法⑤ 移乗動作（全介助）</p> <p>【key words】 移乗動作、バイオメカニクス、重心</p> <p>【授業概要】 上記の動作を介助する上で、必要となる理論と技術を学ぶ。 また、介助する上で求められる安全管理の視点を理解する。</p>
	<p>【教科書ページ・参考文献】 教科書：ADL P 36 ～ 103</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書の事前学習が必須となる。 復習：移乗動作（全介助）の方法について復習しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p> <p>第7回 体験学習 準備</p> <p>【key words】 全体像、評価、理学療法</p> <p>【授業概要】 提示された対象者について、評価方法の確認、全体像の把握について理解する。 【教科書ページ・参考文献】</p>
	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 2年次の検査測定実習の内容を振り返り、検査測定の妥当性について考察すること。 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p> <p>第8回 体験学習オリエンテーション</p> <p>【key words】 地域サービス、多職種連携、理学療法</p> <p>【授業概要】 地域で生活する高齢者や障害者が利用する施設やサービスにはどのようなものがあるか実際に体験する中でそれらのサービスの目的を理解する。また、生活を改善するという視点を持って理学療法士が関わる事の重要性を認識する。今回は、今後実施される体験学習の概要を説明する。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：地域サービスには何があるか調べておくこと A4ファイルを用意すること 課題：体験学習を実施する施設について下調べをすること 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p>

第9回	<p>体験学習①</p> <p>【key words】 全体像、評価、理学療法</p> <p>【授業概要】 提示された対象者について、全体像を把握するために必要な検査測定を実施する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：明日9：00 〆切でディリーノート提出 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p>
第10回	<p>体験学習②</p> <p>【key words】 全体像、評価、理学療法</p> <p>【授業概要】 提示された対象者について、全体像を把握するために必要な検査測定を実施する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：明日9：00 〆切でディリーノート提出 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p>
第11回	<p>多職種との連携 看護師</p> <p>【key words】 多職種連携、看護師、理学療法</p> <p>【授業概要】 多様化したニーズに応え、質の高いリハビリテーションサービスを提供するために他職種との連携は必須である。今回は、看護師との連携に焦点を当て、看護師の役割を学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：チームケア入門Ⅰ、Ⅱで学んだ内容を整理しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>
第12回	<p>多職種との連携 作業療法士</p> <p>【key words】 多職種連携、作業療法士、理学療法</p> <p>【授業概要】 多様化したニーズに応え、質の高いリハビリテーションサービスを提供するために他職種との連携は必須である。今回は、作業療法士との連携に焦点を当て、作業療法士の役割を学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：チームケア入門Ⅰ、Ⅱで学んだ内容を整理しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>
第13回	<p>多職種との連携 言語聴覚士</p> <p>【key words】 多職種連携、言語聴覚士、理学療法</p> <p>【授業概要】 多様化したニーズに応え、質の高いリハビリテーションサービスを提供するために他職種との連携は必須である。今回は、言語聴覚士との連携に焦点を当て、言語聴覚士の役割を学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：チームケア入門Ⅰ、Ⅱで学んだ内容を整理しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>
第14回	<p>多職種との連携 社会福祉士</p> <p>【key words】 多職種連携、社会福祉士、理学療法</p> <p>【授業概要】 多様化したニーズに応え、質の高いリハビリテーションサービスを提供するために他職種との連携は必須である。今回は、社会福祉士との連携に焦点を当て、社会福祉士の役割を学ぶ。</p> <p>key words: 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：チームケア入門Ⅰ、Ⅱで学んだ内容を整理しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>
第15回	<p>多職種との連携 介護福祉士</p> <p>【key words】 多職種連携、介護福祉士、理学療法</p> <p>【授業概要】 多様化したニーズに応え、質の高いリハビリテーションサービスを提供するために他職種との連携は必須である。今回は、介護福祉士との連携に焦点を当て、介護福祉士の役割を学ぶ。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p>

第16回	<p>予習：チームケア入門Ⅰ、Ⅱで学んだ内容を整理しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p> <p>体験学習 ー地域サービスの実際①ー 【key words】 地域サービス、健康講座、理学療法 【授業概要】 介護予防を目的に地域在住高齢者に対して健康講座を開催する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：地域サービスにおける理学療法士の役割について調べておくこと。講座の内容を事前に提出すること。 課題：体験学習内容をデイリーにまとめ、翌日の9：00までに担当教員に提出すること 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p>
第17回	<p>体験学習 ー地域サービスの実際①ー 【key words】 地域サービス、健康講座、理学療法 【授業概要】 介護予防を目的に地域在住高齢者に対して健康講座を開催する。 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：地域サービスにおける理学療法士の役割について調べておくこと。講座の内容を事前に提出すること。 課題：体験学習内容をデイリーにまとめ、翌日の9：00までに担当教員に提出すること 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p>
第18回	<p>体験学習 ー水浴リハビリの実際ー 【key words】 地域サービス、水浴、理学療法 【授業概要】 地域で生活する高齢者や障害者が利用する施設やサービスにはどのようなものがあるか実際に体験する中でそれらのサービスの目的を理解する。また、生活を改善するという視点を持って理学療法士が関わる事の重要性を認識する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：水浴リハビリについて調べておくこと 課題：体験学習内容をデイリーにまとめ、翌日の9：00までに担当教員に提出すること 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p>
第19回	<p>体験学習 ー水浴リハビリの実際ー 【key words】 地域サービス、水浴、理学療法 【授業概要】 地域で生活する高齢者や障害者が利用する施設やサービスにはどのようなものがあるか実際に体験する中でそれらのサービスの目的を理解する。また、生活を改善するという視点を持って理学療法士が関わる事の重要性を認識する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：水浴リハビリについて調べておくこと 課題：体験学習内容をデイリーにまとめ、翌日の9：00までに担当教員に提出すること 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p>
第20回	<p>体験学習 ー地域サービスの実際②ー 【key words】 地域サービス、健康講座、理学療法 【授業概要】 地域で生活する高齢者や障害者が利用する施設やサービスにはどのようなものがあるか実際に体験する中でそれらのサービスの目的を理解する。また、介護職の立場から利用者のADLを捉え、他職種との連携を図りながら、生活を改善するという視点を持って理学療法士が関わる事の重要性を認識する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：地域サービスにおける理学療法士の役割について調べておくこと 課題：体験学習内容をデイリーにまとめ、翌日の9：00までに担当教員に提出すること 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p>
第21回	<p>体験学習 ー地域サービスの実際②ー</p>

	<p>【key words】 地域サービス、健康講座、理学療法</p> <p>【授業概要】 地域で生活する高齢者や障害者が利用する施設やサービスにはどのようなものがあるか実際に体験する中でそれらのサービスの目的を理解する。また、介護職の立場から利用者のADLを捉え、他職種との連携を図りながら、生活を改善するという視点を持って理学療法士が関わる事の重要性を認識する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】</p> <p>予習：地域サービスにおける理学療法士の役割について調べておくこと 課題：体験学習内容をデイリーにまとめ、翌日の9：00までに担当教員に提出すること 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p> <p>体験学習 ー地域サービスの実際②ー</p>
第22回	<p>【key words】 地域サービス、多職種連携、理学療法</p> <p>【授業概要】 地域で生活する高齢者や障害者が利用する施設やサービスにはどのようなものがあるか実際に体験する中でそれらのサービスの目的を理解する。また、介護職の立場から利用者のADLを捉え、他職種との連携を図りながら、生活を改善するという視点を持って理学療法士が関わる事の重要性を認識する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：地域サービスにおける理学療法士の役割について調べておくこと 課題：体験学習内容をデイリーにまとめ、翌日の9：00までに担当教員に提出すること 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p> <p>体験学習 ー地域サービスの実際②ー</p>
第23回	<p>【key words】 地域サービス、多職種連携、理学療法</p> <p>【授業概要】 地域で生活する高齢者や障害者が利用する施設やサービスにはどのようなものがあるか実際に体験する中でそれらのサービスの目的を理解する。また、介護職の立場から利用者のADLを捉え、他職種との連携を図りながら、生活を改善するという視点を持って理学療法士が関わる事の重要性を認識する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：地域サービスにおける理学療法士の役割について調べておくこと 課題：体験学習内容をデイリーにまとめ、翌日の9：00までに担当教員に提出すること 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p> <p>体験学習 ー地域サービスの実際③ー</p>
第24回	<p>【key words】 地域サービス、多職種連携、理学療法</p> <p>【授業概要】 地域で生活する高齢者や障害者が利用する施設やサービスにはどのようなものがあるか実際に体験する中でそれらのサービスの目的を理解する。また、介護職の立場から利用者のADLを捉え、他職種との連携を図りながら、生活を改善するという視点を持って理学療法士が関わる事の重要性を認識する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：介護施設における理学療法の位置づけについて調べておくこと 課題：体験学習内容をデイリーにまとめ、翌日の9：00までに担当教員に提出すること 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p> <p>体験学習 ー地域サービスの実際③ー</p>
第25回	<p>【key words】 地域サービス、多職種連携、理学療法</p> <p>【授業概要】 地域で生活する高齢者や障害者が利用する施設やサービスにはどのようなものがあるか実際に体験する中でそれらのサービスの目的を理解する。また、介護職の立場から利用者のADLを捉え、他職種との連携を図りながら、生活を改善するという視点を持って理学療法士が関わる事の重要性を認識する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：介護施設における理学療法の位置づけについて調べておくこと 課題：体験学習内容をデイリーにまとめ、翌日の9：00までに担当教員に提出すること 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p>

	<p>第26回 介助方法のまとめ - 起居動作から移乗動作まで - 【key words】 起居動作、移乗動作、バイオメカニクス、重心 【授業概要】 起き上がり～移乗動作を介助する上で、必要となる理論と技術を学ぶ。 また、介助する上で求められる安全管理の視点を理解する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 教科書：ADL P 36 ～ 103 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書の事前学習が必須となる。 復習：起き上がり～移乗動作の介助方法について実際に行えるよう復習しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 90～120分</p> <p>第27回 体験学習 発表① 【key words】 地域サービス、多職種連携、理学療法 【授業概要】 地域で生活する高齢者や障害者が利用する施設やサービスにはどのようなものがあるか実際に体験する中でそれらのサービスの目的を理解する。また、生活を改善するという視点を持って理学療法士が関わる事の重要性を認識する。班ごとに体験学習の内容を発表（発表時間30分、質疑応答15分）する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：発表用レジュメ A4 1枚 予習：発表準備をすること 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p> <p>第28回 体験学習 発表② 【key words】 地域サービス、多職種連携、理学療法 【授業概要】 地域で生活する高齢者や障害者が利用する施設やサービスにはどのようなものがあるか実際に体験する中でそれらのサービスの目的を理解する。また、生活を改善するという視点を持って理学療法士が関わる事の重要性を認識する。班ごとに体験学習の内容を発表（発表時間30分、質疑応答15分）する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：発表用レジュメ A4 1枚 予習：発表準備をすること 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p> <p>第29回 行政で働く理学療法士（外部講師） 【key words】 多職種連携、行政、理学療法 【授業概要】 理学療法士の職域について、特に行政における理学療法士の役割とは何か。前橋市の活動を例にとって説明する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：前橋市が取り組んでいる介護予防について調べ、資料を印刷しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60～90分</p> <p>第30回 訪問リハビリテーションの実際（外部講師） 【key words】 地域サービス、多職種連携、訪問リハビリテーション、理学療法 【授業概要】 理学療法士の職域について、特に訪問リハビリテーションにおける理学療法士の役割とは何か。認定呼吸療法士の講義を聴講する。</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：訪問リハビリテーションについて調べてくること 【予習復習に必要な想定時間】 60分</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<p>体験学習は出席を前提とするため休まず予習（実技を含む）を行った上で臨むこと。 体験学習の実習記録は、翌日の9：00までに提出すること。 内容が類似した実習記録やレポートは受け付けないため、自己の努力により作成すること。 学外実習が中止となった場合、シラバスを変更する可能性がある。</p>
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	チャトルカード方式
授業外時間にかかわる情報	授業内容を確認し、事前学習および復習を計画的に進めること
オフィスアワー	木曜日16時～17時、その他の曜日については要予約

評価方法	実技試験40% 体験学習シート30% 発表30%
教科書	柴喜崇 編集：PTOTビジュアルテキスト ADL 第1版 羊土社
参考書	授業内で適宜紹介
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	<p>授業担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> ■実務経験のある教員が担当している <p>具体的な実務経験の内容</p> <p>急性期および回復期、生活期におけるリハビリテーション業務に理学療法士として従事する他、運動学・運動力学の研究を実践してきた。現在はそれらの研究報告を基に、臨床業務の指導などを実践している。</p> <p>アクティブラーニング要素</p> <ul style="list-style-type: none"> ■PBL(課題解決型学習) <input type="checkbox"/>ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク <input type="checkbox"/>アクティブラーニングは実施していない <p>情報リテラシー教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの(図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) ■情報を分析評価し整理するもの(情報処理、情報整理法等) ■情報のアウトプットに関するもの(レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) <input type="checkbox"/>情報リテラシー教育は実施していない <p>ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>ICTを活用した双方向型の授業の実施 <input type="checkbox"/>e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 <input type="checkbox"/>その他 <p>その他の具体的内容</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	2単位(30)	必修
担当教員			
村山明彦			
地域理学療法学	理学療法士国家試験受験資格に係る必修		
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	<p>[授業の目的] 地域リハビリテーションの対象となる各疾患の病態や症状について理解し、それぞれに適したADL指導、住環境整備が行えるようになる。また、理学療法士の役割や多職種との連携を学び、対象となる方の生活上の問題を挙げ、どのような支援が必要かを考える事を目的とする。</p> <p>[到達目標] ①生活行為別に福祉住環境の整備について説明できる。 ②生活環境支援理学療法について説明できる。 ③まちづくりの概略について理解を深める。</p>
授業の概要	地域リハビリテーションの思想を理解し、障害者や高齢者が社会の中で生活していくうえで地域が果たす役割が極めて大きいこと、その中でPTに何ができるのかを考えながら自ら実践する基本を学ぶ。地域リハビリテーションの対象となる各疾患の病態・症状について理解し、それぞれに適したADL指導・住宅環境について学習する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(豊かな人間性)真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける。	
(専門性の探求)専門性を高めるための研究・探求の重要性を理解するとともに、その専門性を生涯にわたり高めるための自己研鑽に努める資質が備わる。	
(専門の実践力)心身機能や疾患特性、個人の考え、人的・物理的・制度的環境等に配慮し、疾病予防から身体機能の回復維持・向上を図り社会復帰や社会参加の理学療法実践ができる	◎
(多職種協働)対象者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。またその多職種と信頼と尊敬をもって、対象者中心の多職種協業の実践ができる。	
(地域実践)地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネジメントを含めた地域実践が行える。	◎

授業計画	<p>第1回 科目オリエンテーション、少子高齢社会の現状と課題</p> <p>【key words】 少子高齢社会の現状と課題、生活環境学の考え方</p> <p>【授業概要】 地域理学療法、ADL、住環境、少子高齢化地域で生活する高齢者や障害者に対し、生活を改善するという視点を持って理学療法士が関わる事は重要である。住みやすい住環境とは何か、どのように生活を改善すべきかを考える。 以下の内容を参照して予習・復習することを推奨する。 一般社団法人日本老年医学会ホームページ https://www.jpn-geriat-soc.or.jp/ 国立社会保障・人口問題研究所ホームページ http://www.ipss.go.jp/</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 細田多穂(監修)：シンプル理学療法学・作業療法学シリーズ 生活環境学テキスト 改訂第2版 pp. 1-10</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsや文献およびURLを参考に予習することが望ましい。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 90分(予習とは別にシラバスの内容を把握したうえで授業に臨むこと)</p> <p>第2回 日本における生活環境の特徴と課題</p> <p>【key words】 日本の高齢化の特徴、尺貫法、和式の生活様式</p> <p>【授業概要】 日本における生活環境の特徴と課題について理解する。 以下の内容を参照して予習・復習することを推奨する。 福祉住環境コーディネーター検定試験公式サイト https://www.kentei.org/fukushi/ 国土交通省ホームページ https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/barrierfree/index.html</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 細田多穂(監修)：シンプル理学療法学・作業療法学シリーズ 生活環境学テキスト 改訂第2版 pp. 11-20</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsや文献およびURLを参考に予習することが望ましい。</p>
------	---

第3回	<p>【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分 生活環境整備に関する法的制度</p> <p>【key words】 高齢者住まい法、介護保険制度、福祉用具、障害者総合支援法</p> <p>【授業概要】 生活環境整備に関する法的制度について理解する。 以下の内容を参照して予習・復習することを推奨する。 福祉住環境コーディネーター検定試験公式サイト https://www.kentei.org/fukushi/ 国土交通省ホームページ https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/barrierfree/index.html</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 細田多穂（監修）：シンプル理学療法学・作業療法学シリーズ 生活環境学テキスト 改訂第2版 pp. 21-38</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsや文献およびURLを参考に予習することが望ましい。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分</p>
第4回	<p>生活環境整備の進め方</p> <p>【key words】 生活環境整備、生活動線、チームアプローチ</p> <p>【授業概要】 生活環境整備の進め方について理解を深める。 以下の内容を参照して予習・復習することを推奨する。 福祉住環境コーディネーター検定試験公式サイト https://www.kentei.org/fukushi/ 国土交通省ホームページ https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/barrierfree/index.html</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 細田多穂（監修）：シンプル理学療法学・作業療法学シリーズ 生活環境学テキスト 改訂第2版 pp. 39-52</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsや文献およびURLを参考に予習することが望ましい。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分</p>
第5回	<p>生活環境整備の基本①</p> <p>【key words】 段差、スペース、床材</p> <p>【授業概要】 生活環境整備の基本について理解を深める。 以下の内容を参照して予習・復習することを推奨する。 福祉住環境コーディネーター検定試験公式サイト https://www.kentei.org/fukushi/ 国土交通省ホームページ https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/barrierfree/index.html</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 細田多穂（監修）：シンプル理学療法学・作業療法学シリーズ 生活環境学テキスト 改訂第2版 pp. 53-66</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsや文献およびURLを参考に予習することが望ましい。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分</p>
第6回	<p>生活環境整備の基本②</p> <p>【key words】 手すり、建具</p> <p>【授業概要】 生活環境整備の基本について理解を深める。 以下の内容を参照して予習・復習することを推奨する。 福祉住環境コーディネーター検定試験公式サイト https://www.kentei.org/fukushi/ 国土交通省ホームページ https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/barrierfree/index.html</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 細田多穂（監修）：シンプル理学療法学・作業療法学シリーズ 生活環境学テキスト 改訂第2版 pp. 67-75</p> <p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsや文献およびURLを参考に予習することが望ましい。</p> <p>【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分</p>
第7回	<p>玄関・アプローチの環境整備</p> <p>【key words】 玄関、アプローチ、福祉用具</p> <p>【授業概要】 玄関・アプローチの環境整備について理解を深める。 以下の内容を参照して予習・復習することを推奨する。 福祉住環境コーディネーター検定試験公式サイト https://www.kentei.org/fukushi/ 国土交通省ホームページ https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/barrierfree/index.html</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 細田多穂（監修）：シンプル理学療法学・作業療法学シリーズ 生活環境学テキスト 改訂第2版 pp. 77-85</p>

第8回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsや文献およびURLを参考に予習することが望ましい。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分 廊下・階段の環境整備</p> <p>【key words】 廊下、階段、福祉用具</p> <p>【授業概要】 廊下・階段の環境整備について理解を深める。 以下の内容を参照して予習・復習することを推奨する。 福祉住環境コーディネーター検定試験公式サイト https://www.kentei.org/fukushi/ 国土交通省ホームページ https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/barrierfree/index.html</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 細田多穂（監修）：シンプル理学療法学・作業療法学シリーズ 生活環境学テキスト 改訂第2版 pp. 87-94</p>
第9回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsや文献およびURLを参考に予習することが望ましい。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分 トイレの環境整備</p> <p>【key words】 トイレ、福祉用具</p> <p>【授業概要】 トイレの環境整備について理解を深める。 以下の内容を参照して予習・復習することを推奨する。 福祉住環境コーディネーター検定試験公式サイト https://www.kentei.org/fukushi/ 国土交通省ホームページ https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/barrierfree/index.html</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 細田多穂（監修）：シンプル理学療法学・作業療法学シリーズ 生活環境学テキスト 改訂第2版 pp. 95-104</p>
第10回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsや文献およびURLを参考に予習することが望ましい。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分 浴室・脱衣室の環境整備</p> <p>【key words】 浴室、脱衣室、福祉用具</p> <p>【授業概要】 浴室・脱衣室の環境整備について理解を深める。 以下の内容を参照して予習・復習することを推奨する。 福祉住環境コーディネーター検定試験公式サイト https://www.kentei.org/fukushi/ 国土交通省ホームページ https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/barrierfree/index.html</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 細田多穂（監修）：シンプル理学療法学・作業療法学シリーズ 生活環境学テキスト 改訂第2版 pp. 105-115</p>
第11回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsや文献およびURLを参考に予習することが望ましい。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分 台所・食堂の環境整備</p> <p>【key words】 台所、食堂、福祉用具</p> <p>【授業概要】 台所・食堂の環境整備について理解を深める。 以下の内容を参照して予習・復習することを推奨する。 福祉住環境コーディネーター検定試験公式サイト https://www.kentei.org/fukushi/ 国土交通省ホームページ https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/barrierfree/index.html</p> <p>【教科書ページ・参考文献】 細田多穂（監修）：シンプル理学療法学・作業療法学シリーズ 生活環境学テキスト 改訂第2版 pp. 117-125</p>
第12回	<p>【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsや文献およびURLを参考に予習することが望ましい。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分 居間・寝室の環境整備</p> <p>【key words】 居間、居室、福祉用具</p> <p>【授業概要】 居間・寝室の環境整備について理解を深める。 以下の内容を参照して予習・復習することを推奨する。 福祉住環境コーディネーター検定試験公式サイト https://www.kentei.org/fukushi/ 国土交通省ホームページ https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/barrierfree/index.html</p> <p>【教科書ページ・参考文献】</p>

	<p>細田多穂（監修）：シンプル理学療法学・作業療法学シリーズ 生活環境学テキスト 改訂第2版 pp. 127-135 【授業概要】 上記のkeywordsや文献およびURLを参考に予習することが望ましい。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分・復習60分</p> <p>第13回 疾患別環境整備 【key words】 転倒・骨折予防 【授業概要】 疾患別環境整備について理解を深める。 以下の内容を参照して予習・復習することを推奨する。 福祉住環境コーディネーター検定試験公式サイト https://www.kentei.org/fukushi/ 国土交通省ホームページ https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/barrierfree/index.html 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>細田多穂（監修）：シンプル理学療法学・作業療法学シリーズ 生活環境学テキスト 改訂第2版 pp. 137-162 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsや文献およびURLを参考に予習することが望ましい。 【予習復習に必要な想定時間】 予習90分・復習90分</p> <p>第14回 基本的な建築図面の読み方・書き方 【key words】 平面図、配置図 【授業概要】 基本的な建築図面の読み方・書き方について理解を深める。 福祉住環境コーディネーター検定試験公式サイト https://www.kentei.org/fukushi/ 国土交通省ホームページ https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/barrierfree/index.html 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>細田多穂（監修）：シンプル理学療法学・作業療法学シリーズ 生活環境学テキスト 改訂第2版 pp. 163-174 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsや文献を参考に予習することが望ましい。 【予習復習に必要な想定時間】 予習90分・復習90分</p> <p>第15回 まちづくり 【key words】 Life-Space Assessment (LSA)、パーソントリップ調査 【授業概要】 まちづくりの概略について理解を深める。 福祉住環境コーディネーター検定試験公式サイト https://www.kentei.org/fukushi/ 国土交通省ホームページ https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/barrierfree/index.html 【教科書ページ・参考文献】</p> <p>細田多穂（監修）：シンプル理学療法学・作業療法学シリーズ 生活環境学テキスト 改訂第2版 pp. 175-187 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記のkeywordsや文献を参考に予習することが望ましい。 【予習復習に必要な想定時間】 予習90分・復習90分</p>
受講生に関わる情報および受講のルール	<p>①対面・遠隔どちらでも対応できる授業構成としている。 ②授業で使用するスライド等の資料は、全て電子媒体にて事前に配布する。授業当日までにプリントアウトもしくは、電子媒体を閲覧できる環境（PC・タブレット・スマートフォンなど）を整えておくこと。 ③遠隔授業となった場合は、グループワークやディスカッションを通じて、双方向型の授業を展開する予定である。受講中はビデオをオンにしても安定する接続環境を整えておくこと。講師がスライドショー等でプレゼンテーションしている時はビデオ・オフでもよいが、それ以外のグループワークやディスカッション時はビデオ・オンで参加することを条件とする。ただし、機器の不調等がある場合は、事前に連絡をすること。</p>
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	スレッド（Webポータル）
授業外時間にかかわる情報	初回オリエンテーション時に詳細を伝える。 予習や課題の実施を前提に講義を進める。
オフィスアワー	火曜日16時30分～17時30分（その他の曜日については要予約）
評価方法	レポート40%、授業内で提示した課題（15回）30%、定期試験30%
教科書	細田多穂（監修）：シンプル理学療法学・作業療法学シリーズ 生活環境学テキスト 改訂第2版 南江堂
参考書	東京商工会議所編：福祉住環境コーディネーター検定試験 2級公式テキスト<改訂5版> 東京商工会議所編：福祉住環境コーディネーター検定試験 3級公式テキスト<改訂5版>
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容

介護保険領域で常勤として11年間、非常勤として5年間の実務経験を有する。
特に、地域（施設・在宅）でのリハビリテーションを数多く経験している。
また、生活支援理学療法（安全管理・環境調整を含む）を専門としている。
専門理学療法士（生活環境支援理学療法）、介護支援専門員などの資格を有する。

アクティブラーニング要素

- PBL(課題解決型学習)
- ディスカッション・ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- アクティブラーニングは実施していない

情報リテラシー教育

- 情報モラルに関する教育
- 課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）
- 情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）
- 情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）
- 情報リテラシー教育は実施していない

ICTの活用

- ICTを活用した双方向型の授業の実施
- e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援
- その他

その他の具体的内容